

連続テレビ・アニメーション番組



録音台本

第 1 話 ～ 第 43 話

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

本書の制作スタッフ

●編集制作	(株)銀英社
●編集	浜松克樹
●取材・記事執筆	小牧雅伸
●レイアウト	山下幸雄
●執筆・編集協力	富野喜幸 安彦良和
●取材協力	齊藤 泉 丹波良治 飯塚正夫 伊藤秀明 布川由美子
●写植・版下制作	銀英社
●製版担当	荻原 敬 矢板 担 高味寿雄
●製作コーディネイト	平田昭吾
●印刷・製本	小宮山印刷(株)

Title : GUNDAM

Author : NIPPON SUNRISE CO.,LTD.

Copyright : ©1980 by NIPPON SUNRISE CO.,LTD.

SOTSU AGENCY CO.,LTD.

printed in Japan

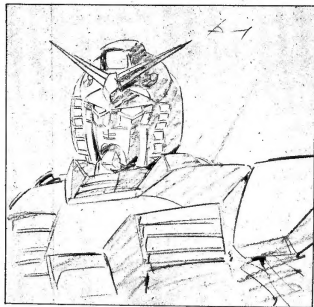
台本全記録発行によせて

製作プロデューサー

関 岡 渉

(名古屋テレビ製作部)

記録全集全5巻発行に続き、ファンの皆さんの希望で台本全記録が発行されると知らされ製作スタッフのひとりとして大変うれしく思っています。放映当時から多くの人々に支持されてきた作品が活字として記録されるのは画期的なことではないかと考えています。この本によって、ファンの皆さんのお気に入りのキャラクターが甦るのではないのでしょうか。放映中は、シャアやセイラやマチルダが主人公アムロ以上の人気でしたので少々とまどいましたが、このことがガンダムが若い人に受け入れられた要素のひとつだったようです。



機動戦士ガンダム 台本全記録 目次

第1話	ガンダム大地に立つ	9
第2話	ガンダム破壊命令	23
第3話	敵の補給線を叩け	38
第4話	ルナツー脱出作戦	53
第5話	大気圏突入	67
第6話	ガルマ出撃す	81
第7話	コアファイター脱出せよ	94
第8話	戦場は荒野	109
第9話	翔べガンダム	123
第10話	ガルマ散る	137
第11話	イセリナ恋のあと	150
第12話	ジオンの脅威	163
第13話	再会、母よ	185
第14話	時間よ、止まれ	197
第15話	タクルス・ドアンの島	211
第16話	セイラ出撃	225
第17話	アムロ脱走	239
第18話	灼熱のアッザム・リィダー	251
第19話	ランバ・ラル特攻	265
第20話	死闘ノホワイトベース	280
第21話	敵艦は惜しみ深く	294
第22話	マ・クベ包囲網を破れ	309
第23話	マチルダ救出作戦	323

第24話	追撃ノトリブル・ドム	640
第25話	オデッサの激戦	635
第26話	復活のシャア	533
第27話	女スパイ潜入ノ	366
第28話	大西洋、血に染めて	176
第29話	ジャブローに散るノ	620
第30話	小さな防衛戦	606
第31話	ザンジバル、追撃ノ	591
第32話	強行突破作戦	577
第33話	コンスコン強襲	564
第34話	宿命の出会い	551
第35話	ソロモン攻略戦	537
第36話	恐怖ノ機動ビグザム	519
第37話	テキサスの攻防	505
第38話	再会、シャアとセイラ	492
第39話	ニュータイプ、シャリア・ブル	479
第40話	エルメスのララァ	463
第41話	光る宇宙	446
第42話	宇宙要塞ア・バオア・クー	432
第43話	脱出	417
オーブニング絵コンテ全カット		403
安彦良和ガンダム原画Ⅰ		389
安彦良和ガンダム原画Ⅱ		374
安彦良和ガンダム原画Ⅲ		352
エンディング絵コンテ全カット		337

640 635 533 366 176 620 606 591 577 564 551 537 519 505 492 479 463 446 432 417 403 389 374 352 337

この『機動戦士ガンダム台本全記録』は、A R台本（録音用台本）の1話から43話までを完全収録したものです。テレビ放映される時に変更された部分は、できるかぎり修正してありますので、演出意図が判り易くなっています。台本の空白部分には、その話数の絵コンテの一部を入れました。原則として使用した原図は安彦良和作画監督直筆の本編に使用されたものを載せてあります。

○ A R台本に良く使われる記号○

N — ナレーション

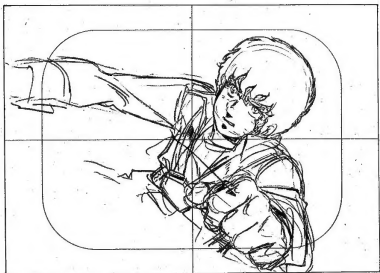
ON・OFF — (人物が見えて話をしている)
(人物が見えず声のみ聴える)

OFF — (人物が見えず声のみ聴える)

MONO — モノログ (独り言) 略して M

SE — サウンドエフェクト (効果音)

背中 — 背中をカメラに向けて話をする。



G 機動戦士
ガンダム
UNDAM
機動台本

饅首台本

第1話 『モビルスーツ』

制作 名古屋テレビ
日本サンライズ
創通エージェンシー

株式会社日本サンライズ

第1話 ガンダム大地に立つ

昭和54年4月7日放映

制作スタッフ

●監／宮野幸幸 ●脚本／星山博之 ●絵コンテ／并谷穂 ●演出／貞光耕也
●音楽／廣川浩夫 ●松山裕士 ●効果／松田留彦 ●監修／ナニイナ ●プロデュース／

●音楽／渡辺岳夫・杉山耕士 ●効果／松田明彦 ●監音／
ンニングU ●録音／雙音スタジオ ●音響監督／松浦典良

キヤスト&声優

●アムロ・横／古谷 徹 ●ブライト・ノア／鈴置洋孝 ●フラウ・ボウ／

方廣一●シノ／増茂部田行●スノ／命不戴一●手ツカノ／井上清

方賢一 ● ジェーン／警捜官兼銀行 ● スレンター／鈴木木蘭一 ● 幸三／カノ井上球
重長／改裝一役 ● 中庄／池田勇一 ● テム・新／青川元孝 ● フラウ・米ワの母


／鈴木れい子●フラウ・ボウの祖父・サレリタリ／永井一郎

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
226
227
228
229
230
231
232
233
234
235
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
253
254
255
256
257
258
259
260
261
262
263
264
265
266
267
268
269
270
271
272
273
274
275
276
277
278
279
280
281
282
283
284
285
286
287
288
289
290
291
292
293
294
295
296
297
298
299
300
301
302
303
304
305
306
307
308
309
310
311
312
313
314
315
316
317
318
319
320
321
322
323
324
325
326
327
328
329
330
331
332
333
334
335
336
337
338
339
340
341
342
343
344
345
346
347
348
349
350
351
352
353
354
355
356
357
358
359
360
361
362
363
364
365
366
367
368
369
370
371
372
373
374
375
376
377
378
379
380
381
382
383
384
385
386
387
388
389
390
391
392
393
394
395
396
397
398
399
400
401
402
403
404
405
406
407
408
409
410
411
412
413
414
415
416
417
418
419
420
421
422
423
424
425
426
427
428
429
430
431
432
433
434
435
436
437
438
439
440
441
442
443
444
445
446
447
448
449
450
451
452
453
454
455
456
457
458
459
460
461
462
463
464
465
466
467
468
469
470
471
472
473
474
475
476
477
478
479
480
481
482
483
484
485
486
487
488
489
490
491
492
493
494
495
496
497
498
499
500
501
502
503
504
505
506
507
508
509
510
511
512
513
514
515
516
517
518
519
520
521
522
523
524
525
526
527
528
529
530
531
532
533
534
535
536
537
538
539
540
541
542
543
544
545
546
547
548
549
550
551
552
553
554
555
556
557
558
559
560
561
562
563
564
565
566
567
568
569
570
571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
586
587
588
589
590
591
592
593
594
595
596
597
598
599
600
601
602
603
604
605
606
607
608
609
610
611
612
613
614
615
616
617
618
619
620
621
622
623
624
625
626
627
628
629
630
631
632
633
634
635
636
637
638
639
640
641
642
643
644
645
646
647
648
649
650
651
652
653
654
655
656
657
658
659
660
661
662
663
664
665
666
667
668
669
670
671
672
673
674
675
676
677
678
679
680
681
682
683
684
685
686
687
688
689
690
691
692
693
694
695
696
697
698
699
700
701
702
703
704
705
706
707
708
709
710
711
712
713
714
715
716
717
718
719
720
721
722
723
724
725
726
727
728
729
730
731
732
733
734
735
736
737
738
739
740
741
742
743
744
745
746
747
748
749
750
751
752
753
754
755
756
757
758
759
760
761
762
763
764
765
766
767
768
769
770
771
772
773
774
775
776
777
778
779
780
781
782
783
784
785
786
787
788
789
790
791
792
793
794
795
796
797
798
799
800
801
802
803
804
805
806
807
808
809
810
811
812
813
814
815
816
817
818
819
820
821
822
823
824
825
826
827
828
829
830
831
832
833
834
835
836
837
838
839
840
84

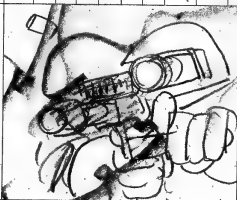
S	C	面	面
1	中	スペース・アイランドの	「人類が、ふえすぎた人口を宇宙に移民させる機になった、すでに半世紀がすぎていた。地球のまわりの巨大な人工の島は、人類の第二の故郷となり、人々は、そこで子を生み、育て、そして死んでいった」
2	ムサイ艦がメガ粒子砲を斉射しつづすむ		
3	アイランドの周辺に核爆発がおこっている		
4	ムサイ艦群		
5	ザクのむこう、アイランドが落下してゆく		
6	大気突入してゆく アイランド		
7	ニューヨークらしい船にアイランドが落下する		
8	サブタイトル 「ザクとムサイ艦」		
9	月、地球、そしてルナツ、ザク、ザク通りすぎる 後からくるザク二機		
10	ザク三機なめ サイド7の「壁」		
11	三機のザク進む、 サイド7の壁にすすむ		
12	ザクくる		
13	ザク三機、着地、手前の一機、奥の二機をみて指さす		

47	46	45	44	43	42	41	40
	<p>手前からフラウとハロウ、ハロウの胸を叩いて</p>	<p>「アムロの車からとび出す」</p>	<p>「アムロ、電子チェック盤のスイッチを切る、フラウ、ハロウ行く」</p>	<p>「アムロ振り向いて、立つ」</p>	<p>「アムロの窓外、車がゆく」</p>	<p>「アムロの手前へフラウ」</p>	<p>「アムロの整理ダンスの戸を閉じて」</p>
<p>「アムロの母」</p>	<p>「アムロの母」</p>	<p>「アムロの母」</p>	<p>「アムロの母」</p>	<p>「アムロの母」</p>	<p>「アムロの母」</p>	<p>「アムロの母」</p>	<p>「アムロの母」</p>


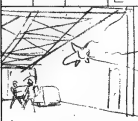
55	54	53	52	51	50	49	48
<p>中佐ふわっと浮んで床に</p>	<p>リフト・グリップから手を離す中佐</p>	<p>中佐（off）「よりによって、ジオンの船につけられたのよ」</p>	<p>中佐（off）「ホワイ特・ベースに、ガンダム（off）「ハッ」</p>	<p>中佐（off）「ホワイ特・ベースに、ガンダム（off）「ハッ」</p>	<p>中佐（off）「ホワイ特・ベースに、ガンダム（off）「ハッ」</p>	<p>中佐（off）「ホワイ特・ベースに、ガンダム（off）「ハッ」</p>	<p>中佐（off）「ホワイ特・ベースに、ガンダム（off）「ハッ」</p>

86	85	84	83	82	81	80	79	
手にのる	ジョーンとび下りてボタ山の斜面をおりる	デニム双眼鏡から目を離し、又見てシャッターおしている	ジョーンと双眼鏡をのぞいているデニム、双眼鏡のシャッターをおしている	双眼鏡内、ガンキャノンの上半身をつんだトレイラーゆく、カメラ移動すると工場らしいもの	シャアなめドレン	シャア ニヤリと笑い	ドレン、シャアをみて	
ジョーン	デニム	デニム	ジョーン	デニム	ドレン	シャア	ドレン	ドレン
「ジョーン少佐だつて戦場の斗いで勝つて出世したんだ」	「ジョーン少佐だつて戦場の斗いで勝つて出世したんだ」	「手柄がないものを焦ることはない」	「叩くなら今しかないな」「我々は偵察が任務だ。シャア少佐は偵察を依頼されたはずだ」「しかし、敵のモビルスーツが、あの戦艦にのつたら……」	「off」三台目もモビルスーツだ、まだ、あの中に何機もあるかも知れんぞ」	「で、では連邦軍もモビルスーツを？」 「開発に成功したとみるのが正しいな」	「みる。……私の予測した通りだ」	「暗号 C・C・ツー です」	「はい、シャア少佐。……しかしあんな遠地のサイドに連邦のV作戦の基地があるのではありませんか？」 「あるよ。……我々、モビルスーツよりすぐれたモビルスーツを、開発しているかも知れんぞ」 「まさか、あんな僻地のサイドで……」 「遅いな……」 「来ました！」 「コールサイン風の音、機音がひびく」

103	102	101	100	99	98	97	96	95	94B	94A	93	92	91	90	89	88	87	
ザク撃つノ	スゴープがリフトを照準に合わせる	ジョーン	ガンキャノンひっくりかえつてくる	トレイラー 前部爆発	トレイラー 後部爆発	ガンキャノン爆発	ザク、銃をうつ	ボタンをおすジョーン	ザク、銃をかまえる	ジョーンなめスクリーン上、ガンキャノンに照準あり	ザク、ボタ山に上がりきり銃を構える	ジョーンなめスクリーン遠景みえてくる	ジョーン	デニムなめザク、歩いていく	ザクの手の上のデニム	前部装甲板閉じる	シートに坐るジョーン	ザクの手が上がりハッチの処でとまる
		ジョーン										ジョーン	デニム					
		「へへ……敵を倒すにや早い腔どいいってね」										「フン、手柄をたてちまえば、こつちのものよ！」	「おい、ジョーン！ 貴様、命令違反を犯すのか。やめろ！ ジョーン！」					



114	113	112	111	100	109	108	106	105	104
アムロが爆撃をよける	待避カプセルの入口からアムロかけだす、爆撃の音、すごいりつとなる	アムロ出て、もう「つの」ドアに手をかける アムロ出る	アムロ、ドアととりつく 老人Cとめる アムロ出ていく	手前に立つアムロ アムロ行く	フラウとフラウの母、祖父 アムロ行く	ゆれる待避カプセルハッとする老婆、子供立つ老人	トラクタの上にちてくるガンキャノン	すべりおちるガンタンク	リフトに直撃
アムロ「う！」		老人C アムロ 「やめたまえ！」 「閉めといて下さい」	老人C 「君！勝手に出ては、皆んなの迷惑……」 「父が軍属です。こんな待避カプセルじゃ保ちませんから、今日入港した船に避難させてもらう様に頼んでます」 老人C 「君！」	「父を探してきます」 フラウの祖父「アムロ君！」	「あー！」 フラウの母「あー！」 フラウの祖父「ジ、ジョンだ！ジョンの攻撃だ！」 アムロ「off」 「アムロ！」 フラウ「off」 「アムロ！」 フラウの祖父「アムロ君！」	老婆A「ああー」 老人A「ち、近いぞ」 老人B「サ、サイドの中らしいぞ」 老婆B「関石じゃないの？」			

128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	
アムロなめ爆発、破片とんでくる	アムロ、エレカのむこうに伏せる	有線ミサイル入ってゆき アムロ、エレカのむこうに伏せる	有線ミサイルがくる にげるアムロ	軍用エレカ	エレカのアムロ	エレカ上の士官、兵士	アムロのエレカゆきが、むこうから軍用のエレカがくる、あわててハンドルを切るアムロ	エレカをスタートさせる	巨大な乗組員があらる アムロはねおきて エレカへゆく	ザク 撃つ	銃をかまえるザク	蒼白のアムロ	カプセルから出ようとす る老婆Aたち	倒れるアムロ
			アムロ「危ない！」	士官「船じゃないのか！おい、下せ！」	アムロ「技術士官のテム・レイを探してんです！どこにいますか！」	士官「貴様！民間人は待避カプセルに入っている！」						アムロ「こ、これが、ジョンのザ、ザクか?!……」	老婆A「アアア。ジ、ジョンのモビルスーツが……」	アムロ「うわー！」
														

146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	
アイキャッチャー	アムロ目を見開き	アムロなめノート	アムロ、ファイルを手にとつて開く、あつとなる	ファイル	立とうとして目の前のファイルを見る	ファイルの近くへアムロにじりよる、うしろで光つて、体をおこす	まいあがる前部装甲板	対モビルガンにあたる	研究所の扉からザク連射	銃をうつつ	対モビルスーツ	有線ミサイルをうつつジー、ザク、そのジーブを破壊	アムロ	エレカの扉のアムロ	破壊された軍用エレカ等	アムロの横に破片おちるアムロ、顔をあげる	コンテナの破片とぶ	エレカのフロントガラスにあたる破片
	アムロ 「モビル・スーツ？」	アムロ 「はー、こいつはあれ、連邦軍の……モ、」	アムロ 「……機密資料？ ?!」		アムロ 「？」	アムロ 「し、死んだ……」						アムロ 「うう……」			アムロ 「あ……」			

155A	154	153	152	151	149	148	147
フラウくる	フラウの聲にふりむく アムロ	ファイルの頁	人々のむこう、アムロが ファイルをめくっている	待避カプセルから走り出 る人々	ドレン、スイッチ切つて シヤアをみる シヤア、正面ガラスをみ る	モニター内スレンダーを 見ているドレン、シヤア がくる	アイ キヤロチヤ
					スレンダー		
フラウ（off）「アムローノ」	アムロ 「……教育型タイプ、コンピ ューター？……すごい……ノ おやじが熱中するわけだ。」	アムロ「……コンピ ューター管理で操 縦ができる？」	アムロ「……戦艦が来て るんだ！……etc」	人々（off）「港へゆくん だ！ 戦艦が待 っているぞ！ 逃げ 走つても行くんだ！…… etc」	スレンダー（off）「は、はい」 「どうします」 「デニムに新兵がおさえられん とはな……海軍の…… が…… 等が…… 私がでるしかないかも知れん。 船をサイド7に近づけろ」	スレンダー「……自分 は…… 「デニム曹長は！」 スレンダー「ハッ、ジーンを援護す るため、後方から出ました」	

[illegible]

179	177	177	176	175	174	173		172	171	170	169
フラウとハロ走つてくるうしろで爆発、ふつとぶフラウ	土の降るのがやんでゆく立ち上がるうとのりだすアムロ	アムロの上に降る土	アムロ面をめくるうしろで土が上がる	ガンダムがある	アムロ行こうとして立ちみつめる	カイをガチャガチャやってる兵、チュム来て奥へ行く		チュム一方をみて	チュムのところへくるアムロ	走りアムロ	チュムと敬礼する兵
フラウ「大丈夫! アムロ! キャイン!」	アムロ「(怒)」「う……」「アムロ……早く!」 フラウ「フ、フ、……フラウ!」		アムロ「これが連邦軍の秘密兵器だ、すきば……?」 アムロ「あつ!」	アムロ「父さん!」	アムロ「父さん!」	兵「エンジンがかかりません」 アムロ「(背中)一牽引車を探してくる。」	テ「兵」 ム「F」	アムロ「早くだせ!」 アムロ「父さん!」 アムロ「早くホワイトベースへ逃げこむんだ!」 アムロ「入港している軍艦だ!」 アムロ「何をしている!」	アムロ「……?! アムロ!」 アムロ「避難しないのか?」	アムロ「(怒り)」「お父さん!」	テ「(背中)」「避難民より、ガンダムをホワイトベースに収容して、戦車準備させるんだ!」 兵「F」 「ハッ!」


193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180
フラウ・ボウ行く	アムロ フラウの肩をつかむ	アムロくる 母のうえにおおいかがさ つているフラウ、	アムロ立つ 泣いているフラウ	フラウ 母の上にかがみこむ	フラウ、ヨロヨロとくる	アムロふるえている	フラウ・ボウ	果々たる死体	アムロ、フラウの手を外す 顔をしかえたままの フラウ	アムロ フラウのところに来る	アムロ フラウ・ボウノ	アムロ フラウ・ボウノ	アムロ フラウ・ボウノ
アムロ 平手うち	アムロ		フラウ(背中)「ああ、 あああ……」	フラウ(背中)「かあさん、かあさん、 かあさん……あああ……」	フラウ「ああノ ああノ」	アムロ「……………」	フラウ(かすれてる)「か、か、か、か あさん……お、おじいちゃん ……………」		アムロ「フラウ・ボウノ しつかりするんだ」 フラウ(背中)「う……ア……アムロ……」 アムロ「立てるか?」 フラウ「あノ、うノ……(息をのむ)」	フラウ「うう……う……う……」			
アムロ 「港まで走らんのだ。走れるなノ フラウ・ボウノ、ほくもすぐ行	アムロ 「う、う、う、う……」	アムロ 「いやらノ」 「しつかりしろノ」 女の子にやないかノ 「泣く」											

210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194
アムロ、マニエアルとつ て見くらべる	スイツチいれるアムロ	坐るアムロ、左右をみる 手前に手をのばす	コクビットに入るアムロ ファイルをとってひっこ む	アムロ	コクビット、ボツとエネ ルギーランブついている	ホロをはがすアムロ	アムロ、ガンダムの胴体 の上にくる	アムロかけあがる	アムロかけこみ トレイラにのる	走るアムロ アップ	アムロ走る、バスト	走るアムロの足	涙あふれているアムロ、 立つ	爆撃穴の脇をのぼる フラウ	アムロ	走っていくフラウ
アムロ「すごい……五倍以上のエネル ギーゲインがある！」	アムロ「同じだ…… こいつか？」	アムロ	アムロ「動くぞ……」	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ「そ、そうだ……フラウ・ボウ ……」	アムロ(悲しく)「走れ、フラウ……」	アムロ	く。行くんのだ！(さけぶ)走 れ！ フラウ・ボウ！





255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240
ガンダムが膝が上る	ガンダム手を大きくまわして上体を前へ	二機のザクあとずさる	ガンダム膝立つ	ジーン のりだすジーン、デニム 入る	デニム	ジーン のザク、撃つ、 うしろからデニムのザク かけよりジーンをおさえ る	ガンダムの上体が上る	アムロ、レバーを手前に ひいて	ジーン 「な、なんてモビル・スーツだ! ライフルを全く受けつけません! ザク……」	撃ちやめるザク 身をひく	ガンダムにはじける銃撃	ガンガンと響く砲撃音	アムロも目を閉じる	ガンダム左足が地をつく 上体がブレながら上る	ジーンなめモニターの中 のガンダム肘をつく
				デニム 「何言ってるんです! ここで 倒さなければ敵はますます…… う……」	デニム 「我々は、偵察が任務なんだぞ! ひくんだジーン!」			アムロ 「見ていろよ、ザクめー!」					アムロ 「来た!」		

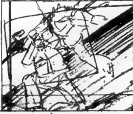


272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	259	258	257	256	
正面をみる	ハッとするアムロ	テム 「アムロもつたアムロ」	テム ハッとする	兵F 牽引車にのるテムと	ガンダム前進する クレイン牽引車ゆく	ガンダム撃つ	銃をかまえて撃つザク	二機のザク身をひく	銃撃ゆく、 二機のザク身をひく	撃つガンダム	アムロ ボタンおす	アムロなめスコープ内 ザクに照準があう	アムロ、シートのうしろ から照準器をまわす	ガンダムの顔が上る	デニム、ジーン	立つガンダム	コクピット内のアムロ
アムロ 「うっ……?! 弾丸が切れた?」	アムロ 「ま、まさか……アムロが……」		テム 「なんて攻撃の仕方だ! 誰が コクピットにいる、……」	兵F 「技師長、味方のモビルスーツ が動きはじめました!」 テム 「動く?」 兵F 「うん、弾丸はサッパリ、分し けりてないはサッパリ」							アムロ 「ク!		アムロ 「こ、これか!」		アムロ 「……くっ! た、たつてくれ ……立てよ……!」	アムロ 「……くっ! た、たつてくれ ……立てよ……!」	アムロ 「……くっ! た、たつてくれ ……立てよ……!」

10



326	325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310
アムロ ハムとモニターをみる	上体が上るガンダム むこうにザクもくる	サイド7外からいろんな ものがひっつかかって、次 第に土砂が少くなる	テムと兵、 宇宙へ吹きだされる	クレイン車ひきずられる テムと兵ふつとぶ	サイド7の外板がはじけ て土砂が流れる	ふきとばされるデニムの ザク	ブレる コクビットの中のアムロ	爆圧にのめりこむ ガンダム	ガンダム頭上でザク爆発	ガンダム着地	ガンダム、ザクをきる	アムロ	ジーン	ジーン	ガンダムとぶ	デニムのザクの頭上をと ぶガンダム
アムロ			兵テム 「あーッ」	テム 「うわーッ」			アムロ 「う、うーッ」					アムロ 「うわーッ」	ジーン 「うわーッ」			
「モ、モビル・スーツのエンジ ンをやれば、サイド7も、サ ヤられちゃうのかい、もしやき ど、どうすりゃいいんだ」																

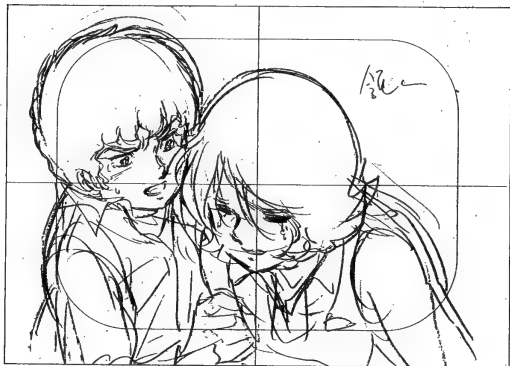
341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327
ブライト、兵Gの向う エレベーターとじる	破壊された研究施設等	剣をおさめるガンダム うしろをみる	ザクの胸から剣をぬく	アムロ	ザクをさしている ガンダム	ザクのコクビットに入る ビームサーベル	剣をつきだす ザク	ジャンプするザク	アムロ	ガンダム	走るザク	アムロ	デニム	アムロなめデニムのザク がつつこんでくる
ブライト「民間人をホワイトベースへ急 がせろ」 兵H「ハッ」 兵H「空気の流出は止まったよう で」 兵H「ガンダムの運搬は!!」 兵H「正規の技師がほとんどやられ てしまった様で、すすんでませ ん」 ブライト「あれにもやって貰おう」				アムロ 「……ッ」					アムロ「今度、ザクを爆発させたら、 サイド7の空気がなくなっちゃ う」			アムロ「ど、どうする……コクビット だけを狙えるか?」	デニム 「ふ、よくもジーンをッ」	



351	350	349	348	347	346	345	344	343	342
サイド7に魚雷ゆく	シャアなめサイド7に向かう魚雷がみえる	シャア	シャア、ドレンたち	ムサイ、魚雷二発うつ	爆発で中佐たちふつとぶ閉いた穴にムサイの光点みえる	港の方に爆発のブトが散ってゆく	アムロ	ブライト、兵なめ、くるガンダム、ぶれる	ブライト
		シャア 「認めたくないものだな。……自分自身の……若さ故の誤ちというものを……」	シャア ドレン (off) 「マレンダーは……?」 「サイド7を脱出して、本艦に向かっています」		中佐たち「うわー!」		アムロ「なんだ?」	ブライト「正規のパイロットだろうと何だろうと手伝ってもらわなければならぬ」	兵 H 「へ?」



第一話・おわり



G 機動戦士
ガンダム
UNDAM
編者台本

第2版 「赤い薔星」

制作 名古屋テレビ
創通エージェンシー
日本サンライズ

株式会社日本センライズ

第2話 ガンダム破壊命令

昭和54年4月14日放映

制作スタッフ

脚本／松崎健一 ● 絵コンテ／井谷 勲 ● 演出／藤原良二 ● 作画監督／安達 公洋

●佐田／山崎利男・前産科子。戸川俊信・智木秀子●青島／アッパル

●時津功果／土井豊月●横彰／迫プロ（平田盛文）●國廣／

周友彰・小谷地文男・音響監督／公浦典彦・効果／公田昭彦・監音／目黒誠也

●制作進行／草刈忠良 ●設定制作／円井正 ●A・P／神田豊

キャスト&声優

●アムロ／古谷徹●ブライト／鈴置洋孝●リュウ／飯塚昭三●ハヤト／鈴

●カキ／古川登志夫 ●フラウ／鶴岡るみ子 ●ミライ／白石冬美 ●セ

ラ／井上瑛●カツ／白石冬美●レツ／鶴岡るみ子●シザア／池田秀一●

●スレンダー／永井一郎
●ドズル／長堀芳夫
●パオ／中野良子

●長／政宗一成●マーカー／古川登志夫●オスカ／鈴木清信●フラウの

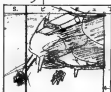
／鮮木れい子

[illegible]

11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
兵士の手、コックをひねるとびだす風船	兵士をぬめ、行く風船	割れる風船 硬化して壁のさけ目を防ぐ	下りの女Aを抱きとめる 兵士C	フラウ・ボウ、女の子やカッ、レッツをリフトに乗せる	ハッと見るフラウ・ボウ 壁をぶちぬいて来る破片	ひきつるフラウ・ボウ	フラウ、身をふせる。来る爆片ガンダムの手がさえぎる 見上げるフラウ	フラウボウ、カッ、レッツ 連なぬ来るガンダム	行くリフト。ガンダム立上がる	機銃砲座射撃する艦長 来るリウウ
			女A 「私のユウリが、ホワイトベール」 兵士C 「戻りなさい、ホワイトベール」 女A 「ユウリが、ホワイトベール」	フラウ「しっかりとつかまって」 カッ・レッツ「とっと」	フラウ「ハッ!!」	フラウ「早く!!」「ギャー!!」	アムロ(off)「フラウ・ボウ! ホワイトベールに急げ!!」	レタツ「アムロ!! モビル・スーツ」 フラウ「アムロ!! モビル・スーツ」 アムロ「行くんだ! こんな短空気がすぐなくなってしまうぞ」 フラウ「早く、早く!!」	リウウ「艦長、自分が変わります。船にお戻り下さい!!」 艦長「パイロット候補生の君に奪われるのか?!」 リウウ「奪ってみせます」 艦長「たのんだ」	



22	23	24	25	26	27	28	29	30
ふきとばされる艦長とリウウ 壁にぶつかりはね返って来る	リウウ、レバーを操作、エフ・ロケットを下ろす	倒れている艦長を抱き起こすリウウ	ザク一機 ムサイに収蔵されてゆく	シャアをぬめドレンとスレンジーふりむくシャアに敬礼するスレンジー	ドレン	ドレン	ドレンをぬめシャア	避難民とフラウ・ボウ はしごの中途、すっとセ
艦長・リウウ「うわー」	リウウ「……か、艦長」	艦長「き、君は大丈夫か?!」 リウウ「はい、はい! 艦長は健やかです。ホワイトベールは、ホワイトベールです」	シャア「……君は、私とデニムの命令は守ったのだ。気にすることは無い。スレンジー軍曹」 スレンジー「……ありがとうございます」 シャア「連邦軍のモビル・スーツが君の言う通りの性能とは、やや信じ難いが……」 スレンジー「お、お言葉ですが、自分は確かに……」 シャア「……」 スレンジー「……」	ドレン「……」 リウウ「……」 艦長「……」	ドレン「……」 リウウ「……」 艦長「……」	シャア「……」 リウウ「……」 艦長「……」	ドレン「……」 リウウ「……」 艦長「……」	セイヤ「……」 リウウ「……」 艦長「……」



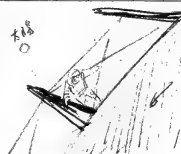

56	55	54	53	52	51	50	49
シャアをぬ三人の兵、奥ムサイ	シャア、スレンダーら	ムサイより出て来る四人	シャア	ドレンなめシャア		シャアUP	スクリーン内 ドズル
		シャア・スレンダーら「呼吸音」	シャア 「ノ 戦いとは、いつも二手、三手先を考えて行けるものだ……。スレンダーは脱出した。……ということは、逆も可能ではないのかな？」	ドレン 「は!! 補給艦の到着を待つのではないのであ……か」	ドズル 「は!! そのうちの二機は、連邦軍のたつた一機のモビルスーツのために……、作戦の失敗は我々が責任を負う。……」	ドズル 「モビル・スーツ、ザクを三機もなくしたのか!!」	ドズル 「さすが、赤い隼星のシャアだな……で? 何か?」
			シャア 「幸いでありませう。それに、ザクの補給も三機」	ドズル 「モビル・スーツ、ザクを三機もなくしたのか!!」	シャア 「は!! そのうちの二機は、連邦軍のたつた一機のモビルスーツのために……、作戦の失敗は我々が責任を負う。……」	ドズル 「モビル・スーツ、ザクを三機もなくしたのか!!」	ドズル 「さすが、赤い隼星のシャアだな……で? 何か?」

同時にキャッチしたのであります

56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68
サイイド	ホワイドベース・ブリッ	ベッドに乗った艦長を押し立て来るブライト、ミライ	ベッドを押すブライト立ち止まる	艦長	艦長なめパネルの前に立つ	艦長	ミライ、右のパネルに灯をつけふりむく	艦長	ふりむいているブライト	驚く艦長	ふり向くミライ	T.Vスクリーンを指す
艦長「本、誰のっているって?」	ブライト「アムロと言っておりませう」	艦長「……知らん」	艦長「サイイドでテストをやっていたバレットでは?」	艦長「ひ、左のパネルで……ガンダムと連絡がとれる」	艦長「ハッ!」	艦長「ホワイドベース出港の時には、ガンダムに護衛させる」	艦長「バック中」	艦長「リムク君が誰か導いてくれよう。ひとりでも戻ってくれば……」	艦長「……お前がアムロ?」	艦長「……そはガンダムのコクピットなんだろな?」	艦長「……どうしたのか?」	艦長「子供です! こ、子供が、ガンダムに乗っているんです」
艦長「……」	艦長「……」	艦長「……」	艦長「……」	艦長「……」	艦長「……」	艦長「……」	艦長「……」	艦長「……」	艦長「……」	艦長「……」	艦長「……」	艦長「……」

99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88
ライト	スクリーンの中のアムロ	艦長	のりだしているミライ	アムロ ムツとして	ムツとするがライト	アムロ UH	アムロなめTVスクリー	ガンキャノンと共に上	ガンキャノンを押すガン	手前セイラとフラウ、グ	負傷兵をかついて行くリ
この少年がガンダムを…… ……(off) バ、パイロットじゃあ りません！」	艦長 「ど、どういうわけだ!! こ、 子供が、ガンダムを操るとは」	ミライ 艦長 「あ、あの子なら……」 「知っているのか?」 「よくは知りません。サイドワ では、機械好きで有名な子で す……」 「ジョンのザクを倒したのもそ の少年なのか?」	ミライ 艦長 「あ、あの子なら……」 「知っているのか?」 「よくは知りません。サイドワ では、機械好きで有名な子で す……」 「ジョンのザクを倒したのもそ の少年なのか?」	アムロ 「ガンダムの性能のおかげで倒 せたんだ……」 「な、そこに居るノ」 「その声は、さっき無線で僕に、 ガンダム関係の部品を運ぶって 命合した人だ……」	ライト 「……君が正規のパイロッ トだと思っただけから」	アムロ 「……君が正規のパイロッ トだと思っただけから」	プライト (off) 「艦長、下させます」 艦長 (off) 「パイロットが……、生きの こっていらな……」	セイラ 「あなたは居住区をね!」 「ええ。任して!」	セイラ 「ええ。任して!」	リムウ 「しっかりして下さい!」	

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	
ゆく フラウとセイラのエレカ	ふりむくりムウ、ニヤリとする	セイラ フラウ走る 兵を支えてゆくりムウを助けるカイ	セイラ、プイとむく	カイ	セイラの前、カイ肩をいからせ	身をひくカイをセイラ来てなぐる	リムウ、えっ?とみる ムウとするセイラ手前に来る	カイ	フラウ、カイなめ エレベーター内、カイ来る 負傷兵をかついだリムウ	カイ 「ふり向くフラウ、奥行く カイ」	
		フラウ リムウ (背中) 「君ノ 手をかしてくれ 」	セイラ 「そんな……不良みたいな口 ウ・ボウ!」	カイ 「お高くともりやがって。あ、 あんたセイ……セイラとかいっ たよな」	セイラ 「それでも男ですかノ 軟弱者 カイ (背中) 「な、なんだってんだよノ」 セイラ 「あなたみたいな人、サイドワ に一人で残っているといいん です!」	カイ 「……るのかい?」	カイ 「……るのかい?」	カイ 「……るのかい?」	カイ 「……るのかい?」	セイラ 「君たちは!!」 「艦長命令で逃げおくれた人を 探しに行きます」	

104	103	102	101	100	99	98	97	96		95	94	93	92	91
ブレの中、見上げるガンダム。ブライト、ミライ	降下して来るシャア、奥に兵士	シャアまわりこむ	サイド7側壁なめ爆煙	ビーム砲の炸裂にふきとび来る破片	サイド7の側壁を破壊するビーム砲	サイド7、スペース・ダート付近、命中し炸裂するビーム砲	サイド7に向かって行くビーム	ムサイの砲、射つ		双眼鏡を下ろすドレン ふりむいて	ムサイ艦へTU	サイド7の左上、光点滅	ふりむくシャア、手をふると、奥の兵士、ライトを点滅させる	サイド7の壁の側から来る四人の敵
ミライ「また攻撃の機です」 ブライト「アムロの処分はどうなさいますか？艦長！」	シャア「スレンダー！」「ハッ！この工事用の出入口から潜入できます」 シャア「よし、行け！」	シャア（off）「船が来るわ。フフ…少尉もなかなかやる」							ドレン 「機関始動。推力三パーセント。メガ粒子砲スタンバイ。目標、サイド7のスペース・ダート。但し、ドッキングベイの直撃は避ける」					

114	113	112	111	110	109	108	107	106	105
ゴキ帽をあさる犬なめエレカー行く	艦長	ふりむくブライト	モニターTV内 アムロ	ブライトなめオペレーター	ブライト敬礼する モニターTVを見るミライ 見上げるガンダム	艦長	ブライト、ミライ、奥ガンダム	艦長	ベッド上の艦長 PAN UP
フラウ（off）（スピーカー）「船が出港します。残っている人はいませうか？ 外務省事務官の目録」	艦長 …ま、任せなさい（off）	ブライト「艦長……？」	アムロ「ス、スーパー・ナバームとかいうのを使うなら……」	ブライト「ジオンに機密を渡せというのか？」「オペレーターA「妙です。ムサイが後退しました」 ブライト「退った？ ……やり方は判るか？」	ブライト「ハッ！ 艦長！」 ブライト（背中）「アムロ、聞えるか？ サイド7に残ったガンダムのバリは破壊しろ！」 アムロ「どうしてです。まだ三機分ぐらいは……」	艦長 「初降には、やや若すぎるが……古来十五、六才の出陣がなかったわけではない。……き、君たちに期待する」	ブライト「ハッ……」 …（off）ガンダムにはビーム・ライフルを用意させネオ・ジオンにその機密を……」	艦長 「……フリーヤ（息）……ガンダム関係の部品で使えないものは、全て処分させる……」	艦長 「オペレーター………て、敵はオペレーターA「はッ！ 後方左四十度」にさきほどのムサイ・タイプ一機、接近中です」

125	125	124	
アイ キャッチャー	アイ キャッチャー	軍需施設、セイラ隠れ乍ら来る	アイ キャッチャー
セイラ、身をかくしてのぞき見る	セイラ、身をかくしてのぞき見る		
シャア、残骸を撮影している	シャア、残骸を撮影している		
TB セイラ	TB セイラ		

C

M




125	122	121	120	119	118	117	116	115
アイ キャッチャー	ボックス内より銃をとり出す手	セイラ、車をとめる	敵の兵士うごめいている	セイラ、?となる	セイラ、エレカに乗って行く	軍需施設のとエレカ来る	フラウの家、走るフラウのイメージ	フラウ、マイクを下して見る
				セイラ	セイラ	セイラ	フラウ	フラウ
				「生存者はなし、ハアア」	「……」	「(off)」「(スピーカー)」「生存者はいませんか? 生存者は……!」	「うっ……残っている人がいますら返事して下さい」	「フラウ (off)」「行ってくるわ」
							「夕食には帰るのよ!」	「フラウ (off)」「……アムロの所へ」

142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127
シャア	構えるセイラの前、銃落ちる	足をひくシャア	セイラ拳銃をとばされ、身を引く	拳銃をはねる足	シャアの足げり	驚き、困惑のセイラ	シャア、マスクをとる	シャア、ヘルメットをとりマスクに手をかける	セイラ	立ち止まるシャア	おびえ構えるセイラ	身をおこすシャア来る	拾ったものをすてる手	何か拾おうとして?となる	のぞき見るセイラ
シャア						セイラ			セイラ	シャア	セイラ	シャア	セイラ	セイラ (off)	
「し、しかし……アルテシアに しては……つ、強すぎる……」						「/」			「ヘルメットをとって下さい!」 そして、後ろむいて下さい!」	「……」	「動くと撃ちます!」	「……勇敢だな。軍人ともギリ ラともおもんが……」	「おすて下さい!」	「およし下さい!」	



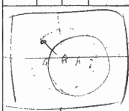
156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143
アムロなめセイラ手前の	アムロ	立ち上がるセイラ	セイラなめ来るガンダム 手をさしのべる	照準から目をはなし前を 見る アムロ	シャア残骸の墓にまわり 込む	照準セッとするアムロ	ガンダム、ビーム・ライ フルを構える	シャア、マスクをして上 昇する	地に手をついてふりあか す セイラ	セイラをよけるシャア のめるセイラ	ガンダム スクリン内 セイラ、シャアにつかみ かかる	竹となるアムロ	山の斜面をすべり下るガ ンダム
ブライト (off) 「アムロ君ノ 確かにジ	アムロ 「この辺にあるモビル・スー ツのパーツを処分するんです。特 別な材料だから」		セイラ 「……に、兄さん……？」 アムロ (off) 「スーパード・ナバームを使 います。手前のつて下さい」									アムロ 「あれは？ ……ジオンの……」	
													

160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	
ホワイトベイス・ブリッ ジよりブライトのぞく	のりだすアムロ	ガンダムの手の中 息をのむセイラ	船載、シャッター開く すり抜けて来るシャア	開くシャッターの間をす り抜けて行くシャア	岩かけからのぞくシャア ニヤリとする	来るガンダム。開くシャ ッター	炎上する軍需施設 P・ U リフトで上昇するガンダ ム	火炎、ガンキャノンの足 をやく	軍需施設を直撃するライ フル弾	軍需施設 せり上げるガンダム、ライ フル射	セイラ伏せると手がつつ みこみもち上る	アムロ	アムロ	る
ブライト「なんだとオノ」	アムロ 「ブライトさんノ、ジオンの兵 士が港に入っていきましたノ」	セイラ 「あ……あの……？」										アムロ (off) 「……大丈夫ですねノ」	アムロ (背中) 「オンの兵隊なのだなノ」 アムロ (背中) 「オノ」	

183	182	181	180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170
カメラを写すシャア、驚く	出入口より出て来るブライト	シャア、ホワイトベースの後方へまわり込む	カイ狙い射つ中、上昇して抜けるシャア	ヘヤト、カイ、リムウ撃つ	左右によけ乍らカメラを構えるシャア	撃つ老人	撃つ小林	甲板より銃をうつつ兵士達	ヘヤト来て手すりにつかまる	通路よりホワイトベースを望む	カメラに写すシャア	通路内 来るシャア奥せり上がるガンダム	身を起す艦長痛さで倒れる来るブライト
	ブライト(背中)「市外十度方市外港へ出港です」 (てくどく)										シャア「偵察隊各員ノすみやかに脱出せよ」	艦長「ホワイトベースの全てのハッチを閉じるノ銃を持てるものは……うっ」 ブライト「誰でもかまわんノ前方より接近中のジオンの兵を狙撃しろ」 (もたげ)	
													

199	198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184
照準器の中	アムロの顔にうつる照準マーク	照準器の中、移動する光点	照準セットするアムロ	サイド「ドッキング、ベイのシャッター開き、ガンダム出て来る」	サイド「の外、来るシャア」	シャア、穴より出て来る	再び壁を破壊 その穴へ逃げ込むシャア	穴より来るシャア、更にマイクロボンブを投げる	壁を破壊し、その穴の中へ逃げ込むシャア	シャア、マイクロ・ボンブを投げる	逃げるシャアを追い銃花	驚くシャア	シャアのカメラやられる	シャアよける	ホワイトベース・アンテナの端よりブライト射つ
					スレンジー(off)「少佐ノ」 シャア(off)「敵が出てくるぞ」							シャア「しまったノ」			
 															

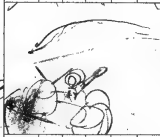
213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	
シャア	敵兵四人をおそろひム	ガンダム、ライフル射つ	力はいるアムロの手	目を見開いたアムロ絶き よう	星の写る正面スクリーン より PAN 照準器	アムロ	アムロなめ正面スクリー ン	アムロ、照準器から目を うつし正面スクリーンを みる	照準がゆれる	アムロの目、周、ふるえ る	照準器内、グーシ重なっ て行く	ライフル構えるガンダム	アムロの目、細くなる	光点が、人の形に見えて 来る
シャア	「人間みたいな小さな目標にそ うそろ当たるものじゃない。ム	スレンダー(off)「ト、少佐ノ」 シャア(off)「慌てるなノ、下手に動く とかえって当たるぞノ」		アムロ 「//撃つぞノ 撃つぞノ 撃つぞオノノ」		アムロ 「ハッ ハッ ハ……」		アムロ(息)「フ……フ……」	シャア(呼吸音)「フッー フッー ハッ フッ」	アムロ(息)「ハッ…… フー フー」				





222	221	220	219	218	217	216	215	214	
怪我の兵士の指示をうけ るセイラ	ブライト、オペレーター を見上げる	ミライ、ブライト、フラ ウ	ブライト、ミライなめ、 モニターTVに写るアム ロ	ホワイトベース・メイ ンブリッジ内、ブライト、 ミライ、セイラ	ムサイのハッチからザク 二機射出される	ムサイ艦内、ドレンと通 信士	サイド7前のガンダム、 四人の兵を射つ	ムサイ艦	
兵 A 「み、右のグーシがエンジン の出力計だ」 セイラ 「判ります」	ブライト「オペレーター。機庫が素人だ。 なるべく早めに指示を頼みます」 オペレーターB「こうなりや、やるしか ないもんな」 ブライト「頼むよ」	ブライト「各ブロックの機密再確認、…… できるか？」 フラウ 「は、はいノ」	アムロ 「は、はい」 ブライト(背中)「ホワイトベースから 遠すぎる様だ。本艦の右十キロ に位置してくれたまえ」 アムロ 「了解」	ミライ 「グレートセンザー三百六十度、 オールラジャー」 ブライト 「肩に力が入りすぎのようだな。 大丈夫、コンビニーターがやっ てくれますよ」 ミライ 「ええッ」 ブライト 「ガンダムのアムロ君へノ」	通信士 ドレン 「了解ノ」 「ザク、射出用意ノ 方位R・ D二三・五ノ」	通信士 「別はできます」 シャア 「敵が出て来るぞ。レーザ・ ラインのせて私とスレンダー のザクを第一機庫で射出しろ ノ」	通信士 「了解」 「別はできます」 シャア 「敵が出て来るぞ。レーザ・ ラインのせて私とスレンダー のザクを第一機庫で射出しろ ノ」	通信士 「了解」 「別はできます」 シャア 「敵が出て来るぞ。レーザ・ ラインのせて私とスレンダー のザクを第一機庫で射出しろ ノ」	通信士 「了解」 「別はできます」 シャア 「敵が出て来るぞ。レーザ・ ラインのせて私とスレンダー のザクを第一機庫で射出しろ ノ」

231	230	229	228	227	226	225	224	223		
ブライト	ミライ、ブライトなめモニターTVに写るリムウ	ドッキングベイより出て来るホワイトベース	ブライト	宇宙にのびる誘導灯の上を前進するホワイトベース	ブライトとミライ	TV in TV、四つの画面が現れる	ブライトとミライ	負傷兵の指示を受けるハヤト	兵 A セイヤ	兵 B ハヤト
ブライト「……素人よりは確実だが……経験は？」 リムウ「(off)」「シミュレーションを二度やった」 ブライト「う……。アムロと同じというわけか」	リムウ「ブライト。コア・ファイター発進、オーケーだ！」 ブライト「(背中)」「リムウ?!」 リムウ「おれはパイロット候補生だぜ！」		ブライト「メインエンジン、パワー臨界上昇！ おもかじ一杯ノッて！」 リムウ「……」		ミライ「ドッキング・ベイを出ます！」		ブライト「各ブロックノ……」 リムウ「……」 ハヤト「……」 セイヤ「……」 各機に迎撃体制をとれ！」	兵 B「艦内のミサイル陣のチェックは……」 ハヤト「はい。この数字ですね」 兵 B「よ、よく判るじゃないか」	兵 A「レッド・ゾーンに入らんようには……」 セイヤ「は……」	兵 B「艦内のミサイル陣のチェックは……」 ハヤト「はい。この数字ですね」 兵 B「よ、よく判るじゃないか」

245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	
ホワイターベースの前でミサイルに命中するライフル弾	ガンダム射つ	アムロ	ない	射つガンダム	アムロ	ミサイルを狙うガンダム	ミサイル直撃	射つガンダム	アムロ	来るミサイルを狙うガンダム	ミライ、ブライトなめモニターTV内のアムロとリムウ	だ輪まわすミライハッとみる	ブライト、オペレーターを見上げて	オペレーター B (off)「高熱源体接近！」
		アムロ「あたれー！」							アムロ「こいつなら！」		アムロ「やってみます」 ブライト「(背中)」「頼む」 リムウ「艦艦するぞ！」	ミライ「は、はい！」 ブライト「(off)お、遅い！」 アムロ「キャッチした！」	ブライト「ミサイルか！」 オペレーター B「大型です！」 ブライト「ミライ！」	



316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	306	305	304	303	302	301
ガンダム狙っている	ビームに後退する赤いザク	シャア ニタリとして	赤いザク狙う	コアファイターの銃火に後退する赤いザク	身をひくシャア	アムロ	シャア	のりだすシャア	ガンダムなめ爆発するザク	ブレるザクのコクピット	ザクを貫くビーム	ザクに命中するビーム	ビームうつガンダム	アムロの指、ボタンをおす	照準、左右によけるザクを追う
		シャア 「変哲のない新型戦闘機かノ オウオウ」			シャア 「斜、連射軍め、恐ろしい…… ザクを閉塞したものだ…… ……させるかアノノ」 （ひっか）	アムロ 「さ、一撃で……ザクを……」	シャア 「ス、スレンダーノ……い、 「一撃で、一撃で、げ、撃破か!! 有、なんという事だノ、お、あ のモビルスーツは……戦艦なみの ビーム砲を持っているのか!! ……」			スレンダー「あ……ノ」					

329	328	327	326	325	324	323	322	321	320	319	318	317
ブライト、リュウ	メインブリッジ内、PA	アムロ見まわす	アムロ手前向く	ドアを開き来るアムロとリュウ	ブライト	ホワイトベース・メインブリッジ内、ミライ、ブライト、ベッドに横たわる艦長、その奥にフラウ	太陽、地球、ルナツー見える ホワイトベースに二本の光点	おびえるシャア	後退する赤いザク	アムロ UP	メーター、レッドゾーンで点滅	アムロ UP
フラウ 「アムロ……」			ブライト (off) 「動いていない……。しかし、追いかけてくると思うよ。シャアならばな……」	リュウ 「ブライト、敵の様子は？」	カイ 「来たぞ」	ブライト 「ホワイトベースは、ルナツーに直航する。各員の配置は現状のまま、相互に休息をとれ」	フラウ 「ガンダム爆発しましたノ」 ブライト 「収容作業終了後、アムロ、リュウをブリッジにノ」 フラウ 「はいノ」	シャア 「か、火力がち、遠いすぎる……」		アムロ 「つ、使いすぎだ……」		アムロ 「う……。ビ、ビームのエネルギーが」



340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330
アムロよりT・B	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ
N	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ
「ルナツー、宇宙殖民地建設の鉱物資源を得るために運ばれてきた小惑星である。今、ここには、連邦軍の最新練基地がある」	「ガンダム、宇宙殖民地建設の鉱物資源を得るために運ばれてきた小惑星である。今、ここには、連邦軍の最新練基地がある」	「ガンダム、宇宙殖民地建設の鉱物資源を得るために運ばれてきた小惑星である。今、ここには、連邦軍の最新練基地がある」	「ガンダム、宇宙殖民地建設の鉱物資源を得るために運ばれてきた小惑星である。今、ここには、連邦軍の最新練基地がある」	「ガンダム、宇宙殖民地建設の鉱物資源を得るために運ばれてきた小惑星である。今、ここには、連邦軍の最新練基地がある」	「ガンダム、宇宙殖民地建設の鉱物資源を得るために運ばれてきた小惑星である。今、ここには、連邦軍の最新練基地がある」	「ガンダム、宇宙殖民地建設の鉱物資源を得るために運ばれてきた小惑星である。今、ここには、連邦軍の最新練基地がある」	「ガンダム、宇宙殖民地建設の鉱物資源を得るために運ばれてきた小惑星である。今、ここには、連邦軍の最新練基地がある」	「ガンダム、宇宙殖民地建設の鉱物資源を得るために運ばれてきた小惑星である。今、ここには、連邦軍の最新練基地がある」	「ガンダム、宇宙殖民地建設の鉱物資源を得るために運ばれてきた小惑星である。今、ここには、連邦軍の最新練基地がある」	「ガンダム、宇宙殖民地建設の鉱物資源を得るために運ばれてきた小惑星である。今、ここには、連邦軍の最新練基地がある」



機動戦士
ガンダム
UNDAM

第3話 「攻 襲」

制作 名古屋テレビ
創通エージェンシー
日本サンライズ

株式会社日本センライズ

昭和54年4月21日放映

脚本／荒木芳久●絵コンテ／并谷雄●演出／小庭英吉●作画監督／安達

●作・上条修・高木敏夫・広岡光昭・林良男●背景／アート・テイ

●勤王 江戸・津守 ●仕上 / シヤフ

●特殊効果／土井通明●撮影／旭プロ（西放たみ子・浅賀子エロ）●

●監製／岡田英彰・小谷雄文
●監督／松浦典良
●効果／松

● 監修／日岡國重 ● 脚本／西月眞人 ● 設定・制作／円井王A・

監修／日向國雄 ●製作進行／益月真人 ●設定制作／坪井正 ●A・

神田量

キヤスト品戸優

●アムロ／古谷徹●ブライト／鈴置洋孝●ハヤト／鈴木清信●リュウ／飯

昭和三〇●カイ／古川登志夫●フラウ／鶴岡るみ子●セイラ／井上瑤●ミラ

イ／白石冬美●シャア／池田秀二●ドレン中尉／永井一郎●ガダム／水島

敬夫●ドズル／長堀芳夫●バオロ腫長／政宗一成●キツカ／井上瑤●カツ

白石冬美●マチュ／政察一成●オベレーター／竜田直樹●ハロ／井上瑛

ナレーショ
ン／永井一
郎

フーバー・シニアの「大捜査」

[illegible]

[illegible][illegible]


63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	
ミライ手をあげている、 ブライト、ナビたちを見	ナビ三人、手をあげてい	いる ブライトなめオベレ・タ ーは二人とも手をあげて	リュウ、少年A、ハヤト ら手をあげる		アムロなめうしろで老人 が二人手をあげる	説明しているブライト	ホワイトベース・ブリッ ジ二十六人のメインと老人 たちが何人かいる	機械のかげで服をきてい るアムロ	動力帯のローカを走る三 人	下の少年、コプファイタ ー・コタビットのリュウ、 左上にとぶ	はつと顔をあげる見習い 士官やら少年兵士	緊急警報の音が響く
キャッ 「そりだ！ 斗りべきだ！」	キャッ 「斗りべきです！」			ブライト「では、これも五分五分かも知 れんが我々が討つて出る方に賛 成の者は？」	ブライト（off）「五票だ」	……（on）…… 時間がない、多数決できても らう。まず、出来る出来ないは 五分五分だがともかくルナズ ン前遊基地に逃げこむのに賛成な 者、手をあげて下さい」	ブライト（off）「皆の意見をききたいが、 ……（on）…… 五分五分だがともかくルナズ ン前遊基地に逃げこむのに賛成な 者、手をあげて下さい」	アラウ 「洗濯しとくからね」 アロム 「ああ！」	カッ 「キャッカ！ お前は部屋にいる 全員集合だろ！ 全員！」	少年A 「はい！」 「はい！」	ミライ（off）「戦斗可能な方はブリッ ジに集合、年合は問いません。機 関区以外の者は全てブリッジに 集合！」	

76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	
ホワイトベース・格納庫 コプ・ファイターのロケ ット噴射	ホワイトベース・ブリッ ジセイラなめミライ、ブラ イト各個所にいる	コプ・ファイターの前方 ハッチが開いてゆく	格納庫のハッチが開いて ゆく	上昇するホワイトベース	ホワイトベース全景、ア オリ	ホワイトベース画面の左 へ流れる	カメラふりこむ	ブライト手を下して前を みる	アムロ、幹から手をはな してあげる	ブライトなめアムロへT ・U	ブライト手をあげる	硬貨を握った手をあげる カイ	セイラも手をあげている
リュウ 「出力六十、七十、八十五…… 百二十……」 発進	セイラ 「カタバルト接続終了、リュウ コプファイター発進オーケー！」						ブライト「よし、決まった！ 出撃する （うろ） ウはコプ・ファイター！ 場合 によっては、ガンダムも出撃も あり得る。オレ、ガンダムスタンバイ せ！ ホワイトベース百八十度回頭 ！」						


91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77
ジ ホワイトベース・ブリッ	ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ	指示するセイラ	ホワイトベース・ブリッ ジ	ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ	ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ	ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ	ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ	ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ	ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ	ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ	ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ	ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ	ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ	ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ
ブライト「左右ビーム砲 急げ！」	アムロ (off)「了解」 「了解」	セイラ 「十キロ前進後、敵に対して、 鋭角から侵入のため降下。よろ しい？」			ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ		ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ		ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ		ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ		ガンダム・コクピットの アムロなめコア・ファイ ターとぶ	

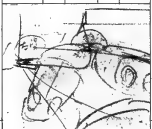
108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92
パイプを出し、はじめる パイプ	ムサイの三つのハッチの シャッター開いてゆく	ガンダムのセリフを無視し てシャア指示をとばす	シャア	シャアなめモニターにう つるドレン	シャア	シャア	シャア	シャア	シャア	シャア	シャア	シャア	シャア	シャア	シャア	シャア
兵 A 「コンベア・パイプ受けとりよ し！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」	「判っているよ。わしが、そん なには早いかね？ 年の割には 素早いはずだ」 「ハッチ開け！ コンベア・パ イプ、ドッキング急がせい！」

117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104
岩脈に回りこむガンダムとコアファイター	リュウ、ハハアーとなる	太陽の左に輝やくムサイ、バブアが見える	ガンダム・コクピットアムロ前方右手を見る	岩山が流れ太陽がみえる	あたりを見回すリュウ	岩かけからガンダム、コア・ファイター出てくる	ガンダム、コア・ファイターの右へまわりこむ	ガンダム・コクピット内のアムロなめ下るコア・ファイター	ガンダムを見るリュウ	ガンダム下に下りると手まねをする	ガンダム・コクピットのアムロなめコア・ファイター上にゆく	地表すれすれにゆく コア・ファイター ガンダム	ムサイへパイプが接続してゆく
	リュウ 「ホ…見えたぞ、アムロの奴、素人のくせによく気がつく。陽を背にして攻撃しようというのか」		アムロ 「もう見えるはずだが……」		リュウ 「？ ど、どこだ……ムサイは？」			アムロ 「このままつっこんだら、逆光線で斗かわなくっちゃならない事に気づかないのか！ まわりこむんだ！」	リュウ 「上がるなだ！ 敵は目の前だぞ」		アムロ 「リュウの奴！ 素人のくせに！」		


131	130	129	128	127	126	125		124	123	122	121	120	119	118
排ガスが出るとスベア弾がスライドする	バズーカ発射	ボタンおすアムロの親指	スコープの中の映像センサーに	ガンダム・コクピットアムロ照準をみている	バズーカをかまえるガンダム	岩かけから太陽に向かう二条の光点		ムサイのブリタジガダム、スクリーンの中で下をみる	山のかげにしずむガンダム、コア・ファイター	アムロ正面みて	山々のむこうに輝くムサイとバブアがみえる	チラッとみるアムロ	くるガンダム、コア・ファイター	
				アムロ			シャア	兵 A		アムロ				
				「よし、つかまえたぞ、シャア」			「（背中）同感だな。ガデム。監視カメラは三百六十度、作動中だ。はあ、」 「近くに敵艦が？」	「コンベア・パイプ接続終了！弾薬が投入開始！」		「よし、行くな」				

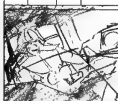
147	146B	146A	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132
ムサイのブリッジ 慌しくなるシヤア、手前	パイプのブリッジ あせるガデム	コンベア・パイプふつと	窓の外、爆光がはしる	移動する光点	モニターのガデム敬礼して	あせるシヤア、モニター 見る	ムサイのブリッジ 移動 する光点	砲煙が四方へ散ってゆく	パイプのブリッジ吹きと ぶ破片	ムサイのブリッジ、すが りつくシヤアたち	ムサイのハッチ ふつと ぶ兵士	パイプに命中	移動する光点	振り向くシヤアとドレン	ムサイ、ブリッジ 光点が移動する	バズーカの弾、頭がゆく
シヤア 「マチュノ、フィックスノ、船 の外でザクを乗り移る仕度をし	シヤア 「機体ゆかりノ、船首をムサイ にかけろ、ザクをシヤアに渡 さなきゃならんのだ！」		ドレン・兵「うわー！」	兵 B (背中) 「2、1ノ 発射した！」	ガデム 「ああ、なんとかしよう。日 がわしの任務だからだ！」	シヤア 「ガデム、きいてるのか？ 必 死して運んできたザクを放出 しろノ！」	兵 B 「第二撃をしますノ 5ノ6ノ」		ガデム 「コンベア・パイプをやられた ノ、船をムサイから離せ！」	兵 「うわー！」			兵 B 「三秒で接触ノ 3ノ2ノ1 ノ」	シヤア 「なに？！」	兵 B 「後方からミサイルらしきもの 接近ノ！」	

160	159	158	157	155	154	152	151	150				149	148	
シヤアのザク機関銃発射	ザクのコクピット	シヤアのザクくる	移動する光点	ムサイのブリッジ ドレン勇鳴る	ムサイ ミサイル発射	ムサイのブリッジ 手前、カジをまわしてい る兵	シヤアの右手、アチコチ のスイッチ入れている	ムサイの後部 の赤いザクが出てくる	アイ キャッチャー	アイ キャッチャー		ミサイル、太陽に向つて ゆく ボロボロと爆発するミサ イル	ムサイの後部よりミサイ ル発射	に走る
		兵 B (off) 「3 2」	兵 B 「第三波をします 5ノ4……」	ドレン 「メガ砲のエネルギー充填にど のくらいかかるかノ！」 兵 C (背中) 「五分二十秒ノ」 ドレン 「ええーい、おそーい」メイン ・エンジンのパワーを落しすぎ たわノ！」		ドレン 「了解ですノ 百八十度回頭い そげノ、残りのミサイルのある プロダクは、全弾太陽に向かっ てぶちこめノ！」	シヤア 「ドレンノ パパアをカバーす るんだノ！ この攻撃はモビルス ーだノ！ 戦艦じゃあない！」		C M				ドレン (off) 「あるだけの小型ミサイル を水平撃ちするんだノ！」	てかけノ、私は先にモビルスー ッで出撃するノ！
														

176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161
コア・ファイターうつ	バブア上昇 ドドツと穴があいていく	バブアとムサイなめコア ・ファイターの機銃攻撃	バブアのブリッジ内 ガデムなめ兵C	バブアのブリッジのうしろで、ミサイル爆発	シャアのザク、太陽に向 かってゆく	シャアのザク、太陽に向 かってゆく	爆煙のちるむこうコア・ ファイターゆく、手前、 バズーカの弾頭ゆく	下をみるシャア	爆煙	ミサイルに当たる機銃弾、 爆煙	シャアのガン 火をふく	太陽の中からミサイルが とんでくる	シャア	バブアの右後部やられる	銃火とバズーカ弾が交差 する
			ガデム 「迎撃しろ！ 本線はバブア と戦うとして補給物資を確保する！」	兵 C (off) 「きます！ 敵機左後 方！」	兵 C (off) 「うわー！」	シャア か！	「モビル・スーツはむこう か！」	シャア 「ン？」				「こ、これ以上、やらせるか！ 連邦軍の新しい兵器、バズーカ を！」	シャア 「仕損じた！」		
															

191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177
バズーカ発射	スコープをのぞくアムロ	銃火を盾で受けながらハ イパーバズーカを構える	シャアのガン 火をふく	シャア	ガンダムふつとぶ	シャアのザク、ぐわつと せまる銃床でガンダムの 横つ面をたたく	ガンダムのコクピット 振動がはしる	後退しながら盾でうける ガンダム	シャアのザク鉄拳とぶ	太陽を背に二つのかけが 交叉する	バブアのブリッジ ガデ ム	コア・ファイター上昇す る	バブアの甲板をすりぬけ る コア・ファイター	機銃座の兵ふつとぶ
アムロ 「シャア奴！」			シャア 「教えてやる！」			シャア 「アッ……モビルスーツの性能 の違いが戦力の決定的差ではな いということ……」	アムロ 「うつ／＼、シャア！」				ガデム 「連邦軍の新機軸、バズーカ は、低くと べ！ 補給物資はルナツーに放 出する！」			兵 E 「うわーっ！」
														

209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193
ズン/とガンダム に入る	シャアの左手がとぶ!	ガンダムをおそり、シャア のザク	シャアのザク コクピットのシャア	大きくふりむくガンダム	スタリール内 シャアのザクが迫る	スタリール内 シャアのザクが迫る	ガンダムのコクピット スクリーン裏面の赤に なる	ガンダムの足なめシャア のザク うしろに回り込む	ギョウと下をみるアムロ	アムロ 「しまった! バズーカの弾体 が……」	バズーカ弾をかむすシャア	ハイパーバズーカを構え るガンダム、撃つ	アムロ、スコープを右へ はねる	はねるようにふつとぶシ ャアのザク	のりだすガンダム 側のマシンガン撃つ	アムロ気合の「せじだア!」
			シャア 「遅い!」				アムロ 「うしろ?」									
																



234	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210
ベガス浮上してくるビーム砲 主砲散発的にうつ	ふるえているアムロ	銃火をかわすシャアのザクさがる	ガンダムもガンをうつ	スコープ内のシャアのザクをうつ	アムロ傾めにスコープを合せる	シャアのザクを追うガンダム	シャア、ガンダムをみながらハンドルを切る	シャアのモニターにうつるドレン	シャアのザクくる	ぐらつとよろけ終るガンダム	ギラッと輝くザクの目	ニヤリとするシャア	ガンダムのコクピット 呆然としているアムロ	すつとぶガンダム
	アムロ 「ブ、ブライトと約束したんだ。 ……僕はシャアをひきつけておくってな!」				アムロ 「船にはやらせるものか!」		シャア 「なにっ! 私が行くまでなんとかもちこたえろ!」	ドレン 「シ、シャア少佐! て、敵の新機軸の木馬が、こ、攻撃を / かけてきます!」					アムロ 「……………」	
														

233	232	231	230	229	228	227	226	225
ミライなめブライト 受話器をおく	ぶら下がりのモニターにうつっている	ホワイトベースのブリッジ ミライなめブライト	ムサイのブリッジ	バブアとムサイの左右の地面 大きくふつとぶ	マニニアルを見るハヤト	ホワイトベースのビーム砲コクピットのカインめ コア・ファイター、ムサイの前をすりぬける	ムサイのハッチにコンテナを入れようとする兵士たち コア・ファイターがすり抜ける	敵の兵員がコンテナをおしてゆく、うしろにビーム砲とぶ
ブライト「了解／リムウ／」 応答しる	ハヤト（主砲）「コア・ファイターが撃たないで、補給艦を狙えないで、砲撃手がついてます」	ミライ「ムサイが攻撃してこないけど」 ブライト「補給艦の中でたら、まずメガ砲は使えないな、ミサイも……ないんだろ」 オペレーターA「高度三百ノムサイ、右から降下します」 オペレーターB「相対速度〇・二三、確定接触五・二秒」 ハヤト（off）「ブライトさん、お願いです」 ブライト「どうしたノ」	ドレン 兵D 「高度をさげつつ百七十度回頭、主砲を敵艦にむけるんだノ」 「ヤマトさん」	ハヤト 少年C（off）「急いでくれよノ」	ハヤト 「は、はいノ、でも、ブリッジに連絡するのは？」	カイ 「リムウのデカ野郎がノ、あれじゃあ、こつちの主砲が撃てねえじゃないかノ、ハヤトつていつたな、伝えるノ、リムウにどはつてよノ」	ハイ	

247	246	245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234
ガンダム、盾に衝突する シャアのザク	シャア	盾を振りかざすガンダム	目を見はるアムロ	盾の方からつつ込むシャアのザク	シャア	ハッとするアムロ	シャアのザク、左手でバズーカをはらうや上にとぶ	盾で体をかばいつつ、こわれたバズーカの本体をなげる	シャア、マシンガン撃つ	ガンダム・コクピットの アムロ	シャアのザクのコクピットボタンをぶすシャア	ホワイトベース 左舷のビーム発射している	ブライト
シャア「甘いなノ」	シャア「どうでした？」 ブライト「奴めノ、無謀回線を切っている」 ミライ「じゃ敵の船をやつつけられな	アムロ「なに?」	シャア「不慣れなパイロット奴ノ、い	アムロ「う?」	シャア「不慣れなパイロット奴ノ、い	アムロ「う?」	シャアのザク、左手でバズーカをはらうや上にとぶ	シャアのザクのコクピットボタンをぶすシャア	ガンダム・コクピットの アムロ	ガンダム・コクピットの アムロ	シャアのザクのコクピットボタンをぶすシャア	ホワイトベース 左舷のビーム発射している	ブライト



311	310	309	308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297
ガデムのザクとびあがる	大きくふりあぐガデム	太陽を背にぐるガンダム	ガデムのザクに近づくとシヤアのザクとまる	シヤアのザク コクビツ	上昇するコア・ファイター 手前をシヤアのザクがゆく	逃げるのに精一杯のリユウ	リユウの後へ回り込むシヤアのザク	リユウの上空のザクを狙うコアファイター降下してゆく	つつ込むリユウ	ムサイのブリッジ 指示するドレン	ガデム	空のザクがムサイの上に流れてゆく	空のザクを押しやる	ルナツーにバブア激突する
シヤア (off) 「ガデム、おちつけノ」	ガデム 「あれかーアノ 連邦軍の作戦出したモビルスーツつてのはノ」		ガデム (off) 「たいがいのものは放出したはずだノ 敵を倒したら収容してくれよノ」	シヤア 「ガデムノ 補給物資は!!」		リユウ 「あ、赤い彗星めーノ」	リユウ 「ウーアー」		リユウ 「させるかーアノ」	ドレン 「マチュノ ファックスノ ザクに塔乗しろノ」	ガデム 「ムサイノ ザクを渡したぞノ 受けとれノ」			

326	325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312
ガンダム・コクビツト シートにめりこむアムロ	ガンダムに激突するガデムのザク	ビーム・サーベルのきつさをよけてザクの肩、せまる		ガンダム、ビームサーベルをつきだす	さけぶアムロ	両者、左右から接近する	アムロ	ガデムのザク、単眼輝く	ぐんとビーム・サーベルをひくガンダム	止めようとするシヤア	ガンダム・コクビツト首をひくくするアムロ	肩を前につつこむガデムのザク	ガデム興奮きみ	とめに入るシヤアのザク、手ではらうガデムのザク
アムロ 「うわー」			ガデム 「ド素人奴ノ 聞合いが違いわいノ」		アムロ 「うわー」				シヤア 「やめろノ ガデムノ ザクでは無理だア」		アムロ 「うつノ……!! ぶ、武器も持たずに……!!」		ガデム 「わしの船をやられたのだぞノ このザクとてわしと百戦練磨の斗いの中をくくりぬけてきたのだノ になわ作り連邦軍のモビルスーツなぞ、一撃で倒してみせるわノ」	ガデム (off) 「とめるなア」
														

341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327
シャア	地平線に沈んでゆくガンダム	うつと前をみるシャア	ししば茫然のアムロ	ガンダムの盾に破片あたる	爆発をあげるシャア	ガデムのザク全量、爆発	モニターもスパーキで乱れはじめ爆発する	本能的にベルトをはずしにけようとするガデム	ずいつとひきぬきとびさるガンダム	ザクの腰からビーム・サーベルぬける		腰にくりこむビームサーベル	ビーム・サーベル、ザクの腰にぬりこむ	右のファックを入れるザク
シャア 「ガデムも死んだ。……どういふことなのだ？モビル・スーツに		シャア 「うつ／敵のモビル・スーツが」	アムロ 「シャア……了解！」	ブライト 「退れ！アムロ！ （お前も補給艦は撃破したんだ、すぐ退け！）」	シャア 「ガ、ガデム……！」		ガデム 「うあ……あ……れ、連邦軍があるほどのモビル・スーツを？」	ガデム 「うあ……あ……れ、連邦軍があるほどのモビル・スーツを？」			アムロ 「く、……くつ！」			



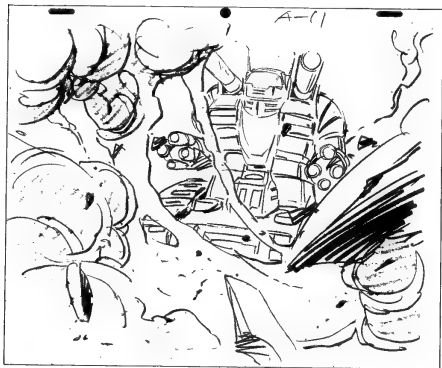
348	347	346	345	344	343	342
アムロ 少しアタマにきているアムロ	ブライトなめアムロ	ニウ	リュウ、アムロくる ブライト手前にinするリウ	ホワイトベース・ブリッ ヘルメットとついているカイ	シャア マチュ	モニターにうつっているマチュ
アムロ 「はい！」	アムロ 「はい！……シャアが早すぎたんだ！」	リュウ 「いやあ、ありゃあれでいいんだ、なア！」	ハヤト 「だと思えます」 （off）「かわいくなえの！」 （off）「俺、無縁切つてたんだってな」 「ああ、気をつけてくれよ。訓練を思いだしてな。それから、アムロ！君は敵のむこうを過りこみすぎだ」 「いやは、ありゃあれでいいんだ、なア！」	カイ 「ハハア、案するより生むは易しつてね」 「甘つたれるな。アムロがシャアをひきつけておいてくれたから、ガンダムは攻撃ができんだぞ」 「だとさ、ハヤト！」	シャア マチュ （off）「ハヤ！護援にあたります」 「どういふことなのだ？」	マチュ 「マチュ、フィックス共にザクに塔乗。敵を追撃致しますか」 「補給物資積み込みの護援にあたりませう」 （off）「ハヤ！護援にあたります」 「どういふことなのだ？」

い、い



第三話・お茶をのむ

355	354	353	352	351	350	349
ルナツー背景にゆくホワイ トベース	ホワイトベース降下して くる	アムロなめブリッッがみ える	フラウからお茶をもらう リニウ	ゆつくり歩むアムロとリ ニウ	ミライなめブライト背も たれる	ムッとするブライト
		オペレーターA (off) 「機雷源左翼二十 五キロ/進路右三・二、仲精 井」	フラウ 「疲れたでしょ、お茶よ」 リニウ 「いやあ、こりゃこりゃ」 ハロ 「アムロ、オツカレ、アムロ、 オツカレ」 アムロ 「調子よさそうだな。ハロ」は リニウ 「なんだい? それ?」 アムロ 「僕がつくったのさ。ハロって ね」	アムロ 「リニウさん、僕、本当にあの 人をなぐりたくなってきた……」 フラウ・ボウ	ミライ 「全速前進、進路はルナツー、 前進基地。進路クリアー!」	ブライト (背中) 「各員、第二戦斗配置 のまま休息をとれ」



連続テレビ・アニメーション番組

機動戦士 ガンダム UNDAM

録音台本

第4話 『ルナツー』

名古屋テレビ
制作 創造エージェンシー
日本サンライズ

株式会社日本サンライズ

第4話 ルナツー脱出作戦


昭和54年4月28日放映


制作スタッフ

●脚本/山本優 ●演出/奥光紳也 ●作画監督/富沢和雄 ●作画/スタジオZ(長崎重信・鍋島修・平山一) ●背景/アッブル(渡辺毅・渡部孝) ●動画/チエック・浜津守・村上・ディーン(仲良邦・後藤ひとみ) ●特殊効果/土井通明 ●撮影/旭プロ(平田隆文) ●編集/鶴岡友彰・小谷地文男 ●音響監督/松浦典良 ●効果/松田昭彦 ●監音/日向国雄 ●制作進行/滝口雅彦 ●設定制作/内井正 ●A・P/神田豊


キャスト&声優


●アムロ/古谷徹 ●ブライト/鈴置洋孝 ●リュウ/飯塚昭三 ●ハヤト/鈴木清信 ●カイ/古川登志夫 ●フラウ/鶴飼るみ子 ●ミライ/白石冬美 ●セイラ/井上喜久 ●キッカ/井上喜久 ●カッツ/白石冬美 ●シヤア/池田秀一 ●ドレン中尉/永井一郎 ●マチュ/政宗一成 ●フィックス/古川登志夫 ●ワッケイン司令/蟹我部和行 ●ワッケインの副官/広瀬正志 ●パオロ艦長/政宗一成 ●ナレーション/永井一郎

										S
										C
7	6		5	4	3	2	1			
アムロ達から避難民達	アムロ		ルナツー基地内、各種機船がある	ルナツーの前進基地の入	月、地球、ルナツーの誘導灯	サブタイトル「ルナツー」			DNで紹介	画面
(off)	ブライト (off)	兵士A (off)	兵士B (off)	兵士C (off)	兵士D (off)	兵士E (off)	N		音	声
「我々は民間人を百人以上連れていくんですよ、それだ、サイド7が攻撃されてやむなく脱出したんだです」	「我々は民間人を百人以上連れていくんですよ、それだ、サイド7が攻撃されてやむなく脱出したんだです」	「我々は民間人を百人以上連れていくんですよ、それだ、サイド7が攻撃されてやむなく脱出したんだです」	「我々は民間人を百人以上連れていくんですよ、それだ、サイド7が攻撃されてやむなく脱出したんだです」	「我々は民間人を百人以上連れていくんですよ、それだ、サイド7が攻撃されてやむなく脱出したんだです」	「我々は民間人を百人以上連れていくんですよ、それだ、サイド7が攻撃されてやむなく脱出したんだです」	「我々は民間人を百人以上連れていくんですよ、それだ、サイド7が攻撃されてやむなく脱出したんだです」	「人類が、ふえすぎた人口を宇宙に移民させるようになって半世紀がすぎた。地球のまわりの巨大な人工都市は、人類の第二の故郷となり人々はそこで子を生み、育て、そして死んでいった。宇宙世紀ダブルオー七十九年。地球に最も近い宇宙都市サイド7は、ジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んできた。この一カ月あまりの闘いでジオン公国と連邦軍は、総人口の半分を死に至らしめた。人々は、自らの行為に恐怖した……」		「人類が、ふえすぎた人口を宇宙に移民させるようになって半世紀がすぎた。地球のまわりの巨大な人工都市は、人類の第二の故郷となり人々はそこで子を生み、育て、そして死んでいった。宇宙世紀ダブルオー七十九年。地球に最も近い宇宙都市サイド7は、ジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んできた。この一カ月あまりの闘いでジオン公国と連邦軍は、総人口の半分を死に至らしめた。人々は、自らの行為に恐怖した……」	

62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44
シャア	部下達	シャア、部下達の方に向き直り	シャア	拳銃、落ちる。着えるセ	足を引くシャア	セイラの手から拳銃飛ぶ	シャアの足、拳銃をはね	シャアの足が飛ぶ	困惑のセイラ	シャア、マスクをとる	セイラ、叫ぶ	シャアの手なめセイラ	振り向くシャア	シャア	銃撃えたセイラ、バスト	シャア	銃撃えたセイラ全身	シャア
シャア	部下達	シャア	シャア(M)「そり……アルティシアはもっとなやましい……」					セイラ	「ああ」		セイラ	「お捨てなさい……」	セイラ	「動くと言います」	シャア(M)「もし……あの時の少女が十年前に別れた妹の……いや……アルティシアにしては……強すぎる」			
「第一目的は……連邦軍のモビルスーツを奪うことだ……第二に……敵の新造戦艦の、木馬を																		

70	69	68	67	66	65	64	63	
ムフとなるアムロ 飛び出そうとするリニウが止める	カイ、ハヤトの横に座り 食べ始める	カイ、アムロの方を向いて	カイト、アムロの方に 向きなおり	ブライト、ドアを叩く 「カイト、アムロの方に 向きなおり」	ブライト、ドアを叩く 「カイト、アムロの方に 向きなおり」	ドアの前で止まり、スイ ッチを押す	B ワゴンを押している兵士	フツと顔をおとし キツとあけて
リニウ 「カイ・シデン君の言う通りだ よ、アムロ」	<p>「食べたの、ハヤト君」</p> <p>「ハヤト君、兵隊ってみんな 食って、お前さん、お前さん お前さん、お前さん、お前さん」</p>	<p>「食べたの、ハヤト君」</p> <p>「ハヤト君、兵隊ってみんな 食って、お前さん、お前さん お前さん、お前さん、お前さん」</p>	<p>「食べたの、ハヤト君」</p> <p>「ハヤト君、兵隊ってみんな 食って、お前さん、お前さん お前さん、お前さん、お前さん」</p>	<p>「食べたの、ハヤト君」</p> <p>「ハヤト君、兵隊ってみんな 食って、お前さん、お前さん お前さん、お前さん、お前さん」</p>	<p>「食べたの、ハヤト君」</p> <p>「ハヤト君、兵隊ってみんな 食って、お前さん、お前さん お前さん、お前さん、お前さん」</p>	<p>「食べたの、ハヤト君」</p> <p>「ハヤト君、兵隊ってみんな 食って、お前さん、お前さん お前さん、お前さん、お前さん」</p>	<p>「食べたの、ハヤト君」</p> <p>「ハヤト君、兵隊ってみんな 食って、お前さん、お前さん お前さん、お前さん、お前さん」</p>	<p>「食べたの、ハヤト君」</p> <p>「ハヤト君、兵隊ってみんな 食って、お前さん、お前さん お前さん、お前さん、お前さん」</p>

159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	
一室に翼がくいで込んでくる。後い込まれる隊員達	壁の方に左舷の艦橋がせまり(引きセル)壁にぶつかる左舷艦橋	マゼランの艦首天井にぶつかる	マゼランの艦首係員たち	椅子にしがみついているワッケイン	マゼランの右と下から爆発吹き出る	床下の機雷、爆発	壁の機雷、爆発	機雷の手前をマゼランが来る	マゼラン来る	床下の機雷	壁の機雷	来るマゼラン	マゼランのブリッジ	宇宙機雷	マゼランくる。床下に宇宙機雷	マゼランくる	シャアと部下Aゆく
隊員たち「うわっ」			係員たち「うわっ」	ワッケイン「ワァッ」									ワッケイン「各機、待て、ハイン。敵を撃つ作ら、各機員の判断に攻撃、機雷」			シャア「行くぞ」	


172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	
艇 マゼランから離れる救命	ブライト行く	ブライト、ミライ	セイラ、振り向いて	ブライト、モニターを見る カイが覗いて	ブライト、ブリッジの窓 から見つめている	マゼランの手前のホワイ ト・ベース	通路をふさぐ形で止まっ たマゼラン	ワッケイン	前面ガラスにぶつかるワ ッケイン	椅子から放り出されるワ ッケイン	通路の天井に艦尾がぶつ かる	艦首が床面に突っ込む	かたむいていくマゼラン
ミライ 「はいッ」	ブライト「よし……僕もガンダムの処へ 下りる。ミライ、エンジン・パ ワーが臨界に達したら、後速前 進だ」	セイラ 「今重力プロットに移動中です。 フラウ・ボウが指揮してくれて ます」	セイラ 「遊離氏は？」	ブライト「リュウノカイノアムロノ カイ 「怒鳴りなさんな。今、始まっ たばかりじゃないですか」 ブライト「うッ」	ブライト「なんだと？ マゼランが港の 出入口を……エンジン始動ノ 機関員急げッ」		ワッケイン「しまった……はかられた……」						

185	184	183	182	181	180	179	178	177	176	175	174	173
ワッケインの向うに着床するブライト	ムッとなるブライト。下	ワッケインなめアムロにハヤト	ワッケイン、副官	アムロなめワッケインと、副官	ベルトが切れる。ニコッとするアムロの声にハッとする	ベルトを切っているブライト、リュウ	ベルトをレーザバスターで焼き切っているアムロ	救命艇の窓から見るワッケイン操縦士の方に向って叫ぶ	ホワイと・ベースの横を過ぎて行く救命艇。カタバルトが開いていく	救命艇、ホワイと・ベースの方へ行く	ワッケインと副官、その他部下たち	救命艇
ブライト「反逆罪は覚悟の上ですッ、ワッケイン司令」		アムロ「シャアと聞えるのはガンダムワッケイン(背中)」「すぐに退去したまえ」	ワッケイン「ホワイとベース立入禁止は厳命したはずだッ」	ワッケイン「貴様ら、そこで何を	ワッケイン(口)「貴様ら、そこで何を			ワッケイン「だ、誰がホワイと・ベースを撃つけるッ、ホワイと・ベースにつけるんだッ」		副官「司令、お怪我は……」	ワッケイン「大丈夫、ただのカスリ傷だ……」	



198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186
ワッケイン、のり出して	艦長、まわりのミライたち	ベッド上の艦長、モニターのワッケイン	ブライト、司令	モニター内、ミライが行くとベッドの艦長がいる	艦長の声にハッとする	モニターのミライ、バスター	ワッケイン、ブライトなめモニターに跌っているミライ	ワッケイン「今、君に軍規が何故必要なのか、説明したくはないが定められた命令は厳守だッ」それが何だと言うんでッ	アムロも始める	再びベルトを焼き切り始める	カ、リュウ	鉄身なめブライト
ワッケイン「しかし、艦長……」	艦長「だからなのだ……不幸にして我々より彼らの方がうまく使ってくれろのだ。」	艦長「だからなのだ……不幸にして我々より彼らの方がうまく使ってくれろのだ。」	ワッケイン「はい」	艦長「ど、どうだろう……。ワッケイン君が……ホワイと・ベースにしろ、ガンダム、ガンキャノン……が、ガンタンクは今まで機密事項だった……」	ワッケイン「何ッ!!」	ワッケイン「ン、バスター艦長……」	ミライ「軍人が軍規にのっとって死ぬのは勝手です。でも、他の民間人がその巻き添えになるのは理不尽ではないのではありませんか、ワッケイン司令」	ワッケイン「今、君に軍規が何故必要なのか、説明したくはないが定められた命令は厳守だッ」それが何だと言うんでッ			ワッケイン「貴様」	ブライト「あなたの敵はジオン軍なんですッか?! それとも私たちなんですッか?!」



[illegible]

264	263	262	261	260	259	258	257	256	255	254	253	252	251
ムサイ艦	通路の向うにムサイが見える	ワッケイン、考え込むミライ、指さして	艦長 ゆっくりと眼をつぶる	ワッケインなめ艦長	ワッケインなめブライト、ミライ	ブリッジのブライト連なめマゼラン見える	マゼランなめホワイト・ベースくる	マゼランなめホワイト・ベースくる	そこをよけるコアファイター	コクピットなめザク銃の台尻を振り下ろしてくる	リユウ 前を見てハッとする	銃弾の中をよけるコアファイター	ザクの上を過ぎるコアファイター、ザク、銃を構え射つ
		ミライ 「ムサイだわ!」	艦長 「……………」		ブライト「ワッケイン司令、あのマゼラン艦を排除しないかぎり、ホワイト・ベースは港から出られません。このままでは戦わずしてルナツー艦隊は全滅です!」						リユウ 「うそっ!」		

279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265
剣を抜く ザク、爆発	抜いてきた剣を持ちなおし突く	ガンダム、もう一本の剣を抜く	アムロ	うけるガンダム ハッと後ろを見るとザク迫る	シャアザク、切りかかってくる	窓に防護壁がおりて閉まる	主砲なめマゼラン	上がる主砲	主砲が出てくる	ホワイト・ベースを固定するアーム群	床から固定アームがのびる	ワッケインなめ副官	ハッと喜ぶブライト、ミライ	ワッケイン、キツとなつて
			「アムロ、そこへ来るな」		「シャア、（中略）「ザク」	ワッケイン（背中）「防護壁、おろせ」						副官「司令官」 ワッケイン「ホワイト・ベースをこの場で固定」 主砲スタンバイ」 副官「ハイ」	ミライ「ハッ」	ワッケイン「マゼランを排除する」
														

296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280
驚くドレン	ザク、爆風の中、分解しながら爆発。 ムサイに迫る	見るシャア	シャアのザクもよけて飛び上がる、だがもう一体のザクはまきこまれる	きた爆風をよけて飛び上がるガンダム	ハッと振り向くアムロ	出口から噴き出す爆風	爆風の中、きしむ固定アーム	ワッケイン、副官、艦長	ブライト、ミライ	ホワイト・ベースにあたる爆風	マゼランに砲撃あたる大爆発	主砲発射	ワッケイン	振り返るアムロ	ブリッジ内全景 ブライト、通信器に向う	スクリーン上のマゼランに照準があつていく
「シャア、（中略）「ザク」		シャア「おっ」			アムロ「うっ」				ブライト「ううっ」 ミライ				ワッケイン「発射」	アムロ「えっ？」	ワッケイン「各自、衝撃にそなえろ」 ブライト「アムロ、通路の前からどくんだ」	ワッケイン（中略）「照準、マゼランの熱核反応知」
																

310	309	308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297
ワッケイン、副官、見送る	地球へ向うホワイト・ベリス、サラミス	艦長をとりまいている全員	(フカン) 全景	見ているブライト、ミライ、ブライト、艦長の方を見る 見ているワッケインの表情変る	見ているブライト、ミライ、ブライト、艦長の方を見る 見ているワッケインの表情変る	見ているブライト、ミライ、ブライト、艦長の方を見る 見ているワッケインの表情変る	ガンダムなめ逃げるムサイの中に消えるザク	それを払うガンダム	シャアのザク、ヒートホークを投げる	アムロ	見ているシャアザク、ガンダムシャア行く、後を追うガンダム	反動で壁にぶつかるドレン、兵士	よけるムサイ。スレスレを通過する爆風
副官(背中)「司令……は体の……」 ワッケイン(背中)「うむ……」 ボロボロ 少くなくとも地球まで			ブライト「あ、あッ」	ブライト「おー……」 艦長「……やりましたよ……」		アムロ「お、シャア……。う、一体どんな男なんだ……」				シャア(前)「お、お、お」 ボロボロ「……」			

322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311		
カブセル 遠去っていき、消える。	見つめるアムロたち	カツ、レツ、キツカ、ハヤト	見ているブライト、ミライ、セイラ	行く スクリーン内、カブセル	ホワイと・ベリスから打ち出されるカブセル	チューブの中に入っているカブセル	ブライト、艦長の手を握って フタをしめる	見ているアムロたち	バオロの棺のまわりの線員、避難民たち	ホワイと・ベリスとサラミス	目頭をおさえているワッケインなめ副官	ワッケイン、右手をあげうつむく	
アムロ 行っただろう……どこに……											副官「司令？……」 ワッケイン「ジオンとの斗いは、まだまだ困難を極めるという時、我々は学ばねばならぬ。次々と失ってゆく……。寒い時代だと思わんか……？」	は、彼らに任せられた方がよからう……バオロ艦長のおっしゃった通りに……」	



連続テレビ・アニメーション番組

機動戦士ガンダム

UNDAM

録音台本

第5話 「大気圏突入」

名古屋テレビ
制作 創造エージェンシー
日本サンライズ

株式会社日本サンライズ

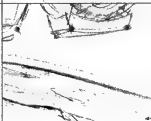
第5話 大気圏突入 昭和54年5月5日放映

制作スタッフ

●脚本／星山博之 ●絵コンテ／并谷啓 ●演出／藤原良二 ●作画監督／青井芳信 ●作画／戸川俊信・林良男・広岡光昭・笹木秀子 ●背景／アト・ティク・ワン（東條俊秀・那須野幸子） ●動画チェック／浜津守 ●仕上／シヤフト（三橋曜子・増田基子） ●特殊効果／土井通明 ●撮影／旭プロ（斎藤秋男） ●編集／鶴岡友彰・小谷地文男 ●音楽監督／松浦良良 ●効果／松田昭彦 ●監音／日向國雄 ●制作進行／豊住政弘 ●設定制作／円井正 ●A・P／神田豊

キャラクター＆声優


●アムロ／古谷徹 ●ブライト／鈴置洋孝 ●ハヤト／鈴木清信 ●リュウ／飯塚昭三 ●カイ／古川登志夫 ●フラウ／鶴岡るみ子 ●セイラ／井上高 ●ミライ／白石冬美 ●シャア／池田秀一 ●ドレン中尉／永井一郎 ●ガルマ・ザビ／森功至 ●カッツ／白石冬美 ●レツ／鶴岡るみ子 ●キッカ／井上高 ●ペロ／井上高 ●スミス老人／滝雅也 ●リード中尉／玄田哲章 ●オムル／熊谷幸男 ●ジェイキュー／古川登志夫 ●クラウン／飯塚昭三 ●コム／滝雅也 ●カミラ／飯塚昭三 ●マーカー／古川登志夫 ●オスカ／鈴木清信 ●ナレーション／永井一郎

								S
								C
8	7	6	5	4	3	2	1	
スミスとペロのところに 来るアムロ	フラウ・ボウ	アムロ、隣の老人と子供 をみている。	老人にフラウ・ボウ、タ オルと石けんを手渡して いく。	ホワイトベースとサラミ ス。	地球からホワイトベース とサラミスへPAN・U P	サブタイトル「大気圏突 入」		画 面
スミス アムロ 「えーと……」 「ボクに貸してみてください ませんか？」 「はい、直るよ、直る」 「アムロったら」	スミス アムロ 「えーと……」 「ボクに貸してみてください ませんか？」 「はい、直るよ、直る」 「アムロったら」	スミス アムロ 「えーと……」 「ボクに貸してみてください ませんか？」 「はい、直るよ、直る」 「アムロったら」	スミス アムロ 「えーと……」 「ボクに貸してみてください ませんか？」 「はい、直るよ、直る」 「アムロったら」	スミス アムロ 「えーと……」 「ボクに貸してみてください ませんか？」 「はい、直るよ、直る」 「アムロったら」	スミス アムロ 「えーと……」 「ボクに貸してみてください ませんか？」 「はい、直るよ、直る」 「アムロったら」	スミス アムロ 「えーと……」 「ボクに貸してみてください ませんか？」 「はい、直るよ、直る」 「アムロったら」	スミス アムロ 「えーと……」 「ボクに貸してみてください ませんか？」 「はい、直るよ、直る」 「アムロったら」	音 声

[illegible]

22	21	20	19	18	17	16	15
ムサイ艦橋付近に行く、ソドンとザク。	ザクを引くソドン	ザクを引く、宇宙船(ソドン)ムサイ艦に向う。	ザクとするブライト	オペレーターなめスクリーンに写る二つの光点	ブライト敬礼する。	ブライトなめ、モニターTVに写るリード	ミライとブライト。 ミライ「スベース・グライダーで一度だけ大気圏に突入した事はあるワッ……」 ミライ「……あ、あの時は地上通信網がキチンとしてたし、船の型も違うけどノ」 ミライ「基本航法は同じだ、サラミスの指示に従えばいい」 ミライ「私が心配なのは、ジャアがおとなしく引き下つたとは思えない事なの」 ミライ「君は大気圏突入する事だけを考えていてくれノ」 ミライ「了解」 ミライ「若僧をこえるか？」 ミライ「はい、リード中尉」
				オペレーター「変りません。たゞ、ムサイに接近する船があります」	ブライト「はいノ 了解しました。ミライ。大気圏突入の自動操縦に切りかえ、以下、突入準備にそなえろ」 ミライ「(off)」「了解」 ミライ「……ムサイは？」	リード「大気圏突入準備はいいな。我々はサラミスの大気圏突入カプセルで行く。そちらとはスピードが違う。おくれるなよ」	
			ブライト「なにが。また、補給を受けるつもりなのか？ シャアは……」 ……まてよ…… ……こゝで補給を受けるという事は、俺たちの追跡をあきらめたのかな……」				



32	田	30	29	28	27	26	25	24	23
サラミスのカブセルゆっ	カミラに近づくリード、立ち止まり、カミラの肩を叩く。	カミラ、パネルを見乍ら。	艦長シートに坐っているリード、カミラを向く。	ホワイトベイスなめサラミス艦へT・U	礼する。	シャアなめ、三人の兵敬礼する。	三人の兵クラウン、ジェイキュー、コム	 シャア。	シャア、三人の兵の前で訓令している。
カミラ リード カミラ	「君はいつも樂觀的だ……」 「背中」 「はい、それで生き残ってきたと思っています」 「では、私は地球に下りてくる」 カミラ「背中」 「はい」	カミラ 「自信はありません。しかし、考えようによっては、うまくいくでしょう。」 「データーからするとムサイは、ソドンと接触しています。捕信をうけたか、緊急の何かがあったのでしょう。我々を追ってくるとは思えません」	リード 「カミラ。ムサイを振り切る自信はあるか？」	リード (off)「地球降下要員は、大気圏カブセルに乗りうつれ、サラミス本艦は、カブセル放出後、直ちにルナツーに帰還せよ」		シャア 「地球の引力にひかれ、大気圏に突入すれば、ザクとて一瞬のうちに燃えつきてしまふからだ。大気圏突入のために、全神経を集中している今こそ、ザクで攻撃するチャンスが生れる。」 第一目標、木馬の船。 第二目標、敵のモビルマーク。 戦斗時間は二分とないはずだが、諸君らであればこの作戦を成し、とけられるだろう。期待する」	シャア 「新たに3機のザクが、間に合ったことは幸いである。……二十分後には、大気圏に突入する。このタイミングで、戦斗をしかけたという事実は、古今例がない」	シャア	

(天)


44	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33
並ぶガンダムとガンキャ	砲座ブロック、カイとリムウ。	ロビー内、避難民。	キッカ、立つのをおさえるフラウ・ボウ。	ブライト電話を取って。	ブライトなめ、TVモニタに写るリード。	ホワイトベイスなめ、速さがるサラミス艦。	行くサラミスのカブセル。T・B、来るホワイトベイス。	行くサラミスのカブセル。T・B、ミライ。	噴射。発進する。サラミスのカブセル。	⑧ アームなめ、カブセルの中のリードとパイロット
(off) 待機のことノ	(off) 各戦斗員、メカニックマンは、各目の部所で、	(off) 船が揺れることがあっても、騒がないように。	(off) 「ハイトベイス各員へ、本艦は八分後に大気圏に突入します。立っている人は坐って下さい。」	ブライト 「ハイトベイス各員へ、本艦は八分後に大気圏に突入します。立っている人は坐って下さい。」	リード 「ホワイトベイス。我々のカブセルの進路をなぞればいい。ついてこれるな」			ミライ 「サラミスのカブセル離脱。ホワイトベイスは、カブセルについてゆきます」 ⑨ 「サラミス艦長、我々のカブセルは、カブセルについてゆきます」		リード (off)「ミサイルはスタンパっておけ」 パイロットB (off)「了解」 リード (off)「シャアは追ってくるかな」 パイロットB (off)「まさか。青葉君を」

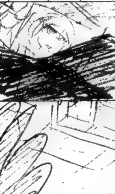
57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	ノン
ムツとするアムロ。	モニターTVに写るセイラ	ドキンとするアムロ。正面を見る。	セイラのうつるモニターTV。	アムロ。	セイラ。	コアファイターなめ、開くハッチ。	体起すガンダム。	ホワイトベース、ハッチ開く。	ブライト、受信器をとり。	オベレーター④なめ、スクリーンにザク写る。	メーター類、輝く。	待接するアムロ。声して、手を動かす。	
アムロ (off) 高度には気をつけてノ 「斗っている最中に気をつけられ ると思うんですか？」	セイラ 「後方のミサイルと機関砲でリ ムとカキが援護するけど……」	アムロ 「4機も？ シャアは、手持の ザクはないはずだ。そうじゃな い？ セイラさん」 (off)「事実上事実上」 「ホワイトベースの援護は？」	セイラ 「後方、R、3度。ザクは4機 よ！」	アムロ 「了解ノセイラさん。僕だっ て、まる焼けになりたくは、あ りませんから！」	セイラ 「アムロ、発進后四分で、ホワ イトベースに戻ってノ、必ずよ ！」				ブライト「ハッチ開けノガンダム急速 発進！」	オベレーターA「映像出しますノ最大 望遠です………接触推定時間三 十四秒后」		(off) オベレーターA「敵だノ」 オベレーターA「ガンダムは、発進する 可能性もある。メカニックマン はそのつもりで……」	





73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58
ムサイ、カブセル内ドレ ンとパイロット⑧、奥、 ムサイ艦ミサイル射撃。	ムサイ、カブセル内ドレ ンとパイロット⑧、奥、 ムサイ艦ミサイル射撃。	ムサイ、カブセル内ドレ ンとパイロット⑧、奥、 ムサイ艦ミサイル射撃。	ムサイ、カブセル内ドレ ンとパイロット⑧、奥、 ムサイ艦ミサイル射撃。	ムサイ艦へT・U	ドレンとパイロット④。	ムサイ艦へT・U	ドレンとパイロット④。	ムサイ艦へT・U	ドレンとパイロット④。	ムサイ艦へT・U	ドレンとパイロット④。	ムサイ艦へT・U	ドレンとパイロット④。	ムサイ艦へT・U	ドレンとパイロット④。
ドレン (off) 「ムサイノミサイル発射 ノ」				ドレン (off) 「了解ノ」	ドレン (off) 「了解ノ」	ドレン (off) 「了解ノ」	ドレン (off) 「了解ノ」	ドレン (off) 「了解ノ」	ドレン (off) 「了解ノ」	ドレン (off) 「了解ノ」	ドレン (off) 「了解ノ」	ドレン (off) 「了解ノ」	ドレン (off) 「了解ノ」	ドレン (off) 「了解ノ」	ドレン (off) 「了解ノ」



87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74
ホワイトベース後部ミサイル発射口へ T・U	ミライなめブライト	サラミスのカブセルとホワイトベースの間をゆく、ミサイル。	回避するホワイトベースの脇をゆくミサイル。	ミライなめブライト。	ミサイルをよけるガンダム。	スクールの照準の中ザクを狙うスチール。 ザク二手に分れる。	スコープの照準写るアムロの顔。	4機のザクを狙うガンダム。	リードとパイロット⑧	ホワイトベースのブリッジの脇をゆくミサイル。	サラミスのカブセルなめ、ホワイトベース上空をゆく、ミサイル。	ミライ、操縦輪をわす。	ムサイ・カブセル内より行く、ミサイル。
	ミライ 「後方A.M.ミサイル／どうした／撃てないのか?」 「ブライト／おちついて／みんな慣れないのよ」			ブライト「ミサイル第2波。回避!」			アムロ(モノ)「と、速すぎるか?」		リード「も、戻れないのか?」 パイロットB「ムリです。戻れば、狙い撃ちされるのがオチです」			ブライト「後方より、ミサイル／リード中尉、高度を下げて下さい!」	

98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88
アムロの顔に写るスコープのスクリーン、合っている。	バズーカを構えるガンダム。	照準器内スクリーン、シャアのザクに合っている。	アムロ照準器をもっている。	来るザク2機	アムロ。	ペロを抱いたスミス。	ゆれる艦内。 ペロ、スミスにかじりついている。	ホワイトベースの脇を行くミサイル。 そのうち一発近くで爆発。	くるムサイのミサイル。	ミサイルブロック。 リュウ、少年兵④に指示する。
			アムロ		アムロ	スミス 「大丈夫! 自動車を直してくれた、お兄ちゃんが、敵をやっつけてくれるよ」 ペロ 「ううん。件、そうだよね」	人々 「おおー。うわー。っ ／」		リュウ 少年A 少年B リュウ	「なんて迎撃しないんだ!」 「僕はもとミサイル要員じゃないんです」 「ね?」 「くそー」 死にたくなかったら、何かしろその辺に、ミサイルの撃ち方の教科書があるだろ!


172	171	170	169	168	167	166	
ザク、撃つ。	シャア	シャアのザク、バズーカをすてる。	ハンマーを手で受けとめるガンダム。	ハンマーにバズーカ弾あたり、爆発	シャアのザクバズーカをうつ	ガンダム、ハンマーをふり下す	アイキャッチャー
	シャア「ええい！ スベアがなくなる」とは……						



	165	164	163	162	161	160	159
アイキャッチャー	怒りのアムロ。	停るガンダム、ハンマーをひく。	ガンダムのランドル火を噴く。	アムロ	ふきとぶガンダム。	ガンダム、バズーカをはなして、ハンマーを受け取ろうとするが、同時にバズーカ爆発。	シャアのザク、バズーカ発射。
	アムロ「うお——！」			アムロ「シャア殿！」			
							

182	181	180	179	178	177	176B	176A	175	174	173
ブライトなめ、TVモニターのリード	ブライトなめ、オペレーターA、B	ブライトなめ、オペレーターA「サラムスのカプセルに弾があたりました」 「あのま、大気圏突入ができるのか！」 オペレーターA「判りません！」	パイロットB、消火器で火を消す。	パイロットBなめ、リード、うしろをみて。	怪をはいて降下するサラミスのカプセル。	慌てるリード パイロットA、怒鳴る	パイロットAなめ、天井のさけめより出る空気。	破片がリードのノーマルスーツを切る。	リードとパイロットB、天井から破片来る。	射つザクなめ、よけるサラミスのカプセル。
リード 「フ、ブライト君！(このままだと)中に入れた！このままだと大気圏突入はムリだ！」「カ、カプセルが」	リード 「うあ！」「う、う！」	パイロットA「で、天井が……。」 リード「う、う！」	パイロットB「は、はい！」	リード 「何かが燃えているぞ！消火しろ！」	パイロットA「は、早く！く、空気がぬける！」 パイロットA「ノーマルスーツの応急テイクだ！」	パイロットA「は、早く！く、空気がぬける！」 パイロットA「ノーマルスーツの応急テイクだ！」	パイロットA「は、早く！く、空気がぬける！」 パイロットA「ノーマルスーツの応急テイクだ！」	パイロットA「は、早く！く、空気がぬける！」 パイロットA「ノーマルスーツの応急テイクだ！」	パイロットA「は、早く！く、空気がぬける！」 パイロットA「ノーマルスーツの応急テイクだ！」	パイロットA「は、早く！く、空気がぬける！」 パイロットA「ノーマルスーツの応急テイクだ！」


184	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183
格納庫より出るレーザー。	パイロットBなめ、リー ド。 ありませぬから……	うしろ向くリード。 パイロットB「了解、サ ラミスを撃つぞ」	オムルなめ、サラミスの カブセル入ってくる。 (背中)「レーザー・ロック発射します」	ホワイト・ベースのうし ろのハッチ開いてゆく。 オムル「(off)「ハッチ開放です。サラミ ス・カブセル、きこえますか」	砲座のカイ。 カイ「こいつ、動きすぎるぜ」	射つザク。 オムル「(off)「ハッチ開放です。サラミ ス・カブセル、きこえますか」	ホワイト・ベースより機 銃撃つ。 オムル「(off)「ハッチ開放です。サラミ ス・カブセル、きこえますか」	ホワイト・ベース、サラ ミスのカブセル上空をゆ く。 オムル「(off)「ハッチ開放です。サラミ ス・カブセル、きこえますか」	ミライなめ、ブライト。 ミライ「10秒加速。サラミス・カブセ ルの前に出ます」	セイラ、ふりむいて。 セイラ「ムリです！ アムロは、シャ アと斗うので精一杯なのよ」	ブライト、のり出して。 ブライト「了解しました！ ホワイト・ ベースに収容します」
オムル「(off)「レーザー・ロック、発射」	パイロットB「敵の狙いは、ホワイト・ ベースのものです。我々じゃ ありませぬから……」	パイロットB「了解、サ ラミスを撃つぞ」	「(背中)「レーザー・ロック発射します」	オムル「(off)「ハッチ開放です。サラミ ス・カブセル、きこえますか」	カイ「こいつ、動きすぎるぜ」	オムル「(off)「ハッチ開放です。サラミ ス・カブセル、きこえますか」	オムル「(off)「ハッチ開放です。サラミ ス・カブセル、きこえますか」	オムル「(off)「ハッチ開放です。サラミ ス・カブセル、きこえますか」	ミライ「10秒加速。サラミス・カブセ ルの前に出ます」	セイラ「ムリです！ アムロは、シャ アと斗うので精一杯なのよ」	ブライト「了解しました！ ホワイト・ ベースに収容します」

204	203	202	201	200	199	198	197	196	195
よろけるミライとセイラ	ホワイト・ベースの下へ まわりこむザク、射つ。 ミライ「あ……」	ミライなめ、ブライト。 来るリード。 ブライト「アムロ、ザクがホワイト・ ベースの下にまわりこむ。た のむ」	シャア。 シャア「上等だ！ よくきりぬけてく れた！ 私と敵のモビル・スー ツにあたる」	cut「ザク、来る。 cut・inするコム」 コム「(off)「はっ！ 少佐！ 大丈夫で あります」	cut「inするクラウン」 クラウン「これで敵しいものか！ よく 相手を見て！ 下からせめてみ ろ」	シャアのザク。 シャア「(off)「撃つぞ！ 何をやっておる んだ！ 接近して叩け！ それで は、ザクの性能は発揮できん」	シャアのザク、部下のザ クの上にくる。 シャア「(off)「撃つぞ！ 何をやっておる んだ！ 接近して叩け！ それで は、ザクの性能は発揮できん」	レーザー・ロックにそっ てすべりこんでゆくカブ セル。 シャア「(off)「撃つぞ！ 何をやっておる んだ！ 接近して叩け！ それで は、ザクの性能は発揮できん」	サラミス・カブセルのレ ーザー・センサーに入るレ ーザー。 シャア「(off)「撃つぞ！ 何をやっておる んだ！ 接近して叩け！ それで は、ザクの性能は発揮できん」
ミライ「あ……」	ミライ「あ……」	ブライト「アムロ、ザクがホワイト・ ベースの下にまわりこむ。た のむ」	シャア「上等だ！ よくきりぬけてく れた！ 私と敵のモビル・スー ツにあたる」	コム「(off)「はっ！ 少佐！ 大丈夫で あります」	クラウン「これで敵しいものか！ よく 相手を見て！ 下からせめてみ ろ」	シャア「(off)「撃つぞ！ 何をやっておる んだ！ 接近して叩け！ それで は、ザクの性能は発揮できん」	シャア「(off)「撃つぞ！ 何をやっておる んだ！ 接近して叩け！ それで は、ザクの性能は発揮できん」	シャア「(off)「撃つぞ！ 何をやっておる んだ！ 接近して叩け！ それで は、ザクの性能は発揮できん」	シャア「(off)「撃つぞ！ 何をやっておる んだ！ 接近して叩け！ それで は、ザクの性能は発揮できん」


216	215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205
銃火の中、身をひくザク。	下りてくる機銃。まわって射つ。	機銃のシートに坐るハヤト。	左右のハッチにとびこむハヤトと少年D。	ハヤトと少年D、リフト・ドリッパで走る。	突っばるキッカ。	フラウ・ボラ以下、カツ・レッツ、キッカ、ハロ。	ウォール・フィルム、さけ目を防いで行く。	兵士なめ、丁、ウォール・フィルム。	ウォール イルム放出 する手。	ブライト。	オペレーターなめ、中央パネルにホワイト・ベールのフカニイラスト入る。
				少年D ハヤト	キッカ 「恐くないモン」	キッカ 「お姉ちゃんノ あたしも、やつつけにいく」 カツ 「戦争なんだぞノ」 キッカ 「恐いんだぞノ」		「第四アキタ、ウォール・フィルム放出中」 15秒で終了		ブライト 「第四 ロック、ウォール・フィルムをはれノ 誰かいないのかノ」 「お、大気圏突入されは、第四アキタから発射されたぞ」	セイラ 「う、右銃被弾ノ」 オペレーターA「右銃機銃迎撃いそげ」 オペレーターB「破壊個所に応急ウォール・フィルム処理急げノ」
											


235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217
ザク、流れて爆発。	アムロ。左右にはねる。	射うちで揺れるガンダム。	射うちのシャアのザク。	シャア。	ふきとぶコム。	ザクに命中するハンマー。	ハンマーをふりこむガンダムの手。	恐れアムロ。	アムロなめ、迫るザク。	おびえるアムロ。	でうけるガンダム。	アムロ	シャア。	ガンダムの後方より襲うザク。	シャア。	トマホークをふり降すシャアのザク。	ハンマーを投げるガンダム。	アムロ。
アムロ 「うわーっノ」				シャア 「なめるなアノ」	コム 「うわーっノ」	コム 「うわーっノ」	アムロ 「うわーっ!!」	アムロ 「ああ、あ……」				シャア 「いいぞノ コムノ」			シャア 「ええーいノ 腕が上つてきたようだなノ このパイロットは」			アムロ 「シャア、上にさせないのか」 「ガンダム」
																		



248	247	246	245	244	243	242	241	240	239	238	237	236
シャアのザクのうしろ、サラミスのカブセル来る。	アムロなめ、逃げてゆくザク。	アムロ。	ミライのうしろ、シートが上ってくる。	砲座ひっこんでゆく。	ホワイト・ベース、ブリッジ、シャッター、上って行く。	ホワイト・ベースとザク一機撃ち合っている。	よけるシャアのザク。 cut・inするシャア。	ハンマーをなげるガンダム。	アムロ、レバー押す。	セイラ。	シャア。	爆圧でふきとぶガンダムとシャアのザク。
ドレン (off) 「シャア、少佐ノルに入って下さいノ」		アムロ 「了解ノ、弾丸が残っているノ、あいつをやってやる」	ブライト 「アムロノ、ホワイト・ベース後方のハッチから入れ、もう危険だノ」		ブライト (df) 「大気圏突入ノ、シャッター上げるノ、ガンダム収容は後部ハッチから行なうノ、各砲座収容ノ」	シャア (off) 「クラウン、きこえないのかアノ」	シャア (off) 「クラウンノ、ドレンノカブセルに待たせ、クラウンノ」		アムロ 「了解ノ、セイラさんノ、これこそ後だノ」	セイラ 「アムロノ、ホワイト・ベースに戻ってノ、オーバータイムよ」	シャア 「コ、コムノ……ノ、時間が無い」	

258	257	256	255	254	253	252	251	250	249
フラウ・ボリなめ、スクリーンに写るザクとガン	フラウ・ボリ、立ち止り、あっ!!と見る	フラウ・ボリ、立ち止り、と、フラウ・ボリくる	ミライなめ、リードとブライト。	ブライト。 	ブライト。ふりむくとリード居る。	オペレーターなめ、スクリーンに写るガンダムとザク。	オペレーターB (背中) 「アムロに伝えて下さいノ、これでガンダムも、大気のマサツ熱で燃えてしましますノ」	シャア 「よしノ、ハッチ開け、クラウン、かまわんノ、敵のモビル・スーツとて保たはせんのだノ、まっすぐ、カブセルに向えノ」	ドレン 「あ、爆撃を……」
フラウ・ボリ「アムロは戻ってないんですか? ああー!!」		フラウ・ボリ「アムロは戻ってないんですか? ああー!!」	ミライ 「リード中尉。椅子に座り下さい。危険です。外座席却機能アラス3に上昇」	ブライト (off) 「アムロにいて下さい」	ブライト 「アムロノ、戻れノ、ザクはいいリード」	オペレーターB (背中) 「アムロに伝えて下さいノ、これでガンダムも、大気のマサツ熱で燃えてしましますノ」	シャア 「よしノ、ハッチ開け、クラウン、かまわんノ、敵のモビル・スーツとて保たはせんのだノ、まっすぐ、カブセルに向えノ」	ドレン 「あ、爆撃を……」	ドレン 「あ、爆撃を……」

[illegible]

282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272
シャア。	ムサイカブセルなめ、ガンダムとホワイト・ベース。	ドレンなめ、シャア。	セイラなめ、来るフラウ・ボク。	オペレーターBなめ、乱れるTVモニター。	アムロ。	ガンダムが冷たくずれて行く。耐熱フィルムの中に冷却されたガンダムの中。	ハッチからフィルムをひき出す手。	アムロ。	タテのむこうにガンダム、かくれる。	アムロの手、ボタンをおす。
シャア	(off)	シャア	セイラ	オペレーターB(背中)	アムロ	「すごいノ 装甲板の温度が下がったノ、しかし、どうやって降臨するんだ!」	アムロ	「耐熱フィルム」	アムロ	アムロ (off) 「全回路接続」
「まさかとは思いますが、あの木馬も船ごと大気圏突入をしているとなれば……あり得るな、残念ながら……」		「モビル・スーツの位置、変らねえぞ、燃えつきもしない」 「どういことでしょう、大気圏突入も、性能をもっているのです、えうか?」	「アムロノ アムロノ 応答して……」 「アムロノ アムロノ」 「しばらく通信はできないうわ」	「オベレーターB(背中)」 「電波障害です。ガンダムを確認できません!」						

293	292	291	290	289	288	287	286	284	283
スクリーン内、シャア。	ふっと髪をいじるガルマ、指がとまる。	ガルマの私室内、ガルマなめ、スクリーンに写るシャア。	シャア。 	ドレンなめ、シャア。	シャアのキャプセル降下。	アムロ。	灼熱の炎の中、ホワイト・ベース降下。 ホワイ・ベース、ブリッジ、PAN。 ホワイ・ベース、ロビ内、避難民。cut。inするリムク。 cut。inするカイ。 灼熱の中、フィルムに包まれたガンダム。	ミライ 「高度32、30、29……26、25……24……」	「灼熱の炎の中、ホワイト・ベース降下。」
シャア 「そのおかげで、私はザクを八機も撃破させられてしまった」	ガルマ (off) 「なんだと？」	ガルマ (off) 「よう、なんだい？ 赤い髪屋」 シャア 「その呼び方は、返上しなくっちゃならんようだよ。ガルマ・ザビ大佐」 ガルマ (off) 「フフ……。珍らしく弱気じゃないか」 シャア 「敵のV作戦ってきいたことあるだろ？ その正体をつきとめたんだがね」	シャア 「闘いは悲情さ。そのくらのことは考えてある」 ドレン (off) 「ガルマ大佐です」	シャア 「無敵が回復したら、大陸のガルマ大佐を呼び出せ」 ドレン 「よしんば、大気圏突入前に敵を討ちもらいでも、敵の進入角度をかえさせて、我軍の軍の制圧下の大陸に連中をひきよせさせる二段構えの作戦」	シャア 「もうやく判りまーしたよ、ミライ少佐」	アムロ 「もつのか……これ……」	ミライ (off) 「20……1617……1214……」	ミライ 「高度32、30、29……26、25……24……」	

304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294
ブライトなめ、セイラとフラウ・ボク。	ホワイ・ベース、ブリッジよりガンダムを望む。手前、リード、ブライト、フラウ、セイラ。	シャッター、おめでゆくと、のぞいているブライト、リード、フラウ・ボク、セイラ。	のり出すフラウ・ボク。	オペレーターBなめ、乱れたスクリーンが正常に戻ると、ガンダム写る。	セイラとフラウ・ボク。	ミライなめ、ブライト。	来るホワイ・ベース。見えてくる大地。	将校なめ、ガルマ。	スクリーン内、シャア。	立ち上るガルマ
ブライト「殿ね、こればならんが……民、このモビル・スーツがあれば、連邦はジオンに勝てる……」	 	フラウ「アムロ！」	オペレーターB「映像回復します(背中) ガンダムです！」	セイラ 「アムロノ 無敵が使えるはずアムロノ 応答して下さい。アムロノ」	ミライ 「高度5万3千。減速良好ノ水平角に戻します」 ブライト 「よしし、アムロノ きこえるかノ アムロノ」	将校 「よし、その御好意はいただこう。ガク攻撃空母で迎え撃つ。(将校に) 緊急出動だノ」 「はっ！」	ガルマ 「よし、その御好意はいただこう。ガク攻撃空母で迎え撃つ。(将校に) 緊急出動だノ」 「はっ！」	シャア 「そちらにおびきこみはした。君の手柄にするんだな。後はどそっちへゆく」	ガルマ 「ひどいものだな、そんなにすどいのか」	ガルマ 「ひどいものだな、そんなにすどいのか」

315	314	313	312	311	310	309	308	307	306	305
ブライト。	ブライトなめ、リードとセイラ。	オペレーターAなめ、ブライト、リード、セイラ、スクリーン上に居る	人々なめ、大陸がゆつたりとせまる。	スミス。	ペロ。	第二ブリッジ、人々みている。 スミスとペロもいる。	ガンダム、ホワイト・ベリスの後方へ降下、着艦する。	ホワイト・ベリス、ブリッジの後方に流れるガンダム。	「アムロ、素顔になる。cut-inするセイラ。」	降下するガンダム。
ブライト。 あ	リード セイラ 「元帳じゃないノ、ウッノ」 傷の手あてを…… 「ブライト「シャアは、戦術に優れた男です。我々は……シャアにはめられたんです」	オペレーターA「了定進入角です。現在までのコースです」 リード「これでは何にもならんじゃな いかノ、ブライト君ノ」 ブライト「そう思います、ここはジョンの勢力圏内です」		スミス 「ああ、そうだノ、ペロは初めてみるんだな。地球をノ、これが、みんな陸地と海でできている自然の星なんだよ。ペロ」	ペロ 「へえ、あれみんな陸地なんだね。こっちが海？ 海っていうんだろ？」	人々 「ち、地球だノ、林、みせて呉れ地球だノ」 スミス 「ほら、ごらん、ペロ、あ、あれが地球だよ」			アムロ 「無敵回復ノ、着艦します」 セイラ 「感度良好ノ、後ろの上部甲板にでもどうぞ」 アムロ 「了解ノ」	

321	320	319	318	317	316
U ホワイト・ベリスへT・	ガルムUP。	ガルム、ザビ、難しい表情。	小攻撃空母機とドップ小型戦斗機、上昇してくる。	ホワイト・ベリスなめ、PAN光点見える。	リードとセイラ。
ガルム 兵 (off) 「ムサイのカプセル」 「収容しろノ、フォーム」 よし (ま、E)	ガルム 「シャアの言う通りかも知れぬ。今までの地球連邦軍の戦艦とはクタが違ふ様だ」 「ムサイのカプセル」 「収容しろノ、フォーム」 よし (ま、E)				リード「突破するんだノ、何が何でも」 オペレーターA (off)「敵機ですノ」 リード「なにー??」



機動戦士ガンダム

UNLUNDAM

録音台本

第6話 『ガルマ出撃す』

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

株式会社日本サンライズ

第6話 ガルマ出撃す

昭和54年5月12日放映

制作スタッフ

●脚本/山本優 絵コンテ/山崎和男 演出/小高英吉 作画監督/安彦良和 作画/原田我子 三浦清繼 平野俊弘 前島和子 背景/アップル(渡辺毅・渡部孝) 動画/チェック/浜津守 仕上/ディーン(矢部謙二・角田きみ子) 特殊効果/土井通明 撮影/旭プロ(平田隆文) 編集/岡田友彰 小谷地文男 音楽監督/松浦典良 効果/松田昭彦 監音/日向国雄 制作進行/草刈忠良 設定制作/円井正 A・P/神田量 キャストと声優

●アムロ/古谷徹 ●ブライト/鈴置洋孝 ●リュウ/飯塚昭三 ●ハヤト/鈴木清信 ●カイ/古川登志夫 ●フラウ/鶴岡るみ子 ●ミライ/白石冬美 ●セイア/井上瑤 ●カッツ/白石冬美 ●レッツ/鶴岡るみ子 ●キッカ/井上瑤 ●シャイラ/池田秀一 ●ドレン中尉/永井一郎 ●リード中尉/玄田哲章 ●ガルマ・ザビ/森功至 ●ゲビル/永井一郎 ●ガバラ/玄田哲章 ●ハンブル/飯塚昭三 ●マーカール/古川登志夫 ●ナレーション/永井一郎

S	C	1	2	3	4	5	6	7	8	9
		画面	画面	画面	画面	画面	画面	画面	画面	画面
		D・Nでイントロ入りま	サブタイトル『ガルマ出撃す』	雲海よりのぞく、メキシコ東岸W・ベースとぶ	W・ベース、ブライトなめオベレーター④	光の列	ガウ攻撃空母	ガウ攻撃空母の全景	近づくムサイのカプセル	ガウのおしりや下に向って
		2-24 85	N							
		音	音	音	音	音	音	音	音	音
		「人類が、本えすぎた人口を宇宙に移民させる様になって地球のまわりの巨大な人工都市は、人類の第二の故郷となり、人々は、そこで子を生み、育て、そして、死んでいった。宇宙世紀ダブルオー七九、宇宙都市サイード3が、ジオン公国を名乗って、地球連邦政府に独立戦争を挑んできた。この戦いで、ジオン公国と、連邦軍は、総人口の半分を死に至らしめた。その自らの行為に恐怖した。」	「ガルマ出撃す」		ブライト「地球にいるジオンの空軍か……」 オベレーターA「(OFF)「ガウ攻撃空母の」 「個中隊が展開してます」」 ブライト「かなりの数だな」		兵A (OFF)「相対速度〇・七八マッハ。い、そその調子だ」 兵B「「見えたぞ!」侵入角度、浅すぎるぞ!」 兵A (OFF)「判ったよ。その中、リード」 一回で着艦したい。いいな!」	兵A (OFF)「了解したノ、レーザースロップ、スタンバイノ、いつても、どろぞ」		

42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	
ホワイトベースの攻撃を	主砲出る	せり出す機銃座、うつ	機銃上にむき、撃つ	来る敵、小型戦闘機ドブの編隊	W・ベースに迫る光点	のり出すブライト	泣きだすキッカ、ワゴンのフォークをなげる	カ 上目づかいににらむキッカ	リードなめ、フラウ・ボウと三人の子供くる	ホワイトベース、ブライブライトなめリード	セイラなめ捨てゼリフのカイ	るセイラ
						ブライト「各員、個々に迎撃しろノドブの編隊をホワイトベースに近づけるな」	リード「みるノ、ブライブライト、迎撃ミサイルをノ、ミサイルを」	キッカ「ブライブライト、ブライブライト」	リード「私が指揮するのだよ、コアファイターが、機、ガンダムが一機、これで、中央突破するノ」	ブライト「アムロには休息が必要ですよ、リード、今までの敵と違って戦力をそろえてきているのだぞ」	カイ「(背中)『下り乗初さま』」	「車チェックできませんでした、ブライトの命令で探して見ます」



53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	
ブライトなめリード	モニター内のアムロ、やや強い口調で	モニターなめブライト	ブライトなめモニターにうつるアムロとセイラ	どなるリード	リードよりT・B	オペレーターA、B	ホワイトベース、ブライブライト	爆発にとばされる磁手	ミサイルがホワイトベースの側面に命中	ミサイル発射ボタンをおすハンブル	くぐり抜けるドップ
ブライト「あゝ……」	「自信の問題じゃない。やるしかないんでしょ、うう、ブライトさん」	「自信あんの？ アムロ」	「大丈夫なの……」	「再々んノ」	「ブライブライト、君は命令違反を犯しているんだぞ」	「オベレーターA、ドップ、後方にまわりました。我々の道をふさぐつもりです」				ハンブル「この木馬野郎ノ」	
ガンダムを行か											



63	62	61	60	59	58	57	56	55	54
ホワイトベース、ブライイト、モニターをみている	右翼からも機出てくる	ダブルつづいて2機出撃	ガウの格納庫より発進するドップ	ガウのブリッジ、左右にパイロット、中央にガルマ命令を下す	横目でリードを見ながら	傾くリード	ブライイト	モニター内、F・Iするハヤト	ギリッとはがみをするリード
ブライイト「背中」 「ガンタンク、機銃急げ」 「ブライイトノ敵が攻撃をひかえているのは、何故かしら？」 「このホワイトベースを、無キズで手に入れるつもりなのだろう!! 高度さげる、ミライ」			ダブル(01)「モビル戦隊ノ行くぞ」	ガルマ「ハンブルノお前たちは、そのまゝ、敵艦を退治しろ」 ハンブル(02)「了解、大佐」 ガルマ「ダブル隊が前にまわったら攻撃をかけるノ、ダブル、行けい」	ブライイト「……判るものか……」	リード「ノ……、突破できるのだな？」	ブライイト「了解だノ、ガンダムからガンタンクへ機銃急げノ、コアファインター2機は迎撃要員として残よろしいですね？」	ハヤト「あの……接近戦にはならないはずですよ。ガンタンクで狙撃するっての、どうでしょう？ アムロの負担も少なくなるし……」 「ハヤト……」	ブライイト「ガンダムは、空中戦用の兵器ではない事をお忘れなく。ましてアムロですら有能なパイロットの少い中から選り出され、機体は……」

78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64
前進するガンタンク	アムロ、正面みて		モニターを見るアムロ	モニターにガンタンク完成図が現われる	上からおりてくる、ガンタンクトップ	移動するガンタンク・トップ	タンクの下にはまるプロック	これにフォロワー ホワイトベース格納庫、 ガンキャノンの上のレールを移動するコファイターのプロック	小岳地帯 上空より戦いの煙、ゆっくりありてくる	射つ砲手	突っこむ戦艦機、応戦するホワイトベース	迫る6機のドップ	降下するホワイトベース	ミライ「了解」 「機体は……」 「船は渡せんノ」 ジョンに、こ
アムロ「機速前進」	アムロ「機速前進」	ハヤト「判ります。任せてよ」 「ガンタンク、発進位置へ前進、以後待機のこと」	アムロ「ブライイトさん、指示を待ちますノ……」 ハヤト「いゝなノ判るか？」	アムロ(01)「タンクユナイト、確認」		メカニックマン「ガンタンク・トップ移動」								




92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79
噴煙を上げ前進するガン	ガンタンクコクピット、アムロ	セイラ、確認の指示をしている	ホワイトベース、ブリッジ	ガウのブリッジ	奥にホワイトベース、手前に降下するガウ	アムロ口調強く	モニターのハヤト	アムロ <i>隠れたら後進に出来るかな</i>	モニターのハヤト	目をあげるアムロ	タンクとまわっている、ハッチ開いてゆく	ゆくガンタンクを見送るフラウ	前進するガンタンクの向うブリッジにフラウ・ボウとハロいる
	アムロ	セイラ	ミライ	ガルマ		アムロ	ハヤト	アムロ	ハヤト	ハヤト(中)「アムロ、ホワイトベースから出たら、なるべく」		フラウ	
	「了解ノ、発進します。ハヤト、いいなノいくぞォーノ」	「アムロノ、発進オーケーノ、バランス確認の上、降下ノ」	「対地高度一〇五四ノ、ホワイトベース固定します。ガンタンク発進オーケーです」	「山を楯にしよとて、そうはさせぬ地上部隊を前進させる。敵艦を捕獲、占領するぞ」		「ハヤトは敵を一機でも多く撃ち落せばいいんだノ」	「ちがうんだ。ガンタンクなら敵の注意を充分にひけるから、敵の戦力を分散させるために」	「そらだろ？ 敵の狙いはホワイトベースだ。後援が出来ないうちに撃て撃たれないうちに」	「離れてくれ。敵の隊列を混乱させよう」			「完全に、オーバーワークだわ。けど……」	




110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93
射っているハヤト	砲撃するガンタンクのむこう、降下するホワイトベース	敵パイロット、グビル	爆煙の中より飛び出すグビル機	両翼のドッグに命中	射つガンタンク	ハヤト、黒車を定めボタンをおす	迫る戦闘機	旋回するガンタンク	グイッとレバーおすハヤト	ガンタンクコクピット、叫ぶアムロ	砲撃の中旋回する戦闘機	敵戦闘機コクピット、驚くグビル	降下して、ジェットさらにはげしく、そして着地	山腹へ降下するタンク	空中へ出るガンタンク降下する	ハヤトの足統制機	ホワイトベースの外、戦場つづく
		グビル							ハヤト	アムロ		グビル				「アムロノ、急いでくれノ」	タンク
		「なっ、なんという破壊力だ……」							「右後方ノ、旋回」	「ハヤトノ、どっちだノ」		「なんだ、あれは、戦車のようにだ……」					




124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111
ベガス司令室 怒鳴るリード	進むマゼラアタックのうしろで爆発する砲撃	撃ちかえすホワイトベースの機関砲	ホワイトベース司令室 怒鳴っているリード	砲撃をつづけながら進むマゼラアタック	敵の砲撃をうけるガンタンクとホワイトベース	進むマゼラアタック、砲撃を開始する	ホワイトベース、スクリーンにうつっているマゼラアタック	砂煙をあげて進む、マゼラアタック	がくぜんとするリード	ホワイトベース、ブリッジ、指示をとばすリード	アムロの表情かわる	アムロなめスクリーン、光点が近づく	操縦席のアムロ、振動で慌ててスクリーンを見る
リード 「バカモノ!! どこをねらって撃っている!!」 「前部主砲、マゼラアタックを			リード 「逃げろ! 後退だ! いや転進しろ!!」				リード(背中)「マッ、マゼラアタックの部隊か……」		リード 「なに!!」	リード 「山岳部を捕にガンタンクで切りぬけよう、艦隊機も、そう自由には攻撃してくる事もできませ……」 「何事か!!」 オベレーターB「敵の地上部隊です!!」	アムロ 「ちっ、地上部隊だ!!」		アムロ 「なっなんだ……」

126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111
ガンタンク、コクピット内、モニター	後退するガンタンク、うしろから敵機関機ドップの連射攻撃	ホワイトベースのうしろより攻撃をはじめ敵機関機	降下するドップ	追われるホワイトベース後退する	セいらなめ顔をあげる軍人	進むマゼラアタックの後ろの2台に命中				ホワイトベース砲撃室傷ついた兵士達と交代するセいらとカイ射つ	その気はくにおされてリード	グアとあごをひくリード	リードを見つめるブライト	リードなめブライト	
ハヤト 「アムロ!! 敵は僕たちがホワイトベースの前にいる以上、規則的な攻撃を仕掛けて強めるばかりだ!!」 (てこ)					兵士「すごい、や、やったか!!」				セいら「かわります」「大丈夫かい!!」「これをひくのですね」「す、すまん」	兵士	リード「……は、よからう……!!」	ブライト「敵の敵回組を突破してこちらにいればよろしいのでしょ!!」	リード「き、貴様……ぐ、軍規違反で……」	ブライト「ホワイトベースに関しては、始めてあつかわれるあなたよりは私達の方が馴れています」	リード「……きささ、後退せんのか!!」

155	167	165	166	164	163	162	161	160	159	158	
アムロなめモニター内のセイラ	アムロ、ベルトをしめ終っている チラッとモニターをみる	ガンダムのコクピットなめコアファイター発進してゆく	アムロ、右のベルトを出しながら正面をみる	ガンダムのコクピットにすべり込むアムロ	走るアムロ、バツと手をあげてゆく	飲み干すアムロなめフラウ	アムロ、ぐいっとあかる	フラウ・ボクなめアムロ走ってくる	ガンタンクのハッチ開き、アムロとカイが入れかわる	D セイラよりアムロのP・	部下④
アムロ	セイラ	アムロ		セイラ 「はいのよ」 「やむを得んでしょ」 「発進します」	アムロ 「たのむぜー」	フラウ 「こんなことしか出来なかつたぞゆんね」 「ありがたう」 「頑張ってるね」 (いけど……)		フラウ 「飲んでって、栄養剤よ」	カイ 「背中」「いつてくれるのか？」 「仕様がねえだろう」 (しやう)	アムロ 「コア・ファイターを機装して走ってる」 「了解」	セイラ 「かしこまりました」
「アムロ！ 何か言ってる？」 「いや、ガンダム発進します」 「急がないで、ガンタンク発進までスタンバイです」 「これだ！ 金でこれだ！」											

180	179	178	177	176	174	173	172	171	170	169	
ガンダムコクピット、イライラしながら指示を待つアムロ	顔をもちどすシャア、ニヤリとする		ドレンなめシャア	ドレン、シャアにしゃべりかける	ガウの窓へT・U	中央のザク手を前に出し指示する	降下する3機のザク	おりてくるザク	三機のザク、ガウから降下する	ガウの格納庫より出撃するザク	前進してゆくガンタンク
アムロ	シャア	シャア	シャア							井上ハジメ「ガウの格納庫より」	
「アムロ」 「はい、ガンダム、アムロ」	「モロ」 「……ガンタンクが正面に……彼が、さらにその前に出てくることは……ハヤトのいる通りホワイットベースから離れるってことか……」 「ガンダム」 「はい、ガンダム、アムロ」	「ガウが、苦戦して当然さ。我々が二度ならず機密取りに失敗した理由を彼が証明してくれている。しかも、我々以上の戦力だ……」 「はっ？」 「ドズル將軍も、決して私の力不足ではなかった事を、認識する事になる」 「なるほど」 「ガウはモビルスーツのつたか？」 「いえ」	「ガウが、苦戦して当然さ。我々が二度ならず機密取りに失敗した理由を彼が証明してくれている。しかも、我々以上の戦力だ……」 「はっ？」 「ドズル將軍も、決して私の力不足ではなかった事を、認識する事になる」 「なるほど」 「ガウはモビルスーツのつたか？」 「いえ」								

228	227	226	225	222	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212
「二手にわかれるマゼラア タック」	ズイッとはひくザク	ザクを貫通するビーム	ガンダムに弾に銃弾が連 射される	ガンダムの足をめザクく る	前をみる、アムロ、ギョッ ッとする	ドップやられる	ガンダム・ビームライフ ル撃つ	急降下するコアファイタ ー	ガンダム・コクピット、 向きをかえている	ふりあぐガンダム	上昇したマゼラ・トップ にガンダムのビーム砲あ たる	マゼラ・ベースにあたる ビーム	爆撃によろけて、撃つガ ンダム	マゼラ・トップ爆発	撃つ、ビームライフル
	ガバラ 「！敵のモビルスーツのビー ム・ライフルだ！ あ、あんな にすごいのか！」								アムロ 「リュウさん！ うしろ、うし ろ！」						
															

243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229
アムロ慮る表情	眼鏡をのぞきこむ	フラウ・ゴウ、ハッと双 目	コクピット内のアムロた たきつけられる	砲撃をあびるガンダム	ガンダムうしろ、その左 側にガンタンクの着陸も りあがる	コクピット内、アムロ、 目はうつろ	ガンダムうしろ、その左 側にガンタンクの着陸も りあがる	手の機関砲をうつガンタ ンク	ガンタンクコクピット思 わず顔をあげるハヤト	砲撃によろめくガンダム	射つザクとマゼラ・アタ ック	一機に命中	ガンダム・コクピット内 アムロ左右みて	指示の手をあげるザク
アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」	アムロ 「やつてみる……」
														

200	259	258	257	256	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244
つさがるマゼラアタックに つっこむガンダム	爆風の中 レーザー剣をぬくガンダ ム手前へ走る	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発	マゼラアタックの中へつ っこむ 爆発
			ガバラ 「うわ——！」			アムロ 「つかまえた！」	ガバラ 「うわ——！」						アムロ 「あそこだ！」			

(2)

278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261
切るガンダム	叫ぶアムロ	こわれたマゼラアタック、 戦車の残がい	逃げる敵戦闘機	逃走するマゼラアタック、 追うベガサスの砲弾	撃つベガサス	ハヤトのり出して引金を ひく	ガンダムのビーム剣に切 り払われるザク	身をひくザク	ザクの銃撃をよけようと もしない、ガンダム追る	敗走するマゼラアタック かまえるザク、撃つ！	ガンダム	雷ザク、 ガンダム	雷ザク、 ガンダム	雷ザク、 ガンダム	雷ザク、 ガンダム	雷ザク、 ガンダム	雷ザク、 ガンダム
	アムロ 「いやああ………」					ハヤト 「アムロ——、お前——よ うし！」						アムロ 「チッ、チッチッチ——ッ！」		アムロ 「このオオ——！」			アムロ 「うわあああ………」

277	280	281	282	283	284	285	286	287
地面にめりこむレーザー	ガクッとしびをおとす、 ガンダム	くしゃくしゃの顔して、 肩で息するアムロ	ガンダムをぬぐいのあと	浮かぶガウ	ガウ司令室 見ているガルーと部下	うつくガルー、怒りの	ガンダムのむこうゆつぐり降るW・ベース	W・ベース、ブリッジ ミライ
		アムロ 「ハアハア ハアハア」			ガルー 部下 (off) 「基地へ帰る」 ガルー (off) 「見ただろ、敵の威力を 入れたい、あれは、今度の大戦 の戦力を大きくぬりかえる戦力 だ」	ガルー 「が……、奴らを大陸から、一 歩もだすな……、私の監視の目 ……かならずしとめるノ」	ミライ 「うん……山ぞいに、大陸に入 るしかないな……」 ミライ 「そうね、ガルーザに占領さ れたといつても、まだ大陸には、 連邦軍の地下組織が抵抗をつづ けているはずよ」 ミライ 「どうやって、接触するかなだ な……」 ミライ 「ブライト……今は……みんなが あなたを必要としているのよ」 ミライ 「わかってる、……」 ミライ 「さあ、ガンダムの戦士を迎え よう」	ミライ 「ブライト……」 ミライ 「うん……山ぞいに、大陸に入 るしかないな……」 ミライ 「そうね、ガルーザに占領さ れたといつても、まだ大陸には、 連邦軍の地下組織が抵抗をつづ けているはずよ」 ミライ 「どうやって、接触するかなだ な……」 ミライ 「ブライト……今は……みんなが あなたを必要としているのよ」 ミライ 「わかってる、……」 ミライ 「さあ、ガンダムの戦士を迎え よう」

288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301
ホワイトベース格納庫 から出てくるアムロ	タラップの手すりにもた れる、アムロ	アムロの腕をぬぎずくフ ラウ・ボウ	フラウと笑顔を作つてみせ るアムロ	無言でフラウ・ボウの横 を通りぬけるアムロ 見つめるフラウ・ボウ	立ちどまるリュウ連	相手を見もしないで通り すぎる アムロ	呆気にとられるリュウ連	アムロの重い足どり	よろめくように一室のド アへ手をかける	ろうかのかどをまわつて くる	チビ連	ハシヤギ回るチビ連	アムロの前でとまるチビ 連
		フラウ 「アムロノ おつかれさま」		フラウ 「アムロ……」	リュウ 「カイ、ハヤト、セイラ」「おー い、アムロノ」		カイ 「ちえーつ、気取りやがつてよ かりじゃねえんだよ」 「よしなよ、そんないい方」			チビ連 「わあ……」	チビ連 「わあ……」	チビ連 「わあ……」	キツカ 「アムロノ キツカ連、お祝 いのパイを大急ぎで作つたのよ ……」

連続テレビ・アニメーション番組

機動戦士ガンダム

UNDAM

原書台本

第7話 コアファイター脱出せよ

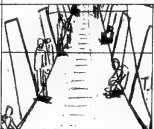

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

株式会社日本サンライズ

第7話 コアファイター脱出せよ
昭和54年5月19日放映

制作スタッフ
●脚本/荒木芳久 ●演出/藤原良二 ●作画監督/安彦良和 ●作画/上条修
●伊東誠 ●戸川俊信 ●林良男 ●青島/アイト ●テイク・ワン(清水昭紀・加藤明美) ●動画/チェック ●浜津守 ●仕上/シャフト(森山政子・長谷川悦子) ●特殊効果/土井通明 ●撮影/旭プロ(斎藤秋男) ●編集/岡田友彰 ●小谷地文男 ●音響監督/松浦典良 ●効果/松田昭彦 ●監音/日向國雄 ●制作進行/望月真人 ●設定制作/円井正 ●A・P/神田豊

キャスト & 声優
●アムロ/古谷徹 ●ブライト/鈴置洋孝 ●リユウ/飯塚昭三 ●ハヤト/鈴木清信 ●カイ/古川登志夫 ●フラウ/藤岡るみ子 ●ミライ/白石冬美 ●セイラ/井上喜久 ●キッカ/井上瑞穂 ●レウス/岡村るみ子 ●カツ/白石冬美 ●シヤ/池田秀一 ●ガルマ/森功至 ●ハロ/井上瑞穂 ●リード中尉/玄田哲郎 ●ドレン中尉/永井一郎 ●オスカ/鈴木清信 ●ナレーション/永井一郎

8	7	6	5	4	3	2	1	0	8
る	ハヤト、毛布をかけてや	老人達のとこに来るハロ	セイヤ 歩き出して	難民の室 リユウとセイラ見回って いる リユウ、ボタンを押して 話す	ホワイトベース内通路	ポイント・ベース ルンガンからPANすると光 点一つ	サブタイトル 「コアファイター脱出せ よ」	画面 DNで紹介 	音 N 人類が、ふえすぎた人口を宇 宙に移住させる機にあって、 すでに半世紀がたっていた。 地球のまわりの巨大な人工の 構造物は、人類の第二の故郷 になり、育て、そして死んで いった。 宇宙世紀ダブルオー七十九年 手前、地球を名乗る地球連邦 政府に独立戦争を挑んできた この戦いで、ジオン公国と連 邦政府は、総人口の半分を死 に至らしめた。 人々は、自らの行為に恐怖した。
	ハロ、ハロ、ハロ、元氣、元氣	ハロ、ハロ、元氣、元氣	セイヤ 「おはあちゃん もう少 しの辛、梅ですからね」	リユウ 「(背中) セイラさん どう？病人の具合は？ 異状なしよ」 「(七号室異状なしです。 off) 了解」			N コアファイター 脱出せよ 		

16	15	14	13	12	11	10	9	
アムロと少年⑬	現れる図式 ブラクン管にエンピツあ てる手	アムロと少年⑬	少年B アムロ、チラツとうしろ を見て バネル前に臨るアムロと 少年B	オペレーター⑭なめ スタリオンに写る	イ なめバネルに向うミラ 少年⑭ 軍人⑭	老人⑭ ムツと見る	老人⑭ 老人を見回るフラクが 行く	来るハロ ハヤト ハヤト ハヤト ハヤト
少年⑬ カタルートの強度は？ あゝ。そりゃ大丈夫だ		少年⑬ アムロ 少年⑬ アムロ 少年⑬ アムロ	少年⑬ アムロ 少年⑬ アムロ 少年⑬ アムロ	オペレーター⑭ 了解 道にはとうていのれきせん	少年⑭ 軍人⑭ ミライ 下さい。	老人⑭ 年寄りのことを少しも判つ たらん	フラクがう はいノ じゃ皆さん 用がありましたた ら何時でも言つて下さいね	ハロ、ハロ ハロ ハロ？！ ハロ！！ あまりさわぐんじゃ ないよ はい おじいちゃん フラクがウッ こっちは異常な しだよ

17	18	19	20	21	22	23	24		
ブライトの声に二人ふりむく	鑑長席に座ったリードとブライト	ブライトなめりリード	入ってくるフラウボクとハヤト、立ち止るよここにカイがいる	鑑長席に座ったリードとブライト	カイ	老人達PANすると老人④左右を見ながら	老人④ゆったりとふり向いて		
ブライト	ブライト	リード	フラウ カイ	ブライト	カイ	老人④	老人④		
（off）冗談じゃない、そんな……	（声をとし）我々は軍人です。民間人を守る義務があります	だ、だからそでよ100人以上いる遊離民をホワイトベースから下せだ…… 我々は衛星軌道に戻って体勢を…… ここはジオンが占領している所なんです。子供や（off）老人たちを……	遊離民を下すの？ いやブライトさんはいつまでも逃げるつもりよ	そんなことは言っていないノ	へ？ 悪かったかい？ でも、食料はどうするんだい？ 戦闘できない人たちが100人もいるんだぜ	（on）（off）わりやり宇宙移民をさせられた我々が二度と帰ることないと思つたのに、地球も燃れ尽きた。着陸も出来ずに終つたら、死にきれんといふものじゃ。そり思わんか。皆さん。	そこで……わしに考えがある		

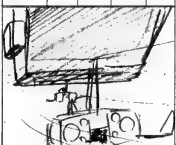
50	49	48	47	46	45	44	43	42	41
アムロなめ 軍人④	アムロなめ、セイラ、ハヤト、リニウ アムロ ハアと前を見る	アムロなめ、軍人④	ふりむくアムロ。奥リニウ、ハヤト、セイラ	ふりむくリード、ブライト、ミライ	ドア開いて入りこむハヤト、セイラ、リニウ	テーブルに座ったアムロと軍人④	ブライトなめモニターに写る少年	ブライト なめ リード	シャア 目に光
アムロ	軍人④ アムロ	軍人④ アムロ	アムロ	リニウ ブライト	ハヤト	アムロ 軍人④ アムロ 軍人④	少年C ブライト	ブライト	シャア
え……？	コアファイターに乗ったのは……？	もう食べない方がいい。もどすぞ。 (背中) はい。 次に……	老人達が、カツ、レツ、キツカを人質にとって……ホワイトベースを落陸させるって……	暴動……？ な、なんでだ？	た……大家です！ 避難民達が暴動をおこしました！	はい、やっています。 (背中) 君、いいね。 (背中) 苦しいのははじめの三十秒だ。	はい、結局メイン・エンジンのスチーム・バルブをつなげるだけですからね (背中) 急いでくれ。アムロ、軽く何か食べておけ。……軽くだぞ。	確かに、15分ですむのだな？	……相手が……

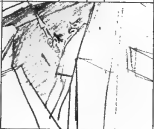
(2)

63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51
セイラに早いTU	カイ	アムロ	チャリと見上げる	ムフとするアムロ	アムロ、ガイに声をかけられて立ち止る。	ミライ、ブライト、リード	アムロなめセイラ、ボンとハヤトの肩を叩いて、アムロ行く。	アムロ アチコチ見下ろす	アムロなめ ハヤト、リニウ、セイラ	敬礼するアムロ。ハヤトの声にふり向く	アムロなめ 軍人④ニヤとする	アムロ うそをつく
セイラ カイさんノ	カイ 忠告しただけなんだぜ。	アムロ あなた……あなたは何なんですか？	アムロ	アムロ	カイ 上。ホワイトベースから出たら、奴らの攻撃を覚悟しといた方がいいぜ	ブライト 頼む。	セイラ アムロ 中央格納庫へ行きます。	アムロ ハヤト……ブライトさんもミライさんも、セイラさんもリニウさんもいるんだ。ホワイトベースのことは任せられと思っているよ。ボクは自分の出来る事をやるだけだ。	ハヤト 君の一番仲良しのフラクボクが人質にとられているんだぜ。少しは……	アムロ (off) ハヤト 心配じゃないのか？	軍人④ 今こそそんなもんで突撃か。ま、しかたねえ。か。度胸きめてやるんだな。	アムロ ……。シュミレーションで18時間。訓練で35時間、実戦で2時間です。

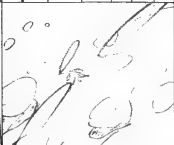

146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135
セル旋回する。	コアフファイターのわきをすり抜けるシャアのカブセル旋回する。	手前から上昇するコムサイ。手前行くミザイル	シャア、ドレン、顔を見合わせ	コアフファイターとコムサイの間をゆくミザイル	シャアなめ四本のミザイルくる	コムサイのカブセル。キラッと輝く光。コムサイ、コクピット、ドレンなめ 光点一つ	Wベールより発射されるミザイル四本（カノラ前にきていい）	ブライトなめ リード。	カイなめ ゆれるブラウ管に光点がゆらめく。	オペレーターA	ミライ 操ダ輪にとりつく。奥リード。
		ドレン	シャア		シャア	ドレン		ブライト	カイ	オペレーター④	ミライ
		どうせ木馬のあてずっぽうの攻撃だろう。敵の戦闘機に近づいてしまえ、当りはせん。はわい！			（背中）ミザイルだノ	シャアが左ノつかみ見てし作 たノ敵の戦闘機をすす こさかしの。この私がやっ てやる！		ブライト 撃てノ 陽動作戦になるノ よーし 発射！！	なんとか見える。やってみるかい、ブライト？	30%の確率で使えます。地球上にしてはミノフスキー粒子が濃すぎます。	了解ノメインエンジン……現状での最大出力願います。リードは使えんのか？

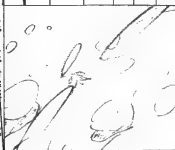
159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147
コムサイUP	コムサイ射つ	頭を起すアムロ。呆然となるアムロのUP色がえ	のり出すブライト奥リード	シャア 微笑をうかべず	コムサイ内。逃げるコアフファイターを追う。照準	アムロ 目茶苦茶にハスドルを動かす	機銃をかわすコアフファイター	アムロ 身を縮める	コムサイ TB コアフファイター	アムロ 目をしぼたかせて、上下を見る	スイッチ入れる。アムロの手	ゆれるコアフファイター内アムロ 目を覚ましキョロキョロする。
アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	シャア	シャア	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ
相手は……たかが、大気圏突入カブセルだ、戦闘機じゃあないノ	あつ……う、うよく見る？……そ、そうだ	アムロノ断じて撃ち落とされてはならんノオチヤク木やて破壊するんぞノ！	相手をよく見るんだノ！	ドレンノこのバルカン砲は照準が甘いぞノ	アムロ（or）おちついてノ おちついて	アムロ（or）あ、ああ！あ！	アムロ（or）敵の追撃機がいるはずよ	アムロ（or）アムロさん	アムロ（or）アムロさん	アムロ（or）アムロさん	アムロ（or）アムロさん	アムロ（or）アムロさん

217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231
ホワイトベースとドアップのからみ	ベースをかすめるドアップ	砲手、ドアップを退り。	ドアップ撃破される。	ブライト	ホワイト・ベースの下面フック下りる。FD コアファイター上昇してくる	コアファイター内より、ホワイトベース下面を望む。	アムロ	コアファイターのフック上る。	コアファイター、Wベースの下へゆく。	コアファイターのフックひっかかり減速する。	コアファイター翼が折れる。	コアファイター、機首がひっこみおれまがる。	変形したコアファイター(コアプロック)クレインにつみあげられる。	格納庫内、コアプロックガンダムの上に、向きがかわる。
				ブライト コアファイター、着艦フック下せ!			アムロ 着艦軌道 オークレーノ……入ります!							


245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232
降退するドアップ。 クリーローする兵①	ドアップ撃破される。	銃火を楯でよけ乍ら、ビーム射つガンダム。	機銃を撃ちながら降下するドアップ。	ドアップ撃破される。	半開きのハッチからのぞくガンダム。 ビーム・ライフルをかまえる撃つ。	Wベースのまわり、ドップが攻撃をくりかえす。	アムロUP	コアファイター内サブモニターに写るセイラ	アムロ	ガンダムコクピット。 ブラウニングが輝いて格納庫の正面ハッチをうつし出す。	ガンダム上部とコアプロックドッキング。	ガンダム上部 ベッドごとおきる。	コアプロックとガンダム腰部ドッキング。
兵 ① モビルスーツですノ 敵のモビルスーツが出てきましたノ							アムロ セイラ (off) ハッチ開くわよノ	セイラ 誰だって、自信があつてやっ ているんじゃないわ。でもね、 アムロ、あなたには才能があるわ。自信をもつて	アムロ で、でもセイラさん、僕には セイラ (off) アムロノ	アムロ (背中) 操縦系切りかえ終了ノ			

261	260	259	258	257	256	255	254	253	252	251	249	250	248	247	246
ガンダム。通過する。ガンダムをふりむき、うつ	旋回するドップ 銃撃	シャア	アムロ T・U	ガンダムゆく	ガンダム発進!	アムロ	シャア 左右上下によける。	ガンダムうつ	アムロ見上げ	リードなめ オペレーター④	シャアなめ ベース	シャア	コムサイの腹のハッチ開き、シャアのザクとび降りる。	コムサイ、上昇する。	ドレンなめ シャア走り去る。
		シャア 全ドップを撃つ。ギビルス! 撃てよ!	アムロ 地上におちるまでが1分……20秒……それまでにしとめられるか?			アムロ ガンダム発進! いきます!			アムロ シャア?!	オペレーター④のザクが降下します! シャアです!	シャア (背中を撃たれ!)	シャア 運搬車のモーターの音。林止めの自由落下の戦術の音。甘味やりのいい!			シャア 私も、サリかなる! コムサイを撃つ。上はよる! 撃てよ!

275	274	273	272F	272E	272D	272C	272B	272A	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	
ガンダム、痛でうける。	シャアのザク撃つ。	砲撃うけるガンダム。 (フオロー)	シャアのザク、ガンダムにけりの攻撃。	ガンダムなめ追るシャアのザク。	!!となるアムロ	痛でうけるガンダム	うつシャアのザク。	ガンダム ビムをうつ。	ガンダム 降下するシャアのザク。	ガンダムP・U シャアのザク来る。	アムロ キョロキョロする。	ドップ撃破。	撃つガンダム	照準器狙う。	アムロ	落下するガンダムのまわり。ドップとびかう。	ドップ撃破		
					アムロ う!!			シャア まだ、まだ、射撃が足りないぞ											
																			



269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	259	258	257	256
上を向くアムロあつと驚く。	グーッ 点滅している。	?!と下を向くアムロ。	ガンダム、銃火。	くるザク、射つ。	銃火を右に左にかわすシャアのザク。	銃火を捕でうけて射つガンダム。	老人連座りはじめる。	ふりむくブライト。	居並ぶ老人連。	ふり返るブライトとミライ。	Wベース、ブリッッジ。入って来る老人連、とめるカイ。	撃ちあうガンダムとシャアのザク。	シャア T・U
アムロ		アムロ					老人④	老人⑤	老人⑥	ブライト	カイ		シャア
アムロ		アムロ					さっ早く。あゝな、なにを……!!	わしら……もう動かん、地球に着陸してくれぬまでな	わかつてます!! さっ心配せずに部屋にお戻り下さい。	どうしたのうっ あ、あなたがたは……?!	えい、ガンダムが邪魔で……うっ……なんですかあんなたちちよっ、ちよっとなって下ささいよ ここは	フフ……自由落下という奴は言葉でいう程、自由ではないのでな!	
													

304	303	302	301	300	299	298	297	296	295		294	293	292	291	290
ガンダムがホワイトベースの前脚にとびのる。	シャア、前方を見上げる	ミサイルをよけるシャアのザク。	ゆくミサイルかわして射つシャアのザク。もう1機行くミサイル。	ミサイルをかわして射つシャアのザク。	ミサイルを射ぬく銃火。奥より来るミサイル爆発	シャアのザク、身を引く射つ。	Wベースより発射されるミサイル。	苦悶のアムロ。しだいに目がうつろになり		モニターにブライト写っている。手前のり出すアムロ。	頭をおこすアムロ。	ガンダム内コクピット。苦しむアムロ。モニターにミライ現れる	ガンダムの顔に命中するザクの銃火。	照準器の中、ザクの射つ銃火来る。	
						シャア(前)ちっ!!		アムロ	アムロ	ブライト ミサイルで保護する。逃げかえれ! うっ…… 当らないでね!	アムロ そ……そんな…… ブライト(前)もういい!計画は中止だ!	アムロ だめよアムロノ 退却しなさいノ 銃弾を……所によりければ、装甲が破壊されなれどもかきらないわ	アムロ(前)うわあ……		
															

316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	306	305
老人達。 Wベース、ブリッジ。 カイ、セイラ、リム より、PAN、ブライ ト、リード、ミライ、	T B 立ち止り みる、アムロ	シヤア 不安。	モニター内、ガルマ。	シヤア	モニター内、ガルマ。	シヤア	ゆれるモニターの中。	見上げるシヤア。ガルマの 声に前を見る。	着地するシヤアのザク。	脚を前にして、減速する シヤアのザク。	シヤア 下を見る。 シヤアなめ 大地がせま る。
ミライ を茶、飲む？	カ イ （老人たちをみて）気にすん どくろうだったな、アムロ。	シヤア ……り、了解。	ガルマ 戻れ！……検討しよう。	シヤア なにこ？！で、では今まで 私のみていたのは、敵のモビ ルスーツの一部分の性能とい うわけなのか？あ、あれで ……で、では……今後どう 闘ったらいのさ？！ガルマ	ガルマ コンピュータのデーターか ら推測するしかないが…… 敵のモビルスーツは戦闘機を 中心に、自由にタイプを変え られる。多用途モビルスーツ らしい。	シヤア どういことだ？	ガルマ 連邦軍のモビルスーツな。…… あれに対する作戦を改める必 要がありそう。	シヤア（直）シヤア聞えるか？ ガルマ（直）シヤア おう。ガルマ			シヤア うっ！


324	323	322	321	320	319	318	317
ミライ、アムロの背中を 抱いてかわす。	アムロ。ミライの声に？！ となる。	アムロなめ 老人⑩⑪	イライラとするアムロ	老人達。 老人⑩ 老人⑪ 子供を抱いた母。	老人⑩なめアムロ。	リードとブライト	アムロの前 老人⑩立 ち上る。
ミライ （お茶入ったわよ。 （老人たちに）フラクボッと チビちゃんたち、ブリッジに	ミライ（off）アムロ。 もうやめなすよ。	老人⑩ アムロ 子供に年寄りの気持がわるか？ だが、自分だけのためにい 闘うものか？みなさんがい ると思えばこそ、闘ってるん じゃないか？ 度、度くは……	老人⑩（off）安全な組をみつめて、我々 を降せばすむんじゃないのか？ あなた方は自分のことしか考 えられないんですか？	母 老人⑩ 老人⑪ この子の生命だけでも助けて 下さい。 戦争で死ぬなんて、承知でき ん！ 死ぬなら、せめて、地上で死 にたいんじゃないか？	老人⑩ それまでの生命の保証を、誰 がしてくれるんです？	ブライト あと一息で連邦軍の勢力圏に 入るんです！それまでの我 憐が、なぜできないんですか？	アムロ 老人⑩ はい。 あんたさんが、いや……ここ にいるみなさんも金力と戦っ ている。その辛さは判つとる つもりじゃが、しかし、わし ら年寄りのグチでいって、わ じやないんだ。我ら、地球 の大地とこの足を踏みしめて いたいんじゃないか？ 判つてます？ だ、コ、なら、なぜ、降りられん ？わしらをここで降してくれ！



330	329	328	327	326	325
山脈をたてに ベイス。	Wベイスブリッ かけよるキツ レッ、フラウ ボ。	雲海の上、行 くWベイス。	ミライなめ ライト、リ ード。	ブライトとリ ードの海に ありむく。ア ムロとフラ ウボ。	老人④達。 と老人たち右 へゆく。 アムロ、コー ヒーカッパ をみつめたま ま。そこへ来 るキツカ、カ ッ、レッ、フ ラウ
			ライト（背中） 山脈を循に して、海へ 出るし （背中）そ うだね……	ブライト（背 中）山脈を 循に、海へ 出るし （背中）そ うだね…… ライト（背 中）山脈を 循に、海へ 出るし （背中）そ うだね…… ライト（背 中）山脈を 循に、海へ 出るし （背中）そ うだね……	老人④ ……期待し とりますよ、 お さん。 よこして下 さい。

△第七話 終▽



21	20	19	18	17	16	15	14	13	12
Wベース上空をすぎるド ップ群	椅子にしがみついている リードブライト上を見る	Wベースの翼が岩をけず っている	ハロころがついていて通 路の奥にあった機械をは ねとばす	フラウ、しゃがみこむと おちている機械を手押し 車につまはじめる。 そこへブルをふるわせて よろけるアムロ、フラウ 吹っ飛ばハロ	見ているアムロ、フラウ	アムロ、フラウなめベル シア、コーリー	ベルシア、コーリーの頭 に頬をよせて、ふっと涙 ぐむベルシア	グレート・キャニオン みるコーリー	サブ・ブリッジのドア開 くとアムロ立っている コーリーをだきおこすベ ルシア コーリー抱かれて泣きや みるコーリー
	リード 「あなたにはあれが眼に入らな いんですか」			「アムロ ブライト ヨンデル」 アムロ・フラウ「ウワッ」	アムロ フラウ 「母親って、みんなあんなもん かな」 「アムロは……お母さんにずっ と会っていないのよね……でも ……」	「アムロ、フラウ」 「おやにみないに……」	ベルシア「ここがあなたの父様の育っ た所なのよ……お父様はあなた がいくらでもいばれるような立 派な方だったよ」		ベルシア「コー君、あなたは男の子でし ょう。この位のことでは泣かない の。ごらん。これが地球よ」


⑦

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22
セイラ、ブライトなめ すわっているリード	天井のステーションを見て いる隊員たち	Wベース・ブリッジ上空 ドップ群行く	ガルマなめシア	スタクリン、の面が変り ホワイトベース、 谷の断面図	ガルマなめシア	シアの声にふりむく	ドップ群、手前にパイソ ン隊長機入ってくる	Wベース上空をとんでい るドップ部隊	ブライトなめリード 機にいるミライ、キッと なつて
セイラ 引きあげていく？」	リード 「ようやくあきらめてくれたか てことだ」		ガルマ 「どんなに強力な誘導兵器も使 わせないことか」 「待ち伏せるんだ。我々の有利 な地点で」 「そして一挙にたたか……」	ガルマ 「背中」 「我々のレーダーから透 れるためだろ……」 「背中」 「違うな」 「ミノフスキー・スタクリンの上に地形を 利用した強力な防衛網をひく つもりだ」 「オ、こうだ……となればミ ノフスキー粒子の効果は絶大だ」	ガルマ 「背中」 「我々のレーダーから透 れるためだろ……」 「背中」 「違うな」 「ミノフスキー・スタクリンの上に地形を 利用した強力な防衛網をひく つもりだ」 「オ、こうだ……となればミ ノフスキー粒子の効果は絶大だ」	ガルマ 「背中」 「我々のレーダーから透 れるためだろ……」 「背中」 「違うな」 「ミノフスキー・スタクリンの上に地形を 利用した強力な防衛網をひく つもりだ」 「オ、こうだ……となればミ ノフスキー粒子の効果は絶大だ」	ガルマ 「背中」 「我々のレーダーから透 れるためだろ……」 「背中」 「違うな」 「ミノフスキー・スタクリンの上に地形を 利用した強力な防衛網をひく つもりだ」 「オ、こうだ……となればミ ノフスキー粒子の効果は絶大だ」	パイソン「こちらパイソン、木馬は山脈 越えにかかる様子です」 「山脈を越えさせるな、地上 軍のマゼラ・アタックと接触で き次第、攻撃を……」 「なんだ」	ブライト「せめて地面を走りたいぐ らいです」 「しかしだ、満足に操縦出来 ないパイロットで……」 「いいえ、できます」

42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
ベルシア、老人A、避難民たち	リードなめベルシア、避難民達	見ているアムロ、リュウ	おどろくブライトたち	フラウなめ避難民たち	フラウ、ハロと一緒にベルシア母子、老人達入ってくる	カイなめセイラ、ブライト、リード カイふりむく	カイなめハヤト	ブライト、アムロの方向 いて	セイラ、ブライトなめ リード	床面スタリオンにグレ イト・キャニオンの衝 撃写真が写る
ベルシア「……私はこの子を、父親の故郷で……」	リード「……は、私の夫の故郷なんです」 「放擲、こんな処でこんな言葉 をさくとは……」	リュウ「……戦中中だっているのに……」 セイラ「……おろす？」	ブライト「……セイラ・リード「……」 セイラ「……おろす？」	フラウ「……隊長、この方たちが、どうし てもお話ししたいことがあるそ うです」 ベルシア「……実は……私たちがここで降ろし てもらいたいんです」	カイ「……背中……」フラウ・ボウ。なんだい、 その人達は……」	セイラ「……カイさん！ カイ「……いや……」 「……?!」	カイ「……俺達はどうでもいいんだとよ」	アムロ「……ハイノ」 「……アムロ、頼むわよ」	リード「……同意だな」 ブライト「……ここが、我々の最も無理な地 点だからだ」 ガンタムの動きいかんで、我々 の運命がさまる」	ブライト「……これが、今、我々のいるグレ イト・キャニオンだ。ホワイ ト・ベースの現在位置はここだ。そ れが敵はおそらく、このミッド レンジあたりに戦力を結集してくる だろう」

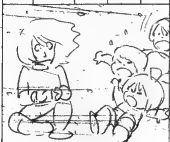
「……我々をそんなに簡単に捕まえては……」
「……それの通りだ」

② ② ②

50	49	48	47	46	45	44	43
再びスタリオンを見上げる	シャルマ行く	シャルマ、スタリオンを見 上げて	ポイント シャルマとガルマ見ている	ポイント シャルマをだきしめると ルシア	ポイント正面を見て	避難民たち 	考えこんでいるブライト からリードへ
シャルマ（M）「どうもお坊ちゃん育ちが 身にしみこみすぎる。甘い……」	ガルマ	シャルマ ガルマ ガルマ	ガルマ シャルマ ガルマ	ベルシア「……勿論です」 「……」	ブライト「……しかしノ無事降りられても、 ジョンの占領下です。よろし いのですか」	人々「……おおーッ」 「……」	リード（off-on）「あなた達はノよくも そんな自分勝手なことが言えた ものだ。ブライト君……」 「……大尉、私にアイディアがあり ます」 「……ア、アイディア？」 「……はい、ジョンに一時休戦を申 し入れてこの人達を降ろすん です」

「……育てたいんです」
「……おれも死ぬ前に一度……」
「……もう一度……」

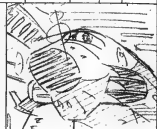
64	63	62	61	60	59	58	57S	57A	56	55	54	53	52	51
マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上
マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上
マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上	マルチスターにうつつ アタタ群とドッパ群、 レーダースターに上



「なんでこわしちゃうの？」
「もったいないじゃん」
「ニャンニャン」
「うるせえな！ 穴開けとか
きやまかせねえんだとよ！」
「さあ、すごい」

「シャア（M）「下船者の中にいるだろう
か……」

76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65
アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を
アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を
アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を	アムロ、コーリーに手を



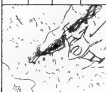
「シャア（M）「これで勝てば貴様は無
敵だ」

「ガルマ
「フフ……これなら必ず勝てる
」」

「もう引きかえさせませんよ。
いいんですか」
「寛福はできています。どんな
ことがあってもこの子を大地で
育ててみたいんです。こんな気
持、あなたにはわからないでし
ょうね」
「地球には住んだことはありま
せんから……」

112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101
ラウとカイ 響きわへ吹っ とばされて くるアムロ、 つづいてフ ラウとカイ	吹っ とばされる フラウ、 カイ	ガ ン・ベ リ ー 木 々 を な ぎ た お し て い る	降 下 し て く る ガ ン ベ リ ー	ベ ル シ ア 母 子	リ ュ ウ 少 年 A	降 下 し て ガ ン ベ リ ー	ガ ル マ 経 路 そ う に 、 疑 わ し そ う に モ ニ タ ー の 方 を み る	シ ャ ア 額 を あ げ て 、 ふ と 向 き	通 信 兵 な め 、 シ ャ ア	ス タ リ ー ン 上 光 点	バ ム ロ 、 マ イ タ に 向 っ て
「ううっ／＼」 「ワァッ／＼」	「ウワッ／＼」			「ああッ」	「ふ」 「判 って ま す」	「ふ」 「不 時 着 ら し く み せ る ん だ」	「？」 「高 度 を 下 げ て い ま す」	「ノ……」 「私 の 考 え す ぎ だ」	「運 の 悪 い 連 中 だ」 「監視 を つ づ け ろ と 言 え」 「解 ／＼」 「解 ／＼」 「何 が だ ？」 「ロ ー タ ー の 一 つ が 停 ま り ま し た」	「どう や ら 我 々 の 攻 撃 が 、 今 ご ろ に な っ て 知 り て き た よ う で す」	「了解」 「ボ ブ ス ン 、 応 答 願 い ま す」 「こ ち ら ビ ャ ク ジ ョ ン」 「不 時 着 す る と 言 っ て ま し た が 、 破 壊 機 関 か ら 機 を 奪 い て い ま す」

126	125	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113
ア、 コ ー リ ー に 立 っ て い る ベ ル シ ア	老 人 A が ゴ ム ボ ー ト に 乗 る 岸 辺 に 立 っ て い る ベ ル シ ア	セ イ ラ 、 拳 銃 を か ま え て い る	兵 士 な め シ ャ ア 、 ガ ル マ	モ ニ タ ー に 写 っ て い る 遊 撃 民 た ち 、 他	シ ャ ア 見 て い る	穴 の 外 、 ル ッ ク ン 降 下 し て く る	三 人 見 上 げ る	ア ム ロ 、 う し ろ に フ ラ ウ ・ ボ ウ と カ イ	ガ ン ベ リ ー の 穴	そ の 附 属 全 景 上 空 に く る ル ッ ク ン	き て 止 ま る ガ ン ・ ベ リ ー	ベ ル シ ア 母 子 た ち
老 人 A 「あ え ず 住 む つ も り じ ゃ ど う し て も セ ン ト ・ フ ン ジ ュ に い き な さ る の か ？」	シ ャ ア 「も っ と も だ ……」		ガ ル マ （off） 「我 々 も 監 視 し て い る の だ ぞ 。で き る わ け が な い」	兵 士 A 「老 人 四 人 、 女 二 人 、 子 供 三 人 の 計 九 人 で す」 「誰 が だ ？」 「戦 斗 員 を 潜 り こ ま せ る つ も り か と 思 っ た の さ」 「ハ ハ……」	ガ ル マ 「ハ ハ……」	カ イ 「へ …… こ う い う の な ら 、 俺 も 好 き な ん だ け ど な」 「だ ま せ た ん だ ら う か ？」						ベ ル シ ア 「あ あ……」 「コ ー リ ー」 「ア ー ン ／＼」



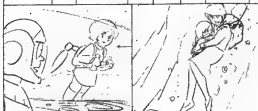
136	135	
と、歩いてくるベルシア母子	セピア川からP・Uする	アイキャッチャー 荒野を行くベルシア母子

C

M


	134	133	132	131	130	129	128	127
アイキャッチャー	ガンベリーなめ行くルッタン	窓からみているアムロ、リュウ	ルッタン行く	バムロなめ、過ぎるフラウ、カイ、少年A	ガンベリーからバースナルジュットをつけたフラウとカイと少年Aがとび出す	コム指さす	バムロのりだして	ルッタンなめ俯瞰全景歩いていくベルシア母子
		リュウ		バムロ		コム	バムロ	ベルシア
		「ハハハ、アムロ、やったぞ！ひっかかった！」		「パイロットが脱出、ホワイト・ベイス方面に向いました。追いかけます」		「ん？...あの親子どこへ行くつもりだ？この先はなにもないぞ！」 「機長、あれを！」		「ここからならたいしたこともありませんから...セント・アインジックがなくなっていましたら、皆様の処へ戻らせていただきます。では...」

	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	
操縦桿をきるバムP	バムロ、コム	ルッタンなめフラウ、カイの脇へもどる、ホワイトベースみえてくる	バムロの方を見るコム	コムなめ下ってくるフラウ、ウインク	フラウたちとルッタン	岩殿、ベルシア母子立ちあがる コーリーを道の方へ遣い上らせる	太陽に雲がかかっている	ふっと身をひく	おちていくカバン	崖のでっぱりにぶつかってカバンがひらき、衣服などがとび出す	ズズッと止まる	崖くずれてベルシア母子おちる	川の崖っぷちにくるベルシア
バムロ	バムロ	コム	コム	コム	コム	コム	コム	コム	コム	コム	ベルシア「あー!!」	ベルシア「キャーッ！」	
「もういいだろう、ちょっと寄り道するぞ」 「あの母子が気になるんでしょ」 「怒られますよ」 「ガルマ大佐はまだお若い、おれたちみたいな者の気持は分かるんよ」			コム 「ウーイッヒッヒッ、あれ、くへ……」										




163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	
ガンダムおきあがる	機操桿をひくアムロ	俯瞰全景	地面におきさるガンダム	格納されているガンダムが見えてくる	開いていくコンテナ	移動していく光点を見ているアムロ、ハッチとして	リュウなめ遠ざかっていくルックタン	ガンベリイ上空をすぎるルックタン	ガンダム・コクピットのアムロ、スイッチ操作側面のレーダーに光点うつる	コンテナしまっていく	ハッチとなるリュウ、スイッチを操作	レーダーに光点うつる	外板が開きかけているガン・ベリイ	フラウ、カイ、少年Aなめ軌道をかえし奥へ行くルックタン	側面におしつけられるコム
						アムロ 「あ、リュウさん、いそいでコンテナを開けてください」	リュウ（背中）「お、お、どこへ行くんだ」 「あ、目的は……」		アムロ「どうしたんです？ リュウさん」 リュウ（off）「奴だ！ ひきかえしてきやがった！」「ええ……」		リュウ「おッ」				コム「よし、行くぞ！」 「アワ……」
															

176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164
ソベルシアなめ来るルック	コリーこころぶ だきおこすベルシア、爆 音がきこえてきてふりむ くベルシア	敬礼して行く	ブライト	Wベース、ブリッジのリ ードら全員	コクピットの前をはなれ るガンダム	アムロ	リュウなめガンダム	リュウ のり出して	リュウの足	銃をとるガンダムの手	顔があがるガンダム	立ちあがるガンダム
	コリー「あーッ！」	カイ「ああ。戦場になる地形もみて きた。……やってみるさ」 ブライト「よし！」「ガンキャノン、ガ ン・タンク発進準備にかかれ！」 カイ・少年A「了解！」	カイ「さて、カイ！……試してみる 自信はあるのか」	リード「うまいくいつたのか」 フラウ「わかりません」 ブライト「結果は十五分後には出ます」	リュウ（off）「ズムロ！」	アムロ「敵のパトロールがあつたのか ？」	リュウ（背中）「アムロ、どこへいくん だ」 「無敵は使うな！」	リュウ「よし、アムロ。湖の中にかく れている。作戦が始まったら敵 のうしろからお前が、お、お、 おい！」				

192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177
ガンダム、銃をおろす、 眼が太陽を反射してキラ ルツタン	照準内、遠去かっていく ルツタン	アムロ	銃をかまえるガンダム	岩かげにかくれるガンダ ム ルツタン過ぎる	バムロ手をふる	ハッとなるアムロ	照準内カプセル 突然バラシシートでる	銃をかまえるガンダム	アムロ	下 ルツタンの腹から何か投	ガンダムなめ降下する ルツタン	アムロ	たおれてきてコリーを かばうベルシア	ベルシア母子なめせまる ルツタン	立ちあがって走りはじめ るベルシア母子
		アムロ「気づいてくれるなよ……」			ベルシア「あ？……」	アムロ「アア？」						アムロ「いた!!」	ベルシア「あなた……コリーを助けてノ ……」		

210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	
バムロ、コム	ガンダム山かげから出る	ベルシアなめ、おちてい くルツタン	ハッと見るベルシア	コクビット、火を噴く	ルツタンのわき腹に被弾	バムロ・ライフルうつガ ンダム	ルツタンうつ	ゲージ合ってゆくアムロ	ガンダムのいる山かげ	バムロ、操縦桿の発射ホ タンの安全装置はずす	銃口なめせまってくる ルツタン	銃をかまえるガンダム	アムロ	ガンダムなめ接近してく るルツタン	ルツタン方向転換	バムロ、コム	ルツタンなめキラリと光 る	リと光る
バムロ「スロットル・レバーをしぼれ ノ」			ベルシア「ハッノ」	バムロ・コム「ワァーッノ」				アムロ「見つけなけりゃいいのにノ」		バムロ「連邦軍のモビルスーツか？」			アムロ「くッ、発見されたか」			バムロ「ン？」 コム「何か？」 バムロ「光だノ」 ミサイル・セイフティ解除		

220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	
ドップ、Wベースにおそ いかる	ドップ降下はじめる	ガルマ	ガルマの方を向く	シャア、ハアとなって ガルマの方を向く	モニター内、避難民たち 画面かわってガンベリ、 コクビットまで、画面と 画面かわっていつて 窓からのぞいているアム ロとリウウ	シャア、通信兵のところ へきて立ち止まる 通信兵、スイッチ操作	通信兵ふりむいて	アムロ	丘の向うにおちるルック ン 水しぶき立つ	
		ガルマ「よし、攻撃再開ノ」	シャア「二人残っているノ、ガルマ、 陣形を変えるんだ、急いでノ」 「司令官は私だ、もう戦闘再 の時間で、今更、変えられるか 兵士A（off）「本馬が射座距離に入りま すノ」	シャア（off）「そこで止めるノ」 通信兵（off）「コクビットを拡大しろノ」 通信兵（off）「ハッノ」	シャア「ビッタ・ジョンからリーダー 送られたビデオをもう一度見 せる」 通信兵「ハッノ」	通信兵「ビッタ・ジョンからの通信が とまりました」 シャア（背中）「どういことだ?」 ガルマ「パトリールは放っておけ、戦 斗開始だ」		アムロ「ア、ア?」	コム「ハ、ハイノ」	
										




235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221
爆発 カイ身をひく	ガンキャノンのまわりで	カイなめマゼラ・アタタ	カイ体をたて直して ハッと正面	ガンタンクなめ ガンキャノン	降下するガンキャノン	ハッチからとび下りる ガンキャノン	モニター内のセイラ	カイ カイ敬礼して	ハッチの入口に立つガン キャノン	トップ、Wベースにおそ いかる	経路をオライ ト	ドップ、Wベースへおそ いかる	Wベース、主砲を撃ちつ つ山の上に上昇する	マゼラ・アタタ 砲撃
カイ「ううーッ」			カイ「ウーッ!」 着地したァノ			カイ「やってみるよ。セイラさんノ」	セイラ「これ以上、下げればホワイト ベースが動けなくなりますノ」 頑張って、カイさん」	カイ「チーノ、もう少し、高度を下げ てもらえないのかいノ。セイラさ んノ」 セイラ（off）「ムリねノ」			ブライイト「ガンタンク、発進したのかノ」 「はいノ」 ブライイト「カイノ、ガンキャノン、急げ」			3-224 (K)



[illegible]

251	250	259	258	257	256	255	254F	254E	254D	254C	254B	254A
立つ兵	ガルマ	シャア手をふりあげて	ガルマ	パネル面、一つの列が前進する ふりむくシャア	シャアなめ通信兵	そのサンバイザーに映る ドップ	ギョッと顔を下すカイ、 ふりあおぐ	バルカン砲弾の中、うつ ガン・キャノン、弾がき れる	カイ	撃つ ガンキャノンなめドップ	指さしている兵 上空をすぎるドップ群	砲火のむこう 後退するマゼラ・アタック
シャア 兵 C シャア	ガルマ	シャア	ガルマ	シャア	シャア 通信兵	カイ	カイ		カイ	兵士 B		
「我々は、あの輸送機の中を調べていないんだ……」 「左翼うしろからモビルスーツ だそうです!」 「な、なに?!」	「シャア……」	「湖に着陸した輸送機から、モ ビル・スーツが出てくる!」 私ならそうする」	「なぜだ? 木馬が沈むのも時 間の問題だと思うが?」	「で?! 我軍は湖を背中にして、 木馬を攻撃しているわけか?」 「は、左翼のブラッタ・ジャ ックは……(ざー)また三キロ移動 しました!」 「ガルマ! 湖を背中にしてい るブラッタ・ジャックを木馬の前 へ移動させろ!」	「た……?! たまが……たまがない? う?」 「……」 「あり!」				「ヒート!」	「ギヤル! みえるか! 木馬 の後ろに新しいモビルスー ツだ! 援護してくれ!」		

278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	252	
ドップ撃破	ガンタンク撃つ	ドップに当る	うしろからうたれビーム・ライフルをうつガンダム	ドップにあたる	ガンダムうつ	マゼラ・アタック爆発	マゼラ・アタックの一角に命中	マゼラ・アタックの前着	ミサイルをうつWベース		ブライトなめりド		パイ・アムロノ……ノ	ふりむくガンキャノン、うしろ地面に激突するドップ	ドップやられる、夜	ガルマ	
										ブライト	フラウ ミライ しろから……」	カイ「フ、アムロノ……ノ」					ガルマ「バ……バカな……」
										「よし、ホワイトベースは火力を前方にのみ集中するノ、各員、前方のマゼラ・アタックを撃破せよノ」							


296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280	279
爆発するマゼラ・アタック二台	上昇していくドップ群	パイソンなめドップ	マゼラ・アタックにあたり爆発	Wベースのわきをかすめるミサイル	ドップ、ミサイル発射	ミサイルとんできて、手前のマゼラ・アタック爆発	Wベースブリッジの脇をミサイル通過	舵をきるミライ	ドップ、ミサイル発射	ハロころがる	ブリッジゆれる	Wベースのわき腹で爆発	急降下してくるドップ、ミサイル発射	倍數 Wベース	ドップ降下	Wベースの機銃連射	ガンタンクからWベースへ
										「パイソン・ミライ・リッド「ううっ」」							
										「パイソン「いかんノ、同志うちになるぞ」攻撃中止ノ」							

311	310	309	308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297
射つマゼラ・アタック	ベルシアなめバムロ、コム ベルシア、コーリーをみ	ベルシアがバムロの腕に 包帯を巻く姿	はるかに戦火をのぞみ、 ベルシアがバムロの腕に 包帯を巻く姿	着地するガンダム、盾を だすとそこを弾がおそう	ガンダムとんできて盾を つかみ行く	壁の上に姿をあらわすザ ク射ってくる とびあがつてよけるガン ダム	見るアムロ	盾でつぶされるマゼラ・ アタック	盾でふさいでいるガンダ ムをほりなげる	マゼラうつ	ドップやられる	ガンダムうつ	燃えるマゼラ・アタック なめ ガンダム、上からミサイ ルくる ハッと見るガンダム	同様に一台
	ベルシア「どちが勝つても負けても、 私のように夫をなくす人はこれ からも、大勢でるんではう…… コーリーおねむになったのね」	コム バムロ 「さあ……どちが勝つか……」										アムロ「やらせるか！」		



326	325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	314	313	312	
射撃から身を守っている ガンダム、上から銃口ね らっている	盾をかまえるとそこへ射 撃	それをよけ、手前の盾を ぬくガンダム	たおれてくるザク 残りのザク射撃	盾なめ剣をはらうガンダ ム	剣つぎだされてきて、ザ クにつきささる	その弾をよけ、剣をつき だすガンダム	ザク一体 走りながら射つ	剣をぬいてくるガンダム	盾をすべりおりてくるザ クたち	アムロ	ザクのゴクビット、盾が めりこんできて吹っ飛ば される兵士B	ザクの腹にくいこむ	盾でうけるガンダム 盾をなげる	同様に二台のマゼラ・ア タック 同様Wベース、同様にザ
										アムロ 「うっ、いくらガンダムでも、 あれだけのザクをふせげるか！」	兵士B 「ワァァァ」			



339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327
ガルマ、肩をおとす	頭をかかえるガルマ ガルマ手をおろし	ふるえているガルマ	ザクをきっているガンダム	ザクきられる	ふりおろされるサーベル	走るザク	とぶガンダム	後退するザク、にげる	アムロ ニヤリ	カイ	ガンダムなめガンキャノン	崖の上でねらっているザク、うしろからつきとばすガン・キャノン
ガルマ	ガルマ シャア	兵士D (off)「最後のザクがやられたぞ」 兵士E (off)「隊長どのの」 さい。隊長どのの」			兵士F (off)「マゼラ・アタックは全滅だ！ 動いているものは一つもないぞ！」 兵士G (off)「た、退却だ！ 退却しろーッ！」	ガルマ 「ハァ……こ、このような失態を姉上に何と報告したらいいのかわからない」 シャア 「挽回するチャンスはまだある。それに……我々指揮官は最前線です。士気を降参しなければ……次は私も行かせてもらおう……」 「た……たのむ」	兵 (off)「あ、あらてのモビルスーツだ！」 兵「うわー！」	アムロ「カイ！」	カイ「へ！ お、俺にだってこのくらいはな！」	アムロ (off)「おっ！」		

352	351	350	349	348	347	346	345	344	343	342	341	340
ハワイトベース上昇していく	ハムロ、フラウ、ボウ、ハムロらいる	ブリッラのうしろ、明るい窓	W ベース	ゆく二人、W ベースの光点がゆく	くずれるベルシア、泣く	二つのかげゆく 光点がゆっくりとゆく	おどろくベルシア あたりを見まわす	ハムロ、コム	ベルシア	ベルシアなめ歩いていく 二人ハムロよりかえって	ハムロ、コム歩きはじめ 見送るベルシア、コトリ	ハムロ、ベルシアの方に 向きなおって
	アムロ 「あの母子は……セント・アンジュにつけたんだらうか？」				ベルシア「コトリ……」 コトリ「マ……」	ベルシア「……え……?!」 「ここが……ここが……」 セント・アンジュ……」	ハムロ 「ここが一年前までセント・アンジュのあった処です……奥さんは潮の仲間の処にお帰りになった方がいいでしよう」	ハムロ 「ハ……ハイ……」	ハムロ「奥さん！」		ハムロ 「われわれは原隊へもどらなければなりません。今夜は救命カプセルで休むといたします……」 「妨害、強い男になって、母さんを守ってやれよ！ では……」	

饅首台本

第9話 『廻ペ! ガンダム』

制作 名古屋テレビ
創通エージェンシー
日本サンライズ

第9話 翔べ！ガンダム





昭和54年6月2日放映

制作スタッフ



●脚本／星博之●絵コンテ／斧谷稔●演出／小鹿英吉●音楽監督／安良和●作曲／田島英・多賀かずひる・戸川俊信・林良男●背景／アート・メイク・ワン（東京・森製作所・那須野幸子）●動画／チェック／兵津守●仕上／シャフト（三機電子・露木智恵子）●特殊効果／土井通明●撮影／旭プロ（斉藤秋男）●編集／鶴岡友彰・小谷地文男●音響監督／松浦典良●効果／松田昭彦●監音／日向國雄●制作進行／量住政弘●設定制作／円井正一●Ａ・Ｐ／神田美

キャスト & 声優

●アムロ／古谷 登志夫・フワウ／鶴飼るみ子・鈴木清信・リュウ／坂
●沼田三ノカイ／古川 登志夫・フワウ／鶴飼るみ子・セイヤ／井上 篤
●ア／池田秀一・ガルマ／轟功至・リード中尉／玄田哲章・マーカー／古川
●登志夫・マサルダ／戸田恵子・コック長／永井一郎・キッカ／井上 篤
●ツ／白石冬美・ピービ／永井一郎
●ナレーシモン／永井一郎

																				S
																				C
10	9	8	7	6	5	4	3	2												
アムロ ベツトに横になっている	アムロの部屋、ドアを開けて人ってくるフラウ・ボウとハロ	フラウ・ボウ、アムロの部屋をノックする	タラップを上がるハロ	タラップを上がるフラウ・ボウ ハロも行く	フラウ・ボウ手前にくる	高機雲の中を歩くWベース	破壊された町よりP・U上空にWベースの軌跡	サブタイトル						イントロダクション	画面					
														N						音 声
ハロ 「ア、ム、ロ！」 	フラウ ハロ 「アムロ」 「アムロ」 「アムロ」 「食事を！」 	フラウ ハロ 「アムロ」 「アムロ」 「アムロ」 「食事を！」 			フラウ 「三班の方、食事に行ってください。そうそう！アムロにも食べてもらわなくっちゃ」		犬 「ワォーン」		「人類がふえすぎた人口を宇宙に移民させるようになってすでに半世紀がたったいた。地球のまわりの巨大な人工の都市は、人類の第二の故郷となり、人々は、そこで子を産み、育て、そして死んでいった。 宇宙世紀ダブルオー七九年。宇宙都市サイド3は、ジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んできた。 この斗いで、ジオン公国と連邦は、総人口の半分を死に至らしめた。人々は、その己らの行為に恐怖した。」											

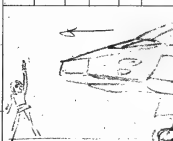
41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
立ち止まる、駆けよるキ バツとトマトを出す	ダツと駆け出してゆく キツカ	アムロくる	Wベースの通路 キツカ、カツ、レッツくる	フラウ、カイの前へわり こむ	キツカ連トマトを陰し盛 りしてゆく	カイ、フラウのうしろを キツカ、カツ、レッツ入っ てくる	怒る田村	おいとむいて田村と言ひ 顔う	田村、なべの前で怒鳴っ ている	Wベースの食堂 カイなめフラウ入ってく る
キツカ 「いいものあげる」	キツカ 「アムロ！」		キツカ・カツ・レッツ 「ハハ……フフ……」	フラウ カイ 「ここで言い争わないでカイさ ん。ブライトさんなりリード 「まさか……」	田村 「そんなのは判ってますけど、 兵隊の食事のカロリは、作業 量によって決められてるんです」	キツカ 「ごちそうさまー！」	田村 「ブライトさんの命令だ。二人 を正規のバイロット並にあつか えてな！」	カイ 「じゃ、本当の事をいうぜ。な ぜアムロとリーロウだけ俺たちの 食事より量が多いんだよ」	田村 「いいがかりだよ、俺ばかりう まいものを食べているひま、あ るわけないだろう！」 「それにしちゃ、お前の顔色が よすぎんだよ」 「貴様ア！！」	リード 「現場を知らんのだ、戦場をノ フラウ 「田村さん。お年寄りたちの食 事……」 「だつてよ、何の証拠も俺たち にやつかねえだろうに……」


53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42
コップのかけの口元へバ ンを放りこむ	アムロ、チラツと目を下 ろして老人をみる	老人の手がすつと子供の パンのかけらをとる	アムロなめフラウ・ボウ、 ニコと笑う、アムロ、 う？ となる	Wベースの食堂、カタン と食器をおくアムロ	ふりむいて啞然とするブ ライト	 Wベースのブリッジ ブライトなめリード	三人邪れながら部屋へ Fr・O	アムロなめキツカ、カツ、 レッツ	手にしているトマト	トマトを見ているアムロ	ドキッとするアムロ
			フラウ 「ううん、いいのよ……」	アムロ 「さっきは……ごめん……」	ブライト 「リ、リード中尉……?!」	リード 「武器弾薬は底をつきはじめて あるんだ。今度、大きな斗いが あったら支えきれん……」 ブライト 「分っています！ だから、ど うしたら生きぬけるのか考えて いるんでしょ！」 リード 「生きぬくだけなら簡単だよ。 ブライト君」 ブライト 「冗談じゃない！」 リード 「ホワイトベースを捨てりゃい いんだ……」	カツ 「こいつー！」 キツカ・レッツ 「ハハハ！」		カツ 「みんなには内緒だぜ」 アムロ 「ああ」	アムロ 「?!」 キツカ (背中) 「はい、がんばってね！」 アムロ 「キツカ……」	
											




54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67
アムロ老人の皿をみる	アムロなめボソッ立つ老人	アムロ、自分の皿と少年の皿を見比べる	少年バツと明るく表情になる	ふりむき気味に言うフラウ	立ち上がるアムロ	怒るアムロ	うつつまるフラウ	アムロゆく	Wベイス・ブリッジ ブライト	皮肉気味のリードの言葉	リュウなめブライト	アムロの部屋 アムロ、トマトをみてい	アムロなめモニターにつづいているブライト
		アムロ「一緒に食べよう」	老 婆 「いいんですか？ す、すみませんね」	フラウ 「アムロ！ ちゃんと食べなればダメよ！ 日曜日はお休みの日だからアムロは休んでください。食べ物の準備は僕がしますからね。」		アムロ 「だったらこんな処で食べさせるな！」	フラウ 「アムロ……」		ブライト「だったらどうなんですか？ 今日までの我々の斗いは？」	リード 「無意味ではなかったはずだ。一人一人戦いぬいていけるといふ自信はつけよう」 「ブライト、艦内の破壊個所の応急修理は終わった」	ブライト「ハヤトとセイラは？」 リュウ（背中）「おろ、機銃の手入れにまわっている」 ブライト「お！ バトリールを出しました」	ブライト（off）「アムロ！ バトリールに出勤することを急ぐ。ブリッジに上がってこい！」	ブライト「何をしている？ 急げ！」

70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80
Wベイスの格納庫 ジュニアが噴き出る	リュウにGがかかる	コア・ファイター、 ダッシュ	コア・ファイターめく	ダクトが下って手前にコ ア・ファイターがくる	とびだすコア・ファイ ター	入ってくるハヤト機	ハヤト	体勢が直るハヤト機	リュウ	コア・ファイターゆく
ブライト「アムロ……」	リュウ「う！」					リュウ 「ハヤト、機銃はコンビニ ーターに任せろ！」	ハヤト「は、はい。そのつもりです」		リュウ「よし。そのまま俺の機にフ ォローさせる様にコンビニ ーターをセットするんだ」 ハヤト（off）「了解！」	





94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81
		山の向うより コアファイター二機くる	ガルマなめシャア戻れ と手を振る	ガルマなめ、 前方に抵がる山	ガルマなめ窓の向こう シャアと兵A	ギョッとするガルマ	ドッグの下に降りていく シートに座るガルマ	ガウ格納庫内 ヘルメットをかぶるガル マなめシャア	ガウ、山地スレスレにと ぶ	度を下げる コアファイター二機、高	山の向うにガウが飛ぶ	リュウ	山の上を飛ぶコア・ファ イター
リュウ	ハヤト		シャア	ガルマ	兵A	ガルマ	ガルマ	シャア				リュウ	
「えーい、コアファイターがあ んだがな……」	「リュウさん！ なぜ攻撃しな いんです！ せ、せつかくガウ をみつけたっていいのに！」		「シャア ガルマ」	「このまま出撃して撃ち落して みせる」	「敵の戦斗機です！」 「背中」「なに!!」 「ガルマ」 「発進は中止だ！」 「戻れ！」	「どうした！」	ガルマ（off）「出撃するぞ！ 各員……！」	シャア（off）「ガルマ。君が行くこ ともなかるうに……え？」 「私には、姉に対しての立場だ ってあるんだよ。家族のいない 君には判らない苦勞さ」				「リュウ 「ムッ、いた……」	

107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95
コア・ファイターの機首 がひっこみ、まがってゆく	ブリッジのリード	コア・ファイター、Wベ ースに進入	ハヤト機、フラクをあげ る	コア・ファイター、フラ クにひっかかる	コア・ファイター、Wベ ースの下に入りこむ	コア・ファイター、Wベ ースに接近する	岩肌を蹴散らしてくる ガウ	カルマ	ミヤ	モニターを見ているシャ アとガウ	ガウ・ブリッジ内 す	山の向うにガウがちらっ と見える
	リード							ガルマ	シャア	シャア	シャア（off）「三十秒前の映像だ……」	
「よし、コア・ファイターの ガンキャノン、ガンタンクへの 換装いせけ！」								「成程、小物は相手にせず、本 命をたたくにはいいというわけか？ よし！ 敵のパトロールを追え」	「弱点があるからこそ、我々の 動きを知りたがっているんじゃないのかね？」	「ただのパトロールだよ。だと すれば木馬はかなり焦っている」 「焦っている？」 「背中」「木馬がパト ロールを出 すなぞはじめてだ」		

145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135
さらるアムロ	アムロなめブライト腹る	神をつかまれてひきあげられるアムロ	ンノとなるが気配はんでぐいとカメラの前へくる	くアムロ、ブイッとうつむ	セイラ、アムロ、みる	アムロの部屋いきなりブライトドアを開ける	進むガンダム、ガンキャノン		モニターにうつっているセイラ	カイ
アムロ フラウ アムロ	ブライト アムロ ブライト	アムロ ブライト (off)	アムロ ブライト	アムロ ブライト	アムロ ブライト	ブライト		カイ	セイラ	カイ
「うわ……」 「な、腹ったね」 「な、ブライトさん……」	「出来ればやっている／＼き、貴様に言われるまでもなく……」 「僕だって出来るからやってみよう」 「じゃないんですよ」	「やめて下さいよ。そんなに、ガンダムを動かしたいんなら、あなた自身がやればいいんですよ」	「!? 今はそんな哲学など語っているヒマはない／＼立てよ／＼おい／＼」	「ブライトさんは何んで斗ってんです」	「アムロ、ブライト、来ちゃヨ」 「（背中）」「貴様、なぜ、自分の任務を果たそうとしないんだ」	「アムロ／＼」		「はいはい。セイラさんは気がすめがお上手で……」	「すくガンダムも下りるわ。戦力的には自信をもってる……いいわね」	「やれやれ、戦力つたってこれだけだよ。え?」 「ブライトさん!」

[illegible]

172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159
	A ブリッジのオペレーター	降下体勢に入る別の編隊	ガルマ、上の機に狙え、狙えとサインを送る	Wベースの側面、ミサイ	切る	Wベースのブリッジミライ、左にハンドルを	ガルマ機、ミサイル発射	シャアなめ山のむこうの都市の上空、砲煙が拡がっている	ガルマ機 コクピットのガルマ	シャアなめパイロットとコンソール	ガウ・コクピット内 兵なめシャア	ガウのコクピットへ T・U	迫るガルマ機
	ミライ「ソ」	オペレーター「左前方に四機編隊、回避せよ」	ガルマ 左のエンジンに攻撃を集中しろ				シャア 「見せて貰うよ、君の攻撃の手並みをな」		「（on）手を出すなよ。見てるんだシャア。機体の戦い、機体が暴発機に落ちたためだが、機体が私が見事、しとめてみせる。」	「（off）「モビルスーツだ。陸戦タイプののは二機出ているが、例の恐らく出られんのだよ。……」	「（off）「ホウ、それは幸いだな。なぜだ？ 何故本機が……」	「（off）「モビルスーツだ。陸戦タイプののは二機出ているが、例の恐らく出られんのだよ。……」	「（off）「モビルスーツだ。陸戦タイプののは二機出ているが、例の恐らく出られんのだよ。……」

186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176	175	174	173
いいやろアムロをおさえるフラウ・ボウ	ひく	アムロなめブライイト身を	逆平手がアムロの頬をうつ	ぐいっとむいて手のマシンガンをつつガンキャノン	はっとうしろを見やり	ドップ カイ左をみる	二機のカップを追う マシンガン	マシンガン ガンキャノン	うっとスコープから目をはずす	スコープ内のドップ、ミサイルを発射するや ババと散る	カイ、スコープをのぞく	ガンキャノン、傾いたビルの壁面を走る	指示を送るセイラ
アムロ 「もう、やらないからな！ だが二度とガンダムなんか	アムロ 「それが甘ったれなんだ。敵がどこにいても一人前になった奴がどこにいても……」	ブライイト 「二度もぶった！……おやじにもぶたれたことな」	アムロ 「二度もぶった！……おやじにもぶたれたことな」	カイ 「い、いけねえ。俺はアムロ……」	カイ 「くっ！」	カイ 「くっ！」	「（on）手を出すなよ。見てるんだシャア。機体の戦い、機体が暴発機に落ちたためだが、機体が私が見事、しとめてみせる。」	「（on）手を出すなよ。見てるんだシャア。機体の戦い、機体が暴発機に落ちたためだが、機体が私が見事、しとめてみせる。」	「（on）手を出すなよ。見てるんだシャア。機体の戦い、機体が暴発機に落ちたためだが、機体が私が見事、しとめてみせる。」	「（on）手を出すなよ。見てるんだシャア。機体の戦い、機体が暴発機に落ちたためだが、機体が私が見事、しとめてみせる。」	「（on）手を出すなよ。見てるんだシャア。機体の戦い、機体が暴発機に落ちたためだが、機体が私が見事、しとめてみせる。」	「（on）手を出すなよ。見てるんだシャア。機体の戦い、機体が暴発機に落ちたためだが、機体が私が見事、しとめてみせる。」	「（on）手を出すなよ。見てるんだシャア。機体の戦い、機体が暴発機に落ちたためだが、機体が私が見事、しとめてみせる。」
													

[illegible]

198	「アムロの部屋からハロがでてる」	「アムロノ、行くのか！」	
199	ゆれてかたむく画面 アムロよろける		
200	ぐいっと体をおとす アムロ	「アムロ シャアめ!!」	
201	ズンと壁をたたく アムロの拳		
202	ガンタンク・コクピット ハヤト	「リョウさん、敵はホワイトベ ースしか狙っていません! 右旋回願います」 リョウ(aff)「おグノ！」	
203	回転するガンタンク		
204	砲撃の中、旋回するドッ		
205	ハヤト狙い、ボタンをおす	ハヤト「ク！」	
206	タンク発射		
207	攻撃している三機中、 一機命中		
208	機待はずれのハヤト のびあがってみる	「た、たった一機ノ、対空用の 砲弾でなければ飛行機はおとせ やしない。あノ」	
209	タンク近くの至近弾、 爆発ノ		
210	ガルマン? とみて	ガルマン「ビービノ、小物を相手にする なノ、木馬だけだノ、木馬のエ ンジンだけを狙えノ」	
211	ガルマンのうしろにつく ビービのドッパ	ビービ(aff)「了解ノ、大佐ノ」	
212	Wベースの格納庫、アム ロ、ガンダムのコクピッ	セイラ「アムロノ、ドッパは、ホワイ トベースの左エンジンを集散的	

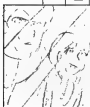
224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	
アムロにGがかかる	Wベースの格納庫 ガンダム、カタバルトに	正面をみるシャア	パイロット、 ダイヤルをまわす		パイロットなめ シャア身をひく		ガウのブリッジ、シャア のりだしている、左手は コクピットの下にある	モニター内のセイラ	アムロ、セイラのやさし い言い方にふっと怒りや うっぶんをはらして	モニター内のセイラ	アムロ反対のベルトしめ る	トに入る
セイラ 「アムロ 「何します、セイラさんノ」		シャア 「それならいいんじゃないか？ 私だってガルマにしかれたく ないからな」	パイロット 「はア、ミノフスキー粒子の 濃度は変わりませんが、このくら いなら、音声は入るはずですよ」		パイロット 「少佐、よろしいのでありま すか。我々は観ているだけで」 「いいだろう？ 援護が必要な ら呼び出すといっていたし、下 手に手出しをすると、ブライド の高い彼のことだ。あとで怒ら れるしな。この距離なら、無線 は使えるのだから？」		シャア 「しかし、見事じゃないか。ガル マ大佐の攻撃ぶりには。ガ ルマ……親の七光りで大佐にな った……」	セイラ 「伝えておくわね。……あてに しているわよ」	アムロ 「はい。試してみたい戦い方が あります。ガンタンクとガンキ ャノンには援護をたのみます」	セイラ 「対空戦斗 大丈夫ね？ アム ロ」		に攻撃中」


240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225
アムロ スコープを見ている	ドアップ直撃をうける	排ガスで次弾発転	ガンダム・バズーカを うつ	アムロ スコープを合わ	驚くビービ	ドアップ機内なめ 上昇してくるガンダム	ドアップへ向ってガンダム とぶ	ノズルが方向をかえ ロケット一噴射	アムロの足、左右のペタ ルをおす	ガンダム・コクピット	降下するドアップ機隊	ガンダム機内のガルマ	ガンダムよろけて着地し そうになる	Wベースより ガンダム発射	ガンダム発進
アムロ 「一つノ」				アムロ 「そこだノ」		ビービ 「うわーっ！ モ、モビルスー ツがノ」と だアノ」				アムロ 「なめるなよノガンダムにだっ て、ジャンプ力とロケット・ノ ズルがあるんだノ」		ガルマ 「フン、でてきたなノ。モビル スーツ奴。しかし所詮は陸戦兵 器ノビービ隊はモビルスーツ を撃破しろノ」			





252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241
バズーカを射つガンダム		迫るガルマ機	る ノズルが火を噴き上昇す	ペダルをふむ	カウンタを計るアムロ	ガンダム・コクピット カウンタ・ダウンする メーター	マシンガンうつ ガンキャノン	ガンタンクをなめ 降下するガンダム	リウ、レバーを前へや る	セイラ、カイとリウに 指示を送る	Wベース・ブリッジ 襲くブライト
	ガルマ 「モ、モビルスーツがジャンプ している?! いや、飛んでいる んだ! 連邦軍だ! なんてモ ビルスーツを造ったんだ!」			アムロ 「八 五 二 :(off)ゼロ」			カイ 「ドップはこれ以上近づかせ ん!」		ハヤト 「了解です! ドップを低空に 入れさせなければいいんですね !」	セイラ 「了解!」 「ガンタンク、ガンキャ ノン、ガンダムが見えて?!」 カイ 「(雑音の中)」「判ってますよ!」 リウ 「(雑音)」「アムロの奴、 すごいじゃないか! ハヤト! 援護するぞ!」	ブライト 「ア、アムロ! ガンダムが空 中戦をやってます!」 「(off)」「なに?」 「す、すごい!」 「無敵解除だ!」 「ガンタンクに指令! ガンダムの着 地の瞬間を狙い!」 「うに援護させる!」


269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	259	258	257	256	255	254	253
ドップ攻撃する	ガンダムおくへゆく	ふりむくアムロ	フラウと落下にうつる ガンダム	フラウ	Wベース・ブリッジ 見守るフラウ・ポウと ブライト		ドップ二機撃破	ガンダム、バズーカを二 発うつ	上昇するガンダム	ガンダム着地して再び飛 び上る	ガンダム・コクピット内 アムロ	コクピットをけとばす ガンダム	ドップのコクピットせま る、ガンダム	飛ぶガンダム	ガンダムのノズルをうし るにむけて一発噴射	ドップ撃つ
	アムロ 「こいつ」			フラウ 「ええ……アムロ、強くなった わね……」	フラウ 「ブライトさん! ア、アムロ があんな強い方をしてる!」 「あ、あいつのいい処だ!」 「ふざこんでいても戦いの事を 忘れちゃいなかったんだよ!」	アムロ 「四つ! 五つ!」					アムロ 「三つ! うん!」					



287	286	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270
アムロの目にスコープゲ ージがうつる	盾にはねる砲		ガンダム盾にはねる砲	ガンダム・コクピットを めガンマのドップ、 機銃をうつ	アムロ	スコープから目を外す アムロ	上昇するガンダム 降下するガンマ機	Wベースのザリッ ブライトふりむく	ズーンと着地、バズーカ を置いてとび上がる	こわれた道路へ降下する ガンダム	爆発するドップ	バズーカうつ	アムロ	ドップの片翼がふきとぶ	ガンダム、バズーカうつ		バルカンをうつガンダム ドップやられる
アムロ 「こっ……これ……は？」		ガルマ 「この化物がぁー！ おちろ／				アムロ（M）「隊長機か？」		ブライト「ハイパー・バズーカの弾がな くなつた！ スーパーを用意さ せろ！」				アムロ 「七つ奴ー！」			アムロ 「六つ！ 次、七つめ！」		
																	

303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	
	反応がない	ボタンをくりかえしおし てみる	焦るガルマ	雲の中のかげへT・U	雲の中のかげへT・U	傷ついたガルマ機ゆく		ガンダム着地してまた飛 び上る			すべりこむガルマ機		ガルマ機の片翼が切ら れる	ガンダムのサーベルが 走る！	目を閉じるアムロ	ガルマのドップ、機銃う ちつつせまる
ガルマ 「どういふことだ?! こちらか らは発信しているはずなのに！」		ガルマ 「きこえないのか! ガウノ 私だ! ガルマだ！」				ガルマ 「フフフ…ガウのビーム砲の 射程距離に入つたとも知らんで、 ガウノ撃て! モビルスーツ を！」		アムロ 「逃がすものか…！」		ガルマ（off）「ガウ! きこえるか! 俺だ! モビルスーツだけを木 馬からひき離す。……（on）ガ ウの射程距離に入つたら、モビ ルスーツを撃ち落せ！」	アムロ 「や、やる……！」					

316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	306	305	304
ガウのコクピット ジャックを手にして いる ガルマ		ミデアのうしろにガン ダ下りてゆく	ミデアのコクピット マテルダ、マイクを持 っている	ミデア機の翼からPAN コクピットへ	うっとなるアムロ	上昇するガンダム ビーム・サーベルをふる	レバーをおすアムロ	ぐうーっと入りこむ ミデア	アムロ、スコープをは いのける	スコープ内、ガルマ機、 山の腹線のむこうにすべ りこむ	銃火流れる ガルマ機のうしろの方に	すっと着地しカメラ前へ 迫るガンダム、バルカン 発射
シャア	ガルマ	アムロ	マテルダ「そこのモビルスーツ、きこ えるか、山をこえると、ガウ の餌食になる、ホワイトベ ースに戻れ！」	アムロ「う、連邦軍の輸送機？」		アムロ「あ、しまった！」			アムロ「畜生ッ！」			

325	324	323	322	321	320	319	318	317
見つめるアムロ	ファイルを脇にシャアと はさむマテルダ	Wベースのブリッジ マテルダ、ファイルを脱 みあげる	手前のミデアから補給物 のコンテナが、コンベア ではこびこまれている		ガルマをめシャア ボンと肩をたたく	ニヤリとするガルマ		
	ブライト「しかし、マテルダ少尉。判り ません。なぜ、怪くも船も現 状のままなんですか？」 マテルダ「さあ……レベール将軍は、ホワ イトベースが、現状の戦いを続 けたいのだと、正規軍と同じ だと言っていました……（off） 今は、連邦軍だつてガタガタな	マテルダ「リード中尉以下のサラミスの 乗組員、連邦軍の病人など三十 五名はひととおりです。ホワイ トベース、モビルスーツについ ての何の決定も知らせておりま せん。で現状のままです。尚、 今までの戦況記録は、レベール将 軍の命令により、コビーをいた だきます。」		ガルマ ア「いや、……判ればいい。シャ ア」	「ま、残念なことは、敵の輸送 機を撃破しようとした時、ガル マの機と一直線上だったのて撃 てなかった。すまんな！」 ガルマ ア「いや、……判ればいい。シャ ア」	「……そりゃそうだ」 ガルマ シャア 「ま、残念なことは、敵の輸送 機を撃破しようとした時、ガル マの機と一直線上だったのて撃 てなかった。すまんな！」	「それにガルマの腕なら、あの 程度のキズはなんなく切りぬけ てくれると信じていた」 ガルマ シャア 「それだ見ていると、私にいった らう？……」 ガルマ 「……」	「レーザースコープで戦いは見 ていたはずだ。私の連絡がなく とも手のうちようはあったらう ！」「だから、ガルマのブライドを 傷つけちゃ悪いと思つてな」 ガルマ 「私のブライド？」 「私にいったらう？……」 ガルマ 「……」

連続テレビ・アニメーション番組

機動戦士ガンダム

UNLDM

録音台本

第10話 (仮)『ガルマ散る』

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

第10話 ガルマ散る

昭和54年6月9日放映

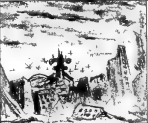
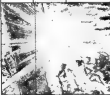
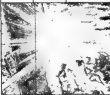
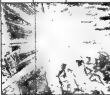
制作スタッフ


●脚本/山本優 演出/藤原良二 ●作画監督/安彦良和 ●作画/林和男・田中健・海藤裕美子・三島美千代 ●背景/アッパル(渡辺毅・渡部孝) ●動画/チェック・浜津守 ●仕上/ディーン(谷かすみ・木村容子) ●特殊効果/土井通明 ●撮影/旭プロ(平田昭文) ●編集/鶴岡友彰・小谷地文男 ●音響監督/松浦典良 ●効果/松田昭彦 ●監修/日向国雄 ●制作進行/草刈忠良 ●設定制作/円井正 A・P/神田量

キャスト & 声優


●阿姆ロ/古谷徹 ●ブライト/鈴置洋孝 ●リュウ/飯塚昭三 ●カイ/古川登志夫 ●フラウ/鶴岡るみ子 ●ミライ/白石冬美 ●シャア/池田秀一 ●ガルマ/森功至 ●ドレン/永井一郎 ●イセリナ/藤恵子 ●エッシュンバハ/飯塚昭三 ●マリーカ/古川登志夫 ●カツ/白石冬美 ●レツ/鶴岡るみ子 ●商人/戸谷公次 ●淑女/井上堯 ●司令/古川登志夫 ●ナレーション/永井一郎

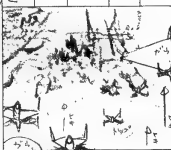
13 (仮)

														S	
														C	
14	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1			
ガルマにとりつくる商人A、B(背中) 聞いてはおりません		パーティ会場 舞くシャンデリア		ニューヨーク市、魔城に沈み行く太陽、軍需施設の塔		サブタイトル # ガルマ散る									
商人B	商人B				N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	
よしなに	「お父上のデキャン絶望には地球におい出になる御子定は……」				<p>「人類が、ふえすぎた人口を、宇宙に移住させる様になって、全に半世紀がたっていった」</p> <p>「地球のまわりの巨大な人工都市は、人類の第二の故郷となり、人々は、そこで子を生み、育て、そして、死んでいった」</p> <p>「宇宙世紀ダブルオー79年。地球に最も近い宇宙都市サイド3は、ジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んで来た」</p> <p>「この十ヶ月余りの斗いで」</p> <p>「ジオン公国と連邦軍は総人口の半分を死に至らしめた」</p> <p>「人々は、そのみずからの行為に恐怖した。戦争は口で言っただけで、今や月余りが過ぎた」</p> <p>「ガルマ散る」</p>										
<p>「人々が、ふえすぎた人口を、宇宙に移住させる様になって、全に半世紀がたっていった」</p> <p>「地球のまわりの巨大な人工都市は、人類の第二の故郷となり、人々は、そこで子を生み、育て、そして、死んでいった」</p> <p>「宇宙世紀ダブルオー79年。地球に最も近い宇宙都市サイド3は、ジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んで来た」</p> <p>「この十ヶ月余りの斗いで」</p> <p>「ジオン公国と連邦軍は総人口の半分を死に至らしめた」</p> <p>「人々は、そのみずからの行為に恐怖した。戦争は口で言っただけで、今や月余りが過ぎた」</p> <p>「ガルマ散る」</p>															

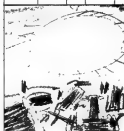
22	21	20	19	18	17	16	15		
イセリナ 大階段の上、歩いてくる	向き直るガルマとシャア ドラの音に見える 音楽高まる	エツシエンバツハ T・ ガルマとシャア	マ シャアのもとへ来るガル 	行くガルマ、うっとりとし てガルマを見る淑女連 A、 B、C	ガルマ札をして、商人の もとをはずれる	来るシャア、ヘルメット を取り、カウンターに置 く	あいそ笑いをする ガル マ、フツと見る		
司 会	ガルマ シャア	エツシエンバツハ ガルマ	ガルマ シャア ガルマ ガルマ ガルマ ガルマ ガルマ	淑女 A 淑女 B 淑女 C	ガルマ		商人 A		
「イセリナ、エツシエンバツハ 様の御見えで御座居ます」	「(off)「市民の保護の為にここに とどまった」 「がんばりなうおやじだ」	「(off)「前の市長のエツシエンバ ツハは彼はジョンを憎んでいる が」	「つい、この間まで、連邦軍を 支持していた連中が我々の占領 した連中にとり入ってくる」 「欲の皮のつっ張った連中には、 勝った方が友って訳さ」 「連中はムシが好かん」 「しかし、奴らがあの木馬とモ ビルスーツの存在を知ったら慌 むには戦線が拡大しきって」 「ガルマ。あの紳士は誰だい」 「うん………?」	「ああ……ガルマ様、いつも、 りりしい御姿」 「しびれちゃう……etc」	「失礼、また後ほど」		「ハハハハ……」 「ハハハハ……」		

32	31	30	29	28	27	26	25	24	23
イセリナ up	イセリナを抱くガルマ	見つめあうガルマとイセ リナ 抱きあう	ホール外より輪舞囃む テラスにガルマとイセリ ナ	冷やかなシャア	ガルマ、イセリナのもと へ近づき、連れて去る	ガルマ、シャアのもとを 歩き去る シャア ニヤツとする	大階段を降りて来るイセ リナ 淑女に寄って来る人達	見あげる紳士、淑女連	歩いて来るイセリナ立ち 止まり礼をする
イセリナ「……ガルマ様」	イセリナ「たとえ父を裏切ろうと私はあ なたのおそばに居ります」 ガルマ「私も父とジョンを裏切るわけ にはいきませんが……」 イセリナ「(背中)「は、は……」」 ガルマ「大丈夫……は……」 「今、連邦軍の機密を手に入れ るチャンスなのです。それに成 功すれば、父として、私の無理を 聞き入れてくれます」	イセリナ「私にはジョン軍も連邦軍も関 係ありません……ガルマ様は ガルマ様……おしたい申ししてお ります」 「イセリナ」	ガルマ「(off)「ジョン軍の総帥たるザビ 家の息子に娘はやれぬとおしし やられた？」 イセリナ「(背中)「はい……」」	シャア「(M)「前線で、ラブ・ロマンス か……ガルマらしいよ、お坊ち ゃん」	シャア「ホ………」 ガルマ「一寸失礼する」	紳士連、淑女連「ハハ……ホホ……」	紳士、淑女連「イヤァー、ホー」		

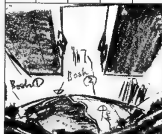
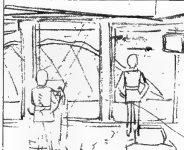
44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33
ガルマ、イセリナの顔に キスをして去る	ニッコリするイセリナ	ガルマ、イセリナの肩を 抱いて	イセリナとガルマなめ 敬礼して去る兵士A	兵士A	驚くガルマ うしろイセ リナ	慌てる兵士A 手前、イ セリナとガルマ	セリナ離れる ガルマとイ セリナ離れる	冷やかに見ているシャア その奥、兵士A走り来る	キスをするガルマとイセ リナ PAN 窓際にシャア居 る	イセリナup	ガルマup
イセリナ「……………」	イセリナ「……………」	兵士A「ハッ!!」	ガルマ 「予定通りだよ……………」あそこに防 衛ラインもある」 私も、機動一個中隊で現地へ向 う!! シャア少佐にも伝える。出動だ」	兵士A 「ここ……………」最後の防衛線を突 破されれば連邦軍の制空圏内に 入られてしまいますが……………」	ガルマ 「何!!」	兵士A 「あッ こ これは」 「構わん 云ってみろ!!」 「ハッ!! 木馬がS-13ボイン トに紛れ込みました」	兵士A 「ガルマ様!!」 「何事だ!!」		イセリナ「ああ……………」ガルマ様」	ガルマ 「それで聞きたどけてもらえね ば私も……………」ジオンを捨てよう」	ガルマ

57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45
考えるブライトに光あて る	アムロ	ブライトなめ オベレ ターA、B	A、B アムロ、なめオベレター	アムロ向き直る	ふりむくブライト		イスより立ち上るアムロ 奥にカイ	Wベースの底、自動車を はねとばす	魔城の街 くるホワイト ベース	魔城の都市フカン 上空 を行くガウとドッグの群 れ	月の群れ来る。 T・B ガウとドッ プの群れ来る。	イセリナ、キッと見送る T・B PAN・up 月
ブライト「いや……………」機動作線に出るの も、突破口を開くのも……………」	アムロ 「アムロ」	ブライト「ガウはいるのか?」 オベレターA「機体はいるようです」 ブライト「戦斗機もついているな」	オベレターA「聴音機のキャッチした 結果です、北から敵機の編隊接近 です」	アムロ「え?」	ブライト「いや……………」そりゃまずい、ち よっと遅いようだ」	アムロ 「ブライトさん、ぼくが先頭に 立っておとりになりましょうか」	ミライ 「ジオン軍は私たちをこの都市 から出さないつもりね」 ブライト「あ……………」 しかし、このままでは……………」					

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58
す 来る ブライト 指令を出	くちびるをかむ アムロ	ブライト	アムロ	思案する ブライト アムロの 声にふり向く	何となるミライ	天井のスクリーン 変わる	ブライト シートより 身をり出し、 更にとび下 りて来る ブライトなめ オペレーター A	照明弾に浮び 上げるアスト ロドーム	光の中の アムロ	光の中、 Wベースブリ ッ	ビルガレキの 間に浮ぶ ホワイトベース	輝く照明弾。 光に浮ぶ 廃墟の中 のホワイト ベース
ブライト「各自は第一戦斗配備のまま待機、光の指示があるまで、物音	アムロ「僕だって民間人です」	ブライト「アムロはガンダム、カイはガンキノン、リムウ、ハヤトはガンタンクで待機だ。まだ我々は民間人をかかえている事を忘れるな」	アムロ「反対します。それでは……」	アムロ「敵から発見されるのを極力さけるため、ホワイトベースの動きを全て停止する その間に敵の動きを捕んで突破口を」 「ブライトさん」	ミライ「どういうこと？」	ブライト「よし、あそこにホワイトベースをかくせ、入るはずだ」	ブライト「ん？ 前に見えたの、あれ雨天野球場場だな」 「えーと、あ、ありますね」 「ブライト「よし、あそこにホワイトベースをかくせ、入るはずだ」		アムロ「し、照明弾！」			



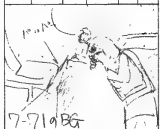
84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71
Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B
Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B	Wベース内 ロービー 不安 老人A 老人B



「つたてさせるな」

「な、なんだ、何が……」
「何をやるのやら……どうせやられるなら、ここで降りよう」


ブライト「180度回頭」
ミライ「了解、180度回頭」

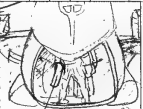
119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106
エッシェンバッハの前に つれてこられたイセリナ	エッシェンバッハ	イセリナをつれて来る執 事達 T・B エッシェ ンバッハの足	A B イセリナをひきずる執事	イセリナを連れもどして 行く執事 A、B	ナ A、B 必死とめる侍女 執事	空艇クルーザ	W ベース前方 爆発がゆ	をゆく	祈るミライなめブライト	W ベース内、緊要するセ イラ	ガンダム内 アムロ	ガンタンクの中 ハヤト	カイ、ガンタンクの中
イセリナ「あノ お父様になって、私を 自由にする権利はないわノ 私	エッシェンバッハ「ジョンの頭目の息子 が、嫁に欲しだとい……」	イセリナ「お父様なぞに私がなに もないのです……」	イセリナ「私は……い、いく処があるの ですノ！ おはなし、おはなし たらノ！」	イセリナ「い……いやです」 執事「おじょう様、さッ」	イセリナ「お前たち失礼ですよ……あ あノ」 執事「おじょう様、さッ」	召使（off）「だ……だれか……来て下さ さい。おじょう様が……」							カイ（うめき声）


127	126	125	124	123	122
シャア をおく	ガルマ	ガルマ、中央のコントロ ールパネルに向う	シャア、マイクを置き乍 ら、手	落ちつかないガルマ 兵 士のそばで計器盤をのぞ きこむ シャア、マイクで話して いる	アイキャッチャー もえる街 ガウとドップ 来る
シャア	ガルマ	ガルマ	シャア	ガルマ	ガルマ
「いつになく興奮しているよう だが……女性の為に功を焦る のはよくない…… おちつくんだ」	「今はそうだが、もともとは君 は、ドズル兄さんの直屬だ、私 だって……」	「こらなったら地上に降りて、 見つけ出すしかない」 「まあ、まあ、そういうことな ら私が自分の部下と下りてみる」 「やってくれるか？」 「あたり前だろう。私は、君の 部下だ」	「連中も、戦いのコツをのみ込 んできているのさ」	「どうだ、本馬は出て来たか？」 「いえ、まだです」 「ど、どこだ……」 「なぞ、でてこないヨ」	「ア、ア、ア……」


前半 おわり

121	120
顔を上げるイセリナ アイキャッチャー	地面に倒れるイセリナ 「あ……」
イセリナ「ガ……ガルマ様…… 井はないで……」	「エッシェンバッハ「許さん!!」 イセリナ「あ……」 エッシェンバッハ「いいか、ジュネット機 のキイは、イセリナに渡すん じゃないノ」 執事 A「は、はいノ 旦那様」

138	137	136	135	134B	134A	133	132	131	130	129	128
シャアを出して	シャアなめコントロールームにガルマの姿	ガウ内 ザク格納庫 シャアの乗ったクレインザクのハッチへ行く	シャア、拡大鏡より目をはなし行く	シャアの目隠く	拡大鏡の中、アストロドームにかくれたザクベース見える	ザクとなるシャア	拡大鏡の中、廃墟の写真次々に変わる	奥座室 入って来るシャア 拡大鏡をのぞく	ガルマ、髪に手をからませ身を引く	シャア入口へゆく	ガルマ // となり前を見る
シャア	ガルマ	ガルマ (off) 「シャア」	シャア 「しかし、これでは駄目ないぞ 知らず他の兵には見つけ出せん」	シャア (M) 「フフフ……既めたぞ 思った通り本馬は潜水の陣をひいてるというわけか」		シャア 「ン？」	シャア 「そうか」	シャア 「どうだ!! 少尉何か見つかったか」	ガルマ 「私がイセリナのために焦っているだろ? バカかな……私は冷静だ」	ガルマ (off) 「うむ」	ガルマ 「……まかせろ」

158	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139
格納庫内 来るガンダムの足	身をおこすガンダム	アムロ ベタルをふみ	アムロ	ミライなめブライト	アムロ	ブライト電話をとって	ミライ、双眼鏡を外して	炎上する街 三機のザク降下	おけるザク三機	おけるザク三機	二機のザクとび下りる	左右に開く ガウのハッチよりとび出す シャアのザク	ハッチにもぐりこむ	ガルマうなづく
		ブライト (off) 「前へ出て待機だ」	ブライト (off) 「そして、そこを、ホワイイトベースでいっきにたたく」 アムロ 「了解」 ブライト (off) 「ガンタンク、ガンキャノンもホワイイトベースの」	ブライト 「そしてさっきの君の戦術でいく。君がおとりになってザクと……できたら敵の本隊もだが、ホワイイト・ベースの前に来るようになんとかおびき出してくれないか、アムロ」	アムロ 「了解」	ブライト 「よし アムロ、きこえるか？ ザクが来る。ガンダムをホワイイトベースの外に出せ」	ミライ 「ブライト、三機のザクが降りてくるわ！ まっすぐこちらへくるみたい」						シャア 「勝利の栄光を君に!!」	ガルマ 「頼んだぞ シャア」

170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154
のり出すシャアのザク ハッと身をすしめる	シャアの頬の下をかいいて	シャアのザク立ち止り 単眼輝やいて左右見る	左へ行くザク 奥より来 るシャアのザク	ビルの向こう、立つザク 手前にくるザク	ガンダムより街をPAN 遠くの方で爆発	アムロ左右をみる	ガンダムの足 着地する	ガンダム ビルの屋上め がけて降下していく	アムロの機銃	アムロの足 ベダルをふ む	ビルの屋上へT・U	アムロ	ガンダム、ノズルをふき 上昇する	ガンダム発射	アムロにGがかかる	ガンダム カタパルトに 乗る
	シャア 「どうも……味方の兵まで、だ ますというのは、性にあわんな さて……木馬からモビルスーズ が出たはずだが……」					「ザク収……どの様に降りたか に注意」						アムロ 「あそこへ……」			アムロ 「行きます」	

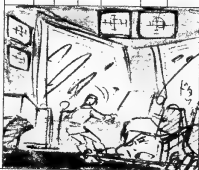
169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154
ザクたじろむ	ガンダム、バルカン火を ふく	射つザク	来るザク	坂の下に落ちるガンダム	苦しいアムロ	くだけるビル のけぞる ガンダム	輝く光を見つめる シャ アのザク、バズーカを射 つ	バズーカの砲身輝く	来るザク PAN ガン ダム バズーカ燃える	アムロ	アムロなめくずれたビ ルの街がみえる	のりだすガンダム	アムロ 左をみて	ザクくる	ガンダムのシルエット ふわとおちる
					アムロ 「しまったア！」					アムロ 「砂だ……いやいる……敵は近 い……」			アムロ 「見つかった？」		

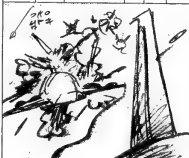
305	304	303	302	301	300	199	198	197	196	195	194	193	192	191
爆破されるビルに身を引くガンダム左へ行く	射つ この辺にあたる	手前 ライフル落ちる	のけぞるザク	シャアのザク PAN 魔道	シャア	バズーカをよけるシャアのザク身をかくす	バズーカ うつガンダム	ビルの下へとびこむガンダム	ビルのカゲよりとび出すシャアのザク	アムロ	ひざまづくガンダム	ゆれるアムロ	ガンダム、シャアのザクのうつバズーカに身をふせる ビルとガンダムくだけてはじけとぶ	残ガいの向うにまわりこむガンダム
					シャア					アムロ		ムロ		
					「モビルスーツめ、やるようになった……」					「シ、シャアだ……あれに当るわけにはいかない……」		「うわー」		

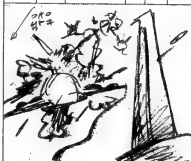
221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207	206
機銃カン振ったガルマ	降下してゆくガウ	ガウ降下してゆく	傾くガウ	モニター内ガルマ	シャア	モニターにガルマを写し出すシャアの手	シャア、ニヤリ	シャアのザクなめアストロドーム内 Wベース見える	出るシャアのザク カット in するシャア	ガンダムを追うザク	ガンダム層でヒートホークかわす、ザクをふりまわしジャンプする	ふりあおぐガンダムザク、ヒートホークをふりかざしてとびかかる	上を向くアムロ	シャアのザク身をかくす	ガンダム構えてうつ
ガルマ 「ビーム砲開けー！ 全機攻撃 スタレバイ」				シャア ガルマ 「追えるか！ 「おうさ！」	シャア 「モビルスーツは逃げるぞ、その先に木馬がいるはずだ！ 「おうさ！」	ガルマ 「待っていた！ シャア！ 「なる程、いい作戦だ…… 仇討ちをさせて貰う」		シャア 「やるな、モビルスーツ奴、我々をおびき出すつもりか？ ということは、木馬はうしろだな！」					アムロ 「うっ」		

236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256
ガルマ 叫ぶ	ガンダム、ザク走る ガウセまる	ガウのガルマ	メガ砲 フォロー	銃身上る	カイ スコープを合わせ	ハヤト	砲上り降下する ガウねらう	ミライなめブライト	Wベイスよりガンタンク、 ガンキャノンくる	機銃でる	Wベイス、ビーム砲でる	主砲出る	Wベイス主砲でる					Wベイス ブリッジ ブライトとミライ	ガウ両翼のビーム砲輝や いている	ガの翼のヘッジ開き、 ビーム砲があらわれ
ブライト (off) 「2 /」	ブライト (off) 「3 /」	ブライト (off) 「4 /」	ブライト (off) 「6 / 5 /」	ブライト (off) 「7 /」	ブライト (off) 「8 /」	ブライト (off) 「9 /」	ブライト (off) 「10 /」	ブライト 「ガンタンク ガンキャノン ホワイトベイスの各砲室、銃撃 手は各々、照準合せノ 十秒后 に一斉射撃」										ミライ 「は、はい」	ミライ 「ブライト、敵の編隊機がいく わ」 「よし、ミライ、位置 にもどれ、攻撃をかける」	ミライ 「よし、ミライ、位置 にもどれ、攻撃をかける」


236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256
ガルマ「うしろだ?!」	兵士 (off) 「うしろから、攻撃をう けました」	ガルマ 「おっ」 「うろっ!!」 「ど……どうした」	兵士達 ガルマ (背中) 「うわあああ」 ガルマ「うろっ……」	床に転倒するガルマ、顔 をおこしのり出す	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ	ガンダム バズーカうつつ
ブライト (off) 「1 /」	ブライト「撃て」																			



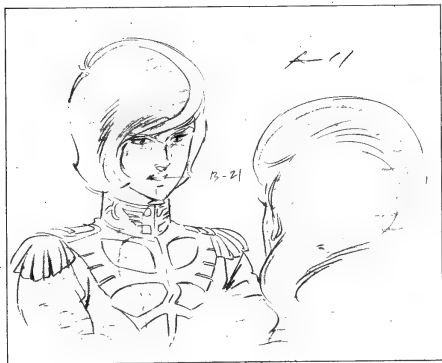
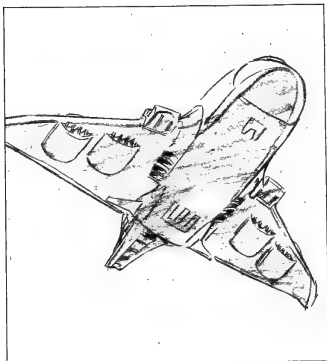
298	297	296	295	294	293	292	290	289	288	287	286
ヘッドホーンをなげる	シャア	頭を上げるガルマ	敬礼をするシャア	シャアのザクなめ 降下して行くガウ	ウ	うっWベース 上空爆発、つい落、煙上するガウ、ドリブ編隊 砲弾に落下しはじめるガウ	うっ大砲	うっ 機銃	Wベース主砲射つ	ガルマ、コロッと立上る	ゆれる司令室 ガルマ指令を出す
ガルマ	シャア	ガルマ	シャア								兵士A ガルマ ガルマ 兵士ム
「シャア……はかったな シャア……」	「……う……う……う……」	「君はいい友人であったが……君の父上がいけないのだよ……フフ（ハハハ）」	「なに!! 不幸だと?」 「シャア……不幸だ……」 「お前は!!」	「フフ……ガルマ、きこえていたら、君の生れの不幸をのろうがいい」					「ガ、ガウを……も、木馬にぶつけてやる!」	「も、木馬です! 木馬がうしろから」 「うっ……く……く……く……」 「上昇しろ」 「む、むりです!」 「180度、回頭だ!」	



262	261	260	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269
ブライト叫ぶ	Wベースなめ接近するガウ	ミライなめブライト	ガルマ	ガウの胴部に命中する主砲	Wベース 主砲うつ	来るガウ	ホワイトベース 垂直上昇 来るガウ		ガウ、Wベースに向って落下して行く ブライトなめ オペレーターA	ガルマ操縦カンをきる	ガルマ操縦席に座る	立ち上るガルマ ヘッドホーンをふみつつ しゅつ来る	パネルにはねかえるヘッドホーン
ブライト「全員、伏せろ!!」		ミライ「ミライ、バワが上げられ ないのか!」 「ふふ、ムリです!」 間に合いま	ガルマ「うおーおー!」				オペレーターA「敵機、一機本カンに向 かって来ます」 ブライト「何だと、ま……まさか……突 攻め、ミライ!!」 上昇だ、上 昇しろ、緊急上昇だ!!」		ガルマ「うう……わ……私とて、サビ 家のお、男だ! む、無駄死にはしない!」			ガルマ「こ……このままで このままで死ねるか……こ……こ…… 「エーイ」	

299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	
アムロ	正面スクリーン、ガレキがうつる	手前アムロ	正面モニター内 プライ ト	上る爆煙とガンダム	Wベースブリッジ 舞き うするとセイラ、ミラ イ頭をあげる	地表に爆突 さらに爆発す るガウ	ゆれるメインブリッジ	砲撃プロットにはいりこ む爆風	ける爆風	Wベース ゲンにふきつ ける爆風	上昇するWベースに爆風 ふきつける	更に爆発する	爆発しながらとびちる破 片	爆発するガウ	イセリナ	ガルマ絶叫 セン光	伏せるセイラ ミライ ガウの翼ふきとぶ
ブライト「(off)「アムロ!! どうした アムロ」			ブライト「アムロ!! よくやったぞ、突 破作戦はうまくいった。これよ り脱出する。爆カンしろ!!」		ブライト「……た、助かったのか……」										ガルマ 「ジオン公園に栄光あれ」 }}}}		
																	

312	311	310	309	308	307	306	305	304	303	302	301	300
デキンザビヘット・U 落ちる	杖、使者の脇にころがり 落ちる	杖を落とす	立ち上るデキンザビ	ジオンの宮殿	サイド3 ジオン公園	木をたたくイセリナ 顔 を起し絶叫する	木の所に来るイセリナ 泣きむせぶ	ふりむくエッシャムバツ ハ	エッシャムバツハなめ ドアに立つイセリナ来る 向き直るエッシャムバツ ハとなるイセリナ 机をパンとたたき走りさ る	朝陽がさし込むエッシャ ムバツハの執務室	エッシャムバツハ邸	朝日の中のWベース
N				N	N	イセリナ「う……ガ……ガルマ様 うう……なぜなの ガ……ガルマ様 ガルマ様……」	イセリナ「(off)「ううう……」 うう……	エッシャムバツハ「……」	イセリナ「お父様!!」 エッシャムバツハ「イセリナ、ガルマは ……戦死したそうだ」 イセリナ「……え……」	エッシャムバツハ「(off)「……そうか、わ かった。ありがと。娘にそう 伝えておこうイセリナ!!」		「アムロ 「わかりました!! すぐ戻る」

お
わ
り

G 機動戦士
ガンダム
UNDAM
舞台音楽

第11話 『イセリナ産のあと』

制作 名古屋テレビ
創通エージェンシー
日本サンライズ

第11話 イセリナ恋のあと

昭和54年6月16日放映

製作スタッフ

●脚本／荒芳久・演出／貞光耕也●作園監督／大塚学●作園／望月重信
●銅木／荒芳久●美術／越智一裕●背景／アート・テイ・ワン●清水昭紀・加藤
鋼島修●監理／越智一裕●振澤守●仕上／シャフト●(森山政子・古安孝恵子
明美)●動画チェック／浜津守●仕上／シャフト●(森山政子・古安孝恵子
明美)●特殊効果／土井通明●撮影／旭プロ。(斉藤秋男)●編集／鶴岡友彰●音
響監修／松浦良一●効果／松田昭彦●監音／日向國雄●制作進行／望月真
人●監定制作／円井正●A・P／特遣量

●キヤスト／古谷徹 ●ブライト／鈴置洋孝 ●ハヤト／鈴木清信 ●リュウ／飯
●アマロ／古谷徹 ●ミライ／白石冬美 ●シヤ／池田秀一 ●ドズル
●長崎芳夫 ●キレン／井上瑤 ●デギン／永井一郎 ●キシリア／小山幸美
●イセリ／澤恵子 ●タロ／古川登志夫 ●ドレン／永井一郎 ●マーカー／
●川口登志夫 ●オスカ／鈴木清信 ●カツ／白石冬美 ●レツ／鶴崎るみ子 ●キ
ツカ／井上瑤
●ナレーション／永井一郎

[illegible]


23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13
ギレン、デギン、ドズル、キリシア	ドズル、キリシア	ギレン	デギン目を伏せ	ドズル身をひいて	ギレン	ギレンなめ立ち止まるドズルとキリシア	デギン笑いをうかべ	ドズル、キリシアくる	正面をみるデギン	ギレンの前のギレン
			デギン	ドズル	ギレン	ドズル キリシア	デギン	ギレン ドズル	デギン 将校 (off)	ギレン
			「……だからだ、……ギレン。静かに……鄭重に……ガルマの冥福を祈ってやつてくれまいか？」	「しかし……あやつこそ、俺さえも使いこなしてくれる將軍にもなろうと……楽しみにもしておつたものを……」	「過去を思い至つても、戦いには勝てぬぞ。ドズル」	「父上……さぞ……」 「残念です。連邦軍のモビルスーツの前に倒れたと？」 「兄貴、俺はまだ信じられん。今にも、あいつが顔を出すんじゃないかと……」	「早かつたな……。二人共……」	「ギレン、わしはただ、ガルマの死を……」	「ガルマの死を無敵にするわ」 「ザビ家末代の活春にかかわります、父上。今は貴重です、あまのりものを利用して、この戦争に勝つておられるわ」	

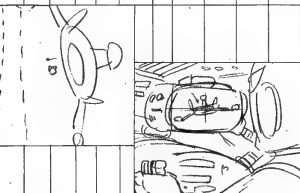
37	6	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24
見つめるイセリナより、 肖像画の前へ歩いていっ て	見つめるイセリナ 歩きます	見つめるイセリナ 肖像画	イセリナなめガルマの肖 像画	見つめるイセリナ 視線を正面にうつす	イセリナより室内	入ってくるイセリナ、見 まわす	ドア開いてダロタ、イセ リナが立っている。中に 入ってくるイセリナ	イセリナなめダロタ イセリナ、ダロタを見る ダロタ、狼狽して	リフティング・フロアア 兵士敬礼	ダロタ、恐縮しながら りむく	立つイセリナ、正面にふ りむく	イセリナなめドア開いて ダロタくる	ロビーのむこう、ガウミ える ゾファにすわっているイ セリナ
ダロタ							ダロタ	ダロタ	ダロタ	ダロタ	ダロタ	ダロタ	イセリナ様
「さぞ……ご無念でございます」							「ここがガルマ様のおもむき本部 屋でございます」 「使いにな、左衛門」	「先日のパイティでも、速くか ら御参拝見いたしました…… いえ、あの、同席した将校はみ ないイセリナ様の美しさを称えて おりました……」		「イセリナ様……」		「お待たせしました」	

46	45	44	43	42	41	40	39	38	
柄の内部をいじっている アムロ	クレイン上、アムロとリ サールの柄をにぎった ガンダムの手 アムロ、リュウ、柄をの アムロ	乱気流の中、飛ぶベ ス	ゆれるブリッジ全景	荷物つめている老婆A、 B それを見ている老人A、 老人C 「俺ら気が短けえ、着地と同時 に一番乗りだ」 老人たち「ハハハハ……ウッ」	飛ぶホワイトベース	イセリナ	ダロタ	イセリナ、ふりむく ふりむいて正面を見るイ セリナ	うしろにひかえているダ ロタ う……しかし……このままでは済 ませません！イセリナ様、我々 は必ず……
リュウ アムロ 「フーン。お前どつちかってい うと、技術者向きなんだな」 「そりですか？」	アムロ 「は、なんです！」 「エアがクソだな？」 「（off）「乱気流に入りました。少 しの間おれませんが大丈夫」 「判ったかい？」 「はい」 安全井が内蔵されていて、 ジャベリンにならなかつたんで す」	「な、なんです！」 「エアがクソだな？」 「（off）「乱気流に入りました。少 しの間おれませんが大丈夫」 「判ったかい？」 「はい」 安全井が内蔵されていて、 ジャベリンにならなかつたんで す」	オベレーターA・ブライト・ミライ「ア ーク」 「強力な乱気流です」	老人B 老人A 「な、いくら何んでもまだ早いぞ」 「な、なに、ここまでは来りや着い たも同じじゃない。連邦軍の迎え い、俺らもこれでもうんざりやう」 「俺ら気が短けえ、着地と同時 に一番乗りだ」 老人たち「ハハハハ……ウッ」	イセリナ「ダロタ中尉」	イセリナ「ガルマ様を殺した憎い敵…… せめて……せめて……矢張りど い、たいのです……」	ダロタ 「ひかし……それは……」	イセリナ「ダロタ中尉」 「は？」 「私を……ガウに乗せて下さい」 「イセリナ様」	う……しかし……このままでは済 ませません！イセリナ様、我々 は必ず……

58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47
ハッチの所にいるガンダ ムとガンキャノン	ガウ三機	ガンダムの足なめガウ三 機	開いていくハッチ	モニター内、アムロ、ヘ ルメットがぶりながら ブライトくる アムロ行く	うしろをみて	ブライトを見て	ミライをみて	ブライト、モニターを まわしリュウうつる	オベレーターB	ハッとみる	アムロ見上げて Wベースすすむ ガンダム、サールの柄 を収める、リュウ下をの ぞいて
リュウ（off）「アムロ、一気にあそこま でジャンプするぞ」できるか ？」			アムロ 「（off）「アムロ、一気にあそこま でジャンプするぞ」できるか ？」	アムロ 「（off）「アムロ、一気にあそこま でジャンプするぞ」できるか ？」	アムロ 「（off）「アムロ、一気にあそこま でジャンプするぞ」できるか ？」	アムロ 「（off）「アムロ、一気にあそこま でジャンプするぞ」できるか ？」	アムロ 「（off）「アムロ、一気にあそこま でジャンプするぞ」できるか ？」	アムロ 「（off）「アムロ、一気にあそこま でジャンプするぞ」できるか ？」	アムロ 「（off）「アムロ、一気にあそこま でジャンプするぞ」できるか ？」	アムロ 「（off）「アムロ、一気にあそこま でジャンプするぞ」できるか ？」	アムロ 「（off）「アムロ、一気にあそこま でジャンプするぞ」できるか ？」

71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59
翼の上に ノンの足	翼の上に ノンの足	傾いていく ガンキャノン もおりてく	かたむく ガウ・コクビツ	ガウの上に おりていく ガンダム、 ガンキャノン	ガウの上に おりていく ガンダム、 ガンキャノン	砲弾行つて ガンダムの 盾にあたり 爆発、爆煙 のなかから 現れる ガンダム、 ガンキャノン	ガウ上部が 開いて砲塔 あらわれ射 つ	ガンダム、 ガンキャノン くる	イセリナな めダロタ	ガウ・コク ビツなめ ガンダム、 ガンキャノン くる	Wベリなめ 行くガン ダムとガン キャノン	とびだす 二体の足
			兵士たち「ワァーッ！」					イセリナ 「ガレド……あれがガルマ 機を……」 「何としてもガルマ大佐の恨み をはらしてごらんにいれますよ、 イセリナ様」	ダロタ 「来たぞ」 「目標を……」 「ムチャに……」		ブライト・ミライ「うりやう」 「二八共、ムチャにとびだすな」	アムロ (off) 「や、やってみます」
												

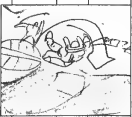
84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72
砲塔発射	方向舵とんでゆき、 粉々になる	銃撃くる、方向舵を なげるガンダム	方向舵をひつべが ガンダム	砲がまわってひつくり 返る兵士	ガンダム、ガウの 方向舵を おろしあげる	立ちあがる ダロタ	リュウ	ビームライフルか まえるガン・キャ ノン、砲塔まわ つて発射よけてし ゃがむ、しゃがんだ まま射つ、砲塔ふ つとぶ	砲塔がガンダム の方を向くと発射 ／／層でうける ガンダムその反動 でぶつたおれる	ガウ・コクビツ	翼の両端にのつて いるガンダム・ガ ンキャノン	逆にかたむく ガウ・コク ビツ
			兵士B「ワァーッ！」			ダロタ (背中) 「二号機、三号機を 援護せよ」	リュウ 「へへっ、砲塔さ えごわしらま えば、ほんたうに たのしみだ」	アムロ 「リュウさん、近 いからすごい威 力があるぞ」		兵士A 「体は小さいが やうやくに射 て、射ちおとせ ーッ！」		兵士たち「ワァーッ！」
												

119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	
はなれるルックン	ルックン爆弾をおとす	シャブ、ニヤリ	機銃よけるルックン	上に向けて射つ砲塔	Wベースのブリッジかすめる機銃	舵をきるミライ	機銃発射	ルックン、空中回転して	銃撃行く、よけるルックン	Wベースの横をすぎるルックン	すでに発射している砲塔 すぐに止まる	ハヤト、ダイツと発射、 レバーをにぎる、しかし 肩がでない、ハツと見て みる、三度にぎりをおして みる、ハツト気がついて 安全装置をはずす、再び にぎりしめる、発射のシ ョックでゆれる、ハヤト びっくり	ハヤトなめ照準内、ルックンくる	砲塔にすわっているハヤト	ルックンくる、ホワイト ベース側面の砲塔がそち らをむく
											ハヤト 「き……来た」 ハツ 「あつ、安全装置が……」 ハヤト 「わあっ」				

131	130	129	
砂嵐のむこう、奇岩のあ	ミライなめブライ	降下するホワイトベース	アイ・キャッチャー
	ブライ「不時着する、全員、何かにつかまれ、シートベルトができればするんだ」		

C
M

	128	127	126	125	124	123	122	121	120	
アイ・キャッチャー	おちていくホワイトベースの下にかくれる	見つめるアムロ	おちていくホワイトベース	ガンダム、ガンキャノンなめ、おちていくホワイトベース	リュウ	ハツとふりむくアムロ	おちてくるホワイトベース	操縦するミライなめブライ	ゆれるブリッジ	ホワイトベースのうしろで爆発
		アムロ「……」			リュウ「ううっ」	アムロ「あつ」		ミライ「だめだわ、パワーのきりがえがきかない、操縦不能」 「ブライ、やられたいのはわかってる」	ブライ「ううっ……」 オペレーターA「やられました、左舷後部です」	


172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	
ハヤトなめカイ	ミライ、パネルをしめて	ブライト、モニター見る 少年Aうつる	パネルをひらいてチェックしているブライト、 ミライ ハヤトが入ってくる	プリント基板の上にテスターの線がおろされる	イセリナ、身をのりだして	ガウなめ去っていく二体	ガンキャノンとささえているガンダム、アムロリュウうつる	ガンキャノンの腕をつかむガンダム、ひっぱる	おちるガンキャノン ガンダムおつてくる	ふつとんでおちるガンキャノン ガンダム追いかけてくる	リュウ	りふきとぶガンキャノン
ハヤト (カイの方に) 「おどろくほど額文にできていますね。ホワイトベ	ミライ 「こっちはOKよ、異常ないわ」	ブライト 「パワーセクション、いけるな少年A 「はい、二十五名の出力減ですが、大丈夫です」	ハヤト 「パワーセクションの応急処置はすみしました。かなりの無理はきくはずですよ」 (ニれで)		イセリナ 「逃がさないで下さい! 絶対、絶対に倒して下さい!」		アムロ 「大丈夫ですか?」 リュウ 「ああ……一応な、いったん地上へおろよう」 アムロ 「了解」				リュウ 「うわ」	


183	182	181	180	179	178	177	176	175	174	173	
再び歩きはじめる	老人たちふりかえって	さけぶブライト	ブライトなめ歩く老人たちの人影が見える	セイラとハヤトも老人たちをおしもどす	老人たちの向うからブライト走ってくる、あとからハヤト、カイ	老人たちをおしとどめているフラウ、老人A、フラウをふりはらつてとびだす	ハッチから老人たち数人が走る	ブライト 行く	セイラ	ハヤトなめブライト、ミライ	ペースつて
老人A 「ジオンがねらっているのはホワイト・ベイスとガンダムだ! わしらは関係ねえ!」	ブライト 「敵が近くにいるかも知れませんが、早くもどるんです!」	ブライト (背中) 「戻りなさい! 危険です!」	セイラ 「おやめなさい!」	ハヤト 「こんなところでおりたつて危険なだけですよ!」	老人たち 「まあもどつてもどつて」	老人A 「いいや、わしらも我慢できねえ!」	ブライト 「なに?」	セイラ 「アムロ、リュウと連絡をとりましようか?」	ブライト 「まだ緊急連絡は受けてないか?」	ミライ 「ええ、まだ異常事態をキャッチしてません!」	セイラ 「アムロ、リュウ!」 (叫び) 「アムロ、リュウ!」 何人かが、勝手に船の外に出ました

237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253
爆発で盾が変質していく	アムロ	ガンダム1の砲身の発射	ガンダムなめ砲弾がガウを買通	ダロタ、イセリナ	ハッとふりむくアムロ	立ち上るガンダム、ジャベリンつきさしぐいぐい切りひらいていく	格納庫、ジャベリンの柄が通過よける兵士たち、お互いにはなれる	はなれていくガウの前と後ろ	さらにガンダム尾翼をたたくきり、とびおる	ガンキャノン、ガンタンクなめおりにくるガンダム	ガウが大爆発	アムロ	リニウ	ハヤト	ホワイトベース	ブリッジのブライトたち
アムロ	「た…盾がもう……もたない…」			ダロタ・イセリナ「ワッッッ」	アムロ「ハヤトか?! ガウ殺し、いくぞォー」		兵士たち「ウワッッ」	兵士C「お……お……」				アムロ「ワッッッ」	リニウ「ううっッッ」	ハヤト「ワァァッッ」	ブライト・ミライ「ああッッッ」	ガウに爆風、破片等があったっている
ダロタ	「ウワッッ」															

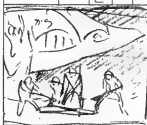
254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271
前面ガラスをぶちやぶつて破片がダロタの腕にいくこむ	イセリナ、キツとなつて	イセリナ	操縦棒おすセリナの手	降下はじめるガウ	ハッと見るアムロ	ガンダムなめ、せまるガウ	アムロ、銃の発射ボタンをおす	ガンダムの額から銃撃	ガンタンクうつ	ガンキャノンうつ	ガウにあたる	コクピットのイセリナ、ダロタ	アムロ	ガンダム、ジャベリンなげる	ガウにささつてそこから爆発	ガンダムなめせまるガウ	アムロ
イセリナ「ダロタッ」	「う…腕が…操縦できない…」	「変ります」	「イ……イセリナ様……」	イセリナ「このままでは……ガルマ様が御可哀想ですッ」	アムロ「むっッ」		アムロ「まだくるのかッ」					アムロ「ま、まだくるのかッ」			イセリナ「モビルスーツ、ガンダム様のカッコいいッ」	アムロ「ワァァッッ」	ガンダムにぶつかると地面をすべっていくガウ



283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272
ガンダムの腹からおりて着地するアムロ、ふと気が	だしてくるイセリナ	それを見る	視線を下にうつす	ガンダムの腹の上をヨロヨロ行くアムロが見える	見つめるイセリナ	イセリナ眼をひらく、ダロタに気づく、ヨロヨロとそちらに行き手をかける、死んでいる前を見る	胸の蓋が開いてアムロ出てくる	アムロ前へ出る	眼をさますアムロ、おきあがって操縦桿に手をかけてうごかす	おちて横たわっているガンダム、ガウ	岩にぶつかって止まるガンダムは反動ではねとばされて手前へおちてくる
					イセリナ「うう……」 「中尉！ 中尉！」 「ダロタ」	イセリナ「うう……」 「中尉！ 中尉！」 「ダロタ」		アムロ「うう……しまった……どこか 回路をやられたな……」 ブライト「アムロ、大丈夫かアムロ」 ガンダムが故障したらしい。 調べてみます」 「よ、よし。ガウに兵がいるかも知れん！ 気をつけろ」 「は、はい」	アムロ「ウワァッ」		
											

301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	284		
おりにいく人々	Wベースのハッチから避難民たちで出てくる	砂嵐の中、ルッタンゆくWベース	シャア、ニヤリとする	ドレン、ニタリと笑う	シャア	シャア、ドレン	見ているアムロ、ガクンと上空をルッタンとび去る	おちるイセリナ アムロ見ている	アムロ	おちていくイセリナ	見つめるアムロ	イセリナおちていく	銃を上に射つ イセリナ、ガクンとなる	アムロ	イセリナ、銃をかまえる	見つめるアムロ	ガウの上に立っているイセリナ		
				ドレン 「……」	シャア 「人には頼りれん。……あ、ドレン。私のモビルスーツは電気系統がメチャメチャに壊されて、使えなかつたことにしておけ」	シャア	アムロ 「度、度くが……お、かたき……」					イセリナ 「ううん」		アムロ 「……か、かたき、だ？」	イセリナ 「ガルマ様の仇き」				

313	312	311	310	309	308	307	306	305	304	303	302
アムロもスコップに砂をすくう。他の仲間もスコップをふる。	イセリナの手は地に砂がのる。	見つめるアムロ	砂をいれるカイ	無言のリニウ、ハヤト、カイ。カイいきなりスコップを使う。	アムロ	拳銃をもったままのイセリナ	四人ともイセリナをみつめている。	トラクタがくる、ガンダムらなめてリニウ、ハヤト、アムロ、カイがいる。	Wベースをおいた人々、一方を指さして	見ているブライトたち	ブリッジなめ、行く人々
		アムロ			アムロ				老人B		
		「……」			「なんという名前の人なのだろう……探くを、かたき、といつたんだ」				「敵だ」 「おお」	「おお」	



G 機動戦士
ガンダム
UNDAM

鐵血合本

第12話 『ジオンの脅威』


制作 名古屋テレビ
創通エージェンシー
日本サンライズ

昭和54年6月23日放映

●脚本／松崎健一 ●絵コンテ／斧谷稔 ●演出／横山裕一郎 ●作画監督／中村一夫 ●作画／中村プロ（西城明・隈岡芳晴・高藤隆） ●背景／アッパル（渡辺毅・渡部孝） ●動画チェック／浜津守 ●仕上／ディーン（田中美和と子・松田典子） ●特殊効果／土井通明 ●撮影／旭プロ（平田隆文） ●編集／瀧田友彰 ●音響監督／松浦典良 ●効果／松田昭彦 ●監音／日向國雄 ●制作進行／八木岡正美 ●設定制作／円井正 ●A・P／神田量

●アムロ／古谷敏●ブライト／鈴置洋孝●リュウ／飯塚昭三●フラウ／新
 崎るみ子●セイヤ／井上瑤●ミライ／白石冬美●シャア／池田秀一●ガル
 ●森功至●デギン／永井一郎●キシリア／小山まゆみ●ギレン／田中崇●
 ラル／広瀬正志●クラン／塩沢兼人●ハモン／中谷ゆみ●側近／戸谷公次
 ●次●ジョブ・ジョン／塩沢兼人●マーカー／古川登志夫●アコース／鈴置
 洋孝●コズン／戸谷公次●キッカ／井上瑤●レツ／鶴岡るみ子●カッ／白
 石冬美
 ●ナレーション／永井一郎

163

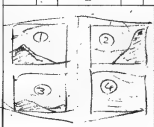
44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34
大きな掃除機でくるカッ、 レッツ、キッカカとハロ	ミライの台詞にムッとする ブライト ミライ、ブライトみる	ハヤトふりむいている	セイラふりむいて	口はもぐもぐしながらサ ンドイッチに手をのばす	食べるアムロ	サイドテーブルの脇に立 ってサンドイッチを食べ る	マニエアルをみて頁を一 つめくる、ひょいとみる、 パツと明るくなる、ひょ いとたつ	ドア閉じるフラウ・ボウ ロ、いいと顔をあげるアム ロ	ハロ、フラウの声に返・ 0	フラウ行く
キッカ・カッ・レッツ「うわー／」	ミライ 三人組 (off)「うわー／」	ブライト「実数値にしてどの程度だ」 セイラ (off)「およそ四十トン」 ブライト「なんでそんなに ておいたんだ／」	セイラ 「メイン・エンジンの三番ノズ ルが表示より二重推力不足です けど」			アムロ「あ／ 食べなくっちゃ」	フラウ 「じゃあね。すぐ、食器とりに くるわ」	ハロ 「アムロ。脳波レベル オチテ ル。甘レレベル……」 アムロ (背中)「大丈夫だよ、ハロ」 フラウ (off)「ハロ／邪魔し ちゃだめよ。 いらっしやう」	アムロ (背中)「ガンダムの予備のコン ピューター……」	


56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45
ブライト、ベットの とびこみ	ブライト、チャッ とみて 反射的に立つ ブライト	戸口のミライ	ブライトふっと目を閉じ	ミライ入ってくる、ドア 閉める	ブライトの部屋 ノックの音に反応して	キッカふりむいて	見送るミライ	シャガむブライト	うっとなるブライト	キッカムカーとして 大ベそになる	ブライト見て ミライ、ブライトをみて
ブライト「なんだ／」 セイラ (off)「ジオンです。大気圏突入 用のカプセルのようです」	ブライト「とも思えんが……」	ミライ「でしやうね。貴方が中心にな る以外ないし、みんな頼りにし ているんだから」	ブライト「判っているよ。言いたいこと は……」	ミライ「別に……」	ブライト「どりぞ」	キッカ「ペー／」	ミライ「え？…… ええ」	キッカ「(背中)「すまなかった。掃除 続けてくれ。頼むな」	ブライト「……三番ノズルをチェック してくれ。……少し、いいな、 ミライ」	キッカ「あ、遊んでんじやないや／あ、 う、う、うエー／」	ブライト「ここは遊び場じゃないんだぞ！ でいてくれ」 ミライ (背中)「ブライトさん／」

121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110
スクリーンに四方拡る波うつる	すっと立つラル	ザンジバルの素敵兵ふりむいて	アムロ、リュウの手をどけるようにして	リュウ、バツと毛布をはぎとり平手打ちを加えてランニングシャツをつかんでひっぱる	アムロ毛布を抱いているうずくまっているアムロ	アムロ毛布を抱いているうずくまっているアムロ	アムロ毛布を抱いているうずくまっているアムロ	アムロ毛布を抱いているうずくまっているアムロ	アムロ毛布を抱いているうずくまっているアムロ	アムロ毛布を抱いているうずくまっているアムロ	アムロ毛布を抱いているうずくまっているアムロ
素敵兵	ラル	素敵兵	アムロ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	ミライ	ミライ	ミライ
「木馬が完全にきえました。……レーザ・サーナの網からもぬけたようです」	「ふむ。しかし、この暴風圏からは脱け出しはせん。滞空時間の許す限り、搜索を続けるノ」	「ハッ！ 百八十度、赤外線カメラノ！ 開放ノ！ 聴音センサ！ 反応ありませんノ！」	「判つてますよ……ぶたなくったつていいでしょ？」	「ホラノ！ 立てノ！ 立つんだノ！」	「アムロ、アムロ……」	「アムロ、アムロ……」	「アムロ、アムロ……」	「アムロ、アムロ……」	「ホワイ、ホワイ……」	「ホワイ、ホワイ……」	「ホワイ、ホワイ……」





132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122
アフトパーナをふいてみえなくなるコムサイ	ブライト前方をのぞいて	ホワイ、ホワイ……	アイ・キャッチャー	アムロ、耳に手をあてやがて顔をあげ、サンバイザー上がる	アイ・キャッチャー	リュウふいとのぞく	リュウふいとのぞく	リュウふいとのぞく	リュウふいとのぞく	リュウふいとのぞく
「……このヘルメット、おかしいですよ、……苦しいんだ……」	「……このヘルメット、おかしいですよ、……苦しいんだ……」	「……このヘルメット、おかしいですよ、……苦しいんだ……」	「……このヘルメット、おかしいですよ、……苦しいんだ……」	「……このヘルメット、おかしいですよ、……苦しいんだ……」	「……このヘルメット、おかしいですよ、……苦しいんだ……」	「……このヘルメット、おかしいですよ、……苦しいんだ……」	「……このヘルメット、おかしいですよ、……苦しいんだ……」	「……このヘルメット、おかしいですよ、……苦しいんだ……」	「……このヘルメット、おかしいですよ、……苦しいんだ……」	「……このヘルメット、おかしいですよ、……苦しいんだ……」



145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133
見降すラル	雷光ってホワイトベース うき上る、そこへザンジ バル入り込む	ミサイル、コムサイの間 をゆく。ザンジバル追 いつく	ミサイル発射するホワイ トベース	風雨の中、主砲が上がる	ブライト、マイクに向 ってさげふ	輝く光がブラウン管に うかぶ	ザンジバルゆく	上ってくるザンジバル	スクリーンをみるハモン とラル	コムサイの背中から信号 弾が上がり閃光となる	パイロットと乗組員	ターニングコムサイ
ラル 「ホウノ あれが噂さの木馬か。 データーを集取しろよ、かかれ					ブライト「主砲開けノ ガンダム、ガン キャノン発進用一発。……」 「撃ちでいい、ミサイルも発射だ 」	オペレーターB「敵機接近ノ」		兵B 「ランバ・ラル様ノ今、発光信 号がきましたノ 後方七時の方 向ですノ」 ラル（背中）「稲妻の見間違いではない のだな」 「はい」 兵B 「よしノ 急速ターンノ」		パイロット「間違いないのか」 「は、はい。磁気反応が強すぎ ます」 パイロット「発光信号F Wだ」		

157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146
ハッチ開いてゆく	ハモン手をあげる	ラル、パネルをみて	ボグとともにる単眼	ラルなめザク二機と手前 のビグがみえてくる	入口からクレインででて くるラル	ラル、ヘルメットをかぶ りおわってふつと口づけ をして出て行く	ハモン微笑をたたえてい る	リムウ、アムロの手引き 歩む	通路を歩むアムロ	ホワイトベースの機銃応 戦する	コムサイ銃撃する
ラル（OFF）「ハハハ……。あせるなよ。ハ モン」	ハモン 「戦果を期待します」	ラル 「アコース、コズンノ 我々が 地球で斗うのは初めてだノ 敵 のモビルスーツが出てきて、敵 深追いはするな」 アコース・コズン（OFF）「了解ノ」 ラルス「ハモン、いってくる」		アコース（OFF）「ハイノ 中尉」 コズン（OFF）「準備オーケーです」	ラル 「アコース・コズン、用意はい いかノ」	ラル 「わたしもそうだと。この方が似 合っていると思う。では……」 兵には、手を出させるなよ」 ハモン 「はい」	ハモン 「やはり指揮官らしくおさまっ ているあなたより、こうやって 出撃なさる時のあなたを見る方 が好きだわ」	アムロ（呼吸音）「ハッハッ ハッ ハッ ハッ ハッ ハッ ハッ ハッ ハッ ハッ ハッ」			1ノ

171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158
テレビにリュウうつる	受話器にさげぶブライト	ミライ、前方をみすえ	ザンジバルの上空 二機のコムサイゆく	パイロット ハモンのぞいて の音がきこえる	コムサイ二機、手前に上 昇する	コムサイ、ターンする	ホワイトベースうつ	ターンしてうつコムサイ	ワイトベース、主砲をうつホ ワイトベース	尻もちをつきつき下りる ザク	ズーンと落地するグフの 足	グフと二機はザク降下す る	ハッチ開ききる、グフに つづいて二機はザクがラ イフルをもつてとび下り てくる
リュウ	「実は、アムロが新米の兵隊の よくかかる病気になるっているん だぞ！」	ミライ 「どういこと?! ブライトノ コムサイは離れてゆくわ」 「燃料の問題だろ。これで、こ っちにも勝ち目は出てきた。 ガンダムノガンキャン、出撃 どうしたノ ザクは降りてい るんだぞ！」		ハモン 「御苦労でした。基地へ御向い なさい。すぐ、おいかけまし ょう」 パイロット(ox)「了解ノ 御武運をお 祈ります」	パイロット「申しわけありません。我々 はこれ以上現在地に滞空するわ けにはいきません」								
 													


185	184	183	182	181	180	179	178	177	176	175	174	173	172
アムロなめ山がせまって くる	ガンダム発進	アムロにずんと光がかか る	セイラのりだして	セイラにE・O	ブライ、キャとふりむ いて	アムロ え?となつて 下をみて	モニターにうつるセイラ	カタバルトにのつている ガンダムの足、ハッチが 開いてゆく 速くに機を 開いてゆく	と、リュウ、コクピット からでてゆく	アムロ表情をビクッとし がめる	リュウ、アムロのサンバ イザーをたいて、リュウ はアムロの手をとって レバーを握らせる	ふりむいて ストリーンの中のリュウ	ブライのりだして
		アムロ 「うわ!!」	セイラ 「アムロノ しっかりしなさい ノ」	セイラ 「り、了解ノ」	ブライ 「かまわんノ セイラ、ガンダ ムを発進させろノ」	セイラ 「アムロ (ox) え? ええ。セイラさん」 「返事がきこえないわノ」 「いいですよ。発進でしよ?」	セイラ 「アムロノ 聞えて? カタバル ト機銃終了ノ 射出するわよ」	リュウ 「アムロノ 発進するぞノ い いなノ」	リュウ 「アムロノ いくぞノ 発進 だノ」	リュウ 「アムロノ 出撃だノ」	リュウ 「荒療治ってわけか。」	ブライ 「なんだと?!! アムロにも出 撃させろノ、それしか……ザク はふせげん」	だノ


202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186
アムロ首をふって	二機のザクを従えたグフ立つ	ギランと輝くガンダムのひとみ	目を見るアムロ	立つガンダム	ガンダム立とうとする	足が地を踏む	アムロはげしくまばたく	地面におちるガンダム	手前におちるガンダム	身をひきつつ盾をあげる、ガンダムがふっとぶ、触手がひく	風雨の中、グフの触手がとんでくる	アムロ首をふって、ブレおさまる、アムロみる	ガンダム腹をこすりつつも上昇膝でぐんと岩をけつてはなれる	ノズルが下をむいてロケットを斉射	倒す	アムロ はっとする
アムロ 「……ノ、ちがうノ……新型のモビルスーツだ……」			アムロ 「ザ、ザクか？ ま、まさか……」				アムロ 「な、なんだ……」					アムロ 「うう、う……ノ、うノ」				アムロ 「うわーノ」


219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203
はじける	クラッカラーくるや四方へ	ハッと身をひくアムロ	クラッカラーがとぶ	ザク左手をうしろにまわして何かをなげる	アムロ悲鳴をあげる	ガンダム集中砲火をうける	三機のモビルスーツザクとグフが砲撃している	おどろくアムロ	下から上ってきて着地するガンダム	ガンダム、爆発の収まりかけの山頂へとびあがる	アムロ カッノとなり	グフの炮に直撃弾あたる	ホワイトベースの主砲火をふく	立っブライト	グフよりホワイトベースへ	グフその全容
	アムロ 「なんだ?！」			ラル 「アコースノクラッカードノ」	アムロ 「うわーッノ」			アムロ 「しまったノ」			アムロ 「よ、よおーしノ 行けぞ。砲撃をやめてくれノ」			ブライト 「ジオンの新型モビルスーツ?！ リムウノ、カイノ、アムロを援護しろノ！ ホワイトベース各機銃座援護急げノ！」		

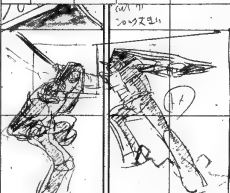


236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220
る レーザー光がロッドに走	グフにつまるガンダムP AM	おどろくアムロ	レーザーロッドがバズー カにからむガンダム。つ んのめる	手前からロッドゆく	ガンダム、バズーカを構 える	右手をふるとロッドのび る	ラル ニヤリとして	盾に直撃が当り盾がふる える	バルカンをうつガンダム	ジャンプするグフ	ハッとするアムロ	着地するガンダムの足	コクピットのアムロ	爆発が散る はじけるガンダム	ガンダムの前で爆発する	クラッカーのはじける中 ガンダム後退する
		アムロ 「あ!!」					ラル 「こ、これは……し、しか な!!」				アムロ 「あ!!」		アムロ 「こ、このオー!!」			

251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240	239	238	237
ゆくグフと爆煙がはれて	ガンダムの前に着弾する	排ガスでる	撃つ	リュウ UP	ガンタンクくる	ザクの前に着地するグフ ラルロッド・1として	身をひくグフ	ガンキャノン身をはずめ るヤメラに向かって撃つ	ラル 唖然として	めつつ着地するグフ	アムロ、シートにおさえ られる	尻もちをつくガンダム	バズーカ外れてゆく ガンダム盾を出して防ぐ バズーカの弾体が爆発する ふっとばされるガンダム	ガンダムの手つきとばす ようにおしてはなす
				リュウ 「ハヤト! 急げ! 援護射撃 心配だ!!」		アコース (H) 「う!! あれもモビルスーツか !!」			ラル 「やる! あれもモビルスーツの パイロット奴ノよくも自分の バズーカの弾の爆発でやられな かったものだ」		アムロ 「うわ!!」			
						アコース 「ラル大尉、右から!!」								

265	264	263	262	261	260	259	258	257	256	255	254	253	252	
ガンダムのパンチが入る	さけぶアムロ	上下からせまる二機	身をひくラル	のりだすアムロ	盾にロッドがうちこまれ盾がへこむ	盾をふりまわすガンダム	盾をふりまわすガンダム	左の側壁にぶつかるアムロ	スパークの舞やぐ中、ガンダムの体はうきあがりとんでいる計がカメラの前にきて、岩をけずりめりこむ	リュウのりだし	空中から降下するグフ走るガンダム	アムロ	ガンダムも走る	走っているラルOUT・inするラルがOUT・outするとボンと上昇するグフ
アムロ「うおおお」	アムロ「うわーっ」	ラル「う!!」	アムロ「うわーっ」	アムロ「うわーっ」	アムロ「うわーっ」	アムロ「うわーっ」	アムロ「うわーっ」	アムロ「うわーっ」	アムロ「うわーっ」	アムロ「うわーっ」	アムロ「うわーっ」	アムロ「うわーっ」	アムロ「うわーっ」	ラル「アコース、コズンは、うしろの二台のモビルスーツにしかける。私は白いのをやる」
														






284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266
ガンキャノンうつ	ザクの撃つむこう、ガンキャノンがジャンプする	爆発をとびのぐグフ	ガンタンクうつ	リュウ	同じくアムロ	たおれるガンダム	ふつとぶガンダム	体が浮くアムロ	脇腹にまわし蹴りこまれる	グフのつまさがせまる	同じくラル	力を込めるアムロ	盾がサーベルをふり下ろす	ガンダムの手首にぶちあたる	グフの盾が上がる	サーベルが抜かれる	ニッと笑うラル	ラルの身体がうきあがり
				リュウ	アムロ「こ、こいつ………違うぞ、ザクをなんとか装甲もパワーも……」			アムロ「うわーっ」			ラル「ザクとはちがうのだよ。ザクとは」	アムロ「……う……う」				ラル「やるな」		ラル「うわ……」
																		



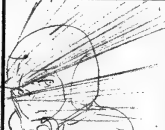


296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285
同じくアムロへ	白の画面になる	ザンジバル主砲撃しているわーっとと投光	ハモンの前に上ってくるダフ	ザンジバルの腹の中に入ってゆくダフとザク	猛烈な爆発の手前、ワイヤに付かまっていたダフとザク二機上昇	ビーム砲で応戦するホワイ・ト・ベース、前方、弾幕でもみえない	ガンタンク、ガンキャノンの撃つ前をガンダム立ちあがる	山のむこうにジャンプするラルのダフ、追いかける砲撃、手前からFr・inしてゆく二機のザク猛烈な支援砲火をうちつつ降下するザンジバル	ラルの顔面に時々爆発の照り	次々と砲撃がせまる中後退するダフ	ガンダントラウ
アムロ 「な、なんだっ！」			兵C（背中）「バック、収束終了、ロック急げ」 「ブリッジに伝えよ。目くらまし巨大投光機用意。戦線より離脱する」						ラル 「アコース、コズン、後退しろアコース・コズン」(G)「了解！」		

309	308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297
サンダラスにギレンがうつてる	ダラスにうつているテレビのギレン、すつとダラスが上がる	ハモン、ラルみている	ザンジバル、雲海の上朝日に向つてとぶ	ガルマのステール前のギレン	一同スクリーンを見守る	ふりむくブライトFr・inするリュウ	ハヤトのわきリュウ、アムロ入ってくる	ブリッジ内のスクリーンギレンが演説をしている	光のうず、遠ざかるザンジバル ヤがてバツと暗転！ フーッとあらわれるアムロ	巨大な光のかたまりが上昇してゆく	同じくブリッジも	ホワイトベースも光の中
シャア（G）「戦いは、ややちついた。」				ギレン 「一握りのエリートが、宇宙に支配されて五十余年！た地球連邦を宇宙に住む我々が、自由を要求して、何處、連邦にふみかじられたか思い出さうがよい。ジオン公国のかげろ人種一人の自由のためには、戦いを神が見てるわけではない。私の弟！諸君が愛してくれたガルマ・ザビは死んだ！なぜだ？」		アムロ 「はい」	ブライト 「正しいからだ！」 「ジオン奴！あてつけに実況放送を世界中に流している！アムロもみておくんのだな」	我、ジオン公国の戦争目的が…….. 「正しいからだ！」 「ジオン奴！あてつけに実況放送を世界中に流している！アムロもみておくんのだな」	ギレン （G）「我々は一人の英雄を失った！しかし、これは敗北を意味するのかわ！否！初まりなのだ。（G）地球連邦に比べ、我々……（G）地球連邦の一分一厘以下である。にもかかわらず今日まで戦いぬいてこれたのはなぜか！諸君！		ブライト ミライ「あー！！」	



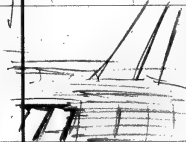
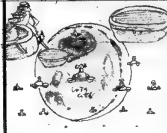

S.	ビグチュア	内容	セリフ	秒数
	ガンダム・オープニング			
1	7" 90"	地球の その部分 太陽が54% (F1) 地球のまわりに 細い光のリングが ある。		0 30
0	A B C D	以後 DEZスター TIV.		
	E F G H	8本の通水 F1. → F2. 2" 4" 5" (8) (1) (2)	各々1枚は9K C-SH.	
		32. BG AL (70% H) 100% BG 2.		10 32

(V2+8)


S.	ピクチャア	内容	セリフリ	秒数
1		新トウゴ スライディング (オールロウズトル)		200
		新トウゴ スライディング (オールロウズトル)	もみか もみか もみか ガンタ	621
2		ニコニコ 着るから くら (ノコル)	き け	
		ヘルム ニコニコ くら	よ	
		ヘルム ニコニコ くら	よ	310






S.	ビクチュア	内 容	セ リ フ	秒 数
3		ずとこつづつ、 (ア.1.70)	し ホ	
↓		そのJCSに アイトセイス きょ. カ. ハ. H. クウ. カ. サ. H. (ア.1.65) fix H. H.		3 10
4		(ア.1.60) , ホ. H. H. H. H. K. H. H. H. E. H. H. H. H. ア. H. H. H. H. (ア.1.55)	HP まじ.	
↓		ア. H. H. H. H. ホ. H. H. H. H. H. H. H. H. H. (ア.1.50)	ア. H. H. H. H. H. H.	
↓		カメラ動画の ビクチュア サンバイカー に. カメラを 鏡を握る	まじ.	3 8

(6.4.4)






S.	ビクチュア	内 容	セリフ	秒数
5 6		（2分） OKサインはすて	SF 斗志か あつちう	
		キアノーといて		
		トムと美奈のドアアライ-		3/10
7		エアとカイト 中心にいた ムサシの お友達	SF 巨大 敵を	
		手裏剣を せりとずつ つ敵を		3/15





(7分)



S.	ビクチュア	内容	セリフ	秒数
8		ガンキノン 撃つ	うてよ	019
9		ガンタンク 撃つ	うてよ	12
10		ガンダム ザンバールをこぼす	うてよ —	17
11 12 13 ↑		ゴアファイター のガッパをこぼす	正義の	
↓		有るおれが こぼす。 キャバローの 芝居をこぼす。	おれが	







No.	ビジュアル	内容	セリフ	秒数
5		上昇する 中で変か おかしな事		3'11
6		下からーん ガンダムが下を歩	ーんーん ーんーん	
7		（さーん） フルサイズ とから入りに とキキ		1'15
8		にキキトキキ	キ キ キ	
9		クーン アタフ的に アクションへ入る あうアクション		1'13







1645







S.	ビジュアル	内容	セリフ	秒数
14 15 16		キーンと 目が輝きつ まわりこん だ (ズラフ・ミルカー)	村 動 村	
		格(シールド)	こ	30
			か ら か ら	
		くんとサーベル ぬいて決める (ジ・レオン)		18
		くんと くるカッター (Fr.O. 予)	か ら か ら	21 849

S.	ビクチュア	内容	セリフ	秒数
17		リョウ、ハト、 セイラ、アツシ ミコ	ふみかこーる	121
18		ハルヒ アツシ、ミコ	ふみかこーる	117
19		ハルヒ、アツシ	ふみかこーる	116
20		ハルヒ、アツシ を構える	カミタ	116

日本サンライズ			
日	ビジュアル	内容	備考
23		404. N-2	
24		404. N-2	
25		422.6	
26		422.6	
27		422.6	
28		422.6	

日本サンライズ			
日	ビジュアル	内容	備考
21		404. N-2	
22		404. N-2	
23		422.6	
24		422.6	
25		422.6	
26		422.6	

日本サンライズ			
日	ビジュアル	内容	備考
①		404. N-2	
②		422.6	
③		422.6	
④		422.6	
⑤		422.6	
⑥		422.6	

日本サンライズ			
日	ビジュアル	内容	備考
20		404. N-2	
21		422.6	
22		422.6	
23		422.6	
24		422.6	
25		422.6	

G 機動戦士
ガンダム
UNDAM
録音台本

制作 名古屋テレビ
創通エージェンシー
日本サンライズ

第13話 再会、母よ……
昭和54年6月30日放映

●脚本・星山博之・演出・藤原良二●作画監督・安彦良和●作画・田島孝一・伊藤誠・戸川俊信・前島和子・青貴・アトリー・テイク・ワン（東條修・濱須野幸）●動画・チエコ・浜津和・仕上・シャフト（三橋曜子・渡井・井太）●特殊効果・土井通明●撮影・旭プロ（斎藤教明）●編集・鶴岡友之●美術・現像・東京現像所●音響監督・松浦典良●効果・松田昭彦●監音・日向雄雄●録音・監音スタジオ●制作進行・量住政弘●設定制作・円井正●A・P・神田量

●アムロ／古谷徹 ●ブライト／鈴置洋孝 ●リュウ／飯塚昭三 ●カイ／古川

登志雄●フラウ／獲飼るみ子●ミライ／白石冬美●セイラ／井上瑤●テム

／溝川元夢●将校／戸谷公次●アムロの母／浜田敏子●おはさん／片岡千恵蔵

● 校 ● 兵士 / 電 田 道 橋
● 上 / 中 / 大 牛 一 部

●ナレーション・イン・ボイス・オーバー

185

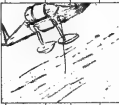
38	37	36	35	34	33	32B	32A	31	30	29	28
落ちるコイン→PAN 兵士X・Yとおばさん おばさん歩き来る	リンゴをかじる兵士Xに 追るおばさん。いらだつ 兵士X、お金を放り投げ る。	立ち止まるアムロの足な め兵士にからまれたおば さん。	かける、アムロ?! と なる。	アムロ、家よりかけ出し て来る	現実。 アムロにからむ兵士A	アムロのUP	アムロに接吻をくりかえ す母	母、ふとアムロをみてか がみつむ	アムロ、母を見上げてい る	回想、まだ若いテム(父 親)と母に手をつながれ ている幼いアムロ	アムロの持つ人形にT・ U
アムロ(Off)「やめろ!! おばさん」	おばさん「あっ!!」	おばさん(Off)「お願いで、お金を……」	おばさん(Off)「お願いで、お金を……」	兵士A 兵士C(Off)「ビヤハハハハハ……」	兵士A 「どうしたの坊や、おままだと!! ……それともママがこいしくな ったのかい(へへへへへ)……」			母 「……ごめんね。アムロ、あた しは宇宙の事しつてなじめなかつ て」	母(Off) 「それは、判りますが、でもわた くしは……」	テム 「アムロと離れるのが、いやなら お前もくればいいんだ」 母(背中)「でも……宇宙にでるのは…… テム 「サイドの建設を一度みてもら そりゃすばらしいものだよ」 アムロに見せておきたいんだ」 「それは、判りますが、でもわた くしは……」	


54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39
アムロ、上体をおこす	兵士X、去る	兵士X・Yを制するおば さん	おばさん	おばさん行く	立ち上る兵士X、アムロ をけとばす。アムロに からむ兵士X・Y。T・B おばさん	倒れこむアムロ。のり出 すが尚もけられる。	兵士Xをなじるアムロ、 兵士Yにけとばされる。	人形がころがり落ちる	体あたりをするアムロ 二人もみあう	アムロにつかみかろう とする兵士X	アムロ、ぐっと身をひく	アムロに近づく兵士X・ Y	おばさん、はっと気付く	兵士X・Yかけて来る ダダッとかける	拳を握ったアムロ
おばさん 「なにを、この」	兵士X 「なにを、この」	兵士X 「なにを、この」	兵士X 「なにを、この」	兵士X 「なにを、この」	兵士X 「手前みたいなのはヨッコに何が判 るんだ! この町に俺たちがいいな かったら(こぼす)」	兵士X 「うわ」	兵士X 「うわ」	アムロ 「うわ」	アムロ(背中)「拾え!!」	兵士X 「なにを、この」	兵士X 「拾えと言ったんだ!!」	兵士X 「子ぞう!!」もう一度言ってみろ 兵士Y 「生意気なっ!!」	おばさん「あ、あの子はい!!」	兵士X 「な……なんだとこいつ!!」	アムロ 「拾っちゃだめだ!! 兵隊にひろ つてもらうんだ」



65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55
Wベース	行くルッガン2機P・D陸地	ルッガン、コクピット。ジョン 兵士E・G	ルッガン来る	走り去るアムロ	おばさんの話もそこそこに立上るアムロ	パツと明るくなるアムロ	おばさん	アムロとおばさん	アムロ、バックに人形を入れてる。	風見鳥P・A・N座ってる、アムロとおばさん
S・E オペA (off) 「各員、艦内に戻れノ 艦内に戻れノ 敵機発見、対空戦闘急げノ」		兵士E 兵士G 「敵さん、完全撤退したな」 「戦斗機、一機も御出迎えなしじゃ機銃がさびつくぜ!!」 兵士E (off) 「これも任務さ」 兵士E (off) 「こちらルッガン3。304地区異常なし!!」 声 (off) 「了解!!」		おばさん 「ほら、教会があるの覚えてるかい、あの丘だよ。コミリとよく遊びにいったろ?」 「おばさん、ありがとう!!」 「気をつけて行くんだよ!!」	おばさん 「はい、生きてるんですね」	アムロ 「いや、手紙もらってないのかい? お母さんなら避難民キャンプでボランティアやってるよ」	おばさん 「おや、手紙もらってないのかい? お母さんなら避難民キャンプでボランティアやってるよ」	アムロ 「いえ……」	おばさん (off) 「生き残った兵隊さんは本部から見捨てられちゃってね。仲間が助けに来ないもんだからあんな風になっちゃって、いやだね戦争って……」 「そうか……コミリは死んだのか」 おばさん 「娘だけじゃないよ、主人もね……あたしだけ生き残るなんて、因果なものさ……お母さんにはあったんだろう」	おばさん (off) 「生き残った兵隊さんは本部から見捨てられちゃってね。仲間が助けに来ないもんだからあんな風になっちゃって、いやだね戦争って……」 「そうか……コミリは死んだのか」 おばさん 「娘だけじゃないよ、主人もね……あたしだけ生き残るなんて、因果なものさ……お母さんにはあったんだろう」

78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66
ルッガン逃げる	リュウ、レバーを押す	奥のルッガンやられる 手前ルッガン降下する	コアフアイター銃撃	リュウ	飛ぶルッガン2機。後方来るコアフアイター	ブラシ、雲の中に入って行くコアフアイター	コアフアイター	Wベースより射出される、コアフアイター	発達するコアフアイター	リュウ、発達	コアフアイターロケット噴射	Wベース、格納庫、ハッチ開く
リュウ	兵士G 「にがすか……!!」	兵士の声 (off) 「うわお……」 兵士G 「こ、降下しろ!!」		リュウ 「おそいわ!!」	兵士E 兵士G 「敵か!!」 兵士E (off) 「戦斗機のようにだ……い……うしろにまわられた」 兵士G (off) 「な、なに!!」			リュウ 「了解ノ いきますノ」	ミライ 「OK、発達路クリアー、コアフアイター発達、どうぞ」	リュウ (off) 「コアフアイター発達準備完了」	ミライ 「OK、発達路クリアー、コアフアイター発達、どうぞ」	ブライト「敵か?!」 オペレーターA「はい、味方の識別信号を出していません、海上10キロをこちらへ向っています」 「ボワイター・ベースを発進させます?」 ブライト「いや、かえって発見させやすくするだけだ」 ミライ 「そうね」 ブライト 「敵の本隊に連絡されては面倒になる。先手を取って、叩きおとすミライ」 「はいノ」

98	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79
老人P・Q他避難民 老人Pのり出し	コアフアイター降下し着 地する	子供達、それぞれにふり 返り走り出す	避難民達！ と見返る	コアフアイター内、アム ロ、下を見る	赤十字の旗、人々見える 赤十字の旗なめコアフア イター飛来する	避難民 キャンプ+PAN 教会 赤十字の旗、人々見える	後ろを気にしながら	銃機をかわすコアフアイ ター	銃機をかわすコアフアイ ター	ルッタン射つ!!	ルッタン射つ!!	ルッタン射つ!!	ルッタン射つ!!	ルッタン射つ!!
老人P 老人Q	老人P 老人Q	子供達	避難民達「?!.....あ.....」	アムロ			リムウ				兵士G			
「おい……あいや、連邦軍の戦 機じゃあないか?!」 「た、たしかにそうだ」 「まずいぞ、これは……」		「ワッ!!」 「なっ、なんか来るぞ」 「飛行機だよ」 「行ってみようぜ」		「ここだ!! ここに母さんが」			「バ……パトロール機のくせにー !」				「うて!! うて!!」			
														

106	104	103	102	101	100	99	98		97	96B	96A	95	94
抱き合うアムロと母	母、前へ出る	ハッとはじけるアムロ	母と見合うアムロ	母 UP	ふり向くアムロ	ヨロツと来る母	老人P・Qなめアムロ立ち去ろうとして母の声にふり返る		アムロなめ老人P・Q	アムロえっ? なる	コアフアイターよりかけて来るアムロ、老人達に制される	コアフアイターより降りるアムロ	コアフアイターより立ち上るアムロ
アムロ	母	アムロ		母	アムロ	母	アムロ (off)	老人P 老人Q アムロ (背中)	老人P 老人Q アムロ (背中)	老人P 老人Q アムロ (背中)	子供達	子供達	
「か、かあさん!」	「アムロ!」	「……か、かあさん!」		「ア、アムロ。」	「……か、……母さん!!」	「……アムロ。」	「……わ、わかりました」 「ア……アムロ……アムロかい」	「いはいや、あの山の向うには敵の前線基地があったなア……一日一回見廻りに来るんじやよ」 「そいでなくても、もう敵にキャッチされたかも知れんのじや。用事なら、そのあとでもよろしからう」	「あんた、軍人さんじやろ! ここへ何をしに来たか知らんが、すぐに、あの戦斗機を隠してくれんか」 「なぜです。僕はただ」 「いやいや、あの山の向うには敵の前線基地があったなア……一日一回見廻りに来るんじやよ」 「そいでなくても、もう敵にキャッチされたかも知れんのじや。用事なら、そのあとでもよろしからう」	「……わ、わかりました」 「ア……アムロ……アムロかい」	「ワ……」 「ビカビカだ!」 「でっかいなア……」 「(背中)「ちよ……ちよ……とまってくれんか」	「す、すげえ!! 本物の戦斗機だ!!」 「かっこいいなあ」	

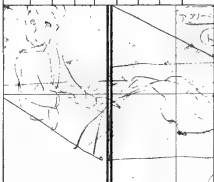
118	アイキャッチャー ルッガン射ち肩の上昇	中 C M	117	116	115	114	113	112	111B	111A	110	109	108	107	106	
			アイキャッチャー のマークのUPになって	来るジオン兵士。その胸	車から降りるジオン兵の ブーツ	うなづくアムロ	母、アムロに毛布をかけ る	ドア、開けて来る少年	母	壁に横たわるアムロ。 脇に母	難民キャンプの室内	抱き合うアムロと母のと ころへ来る老人P	ロング、中央に抱きあり アムロと母	子供達、呆ける	母、アムロの髪に顔をう づめる	
							母	少年	母	母	母	老人P アムロ 老人P		子供達		
							「アムロ、動くんじやないよ」	「また、兵隊が来たよ」	「……じゃあ、父さん、判らない わね……」	「そう………あんなサイドにもジ オンの空襲があつたの……」		「す………済まんがあの戦斗機を」 「あ………そ、それでした」 「アムロ、早く、かくして来な さい、話は、それからしましょう」 「………うん………」 「あんたの、息子さんかい？」 「え、え」		「あ………っ、あ………」 「いいなあ………」		

135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120
E・G 慌てる、ルッガン内兵士	コアフアイター、ルッ ガンへ向う	上昇するルッガン。遠く に光輝く	ルッガン、コクピット兵 士G・E	旋回するコアフアイター 来るルッガン	リュウ	降下するコアフアイター	雪の中より現れるルッガ ン、コアフアイターを射 つ	リュウ	コアフアイター内より主 観。銃火ルッガンを追う	うつコアフアイター	行くルッガン。追うコア フアイター	コアフアイター旋回する	リュウ	上昇して来るコアフアイ ター 左へ行くルッガン	鮮火かわし旋回するコア フアイター
兵士G 「あああ !!」		兵士E 兵士G 「いかん、 みる!!」 「なに」	兵士G 兵士E 「なんて戦斗機だ!!」 「さ、さあ」 「こちらバトロール、ホットドッ ク。敵戦斗機発見」 「現在位置Y27………」		リュウ 「ええーい、みとれ!!」										

130	140	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136
ブライトなめセイラ	ブライトなめTVモニター内 リュウ	ブライト	ブライトなめオペレーターA	ブライトなめモニターに 写るリュウ	煙はくコアファイター	無念のリュウ	燃料メーター点滅。	狙うリュウ、機体のゆれ に?となる	旋回するコアファイター	コアファイタールuggン を執筆しつつ上昇。ルugg ン煙をはいて降下	ルuggンコクピット内、 弾丸、とびこんでくる	ルuggンに命中する弾丸	コアファイター内より uggンをおそう銃火	リュウ、ニヤリとボタン を押す
ブライト「セイラ!! アムロに緊急サイン	リュウ 「す……すまん」	ブライト 「……アムロの故郷の方向か…… 連絡できるか?……リュウ!!」	ブライト 「……オペレーター、敵の脱出方 向は計算できるか?」 オペレーターA「南西方面という位しか判 りません」	リュウ 「ブライト!! 燃料タンクをやら れたらしい、敵にはダメージをあ たえたが逃げられた」 ブライト 「(背中)」「何!! 確認出来ないのか?」 「だ……だめですこれ以上は……」	リュウ 「燃料がもれてるのか!!」	リュウ	リュウ	リュウ 「とどめだ——!! おおっ?」	リュウ	兵士E・G「ああ——!!」	兵士E・G「ああ!! ワァ——!!」	兵士E・G「ああ!!」	兵士E・G「ああ!!」	リュウ 「もらった——!!」


163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	
ピクンとするアムロの母	来る兵士RとS、兵士R お婆さんに銃を向ける	苦しいアムロ	たち止る兵士R、ふり返る	歩いて行く兵士R、手前 アムロと母、安心するが 鳴り響く緊急コールサイ ンに驚く	関心なく行く兵士R	少年、指さしどなる	兵士R、コロコロトを 出して	一瞬緊張する老人達、後 にかくれる少年	少年に話しかける兵士R 少年、兵士をけとばし去 る	兵士R アムロと母なめ歩き来る	室の中、避難民→PAN	ドア開いてジョーン兵士R とS入って来る	
兵士R 「チッ お?!……」	兵士R お婆さん 「なんだといってるんだ、言えっ 「あ、あたしや89才になります」	アムロ(M) 「こ、こんな時に呼出し信号 が……」	兵士R 「?! な、なんだこの音は?!」	S・E (ビー——ブ——ブ)	兵士R 「お——こわ、へへ……チョコレ イトもらいそとなった功や」	少年 老人 「いらないやノ、とうちゃんとか あちやんを返せノ」 「こ……これ!!」	兵士R 「憎まれたもんだな……チョコレ イトやるよ」	老人 「あ……」	少年 兵士R 「ぼく、飛行機知らないかい? おじいさんにだけ教えてくれないか なア」 「知るもんかい!!」	兵士R 「敵の戦術機らしきものがこの辺 に着陸したという報告も入ってる んだ……知っている物はいない か? おっ!!」	兵士R	兵士R 「よし、皆んなじっとしてろ!! そのまま動くな!!」	セイラ 「は……はい!!」 「を送るんだ。急げ」

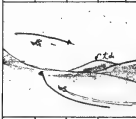
181	180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164
兵士S、逃げる	おびえ逃げる兵士S	銃銃を構えるアムロ	// となる兵士S	毛布を前に放り出すアムロ	母 UP	倒れる兵士R	アムロなめ母	おきあがるアムロ	倒れる兵士R	恐怖のアムロ	倒れる兵士R	？の母よりPANアムロのきいてる毛布より煙あがっている	よろめく兵士R、？の兵士S	アムロの母、アムロをかばう。 兵士R、母をおしやろうとしてビクンとする	落ちる戦い口	ふりむき言い訳をする母、来る兵士R	兵士R、のり出して
兵士S 「ヒイ——!!」	兵士S 「ああ——」	アムロ 「うわあ——」											兵士S 「ど、どうした」	母 「私の子供です、怪我をしているのです」 兵士R 「怪しいのでなければみせろ」 母 「ああ……」 兵士R 「あり!!」	母 「い、いえね。た、だの怪我人なんですすよ、ただの……」 兵士R （背中）「みせろ!!」	兵士R 「おいノ 女ノ そこに獲ている奴は何者だ」	



195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182
アムロ、腕時計を耳にあてる	母 みるえるアムロ T・B	アムロなめ母	悲しくなるアムロふり向く	母	怒りのアムロ	アムロの手、銃をはずそうとしている PAN UP 母	母、アムロを押し出す	射たれた兵士Rを見ている老人達	ジープゆく。手前、母ふり返る	アムロを制する母	ドアの処で銃を乱射するアムロ		はねおきるアムロを制しようとする母、ふりきつて来るアムロ
セイラ（雑音の中）「アムロノ何かあったの？」 アムロ「うえ……」	S・E （コールサイン）	母 「そんな……子供を愛しない母親がいるものかい？」 「嘘をつけノ」 「アムロノ」	アムロ 「母さん……母さんは……ぼくを……愛してないの……ぼくを……」	母 「そ、それだけど……それだけど人様に鉄砲をむけるなんて」	アムロ 「じ、じゃあ、母さんは僕がやらせてもいいっていうのかいノ……せ、戦争なんだよ」	母 「あ、あの人たちだって子供もあるだろうに、それを……銃を向けて撃つなんて……す、すさんだねぇ——」	母 「ノ」	老人 「生命には別案ないノ 医者を呼んでくれノ」		母 「アムロノ」 「アムローノ」			母 「……アムロ!! まちなさい —— あつ、アムロ!! アムロ……」

211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	
コアフファイターゆく	アムロ	降下するルッダンの機	アムロ?! と見る	上昇するコアフファイター	上昇する主翼が木の枝を折る	コアフファイター上昇する	メーカール上ってゆく	ルメットをかぶる	ルメットをかぶる	ルメットをかぶる	ルメットをかぶる	ルメットをかぶる	ルメットをかぶる	ルメットをかぶる	ルメットをかぶる	ルメットをかぶる
	アムロ 「やってやる」		アムロ 「ン? あれか?」											母 「アムロ行く」	母	セイラ (雑音の中) 「そう、緊急事態発生。ジオンのバトロール機がそちら方向に向ったの、気をつけて、ホワイトベースも発達して合流するわ」「了解」
														母 「アムロ! あたしは、お前をこんな風に育てたおぼえはないよ。昔のお前に戻っておくれ」	アムロ 「今は……戦争なんだ!」	母 (叫ぶ) 「なんて情けない子だらう!」
																

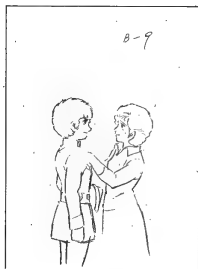
228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212
旋回するコアファイター。射つ	アムロ	旋回するドップ	滑走するドップ2機をおそう、コアファイター1の銃火	PAN UP 応戦する機銃	コアファイターうつ	敵基地を望む	アムロ	降下するコアファイター来る	ジオン軍、宿舎より出て来る司令	ジオン基地 PAN ルッダンの爆発する	コアファイター、山の腰にスレスレにつく	アムロ	来る、コアファイター	山のむこうにかくれてゆくルッダンの	アムロ、ドキッとして	コアファイター行く
アムロ							アムロ 「うお——!」	司令 「ええ——い、たどりつけなかったのか! 対空砲火急げ! ドップを発進させろ!」				アムロ 「基地があるうとなかるうと、かまうものか!」	アムロ 「どこに行くつもりだ? 基地でもあるのか?」			

242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	
母	人形を手にしたアムロの 手にもたれた人形	少年Aをなめカイ ガンベリ、コクピット アムロ	内、カイと少年A ガンベリ、コクピット アムロ	コアフアイター、上昇す るとガンベリ見える	はつと見るアムロ	タインするコアフアイタ ー	ドアップの翼にあたるミサ イル	コアフアイターのミサイ ルボットより射たれるミ サイル	アムロ	コアフアイター ドアップの下へすべりこむ コアフアイター	アムロ	すれちがうミサイルとコ アフアイター	上昇していくドアップより 射たれるミサイル	上昇する2機のドアップを 襲う銃火
		カイ 「アムロがやるってんだからいい じゃねえかッ俺の都合じゃねえよ」	アムロ 「空中機銃!! よーし、いきなり 実験テストもいいだろうさ」 少年パイロットA「カイさんノ 駄目ですよ。マテルダ中尉のもってきてく れたドッキングパーツ。まだ、テ ストしてないんですから」 「アムロがやるってんだからいい じゃねえかッ俺の都合じゃねえよ」	カイ 「よう、アムロノ! 空中機銃って やつをやってみるかいノ!」	アムロ 「ガンベリ? そうか、ガンダ ムを持って来てくれたのかよおー しノ!」				アムロ 「させるか?」					

258	257	256	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243
コアフアイター内TVモ ニター	アムロ	ガンダム、バース降下す る	ギョフとするアムロ	コアフアイター内TVモ ニター	ガンダム上半身のバース おちる	カイ 「ようし、いーぞ、ガンダム、A バース投下ノ!」	アムロ 「コア、チェンジノ ドッキング ゴーノ!」	ガンダムの下半身バース 落ちる	ガンベリ内、TVモニ ター	カイ 「レーザー、サーチャー同調5、 4、3」	アムロ 「高度差50。ドッキングサーチャ ー始動」	ガンベリーのコンテナ開 いてゆく、コアフアイタ ー降下する	アムロ	銃をかまえたアムロ	母 「男手で育てたからかしら……あ んな子じゃなかったのに」
アムロ 「ええ——いノ!」		アムロ 「カ、カイ叔ノシンクロしてない のに!」							カイ(OF 下ノ!)				母 「虫も殺せなかった子が、うう……」		

275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	259
ブライト、かっとして	フラウ、ふりむいて	Wベースブリッジ、ブライト、ミライ、フラウボウら見ている	Wベース来る	炎上する基地に立つガンダム	バルカン、ガンリンタンクを直撃	向き直り尚もうつガンダムバルカン	ガンダムバルカン、逃げるジープを追う	司令部の建物を撃つ	ビーム、やぐらを倒す	着地するガンダム、ビームもうつ	機銃の兵がやられる	基地を掃射するビーム	ビームがせまる。兵士ふとぶ	ビームライフルうつ、ガンダム	ドッキング	ガンダム、パーツ接近する
ブライト「あんな地方の前進基地を叩く必要がどこにあるかノ カイもカイ	フラウ「敵の基地をやっつけているんでしょ？」	ブライト「ア、アムロ殿ーノ、なにを しているんだ?」									アムロ「うわーっ!」					

286	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276
母よりT・B	アムロ行く。ブライト敬礼して行く	アムロ行く	アムロなめ母、アムロ敬礼する	ブライトとアムロ。アムロ、フラウボウを見る	母とアムロのところへ来るブライト、敬礼する	ブライトくる	砂丘に立つアムロと母	母の手、人形をアムロに手渡す	ガンダム、ふりあおぐ。Wベース降下する	ブライト、ミライを見る
ブライト「失礼いたします。お子様をお預りします」	アムロ「こ、これからも……おたっしやで。お母さんノ」	アムロ「たんなる消耗戦なぞ、今の、我々には自分の首をしめるに等しいノ」	ミライ「ブライトさん……」	ミライ「まちがっているかね?」	ミライ「いえ、」	アムロ「……」	アムロ「いやなのかい?」	アムロ「いやとかじゃないんだ……あそこには仲間がいるんだ」	母「……」	母「お母様でいらっしやいますね」
母「アムロがおせわになつております」	母「我々こそ、アムロ君のおかげで命ひろいをさせてもらってます」	母「そ、そんな……」	ブライト「いやー事実です。今日の彼のかつやくもめざましいものでした」	母「アムロ君、どうするね……我々は出発するが?」	母「はい?」	母「はい?」	母「はい?」	母「はい?」	母「はい?」	母「はい?」



第十三話・おめり

286	284	283	282	281	280	288	287
母 行く母。手前りなだれる	フカン、たたずむ母	上昇して行くWベース	砂じんの中、母	ゆったりと上昇するWベ ース	肩がふるえている母、見 上げる	ひざを折る母	アムロ、ブライト、フラ ウ行く
母			母		母		
「ウッウッ……ウッ……」			「……………/アムロ……………」		「ウッウッ……ウッ……」		



G 機動戦士
ガンダム
UNDAM
鎌倉台本

第14話 『時間よ、とまれ』

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

株式会社日本サンライズ

第14話 時間よ、とまれ

昭和54年7月7日放映

制作スタッフ

脚本／宮野真幸 ● 絵コンテ／并谷穂 ● 演出／真光紳也 ● 作画監督／山崎秀

●作詞／多賀かずひろ・服部卓・美田佳子・菜野川智美●背景／ア・ダブル

●勤王チエック／浜津守 ●仕上／ティーン(加藤はるみ)

松浦妙子) ●特殊効果／土井通明 ●撮影／旭プロ (平田隆文) ●音楽／

友彰●現像／東京現像所●音響監督／松浦典良●効果／松田昭彦●整音

日向国雄●録音／豊音スタジオ●制作進行／草刈忠良●設定制作／円井正

A. P. / 神田 豊

キヤスト & 声優

●アムロ／古谷都子 ●フライト／鈴置洋孝 ●カイ／古川登志夫 ●フラウ／藤

ミライ／白石冬美 ● マチルタ／戸田恵子 ● クワラン／市東昭秀

●シル／塩浜素人●キール／二又一成●オムル／熊谷幸男●パイロット／

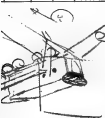
广东省
1995
年
1
月
1
日

ナレーション／永井一郎

C	画面	地球より月、そして月の むこうへ	ジオン公国	その内部	演説するギレン	サイド7を脱出するWベ ース	地球に向うWベース	海岸のミライたち	アムロと母	母と別れる	Wベースゆく	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	14	13	12	11	15
	N	「全ての人類を自らの独裁の手に収めようとするザビ家のジオン公国は、月のむこうに浮ぶ宇宙都市国家である。 その存在は、地球の平和を脅かす。地球の自然が破壊され、人々の地球に、閉塞感を生み出す。地球は、閉塞感を生み出す。」																								
	音																									

93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80
銃撃がかすめるので上昇	ザクのマシンガン鳴る	ギヤルなめスコープの中にミデアのシルエット近づく	ギヤル	ザク山頂で銃をかまえる	クワランらゆく	兵B、Cなめ。ワッパ部隊上昇する	クワラン上昇する	パーソナル・ジェットののこっているソルたち。ワッパのエンジン高まる	クワラン	ソル走る ザク、ジャンプしてゆく ヘルメットとんでくる うけとめるソル	飛ぶザク	ギヤル	ソル手前を走る、奥くザクがゆく
			ギヤル「いたぞ。ミデア輸送機だ」			兵C B 「朝っぱら、うるせえなア」 「クワランの野郎、いつもあれよ」		ソル 「ハッ／ 曹長／」	クワラン「ソル／ 急げ／ モビルスーツが現われたら作戦は、昨夜話した通りだ。 俺たちは一切、目を覚ますまで成功したら本国に帰れるんだって事を忘れるな。ソル／ いいか／」	ソル 「クワラン曹長／」 クワラン「(お)「おう／」		ギヤル 「……クワラン、おくれるなよ／」	

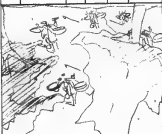
119	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94
ミデアの砲、撃つ 手前に銃撃がとぶ	ルックン降下	ミデアすぎる	ミデア、ザクの上身をかすめ飛ぶ	ハッとするギヤル	パイロットA、マチルダブレる	コンテナのうしろ、つきつける砲弾	穴のあくコンテナ	ザクもうつ	上昇、銃撃してくるミデア	ギヤル ドキンとする	ザクなめ山かけにしずむ ミデア機	ギヤル	木すれすれにミデアが通過してゆく、銃撃くる	マチルダ	山のフカン 下の移動する銃撃	マチルダ 「一時の方向に応戦を／ 降下しなさんか」
				ギヤル「うあー／」	パイロットA「コンテナに直撃です」 マチルダ「かまいません／ このまま／」					ギヤル 「ど、どこに……ルックンの奴、援護してくれりゃあ／」		ギヤル 「や、やるなア／ でかい団体をして／」		マチルダ「あの攻撃の仕方はザクです／ 敵の頭上すれすれに／」		マチルダ



128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111
アムロの足、アクション	アムロ	山の向うに煙が見える	アムロ「ン?となる	ガンダム降下する	山のむこうへ上昇するガンダム	ガンダム着地、ジャンプ	ガンダム降下する	ガンダムとぶ	ガンダム発進	ミライ	モニター内アムロ、消える	ブライト	モニターにアムロが出る	ミライ、ハットとする ブライト電話をとって	マーカースタリオン上 光点	Wベース	ミデアの右翼先端にた りふっとぶ翼端
	アムロ 「マチルダさんに何もなければ さうけど……」		アムロ 「う?!あれか?」							「アムロ、あわてるのは禁物だよ」 ミライ	アムロ 「はい! 発進します!」	ブライト 「ン? そりゃそうだが……。 いくか?」	アムロ 「ブ、ブライトさん。ガンダム、 出ます! ホワイット・ベースは 補給の整備がまだ充分じゃな いでしょう」	ミライ 「マチルダさんが?!」 ブライト 「ミデアがジオンのパトリ オットにひっかかった。ホワイ ット・ベースは後方に向う!」	マーカース 「レーザ測定です! ミデア、 交戦中の様です!」		

145	144	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129
ガンダム降下する	ミデアゆく	マチルダ	アムロ	ガンダムの手前、ミデア、 バックする	パイロットA、マチルダ	ミデア	ギヤル	よるけるザク、手前にル クタンのパイロットおちてく る	ルックン爆発	ガンダム、バズーカを撃つ	照準内 ミデアにルック ン	アムロ、スコープをのぞ く	ガンダム、山のむこうに 上昇してくる	ガンダム上昇する	ガンダムのロケット、ノ ズルふく
		マチルダ(やさしく)「深追いはしない でね。アムロ」	アムロ「御無事でマチルダさん!」		パイロットA「ガンダムです」 マチルダ「フッ! 来なくてもいいもの を」 パイロットA「は?」 マチルダ「ガンダムの好意に甘えて脱出 パイロット「はっ!」		ギヤル 「れ、連邦軍のモビルスーツだ よ」 								

161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146		
ハッと身をひくアムロ	ワッパのバイロットがふつとぶ	爆発 バズーカの弾体がゆく、	あらわれるワッパ	ガンダム・バズーカをうつ	アムロの眼	アムロUP	たえずむカンダム	アムロ左右をみる	アムロ	ザクが山の下の方へかりてゆく ブリンと、ワッパの音がきこえてくる	身をしずめるザク うしろで爆発	バズーカの弾体ゆく	ガンダム、バズーカを構えて、撃つ	ザクが後退する	アムロ正面むいて	ガンダム着地する	ザクの銃撃が追う
アムロ、 「ア？」	兵たち 「クワー!!」						アムロ 「ノ、なんの音だ？」	アムロ 「やったか？」									

174	173	172	171	170	169		168	167	166	165	164	163	162
ワッパ群、木の下に入る	クワラン見上げ	火 クワランの頭上をゆく銃	銃火ゆく中、木の幹がふつとぶ	ガンダム、バルカンを撃つ	アムロ顔をあげ	アイキヤッチャー	アイキヤッチャー	六機のワッパ行く	ガンダム進む	木のむこう、ワッパが遠去かる	その右手を上げて アムロの左手が手首をおさえ	アムロの指がけいれんする	「スコープ内、クワランのワッパ、上昇する」 アムロの目、スコープのスクロールに映る
	クワラン「木の下にかくれろノ 上から狙い撃ちされるノ」				アムロ 「出てきたお前達がいけないんだア」						アムロ 「くっッッ」 ど、どうしたんだ? なぜ動くか! ン?! ン?! ン?! 速がすもの		アムロ (off)「兵隊が……むきだしの兵が……機関銃くらいでガンダムをどういふ攻撃をするつもりなんだ?」
													

192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176	175
ソル	ガンダムは足、ソルらの前におりて行く、とび立つソルたち	OKサイン出すソル 隊員たちいる	ふりむいてニヤリとする クワラン フォロー	六機のワッパ行く、下のくぼ地に待ち受けるソルらワッパ	爆煙の中、後退するワッパ	水をよけて行くワッパ	爆煙の中の兵たち	爆発の中の森	バズーカ弾体ゆく、爆発	ガンダム バズーカをうつ／	アムロ	ワッパ群、左右に分れる	ガンダム着地する ぐつとふりむく	ガンダム降下する	アムロ下をみている	ジャンプするガンダム	ガンダム、ロケットノズルふく
ソル			クワラン「／」				兵たち 「うわーっ／」				アムロ 「うわーっ／」				アムロ 「どこに／」		

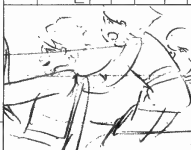
193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207
ヘーとするガンダム 同時にくるソルの。ワッ	ソル左手をのばす 手にプラスチック弾	ガンダムにプラスチック 弾をはりつけるソル	ふりむくガンダム 三機はドワッパが近づく	プラスチック弾を持って のりだす隊員	ガンダムの太もの処に はりつける隊員、行く	盾の手をふるガンダムの すりぬけてくるワッパ一	ガンダムの頭に近づくワ ッパ	アムロ、左右をみる	ワッパ一機接近する	ガンダムふりむいてバズ ーカをふりおろす	ガンダムの腰が入る、ワ ッパ入りこみ爆発をはり つける	クワランとぶ	ガンダムとワッパのから み	ガンダムの腰の向りにま
								アムロ 「な、なんだ！ というんだ?!」				クワラン「一番、装甲板の弱そうな処は、 どこだ！」		

[illegible]

271	フラウ	「それは逆ですノ、アムロはパイロットです。あたしが家りにやってきました」
272	ミライ	「フラウ・ボウ。あなたにアムロより上手にできて？」
273	フラウ	「ミライさん……ひ、ひどいのね……」
274		
275	クワラン	「クーン……頭張るな」
276	フラウ、ミライ	
277	リュウとカイ	
278	アムロ、順の爆弾にかかっている、はずれるのをうけとめる	
279	アムロの手、足元に爆弾をおく	
280	アムロ操作盤をいじる	
281	タレーン、下へさがる	
282	爆弾三つ	
283	アムロ	
284	イメージ、アムロとカンダム	
285	ふつとぶ	
286	クワランの時計	
287	クワランら一同	
288	クワラン	

300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286
フラウ、ミライ駆けよる ブライト駆けだす	アムロ必死で士をかいだす	オムル 「オムル」	ブライト愕然とする	アムロ、士をかいだす	アムロ、ガンダムの腕の下をのぞく、手をつっこみ士を握る	中和器を持っておりるアムロ	アムロのクレーン車がバツタしてくる	クワランのぞく	双眼鏡内 ベース ンダムとW	爆弾をひきよせるアムロ	アムロの両の手、爆弾を外す	爆弾を動かしてみるアムロ	ランドセルの上にとりついているアムロT・U	クワランら一同
フラウ「アムロ！」 ブライト「よ、よし。足と手をらよっと		オムル「ガ、ダメだ……。ア、アムロ……」	ブライト「ア、アムロ……」		アムロ「し、しまった」			クワラン「背中の方に縋ってんだな？」 ソル（off）「はい」 タワラン「そろそろ時間だぜ。ン？」	ソル（off）「時間かかりますね。出てきませんよ」 タワラン（off）「みせる！」	アムロ「リッ」			一隊員「勇敢ですか？ハハハ」 同「ハハハハ」	だろさ

315	314	313	312	311	310	309	308	307	306	305	304	303	302	301
アムロ身を引いて爆弾見 る	爆弾はずれる	アムロの手、中和器を使う	顔をあげるクワラン	カンダムの腕上がる もぐりこむアムロ	ハヤト、レバーひく		ハヤト、コクピットにと びのる	ふりあぐアムロ リムウ来てふんばる、リ ムウの背中にのつてとび 上がるハヤト	カイの運転する二台目 バギー来て停まる	一台のリムウ、ブライト、 ハヤト	バギー車が二台走る	アムロ、士をかい出して いる	ブライトの前を走るカイ	走るハヤトとリムウ
アムロ ブライト 「時間かたっている！」 「は、はい！」		クワラン「一分二十秒だ。間に合わねえ のか？」		ブライト「よし、そこまでだ！」			アムロ「え？」						ブライト「お前らは、ホワイトベースに 待機しているんだ！」	ミライ、フラウ走り 上げるだけなら！あとをたの む！



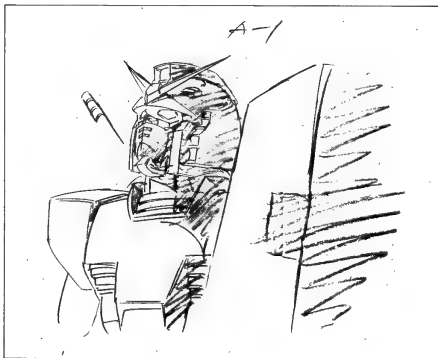
24 ● 32

A-4



.....第十四話・おわり.....

352	351	350	349	348	347	346
ワゴンゆく 見送る一同	ブライト、ミライ	ワゴンゆく	アムロ見送って	アムロなめワゴン ゆくワゴン	アムロみる	クワランなめアムロら
	ミライ「そうらしいわね.....」	ブライト「.....連中だな。仕掛けたの」	アムロ「いいな.....地球に住んでる人、って.....気楽で.....」	クワラン「これからも頑張れよ！ 大将じゃあなー！ ハハ.....」	ソル（紅）「こわい顔しないでよ。パイロットさん！」	クワラン（背中）「どうしたの？ ケガでもしたのかい？ パイロットさん」



連続テレビ・アニメーション番組

G 機動戦士 ガンダム UNDAM

録音台本

第15話 『ククルス・ドアン』

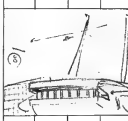
名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ


編纂者 日本サンライズ


第15話 ククルス・ドアン の島
昭和54年7月14日放映
制作スタッフ
●脚本／荒木芳久 ●絵コンテ／貞光紳也 ●演出／并谷徳 ●作監／鈴木一行
●作画／アニメ・フレンド（藤島清作・三波幸一・斎木一明） ●背景／アイ・プロ（三浦智・小坂橋康恵） ●動画チェック／浜津守 ●仕上／シヤフト（森山政子・松井一美） ●特殊効果／土井通明 ●撮影／旭プロ（斎藤秋男） ●編集／鶴岡友彰 ●現像／東京現像所 ●音響監督／松浦良良 ●効果／松田昭彦 ●監音／日向国雄 ●録音／監音スタジオ ●制作進行／八木岡正美 ●設定制作／円井正 ●A・P／神田量
キャスト＆声優
●アムロ／古谷徹 ●ブライト／鈴置洋孝 ●リユウ／飯塚昭三 ●カイ／古川登志夫 ●フラウ／鶴岡るみ子 ●ミライ／白石冬実 ●ドアン／徳丸完 ●ロラ／川津藩子 ●タチ／松岡洋子 ●クム／間嶋里美 ●チヨ／高木早苗
●ナレーション／永井一郎

5~11(4)

										S
										C
17	16	15	14	13	12	4	3	2	1	
ガンベリー、コアフアイターのシルエットがうつっている	Wベースのブリッジなめコアフアイターゆく	Wベースより離れていく	ガンベリー中央ハッチから離れる	後ろのローターもまわるふっと浮上する	ガンベリーの磁気ローターまわる	サブタイトル 『ククルス・ドアン』	それをきく群衆の歓声	ギレン・ザビ 演説する	太陽と地球と各宇宙都市を示す地図	画面
オペレーターA「ドッキング・サッチャーからカウント入ります。三秒か」	オペレーターA「コアフアイターA（off）「アムロ（off）「了解！ 接触します」	オペレーターA（off）「アムロ（off）「了解！ 接触します」				N 「ククルス・ドアン」			N 「宇宙歴〇〇七九。ルナツーと呼ばれる第二の月は、宇宙都市建設に使う鉱物資源を手に入れたために選ばれてきた小惑星である。その隣りに、七番目の宇宙都市サイド7が建設された。二年前。ジオン公国と地球連邦軍の戦争が始まった。この大戦で、四つの宇宙都市の群が消滅し、本手がサイド6の残った。そして、ジオン公国を名乗る宇宙都市の群は、地球から最も近い処にあった。その総帥（そりすい）ギレン・ザビはさげふ。地球連邦の軟弱を計て、地球連邦の彼のみであるかのように……」	音 声



57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	
海岸にうちあげられてい る連邦軍戦闘機	見ているアムロ、目をし ばたかせ、ふと何かに気 づく	アムロなめ海岸線がすぎ る	奇岩なめ降下してくるコ アファイター	コアファイターゆく	アムロのりだして	雲のむこうに島 群島が見えてくる	コアファイターとぶ	コクピット内のアムロ	コアファイター	コアファイターゆく 砂漠のむこう海がみえる	リウウのぞいている	ガンベリ、ガンダム 上空へくる	コアファイターになる	Gにおされるアムロ	とまる、メカニッカル の断面図みたいとなり中に アムロみえる ドットと射出される	と腰をひくとコアファイ ターが出てくる
	アムロ「あれかな？」				アムロ「ポイント三〇五、あの島か？」						リウウ「全く、……ガンダムのこんな 姿、見たくもないな」			アムロ「うあー！」	アムロ「ブライトさん、ゆきます」	

67	66	65	64	63	62	61	60	59	58
アムロ、立上りがって手前へ くる	パイロットA、突然、苦痛に うめく ガクッとなって息絶える 手前にパイロットBの腕 が上る	コアファイターよりパイ ロットA・Bの手当をし ているサムロ	窓から外を見ているカイ ブライト立ち止まる ブライト、ミライに イタに向かい	ブライトとリウウ ブラウトヘッドホーンを わたすブライト、リウウ がそのヘッドホーンのマ イクに向かい	ヘッドホーンで聞してい るブライト	シートにしがりつけられ て苦しげに身じろぎをす るパイロットAとB	アムロ コクピットをのぞきこむ アムロ	降り下してくるコアファイ ター車輪が出る アーチ状の奇岩なめ、着 地するコアファイター、 アムロとびだす	戦闘機なめ、コアファイ ターくる
アムロ「ハッ！」	パイロットA「うう……」 アムロ「だめか……」 パイロットB「(off)」 「うう……」		カイ「ちっえ、連邦軍の奴等、助け にもいかねえようじゃねえか」 ブライト「まだ近くに敵がいるかも知れ ん。第二戦艦配置の指令を出し ておこう」 ミライ「ハイ」	ブライト「判った、何とか事情を聞き出 してくれ」 リウウ「アムロ、必要なものがあれば、 すぐ届けるぞ」		パイロットA・B「うう……」 アムロ「生きてるのか！」	アムロ(背中)「ん？」		

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93	92	
	アムロなめザク	ハッと身をひくアムロ	ザクの眼光る	子供たちをのせた手をあげるザク、タチ、アムロアムロの方を向くザク	ザクの左手の上にいる子供たち	アムロ	アムロなめザクのところへかけよる子供たち	子供たち行く	ザクくる	アムロ	アムロなめ、ザク来る	コアフファイターにのりこもうとしていたアムロ、ハッと顔上る	行こうとするとドアンの声	コアフファイターの方へ歩
アムロ	ドアン (off)「君と闘うつもりはない。おとなしく武器をわたしてくれれば危害は加えない」			タチ 「ドアン、また兵隊がきたんだ」 タム 「僕たちにビストルむけるんだ」	子供たち「ワ〜イ」	アムロ 「こ、ここは、ジオンが完全に制圧している処ではないはずだけど……どういうことだ？」		タムム「ドアンだ!」 子供たち「ワ〜イ! ドアーン!」		アムロ 「し、しまった……」		アムロ 「ん?」	タムム「あの戦闘機もこわしちゃえ!」 タチ・チヨ「おーっ!」 ドアン (off)「やめるんだ!」	

119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	
コアフファイターなめザク	コアフファイター方向転換	アムロ ハッとふりむいて	コアフファイター上昇ミサイルとんでくる、が、ザクよける	コアフファイター ミサイル発射	アムロ	ザクにせまる	空中静止していたコアフファイターつつこむ	アムロ、キツとなる	俯瞰、コアフファイターなめ、ふりむくザク	ザクの手ひく	コアフファイター、下から噴射して上昇はじめる、ザク、子供たちに向かい崖の上に子供たちおおく	アムロとびこみヘルメットかぶる	ドアンザク	だ。好きにやったらいいじゃないか」
		アムロ 「は……はい!」			アムロ 「関節のジョイントを破壊できれば……」			アムロ (MONOION)「致命傷は無理としても、ミサイルで射ちどころさえよければ動けなくすることはできる……行くぞ!」	ドアン (off)「そんな戦闘機でこのザクに勝てると思っているのか」	タチ 「ドアン、あんなやつ、やっつけちゃってね」 チヨ 「おねがいよーっ!」	ドアン (off)「さあ、安全なところに行ろ」		ドアン (off)「いや、斗いたくないから頼んでいるのだから?」	

133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120		
暗い中のアムロの半開きの眼をしばしうとうと、ハッ と気づく	F・I 海面にういているコアフ ファイター、コタビットで 気絶しているアムロ	F・O 巨大な波が立つ	バウンドするコアフファイ ター再び海面にぶつかる、 またバウンド、そして海 面へ	シロクでつんのめるア ムロ	おちてくるコアフファイ ター海面に激突	爆発の中から出てくるコ アフファイター	爆風でふっとばされるコ アフファイター	アムロ	アムロなめ爆発ひろって	ミサイルと岩ぶつかり、 爆発	ザク、おちていた岩をひ ろうと投げる	コアフファイター、ミサイ ル発射	アムロ	アムロ	が見えてくる
				アムロ 「ワッッ！」				アムロ 「ワ ッ！」					アムロ 「こんどこそ！」		


146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134			
キッとして	のりだすアムロ、腰の痛 みで片ひざをつく	身をひくアムロ アムロちよつと見まわし てから	ロランの足、立止まる 水桶をおろすロランの手 微笑んでいるロラン	俯瞰全景 O・L アムロ、足音にハッとふ りむく	小壁の外に立っているア ムロ O・L	見ているアムロ O・L	ドアの外にT・U 小鳥の声きこえてくる	窓外を見ているアムロ	目をそらしているアムロ	ドアのところ歩いて行 くアムロ、ドアを開ける、 まぶしいほどの光線がと びこむ	アムロ、ベッドからおき あがり、痛みに腰を おさえる	暗い室内	ベッドからおきあがり	アムロ	
アムロ	アムロ ロラン	アムロ ロラン	アムロ ロラン	アムロ ロラン	アムロ ロラン	アムロ ロラン	アムロ ロラン	アムロ ロラン	アムロ ロラン	アムロ ロラン	アムロ ロラン	アムロ ロラン	アムロ ロラン	アムロ ロラン	アムロ ロラン
「じ、冗談をいうな。そ、それ より、僕のコアフファイターはど こにあるんだ！」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」	「……ここはどこですか？……」 「ドアンと子供たちの家よ」 「ドアン？……」 「タクルス・ドアン。……あな たを助けた人だけだ」 「何だって？ うっ／＼……」 「ドアンは、あなたを帰すつも りです。痛みが直るまでここでし ばらく寝てらっしゃい」

141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127
見つめるドアン	アムロのりだして	テラリアと子供たちを見て	ドアンなめアムロ	体全体をむけて	小首をかしげる	ドアン ニッと笑う	厭なめ、立止まるアムロ	ふりむくドアン	ドアンがやすのをやめる	ドアンの背中を指でつついて	チヨなめ歩いてくるアムロ	土をたがやしているドアン、まわりに子供、チヨふと気づく	地面に疎	水桶の水面にうつっているロランとアムロ
ドアン	アムロ	ドアン	ドアン	ドアン	「……少年。……もう歩いて大丈夫なのか？」	アムロ	「どこにあるんですか？」	「君の戦う機か？……私はこの子たちを守らなければならなんだ。いづれジョンの道中がここを見つづれ、私を攻撃してくるだろうから……」	「アムロ、……」	「アムロ、あつちよ……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」
「返したら、……君だって私を	「ほ、ほくだって、身を守るためには武器があるんです。コアファイターを返して下さい」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」




171	170	169	168	167	166	165	164	163	162
アムロ去って行く	見つめるドアンたち	アムロ去っていく	アムロなめタチ、アムロを指さし	ドアンの手が肩をつかまえる	子供たちを見つめるアムロに	タチとびだしてきてタムもとびだしてくるドアン、子供たちをみつめる	ドアン顔をあげて	顔を見せる	身をひくアムロ
		アムロ	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」
		「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」	「アムロ、……」

204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194
子供たち ねているドアンとロラン、	ドアン の小屋 O・L	ブリッジャよりP・U 月がでている	フラウ首ふって	窓から心配に見えている フラウ 眼をおとして	W ベース	コアファイターとぶ	コアファイターなめ、島 がすぎていく	コアファイターなめ、島 がすぎていく	ロラン、アムロの方を向 いて アムロ、チラと目でみて ロラン行く アムロ立ち上って見送る アムロなめ去っていく ロラン	ロランとアムロ それをきいてアムロも海 をみる
			ミライ フラウ 「アムロのことですもの、何か 事情があるのよきっと」 「だといんだけど……もしか して……馬鹿ね、私って……」	フラウ 「人が心配してるって言うのに ……連絡ぐらいすべきよね……」		リュウ 「フーム、この島にはいないよ うだな……」 「ライム、捜索は明日ま で打ちきりだ。いったん引き 上げろ」 「しかし」 もう少し……		リュウ 「フーム、この島にはいないよ うだな……」 「ライム、捜索は明日ま で打ちきりだ。いったん引き 上げろ」 「しかし」 もう少し……	ロラン 「ドアンはあなたを見込んでい るわ。……青臭い娘がとれたら、 いい兵士になれるって……」	アムロ 「じゃ……なぜドアンは子供たち の面倒をみるんだい？」 ロラン 「知りたければ……自分できく のね」 「……」 アムロ

215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205
見つめるロラン	再びロランの方を見て 再びリーダーの方を見て	再びロランの方を向いて 再びリーダーの方を見て	再びロランの方を向いて 再びリーダーの方を見て	再びロランの方を向いて 再びリーダーの方を見て	再びロランの方を向いて 再びリーダーの方を見て	再びロランの方を向いて 再びリーダーの方を見て	再びロランの方を向いて 再びリーダーの方を見て	再びロランの方を向いて 再びリーダーの方を見て	再びロランの方を向いて 再びリーダーの方を見て	再びロランの方を向いて 再びリーダーの方を見て
「うう……」	「うう……」	「うう……」	「うう……」	「うう……」	「うう……」	「うう……」	「うう……」	「うう……」	「うう……」	「うう……」
										

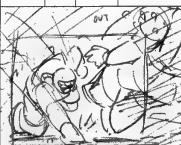
220	226	234	223	222	221	220	219	218	217	216
見上げるブライト、ミライ入ってきて	天井パネルに光っている光点が点滅、オペレーターB「眼をこすっておきメガネをかけてモニターを見る」	天井パネルに光っている光点が点滅、オペレーターB「眼をこすっておきメガネをかけてモニターを見る」	ブライト「お互いよく眠れなかったようだな……」	リ・ウ「あーあ、あーあ」	崖の上のWベース	石をよけるアムロ	崖の上にいるタム、タチ、チヨ 子供たち石をなげはじめ	のびをするアムロ タチの声にハッと見るアムロ	顔をふせて再び熱い眼差しでドアンを見る ドアンからT・B 密着	ドアン顔をふせて
ブライト「こっちに向かってるのか？」 オペレーターB（呼）「いえ……ポイン ト三〇五方面に向ってます」 ミライ「リ・ウに発達させましよう」	オペレーターB「未確認飛行物体接近ノ かなりのスピードです」	ブライト「お互いよく眠れなかったよう だな……」 リ・ウ「あ……ああ……捜索にでます」		アムロ「やめろ、やめろんだ！」		タチ「早くこの島から出ていけ！」 子供たち「エーイ エーイ」	アムロ「う、ういあ……」 （off）「いたせ！」		ロラン「私なら……平気よ……」	（98）こんな不安におびえる生活……できることなら私も早く抜けだしたいが……すまん……

241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227
銃かまえるザク	ザクの足、海面におりる、向う側に崖をのぼっていくアムロ	降下するザク	ザク、ルックンから手をはなしておりる	タチ、タムに向かって	おちていくチヨをアムロ走ってきて受けとめる	アムロふりかえり、走る	崖くずれてチヨがおちる	子供たちのいる崖にあたる	銃撃くる バツと岩のうしろにかくれるアムロ	ルックン銃撃	アムロ	アムロなめ近づくルックンとザク	アムロなめ、崖の上から石をなげている子供たち その時、爆音にふりかえるアムロ	岩かげにかくれるアムロ 石がとんでくる
				アムロ「逃げる！」		アムロ「あっ！」	チヨ「キャーッ！」	子供たち「おあー！」			アムロ「ザクだ！」		チヨ「かえれ、かえれーっ！」 タム「はやくこの島からでて行けーっ！」	アムロ「あッ」
														ブライト「よし！ホワイト・ベースも発 ミライ「はい！」

276	277	275	275	274	273	272	271	270	269	
アムロ、うしろにWベ- ー	ブライトふりむいて	モニターにアムロうつる	コアフアイター、なめWベ- ーが見える	うしろ見るアムロ ハッとなつてニッコリ	銃撃行く よけるコアフアイター、 ルックン通過	せまるルックン、銃撃	アムロ、ハッと見上げて	怪訝そうに見る	リ-ウの、コアフアイター が近づいてくる	うしろからアムロの、コアフ アイターが近づいて銃 撃
アムロ (一人言) 「僕だって少しは腕	ブライト 「はい。至急ガンダムを発射し て下さい。空中でドッキングし ます」 ブライト 「いや、やめろ！ 着艦して 換装だ、オムルへ！ 換装準備 急げ！」	アムロ 「あー！」	アムロ (off) 「ホワイトベースか！」	アムロ	アムロ	アムロ 「きた！」	アムロ 「一体どうしたっていうんだ？」 アムロ (off) 「話はあるとす。とにかく ひとつのザクはこちらの味方で す！」 リ-ウ 「ええ？……」	アムロ 「アムロ、無事だったのか ？」 アムロ 「リ-ウさん……」		

296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280	279			
ガンダム着地、ハッとあ とずさるジオンのザク、	ガンダム発砲	照準の向う、行くルック ン	ガンダム、銃をかまえる	照準器をセ-ットするアム ロ	ガンダムの頭上をすぎる	銃撃しながらくるルック ン	銃撃くる ハッとよけるガンダム	降下してくるガンダム 銃撃くる ハッとよけるガンダム	ガンダム射出	ガンダムとぶ	アムロさけぶ、Gがかか る	上半身きまる	腰にはまるコアファイター	コアおれまがる	コアおれまがる	コアファイターつこみ	フックにひっかかる	フック上がる	Wベースのフック下がる コアファイター上がる	スの腹がゆく
										アムロ 「いさます！」										

308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	
アムロの方を見て	それを見ているリウウ		ガンダムなめ、ロランと子供達が崖の上に姿をあらわす コアファイターも着地			手前から入るザク、ガンダムの盾にはばまれて手前におちる ドアンのザクのりだす	ふりあおぐドアン	ジャンプするうオンのザク	身をひくアムロ ハッとして	ドアン、グイッとふりむいて	一步踏みだすガンダム 手前のザク Fr-outする ドアンのザク止める、銃は構えたまま	速くて爆発 それを見るジオンのザク
ドアン 「教えてやる。少年たち！」	リウウ アムロ (off)「さあ……それが僕にも……」	タヨム 「ドアンなら勝つよねー！」 「やっちゃえ、やっちゃえー！」	子供たち (off)「ドアン！／＼」 そんなザク やっちゃえー！	ドアン 「私は、子供たちが見ている限り、斗いつづける！」	アムロ 「し、しかし！」	ドアン (off)「やめる」	ドアン 「あり？」	アムロ 「し、しかし……」 ドアン！	ドアン 「モビルスーツの格闘技というのをみせてやる。よく見て覚えておけ」	アムロ (off)「しかし……あなたにはたした武器が……」	アムロ (off)「あとはこのザクだけです」 ドアン (off)「待て、こいつは俺にまかせろ」	

321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	
岩をなげるドアンのザク	ニコアとして	アムロに	ドアン	ジオンのザクにキックしている ドアンのザク	ドアン	ジオンのザク射つ ジャンプするドアンのザク	アムロ	ドアン、ぐいっと顔をあげて	ドアンのザク、パンチをくりだす、サッとよける ジオンのザク	銃弾がドアンのザクの顔のパイプをちぎる	地面にたおれこむジオンのザク サッと銃をかまえて射つ	ドアンのザクにキックかませる それを腕でうけるドアンのザクおしかえす、ダッ ととびだす	アムロ (背中)「えっ！」 ザクとび上る
アムロ 「ドアン！……」	ドアン 「ジオンは子供たちまで殺すように命じた……だが俺にはできなかつた……」(off) 俺は子供たちを助けて逃がした……俺の命にかえても、この子供たちを殺させはしない！ 「ドアン！……」		ドアン 「俺の射つた流れ弾のためにな……」		ドアン 「ええっ？……」	アムロ 「ええっ？……」	ドアン 「子供たちの親を殺したのは、この俺さ……」						

337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327	326	325	324	323	322
爆発がおこる	ジョンのザクにドアンが鉄拳がくいこんでくる。ドックとザクの背中から爆発がおこる	ドアンを細める	ドアン	ドアンがザクの盾のつけ根にあたり、盾がふっとぶ	ジョンのザク 鉄拳	ドアンがザク	鉄拳をふりあげるドアン	鉄拳をふりあげるドアン	ドアン	立ちあがってくるドアン	ドアン、顔をあげて	膝をおっているドアン	海岸の崖の上、ガックリと膝をつくドアン	ドアンがザクのわき腹をかすめる	それをよけてジョンのザク鉄拳
		ドアン (off) 「殺させはしない!!」	ドアン 「俺は……子供たちを……」						ドアン 「俺は……」		ドアン 「俺は……」				

350	349	348	347	346	345	344	343	342	341	340	339	338
ザクをかついだガンダム	アムロのりだす	ザクをもちあげるガンダム	見ている子供たち、おどろく	立ちあがるガンダム	ドアン、ニヤリと笑う	見ているドアン、ロラン	ガンダムの手のひらにのびアムロ、手が胸のポケットのところにあがっていく	顔をあげて	え? となつて	アムロ	子供達	ドアンがザクの前面をおちていく水しぶき
	アムロ		タチ・タム・チヨ「あーっ!!」					アムロ	ドアン	「ドアン、かつこ良かったよ!」「奴らは……私が生きているかぎり、追撃の手をゆるめないだろう! 私がいる限り、この子供たちにも危険が付きまとう……困ったものだ!」「ちがいます、あなたがいるからじゃありません!」		
	「イヤァ!!」						それを消させて下さい、ククル ス・ドアン		「?! 戦いの匂い?」	「あなたの体にしみついてる、戦いの匂いが、追跡者をひきつけるんじゃないんでしょ?」		





録音台本

第16話 (仮)『セイラ出撃』

名古屋テレビ
制作 新通エージェンシー


日本サンライズ

日本サンライズ

第16話 セイラ出撃
昭和54年7月21日放映

制作スタッフ
脚本/山本優●演出/并谷松●作画監督/青林芳信●作画/広岡光昭・前島和子・高田三郎・戸川俊信●背景/アト・ティク・ワン(清水昭紀・加藤明美)●動画チェック/浜津守●仕上/ディーン(清江敏雄・池田みつえ)●特殊効果/土井通明●撮影/旭プロ(平田勝文)●編集/鶴岡友彰●現像/東京現像所●音響監督/松浦典良●効果/松田昭彦●監音/日向国雄●録音/監音スタジオ●制作進行/望月真人●設定制作/円井正●A・P/神田量

キャスト&声優
●阿姆ロ/古谷徹●ブライト/鈴置洋孝●リュウ/飯塚昭三●カイ/古川登志夫●フラウ/鶴岡るみ子●ミライ/白石冬美●セイラ/井上瑤●ハヤト/鈴木清信●ラル/広瀬正志●ハモン/中谷ゆみ●マ・クベ/塩沢兼人●コズン/戸谷公次
●ナレーション/永井一郎

																		S
																		C
16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2				
アムロ、ドアを開く	ウツカ、カツ、レッネて望遠鏡をみるフラウ。ボウ	ハヤト、望遠鏡をのぞいている。あくびをかみころす	Wベースのブリッジ	ゴト砂漠、夜明け地平線のみ明るい。こごろと砂塵が吹く	サブタイトル「セイラ出撃」									以下BANK	F・I サイド7を背にするハワイト・ベース	画面		
アムロ	ウツカ		N		N	N												音
「まだみつからないのかい？」	「ねている」 「シートシート」		地球連邦軍本部と連絡がとれぬままホワイト・ベースは、中央アジアを西へ向かう。少年たちは疲れきり、ただ与えられた任務を行っただけであった。」		「セイラ出撃」	<p>「中宙艦007丸。 地球のまわりにはいくつもの中宙艦が建設され、人々はそこを二の故郷としてくまっていた。 中宙艦サイド3は、ジオン国と名のり、人々をみかすの機嫌にあてめんと、地球連邦に對等ましかけてきた。ジオンの攻撃をまけて、中宙艦サイドリ王政出した。ワイト・ベースは、地球にみりちる。そして、今、</p>												音声


23	22	21	20	19	18	17
双眼鏡をのぞくセイラ	タムラ、ワゴンをおして ブライトふりむいて ブライト、ホットドック をとる	コック長のタムラ、ワゴ ンを押してくる	セイラ左へゆく、くる あくびをしつつ、くる	セイラの方を見て	ブライトとカイ	ブリッジで地図をみつめ る一同
セイラ	セイラ タムラ セイラ	セイラ ミライ	セイラ 「はい」 「ア……（あくび）……」	カイ 「じゃ、誰かさんが歩つてくる わけだ。この砂漠の真中へさ」 「茶化すなノ、カイ。 一番眠い時間だ。セイラ、全員 に防空警視をおこたらないよう に伝えてくれ」	セイラ ミライ 「受信回路は開きっぱなしだ ぞ……」 「無線はあり得ないでしょ？ このあたり、どちらかという と、ジョンの勢力圏内だし」	オペレーターA「天測結果とも照合して ありますので、間違ひありません。 」 「旅東の日に約束の場所に来て いるのに……レビル將軍からは、 一語も連絡なしか？」
「オフロード・クルーザーの様 です。スターリンで確認して下 さい」	「オッ、みなさんこそ。朝食で す」 「まわってやって下さい。目を 離せないんで……」 （低く）「私の不注意です。塩 が、なくなりますが、手に入り ませんか」 「はい、お？……塩か？」 （はい） 「十時の方向ノ、動くも のがあります」					

37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24
病室 ブライトくる	のぞく二人	ハンドルにもたれている 少年 ブライト抱きおこす ホーンの音とまると 少年、ああノと気づく 半眼ひらいて	停まる車。同時にホーン の音が響く。ブライトゆ く	ブライト銃をうつ。二発	ブライトの足とまると オフロード・カーくる	ブライト、リュウ、バヤ ト進む	ドアが開く 砂塵が入ってくる	Wベース降下する	機銃、前へスライドする	ブライト・シートに座つ ている	はげしくバウンドする車	正面の上のモニタ ー 砂塵の中、オフロード・ カーくる	「ア、ア、ア、めオペレー ター」 オペレーターA「最大空速です。二十八 キロ前方です」
ブライトかがみこんで		（トビ）								ブライト「左の機銃開けノ、ホワイト・ ベースはこれより着陸する」			
セイラ 「サママロが応急手当てをして はくれたけど……」 「私がホワイト・ベースの責任	リュウ「よしや。運転を委ろう」	伝令「さ、砂漠に飛ぶのはサボテン のトゲ……ウツ……」 「トゲと將軍の手の者だ。」	伝令「お、かいノしつかりしろノ」										





38	目をふるわせ伝令	伝令	「オ、オデッサ・デーは五日後の予定です。……それまでには……ホワイト・ベースは、カスビ海を渡れとの命令です」	者 of プライト・ノアです」
39	プライト	プライト	「オデッサ・デー？……なんです？それは……」	
40	伝令	伝令	「ヤシリア配下のマ・クベの主力部隊を叩く作戦日です」	
41	プライト	プライト	「マ・クベ？」	
42	伝令	伝令	「マ・クベのおさえてある鉱山は……今度の戦争の勝負をきめる大切な場所なんです。……それを……オデッサ・デーに叩きます。……」	
43	ふつと身をひいて	プライト	「我々のホワイト・ベースが、攻撃に参加するという事ですね」	
44	ふつと静かになる伝令	セイラ	「私たち……軍隊じゃないんでしょ。プライトさん」	
45	かがみにむサンマロ、セイラはひく冷顔に思える F・Oの仕方では、プライト見る（冷い女奴）と 思っている	伝令	「うう……。……うー」	
46	周をよせて、伝令は息をひきとったのだから F・Oするプライト	セイラ	「出血がひどすぎでね。……」	
47	でてきてドアを開けるプライト コック長のタムラがまっ ている 二人くる	プライト	「……。ホワイト・ベースが正規軍に組み込まれるというわけか？」	
48	二人、エレベーターにの る	プライト	「何か？」	
		タムラ	「さっきの塩の件なんだが」	
		プライト	「どうして……」	
		今まで気づかなかつたんです？		


49	ドア閉じる	タムラ	「この間の斗いで倉庫に直撃をくらったろ？あれん時、塩がヤられたんだ」	
50	エレベーターのドア開いて、二人でてゆく	プライト	「この先は、ジョンの最強部隊があるらしいんです。とてもしやないが、手に入らんでしょ」	
51	プライト	タムラ	「塩がないと戦力に影響するぞ」	
52	プライト	「どうしまししょう……」		
53	プライト	「（背中）「ずつと済まないの？」		
54	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
55	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
56	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
57	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
58	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
59	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
60	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
61	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
62	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
63	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
64	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
65	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
66	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
67	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
68	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
69	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
70	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
71	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
72	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
73	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
74	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
75	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
76	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
77	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
78	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
79	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
80	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
81	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
82	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
83	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
84	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
85	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
86	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
87	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
88	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
89	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
90	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
91	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
92	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
93	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
94	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
95	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
96	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
97	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
98	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
99	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		
100	「（背中）「ずつと済まないの？」	「済むわけないだろ」		

69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58
コーヒールをのむラル	コップを持つラル	その天望台	T・B Wベースゆく 太陽。ブォーンと低い音が近づいてる。砂塵を舞い上げて、ギョロコップのシルエツトが横切つてゆく	Wベース前進する	ブライイトなめミライ	顔を伏せて				コック長Fr・inして	ニコツとして
「ハモン」	ラル	「情報通りだと、そろそろ、木馬と接触できる頃だな」			ブライイト「笑いなよ……」	ブライイト「よし、潮をまわる方が、抵抗は少ない、と考えようか」	ミライ「フ……ノ ブライイトらしくもないわね」	オベレターA「マ・クベの抵抗さえなければどこからでも問題ありませんが……」	ブライイト「オベレター、潮にまわつても問題はないな？」	ミライ「あつたわ。シルタロードにあるカン園」 ブライイト「カン園？」 ミライ「ええ、塩を含んだ湖。そこにはいけば塩がとれるかも知れないわ」 タムラ（背中）「は、ほんとかね？」	「……」 「アムロノ 終らないのかノ」 「もうちょっとですノ」


77	76	75	74	73	72	71	70
コールチャイムなる	ニコリするハモン	ラル	ハモン		敬礼をする	と、敬礼をするラル	ウラガン少尉がうつる全体にゆれる
「ハモン」	ハモン	ラル	ハモン	ハモン	少尉	ラル	兵A
「……」	「は」	「私は、ギリラ艦だ。ガルマ様の仇を討てば、すぐに宇宙に帰る。さて、この辺りで綱をはるか！ ハモン！」	「マ・クベ様と油断のならぬお方と聞いております」	「さあ？」	「御武運を！」	「さすが、手廻しのよい。必要な時は連絡をする。大佐にはよろしく……」	「少尉（雑音の中）「マ・クベ大佐は只今、御不在であります。御到着の必要情報は私から届けよう。マ・クベ大佐から申しつかつております。私は、ウラガン少尉であります」
「……」	「は」	「……」	「……」	「……」	「……」	「……」	「……」


86	85	84	83	82	81	80	79	78	
ラル、ハモンの手の上に 手をのせて	猛烈なスピードで進むギ ャロップ	バアーと砂塵をあげて前 進するギャロップ	天羅台	ゆつくり進むギャロップ	連結器が外れ、ギャロッ プゆつくり前進する	うしろのカーテン閉じる ドアが閉じる音がする 白磁の瓶を指ではじく	ウラガン敬礼をする まわれ右をするウラガン	マ・クベ ティブルをみて	ウラガン、カメラの方を みる オートマチックでカーテ ィが左右に開く モニターあらわれる 「マ・クベ」
ラル ハモン	ラル ハモン			マ・クベ「フフッ」	ウラガン「はっ！」	ウラガン「はっ！」	マ・クベ「さてよ……。 ウラガン……。 ランバ、ラルに教えてやれ。奴 が木馬を早く始末つけてくれ ば、この辺りにウロウロされ ることもなくなる。 ……とにかく、私の発願した 鉱山の突体をドズル中符に知 れるのは、まずい」	マ・クベ「(背中)「なんだ？」 兵A「情報員から、新たな情報が入 りました。木馬と思われる船が、 方向を変えました。図が推定コ ースです」 マ・クベ「好都合だな。私の鉱山から離 れてくれる」	兵A(通)「マ・クベ大佐」
ラル ハモン	ラル ハモン			マ・クベ「フフッ」	ウラガン「はっ！」	ウラガン「はっ！」	マ・クベ「さてよ……。 ウラガン……。 ランバ、ラルに教えてやれ。奴 が木馬を早く始末つけてくれ ば、この辺りにウロウロされ ることもなくなる。 ……とにかく、私の発願した 鉱山の突体をドズル中符に知 れるのは、まずい」	マ・クベ「(背中)「なんだ？」 兵A「情報員から、新たな情報が入 りました。木馬と思われる船が、 方向を変えました。図が推定コ ースです」 マ・クベ「好都合だな。私の鉱山から離 れてくれる」	兵A(通)「マ・クベ大佐」

98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87
ミライとブライト	バチバチとキーを叩くオ ペレーター	ミライきて	坐りこんでいるタムラ	ブライト、ひあがつた湖 を背に	オペレーター	タムラ、ブライト ブライトうしろに向つて	Wベースより湖へPAN アムロ、フラウ、カツ、 レツ、キツから	タムラ、ブライト、茫然 としている	隊員達	ひあがつた湖の前のWベ ース	砂漠をつつ走るギャロップ
ミライ オペレーターA(通)「戦前のでしょ？ 戦争からこつち地図を作る人工	ミライ オペレーターA「探してみます。ロブ・ レイク。……カン湖……五百年 ごとに西と東に振り子のように 移動する……」	ミライ 「マーカ！ この湖のデーター ついてないものかしら？」 オペレーターA「探してみます。ロブ・ レイク。……カン湖……五百年 ごとに西と東に振り子のように 移動する……」	タムラ 「塩がないばかりに、ホワイ ト・ベースをうろろさせてしま つた。もう、ジョンに見つかつ ちまつてる」 ミライ 「マーカ！ この湖のデーター ついてないものかしら？」 オペレーターA「探してみます。ロブ・ レイク。……カン湖……五百年 ごとに西と東に振り子のように 移動する……」	ブライト「しかし、おかしいじゃないか タムラ 「(通)「だ、だめだ。……」 ブライト「タムラさん」	オペレーターA「はい。間違ひありませ ん」	タムラ「「そ、そんな……」 ブライト「地図と照合しろ。間違ひない のか！」	カツ、レツ、キツカ 「あー、胸がきえちやつた？」 アムロ 「確かに湖か何か、あつたあと らしいけど……」				

133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	
Wベースの機銃撃つ	ギヤロップ撃つノ	ハモン、クランプ、ビームの光の照り返し	ギヤロップに向かってビームが走る	トーム砲で、ボウツとビーム砲の砲口が煙やくとビーム出る	ブライト	Wベースの近くに着弾	ギヤロップの姿がみえる手前に着弾くる	大汗をかいて再び気持の悪いのを手でおさえつばをベツとやるハツとする	上体だけがぶさまに上がるガンダム、せり上がる地面に膝がついてすべり止まるガンダム	一瞬ベツとつばをはきながらレバーをひくセイラ	地面がせまる	うつと嘔吐しそうになるので気づく、気持が悪いので前かがみになる、ぞつとする
		ハモン クランプ ハモン クランプ ハモン			ブライト	セイラ		セイラ				うつ
		「あーっノ」 「うっノ」 「回避運動を行いながらも、攻撃は、やめぬようにノ」 「ハッノ」 「そろそろあの人が出るはず。それまで、敵をひきつけておくのです。」			「左舷ノ 応戦しろノ ビーム砲急げノ ガンキャノン、ガンタンクはガンダムを襲撃しろノ」	「あー」		「シ、シミュレーションで完全に憶えているつもりなのに……。うっ、こんなにすごいなんてうっ、うっ、あー」				
												

140	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134
せまるグフ	ハツとふりむくセイラ	ロケット噴射ノ ひねりを加えてとびあがるグフ		ザクうつ、ビームゆく手前の陸地をグフがゆく		至近弾が当りガンダムよろける	直撃によるけ、さらに	スコップから眼を外してコクピットがゆれる	ザクの駆速くビーム通過する	ザクの弾丸がゆく中ガンダム、ビーム砲撃つ	ザク撃つ	ドキッとして	ザクがあらわれる	セイラ、レバーを操るハツとするセイラ	ガンダム立つ
セイラ	セイラ		ラル		セイラ			セイラ				セイラ	セイラ	セイラ	
「右から」			「フフ……あのパイロット奴、不慣れらしい。気の毒だが、いたかく」		「こ、こんなに射撃が難しいものだなんて……」			「狙っているのにノ 当たらないノ あーノ」				「ノ は、反対からザクが？」	「敵ノ」	「な、なんとしてもパイロットの兵と接触しなければ……。敵？」	（ミサ）
															


164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150
アムロなめ、スコープの	ラル	横走りて走るグフとガン キャノン	アムロ	ガンキャノンへ	ズーンと着地するガン キャノン	ラル	ガンダムの前にグフが下 りたつ 左手をつきだす、キラ/ 砲撃、炸裂、右方へふつ とぶグフ	大きくゆれる	めりこむガンダムの手	盾をバツと前へもってく るガンダム、レーザー・ ロッドくる 当たった瞬間に猛烈なスバ イク ズーンとガンダムよろけ る	のびるビート・ロッド	グフ、右手をふりおろす	つ	ガンダム、バルカンをう
	ラル		アムロ			ラル		セイラ						セイラ
	「長距離援護用のモビルス ーツか？ 手強そうだが？」		「セイラさん！ 立って！ 後 退して下さい。場合によつては、 僕が換装します。チノ！ どうせ 無敵を切っているんだろ」			「うかー?!」		「あう!! あーっ」						「バルカン！」

180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	
倒れるガンダム	ゆつたりと倒れる	アムロ T・B	髪がゆらめく	ビーム・ライフルとぶ	ガンダムの足が切れてい る	爆撃でえぐられた砂漠の 中、ガンダム一歩くる、 とノ！ いきなり足もとが らビート・ロッドが上が る	アムロ	ガンキャノン走る	セイラ、左右を見て	アムロ	ガンダムが入ってくる	アムロ、チラツと右方を みて	砂漠が爆発でふくれ上 る ザア！と砂の雨がふる	射	ボタンをおすアムロの手	中のグフ。照準スケール が合つてゆく
		アムロ	セイラ				アムロ		セイラ	アムロ		アムロ			アムロ	
		「あー！」	「あー！」				「モビルスーツはそんな簡単な 相手じゃありません！ セイラ さん、退つて下さい！」		「……バ、パイロットは？」	「まだ、敵を確認してないん だ！ 早く退つて下さい！」		「やったか？ ……、セイラさ ん？」			「いけーっ！」	
																

196	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181
ジャンプして後退するダ	ガンギヤノン撃つ	ハツとするラル	よける。そして上昇する	ヒート・ロッドがとんでくる	うつとなるアムロ	ガンギヤノンの足が砂にくいこんで止まる	動きの中、砲撃するガンギヤノン	アムロの手、ボタンおす	アムロ	撃ち合い、ロッドをガンギヤノンよける	Wベースとギヤロップの	とびだす	右腕をつけると、右腕をふるう	モーションをつけると、	ロケット一発、手前に着地するガンギヤノン
		ラル「うお！」							アムロ「えい！こ、こちらに狙いをつけさせないつもりか！」					ラル「フフ……。砂がクッションになつてくれなければ、このモビルスーツのグフとて、やられていたわ。」	

215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	200	199	198	197
ガンダムを盾をザクの足がはねとばし	ガンダムやられる	顔を伏せる	ジャンプするザク	ガンダム、バルカンをうつ	せまるザク	全体ゆれる	ガンダムの足よろける	得意のコズン	ザクせまる	おびえるセイラ	U 膝立ちのガンダムへT・	ザクのりだす	一方をみてギョッとする	着弾が上がる	ガンギヤノンうつ	のぞいて	着地するガンギヤノン。左におくより銃火くるので地に伏せるガンギヤノン
		セイラ「あーっ！」				セイラ「オ、オート・バ、バランスーがき、効かない！ ああ……！」		コズン「大丈夫であります！ラル大尉。このモビルスーツを手に入れますよ！」		セイラ「あ、あ……！」			ラル「なんとか格闘戦にもちこまねば……。コ、コズン！ う、うかつだぞ！ ひくんだ！」			アムロ「どこだ？」	

230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216
ハヤトなめの前方	ガンタンクうつ	砲撃をうけて後退するダ	得意のコズン	ぐいっと上がるガンダム	セイラの手、レバーをさげてゆくが、はねる	セイラ、ぞっとする	ザクの右の人さし指がガンダムの眼をこすつてい	なる	スクリーン、バブと黒く	ザクの人さし指が頭のカメラ・アイをつつついてこわす	ガンダム立とうとする	ガンダムが起き上がるとうとする砲を、目とカメラをおさえてしま	うしろにザクが着地する	倒れる
リュウ			コズン			セイラ		セイラ(背中)「あっあ、メ、メイン・カメラが……」				コズン 「ラル大尉! 見ていて下さいます!」		
「新型モビルスーツを、ガンダムに近づけさせたら助けられるものも助けられんぞ」			「大尉! ヒート・ロッドで、奴の動力部のパイプの一本も焼ききつて下さい! こいつを基地へもって帰ります」			「カ、カメラが潰されていく……」								

245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231
ブレる	アムロ、コクピットの中本能的に頭をさげて一方に向かつて、大きく	地に伏せるガンキャノン手前で破裂してとび散るクラッカラー	クラッカラーとんではじける	ザク、身をひくとむこうのガンキャノンうつ	ザク、クラッカラーをなげる	ラル	着地するダブ	集中砲火にダブ左へ後退する	短機関砲が喰る	はっと上をみる	猛爆! ダブみえなくなる	ハヤト	砲撃をよけるダブ	ハヤト撃ちつづけたがら
アムロ					コズン	ラル				ハヤト		ハヤト		ハヤト
「セイラさん! 無線回線を開いて下さい! ノ! 力押しじゃ駄目なんです。力だけじゃあ、うわいっ!」					「ええい! ザクを分散しておきすぎたわ! コズン、大丈夫か!」 「な、なんとか。一人で動けないようにしてみます。アコースノ赤い奴を突破して、コズンに近づけんのか!」					「あそこか!」		「精一杯なんですよ!」		「は、はい! で、でも相手の動きを追いかけるのが!」

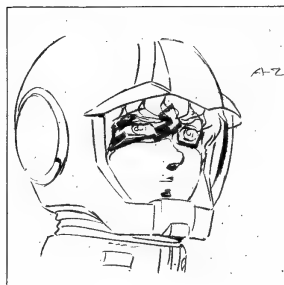
259	258	257	256	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246
ザク、ギョッと停まる ガンキャノンの手入って	前のめりになるセイラ	退るコズンのザク ガンダム立とうとする	コズンはっとして	ガンダムの腰の横をつき 崩したザク。ハッとして一 方をみる	叫ぶラル	グフの盾の半分がとび散 る ひきさがるグフ	ものすごい衝撃をくらう ものすごい衝撃をくらう	ガンキャノンなめ爆発	ザク やられてゆくアコースの ザク	コクビットのモニター、 ずんと腰をあげるかんじ のガンキャノン、ピカノ モニター・スクリーン暗 くなる。続いて閃光	正面をみる アコース	バネルをみるアコース ビクン、と身をひく	ガンキャノン腕で砲弾を はじき返す
セイラ 「……?! ど、どういうこと？」			コズン (off) 「アコースが?!」 コズン 「アコースがやられたのであり ますか」 ラル (off) 「そこから、離れろ！」 コズン 「は、はい！」		ラル 「コズン! 退れ! / アコー スがやられた！」		ラル 「アコース! / ア、アコース! うわーっ!」			アコース (off) 「ウア、ア、ア……」 アコース 「し、しまった。弾が切れた…… し、しまったア! /」			



274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260
ランブ コクビットのハモン、ク ランブ	砲撃しつつ疾走するギヤ ロツプ	うしろをみて	着地して走るグフ	手前の砲撃とグフの後退 が同時に……	砂地におちるザクの頭	コズン壁にぶち当たる	倒れるザクを下からけり あげる	ガンキャノンの左足が上 がる	ザク倒れる	単眼がくだけてザクふっ とぶ	こぶしをつくるガンキャ ノンの手。ふり下ろされ る	アムロ	コズンなめガンキャノン	くる
ハモン 「クランブ。グフはキャプテ ンか?」 「アコースとコズンがやられた らしい。ひき上げるのも、やむ を得ないでしょう」		ラル 「コズン! / コズン! / 応答し ろか? / コズン! / や、やられた のか? / ハモン! / きこえるか ! / ギヤロツプをよこせ! / 合 流する!」				コズン 「ウア! /」						アムロ 「こいつ! /」	コズン 「背中」 「あ、あ……」	コズン 「ラ、ラ、ラル大尉!」



311	310	309	308	307	306	305	304	303	302	301	300	299
タムラとカイヨ	ブライト、キッカたち	ふっつと微笑。涙が出るうれし泣き。壁にもたれるセイラ	立ち去る足音をきいてベッドに坐るセイラ	格子のむこうのセイラ フラウのぞいて	ドア閉じる、リウウのぞく	ドアを閉じつつでくるセイラ	微笑	頷いて	セイラ、チラとうしろを気にして	え？ となり	ベッドに食器おいて	セイラ、盆をもってくる
タムラ	キッカ 「あつたノ 湖だ」 「うわあーノ きれいーノ」	セイラ 「兄さん……シァアは、兄さんだわ……。まらがないい……ぶじでよかった……」		セイラ フラウ 「心配しないで……リウウさん（背中）」「用があつたらいつでも呼んで下さい」 セイラ 「ありがとう、フラウ・ボウ」	リウウ 「三日間ですから辛痺して下さい」	セイラ 「何、話した」 「いくらで私を買収できるかって……」	セイラ 「そう……ありがとう」	コズン 「あ……シァア・オオオオオ。ガルマを守りきれなかつたんで、失脚したよ。故郷へ帰ったとがきいたけどな」	セイラ 「赤い彗星の……おしえて下さいませんか？」 (アキナ)	コズン 「……シァア？ ……シァアって？」	セイラ （低く）「シァア……どうしたか御存知でしょうか？」	セイラ 「……」 「セイラさん」



314	313	312
F・O	水面を軽やかな波紋ゆっくりと近づくWベース	小高い山をこえるWベース



……第十六話・おわり……

連続テレビ・アニメーション番組

G 機動戦士 ガンダム UNDAM

録音台本

第17話 「アムロ脱走」

名古屋テレビ
制作 創造エージェンシー
日本サンライズ


株式会社日本サンライズ


第17話 アムロ脱走

昭和54年7月20日放映

制作スタッフ

●脚本/松崎健一 ●絵コンテ/芹谷敏 ●演出/藤原良二 ●作画監督/安彦
良和 ●作画/林和男・田中健・松岡秀明・岸田拓也 ●背景/アッブル
渡辺毅・渡部孝 ●動画/チエック・浜津守 ●仕上/シヤブ子 ●三橋瑞子
加藤紀子 ●特殊効果/土井通明 ●撮影/旭プロ(斎藤秋男) ●編集/高
須友彰 ●現像/東京現像所 ●音響監督/松浦典良 ●効果/松田昭彦 ●監音
/日向国雄 ●録音/豊音スタジオ ●制作進行/横田益朗 ●設定制作/円井
正 ●A・P/神田量
キャスト&声優
●アムロ/古谷徹 ●ブライト/鈴置洋孝 ●リュウ/飯塚昭三 ●フラウ/鶴
飼るみ子 ●ミライ/白石冬美 ●セイラ/井上喜久 ●カイ/古川登志夫 ●ハヤ
ト/鈴木清信 ●コズン/戸谷公次 ●ラル/広瀬正志 ●ハモン/中谷ゆみ
●ナレーション/永井一郎

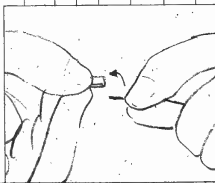
													S
	19	18	17	16	15	14	13	12	11	3	2	1C	C
	カイ	メモするアムロなめカイ	アムロなめ、スクリーン 変わる 来るカイ	いすに座ってキーをたたくアムロ	スクリーンの上に現われる、ザクとガンダム 数字	アムロの手、キーを叩く	Wベース、メインブリッジ。PAN アムロ	高原。夜。 来るWベース。	サブタイトル 「アムロ脱走」	砂漠をとぶWベース	演説するキラ	木降米の地図	面 面
	カイ	アムロ	カイ						N	N			音 声
	「けどよ、捕虜の云ってたダフ って新型のモビルスーツにゃ、 どうにもなるまい！」	「戦斗シミュレーションを作っ てみるんだ」 「はん？」 「手に入れたザクのおかげで、 具体的な性能が判ったんです。 その数字と、ガンダムの性能を 組み合せて、いよいよ正確な、 戦斗のパターンが作れないか、 ためしているんです。」	「(お)「えらく、御熱心じゃね えか?」何やってんだ」						「アムロ 脱走」	「その戦場の一角、今、ホワイ ト・ベースは、捕虜をかかえて、 一踏、コロロップへのコースを とっていた。」	ドッキンかミン・バノウ		

32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20
キッカ、洗面所にとびこ	アムロ入って来て驚く	ふみとどまる。アムロ??と見る キッカ、ドアより来て、さわぐ	歩いて来るアムロ、つんのめる	Wペースゆく	行く、ミライ	ブライト 	捕りよ、コズンのまわりリハウ、ジョン、ブライト	ドア開き来るミライ	アムロなめミライゆく	ミライなめ来るカイ 行くミライ	カイ行く	パネル前のアムロ
キッカ	アムロ	キッカ 「(off)「あゝあゝ、水、——えい!」アムロ! 直して!」ね 「水道ね、直して!」	アムロ 「あっ!」		コズン 「(off)「そり簡単にしゃべるわけには、いかんよ」	ブライト 「マ・クベの鉱山の事、話してくれませんか?」	コズン 「この艦の責任者が私だということを知っててくれなくてね」 コズン・グラハム小尉? ランバ・ラルのギャロップとかいうの、どこにあるのだ」 「将校には将校の扱い方があるのは知ってるだろ!」 「南極探検は調べましたよ、コズン小尉」	ミライ 「どう? ブライト」 コズン 「(off)「また、若すぎる女兵士かよ」	ミライ 「アムロも、寝てちょうだい」 「(背中)「はい」	カイ 「かわるうか?」 「ありがと、頼むわね」	カイ 「ホッ! さすがアムロ君ね」	アムロ 「ザクの性能より二十倍増して、やっています」
「ミライ——! 水道ね——!」	「ア? キッカ! ミライさん、いるんだろ! みてもらえよ」											

44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	
ザクの脇に立つ、クラン ブとラル夫妻	高原、歩哨が立っている PAN、カーゴ・ギャロップ、ファット・アングル見える	アムロ、チラッと見て行く	ミライ	顔をふくアムロ 喜ぶキッカ	水道の栓をまわすアムロの手	アムロ、洗面器の中より蛇口をとり出し、とつてにつける	キッカ	アムロ、キッカとかわり蛇口をいじくる	アムロ、気まづく来る	キッカなめミライ	キッカ、蛇口にとりつく	来るミライ アムロに気づいて身をひく
ラル		アムロ 「いいえ。ちゃんと直してもらわないと、い、いけないと思います。じゃ、早く、これで」	ミライ 「たすかったわ、アムロ……もう完全!」	キッカ 「フ——ッ」 「ハハ——」 「ア!」 直った、直った			キッカ 「洗面器ン中ナ……」	アムロ 「キ、キッカ、どいて」 「ヒュ——!」 「う……、キッカ、水道のどっちはどうしたんだ?」	アムロ 「は、はい。は、入ります」	ミライ 「アムロ! まだいて?! 蛇口をみてやって!」	キッカ 「(背中)「お洗濯してたら——、とまらないのよ——!」	ミライ 「どうしたの、ア?!」 「あ——あの——キッカ——!」
「このザクとて、かなり使いこ んであるやつだな。クランブ。」												

53	52	51	50	49	48	47	46	45
Wベース独房に放り込まれるコズン、歯をはずす	ラル	ハモン		階段を上って立ち止まる。ハモンとラル	カーゴへ向うラルとハモン	歩く、ラル、ハモン	ファット・アングル、上昇する	ハモン、ラル、クランプ
コズン	ラル ハモン	(off)	ラル ハモン	ハモン ラル ハモン		ラル	兵士	ハモン ラル
「当分であられると思ふな」 「素人どもめ。ろくな身体検査 もしないで」	「まあ、……みていろ」 (off)「信じておられます」		「生活ができる」	「あなた……」 (背中)「ン？」 (今後の作戦どういうおつもりで、受けたのです?)		「その後の木馬の動きはどうなっている？」	「御苦労」	「大丈夫なのか？」 「オーバーホールの状態はいい ようです。関節部分は、新しい のに替えてありますし……」 「ン。ファット・アングルは希 薄でいい」



69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	
行くミサイル爆発する	Wベース、ミサイル発射	ブライイトなめオペレーターA	Wベースゆく	コズン走る	叫ぶセイラ	コズン、逃げる	セイラ、軽く身をひいてさげ	コズン、セイラの独房の前	セイラのぞく、PAN コズン、とび出してくる	ドア爆発。コズン見てニヤリとする。	電池とワイヤー接觸する	ワイヤーをひくコズン	ドアのノブにくくりつけたワイヤー	手の平の歯とワイヤーと電池	ズボンの中よりワイヤーを出すコズン	金歯
		ブライイト			セイラ	コズン	セイラ	コズン	コズン							
		「ブライイト」 「ミサイル水平発射！」			「誰か——来て！ 捕虜が脱走します！ 誰か——」	「コ、こいつ——」	「感違いなさっているようね。脱走するのなら、人を呼びますよ」 (off)「なに?」 「誰か! 捕虜が逃げます! 誰か!」	「お前、ジオン人間だぞ? やっていいんだぞ」								



82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70
降下するガンタンク	Wベースからはなれるガンタンク	来るガンタンクのキャタピラー	out・inするアムロ	ハヤト	ガンタンクのキャタピラーより、T・B P・U	何もうつていないモニターへ T・U	モニターにアムロがうつる	ミライなめブライト	正面スコープ、敵トーチカを写し出す。	ブライト	ブリッジへかけこむミライ	ブライトなめオペレーター④
			アムロ	ハヤト		ブライト	アムロ	ブライト		ブライト	ミライ	ブライト
			「大丈夫。……ブライトさんを説得する自信はある！ 発進するぞ。……いいな！」	「アムロ！ 本当に、いいのかるぞ！ ブライトさんにしかられるぞ」		「了解！……。空中換装？アムロ！ どういうことだ！」	「了解！アムロ、発進します！空中換装もあり得ます！ガンベリーの方を用意しといて下さい！」	「アムロ！ガンダムを発進させる」		「スコープ、最大望遠！前方の基地を！」	「ハー、ごめんなさい！」	「発射地点は判るか！(オペA)「地上かららしいです、十一時の方向です」マ・クベの基地がこんを東にもあるのか？」

94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83
動く、パネルのメーターとまる	爆発でゆがんだドアのキーよりPAN 暗い部屋の中、コズン急しく手を動かしている。	セイラ フォロー	セイラの足走る	正面モニター、いくつかの部屋があらわれるが、全て無人	ブライト	モニターの中、独房の前、セイラとリウウ	ブライト	リウウの写るモニター	ギョッとするブライト	オペレーター⑤	着地するガンタンク
コズン	コズン	セイラ			ブライト	セイラ	リウウ	リウウ	ブライト	オスカ	
「ええい。なんて合せてくいんだ。こいつは」	「あの捕虜の事だから、本隊と連絡をつけることを考えるはずだわ」				「い、いや……。オペレーター！ 艦内チェック急げ！」	「頼みます」	「ブライト、ありがとう。なんとしてでも探し出します」	「ヤむを得ん。捕虜の発見を急げ。場合によっては射殺するのヤむを得ない」	「なに?! リウウじゃないのか? どういうわけだ」	「オスカ、ハヤトとアムロです」	
「き、きた……」								「セイラが教えてくれた！ 捕虜が脱走した」	「なに?!」		
								「(背中)「なに!」	「リウウ! どこにいるんだ!」		
								「俺はガンタンクで……」			

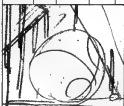
106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95
セイラ、あっと身をひく	コズン、立ち上りつつ、ヘッドフォンを叩きつけとび出してゆく	ランプ類がふっと消えて、手、Fr・Oする	ブライトなめオペレーター⑤	正面スコープ内、画面変るが、乱れている	ブライト	オペレーター⑤	壁にもたれ乍ら、行くセイラ	セイラ、タラップを上りくる	通信室、かけこむラルとハモン	ラルとハモンをめ来る兵	ニヤリとするコズン
	コズン「このっやろうー！」	コズン「チャー！」	オスカ ブライト オスカ 「テレビ回線が切られています」 「通信のマスター回路を切れ！」 「は、はい！」		ブライト オスカ 「何?!……そんなはずはない!」 「(オペB) (off) 通信回路作動しています」 「モニターを出せ」	オスカ 「(オペB) 第二通信室に誰かいますか!」			コズン 「(off) 「ガンダム、ガンタンクガンキャノンの3つのタイプが存在する。木馬には、こいつが各一機づつしかない。戦斗機は存在は不明だが……」	兵④ 「こ、ここでありましたか、コズンから入電です」 「(音中) 「なに!」 コズンからだ」と!	コズン 「ムスタング、グー、ムスタング、ツッ。こちら、コズン。木馬より発信」

121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107B	107A
排ガスでる	ガンタンク、うつ	ハヤト	光る空の下、トーチカがみえる	Wベースのブリッジのむこう、爆発がみえる	ブライト、トラッとミライをみて	ミライなめブライト	角を曲るコズン セイラFr・Iする	セイラ拳銃を構える	セイラの手、拳銃をとり	セイラ、はっと銃を拾おうとする。	壁にぶつかる銃	床におちて手間にすべる拳銃をけとはすコズン	上るセイラの拳銃をはらう、コズンの手	セイラ	コズンも、うつと身をひく
															
						<p>ミライ 「ブライト、……どの程度の情報が見えたかと思ってる?」 「判らん……」 「正面の敵も、そうだけど、これ、あのランバルのグフ部隊を呼びこんだよりね」</p>									

133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122
士官	兵⑩と士官	司令室へT・U・ジョンの兵が怒鳴っている	U、する	トーチカなめ爆発をP・すむ	爆発の間をガンタンクす	アムロ。UP	ニヤリとするアムロ	爆発する 弾幕の奥、来るミサイル	砲火をふく ガンタンクの手の短機関	砲座のハヤト	ガンダムコクピットなめ、3機のミサイルとんでくる
士官	士官⑩				アムロ	アムロ	アムロ		ハヤト	アムロ	
	「えい！い！どういうつもりだ。戦略的にたいした意味もない、こんな鉾山をむきに攻撃してくる奴はア！」	「マクベ少佐からは！」 「ハッ！ドップを援護に出してくれただけです。その後の連絡はとれません」			「用兵の問題は……まだ、ブライトさんには判りやしない。なんでもかんでも、ガンダムで戦わなければ、いいってもんじゃない」	「いいぞ、ハヤト。この程度の地上基地なら、このガンタンクの機動力と火力で充分に対抗できる」			「見つけてる！」	「(背中)」「右にぐるぞ、ハヤト」	

147	146	145	144	143	142			141	140	139	138	137	136	135	134
ハロに驚くコズン、ヨロツとする	ハロ、ダツとくる	キッカ、ハロに指示する とび出すハロ	コズンくる	カツ、ハロ、 カムのぞく コズンくる	コズン、手すりをすべり おきる	アイキヤツチャー	アイキヤツチャー	ラルUP	ハモンとラルへT・U	ギヤロップ走る	ニヤリとするアムロ	ガンタンクのキヤタビラ より胴へT・U	やぐらを倒す	のり出す士官⑩ パツと閃光が画面をおく	士官⑩なめ爆発
コズン		キッカ		カツ				ラル			アムロ			士官	兵⑩ 士官⑩ 兵⑩
「なんだ」		「防衛攻撃、いけーハロー」		「くるぞ……くるぞ……」				「コズン……うまく逃げおくれよ」			「よーし、ハヤトいいぞ！敵の基地を照らせるのも時間の問題だ！」			「と、いうことは、……ここを攻撃してくるのは……あの噂さの木場なのかい？」	「(何かい)」「(小尉)」「(何かい)」「ランバ・ラルのギヤロップが応援してくれるそうです」「ランバ・ラル！お、お、ガルマの仇討ち隊かい！」

162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148
カイ、レバー動かす	行くガンキャノン	発射されるキャノン	カイ	ガンキャノン、カタパルトにのる。BG新作	コアフ、タイターゆく	コアフ、タイターゆく	リュウ	コアフ、タイターのジェット、ドッパとふく	ミライなめブライト	ブライトなめオベレーター④	正面スコープに写る、追うセイラと逃げるコズメン	くるセイラ	コズメン、トラップの下へ逃げ込む	来るセイラ、拳銃を構える
カイ			カイ				リュウ		ミライ	ブライト				
「いいぞ。バランス良好だ……。着地する！」			「ガンキャノン、カイ！ 発進するぞ！」				「よし、発進する！」		「捕虜はセイラがなんとかしてくるはずよ！ リュウとカイを。それに、アムロをガンダムに換装させて」 「リュウ、カイ、きこえるか！ 敵の支援部隊があらわれた！」	「捕虜は第十八ハッチに向っている！ 誰か、いないかい！」 「オベア」ドッパです！ つづいて、地上を接近するものがあります 「なに?! 捕虜のいって、ギャロップだ！」				



179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163
ドッパくる	ガンタンク方向転換する	ハヤト、あつとなる	前に出るグフ	ラル	ラル、グフにのりこむ	出てくるラル	ハモン	ラル、敬礼のまねをして	ハモン	ラル、ヘルメットをかぶり、ハモンにキスをする	ギャロップなめドッパの6機編隊が追いこしてゆく	ラルとハモン見上げる	ランバルなめ地平線キラキラひかる	ギャロップ走る！	着地するガンキャノン	ガンキャノン、降下する
		ハヤト		ラル			ハモン	ラル	ハモン	ラル		ラルハモン	ラル			
		「アムロ！ ドッパだ！ 左旋回！」		「ギーン！ ステッチ！ おくれるなよ！ 発進だ！」			「ハモン」	「グフが3機あればとは、思いがな、コズメンが脱出できたら、救助してやってくれ」 「勿論です、……あなた……」	「ハモン」	「ハモンは、3機のモビルスーツをつけて……」	「いってやる。今度こそ、という言葉は、あまり使いたくないものだ」	「見えてきたぞ。木馬叔！ あ……、支援のドッパの編隊です！」	（背中）「フッフ……」			


193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180
ハヤト、はっとスコープからのり出し、またのぞく	3機のモビルスーツ、バツと三方へちる	ガンタンク、うつ	アムロ	ザク2機とグフくる	アムロ。左右を見る	ハヤト	苦しいアムロ	ガンタンクにドップの砲火が集中する。	cut 尻大きくブレる	スビーカー	アムロ	ドップやられる	ガンタンク、うつ
			アムロ 「ハヤト、いけー」 「アムロ」	アムロ 「ハヤト、いけー」 「アムロ」	アムロ 「ハヤト、大丈夫かー」 「ハヤト」 「左！ザ、ザクだ」 「ザク！うっ……新型のモビルスーツも……グ、グプっていつてたな、あの捕ま……」	ハヤト 「や、やっている！け、けど、うわー！」	アムロ 「ハヤト！よく狙え！このガンタンクの性能ならドップなんか……」		アムロ 「し、しかし！うっ！」	アムロ 「ドップの5機や6機……」 「（下をみて）「な、なんですか！ブライトさん！」」 「（左）「ガンキャノンとコアファイターが、間に後退しろ！ガンダムに換装するんだ！」	アムロ 「（左）「アムロ！きこえるか！」」 「（下をみて）「な、なんですか！ブライトさん！」」 「（左）「ガンキャノンとコアファイターが、間に後退しろ！ガンダムに換装するんだ！」		

208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194
至近弾あたるが、上昇するガンタンク！	グフ撃つて来る	アムロ	ミライなめブライト	Wベース、前進する	主砲撃つWベース、奥行くギャロップ	ミライなめブライト	カイ	ガンキャノン走る	アムロ	砲を撃ちつつ、後退するガンタンク	とび出すグフとザク2機	アムロ	ザク、バツとかくれる、追って行く砲撃	ガンタンクの手の砲、火をふく
		アムロ 「り、了解！……」	ブライト 「アムロ！きこえるか！ハチ開くぜ！後退しろ！」			ブライト ミライ 「了解した！ミライ、ホワイト・ベース突撃だ！」 「はい！」 「左！ギャロップを近づけさせるなよ！」	カイ 「え、ガ 冗談じゃないぜ！ホワイト・ベース前進してくれ！ガンキャノンだけじゃあ……」		アムロ 「ハヤト、後退する！動いている相手にガンタンクは不利だ！カイ！きこえるか！援護を頼む！」			アムロ ブライト 「うっ！ザ、ザク奴！計算より、動きが早いぞ……」 「アムロ！戻れ！」		


223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209
上昇して止るガンタンクの上。ハヤト	ガンタンクの上体、外れてゆく	セイラとオムル	コズンと破片が大地に落ちてゆく	見つめるセイラ	ふつとコズン。来るセイラ	ドア爆発しコズンふもとばされる	オムル、バズーカをうつ	ドアの脇に立つコズン	バズーカをもつて来る。オムル。構える	手。	コズン、バズーカを背負って来る	セイラ、ドアを開けようとして銃をうつ	バズン、気密ドアを閉じる	ガンタンク、Wベースにのる
		オムル セイラ 「セ、セイラさん！」「急にすることはないわ。私たちだって……いつあんなるか……」	セイラ 「あ……」	コズン 「うあー」	コズン 「うあー」	コズン 「よーし、いらいぞ」	オムル 「セイラさん、退って下さい」	コズン 「うあー」	オムル 「セイラさん、退って下さい」	コズン 「うあー」	コズン 「うあー」	セイラ 「セイラさん！捕虜はー」 オムル 「（背中）」「こ、このエア・ロツクの中！」「外に逃げられてしまわー」	コズン 「こいつさえあれば……」	




236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224
ブライト	オペレーター④なめもつ の光点	ブライト	セイラふりむいて	上るガンタンクの上体	コアブロックはまる	モニターのセイラ	アムロ、?となる	ブライトとミライ、手前 来るセイラ	モニターつく	コア・ブロックにはまる 上体	上り、すべってゆくコア ・ブロック cut・in アムロ	コア・ブロック上昇して ゆく
ブライト 「グフ?!……グフカー」	オスカ 「（オベB）「敵も巧妙です。四方に展開して……」 （オベB）「一番手強いのは?!」 （オベB）「中央の新型モビルスーツ、グフです！」	ブライト 「（オベB）「それで、これ以上、情報が必要ないですわ……」 （オベB）「ホワイット・ベースの援護は……かい！」	セイラ 「すみません……」	ブライト 「（オベB）「それで、これ以上、情報が必要ないですわ……」 （オベB）「ホワイット・ベースの援護は……かい！」	セイラ 「（オベB）「それで、これ以上、情報が必要ないですわ……」 （オベB）「ホワイット・ベースの援護は……かい！」	セイラ 「（オベB）「それで、これ以上、情報が必要ないですわ……」 （オベB）「ホワイット・ベースの援護は……かい！」	アムロ 「（オベB）「それで、これ以上、情報が必要ないですわ……」 （オベB）「ホワイット・ベースの援護は……かい！」	セイラ 「（オベB）「それで、これ以上、情報が必要ないですわ……」 （オベB）「ホワイット・ベースの援護は……かい！」	アムロ 「（オベB）「それで、これ以上、情報が必要ないですわ……」 （オベB）「ホワイット・ベースの援護は……かい！」	アムロ 「（オベB）「それで、これ以上、情報が必要ないですわ……」 （オベB）「ホワイット・ベースの援護は……かい！」	アムロ 「（オベB）「それで、これ以上、情報が必要ないですわ……」 （オベB）「ホワイット・ベースの援護は……かい！」	アムロ 「（オベB）「それで、これ以上、情報が必要ないですわ……」 （オベB）「ホワイット・ベースの援護は……かい！」

255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240	239	238	237
ムスコープをセッとするア	ガンダム銃をかまえる	ロッドに腕を捕まわれたガンキャノンと対峙する	アムロ	ガンダム着地	アムロ、がんばる	ガンダムゆく	ガンダム発進	アムロGかかる	ガンダム、カタバルトにのる	セイラ叩ぶ	外れかかるキャノンの腕	カイおびえる	ガンキャノン	ラル	スパーがロッドを通じてキャノンにおくりこまれる	ガンキャノンの右腕にからまるヒート・ロッド	カイ	ヒート・ロッドのびる
			アムロ 「カイー」		アムロ 「クー」			アムロ 「いきますー！うっ」	セイラ 「アムロ、発進して！正面のガンキャノンをなんとかしてねー」			カイ 「あ、ああ……ば、爆発しちゃう……」		ラル 「もう、おしまいだー！連邦のモビルスーツめ！」			カイ 「うわーっ」	
																		

273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	259	258	257	256
述げるグフ。迫り銃火	ラル、コンソールをみる	着地するグフ ガクッと手をつく	苦しいラル	爆発の中、グフふっとぶ	ビーム、トーチカを直撃 する	Wベースのビーム砲、火 を噴く	ブライト	アムロ、コクピットぶれ る。	ガンダム至近弾にゆらぐ	グフを間にして、トーチ カの砲が火を噴く	ガンダム、ビームをうつ	アムロ	よけるグフ	倒れるガンキャノン。ガ ンダム撃う	ビームがガンキャノンに からむヒートロッドをう ちくずす	ビーム走る	ビームを撃つガンダム
			ラル 「うわーっ」				ブライト 「ガンダムを援護する！正面 のグフのみに集中砲火！」	アムロ 「うわーっ」				アムロ 「だ、だめだ！コンビニ ーのパターンだけでは、おいつ かない。データーが甘いのか？」					

283	282	281	280	279	278	277	276	275	274
アムロ、いきたなくいる	管に走る	リウウ	アムロなめブライト	口惜しいアムロ	ブライト	アムロ	アムロ、ブライトとミライの前に立っている	Wベース、行く	悔しがるラル
アムロ	アムロ (off) 「完全に失敗か……」	リウウ 「あ、理屈だな」	 <p>ブライト 「そう……。戦いには必要なことなのだ」</p> <p>アムロ (背中) 「わ、わかりませんが……僕ら……軍人なんですか……」</p> <p>ブライト 「気をつけてくれよ」</p> <p>「はい……」</p> <p>「アムロなりに、考えてやってるのよ、ブライト」</p> <p>「それを判ってやったら、皆殺しに合う。な！ リウウ！」</p>	アムロ 「は、はい……」 <p>ブライト (off) 「兵士には作戦全体を見通すことができるわけないんだ。命令は絶対に守れ！ 軍規違反だ……」</p> <p>アムロ 「軍規?！」</p>	ブライト	アムロ	「私は、ガンダムで出動しろと言ったはずだ！ 敵が力がなかったからいいようなものの……」	ブライト	ラル 「地上部隊がもう少し保ってければ、なんとかなったものを！ ギーン・ステッチ！ 後退する！ ボイント3Rでギャロップに戻れ！」
「ザクも、グフも操縦者とか、環境で、まるっきり動きがちがっちゃうってことか……」						「要塞攻撃には、ガンタンクが適していたのは間違いない……」			
						「(off) 「しかし、ギャロップが来たな！」			

292	291	290	289	288	287	286	285	284
泣きべそ寸前のアムロ、走り去る	くるブライト	アムロ、立っている	ギョッとするミライ	フッとミライの肩に手を置く、ブライト。かわすミライ	アムロなめミライとブライト	 <p>アムロの目がゆっくり開き、キョッと見る</p>	手スリにもたれるミライ ブライト、ミライ見て	いきたなくいるアムロ、悪いあくびして、コトツと首が曲る アムロ眠る。PAN くるミライとブライト
アムロ	ブライト 「きいていたのか？」		ミライ 「「ア……アムロ？」」	ブライト 「ミライ。賛成してもらいたいな」	ミライ 「しかし……」 (off)「アムロは特別な子よ。あたしそんな気がするの」	ブライト 「ん？ キャノンの修理はやってないのか？」 「スベアアの腕を工作室で整備中よ」 「あ……どう思う？ ミライ」 「若すぎはしても、決して不適格者じゃないわよ」 「リウウにガンダムを任せてた方が、いいと思うな」 (off)「ブライトは、決めたんでしょ？ アムロを、ガンダムから下すって……」	ブライト 「あまり賛成できないけど……」 「ジョブだっていいし、オムルだって、ジュミレーションをやらせてある」 「でもねー……」	根本的にやり直さなくっちゃ、いけないのか……」

293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304
行くアムロ。追おうとするミライをとめるブライ	Wベースゆく	歩くアムロ	キッカ、ハロ、フラウ・ボウの前を歩き去るアムロ	アムロ立ち止まる。来て並ぶ、フラウ・ボウ	怒りのふりむきアムロ	「ドキン」とするフラ・ボウ	アムロ走る！	アムロ走る フラウボウ追いかける	ガンダムのコクピットに とびこむアムロ	ねているブライ、うつすらと目を開いてゆき、 パッととはねおきる	ブライ、ボタンをおす
ミライ ブライ 「アムロ！」 「やめたまえ！ かえって、ク ドアド説明する手間が省けたと いうものだ」 「そ、そうかしら……？」	ミライ		フラウ 「あ、アムロ」 「どこいくの?」	フラウ 「笑っているかんじ」 「ホワイ ト・ベースおるんだ、……元 氣でな」 「え、なに？」 「艦を下りるんだよ」 「どうしたの？」 「ブライさんとミライさんが、 僕は必要だっというんだ……」 「ち、ちよっと」	アムロ 「とめるな！」	フラウ 「！」		フラウ 「アムロ!!」		マーカー 「(咄)「ブライトさん！ ガン ダムが発進します！ 応答せよ」 ガンダム！」 搭乗者は誰か ガンダム！」	マーカー 「(背中)「マーカー！ ハッチ を閉じられんのか！」

313	312	311	310	309	308	307	306	305	
黒闇の砂漠に見える、 オールド・マン・デューク	W ベースよりT・B	星 空よりPAN アムロ	星 空を横切るガンダム	ブ ライト、ブリッジの窓 にへばりつく	地 平線のうす明りのみ 地上にむかってガンダム ゆく	ガ ンダムくる	カ タバルトから射出され てゆくガンダム	フ ラウボウ、手すりより 叫ぶ	
		アムロ 「……」		ブ ライト 「ア、アムロ奴！」				フ ラウ 「アムロ——？」	マ ーカ 「ムリです！ カタバルト発進 が……」 「アムロです！ アムロ



G 機動戦士ガンダム

UNDAM

録音台本

第18話 「灼熱のアッザム・リーダー」

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

編劇 日本サンライズ

第18話 灼熱のアッザム・リーダー

昭和54年8月4日放映


制作スタッフ

●脚本／松崎健一 ●演出／貞光紳也 ●作画監督／中村一夫 ●作画／中村ブ
ロ(西城明・藤原芳晴・斎藤隆) ●背景／アイト・テイク・ワン(森博敬
・那須野幸子) ●動画チェック／浜津守 ●仕上／ディーン(斎藤陽子・B
・E・M) ●特殊効果／土井通明 ●撮影／旭プロ(平田隆文) ●編集／鶴
岡友彰 ●現像／東京現像所 ●音響監督／松浦典良 ●効果／松田昭志 ●録音
／日向国雄 ●録音／豊音スタジオ ●制作進行／量住政弘 ●設定制作／円井
正 ●A・P／神田量

キャストと声優

●阿姆ロ／古谷徹 ●ブライト／鈴置洋孝 ●リュウ／飯塚昭三 ●フラウ／瀧
鶴るみ子 ●ミライ／白石冬美 ●セイラ／井上瑤 ●カイ／古川登志夫 ●ハヤ
ト／鈴木清信 ●マ・クベ／堀沢素人 ●キシリア／小山まみ ●兵士／二又一
成 ●ナレーション／永井一郎



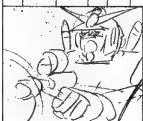
											S
11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	C
サブタイトル 「灼熱のアッザム・リー ダー」						地球へ向うグワンジ	キシリアUP	キシリア全身	グワンジのブリッジ		月からジオンの新型戦艦 「グワンジ」がくる
N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	音
「灼熱のアッザム・リーダー」	「阿姆ロは、それを認めてもら えぬ怒りに、ホワイト・ベース を脱出して、一人、砂漠をさま よぐ決意を固めていたのだった」	「ブライトは、それを認めてもら えぬ怒りに、ホワイト・ベース を脱出して、一人、砂漠をさま よぐ決意を固めていたのだった」	「戦いは、ホワイト・ベースと関 係なくすすんでいた。」	「戦いは、ホワイト・ベースと関 係なくすすんでいた。」	「戦いは、ホワイト・ベースと関 係なくすすんでいた。」	「戦いは、ホワイト・ベースと関 係なくすすんでいた。」	「戦いは、ホワイト・ベースと関 係なくすすんでいた。」	「戦いは、ホワイト・ベースと関 係なくすすんでいた。」	「戦いは、ホワイト・ベースと関 係なくすすんでいた。」	「戦いは、ホワイト・ベースと関 係なくすすんでいた。」	「リウウさん、スタンバイOK 「オウ」 「阿姆ロ、ドッキングスタンバ イ、いいか」 「いきます、リウウさん。5・ 4・3・2・1」 「レザールサーチャー同調。5 ・4・アチエンジ。ドッキング下 ゴ」 「コアチエンジ。ドッキング下 ゴ」 「ホワイト・ベースを脱走した阿姆 ロは、こんな訓練をする事もな いのかもしれない。」 「一方、月にあるジオン公庫の前 進基地「アダナ」から戦艦「オ ザビ」が発進した。」 「オザビ家の長女、すなわち、ジ オン軍、宇宙攻撃軍総司令官キシ リア・ザビ少将の旗艦である。」 「キシリアは、地球地帯軍にとつ ても、ジオン軍にとつても、最 も重要である資源の発掘にあた っている。マ・クベのもとを訪 ずれようとしていた」


49	48	47	46	45	44	43	42	41	
それを聞いていたチビ連	リムウ、ハヤト	チビ連の向うのリムウとハヤト	去るバギー	バギー行く、立止まるチビ連	ハッチから出てくるバギー、チビ連	W・B	フラウ外をみる	セいらなめリムウ、フラウ、ミライ	リムウ来て
カッ	ハヤト リムウ			カッ				セいら	ミライ
V SOP だつたのかも……」	「うまく说得できると思う？」 「タイミングが問題だな」		フラウ (off) 「アムロを探しに行くのよ」	「ねえちゃん、おいらも乗せてつてよ」 「あたしも、あたしも」 「ヤカ (ヤカ) だめよ、遊びに行くんじゃないんだから」			「それは、判りますけど……」	「でもリムウ。このままアムロの我儘を通させる訳にはいかないわ」 「そ、そりゃ勝手な行動をしたんだから」 「フラウ、ボウだつて、そう思うでしょ？」	「お止しなさい、セいら、ね、フラウ、ボウ……」 「アムロが出てつた訳が分つたわ」 「こんな処に、呼び戻すもんですか」 「ま、まあ、フラウ、ボウ、落着けよ。機嫌は正規軍じゃないんだから、そんなことはしやないよ」

[illegible]


120	119	118	115	114	107
アムロ、のぼってきて、ガンダム腹の下にきえる	行く アムロ、双眼鏡をかりして	双眼鏡内探照基地	ジョブ、少年B・C	ミライなめブライト、マ ーカイ、オスカー	フラウ、ふりてきてバギ ーにのり、行く フラウ行く
	アムロ 「ザクは一機も置いてないよう だな……これならできる」	アムロ (off) 「これだな。レビル將軍が、 オデッサ・デーで叩こうってい うジオン軍の鉾山って」	少年C 「ジオンに接近するって事ねえだ ろうな」 少年B 「まさか」 少年A 「いや、有得るぞ。ガンダム手 上座に持てきや、英雄扱いだ」 少年C 「何しろ脱走した奴だからな」 少年B 「冗談じゃないぜ、まったく……」	ミライ 「3時間……」 「まだ何も有りません」 「ミライ……」 「そんな所を敵に見えられたら、 いらいとになりますよ」 「分っている。聴音サーチャー から目を離すな」 「了解」	ねえ、ホワイト ベースに連絡 しなきゃ…… 「待てよ、今、奴等に通信を聞 かれたら不利になる」 「じゃ、どうするの？」 「フラウはホワイト・ベースに もどって連絡しろ」 「アムロは？」 「僕はここにとつて偵察をつ づける」 「分ったわ」


134	133	132	131	130	129	128	127	126	124	123	121
止まるバギー、ふりむく フラウ	アイキャッチャー	アイキャッチャー	マゼラ・アタック、爆発 ガンダム射つ	ガンダム、射つ	監視塔のギリア、マ・ ウシロで爆発 マ・クベ、キシリアを導 いて、退避	たかれてくるクレイン その向うにあった探照機 にガンダムのライフルの ビームがあたり、爆発	クレインの下で爆発 撃つ	ガンダム、撃つ	アムロ、ニヤリとして キッとなった	ガンダムなめ探照機	アムロ コクピットにとびのる ガンダム、上体あげる
	C	M			キシリア「何事です！」 マ・クベ「キシリア様、こちらへ！」				アムロ 「ガンダムは、ここを、つ ぶせば、連邦軍の軍隊が動か なくて、すむ！ もう、ブライ トさんにもミライさんにも、口 を出させるもんか」		



147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135
ガンダム、ビーム砲を連射する	砲撃するマゼラ・アタック	キャリィ・カーゆく、窓の外、バルカンうちつつ進むガンダムみえる	キシリア	マ・クベ	キシリア、マスカをしてヘルメットかぶる	マ・クベ、キシリア、キヤリーカーにのっている	バギーとびだす	タイヤが水平になっていて、バギー空中に浮く	タイヤが傾いてくる	クラウ、レバーを下げる	バギー、ダッシュ	山のむこう爆光みえる、フラクふりむいて、オロオロしたかんじ キッと眼を見開いてアッセルふみつける
			キシリア「直接、連邦軍のモビルスーツを目にするのも、今後の作戦には、役に立とう」	マ・クベ「はっ……、キシリア様。必ず」	キシリア「マ・クベ。モビルスーツを前もって発見できなかった失敗。許しがたい」 マ・クベ「(off)「ハッ」キ、キシリア様」 キシリア「アッザムの性能テストには、よい機会です。お前がやってみせし」	マ・クベ「アッザム、発進準備を急げ！ キシリア様は、敵の手を止めるのを急げ！」						「……。は、早く知らせなくっちゃ、見つかったら、その時のことよ！」
												

164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148			
手前に砲塔せりだしてくる	射っているガンダム背中	爆発するマゼラアタック	爆発するマゼラトップ	ガンダム、ビームライフル射つ	マゼラアタック爆発	ガンダムの横にあたる銃弾	ガンダム、ビーム・ライフル発射	マゼラアタック爆発	ガンダムの中、たちあがるガンダム	アムロ	砲撃の中、銃をもちあげるガンダム、手前で爆発	アムロ	砲撃によりめくガンダム	マゼラアタック連射	マゼラトップ上昇し、射つ	監視塔の兵士A、B。爆発きてたおれる	爆発で兵士らフッとぶ	爆発する基地	
								アムロ 「ワーッッ」		アムロ 「ワーッッ」						兵士たち「ワーッッ」		兵士A・B「ワーッッ」	

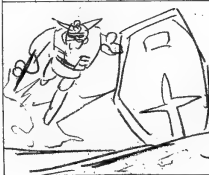
178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165
ビームを光熱ではねかえしながらせまるガンダム	橋でうけるガンダム	砲台、上を向くとビーム発射	上昇するガンダムなめ砲台の爆発	砲台なめ上昇するガンダム	ガンダムを撃って上昇するガンダム	ガケの砲台が射ってくる。上へにけるガンダム	ガンダム着地	おちてくるガンダム 背中のロケット噴射	アムロ	ガンダム、ガケつづれてガンダムおちる	うけているガンダムの向うに、もう一台の砲台があらわれ、射ってくる とびあがってよけるガンダム	砲台、ビーム発射、橋でうけるガンダム	警報と共にスクリーンにバターンが点滅 下部スクリーンに後方の砲塔、うつる
								アムロ 「ウワ——ッ！」					アムロ 「ハッ！ うしろか！」

197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179
入る。剣、すきまをスリぬけ、	ガンダム降下	剣つきおろすガンダム	アムロ	とぶガンダム	剣をぬくガンダム	開きのまま止る	橋をなげるガンダム	砲台、はじめるでフタが	アムロ	橋をかざしてつっこんでくるガンダム	アムロ	銃をかまえるガンダム ビームきて、銃をはじきとばす	たおれてくるガンダム	アムロ	着地するガンダム 向う側の砲台が射ってくる フッとおガンダム	砲台沈み フタしまる	ガンダム機銃発射	ボタンおすアムロ
			アムロ 「ワア——ッ！」						アムロ 「ウワ——ッ！」		アムロ 「あッ——ッ！」			アムロ 「ワー——ッ！」				アムロ 「ク！」
																		

212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198
キシリア、マ・クベ	アムロ	アッザム	ガンダムの手前へアッザムの脚が着地	ガンダム、たおれてくるハッと見る	アッザムせまるよけるガンダム	アムロ見上げる	ミサイルきて爆発、ガンダム、とんでよける	太陽を背にミサイルくる	サッと思がすぎる、見上げるアムロ	Wベースに向う。フラウ・ボウのバギー	オナボラのバギーとぶ	爆かちてきてささる破壊された基地	まいあがる	剣をつきたててのるガンダム ダイツとぬく 爆発きて種フツとぶ 爆
マ・クベ「はっ！」	アムロ「こいつは……！」					アムロ「ワーッ！」			アムロ「これでおわりか……ハッ！」					
キシリア「ガルマからのデータより性能は、はるかに、いいらしいなマ・クベ……用心してかれ」														



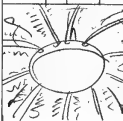
229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213
アムロ ブレおさまってハッと見	ガンダムのまわりで爆発	種でうけるガンダム	ガンダムなめ上昇するアッザム砲撃してくる	見上げるアムロ	アッザムのわきで爆発、とびあがるアッザム	ガンダム	ふりむいてライフルつガンダム	ガンダム着地	よけるガンダム	ライフルつかむ	たおれてくるガンダム 手前のビームライフルに気づく	アムロ	爆発してガンダムフツとぶ	再びアッザム砲撃	ガンダム、顔のバルカン射つ	アッザムの砲台が発砲 その爆発をよけるガンダム
アムロ「ワーッ！」				アムロ「うっ！」								アムロ「ワーッ！」				




246	245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230
同様に反対側も	地面にささるワイヤー	拡がるワイヤー	アッザム腹部より装置、出てくるワイヤー発射	アムロ、キヨロキヨロハッと上を見る	同様に胴体にも	ガンダム腕にくっついていく	ガンダムのまわりにふりそそぐ	玉にあたって分解、砂のような小片がひろがる	ガンダムの額の銃発射	アムロ	アッザムの腹から丸い玉が発射される	マ・クベ、キシリアマ・クベ、スイッチおす	ガンダム上空にくるアッザム	横のスクリーンにアッザムのバターンがうつるアムロ、見上げて	たらずむガンダム	いアムロなめアッザムいな
				アムロ「な……何だ……ウッノ」						アムロ「ハッノ」		マ・クベ「ハハハ……上をとったぞ。リーダー発射」		アムロ「ハッノ 上かノ」		



259	258	257	256	255	254	253	252	251	250	249	248	247
キシリア、マ・クベ	光の中のガンダム	その地図なめブライト、リュウ、ミライ、フラウ	スクリーンに地図うつる	ブライト、リュウ、ミライ、フラウ	メーターを見るアムロ	同様に表面でキラキラ	ガンダム表面でキラキラ	光の中のガンダム	アムロ	発光するワイヤー、光が中心のガンダムに集中する	ワイヤーが発光していく	ワイヤーにとじこめられたガンダム
マクベ「キシリア様、成功です。なんといってもモビルスーツの研究に関してはこちらの方が長いのですからな」		ミライ「とにかく放つとけないわ、行きましょう」	ブライト「連邦の手配とはちよつと位置が違うな」 「嘘じやありませんノ、私も見たんです。とっても広くって……」	リュウ「飯山のような処の基地?……本当か?」 「ええ……」	アムロ「表面温度四〇〇〇度!! さっきの砂みたいなやつ、のせいか!!」 コンビニーター(aff)「パイロット及び回路保護のため、全エネルギーの九八パーセントを放出中」 「九八パーセント!! それじゃ、動けないノ」				アムロ「ワーッノ」			
			から聞いた」	「レビル將軍								

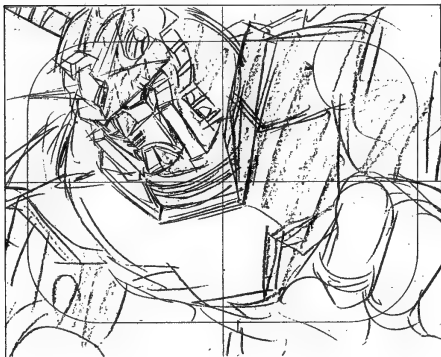


304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292
アムロ ふりかえる	ガンダムなめ、破壊された基地	ガンダム ロケット噴射、姿勢正す	ガンダム アッザムからおちるガンダム	ガンダム グルリと画面回転	アッザムなめ基地のあたりが光につつまれている	ハッと見るアムロ	ジャベリンでつくガンダム ビカーッと光がくる	マ・クベ、キシリア	砲台発砲、よけるガンダム ジャベリンでつきこわす	アムロ	ガンダムを奇岩の一つにぶっつけていく	奇岩のあるところへおちてくるアッザム
アムロ 「基地を……見捨てたのか……」				アムロ 「き、基地が……爆破…… うわっ！」		アムロ 「ん?!……」	キシリア 「これまでのようです、機密保持のため、基地を爆破しなさい」 マ・クベ 「はっ、しかしあそこにはまだ兵士どもがおりますが……」 キシリア 「かまいません。何よりも国家機密が優先します」 マ・クベ 「はっ、承知いたしました」			アムロ 「ううっ！」		

315	314	313	312	310	309	308	307	306	305
読むアムロ	別の室に入ってくるアムロ 書類がくすぶっている ひろいあぐて、はたいて 火をけす 見る	アムロ、調査器械とコン ピューターをつないで画 像を見ている 雑音しか写らない コードをひきぬいて	アムロ、用心深く見なが ら行く 機械をいじっているアム ロ、背中	アムロ、用心深く見なが ら行く	階段をおりてくるアムロ	ガンダムより基地あと	アムロ明るくなり ホッとしたかんじ	キシリア	ガンダムなめ去っていく アッザム
アムロ	アムロ 「あちち……」	アムロ 「こどもだめかノ……情報回路 は、みごとなくらいみんな破壊 してくれ」				アムロ 「やつた、やつたんだ…… フフ……連邦軍が全力で、つ ぶそうっていう、ジオンの基地 をやったんだ」	キシリア 「連邦軍のモビルスーツ……。 噂以上の性能とみたて、われ らも、テスト中の、各モビルス ーツの実戦配備を急がせねばな らない……」		

346	345	344	343	342	341	340	339	
バギー行く はるかに続いている砂漠	涙うかべたフラウ 誤ぬぐり 再びキッと見る	バギーのうしろ、沈ん でいくW・B	バギー走る	走り去るフラウ	うつわいてるフラウ ハッと顔をあげ ダッと行く	フライト、ミライ、セイ	リュウ、フラウ	
	フラウ⑤「何よ……何よ……アムロッた ら、人の気も知らないで……」			リュウ「フラウ！」	ハヤト(⑤)「でも、どこにも姿が見え ません」 カイ(⑤)「逃げたんだよ。それ以外に 逃げようがない」	セイ「アムロ……今ごろ英雄気どりで しょう……」	リュウ(⑤)「困った事をしてくれたな」 ガンダムのおかげで敵は我々に 対して完全にガードを固めちま ったと判断していい……」	(off) ガンダムたった一機に潰されは しないわ」

……………第十八話・おわり……………



連続テレビ・アニメーション番組



録音台本

第19話 「ランバ・ラル特攻」

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

原案 日本サンライズ

第19話 ランバ・ラル特攻ノ

昭和54年8月11日放映

制作スタッフ

●脚本/長山博之●絵コンテ/斧谷登●演出/行田進●作画監督/安彦良和●作画/高木敏夫・前島和子・高田三郎・戸川俊信●背景/アッパル(渡辺毅・渡部孝)●動画/チェック・浜津守●仕上/シャフト(森山政子・赤岡早苗)●特殊効果/土井通明●撮影/旭プロ(斎藤秋男)●編集/鶴淵友彰●現像/東京現像所●音響監督/松浦典良●効果/松田昭彦●監音/日向剛雄●録音/監音スタジオ●制作進行/草刈忠良●設定制作/内井正●A・P・神田量

キャスト&声優


●アムロ/古谷徹●ブライト/鈴置洋孝●リュウ/飯塚昭三●フラウ/鶴飼るみ子●ミライ/白石冬美●セイラ/井上瑤●カイ/古川登志夫●ハヤト/鈴木清信●クラン/塩沢登人●ラル/広瀬正志●ハモン/中谷ゆみ●ナレーション/永井一郎

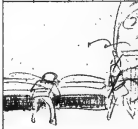
S	C	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S
		コアファイター、ガンベ リーへ近づく	ガンベリー・コクピット	アムロ	アムロなめガンベリーに 近づく	リュウ	メーター	Bバーツ ガンベリーよ りおちる	アムロ	Bバーツとドッキング	Aバーツおとすガンベリ ヤング	メーター色がわり	ガンダム、サーベルぬく まで	戦場よりPAN、アムロ 歩む						
		アムロ (直)「リウウさんノ スタン バイOKノ」	リュウ (直)「オウ、アムロ」	リュウ 「ドッキング・スタンバイい い」	アムロ 「いきます」	アムロ 「3・2・1」	「レザサーチャー同僚五、 四、三、二、一、ガンダム、Bバーツ 投下」	アムロ 「コア・チェンジ ドッキング ・ゴオ」												

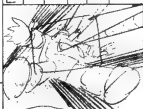


65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55
ラル立ち止まる。兵C、	ラル歩む	アムロの肩を叩いて	ラル立つ。ずいっと立つて	兵たちを見て	一同笑う	兵、	うつと顔を伏せて	ラルから目をあげて	ラル向きなると、アムロ立ち止まり	ハモン顔をあげ、振りむく
兵C	兵C	兵C	ラル	アムロ	兵B	兵A	タランブ	ハモン	アムロ	アムロ
「……スパイか……?!」 「(嘘)「ハッ!」行動不審の女が……」		「(嘘)「隊長ノ 怪しい奴をつかまえました」	「気に入ったぞ。小僧。それだけはおごりやない。俺からもおごらせて貰うよ。な。ら、喰っていいけるだろ。ン?」 「え? そんなんじや……」	「……僕、乞食じやありませんし……」	「男兵利につきるつもんだぞ」 「ハハハハハハ」	「あやかりたいくらいだよ。坊主」	「全くだ。遠慮したらバチが当たる」 「あやかりたいくらいだよ。坊主」	「君のことを……私が気に入ったからなんだけど……理由にないかしら?」	「あの……なんていうか……御好意は嬉しいんですけど……僕にはいだけません」 「(背中)「なぜ?」 「あ、あなたに物を恵んでもらう理由がありませんの……」 「ハハハハハハモン。一本やられたな。この小僧に」	「あ、あなたに物を恵んでもらう理由がありませんの……」 「ハハハハハハモン。一本やられたな。この小僧に」

77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66
ハモンをぬくるラル	アムロの拳銃を握っているが、アムロの天幕制の上つばりをとじてやる	ニヤリとラル	ハッとするアムロの目	ラル、アムロの前で立ち止まって、手が動く	アムロへT・U	ラル、フラウをみる	アムロ、ハモン	ラル、ハモンをみて	と、正面をみる	ハモン、アムロをみて	あつとなり…… しまった、とハモンをみる
ラル	アムロ	ラル	ラル	ラル	ラル	ラル	ラル	ラル	兵C	ハモン	アムロ
「しかし、戦場で会ったら、こりはいかんぞ。頑張れよ。アムロ君」	「は、はい」	「フフ……。それにしても、いい座敷ぞ。ますます気に入ったよ。ア。……アムロといつたな」				「ホウ」 「?!アムロ?!」 「離してやれ」 「しかしノ」 「いいから」	「さあ。そうらしいけど……ソンドですって」	「そうかな。ちよつと違うぞ」 「間違いないぞ」 「そうなのかい? ハモン」	「……ノ? え? ええ」 「(嘘)「しかし、こいつの着ているの、連邦軍の制服です」	「あなたのお友達ね?」	「ノ、フラウ・ボウ」

113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98
ラル	ハモンなめ兵	トレイラーのコクビット、目を開くラル	郊外の砂漠の上二台のラルのトレイラー(大型)がいる	ゼイガン	谷と遺跡のむこう、Wベイスいる	なる	すつとのぞいて、あつとなる	オートバイより下りるゼイガン	エンジン音停まる	手をのばしてキーを切る	Wベイスの裏端がみえる	ゼイガン	バギー下つてゆく斜面を追うマシン	Cutする	マシン走る
ラル	兵 A 「ゼイガンから暗号ですノ」風は、すぐ吹く」木馬が発見できようです」	ラル 「きたか？」		ゼイガン「も、木馬だ」		ゼイガン「う？」									
ラル	「よしノ 出撃準備にかかれノ」														

124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114
U.T. in、ふりむいて	グフの足くる	ブライトなめフラウ	ミライ	ブライトむつと	カイ	Wベイスの外、一同いる	見えてくる	フロがめくられてゆくグフがみえてくる	兵がフロを外してゆく	手
ラル		フラウ	ミライ	ミライ	カイ	フラウ	フラウ	フラウ		
「調子はいい。ヒッチ、そっちはどうだ」		「は、はい」	「作業は中止して迎撃態勢をとつた方がいいわ」	「カイン、いいかげんにしないかノ、我々を追っている部隊が、目の前にいるんだぞ」	「ヒーッヒヒヒヒノ、ホノアムロの奴、ジョンに知らせたんだぜ。ホワイト・ベイスのことだよ」	「アムロには会ったのかい？」	「ええ、同じソンドンの町で会ったわ」	「アムロには会ったのかい？」	「ええ、同じソンドンの町で会ったわ」	

[illegible][illegible]

167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153
ハッとするハヤト	向う ザクなめグフ、タンクヘ	身をひくくするザク。むこうにダフ。ラルCUT・outするとヒッチ出る ロケット一発とびあがるグフ	リュウとハヤト	ザクむこうの岩かけにかくれる	ガンタンク撃つ	はつと身をひくヒッチ	ザクのむこうに浮上するタンク	セイラをけだされる	ミライ、ハンドルからなげだされる	ナビちゃんたち	Wベース、岩の前脚ぶつつける	発達するWベース ミサイルゆく	Wベース、ロケットノズル火を噴く	ブライトとミライ
ハヤト 「うわーっ／＼グフだ／」		ラル ヒッチ 「ヒッチノ、俺がとびだす、その間にタンクをやれ／」 「は、はい／ラル大尉／」	リュウ ハヤト 「ハヤトノ、敵のモビルスーツは二機らしい。これ以上、ホワイトベースに近づけるな」 「は、はい／」			ヒッチ 「うっ／ 戦車が／」		セイラ 「あっ／」	ミライ 「うっ／」	ナビ一同「うわー／」				ブライト「急速発達」 ミライ「は、はい」

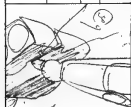


180	179	178	177	176	175 B	175 A	174	173	172	171	170	169	168
クムクム タンクの砲のむこう、ザ	ヒッチCUT・out ジャンプするヒッチのザ	ラル 右をみて	ザクでる CUT・inするヒッチ	キャタピラーのない車輪	リュウ	下をみるハヤト	ミサイル、タンクのキャタピラーに直撃	ミサイルゆく	inするヒッチ	ザクのミサイルポッドをつけた足あがりCUT・inするヒッチ	スパータの中	指から短機関銃をうつグ	ふり上がるガンタンクの グフゆく
	ヒッチ 「うっ／ そ、そうでありました／」	ラル 「なに寝ぼけてるか／ ヒッチノ、木馬だノ、木馬を討たねば、我々の、我々の斗いの意味はない」	ヒッチ 「ハハハノ、隊長ノ、やりましたノ、隊長、やりましたよ／」 「は、はい、こいつにとどめをノ」		リュウ 敵は逃げたぞ、それだ」	ハヤト 「リュウさんノ、我々キャタピラーがやられましたノ」			ヒッチ 「今だ／」	ハヤト 「うわーっ／」			



181	182	183	184	185	186	187	188	189	190
前かがみになりつつ	砲座正面パネルの処、右にリュウウ写っているハヤトの手はレバーをひく	ハヤトのりだしてひもをひく	強制ロケット・ノズルで排除されるガンタンクの上部にかりてくる	リュウウ	Gがかかる	コア・プロックト上昇する翼が開いてコア・ファイターになる	リュウウ下にむかつて	ターニングするコア・ファイター	コア・ファイターゆく下にはタンクの上下半身バラバラがある、崖の下、ガンキャノンいる、カイCUT・in
ハヤト 「ザク奴ノリュウさんノガンタンクの上半身を強制排除しますノ、いいですか」	リュウウ 「強制排除だ?!……ハ、ハヤト。お前はどうかなる?! 動けんぞ!」	ハヤト 「リュウさん弾丸は充分のことですノ! 砲台になればいいことですノ!」	ハヤト 「戦力は無駄には出来ませんノリュウさんはコア・ファイターで、アムロを呼びにいつて下さいノ!」	リュウウ 「よ、よし、判った。お前の言う通りかも知れんノ! 行かせてもらうぞ。コア・プロックト発進ノ!」			リュウウ 「ハヤトノ 気をつけてなノカイ、ハヤトとホワイトベースを頼むノ!」		カイ 「冗談じゃあないよ、グフとザクはどこにいったんだノ! ハヤトノお前、そこから出た方が死なないですむぞノ!」

191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205
ハヤト 「なにいつてんですノ! 動けなやります」	カイ 「へいへいノ 御立派でござんすね。チッ! あの上かな?」	再びエンジンを噴かしはじめる Wベース カメラ PANして崖の上	コア・ファイター ターニングする	リュウウのりだし	ガンダム上昇、まわりに猛烈な弾幕ノ	落下しながら直撃をうけるガンダム	はつとして	着地するガンダム、くる	ギヤロップのブリッジへ T・U	クランブ、ハモン	サーベルをつきだすガンダム	左へ流れるギヤロップ	左、主エンジンにサーベル入る	上昇するガンダムギヤロップの主砲上がる
リュウウ 「う?! あれか?!」	アムロ 「ええい! ここでビーム・ライフルを使ったらグフと斗う時……!」													




238	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207	206
Wベースの噴射、巨大になる	ミライ正面みて	ブライトふりむく	左から火砲とびかう、ザクのり出す、ヒッチェUT・in	グフPAN、ザクでてくる	前進するWベース	ブリッジのミライ・	左エンジン、火をふくギヤロップ、リュウクのコア・ファイター低空でゆく	ふりむいてアムロ	ガンダムゆく	アムロ	リュウ	コア・ファイター脱走してくる
	ミライ「真うしろなの?」 オベレーターA「はい」 ミライ「全速前進! 全員何かにつかまって」	オベレーターA「マーク!」 「うしろにザク一機接近中です!」 「なに! 後ろのミサイルはどろした!」 オベレーターA「誰もいないようです!」	ヒッチ「いいぞ! 真後ろからミサイルをぶちこめばいくら木馬だって!」			ミライ「上昇! 脱出します!」		アムロ「リュウさん……! 迎えにきてくれたんだ!」		アムロ「リ、リュウさん! す、すいません!」	リュウ「アムロ! きこえるか! 俺がこいつをおさえている! ホワイット・ベースに向かってくれ!」	

231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219
ミライ	ブライト	キッとみるミライ	セイラ	エンジン側面にヒート・ロッドぶち当たる	Wベースの垂直尾翼の処のグフ	スコープをセットするカイ	グフゆく、ガンキャノン、はつとして 噴射、上昇して追う	はつとふりむくグフ ラルCUT・in グフ、ジャンプする	ザク後ろにかるされる どこかの機関が爆発	ヒッチ	上昇するホワイット・ベース 噴射巨大になる、ザク立ち止まるが 噴射の中でザクおびえる 岩もふつとぶ	ヒッチ「う! も、木馬奴!」
ミライ「背面飛行に入ります。シート・ベルトを使って下さい!」	ブライト「なんだと? ミライ! できるのか!」	ミライ「落しなす!」	セイラ「ハヤト! カイ。きこえて! 外から、グフを狙い撃ち出来ません! か! ……(or) グフを倒してくれないと、ホワイット・ベースが!」			カイ「うっ! こ、こいつ! 降参!」		ラル「ええい! うかつな奴が!」		ヒッチ「うわーっ!」		



247	246	245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	
肩口のガンキャノンの砲	ころがつているガンキャノン、ダフの砲が一閃する	ダフの単眼ふりむいて輝く	振りむくガンキャノン	背中一杯から転がると左手の短機関砲の光が向く	と、肘で地をつくダフ	くるダフ、ガンキャノン、バツと伏せる、つまづくダフ	砂がもり上がると、中からサツととび出すダフ	キャノンうつ	ロケット一噴き着地するダフ ガンキャノン走っている	チビとハロ	さかさまのWベーズゆく	Wベーズのうしろが下へ流れる ダフとび出す	傾くWベーズ	ずーっと主翼がたむく	ガチャーンとレバー入れるミライの手	ブライト「(感)「き、君は？」 ミライ「かまいません」
		カイ「うわーっ！」				カイ「うわーっ！」				チビちゃんたち「ヒヤアー！」	ハヤト「オ、すごい、ミライさん」					

263	262	261	260	259	258	257	256	255	254	253	252	251	250	249	248	
ブーン、頭を少しさげるだけのダフ、ビームうし	ガンダム一連射	アムロ	ツンと半身だけよけるダフうしろ、光のかたまりがブォノと噴き上がる	ガンダム、ビームを射つ	スコープ内、照準合う	アムロ	ガンダム構える	ええガンダム	ビーム・ライフルをかま	ふりむく、CUT・inするラル	ロッド千切れる	ビーム走る	カイ	のびたロッドからキャノンへヒート	ぐいつと立つた時、ヒート・ロッドがのびている	がふつとんでいく
		アムロ「と……こいつうー！」				アムロ「ダフ奴！」			カイ「ア、アムロー?!、いま頃	ラル「ガ、ガンダムという奴かノど、どこに隠れいいたのだ?!」			カイ「うわーノ、だ、だめだアー！」			
																

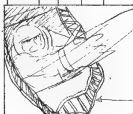
276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264
くはらり。スパークひらめ	ヒート・ロッドを打ちだ よグフ	ギョッとするガンダム	グフ、ガンダムものりだ す	のりだし	アムロ、ビビリ、ブレ	ガンダム層でうける、は じける	ふりむきさま千切れたヒ ート・ロッドが出る	はつとふりむく	ガンダム降下する、ビー ム輝く	緊張しているラル	「せ、正確な射撃だ……。それ 故、コンビニーターには予想し やすい」	ラル
				ラル 「ボウノ、思い切りのいいバイ ロットだなノ、手強いノ、しか しノ」	アムロ 「ええいノ、どうせあと一回ぐ らいしか撃てないんだノ」						アムロ 「よ、よけもしないのかアノ」	

294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280	279	278	277
盾のおちるむこう、ガン ダムがいる	ふりあおぐラル	なにもない正面ストー ン	ラル	下の盾がカラシと倒れる	盾の上がとぶ	盾がぐいっとなる、手前 から入ったグフの剣が盾 を切る	前に出るグフ	ラル	盾が走ってくるように見 える	ラル	アムロ	グフへ	走るガンダム	グフ、盾のかけから剣を 出す	ラルなめガンダム、サー ベルをすつと下ろす	「せ、正確な射撃だ……。それ 故、コンビニーターには予想し やすい」	アムロ (MONO)「うん、素すこ すパワーだノ」
	ラル「なにノ」		ラル「あ……」					ラル「いっしょノ」		ラル「フーム」							

310	309	308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295
あつとなるアムロ	ガンダム体をしずめる、 して切りあげる	ガンダムハッチが開く グフの剣がせまる	ガンダムかまえる	アムロ	つつこむグフ	ラル、こびりついている 金属のかたまりをおしだ して	ガンダムをぬグフへ	切りおろしたかんじで着 地するガンダム	二重装甲になっている。 むこうにアゴから腹を切 られたグフがみえる	ガラスが散る	ガンダムのハッチにつき ささるグフの剣	グフの剣を持つ手つき出 す	正面のモニターがきえる ピンビシッとか裂が入り、 輝きがくる	身をひいたグフのアゴか ら胸まで切り下ろす	ビーム・サーベルおちる
アムロ 「やつぱり……」				アムロ 「き、来たー」		ラル 「ヤ、やるな！ ガンダム！ しかしこちらとてまだまだ操縦 系統がやられたわけではない！」				アムロ 「うわ！ 前がそれはない！」			ラル 「うっ！ このオ！」		



326	325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311
ラル	アムロよりラルへT・U		後退するガンダムにひっ かかっているラル		ワイヤーがひっかかる	ラル、ワイヤーをなげる	とまるグフ。上昇する ガンダム		グフの背中をうつ	ズーンとブレで秒みせて ヒキ 剣を逆手に持ち直すガン ダム	剣を持ったグフの手おち る	のりだす、同時にノーマ ルに	ラルをぬアムロ	ラル	アムロをぬ装甲のむこ りのラル
ラル 「見事だな。しかし、小僧、自 分の力で勝つたのではないぞ。 そのモビル・スーツの性能のお かげだということを忘れるな！」		アムロ 「うっ?! あれは……」						アムロ 「どうだア！」				ラル 「まさかな……。時代が違った ようだな。坊やみたいなのがバ イロツトとはな！」	アムロ 「そうか、度、ほくらを助けた のは……ホワイト・ベースを見 つけるためだったのか」	ラル 「お、前は……さっきの坊 やか……。ア、アムロ、といつた な！」	



連続テレビ・アニメーション番組

機動戦士 ガンダム UNDAM

録音台本

第20話 「死闘/ ホワイトベース」

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

株式会社日本サンライズ

第20話 死闘/ ホワイトベース
昭和54年8月18日放映

制作スタッフ


●脚本/山本優●絵コンテ/斧谷裕●演出/藤原良二●作画監督/富沢和雄
●作画/長崎重信・鍋島修・亀垣一・越智一裕●背景/アート・テイ
ク・ワン(清水昭紀・加藤明美)●動画チェック/浜津守●仕上/ディ
ン(宮原博子・森下節子)●特殊効果/土井通明●撮影/旭プロ(平田隆
文)●編集/鶴岡友彰●現像/東京現像所●音響監督/松浦典良●効果/松
田昭彦●録音/日向雄雄●録音/録音スタジオ●制作進行/望月真人●
設定制作/円井正●A・P/神田量

キャスト&声優


●アムロ/古谷徹●ブライト/鈴置洋孝●リュウ/飯塚昭三●カイ/古川
登志夫●フラウ/鶴岡もみ子●ミライ/白石冬美●セイラ/井上喜久
ト/鈴木清信●ラル/広瀬正志●ハモン/中谷ゆみ●マ・クベ/塩沢登人
●ウラガン/戸谷公次
●ナレーション/永井一郎

11F	11E	11D	11C	11B	11A	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	C
ゆく、ブライト、リュウ	ガンダム、ポーズ	ドッキングする	パネル面うつる	ガンベリ、Aパーツおとす	ドッキングする		アムロ	ガンダムのBパーツおちる	メーター	リュウ	スクリーンにうつるメモ	アムロ	Bパーツおちる	ガンベリーのリュウ	ガンベリ・コアファイターゆく	画面
N							アムロ「コア・チェンジ、ドッキング		リュウ「レーザー・サーチャー同調5	リュウ「レーザー・サーチャー同調5	1	アムロ「いきます、リュウさん、ドッキング・サーチャア、5、4、3、2、1	リュウ「アムロ、ドッキングスタンバイいいか」	リュウ「オフ」	アムロ「オフ」	音声
「少年たちは、一戦団結して、生きぬこうとしていたが、お互いのわがままと、いらいちが、お互いの仲を、																

19	18	17	16	15	14	13	12	11	10
独房の中、アムロとフラウ	リムウ、独房の前に立っている	ブライト	セイラの脇に座るミライ	ブライト	ブライト、セイラ、くつろいでいる	Wベース、ブリッジ、ミライ、つくろいものをしてる	湖面に写るWベースの翼 PAN Wベース	サブタイトル 「死闘 / ホワイトベース」	アムロ
アムロ	「あのランバ・ラルって人、必ずせめてくるよ。ザクザクがなければ、なおさらあの人はくるんだ。ぜったいに」	フラウ (off) 「食べていないんじゃない」 アムロ (off) 「ドアを閉めるよ。逃げ出すかも知れないぜ」 フラウ (off) 「そんなこと、言わないでよ」	ミライ セイラ ミライ セイラ 「お仲間に入れてくれて？」 「デビちゃんのつくろい物は？」 「終った」 「あなたもまめね」	ブライト 「ん……。あの二人が一番、動いてるかも知れないな」	ブライト 「ランバ・ラルって言ってたな」 セイラ 「このままでは、奴に捕まるぞ」 「そりゃそりだけど、マーカー！と、オスカを休ませなくっちゃ」	ブライト (off) 「暗号解説は間違ってたんだろ？」 セイラ (off) 「ええ。オデッサ・デー亮動まで動くな。……何度も調べてみたわ」	N 「死闘 / ホワイトベース」	「気まずいものにしてた。しかし、敵の攻撃は、そんな年たちとは関係なく、せまりつつあった」	

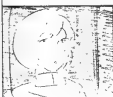
31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20
ハヤト	坐りこんでいるブライト ・セイラ、ミライ、来る	立ち止まるハヤト	フラウ・ボウ行く 暗くなる独房 すて科白をはくアムロ	あきれて行くリムウ	いやみを言うアムロ		リムウ	壁にたたきつけられるアムロ	アムロをなぐるリムウ	怒るリムウ来る	アムロ
ハヤト (背中) 「ういません。アムロのことなんですけど……ブライト	「あ……。よろしいですか？」	「一人でムキになったって、人間が変るもんか……」	「はい」	「チャッ / フラウ・ボウ / いこう /」	「フ……。マテルダさんか……。自分の言葉でお説教したら、どうなんです。……」	「い、いつか……マ・マテルダさんとお前のこと、エスパーかも知れないって言ったのな……俺は……いかにとお前のことらし……って思ってたんだ……。い……いかげんにいじけ筋は……」	リムウ 「い、いつか……マ・マテルダさんとお前のこと、エスパーかも知れないって言ったのな……俺は……いかにとお前のことらし……って思ってたんだ……。い……いかげんにいじけ筋は……」	アムロ 「……ういません……」 「気づて……ういません……」 「気づて……ういません……」 「気づて……ういません……」	リムウ 「貴様……」	リムウ 「いけませんか？ どうせみんな気まずくなつたんだし……」	アムロ 「いけませんか？ どうせみんな気まずくなつたんだし……」

41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
ハモン	ハモンなめ通信兵から電文を受けとるラル	こわれた建物、歩兵、PANカーゴ、ギャロップ、ザク	リュウ来て、カイを見て	ブライト	ハヤトなめカイ、リュウ	ちよつと下みている ハヤトの方をみて	セイラとミライ	座るハヤト	ブライト
ハモン	通信兵 「ラル大尉、ドズル閣下からの電文です。マ・クベ少佐から中継していただきました」 「ハモン、いいニュースだ。陸上タイプZのモビルスーツ、ドムを3機、返してくれるそうだ」	「アムロのことは、一時的なホームシックみたいなのもなさ」	「アムロのことか？」 「うむ、大丈夫だろ？」	「アムロが帰ってきたのは、一時的なホームシックみたいなのもなさ」	「アムロは、……ガンダムを持ってジオンに逃げたってよかったです、それをしなかったのは、なぜかと考えてみたのさ。そしたら……」 「望みが持てそうってのかい？」	「アムロは、……ガンダムを持ってジオンに逃げたってよかったです、それをしなかったのは、なぜかと考えてみたのさ。そしたら……」 「望みが持てそうってのかい？」	「アムロは、……ガンダムを持ってジオンに逃げたってよかったです、それをしなかったのは、なぜかと考えてみたのさ。そしたら……」 「望みが持てそうってのかい？」	「アムロは、……ガンダムを持ってジオンに逃げたってよかったです、それをしなかったのは、なぜかと考えてみたのさ。そしたら……」 「望みが持てそうってのかい？」	「アムロは、……ガンダムを持ってジオンに逃げたってよかったです、それをしなかったのは、なぜかと考えてみたのさ。そしたら……」 「望みが持てそうってのかい？」

49	48	47	46	45	44	43	42
マ・クベ	ウラガン	マ・クベ	マ・クベの私室 ウラガンなめマ・クベ	降りて来るエレベーター PAN地下通路	マ・クベの鉱山PAN・DOWN 	電文を読むラル	また電文をラルに渡す通信兵
マ・クベ「心配ない。……ランバ・ラルは考えはせん」	ウラガン「……」	マ・クベ「……」	マ・クベ「……」	マ・クベ「……」	マ・クベ「……」	マ・クベ「……」	マ・クベ「……」

62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50
見送るミライ、ブライト	バギーゆく	とび出すバギー	リムウ	来るミライ	来るブライト	リムウ、バギーにとびのる	Wベースの廊下を走るリムウ	ハヤト、カイ、ハワード、マクシミリアンのつたバギー行く	Wベースの前、小さなライトがゆく	モニターのリムウ	モニターのセイラよりT・Bリムウ寝ている	敬礼するウラガン
「ミライ、バギー、ブライト、ハヤト、カイ、ハワード、マクシ……」	「ミライ、バギー、ブライト、ハヤト、カイ、ハワード、マクシ……」	「ミライ、バギー、ブライト、ハヤト、カイ、ハワード、マクシ……」	「ミライ、バギー、ブライト、ハヤト、カイ、ハワード、マクシ……」	「ミライ、バギー、ブライト、ハヤト、カイ、ハワード、マクシ……」	「ミライ、バギー、ブライト、ハヤト、カイ、ハワード、マクシ……」	「ミライ、バギー、ブライト、ハヤト、カイ、ハワード、マクシ……」	「ミライ、バギー、ブライト、ハヤト、カイ、ハワード、マクシ……」	「ミライ、バギー、ブライト、ハヤト、カイ、ハワード、マクシ……」	「ミライ、バギー、ブライト、ハヤト、カイ、ハワード、マクシ……」	「ミライ、バギー、ブライト、ハヤト、カイ、ハワード、マクシ……」	「ミライ、バギー、ブライト、ハヤト、カイ、ハワード、マクシ……」	「ミライ、バギー、ブライト、ハヤト、カイ、ハワード、マクシ……」

74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63
ラルなめウラガン	ラル	ラル	ラルなめハモン	来るコシム（小型連絡機）	ハモン	内ハモン、ラル、クラ	停っているギャロップ	夜明け近いカッパドキア高原	ミライ	ミライをみて	ミライ
「ラル、ハモン、クラ、ミライ、ハモン、コシム、ギャロップ、カッパドキア高原……」	「ラル、ハモン、クラ、ミライ、ハモン、コシム、ギャロップ、カッパドキア高原……」	「ラル、ハモン、クラ、ミライ、ハモン、コシム、ギャロップ、カッパドキア高原……」	「ラル、ハモン、クラ、ミライ、ハモン、コシム、ギャロップ、カッパドキア高原……」	「ラル、ハモン、クラ、ミライ、ハモン、コシム、ギャロップ、カッパドキア高原……」	「ラル、ハモン、クラ、ミライ、ハモン、コシム、ギャロップ、カッパドキア高原……」	「ラル、ハモン、クラ、ミライ、ハモン、コシム、ギャロップ、カッパドキア高原……」	「ラル、ハモン、クラ、ミライ、ハモン、コシム、ギャロップ、カッパドキア高原……」	「ラル、ハモン、クラ、ミライ、ハモン、コシム、ギャロップ、カッパドキア高原……」	「ラル、ハモン、クラ、ミライ、ハモン、コシム、ギャロップ、カッパドキア高原……」	「ラル、ハモン、クラ、ミライ、ハモン、コシム、ギャロップ、カッパドキア高原……」	「ラル、ハモン、クラ、ミライ、ハモン、コシム、ギャロップ、カッパドキア高原……」



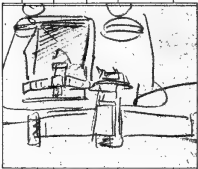
85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75
停ったハヤトたちのバギー	リュウ フォロー	走るリュウのバギー *ロー!	克蘭プ、ニヤリとして	ラル	ハモン	ラル	ハモン なめ上昇してゆく コシム	ラル、ハモンと克蘭プ	ウラガンうしろをみて	ウラガンなめラル、ハモン、克蘭プ
	リュウ 「速中奴ノ やっと停まりやが って」		克蘭プ「……ノ その方が兵共も喜び ます。隊長」	ラル 「開いたノ ギリチでいとり。 どうだ? クランプ?」	ラル 「はい。私があなたに教 れたのも、ヘルム教長の弟のゾ ロウ殿で、私を救って下さった から……」	ラル 「もともとギリラ屋の私の戦法 でいこう。」		ハモン 「で、どうなさいます?」 ラル 「お前の云う通りになっ たな。 補給戦力をあてにせず、もとも と……」	ウラガン 「成程……。いくさ馬鹿 とは、こういう男のことをいう。 よし、帰るぞ!」	ラル 「いや……この、ランバ・ラル や……たといえ兼手でも、任務は、 やりとげてみせると、マ・クベ 殿には、お伝え下さい」 ウラガン 「ご苦労でした!」 ラルガン 「(背中)」「ハッ!」 ウラガン 「(背中)」「失礼いたします」


の護衛も間に合ず中央アジアに
入る直前で、補給船は撃破され
て……ドムは……

93	92	91	90	89	88	87	86	85
ラルを中央にハモン、ク ランプ、バギーが居る キーン	ラルの手、パネル上の印 を指さす	リュウ、身をひいて	ハヤト	ぐいっと立つリュウ。カ イの三ツ首をつかむ	カイなめハヤト	ハヤト、カイよりPAN 怒るリュウ	リュウのバギー来て、ハ ヤト達のバギーと並ぶ	T・U
ラル 「ハモンにギヤロップの指揮を、 まかせろ。そして、私と克蘭 プで第一キュー、第二キューの 隊長をつとめる。いいな」 「ハッ!」	ラル 「(off)「ギヤロップは木馬の前面 に出て、ギーンズのザクと共に おとりだ。そこを、うしろからキ ューで木馬につっこむ」	リュウ 「ハ、ハヤト……」	ハヤト 「深くには、ホワイト・ベス で戦う意味がなくなっ たんです よ。これは、仕方のないことで しょ!」	リュウ 「いいかげんにせんかノ カイ ノ 隊長は……」	カイなめハヤト	ハヤト、カイよりPAN 怒るリュウ	リュウのバギー来て、ハ ヤト達のバギーと並ぶ	T・U

[illegible][illegible]

129	130	131	132	133	134	135
バギー正面。思案しているカイ、ハヤト、マクシシリアン、ハワード 肩をすくめるカイ、車にとび乗る	カイ、とび乗るとバギー、手前へ来る	バギーのタイヤ、横になりつつ	タイヤ、ファンになる	ギューン、とぶバギー	バギー上、カイ、ハヤト、	
カイ 「はい……いいだろ？」 マクシシリアン「はい」 「いかに冷え込むじゃねえか」 「カイさん」 「ン？ シャあねえな」	ハヤト 「やめてくれ」					

122	123	124	125	126	127	128
ギヤロップよりとび出す2機のキューイ ギヤロップの前行くキューイ (ここで前のにクリカエシさせてす)	ギヤロップの前行くキューイ、フオロー	ギヤロップの前行くキューイのうしろ、兵がつかまっている	キューイのぞき窓より見える兵士達	キューイ上部、ラルヘT・U	ラル	アイキャッチャー
					ラル 「フフフ……この風！ この肌ざわりこそ、戦争よ！」	
						

136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153
ハワード、マクシシリアン ゆくバギー	ギヤロップゆく。手前来るキューイ。	食べる 「アムロ、パンを」	アムロ、飲む	ばく進するキューイ。	アムロ、かみしめて食べている	ギヤロップ走る	丘陵の向こうをジャンプするザク。フオロー	アムロ、ユニホームを着る。	キューイのラルヘT・U	ギヤロップのパモンヘT・U	ハモン、ふっと微笑	回想。レストランのアムロヘT・U	回想。そのアムロヘT・U	ハモン	アムロ、ボクシングのまね。	ドア開き、来るブライト、ミライ。	セイラヘT・U
											パモン 「あの少年が……白いモビルスーツ……ガンダムのパイロットとか……」			ハモン 「よい少年……。さてどう出てくるか……」		ブライト「セイラ！ どのくらい近づいているんだ！」	セイラ 「ここでは正確に判りませんノ オスカとマーカールを呼び出して いるんだけど……」
																	

166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154
ブライト ザク、足のミサイルを連射する	揺れるWベース。よろけるアムロ、窓から覗く	脇で上がる土柱と水柱	左右へ逃げるギャロップ	Wベース主砲、撃つ	正面スクリーン内、写るギャロップ	ブライトなめオペレーターA	Wベース、上部スクリーンに写る位置関係	ゴンドラ上シートにとりつくオペレーターA、B	ブライト	かけてくるオペレーターA、B	ミライ、パネルにとりつく	ブライト
	アムロ「来たぞ！(背中) あっ！ 仲間が来た！」			ブライト「df」「主砲、撃て！」	マーカー「df」「ギャロップです。並進射撃距離に入ります」	マーカー「ホワイト・ベースの高度をとってくれないか?!」 ブライト「まだ無理だ！ 前方の監視カメラ開け！」	マーカー「了解！……ビーム砲、開け！敵の計測に入ります」	マーカー「了解！……ビーム砲、開け！敵の計測に入ります」	ブライト「左右のビーム砲を開かせる！後ろのミサイルもだ！ 敵は機械じゃないらしい！」	マーカー「すいません！ 寝坊しちゃって」	ミライ「エンジン、スタート終了！ 飛行再開まで一分二十秒まつて下さい」	ブライト「前部ミサイル用意。ミライ！メインエンジンパワー臨界急げ！」

180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167
ブライト	ブリッジから覗くキッカ、レッツ等		ブライト、受話器に怒鳴っている。後ろハロ、キッカ、レッツ、カッ行く	空中からビームを狙い撃ちするガンダム	身を引くセイラ	銃火	ザク、マシンガン撃つ	ガンダム発進	G (ジー) がかるセイラ	ブライト	ミライが写るTVモニターよりT・B、ブライト	舵輪まわすミライ。奥、ブライト	上昇するWベースの足に当るミサイル。
ブライト「何！ リョウ達が帰って来たのか！」	キッカ「あー！ ホワイト・ベースのパギーがおんな処を走ってる！」 「あんな処じゃ何も出来ないのに！」	フラウ「(悲) はい！」	ブライト「フラウ・ボッ！ アムロを独り占めさせて！ ドアのキイはタイプ6Eで開く！ 判ってるか！」		セイラ「くっ！」				セイラ「はい！ やってみます！ ガンダム発進！ う！」	(on) 左にザクがいる。発進の間に狙い撃ちされるように高度をとれ！ あてにしているぞ！」	セイラ「ブライト！ ガンダム発進します(背中)」「す、すまん！ セイラ！」	ブライト「左の機銃！ なにやってる！ ザクがいるんだぞ！ 撃て、撃て！」	



193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181
ジャンプするバギー二台	リュウ、振り向いて	ゾッとするハヤト	バヤとカイ	カイが見える	カイ	主砲撃しつつ前進するWベイス、左右よりリュウとカイたちのバギーが来る	フラウとアムロ	フラウ・ボウが窓から覗く	振り向くアムロ	上昇するWベイス、ミサイル発射、フォロー	ブライトなめオベレーターA	キッカ、レツなめ二台のバギーへT・U
	リュウ	「肉弾戦、むちゃが早いから、俺が先手を取るか!」	ハヤト 「戦車?」 「そうだ。ありゃあ白兵戦用の奴だ。奴ら肉弾戦でくるつもりじゃないのか!」	カイ	「ン? なんだ?! ありゃあ!」		フラウ 「射撃する暇じゃないの? アムロは左の後銃を担当してって、フラウは頭張ってね!」	フラウ 「アムロ! 出動よ!」 「背中」 「ガンダムは?」 「セイラさんが出動させたわ!」	アムロ 「フラウ・ボウ!」	ミライ 「ミライ! 前の甲板と右の山の高さを同じにしろ!」 「(off) り、了解!」	ブライト 「ミライ! 前の甲板と右の山の高さを同じにしろ!」	キッカ 「あそこよ! 判るでしょ!」 「ブライトさん!」

212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194
覗くザク	上昇するガンダム	銃火、ザクを追う	機銃火を吹く	気負うアムロ	アムロなめ着地するガンダム	アムロ叫ぶ	セイラ	やられるガンダム	ミサイル連射するザク	ガンダム、よろける	銃座に坐るアムロ、?!と	ブライト	オベレーターAなめスクリーンに写るキカイ	ブライトなめオベレーターA(マーカー)	キッカ、レツなめ来るバギー二台	Wベイス甲板上に着地するバギー	降下するバギー二台、Wベイスの甲板にジャンプ	降下するバギー二台
				アムロ 「よおし!」	アムロ 「アムロ(背中) 後ろにジャンプです!」	アムロ 「セ、セイラさん! もっと遠くで狙うんです!」	セイラ 「ザ、ザクが!」				アムロ 「おくれてすいません! あ?!」	ブライト 「なに?!……白兵戦用の……」	マーカー 「白兵戦用の戦車、キカイです!」	ブライト 「なに?!……白兵戦用の……」	キッカ 「お兄ちゃんたちのバギーが着いたよ!」			



227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213
銃を持ったブライト走る	Wベース、ブリッジより、行くギャロップを望む	マーカー	ミライ	アムロ、少年、入口の方へ走る	ブライトなめマーカー	逃げようとするWベースに銃撃しつつ近づくキム	ラル	やられるザク	アムロ	セイラ。秒一杯ゆつたりT・Uアブノーマル	セイラ。ザクの顔に貫通している	ビームを撃つガンダム	スコープ内、照準合り	スコープ覗くセイラ
		マーカー「は、あ、そういうえ……」	ミライ「マーカー、オスカ、銃は持っているの」 マーカー「は、はい」 ミライ「ホワイト・ベースをつとるつもりがなければ、ギャロップだつてもっと当てているわ」		マーカー「後ろから攻撃が始まりました」 ブライト「リウ、カイノほかにも戦闘の出来る者は後ろへまわれ」 敵の侵入を阻止するノ		ラル「本局が逃げにかかるぞ」 射撃開始ノ		アムロ「やつたアノセイラさん」	セイラ（モロ的に）「やつた……」				セイラ「来たノ」




246	245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228
敵兵、ホワイト・ベースにとび降りる	空飛ぶ兵士達PANICKランブ	兵、次々に飛ぶ	キューイ・ブリッジ、クランブ、上昇する	クランブのキューイゆく前をWベース上昇する	銃を撃ちつつ降下する兵	銃火の中、ラル来る	Wベースの各所より銃火見える	ラル	キューイの上空。敵兵、空を飛ぶ	ドアを開くアムロ、あつとなる	キューイからとび出す兵	バツと手を上げるラル、上昇する。フォロイー	ホワイト・ベースなめキューイ	機銃、火を吹く	走るアムロ	アムロ、馳けて来る	走るヘヤト、リウ、カイ等	少年たち走る
			クランブ「クランブ隊、行くぞノ」			ラル「攻撃の少ない処へ突撃しろノ」		ラル「ノ」		アムロ「あ——っノ」		ラル「かかれノ」			アムロ「あの人が来るんだノ」			



240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227
クラランブ、着床する。兵士、倒れ込む。	風の吹き込む中、カツ、レッツ、キッカ、ミライ	爆発する爆弾	怒鳴るキッカをよそに爆弾を仕掛けるクラランブ	?!となるクラランブ	Wベース、メインブリッジ外のはり出しに着地するクラランブ。キッカ、つかかる。	とびさがるレッツ、キッカ、ハロ	セイラ	Wベース甲板、交戦、T・B ガンダム。	ブライトなめ敵兵、降下する	ブライト、伏せて撃つ	アムロ、撃つ	後ろ兵士、殺られる	銃を撃つ。少年殺られる
兵士B 「あり！」	ミライ「オスカ、マーカーはブリッジの入口をノジョブ・ジョンは前をノ」		クラランブ「退かってろ！ 怪我するぞ！ 退れといってる！」	クラランブ「なんだこんな子供がいるんだ？」	キッカ(背中)「こいつめー！ いっちやえ！ おちちやえ！」	レッツ「うわーっ！」	セイラ「だ、駄目だわ。ガンダムの武器では威力がありすぎて兵隊だけをやつつけるわけには……」				アムロ「入れるな！ ホワイト・ベースに入れるな！」	兵士A 「あ……ッ！」	少年A 「うわー！」

226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211
ラル、近寄って	ラルのマシンガン、フラウの手首を叩く	とび出したフラウ、あつとなる	走るラル、//となる	応戦する兵士、倒れる	撃ちながら来るランバララルと兵士達	アムロ、ドアを閉じてー来る	兵、落ちて、手榴弾爆発する	身を引きアムロ。瞬間入口から爆発と光が入る	少年E、覗いて	少年、手前から来る敵兵に殺られる	敵兵ハッチに手榴弾投げ込む	吹っ飛ばすクラランブ	入口(T・U)中より銃撃	走るクラランブ	クラランブのマシンガンなめ正面のハッチと撃ち合う
ラル「銃を持っていれば殺す！ どここに隠れているんだ！」	フラウ(お)「あら！」		ラル「急げ、サブ・ブリッジを占領するぞ！ おうり！」					アムロ「なにー?! うわー！ こいつー！」	少年E「七十八番ハッチが突破されたぞ！」	少年D「あッ！ うわー！」	少年C(お)「うわーっ！」	クラランブ「うわーっ！」		クラランブ「よーし、いけるぞ！」	少年B 「うわー！」



277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288
フラウ	回想、振り向きつつ来るラル。 ラル。	銃火をよけるラルー伏せて撃つ	新しい弾倉を入れようとするアムロ、来る兵士に驚く	敵兵の攻撃をかわして突進するアムロ	敵兵にかじりついたアムロ回想。ラルへT・U	倒れ込む兵、アムロ	押し合うアムロと敵兵	振り向くアムロ、PAN・UP Pブライト	アムロ、飛び出す	ガンダムよりセイラ降りてアムロと代わる	エレベーター内のラルと兵士D
「あの人……？ レストランで……」		少年F (off) 「うわ——！」	アムロ 「あッ！」	兵士C 「このノリ！」	ラル (エコー) 「勝てたのは、そのモビルスーツのおかげだ。自分の力で勝ったのではない！」	兵士C 「うッ！」	アムロ 「と、この……」	アムロ S・E 「銃の音、一発……あッ！」	アムロ 「あッ！」 「ガンダムをセイラと代われ！ 撃退する！」 「どうやって？」 「ホワイト・ベースを壊わして……」 「は、はい！」	セイラ 「頼むわね、アムロ！」 「はい！」 「敵は？」 「第二ブリッジです！」 「そう！」	「しかし、妙だと思いませんか。少年兵ばかりというのは、どうも……」
											

289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300
ラル	少年G 「敵だ！ 敵だ！ うわ——」	ラル (off) 「まっすぐいけ！」 リムウ 「やらせるか！」	ラル 「メイン・ブリッジのコントロール回路を切るんだぞ！」 兵士E (off) 「はッ！」 セイラ 「あッ！」	ラル 「……ひ、ひ、ひ、め……」 ひ、距離か？」	セイラ 「？」	ラル 「ま、間違いない。アルティンア様は……あなたのお父上、ジョン・ダイクン様におつかえした……ジバン・ラルの息子ランバ・ラルですぞ！」	セイラ 「アルティンアと知って……何故銃を向けるか！」	ラル 「はッ……やはり……で、では何故……」 リムウ (off) 「セイラ！ 逃げ！」	リムウ 「うわッ！」	ラル 「うッ！ 具……」	ミライ 「セイラ！」 セイラ 「リムウ！」 ランバ・ラル 「引きなさい！」
「どこも人手不足だからな。開くぞ！」							セイラ、怒り！ 回想二十五才のラルと七才のセイラが浮かぶ	セイラなめラル、銃を下げる	リムウ、銃を撃ちつつ来る	グラッとしてよけるラル	グラッとしてよけるリムウセイラ、撃つ

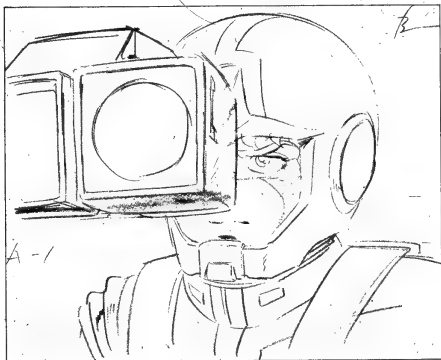
314	313	312	311	310	309	308	307	306	305	304	303	302	301
手榴弾をかかえたラル、	ラル、手榴弾のピンを抜き走り来る	ラル、振り返える	ドアをこじ開けるブライト	歩くラル	覗くガンダム、来るラル	倒れるラル、ゆっくり立ち上がり	ジャベリンで側面の壁がぶち破られる	ラルの手なめTVモニター内、ハモン。突然揺れる機体	ラル	ラル、パネルにとりつく	来るガンダム	茫然	よろめくラル。ドアを開ける
		ラル	ブライト「う？」 「あ？」	ラル	ラル（背中）「わ、わしの戦っていた相手はみな、年輩のゆかぬ少年たちとは……皮肉なものだ……う、あッ」	ラル	兵士「うわ——」	ハモン ラル（off）「うわー」	ラル 「ハモン、すまぬ……。木馬をギヤロップで撃破してくれ。ランバ・ラル、戦いの中で戦いを忘れた……。ア、アルティシア様が……」	ラル 「ハ、ハモンと連絡は?」 「はっ。周波数合わせました」 「お前たちは引け。作戦は失敗だ!」 「あなた!」	ラムロ（off）「了解!」	ブライト「ラムロ! 聞こえるか! 撃破してくれ!」	ラル「ひ、絶え……」

332	331	330	329	328	327	326	325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	315	
ロケットで脱出するギヤ	身を引くハモン	光がギヤロップを買通	とび行くサーベル	サーベル投げるガンダム	ギヤロップ、撃つ!	ビーム・サーベル開く	びる柄	アムロ、絶叫	ギヤロップ撃つ	アムロ	砲撃しながら迫るギヤロップ	揺れるアムロ	ガンダム、煙のこる手を見ている。突然来る砲の直撃	セイラ	ブライト、セイラ、ハヤトなめガンダム、見える	ラルを受けるガンダムの手、その中で爆発するラル	アムロ	Wベースよりとび出す
ハモン 射出を!								アムロ「やめるんだアー!」		アムロ 「ハモンさん!……ランバ・ラルが死んだんだぞ!」		アムロ 「うわーっ!……?!」	アムロ	セイラ 「……う、ラル……」			アムロ 「あッ!」	



330	336	337	336B	336A	335	334	333	
リュウ、相乗で運ばれる	アムロ	ハモンのカプセルゆく。 PANWベースとガンダム	ハモン	WベースよりT・B	ハモン	脱出カプセル	キノコ雲	ロップのブリッジ ギヤロップ爆発する
ブライト(背中) 「静かに! 静かに! がんばるぞ!」	アムロ 「ランバ・ラルに……ハモン……」		ハモン 「……ランバラル……」		ハモン 「そう……」	バモン(前) 「隊長からは連絡ありませんか!」 兵士A 「は、はい! 静かに! あれが最後……」		

……第二十話・おわり……



連続テレビ・アニメーション番組

機動戦士 ガンダム UNDAM

録音台本

第21話 『敵艦は情しみ深く』

名古屋テレビ

制作 創通エージェンシー

株式会社日本サンライズ

日本サンライズ

第21話 敵艦は情しみ深く


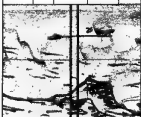
昭和54年8月25日放映


制作スタッフ

●脚本／荒木芳久 ●絵コンテ／岸谷隆 ●演出／行田道 ●作画監督／山崎和男
●作画／服部幸、栗田俊子、栗野川智美、林和男、青島／アツプル（渡辺毅、渡部孝） ●動画チェック／浜津守 ●仕上／シャフト（三橋瑞子、菅野友子） ●特殊効果／土井通明 ●撮影／旭プロ（斎藤秋男） ●編集／鶴岡友彰 ●現像／東京現像所 ●音響監督／松浦典良 ●効果／松田昭彦 ●監音／日向国雄 ●録音／監音スタジオ ●制作進行／植田益朗 ●設定制作／円井正 ●A・P／神田量


キャストと声優

●アムロ／古谷徹 ●ブライト／鈴置洋孝 ●リュウ／飯塚昭三 ●フラウ／鶴飼るみ子 ●ミライ／白石冬美 ●セイラ／井上喜久 ●カイ／古川登志夫 ●ハヤト／鈴木清信 ●ジューブ・ジョン／塩沢兼人 ●ハモン／中谷ゆみ ●ナレーション／永井一郎

													S
L	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A		C
サイド7とWベース	ガンダム、サーベルぬくまで	メーター色がわり	Aバーツ Bバーツ ドッキング	Aバーツおとすガンベリ	Bバーツとドッキング	アムロ	Bバーツガンベリよりあちる	メーター	アムロなめガンベリに近づく	アムロ	コアファイター、ガンベリへ近づく		画面
						アムロ		アムロ (10秒)「5、4、ガンダム、Bバーツ投下」	アムロ (背中)「7、6」	アムロ	アムロ (10、9、8)	「そこは、地球で最大の鉱物資源をおさえている。マ・クバ大佐の本拠地である。地球連邦軍は、その基地をたく、オデッサ作戦の準備をたく、オデッサ作戦に参加すべく、西へと進んでいた。この作戦に参加すべく、西ランダル隊の攻撃はまだ終わっていない。」	N 音
						アムロ	「コア・チェンジ ドッキング」						

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	M
窓の外 マゼラ・トップ がクレインで上つてゆく	カーゴの外 のぞくハモン	バス・オールをまいたハモ ン出てくる	タチUP	ハモンUP	カーゴの前のハモンとタ チ	ギヤロップのカーゴ、そ のわきにはトレイラー二 台	中央アジア荒地、砂嵐が 画面を襲う キャンピングが見える、西 には武器、資材、砂塵	夕日の黄色い太陽 黄砂が飛ぶ	サフ・ライトル 「敵艦は港へ入る」	地図
			タチ	ハモン	タチ	ハモン			N 「敵艦は港へ入る」	
			「我々として、同じ思いです。三 時間下されば準備は整いますハ モン様」	「当てにしますよ、タチ中尉、 なんとしてでもラルの仇を討 ちたいのです」	「使ひふるしたザクが一機と、 マゼラ・アタックの砲塔が4門 だけか？」 「明らかにマクベ少佐は暴力的 ではありませんでした。 しかし、これでも使い方で、そ れなりの攻撃兵器にはなります」					



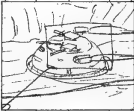
27	26	25	24	23	22	21	20	19
ハヤト汗をふいて	ガンタンノコクビット、ハヤトなめのカイ 大きく身ぶり	ガンタンノ胸の上にカイが落着いている	ガンタンタの上にキャノ	岩の基地にWベース O・L	ホワイトベースの記号の書かれた地図	バモンUP	地図の前ゼイガン、ホワイトベースの下の方を指さして 身をひいて	ハモン、ベルトをする ノックする ハモンみて ドア開く
ハヤト ブライト (off)	カイ 「この調子であちこちやられ続けたら応急処置すらきかなくつたまうぜたまんないぜ」	カイ 「かなりひでえな」			ハモン 「正規の編成ではないわけですね。それが弱っただけでも、ランパラルの攻撃は無敵ではなかった。急ぎましよう準備を」 タチ(=off)「はっ ハモン様」	ハモン ゼイガン 「木馬は、山を背中にしているおられます」 タチ 「そこに、つけ入る隙があるな」 ゼイガン 「ハッ」 バモン 「木馬の損害は？」 ゼイガン 「必死で修理をしておりますが、人数が極端にすくないようです」	ハモン 「誰か？」 タチ(=off)「タチ中尉であります。偵察に出たものが帰って参りました」 ハモン 「失礼します」	
武器も底をいつて来た 給を考へませんとね」 どこかで補								





28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
モニターにうつっている ブライト			リュウの病室	つらつ・わわ カキコが入ってくる	リュウ明るく 床をみる	フラウ もみる 足もとにいますハロ	笑う二人 ちよつと痛そう フラウ 近づく リュウ 二再ハロを見る	足もとにいますハロ	笑顔をつくらうリュウ	フラウ UP	フラウ なめのリュウ と、行きかける
ブライト 「前戦では何が起きるか判らんのだ、知恵と工夫で切りぬけてくれ」	ハヤト 「ち、知恵と勇気ですか……それよりアムロを……」	ブライト 「それを言うな！」		S・E フラウ 「ノック音」 「off」 「リュウ……私よフダウ」 フラウ 「ああ……入れよ」 「具合どう？」	リュウ 「あ、あ、まあね」 ハロ（off） 「リュウ体調フカ」	フラウ 「ハロ」 「リュウ体調フカ リュウ体調フカ」	フラウ 「ハロ」 「いや、いいんだ フッフッフ」 リュウ 「リュウ……」 「しかし……ハロはよく出来ている、正直だよ……」	ハロ 「ハロ……元氣……リュウ、早く元氣になれヨ」	リュウ 「フフ……あ、ありがとう、ハロ……お世辞をいう回路も入っているとはね」	フラウ 「なにか、して欲しいことない？ リュウ？」	リュウ 「い、いや……ないよ、俺は順調だつてみんなには、言つていくれよ」 フラウ 「え、ええ」 「ブライトの奴、アムロをまた

40	41	42	43	44	45	46	47	48
リュウUP と、目を閉じるリュウ	フラウ それをみてゆく	カーゴの前 ハモン立ち上る P・U	ハモンと兵	兵隊の前に立ち上るハモン	ハモン	O・L ハモンの前にラルくる	ラル、ヘルメットをかぶり、ハモンにキスをする ラルやさしく話している	ラル（M） 「さばくで散るのも後悔はない……」
リュウ 「ふむ……」	フラウ 「おだいじにね」	タチ（on/off） 「カーゴには、マゼラ・トップを装備しました。ギャロップの予備のエンジンでかなり高速移動ができます」	タチ 「ザクにはマゼラ・トップの主砲を持たせます。それと、サムソンの二機です。兵は16名、全てランブル機の息のかかったものです」	ハモン 「よく準備をしてくれました。ガルマ様の仇討ち部隊として、地球に下りたつたものの、我々は未だ任務を終つておりません」	ハモン 「一見、小さな作戦ではありますが、敵は連邦軍の最新鋭戦艦とモビルスーツです。ジオンの国民は、我々の戦果に期待しております」	ハモン（M） 「ランバ・ラルは、私にもつたないくらい、実直な男性だった」	ハモン（M） 「あんな心をよせてくれた人のためによしんば」	ハモン（M） 「さばくで散るのも後悔はない……」

58	57	56	55	54	53	52	51	50	49
ミライ リュウなめ プライト	すわりこむ リュウ プライトくる	入口の船に手をついて いるリュウ	プライトとミライ	ミライ、プライトチェ ックする 入口の船にリ ュウが現われる	兵と握手もする	兵なめハモン	ハモンきて握手する	ハモンなめのタチ、ハモ ンを見て ハモン前へ出る	ハモンUP 「この作戦に不服があるものは、 参加しなくても、ランバールは 怒りはしません……私もです」 タチ（off）「その御心配はごさいません」 ハモン様
ミライ リュウ	プライト 「う……………」 「大丈夫か？」 「あ……………」アムロのことが な……………」	リュウ 「リ、リハビリテーションさ。 少しは体を動かさんと直りがな ……………」	プライト 「う、動いたら、また傷口が開 くぞ」	プライト「フォーム」 リュウ「プ、プライト……………」 プライト「リュウノ……………」	ハモン 「イリュージョン 頭張って下さ イリュージョン（背中）「ハイ、必ず仇を	ハモン 「トルガン たのみます」 トルガン「ハッ、ハモン様」 ハモン「ミサキもたのみます」 ミサキ「ハイ、ハモン様」	ハモン 「全員ひかぬ覚悟であります」 「ありがとう」	タチ 「ハモン」	ハモン

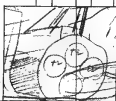
71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	
回想 アムロふつと歩いてくる	ハモンUP	ハモン	カーゴの上のマゼラ・トップ	前進するサムソントップとカーゴ	ザク、ジャンプしてゆくサムソン二機とカーゴゆく	走るカーゴ	ブライトミライを見て	リュウUP	ミライのり出して	リュウUP	ブライトUP		
	ハモン「フッ……」	ハモン 「ランバール……私のはじめで、最後の戦いです。あなたが私へ示してくれた好意のお礼です。この私の気持ちをかなえさせて下さい」				ブライトミライ 「サンマルカセイラを呼び出してくれ。リュウをベッドに」 「はい」	リュウ 「ブライトは、アムロとゆつくり話したことないんだろ？ それじゃあ、トラはおとなしくはならん……うう……」	ミライ 「リュウ 何を言うの、」	リュウ 「人間には言葉があるんだ。俺の元気がうちに」	ブライト 「俺の言い逃れ？ なぜだ？」	リュウ わけか？……いいのがれにきこえるな」	リュウ 「アムロが自分で判るのを待つわけか？……いいのがれにきこえるな」	ブライト 「野生のトラでもオリに入れておけば自分の立場がわかつてく


110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94
カイUP	身をひくザク	ガンキャノンうつ	ザクうつている	カイUP	キャノン走る	マーカ	ブライイト ミライ走りこむ	オスカあわてて服従をか け	照り返しの中、ゆれるガ ンキャノンふりむく(銃 をもっている)	ホワイトベースに直撃	ザク撃つ	Wベースよりザク	タチUP	チラッとマゼラアタック 立つザク	ホワイトベースのうしろ のがけの上、砂塵が猛烈 に吹きこむ	ハモンUP
カイ				カイ			ブライイト 「ど、どこからだ、て、てき は」	オスカ「あ、て、敵襲だっ」	カイ「うわー、て、敵か? しま った、うしろからか」				タチ「絶好だ、木馬殿」			タチ「間違はなく木馬を撃破するこ とができます」
																


123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111
セイラ	Wベースの左 エンジンに当る	ザクあらわれて撃つ	ハヤト右方をみて	ジョブジョン、レバーを ガチャ	とまてエンジンふかす タンク 調子悪い	タンクが停止する	キャノン撃つ	カイUP	サムソン・トップが機銃 を撃ちながらせまる	ガンキャノン上昇する	ハヤトUP カットinするジョブジョ ン	ガンタンク走る
セイラ			「ど、どうするって、ここから じゃ充分な復讐ができない ン?」	ジョブジョン「だ、だめだ、シ、シヤ フトがおれてるらしい、エン ジンはかかっているんだけど…… ハヤトどうする?」				カイ「ザ、ザクだけじゃねえのか」			ハヤト「ジョブジョンさん、もつと スピードをあげられませんか、 この「調子よくないんだ、この 間の直撃くらったのが、直りき ってないんだ」	ハヤト「あつ、カイさん」
												
リュウ「うつ、大丈夫、しっか りして」												

136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124
アムロ走る	走り出す	セイラの前に出るアムロ	セイラ ボタンをおして アムロ出てくる	ブライト下をみて	モニターにうつっている セイラ	ブライトUP	ブライトUP	セイラきてボタンをおす キャプテン シートで受 る	セイラの足走る	セイラ階段を下りる	セイラUP	リュウ フラウ
	セイラ 「はい、アムロ 「リュウの分もがんばってね」 「はい、アムロ 「はい、アムロ」		セイラ 「リュウの分もがんばってね」 「はい、アムロ 「はい、アムロ」	ブライト「F-36タイプだ」	セイラ 「私も責任をとるわ、教えて下 さい」	ブライト「リュウが責任をとる？ おせ つかいが」	セイラ 「今までリュウがここにいたの よ、彼が責任をとるからアムロ の出動を」	セイラ 「ブライト、どこにいるんだ、 早くブリッジの上へ、アムロの 教えて下さい」	セイラ 「そのかわりリュウはベットに いるのよ」 「判っている セイラさん」	セイラ 「リュウ………わ 判ったわ。 アムロを出動させよう」	リュウ 「リュウ………わ 判ったわ。 アムロを出動させよう」	リュウ 「リュウ………わ 判ったわ。 アムロを出動させよう」


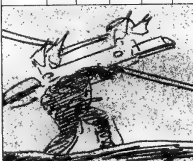
149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137
セイラがみこむように と、パネルの方をむく	ミライ	メインブリッジ ブライトと少年 正面みて	Wベースから噴射、右の は一本しか火を噴いてい ない	アイ・キャプチャー	キャノンうつ	アイ・キャプチャー	ハモン	ハモン	ハモン	ハモン	ハモン	ハモン
セイラ 「は、はい、大丈夫のはず」 「うっ、ガンダム発進どうで すか」	ミライ 「了解、セイラ、ガンダム の発進は大丈夫ね？」	少年A 「1、2、3番は全く出力が上 りません。5番から8番30% 出力でバランスオーケーです」 「うっ、ミライ、難題し る」	少年A 「1、2、3番は全く出力が上 りません。5番から8番30% 出力でバランスオーケーです」 「うっ、ミライ、難題し る」	アイ・キャプチャー	キャノンうつ	アイ・キャプチャー	ハモン	ハモン	ハモン	ハモン	ハモン	ハモン




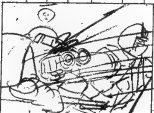
	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177		
ずん、とGがかかる	発達するコアファイター	コア・ファイター！発達していく	上昇するWベースなめザクがジャンプしてうつ上昇するガンキャノン	ガンキャノン	降りるザク、ビームが追いきれない	バルカンをうつコアファイター	ふりむくザク	よろける	アムロUP	Wベース前進するがとまる	病室内、よろけるフラウ	フラウ出てゆく リュウ手を手前にむける	テレビつくる 怒鳴っている
アムロ！ 行きますあす！													
「これ以上、ホワイトベースにさらされるものか」	アムロ	「あらう、手伝ってやれ！右の機銃にいつて、ひき金ぐらひひけるだろ」	「は、はい」	「ヘルメットだけはするんだ！耳をやられる」	「はい」	フラウ	リュウ	フラウ	「ガンタンクが故障だと、ミライ（お兄ちゃん）の浮力がつきません！ハイパーマダネットが」	「ガンダムパーツを発射しろだど？アムロがいつた	フラウ	「ガンタンクが故障だと、ミライ（お兄ちゃん）の浮力がつきません！ハイパーマダネットが」	「ガンダムパーツを発射しろだど？アムロがいつた


199	198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188				
もそつと起きるリュウ	ずいつと立ち上る	別の廊下、リュウの足くおくに病室みえる	ふらつとドアの処にもたれて	少年 ギョツとする	少年 Bがのり出して	腹をおさえ歩む	リュウののつたバギーとび出す	うしろに銃撃がもたらす	チラッとふりむいて	Wベースに二台のサムソン・トップ銃撃を加えている	コアファイターうつ	サムソン・トップ撃つて	いるがやられる	破片の中コアファイターとぶ	ふりむいて
「うつ……うう……」	「リ、リュウさん、あなたは重しやあだめです。」	「重しやあだめです。」	「重しやあだめです。」	「リ、リュウさん、どうするつもりなんですか」	「リ、リュウさん、どうするつもりなんですか」	「リ、リュウさん、どうするつもりなんですか」	「リ、リュウさん、どうするつもりなんですか」	「リ、リュウさん、どうするつもりなんですか」	「リ、リュウさん、どうするつもりなんですか」	「リ、リュウさん、どうするつもりなんですか」	「リ、リュウさん、どうするつもりなんですか」	「リ、リュウさん、どうするつもりなんですか」	「リ、リュウさん、どうするつもりなんですか」	「リ、リュウさん、どうするつもりなんですか」	「リ、リュウさん、どうするつもりなんですか」
															
「アムロ、よく一機か、全く出遅れた」															

213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200
ア バ ー ッ と ゆ く、 や、 発 進 す る	ア ム ロ	コ ア ブ ロ ッ ク は ま る	ロ ケ ッ ト 一 噴 か し 真 が お り た ま れ つ つ、 つ つ と む	メ ー タ ー シ ン ク ロ す る	ア ム ロ	180 度 回 転 す る コ ア	ア ム ロ	先 導 が は ま る 下 か ら ひ き こ み の B バ ー ッ	コ ア フ ア イ タ ー の コ ク ビ ッ ト ひ つ と み そ の さ ぎ が 曲 つ て ゆ く	ア ム ロ	コ ア フ ア イ タ ー 降 下 す る	ぐ ん と 上 昇 す る B バ ー ッ	支 え 板、 水 平 に な る そ の 板 の 上 を B バ ー ッ 発 射
オ ム ル ／ off 「了解／ 発射位置セ ット い く ぞ ／ ア ム ロ 」	ア ム ロ 「よし／ オムルさん／ A バ ー ッ の 発 射、 急 い で 下 さ い 」			ア ム ロ （off）「行けるか？」	ア ム ロ 「よし、 姿勢OK」		ア ム ロ 「レ ー ザ ー セ ン サ ー キ ャ ッ チ 180 度 ロ ー ル 」			ア ム ロ 「レ ー ザ ー サ ー チ ャ ー 始 動 ／ コ ア フ ア イ タ ー チ ェ ン ジ 」			オ ス カ （off）「ガンダムB バ ー ッ 発 射 す る ぞ 」
													オ ム ル （off）「アムロ／ ガンダム、 い い ッ の 発 射 が で き そ う だ ／ い か 」 「や っ て 下 さ い、 コ ア フ ア イ タ ー の 弾 は う ち つ く し ま し た 」 ア ム ロ


227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214
ザク、ヒート・ホークをとりあげて	ジャンプするザク ビームをよける	撃つ ガンダム ビーム・サーベルを構える	手にもつていた砲をすてて、Wベースに走りこむザク	着地のガンダム アムロ out in	カイ見上げ	ガンキャノンにせめ入るサムゾンにビームつきささる	ビーム・ライフルがきらめく	目が輝やくぐいっつ	コア・ファイター Aバースとドッキング	Aバース降下してつつこみ	メーターゲージ下がる	アムロUP	ゆくAバース
				アムロ 「了解です。ザクは、どこなんです」 「うっ」	カイ 「ひゃあー助かったぞ、もう手持ちのミサイルも、弾もなくなつちまつてんだ、アムロ後をたのむ」					アムロ 「よし／いいぞ」			


242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228
ハモンUP える	ガンダム、カーゴをおさえる	アムロ	マゼラアタックうつ。ガンダムバツとひるがえつて、カメラ前へくる	アムロUP	カーゴ	かまえるアムロ	ガンダムライフルをかまえる	せまるカーゴ	ガンダムよりT・B砂煙をあげてつつこむカーゴ	おさまってゆく	ガンダム走るうしろに爆撃ガンダムはじける	アムロ	ヒート・ホークをひくザク	Wベースのエンジン部に切りつける
ハモン 「と、突進をさせぬつもりか?! こじやくなア」		アムロ 「だ、だめだ」		アムロ 「とすれば、あの中は、爆薬で一杯のはずだ」		アムロ 「ン? まてよ、これは突進するつもりじゃないのか?」				アムロ 「うわーっ! うっ!」		アムロ 「し、しまった。狙い撃ちではきてここからじゃホワイトベイスまで傷つけてしまう。格闘戦にもちこむしかないのか」		

258	257	256	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243
ザク、ヒート・ホークをひき回をねらってふり下す	アムロ上をみる	せまるマゼラ・トップ	ザクをけるガンダム	アムロ	ザン、ガンダムの脇腹にヒート・ホークくいこむ	ヒート・ホークが流れる	後退するガンダム、カーゴおしてゆくザクがとびおる	Wベース上のふりむくザク	イメージカーゴ木馬の爆発	ハモン	ハモンUP	三機のマゼラ・トップ上昇してゆく	アムロ上をみる	額のパルカンうつガンダム	ハモンなめガンダムの額T・U
	アムロ 「上から?! できるか」			アムロ 「うわーっ」				タチ 「ハッ、ハモンさま」	ハモン 「木馬にぶつかれば、その中の爆薬が」	ハモン 「タチ、ガンダムをうしろから倒しておしまい」	ハモン 「フフフ……ガンダム一機で、それがとめられるものか」				
															

274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	259
ガンダム、マゼラ・トップにうしろをとられてい	うつと来るブライト	Wベースの敵側へT・U	アムロ、あつとなる	ハモンのマゼラ・アダックがガンダムのうしろにつく	マゼラトップ主砲から降下して	ハモンUP	マゼラ・トップのハモンへ	マゼラ・トップよけきれず、マゼラにぶつかる	マゼラ・トップよけきれず、マゼラにぶつかる	マゼラ・トップよけきれず、マゼラにぶつかる	マゼラ・トップよけきれず、マゼラにぶつかる	マゼラ・トップよけきれず、マゼラにぶつかる	マゼラ・トップよけきれず、マゼラにぶつかる	マゼラ・トップよけきれず、マゼラにぶつかる	マゼラ・トップよけきれず、マゼラにぶつかる
	ブライト「ああ、マゼラ・トップだけを狙えるわけがないだろう！」	ブライト「う、撃ちましようか？」	アムロ「し、しまった」			ハモン「さすが、私が見込んだ坊やだけのことはある。しかし……」	ハモン「ガ、ガンダム！二人のパイロットを同時に討ちとるとは！」				アムロ「えーい！」	兵士「しまった！」			
															

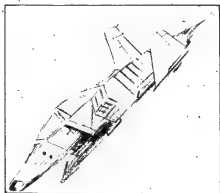
291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275
ミライ	ヘットフォンに手をあてているセイラ	ブライト	ジョブとハヤト	フラウUP	コアファイターのマゼラ・トップに近づき、コアファイターのりあげ、マゼラトップのコクピットつぶす	コアファイター マゼラ・トップに近づき、コアファイターのりあげ、マゼラトップのコクピットつぶす	リュウ わめいているノ	ハモン	ハモンがあつとむこう見	あと一発撃つ間に	アムロふつとぶ	うつマゼラトップがぐくだける	ハモン目を細くして	アムロUP	ハモンUP	ガンダムの背中に主砲がついている
ミライ「え？……なに？」	セイラ「リュウ？」	ブライト「あ？」	ハヤト「リ、リュウさん！」	フラウ「あ……」			リュウ「うわ——あ！」	ハモン「あ——？」	ハモン「これでおしまひ！」		アムロ「うわーっ！」		ハモン「本当……好きだったよ、坊や」	アムロ「ハ、ハモン……さんか？」	ハモン「いくら装甲の厚いガンダムといつても、これだけ近ければ保ちはずまい？。そしてガンダムとカーゴの爆発力は本場をも……」	

306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	294	293	292
アムロ	マゼラトップやられる	ガンダムうつ	スコープ合せるアムロ	カーゴをけとばすガンダム	ガンダムつつこむ、マゼラ・トップをよけ、カーゴのエンジンをつつ、カーゴくるつとまわる	マゼラ・トップ砲をうちつつせまる	銃身をむこうにむけるガンダムの手	ぐつとのり出すアムロ	カーゴなめガンダムバルカン撃つ	最後の一台のマゼラ・トップ、カーゴのむこうからでてきて発砲	正面をみるアムロ	マゼラ・トップとコアファイターの破片のかたまり、大地にぶつかり爆発	カイ 少年弾薬もっている
アムロ	「あとは」		アムロ 「そこだアムロ」			兵士 (off-on) 「うわーっ」		アムロ 「そ、そうか、エンジンの片方をやれば、ホバークラフトなんだから、このオー」			アムロ 「コ、コアファイターが、だ、誰だ？」		カイ 「早くしろー」

316	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	
顔をふせ	ジョブジョンUP	ジョブジョンなめのアムロたち アムロたちの方へふりむき	さんがいなめの見ている ブライトたち	ええとなり	セイラ うつと顔を伏せて	アムロ、顔をふりあおぎ	セイラUP	アムロUP	爆発ふくれ上る、ガンダムいる	ビームあたる	ビームライフフルうつ	カーゴくるくるまわりながらゆく
ジョブジョン「リユウ (off) 「か、かわれ、お、お前より、俺の方がずつと慣れてい	ジョブジョン「リユウさんだつて死なな	ジョブ「泣いている」「うう、うう……」	ジョブ「泣いている」「うう、うう……」	アムロ 「リユウさんが……うそです。リユウさん怪我して、戦いにいられるわけないでしょ……い、いやだな、セイラさん」	セイラ 「リユウが……体当りをして……うう……」	アムロ 「え、リユウ……」	セイラ 「驚かないでね……アムロ」	アムロ 「もう敵はいませんか？」 セイラ 「戦いは終わったわアムロ」 アムロ 「大丈夫です、コアファイターにのつていたの誰だったんです？」				

329	328	327	326	324	323	322	321	320	319	
肩をふるわせているミラ	(回想)リユウのためのブ ライト・ミライ	ブライトUP O・L	(回想)コア・ブロック 発射	(回想)リユウに かかる(回想)	(回想)タンクの上半身 発射さ	(回想)ハヤトひもをひ く	ハヤトUP O・L	(回想) のり出すリユウ O・L	(回想)ガンタンクにの りこもうとしているリユ ウ	A・C
ミライ	リユウ 「いやそりでもないぜ……ね、 ミライさん奴は変つてきました よね……」	ブライト 「アムロのこと……俺は奴に 心配をかけすぎたのかも知れん」	リユウ 「戦力は無駄にでさんだ」	ハヤト 「リユウさん、体は大丈夫な んですか」	ハヤト 「リユウさん、体は大丈夫な んですか」	ハヤト 「ぼくがリユウさんの発進 を認めなければ……よ、よかつ たんです……」	ハヤト 「ぼくがリユウさんの発進 を認めなければ……よ、よかつ たんです……」	リユウ 「その時、その時に合せて使い 方を考える、コア・ファイタ ーだけでも使えるだろ、えつ ど、どけよっ 素人奴」	オムル 「タ、タンクは動かないんです よ」 「ば、ばかやろう」	るんだ

338	337	336	335	334	333	332	331	330	イ
	ボタンと手をつく、ブライ ト	ブライト、ポロボロない ている かがみこみ	アムロの手、砂をつかん でふるえている	(回想)リユウUP	アムロより(回想)リユ ウへ P・D リユウへ	アムロ ガクツと手をつく	よろける(回想) セイラ走り出す	こらえているセイラ	イ
ブライト(「MONOに近い」) 「お、おれ たち……こ、これから、ど、ど うすりゃいいんだ、え、リ ウ、教えてくれ……おしえて	ブライト 「か、かんべんしてくれ、リ、 リユウ、かんべんしてくれよ」	ブライト 「ア、アムロの言い通りだわ 我々が、未熟だったために…… リユウを殺し……何人もの仲間 を……う……ああ……」	アムロ 「ちがいますよオ、やめて下 さい、ぼくだってそりです、ハ ヤトだってそりかも知れない ……みんな……みんな……み んなが、みんなが……」	アムロ 「うっ、う……うっ…… ジョブ(「うっ」) 「ぼくが、と、殺しち やつたんです、ぼく、僕が、僕が ……ああ……」	リユウ 「オフオン」 「お前は野性のトラだつて、おつ かながつていたよ。おかしいだ ろ？」	アムロ 「アムロ……リユウさん、リ ユウさん……」	三人 リユウ(「ア……」) 「ア、アムロを独房から出すんだ、 せ、責任は俺がとる」	セイラ 「ク……」	



第二十一話・おわり

341	340	339
F ・ O 雲が切れて夕日がカッと照る	アムロUP	涙をはらうセイラ
	アムロ 「そ、そうさ……そうですよ…… ……それじゃないんですよ（エコー） でひっぱってーそれじゃないんですよ（#）」	セイラ 「ブブライトさん……／＼や、やめましようよ、 ジ・ジオンを倒すしかない…… 戦争が終るしか……」



G 機動戦士
ガンダム
UNDAM
読者会本

臺灣省本

第22巻 「マ・クベ包圍網を破れ！」

制作 名古屋テレビ
創通エージェンシー
日本サンライズ

株式会社日本サンライズ

第22話 マ・クベ包囲網を破れ
昭和54年9月1日放送

制作スタッフ

●脚本・松崎誠一 ●演出・貞光紳也 ●作画監督・安彦良和 ●作画・多賀かずひろ・伊東誠一 ●前島和子・戸川俊信 ●背景・アート・テイタ・ワン（森博幸・那須野幸子） ●動画・チェッタ・浜津守 ●仕上・ディーン（高松秋子・宮川はれみ） ●特殊効果・土井通明 ●撮影・旭プロ（平田隆文） ●編集・鶴岡友彰 ●現像・東京現像所 ●音楽監督・松浦典良 ●効果・松田昭彦 ●監音・日向日雄 ●録音・監音スタジオ ●制作進行・量佳孜弘 ●設定制作・円井正 ●A・P・神田量

●アムロ／古谷徹 ●ブライト／鈴置洋孝 ●カイ／古川登志夫 ●フラウ／
鶴るみ子 ●ミライ／白鳥冬美 ●セイラ／井上瑤 ●ハヤト／鈴木清信 ●マ・
クベ／塩沢兼人 ●ジュダック／二又一成 ●ウラガン／戸谷公次
●ナレーシムン／永井一郎

[illegible]

98	92	91	90	89	88	87	86	85
マ・クベ、モニター内ウ ラガン	ウラガン敬礼して スクリーン消える マ・クベやおら立ちあが る	スクリーンにうつって いるWベースの写真、マ・ クベニヤリとして	岩かげにかくれている特 殊装備の兵士たち	時計を見ているラング、 ふりむいて	パイイスをためラング	パイイスをためラング	パイイスをためラング	パイイスをためラング
「リフト・ジュエツトを背負 うパイイス」	リフト・ジュエツトの調整 をしてる兵士たち	パイイスをため兵士たち モニター見てOKのサイ ン	パイイス	ラング 「パイイス」	ラング 「パイイス」	ラング 「パイイス」	ラング 「パイイス」	ラング 「パイイス」
「間もなく収が通過するぞ」 「全員整備を再確認しろ」 「金庫のかけらでも持つていては いかんぞ。ラング、時計をはず しておけ」 「こいつは装備と同じオール・ プラスチック製さ」 「全員、リフト・ジュエツト着 用」	ラング 「パイイス」	ラング 「パイイス」	ラング 「パイイス」	ラング 「パイイス」	ラング 「パイイス」	ラング 「パイイス」	ラング 「パイイス」	ラング 「パイイス」
「リフト・ジュエツトのガス圧は ？」	パイイス	パイイス	パイイス	パイイス	パイイス	パイイス	パイイス	パイイス
「確認したからまちがいねえ」 「来ました」	ラング （背中）「全員OKだ。さつきも 確認したからまちがいねえ」 兵士A	ラング （背中）「全員OKだ。さつきも 確認したからまちがいねえ」 兵士A	ラング （背中）「全員OKだ。さつきも 確認したからまちがいねえ」 兵士A	ラング （背中）「全員OKだ。さつきも 確認したからまちがいねえ」 兵士A	ラング （背中）「全員OKだ。さつきも 確認したからまちがいねえ」 兵士A	ラング （背中）「全員OKだ。さつきも 確認したからまちがいねえ」 兵士A	ラング （背中）「全員OKだ。さつきも 確認したからまちがいねえ」 兵士A	ラング （背中）「全員OKだ。さつきも 確認したからまちがいねえ」 兵士A


108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94
パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達	パイイス、リフトジュエツト を噴かしてとびあがる、 続くラング達
ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング
「へへ、やつこさん達、おどろ くぜ。まるつきり探知出来ねえ んだからな」 「ラング、無駄口は成功してか ら叩け」 「オーライ、おどろきおどろき」	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング	ラング

151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140
えつと正面をみるミライのりだし	オスカー上 光点	Wベースなめ 前方に光点、上昇する	警報にハットのりだすアムロ スパナを放りなげる	ミライ	セイラ		ミライなめマーカー	ふりむくセイラ	走りこんでくるミライ	小さな穴から煙が一条流れてる	ミライ、サンマロ、プライト
ミライ 「戦機ね、アムロノリユヘヤトノコアフファイターで発進して下さいノ」	オスカ 「来ますノ ドップらしき編隊二十機」		アムロ 「しまったノ 部品交換が間に合わなかったかノ ええいいノ」	ミライ 「そんなこと……オペレーター、とにかく警報をノみんなを第二戦斗配置につかせてマーカー (直) 「はいノ」	セイラ 「でもオペレーターの見おとしだ、なんて思わないで下さいね。ミライ……」		マーカー 「方法は分かりませんが、ミノフスキ粒子の射出口とECM発振器を破壊されました」 ミライ 「ええ、敵の探知器に対して完全無防備です」 ミライ 「それでリーダーはどうなの?」 マーカー 「無事です。なぜ一掃に破壊しなかったんでしょ」 ミライ 「わからないわ……」	セイラ 「やられたわノ」	ミライ 「どうしたの?」		サンマロ 「な、何んでしょ、今のは?」 ミライ 「爆発だわノ」

																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					</
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	
ベットのの上に寝させるサ ンマロ	ハットをかきあげる	コアフファイターを追うド ップ アムロのコアフファイター きてバルカスをうつ、ド ップ爆発	コアフファイターよける	コアフファイターよける	コアフファイターよける	コップ上具、ミサイルを うつ	二機のコップの一機をや る	コアフファイターうつ	コアフファイター、Wベ スの方へ向かう	コップ、Wベスへおそ いかる	Wベスから機銃でてき て射つ	コップ、Wベスにかそ いかる	コップ降下はじめる	
サンマロ「フ、ブリッジへ……」	ブライト「うう……」		ハヤト「だ、だめですー！ 敵がす ぎます」						アムロ「了解！」					オスカ「第一波、十二時上空ノ」 セイラ「アムロ、ハヤト、ホワイトベ ースの援護を！」
														

189	188	187	186	185	184		183	182	181	180	179	
ドップやられる	コアファイター、ミサイ ルうつ	コアファイター、ミサイ ルうつ	セイラ、バネルの方へゆ く	ミライ キヲと見て ニコノ	セイラ		セイラとびこんできて	ミライ奥にどなる	Wベースのまわりで爆発	サンマロ顔をくもらせて ドップ、ミサイル発射	のりだすサンマロ	ズンとブレよるけるサ ンマロ
			セイラ	ミライ 「じゃハヤトはホワイトベースで 機銃させましょ。その方がいい わ。2機が同時にでてきて……」	セイラ 「ミライノ、アムロはできるかも 知れない。けどハヤトは……」		ミライ 「ガンダム、ガンタンクのペー ジを射出しますノ、メカニク マンに連絡してノ」 セイラ 「ミライノ、機斗中にガンベリ も、使わずにこのまま空中機銃 をさせるつもりなのノ」 ミライ 「いけないかしら！ コアフア イターで発進させたのが間違 いなら、間違えも早くに正 しい方へ」	ミライ 「ガンダム、ガンタンクのペー ジを射出しますノ、メカニク マンに連絡してノ」 セイラ 「ミライノ、機斗中にガンベリ も、使わずにこのまま空中機銃 をさせるつもりなのノ」 ミライ 「いけないかしら！ コアフア イターで発進させたのが間違 いなら、間違えも早くに正 しい方へ」	サンマロ「リユウ……ガンキャノンで左 翼を……」 サンマロ「ブライトさん……」	ブライト「リユウ……ガンキャノンで左 翼を……」 サンマロ「ブライトさん……」	ブライト(M)「なぜ体がうごかん？ ……恐いのか……うう……リユウ ……」	サンマロ「冗談じゃありませんよ。そん 体でノ、うりつッ！」

235	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	192	191	190
メーダー	Bパーツ ぐわーん	ドップ、ミサイルうつ	ガンダム・パーツの下半 身発射	コアプロットつっこむ	コアファイター変型		コアファイター降下する、 銃火おぞう	アムロ	ツ	旗をふるメカマン ガンダムの上半身ゆく	銃火がすりぬける	セイラ	ハヤト	セイラ	アムロ
															
アムロ			アムロ		アムロ	「コアファイター」		アムロ			アムロ	セイラ	ハヤト	セイラ	アムロ
「いそぎすぎだ!」			「レーザーサーチャー」		「センサー同調」			「早すぎるぞ! こつちの都合 も考えてくれっていうんだ!」			「エイ、判りました! ガン ダム・パーツを発射して下さい。 ガンダムがやられても知りませ んよ!」	「ごめん。カイは、対空機銃座 から離れられないの!」	「カイさんがいるでしょう!」	「悪いわね、ガンダム・パーツ は射出します。ハヤトはホワイ トベースに戻ってガンキャノン へ!」	「ええ!! 戦斗中に空中換装!! どうやってやれたっていうんです!」

222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	210C	210B	210A	209	208	207	206
ガンキャノンの上空で撃 ち落とされるドップら	ガンダム連射 うしろをすぎるドップ	ハヤト	ガンキャノンにあたる	ドップ射ってくる	ガンキャノン、ハヤチか らとびおきる	ドップやられる	ライフルつガンダム	ドップ銃撃しながらくる	次々とガンダムに銃撃	ドップ降下	ガンダムぐいっとポーズ	アムロ	モニター内 セイラ	アムロなめ、バターン色 がわり					Aパーツゆれる
		ハヤト										アムロ	「アムロ、ガンダムゆきます!」	「(音中)「アムロ」の動力系が 壊れた!」セーラーさん「アムロ の動力系が壊れた!」					「アムロ、ガンダムゆきます!」

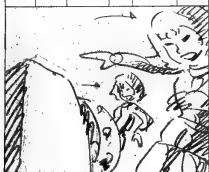
238	237	236	235	234	233	229	228	227	226	225	224	223
ハッとするアムロ	手前におちてくるガンダム グフとびあがる	アムロ	グフのパンチ、ガンダム にあたる	マ・クベなめくらガン	マ・クベなめくろベース行 く	蛇をきるミライ	ミライなめセイラ	ガンダム、ガンキャノン の上にアムロ現れる ハット現われる	ブリッジのマ・クベ	ガンダム ハットと見る 奥にダブデ一台	ガンダム 落地 ガンキャノンもおちてく る	地面におちていくガンダ ム
アムロ 「うっ！」		アムロ 「ワッ！」		ウラガン 「さすがです、大佐」 マ・クベ「まあな……」	マ・クベ 「フフフ……何のためにレ ーダーを殺したかも知らんで……。 なまじレーダーがあるからこそ 自分で勝手に状況判断して我 々の網にかかってくれ」	ミライ 「右七十度方向が比較的手薄で す」 「了解！」	ミライ 「この地区にジオンがこんな大 兵力をおいているなんて聞いて ないわ」 「事実確認は認めてはね」	アムロ 「注意しろハット、やつら地上 にも網を張ってたんだノいい かノ」 「ええ……」	マ・クベ 「本馬のおびき出し作戦……順 調だな。ワッ……」			

254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240	239
ガンダム 剣をぬく	アムロ	グフが二機あらわれる	首のないグフたおれる ？とみるガンダム	砲弾が首を吹っ飛ばす	ハットと見るグフ	ガンキャノン、砲弾発射	グフ、盾でうける	ガンダム、頭を機銃を発 射	アムロ現われる	銃がまえるガンダム、銃 爪をひく、しかし弾がで ない	ハット	ガンダムなめグフにムチ をふるわれて後ずさりし てるガンキャノン	ハットとふりむくアムロ	ガンダム 銃を射つ グフにあたる	ガンダム 前におちてく るグフ
アムロ 「ハット、ガンキャノンの弾は まだ残っているか？」 「あ、今のが最後だノ」 「よし、援護をたのむぞノ」						ハット 「今だノ」			アムロ 「弾がきれたかノ それなら……」	ハット 「ううっ……」		アムロ 「ハット！」			





296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285
レーダースクリーンに光点が移動していく	アムロ、ハヤト ブレあつてよろける二人	メカマンなめアムロ、ハヤトのぞいて	アムロ、ハヤト、モニタ内にセイラ	アムロ顔をあげて	セイラ パネルに向う	ミライなめマーカーとオスカ!	見つめるセイラ、うなだれてうっと打ちけす	ミライ	ミライなめセイラ	ミライなめマーカー	Wベースのまわりで爆発
二人	アムロ 「ハヤト、いっつこなしだぜ!」 「うわ!」	アムロ 「こんな時リユウさんがいてくれたら……!」	セイラ 「アムロ、ハヤトが使えるなら、すぐ出動します!」 「おう! あと二分まってくれ!」	アムロ 「武器とエネルギーの補充にどのくらいかかるかと思っているんです! セイラさん!」 「……もつと連絡に状況を判断して下さい!」 「アムロ!」それは言いすぎよ。こちらは全体を見て命令しているんだから!	セイラ 「聞いてみます。 無理と思うけど……!」	オスカ 「ガンダム、ガンキャノン帰艦しました!」 「……もう一度出動出来ないかしら? セイラ?」	セイラ 「こんな時、リユウがいてくれたら……いけない!」	ミライ 「私にはこれが精一杯よ!」 「これ以上、どうしろって言うの?!」	セイラ 「あなた、逃げることしか、考えないの!」	マーカー 「一三・一六ブロックに被弾!」 ミライ 「機関区は大丈夫?」 「はい、……まだとべます」 ミライ 「逃げます!」	

312	311	310	309	308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297
炎に乗員たちが消火液をかけている	煙を吹きながらちてくるWベース	Wベースからビームをきいていくと穴から爆発が噴きでる	よろけるミライ、セイラ	アムロ、ガンダムのハッチの処にしがみついている	格納庫をつらぬいている 太いビーム	Wベースをつらぬく	ビーム行く	メガ粒子砲 光線発射	メガ粒子砲なめWベースくる	メガ粒子砲が顔を出す	ダブデ行く メガ粒子砲が顔を出す	ハッとするセイラなめミライふりむいて	Wベースブリッジ・全景	Wベース	マ・クベ、クラガン 下からの照りかえしの感 色のちがうエリアに入っ て行こうとする光点
											セイラ 「あ……!!」 急いでこの区域から離れるのよ! 敵の後を追って、早く!」	マーカー(off)「妙です。ドアップが後退してゆきます」 ミライ(off)「こんなところで!……!」			マ・クベ「そうだ、……いいぞ……さあ……もう少し中へ入って行け!」



326	325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313
立ちあがって操縦パネルによっかかっているミライを見るセイラ	Wベースの先端、岩をくずしてとまる	お尻の方で砂けむりあがる	地面の上をひきづっているWベース	ミライ、うつとふせてセイラ来て、 ドーンとブレ、セイラふつとぶ	Wベースからビーム一条メガ粒子砲爆発	ガンダム、ライフルをうつ	メガ粒子砲に照準合	アムロ	降下するハッチからのぞくガンダム	Wベースをうしろより、煙たなびいている	マーカー	ジョブ、艦内電話をとる	さらに一人走ってきてかけはじめ
セイラ 「ミライさん!」				ミライ 「あ、もうお終いだわつ!」 セイラ 「何言ってるの! 今の指揮官はあなたなのよ!」 ミライ、セイラ「ワアッ!」			「あ、あのメガ粒子砲かつ! い、一発で……」 ……(直)や、やってやる!」	アムロ			「第一メイン・エンジンも第三ノズルの内圧が上昇しています。早くとめないといけません。」	ジョブ 「第一メイン・エンジンを止めさせて下さい! このままでは爆発します!」	

339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327
ミライの方を見る	セイラ、ホッとして	オスカーの上の光点消えていく	ブリッジなめ行くドップ群	不安そうな一同	煙を出しているWベースの上空をすぎるトップズ群	ブリッジと黒煙なめて近づく機影	Wベースのあちこちで小爆発 もうもうと黒煙がでる	ミライなめセイラ	セイラ	ミライ、セイラなめマーカーふりむいて	セイラ眉をよせて	オスカーがきあがりモニターを見て
セイラ 「……助かったのね……」 マーカー「これからどうします」 セイラ「レベイル將軍に援助を求めるし……」	オスカー「は、リーダーから消えました」			ミライ 「……おたすけて……」 リュウ……				ミライ 「任せるわ……私……助けて……」 リュウ……	セイラ 「かなりの損害が出るけど、それで敵の眼を欺ければ助かるわ!」 「ミライ!」	マーカー「そ、うだ、うまくいくかどうか分かりませんが!」 セイラ「(背中)」「え!!」 マーカー「セイラさん、発煙弾のセイフティを解除して発射筒内で爆発させるんです」	セイラ 「止めを刺すつもりね」	オスカー「うう……攻撃機群が引きかえしてきます」

345	344	343	342	341	340
そこ から 煙 出 す W ベ ー ス	不安 の ア ム ロ た ち	行 く ミ ラ イ 見 送 る 一 同	ミ ラ イ 行 く ハ ッ と 向 く セ イ ラ た ち	よ っ か か つ て い た ミ ラ イ む つ く り と 立 ち あ が る	ア ム ロ ハ ヤ ト 、 ア ム ロ く る ア ム ロ 、 ミ ラ イ の 方 を 向 い て
			ミ ラ イ 「……（ボツリと）……セ イ ラ ……（強 く）セ イ ラ ノ…… 連 邦 軍 の レ ビ ル 将 軍 宛 に 暗 号 電 文 を 打 つ て 頂 戴 ノ……」	ア ム ロ 「オ デ ッ サ ・ デ ー…… ヨ ー ロ ッ バ 反 攻 作 戦 で す よ ね……」	ハ ヤ ト 「戦 況 は？」 ア ム ロ 「ミ ラ イ さ ん……」 セ イ ラ 「な ん と か き り ぬ け た け ど…… オ デ ッ サ ・ デ ー ま で に 間 に 合 う の か し ら……」
					

第二十二話・おわり



連続テレビ・アニメーション番組

G 機動戦士ガンダム GUNDAM

録音台本

第23話 (原)『マチルダ救出作戦』

名古屋テレビ
制作 創造エージェンシー
日本サンライズ


株式会社日本サンライズ

第23話 マチルダ救出作戦

昭和54年9月8日放映

制作スタッフ

●脚本/星山博之 ●演出/藤原良二 ●作画監督/中村一夫 ●作画/中村プロ(西城明・陳勝秀晴・斉藤隆) ●背景/アップル(渡辺毅・渡部孝) ●動画/チエック/浜津守 ●仕上/シャフト(森山政子・吉田恵) ●特殊効果/土井通明 ●撮影/旭プロ(斉藤秋男) ●編集/藤沢友彰 ●現像/東京現像所 ●音響監督/松浦典良 ●効果/松田昭彦 ●録音/日向国雄 ●録音/監音スタジオ ●制作進行/草刈忠良 ●設定制作/内井正 ●A・P/神田豊 ●キャスト&声優
●アムロ/古谷徹 ●ブライト/鈴置洋孝 ●カイ/古川登志夫 ●ミライ/白石冬美 ●セイラ/井上瑤 ●ハヤト/鈴木清信 ●マ・クベ/塩沢兼人 ●ジューダック/二又一成 ●マチルダ/戸田恵子 ●レビル/池田勝 ●ナレーション/永井一郎

																				S	
9	8	7	6	5	4	3	2	1	K	J	I	H	G	F	E	D	C	B	A	C	
Wベース 砂一杯T・B	ザク倒れ爆発	ザク倒れる	盾われる	スパーク二機のモビルスーツ	ザクくる	ガンダムつつこむ	ザクの目にあたる	ガンダムうける	ザクくる	ガンダム、サーベルぬく	ドッキング	メータ色がわり	Aバーツおとすガンベリ	Bバーツ ドッキング	アムロ	Bバーツおちる	メーター	アムロなめガンベリ近づく	アムロ	画面	
N																					音声
「オデッサ作戦を前に、ホワイ ト・ベースは善戦をなく大破 し、不撓を失った。一度は引き上										アムロ 「ドッキング・サーチャー始動。 十、九、八 ……(背中)七、六、 五、四…… ガンダム・Bバーツ ……(05)コアエンジードッ キング」 ゴオー											

18	17	16	15	14	13	12	11	10	
笑うカイ、紙飛行機を投	ハヤト、ムッとして	紙飛行機を折るカイなめハヤト、アムロ、ジョン	破壊箇所 P.A.N.アムロ、ハヤト、カイ、ジョンがいる	見上げるミライ、破壊箇所からとび出している紙飛行機	見上げる立ち止まりあおぎみる	Wベース後部付近、だらけた兵士達、トランプなどしているそこへ来るミライ	爆撃で破壊された鉄橋 P.A.N. D.O.W.N.谷間に落ちるWベース	サブタイトル「マチルダ救出作戦」	
カイ	ハヤト	ハヤト	ハヤト					N	
「ハハハハ……」	「カイさん、まただれかさんに教習者って言われますよ」	「はやくしてくれよなア……もう紙が無くなっちゃうぞ」	（背中）「その右の奴がそののはずだ……」					「マチルダ救出作戦」	けたジョン軍の攻撃隊ではあったがまたいつ襲撃してくるか判らなかつた

28	27	26	25	24	23	22	21	20	19
ベットに横たわったブラ	ミライ、ドア開める	カイ	アムロなめハヤト	カイ	アムロなめハヤト	ミライ呼び出して行く	ミライなめ茶化すカイ	知らんふりするカイなめミライ行く	ミライ、クレーンにのつて上がってくる
ブライト	ミライ	カイ	カイ	カイ	アムロ	ミライ	ミライ	カイ	
「ン……。君に僕の代金をヤッ	「ブライト。何か？」	「アムロ、ハヤトなめミライ立ち止まる	「どう……他の部品で間にあひそう」	「アムロ、ハヤトなめミライ立ち止まる	「アムロ、ハヤトなめミライ立ち止まる	「アムロ、ハヤトなめミライ立ち止まる	「アムロ、ハヤトなめミライ立ち止まる	「アムロ、ハヤトなめミライ立ち止まる	「アムロ、ハヤトなめミライ立ち止まる

[illegible][illegible]

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49
上昇するドダイに乗った ダブ	ドップとび出して行く つづいてダブ上昇する	敬礼するクリンク、行く	マ・クベU P	モニターを見る	モニターを見る	マ・クベのダブデ	砲塔をぬ奥に見えるダブ	カスバート山脈	行くミデア機	上昇して行くミデア 輸送機	レビル
		クリンク 「ハッ」 「ハッ」 「ハッ」	マ・クベ「……連邦軍奴 しびれをくらしたな…… この戦い、先に動いた方が負け る……クリンク!!」 機ドダイY S三機でミデア輸送 隊を叩け!!	マ・クベ「……連邦軍奴 しびれをくらしたな…… この戦い、先に動いた方が負け る……クリンク!!」 機ドダイY S三機でミデア輸送 隊を叩け!!	マ・クベ「……連邦軍奴 しびれをくらしたな…… この戦い、先に動いた方が負け る……クリンク!!」 機ドダイY S三機でミデア輸送 隊を叩け!!	マ・クベ「……連邦軍奴 しびれをくらしたな…… この戦い、先に動いた方が負け る……クリンク!!」 機ドダイY S三機でミデア輸送 隊を叩け!!	マ・クベ「……連邦軍奴 しびれをくらしたな…… この戦い、先に動いた方が負け る……クリンク!!」 機ドダイY S三機でミデア輸送 隊を叩け!!	マ・クベ「……連邦軍奴 しびれをくらしたな…… この戦い、先に動いた方が負け る……クリンク!!」 機ドダイY S三機でミデア輸送 隊を叩け!!	マ・クベ「……連邦軍奴 しびれをくらしたな…… この戦い、先に動いた方が負け る……クリンク!!」 機ドダイY S三機でミデア輸送 隊を叩け!!	マ・クベ「……連邦軍奴 しびれをくらしたな…… この戦い、先に動いた方が負け る……クリンク!!」 機ドダイY S三機でミデア輸送 隊を叩け!!	マ・クベ「……連邦軍奴 しびれをくらしたな…… この戦い、先に動いた方が負け る……クリンク!!」 機ドダイY S三機でミデア輸送 隊を叩け!!

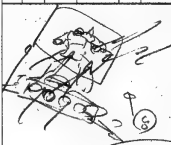


72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
山の 五機のミデアと	ミライ	セイラ	ミライ、セイラの方をみ て	モニターのレビル	ミライ	ミライはモニターにレ ビルが写る	ミライはモニターにレ ビルが写る	ミライはモニターにレ ビルが写る	ミライはモニターにレ ビルが写る	ミライはモニターにレ ビルが写る	ミライはモニターにレ ビルが写る
	ミライ	セイラ	ミライ	レビル	ミライ	レビル	ミライ	セイラ	ミライ	ミライ	ミライ
	「ミライ」 「ミライ」 「ミライ」	「ミライ」 「ミライ」 「ミライ」	「ミライ」 「ミライ」 「ミライ」	「ミライ」 「ミライ」 「ミライ」	「ミライ」 「ミライ」 「ミライ」	「ミライ」 「ミライ」 「ミライ」	「ミライ」 「ミライ」 「ミライ」	「ミライ」 「ミライ」 「ミライ」	「ミライ」 「ミライ」 「ミライ」	「ミライ」 「ミライ」 「ミライ」	「ミライ」 「ミライ」 「ミライ」

114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100
ミライなめセイラのぞい て	ミライなめガンベリーゆ く	発進するガンベリー	ガンベリー、ローター回 り出し発進	ガンベリー内、ジョン、 ハヤト	着地して走り行くガンキ ャノン	行くガンキャノン	ガンキャノン、カタバル ト発進	ガンキャノン、カタバル トに乗り前傾姿勢をとる		セイラ叫ぶ	行くコア・ファイター	とびだすコア・ファイタ ー	コア・ファイター発進	Wベース ハッチ開く
ミライ セイラ セイラ	ミライ セイラ セイラ			ハヤト				カイ		セイラ			アムロ	
「こうなったら、ここに敵のこ ないのを折るしかないわね」 「ミライノ キャブチンシート に坐つてらしたら？」 「この方が落ちつくわ」 「全員に対空警戒に立たせた方 がいいんじゃない」				「ガンベリー行きます」				「へいへい。では、おだてのセ イラさん。いきますよ」		「がんばってね、カイノ マチ ルダさん、救援物資を持ってき てくれるんだから」			「いきますす」	

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115
アムロ	ミデアにげる 砲撃の煙が見える	アムロ	コアファイターくる	低空飛行のミデア機	マテルダとパイロットA	ダフのヒート・ロッド、 ミデア機の翼をぶつちぎ る	ダフ、ヒート・ロッドを ふるり	コンテナのうしろから火 を噴くミデア機 ドタイプにのつたダフ来る	コンテナやられる	翼端ふつとぶ	ミデアの砲撃、手前銃火 くる	コアファイター内 アム ロへT.U	とぶコア・ファイター	コア・ファイターゆく	ミライ
「ミデアさん、機体がゆく まで、なんとかがんばってくだ さす」					パイロットA「マテルダ中尉！ 五番機 機が！」 マテルダ「構うな！ もつと低空で！」 パイロットA「はつ！」										ミライ 「ぞ、そうね」

148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131
ロッドをよけ、せまるコ ける	グフ、ヒート・ロッドあ げる	急速度にターン上昇する コア・ファイター	アムロ	コア・ファイター上下に よける	アムロ	ドタイにのつたグフせま る	アムロ左右を見て	マチルダとパイロットA マテルダ	ドッブやられる	コア・ミサイルでる	ミサイルよけるコアファ イター	ドッブ ミサイルうつ	ドッブやられる	コアファイターくる	銃撃するドッブ、やられ る	アムロ	手前からコアファイター の弾がゆく
			アムロ 「ここでやられるかアノ」		アムロ 「殺しまつたアノ」		アムロ 「ドッブはいいノ グフはどこ に? グフはノ……あつノ」	パイロットA「コア・ファイターです」 マチルダ「さすが早いわね。しかし、あ のジオンのモビルスーツ、グフ には……」							アムロ 「お前たちにマチルダさんも、 補給物資も、やらせるかアノ」		

161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149		
アムロ、スコープから顔 を外し	対空砲火うちつつとぶミ デア四機、その手前、ド ッブ、ドタイになったグ フ行く	アムロ四方をみて	爆発の手前 来るコア・ファイター	爆発するグフ	爆発おこすグフにさらに 二発のミサイルあたる	ミサイル発射するコアフ ファイター	手より砲をうつグフへ命 中する二発のミサイル	コアファイターのアムロ T・P ミサイルうつ	フダイ爆発、とび去るグ フ	ドタイの下方より閃光起 きる	ドタイに命中する弾	コア・ファイター撃つ	アイキャッチャー	
アムロ		アムロ						アムロ						
「ええいノ ミデアと敵の間に 入らなければ、マチルダさ んたちを傷つけてしまひノ カ、														

ア・ファイター	アイキャッチャー	
---------	----------	--

C
M


178	177	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162		
セイラ見ている	ミライ、メモをみている	目ざめるブライト テレビモニターの方をみる	ぶつかるリュウ機	叫ぶリュウ	ブライト UP	ブライト	リュウ叫んでいる	大地にぶつかる二機	同、二機もつれてゆく	リュウ機、マゼラ・トッ ブにつつとむ	ブライト	ミライふりむいてメモを 読んでいる	ブライトふっとテレビの 方みて	TVモニター T・B PAN ブライト息をきらせてい る		
		ブライト「ノ……ノハッノ……り、リュウノ……（かすれている）ミライ……じ、自分で判断して……行動……（かぶせる）をするんだ」				ブライト（泣）「俺、俺は……リユウ……お前のやり方は、利口じゃあなかったかも知れんが……俺たちに機銃を示してくれだ……何をやっただか、人間の値うちが決まる。井筒は俺の仲間だ……お前は強い……だからだよ。負けまいと思っただけがな。……俺が……俺がい……は……き……ん……の……光……を……見……て……た……」		ブライト「い、今……そんなもの読んでいる隙ないだらう……みんなにフ……」				ブライト「ハァ……ハァ……（うわごと）ミライ、待つだけじゃ……だ、だめ……だ。修理……修理……できるとはさせとけ……」			カイさんノ、早くきてくれノ 弾がなくなる」	


[illegible]

201	200	199	198	197	196	195	194	193	192	191	190	189
アムロなめガンベリー	アムロ	キャノン木をどけてくる カット・インするカイ	コアフアイターなめ爆発 するドタイ。とぶグフ	光が入る、アムロ	ドタイにのったグフ来る と突然爆発する	コアフアイター入り旋回 カット・インするアムロ	ドッブ火を噴く	コアフアイターうつ	アムロ	ガンベリー内、ハヤトなめ コアフアイターくる OUT inするアムロ	ガンベリーの脇をすり抜ける コアフアイター、追うミサイル	ドッブミサイル発射
アムロ（背中）「始動ノ ちんぞノ」	アムロ 「す、すいませんノ 援護たの みますノミデアの方にもグフ がまわってのはすですノ」 カイ（雑音の中）「（ON）判 断てるって アムロ 「ドッブキングサーチャー」	カイ 「こいつは、足がおそいからね ノよりノ 早い処、ガンダム K なっちゃってよノ」		アムロ 「ああ!!」	クリンク 「今だ。戦機をやれ!! ……（ON）うわろ」	アムロ 「レーダー・サーチャー発射。 シンクロさせるぞ。うっノ グフが……」			アムロ 「了解ノ このノ ……!!」	ハヤト（背中より）「アムロ、こんな処 でガンダムに接続するの かノ」 アムロ 「やるしかないなノ コアフ アイターでグフは叩けない ハヤト 「エ、よしノ レーダー・サ ーチャー始動するぞノ」		

218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202
アムロ	ガンダムの足、着地する 一方をみるガンダム	ガンダムの足、着地する 一方をみるガンダム	降下するガンダム、ビ ム連射	スコープを合わせるアム ロ	爆弾の中からあらわれる ガンダム	ゆれるガンダムコクピツ ト	Aバーツ、Bバーツ接合 ドッキング、近くで爆発	A、Bバーツ接近する 近くで爆発する砲撃	りつグフ	近く A、Bバーツ降下しつ つづく	着地するグフ、上を見る OUT inするハイブ	ガンベリーAバーツ投下	ガンベリーのハヤト 下半身ドッキング	コアフアイター変型 下	ガンベリー、Bバーツ投 下	ガンベリーのハヤト
アムロ 「し、しまったノ あ、あれは ……まさかマチルダさんのじゃ ？」				アムロ 「グフめノ は……」		アムロ 「うわろ!!」					ハイブ 「うっノ モ、モビルスーツに なろうってのか?」	ハヤト 「いくぞノ……サーチャー・シ ンクロノ Aバーツ投下ノ」				ハヤト 「六、五、Bバーツ投下ノ」



232	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219
ロッドをうちめく	地面に激突するガンダム ふり向きライフルを向け	シートにめりこむアムロ	ガンダムにからむヒート ・ロッド	ヒート・ロッドのびる	上昇するガンダム	アムロ	木をおしたおしつづ止ま るミディアブ機、便あけて いる	ミディアブの翼ふきとぶ	ミディアブ機地面に着陸し て行く	マチルダ	パイロットA	黒煙をはくミディアブよりマ チルダへ	ミディアブの機、黒煙をは いている。
		アムロ 「うわーっ／し、しまった、 さっきのグフカー／」				アムロ 「ち、着陸したのか？ 黒いま ずいぞ」				マチルダ 「ガンダムのバウ・アップ・ メカをすてるわけにはいませ ん！」	パイロットA 「し、しかし、二機だけで も敵をふり切つて！」	パイロットA (off) 「一番機／四番機、 も、もちろん。先に行つて下 さい」 マチルダ 「四番機にはガンダムのバウ・ アップメカが入っている／」 敵を着陸させなさい／	


245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233
翼ふきとぶ	マチルダ	手前マチルダと兵士なめ のバウツ出てくる	カイ	ガンキャノンうつつ	爆ノ ガンキャノンのまわり猛	グフ、ドタイ、射ち乍ら 来る	来るマチルダなめ トレイラー出てくる	着地するガンタンク、肩 の砲を射つ、炎上するミ ディアブ機	ガンダムにからんでいく ヒートロッド	グフ、ヒート・ロッドを 出す	ガンダム走る、追うグフ	ハイブ
	マチルダ 「アムロなら大丈夫です」	兵士 「は、しかし、いきなり使いこ なせませうか!!」	カイ 「アムロ／何をやってるん だ／早く来ねえとマチルダさ んまでやられちゃうぞ。尤も、 俺が、撃ちおとせばいいんだろ うがよ」				マチルダ 「い、急いで／ロメカを下せ 火は気を抜くな／敵のモビル スーツはまだ一機残っている だ／」					「ハイブ」 「これは、こ、この」

260	259	258	257	256	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246
ガンダム指の強うつ	ガンダム苦しい	ガンダム、グフのビートロッドに腰をまきつかれている	ミライ正面みて	セイラ	ミライふりむく	オペレーターなめ点滅する光	あわてるミライ またメモをみながら		ミライ前見て	セイラふり向いている	ミライ、横をみて	ミライ、艦長席でメモを読んでいる	Wベース勝かノ	Gファイターなめミデアのエンジン爆発炎上する
			ミライ 「ええ。敵も戦力が少ないから……こんなに時間かかるのよ。大丈夫。こちらには来ないわ」	セイラ 「大丈夫かしら？」	ミライ 「あノ……セイラ。メカ・マンに伝えて。第一戦斗配置は中止して修理をつづけるようにって」	マーカー 「はい。ミデア輸送機も足がとまっているようです……」	ミライ 「え……そ……そうね……敵は……近づく気配ないわね」	マーカー 「ミライさん、お気をつけて…… ……こんな時、司令官役って何うのはどっしり滑えてくれた方が安心なんです」	ミライ 「…………い、いえ、なんでもないわ」	セイラ 「…………？」	ミライ 「ねえセイラ……司令官ってどんな時……」			

276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261
アムロ	爆圧にとばされ地面をすべるガンダム	倒れるグフ、爆発する	倒れるハイブ	ビームサーベル、グフの足を切りさいている	切るビーム・サーベル	ム・サーベル	ビートロッドを切るビーム・サーベル	切りあげるガンダム	アムロ	倒れかかるガンダム	身をひくグフ ORT・10するハイブ	ガンダム、サーベルに手をかけて倒れこむ	ガンダム	アムロ	ガンダムの腰を銃火おそ
アムロ 「だ、だめだ……足の回路がずたずただノ早くマテルダさんの処へ……あ？」			ハイブ 「……やられた。お、エンジン……」						アムロ 「いけーっノ」		ハイブ 「やったか!!」			アムロ 「うわ……。グ、グフ殿、バ、バが次々と上ってゆく感じだ。や、やれるか」	



290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280	279	278	277
アムロ	手前にふきとぶガンダム	至近弾炸裂	倒れつつ瀕のバルカンをうつつ	くるグフとドタイ、ミザイルをうつつ	アムロ	ガンダムなめ流れるドタイとグフ	アムロ CUT・in	ミライなめセイラ	ブライトにっこりして	ミライ、キャブチンシートからカメラをみて	ブライト、ボタンをおす	アムロ	右上のモニターへうつるグフとドタイ
アムロ					アムロ		アムロ	ミライ	ブライト	ミライ	ブライト	アムロ	
「うっ! こ、ここまで!!」					「このままじゃ、バクシーまけするぞ。どうする……」		「だ、だめだ。自由に動くというわけには……いかな……。どうする?」	「どりぞ。」	「そうか……。ジオンの放熱網を突破してくれたか……さすが中尉さんになっただけのことはあるな……すまん……もう少し寝かせてくれ」	「おきただの?……大丈夫です。……あと五分ほどで到着予定です……」	「おきついたのかね」	「ま、まだいるのかっ!」	

304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291
ドタイよりP・U、グフ CUT・inするマーチ	ヘパイン	GFファイター・コクピットのヘヤトからガンダム	GFファイター、アフターバーナー	GFファイターにのるガンダムの足	アムロ	脇に行くGFファイターにガンダム、ジャンプする	ヘヤト	GFファイターへTD	怒りに近いアムロの叫び	尻餅についているガンダム	ガンダム、バルカンうつドタイのグフもうつつ	アムロ	ふきとぶガンダム
兵(アムロ)「く、くるぞ!!」	ヘヤト				アムロ	アムロ	ヘヤト		アムロ		アムロ		アムロ
「フン!」どのみちパワーはおちんだ! たたきおとしてやる!	「いくぞ! アムロ!」				「よ、よしやってみる」	「マテルダさんのもつてきてくれたパワーアップ・メカだ! ガンダムをのせられる」			「うわっ!」 「アムロ!」 「え?」			「ま、またー?」	「あ!」

347	346	345	344	343	342	341	340	339	338
イ ふりむくマテルダ、アム ロ、ハヤト、かけこむカ	カイ カイかけだして来る	マテルダ、ハヤト、アム ロ、歩いてゆく	カイ ?!となつて	マテルダとハヤト、アム ロ歩いて行く、二人つ いてゆく	カイ カイなめアムロとマテル ダ カイ照れかくして	カイ、あれ?!となつて	ミデア機よりWベースへ コンテナつみこまれてい る、手前に立つマテルダ、 ハヤト、アムロ、カイ	子供たちのむこうミデア 機みえる	ミライをなくさめるセイ ラ
	カイ 「ントノ、もうノ、まっ下さ いよオーノ」		カイ 「い、いや本当、俺、これから ものすごく頑張つて、あれ？」	マテルダ「さノ、ガンダムのパワー・ア ムロ・ハヤト「はい」	マテルダ「フフ……カイ君もね。今日はあ なたが一番つらかつたわね」 カイ「い、いやあー。あ、あれくら い、お、お茶の子さいさいって ね」 マテルダ「たのしいわ。カイ君」 カイ「イヤア……ハハハハ」	カイ「コホンコホン エヘンノ」	マテルダ（背中）「あなたたちには二度 も助けられたことになるわね、 アムロ君、ハヤト君」	レツ（背中）「これだけきこれりゃ、 すぐ直っちゃうわね。Wベースな んかさノ」 キヲカ（背中）「あつたりまえニャンノ」	セイラ 「そんなことないわ。ミライ。 ……よく辛抱したと思う、そ れにプライトを安心させたりも できたじゃない」 ミライ 「セイラ……ありがと。あな たにそう言ってもらえる…… うれしいわ」 「フ……」



349	348
ガンダムヘT・Uしつ つ…… P・O	ニッと笑うアムロ、一方 を見る コンテナ、Gフアイター の中

第二十三話・おわり




[illegible]


33	32	31	30	29	28	27	26	25	24
エレベーターの2人 チラッとするアムロ	エレベーターに乗り込む マチルダとアムロ、ドア閉 閉じる	マチルダ	アムロ、鼻の下などこす り	マチルダ	アムロ、見廻して マチルダ歩き出す	アムロ、フオークリフト で荷物をおさめたる処、マ チルダ上つてくる フオークリフトから下り て	格納庫の一角 アムロ、フオークリフト で荷物をおさめたる処、マ チルダ上つてくる	地球にむかうザンジバル 機装用の網をかけている Wベイス、手前にミデア	ザンジバル降下してゆく ザンジバルロケットを噴 く
		マチルダ「じゃあ……」	アムロ「休、ご案内します」 マチルダ「はいえ、これでも要領があ るんです。近道の……」	マチルダ「ブリッジャへ上ります」	アムロ「結局、修理は自分でやるよう になりますから、整理してた んです」 マチルダ「さすがですね」 アムロ「ど、どちらへ？」	マチルダ「これは？」 アムロ「ガンダムのパワーアップバ ッ用の部品です」	マチルダ「おはよう」 アムロ「え？ あ、お、おはようござ います、休、マチルダ……中尉 いす」		「最新鋭機、ザンジバルは、 パイロット、実用部隊に入ると、 パイロットの乗客の乗客は、各 機に拘束される」

34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44
ニコッとするマチルダ	アムロ、パッと正面をみる	ドア開く、フラウ、あら？とみる マチルダをみて	マチルダ、右へきれる、アムロ出る	ハロ、ボンボンとはねて フラウの足、けとはす	ハロ、壁にあたつてはねて	カイと少年、機銃をみがいている	少年、敬礼する アムロと、マチルダ立ち止る	ドキッとするカイ、敬礼する	マチルダ敬礼する カイ走りこんで	カイ、マチルダに
		フラウ「あ、おはようございます」 マチルダ「(嘘)「おはよう」」	フラウ「アムロノ」 アムロ「な、なんだよ」 フラウ「さつき、食事が終わったら、あしの部屋のエアコン直してくるつていつたでしよ？」 アムロ「そうか？」 フラウ「ンモウ」	ハロ「ン、モウノ」 フラウ「ンノ」 モウノ	ハロ「ン、モウノ」 フラウ「ンノ」	カイ「段んどだよ。あのマチルダさんつてよ、 美人なんや 、能好みつてどこかな。キリッとしてて、やさしくつてよオ」	カイ「(嘘)「マチルダさんみたいなの、悪人だつたら最高だよな」 マチルダ「手の方がお留守のようね」	カイ「(背中)「は？ お、お早ようございます。ちゅ、中尉……っノ」」	マチルダ「(背中)「すてきな恋人探してね」 カイ「(背中)「ち、中尉ノ、あの恥のかきついででありますノ」」	カイ「(背中)「すてきな恋人探してね」 カイ「(背中)「ち、中尉ノ、あの恥のかきついででありますノ」」


45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55
カイ、カメラをセットしている	本箱にでもこしかけている マチルダ。まわりには 少年兵一杯いる カイ、カメラのぞいて	カチャノ フラッシュ光 くやあつてプリントがビ ョンと出る	アムロも体をマチルダの方によせている	ドア開いて(ブライトの 私室) アムロとマチルダがいる	ベットの所で敬礼をする ブライト マチルダが入ってくる	アムロはドアを開けて 写真をとりに出してみる 走つてゆき、パッとね	ビク・トレー	O・L	階下の巨大なモニターの まわりの人々	レビルとエラン
カイ「…… いいかげんにしてくれよノ」 二枚しかコピーとれねえんだぞ」 「 オホ 」	少年たち「いいいじゃないかよノ」 「 オホ 」 カイ「(背中)「よし、もう撮るか らな。それっノ」」	カイ「(嘘)「あーッ」」	アムロ「ブライトさん。マチルダ中尉 をみつれしました」 ミライ「(嘘)「ごころうさま」 マチルダ「あノ、そのままで」	ブライト「す、すみません、中尉」 マチルダ「(背中)「思つたより元気そう ね。よかつた」	アムロ「(背中)「失礼しますノ」 ホ					レビル「各隊の移動がおくれているな。」



63	62	61	60	59	58	57	56
敬礼するジュダック	エルラン	ジュダック	入ってくるエルラン、ドアを閉じる。立ち上るジュダック	エルラン ゆく	レビル	エルラン	将校A電文をさし出し レビル受け取る
ジュダック「ハジノ」	エルラン「フンノ……オデッサ作戦の開始が早くなったと、マ・クベに伝える」	ジュダック「ま、まさか……そんなこと……」	ジュダック「顔色がすぐれませんが……」 エルラン「ジュダック……きさま、ダブ・ル・スパイではなからうな。……黒い三連星がザンジバルで下りてきたこと、レビルにはいつぬけたったぞ」	エルラン「は!! はい。早速、各部隊に伝えます」	レビル「いや、問題は、そのあとだ。黒い三連星が新型モビルスーツで……きた……ルウム星域の時に私を捕虜にした兵士たちだノ手強いぞ。これは……」 オデッサ・デーの開始を早めるしかないなエルラン」	エルラン「その件は、このビック・トレ」から確認してあります」	将校A「空軍のパトリール隊がキャッチした報告書であります」 レビル「ジオンの戦艦ザンジバルが下りてきたと?」
							
<p>オデッサ作戦を早めたいというのに、エルランノ、集結を急がせたまえ」</p> <p>エルラン「はつノ、しかし……」</p> <p>レビル「しかし? 軍は実行あるのみでないのかね?」</p> <p>エルラン「(或)「はッ!」</p> <p>将校A「レビル将軍」</p>							

71	70	69	68	67	66	65	64
2人、洗浄ハッチから出るマチルダ、ヘルメットに手をのばす	アムロを見て	マチルダ、シャワーとま	アムロ、マイタロ・コンビニーターを組んでいる	アムロ	マチルダとアムロ	マチルダ、アムロ、ベルト・コンベアにのつてくると、まると赤いライツがついて上からシャワーかかる	手前アムロ、うしろ技術大佐
マチルダ「戦いは破壊だけでも、人間つてそれだけでは、生き残るの生きていられないと、私は思ったからよ。オデッサ、洗滌は終わったわ」	マチルダ「(背中)「予定は繰り上りそうですか? 大佐」大佐「はッ。まず大丈夫です」	マチルダ「アムロは、ガンダムのパワーアップパーツを」	アムロ「はい」	アムロ「マチルダさん」	アムロ「なぜ、補給部隊に入つたんですか?」	マチルダ「そうね……。戦争という破壊の中で、ただ一つ、物を創つてゆくことができるから……かしらね」	アムロ「物を創る?」
							

97	ガンダム出動								
98	左のレバーをひいてみる ハヤト	ハヤト	「操縦系が、上についたのはいいけど、一人でうまくやれるかな?」						
99	前に出てくるガンダマノ								
100	カイ ハヤト cut in して カイ	カイ ハヤト カイ	「ようハヤトノ、昨日からハヤト、甘んじかねて、大丈夫かい?」 「カイさんだつて、一人でやつているんだよ。できますよ」 「ハハハハハ」						
101	山の間をとぶモビルスーツ。ドム								
102	ドムの足、P・U、また 単服が輝やく								
103	ミライなめのマーカ―	マーカ―	「第二監視網に入りました。動きが早いです」 「ガンダムはどうなっています?」						
104	ふりむくセイラ	セイラ	「そ、それが……Gアーマーのチェック中です。それに、私におきて来いって!」						
105	セイラとミライ	セイラ ミライ ミライ セイラ	「だれが?」 「技術大佐のセキさんです。Gファイターに乗れということで」 「そんなノ、ジョブ・ジョンじやいけなの? 彼だつてバイロットよ」 「モビルスーツの操縦者ということですよ」						
106	ミライ、ふつと困惑	ミライ オスカ	「そう。……その席にはフラウ・ボウにでもくわわつてもらいましょ」 「オベB」 「ミライさんノ、オベB」 「べーホルしたエンジンですノ、慣らし運転を忘れないで下さ」						

107	セイラ 椅子のかげから立つて 走るセイラ	セイラ セイラ	「じゃ、フラウ・ボウ。頼むわ」 「行きますよ」						
108	走るセイラ								
109	ガンダム、ヒート・ロッドをくらう								
110	セイラ、よろめく								
111	ガンダムの前ダフくる 走るセイラ								
112									
113	Gアーマーの全容								
114	説明しているセキ大佐、 見ているアムロとマテル		セキ大佐「ロッドの接続部分は、補正のコントロールは考えなくていい」 アムロ「でも、コンビューターがやられたら?」 セキ大佐「レザ―・センサ―さだ合えは、手動でドッキングさせられる。ただし、時速六〇〇キロ以下だと失速するぞ」 マテル「Gファイターのバイロットは、どうしましたノ」 アムロ「ききましたノ」 マテル「急いでノ」						
115	タラップごとせり出す、 戦斗服のセイラ	セイラ	「は、はいノ」						
116	セイラなめ近づくGアーマー	セイラ	「(モノ)「何これ、Gファイターじゃない。確か、Gアーマー……」」						
117	と、正面をみる								

128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118
ミライのりしろマテルダ	フラウ・ボウ振り向く	おくからマテルダくる	手前にミライおくにオム フラウ・ボウ見て	Wベース、ブリッジのパ ネル	ハヤト、スコープを見て いる	タンクゆく	ミデアが左へ後退してゆ く	上の右のモニターに写る セイラ	ドキンとするアムロ、あ わてて上をみて	「アムロなめマテルダ ハッパしみるとマテルダ 投キッスする」
マテルダ	「セイラさんが、手間取つてま す。ガンダムとのドッキング操 作が判らないって！」	「セイラさんが、手間取つてま す。ガンダムとのドッキング操 作が判らないって！」	「セイラさんが、手間取つてま す。ガンダムとのドッキング操 作が判らないって！」	「セイラさんが、手間取つてま す。ガンダムとのドッキング操 作が判らないって！」	「セイラさんが、手間取つてま す。ガンダムとのドッキング操 作が判らないって！」	「セイラさんが、手間取つてま す。ガンダムとのドッキング操 作が判らないって！」	「セイラさんが、手間取つてま す。ガンダムとのドッキング操 作が判らないって！」	「セイラさんが、手間取つてま す。ガンダムとのドッキング操 作が判らないって！」	「セイラさんが、手間取つてま す。ガンダムとのドッキング操 作が判らないって！」	「セイラさんが、手間取つてま す。ガンダムとのドッキング操 作が判らないって！」

136	137	136	135	134	133	132	131	130	129
木むのむこうドムがゆく ビームが地と木にあた	かまえて、ビーム・ライ フルを撃つ、ガンキャ ノ	スコープとまる、サッ と	警報にハッとするカイ スコープを出す	2発ドムのりしろへおちる	タンク、うつノ	スコープの中。林の間を ゆくドム、照準合せてゆく	アイキャッチチャー	射G アーマー・ロケット噴	が、ミライに気づいて
カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ
「いただきノ」	「いただきノ」	「いただきノ」	「いただきノ」	「いただきノ」	「いただきノ」	「いただきノ」	「いただきノ」	「いただきノ」	「いただきノ」

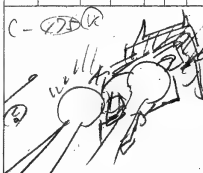


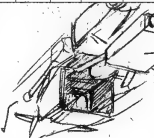
133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119
で セイラ頭を前にもつてき	裏が倒れ、機体ひねる	機内におさまる	キャタピラー、上列だけ	Gアーミーとぶ	ゆく、Gアーミー	カタバルトICのつたキャタピラ発噴	Gアーミー始動	もひとつ輝く照明陣カメラPAN山腹のWベースとミデア	コンテナなしミデアやられる	ジャイアント、バズーカを撃つマッシュムのドム	上昇するミデアバツと照明陣が輝やく	キャノンレシャがむ、すれすれゆくバズーカ	カ イ	四散する ガンキャノン、ビームラ イフル 撃つ！
アムロ														
(嘘)「セイラさんノ左へノ」													カ イ 「きたアノ」	


127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113
モニター何もなし	アムロ	急速にせまる黒い大地	セイラ、のめり	Gアーミーひねり反転	セイラにG、がかかる	ペタルをふむ	レバーをひくセイラがゆれるレバーがギギリ体がシートにめりこむ	モニター2面 アムロ、モニターを見て	すごい早さで流れるモニターの中。アムロ左もみる	セイラ、右、左をみる	ブレとまっつてゆくセイラとアムロ	左の端にあたる、右によろけるGアーミー	セイラ、操縦桿を左へ倒す	山の斜面、間があつてバズの機体とんでくる
アムロ	「おそかつたか?」		セイラ		セイラ		セイラ アムロ セイラ アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	セイラ アムロ		セイラ	セイラ
			「うっ、は? 休めれども」		「うろっ——」		「見、了解ノ」 (嘘)「もつと一杯にひいて下さい」 (タノイ)「フラップを力いっぱい踏んでノ」	「うしろかノ 急速反転ノ」	「どこだ? 敵は……?」	「あ、っノ」 「セイラさんノGアーミーの時、そちらの方がコントロールしやすいですノ。たのみます外観モニター。いいですか。Gアーミーの主砲は僕が撃ちますからノ」			「ハッノ」	「え?」




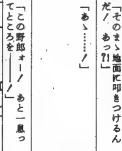
207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195
木のむこう爆発	キャノン撃つ	カイ	ガンキャノンとび上る。 肩の銃をうつ	顔をあげ ミライ、ふつと微笑	マチャルダ、小首をかしげ すつと正面をみて	ミライ、はつとうつむく	マチャルダ眉をしかめ	あらためて、あつと 背すじのはすミライ	ミライ、ハンドルに手を かけ ふりむくマチャルダ	フラウ・ボウふりむいて	マチャルダ手前にきて右を 見て	Wベースのメインブリッ ジ前でマチャルダ、ミライ がマーカーを見ている
		カイ「あそこかノ」		ミライ 「で、しようね……。人には、 そり言われます」 ミライ （モノ）「アムロ、セイラ…… カイ……ハヤト、がんばって……」	マチャルダ「フ……。心配性のようね。あ なたは……」	ミライ「5、5え」	マチャルダ「……？」	ミライ「あ………」	ミライ「少し、間に合わないかも知れ ない」 マチャルダ「どうして、そう思うのです？」 ミライ「理由はありません。そう思え るんです」	フラウ「はい」	マチャルダ「フラウ・ボウノ、私のミデア 機いつでも出撃できるように、 と、伝えて下さる」	マーカー（オペA）「Gアーミー苦戦中 です。ガンキャノン、ガンタン ク、後退してますノ」 ミライ「マチャルダ中尉ノ」 マチャルダ「大丈夫。セキ大佐はやつてく れます」


220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208
と、思わず笑つて また上を見る気分	セイラとアムロゆれるコ クビット	Gアーミーの機体と機 間に直撃、機外れる	ビームのさくれつ、ガイ アのドム上昇して バズをうつ	ガンタンク上にもち上り、 おつちる	ドム、バズを撃つ	ドム走るのを追う、爆撃	ガンタンク漸射	ボタンをおすハヤト	タンク、至近弾くらう	カイ	着地して伏せるキャノン バズの舞、2発歩く	爆発の光の中、走るドム が浮かび上る
セイラ アムロ アムロ セイラ セイラ アムロ アムロ セイラ	「あーノ」 「セ、セイラさん」 「大丈夫ノ、敵は？」 「大分、入られて……しまいま した。山麓に入つて下さいノ」 「ガンダムになるわけ？」 「はい」 「ベイツのドッキングできるか しら」 「できますよ、セイラさんなら フ……。セイラさん。いつも 僕にそり言ってくれました」 「お返してこね。やつてみ	ハヤト「……やるなアノ」	カイ「「なんて、ドシだよノ、敵はノ 敵の足をとめることさえ、でき やしない」									



235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221
セイラ	ガンダムからてゆく、G ファイターふわつと傾く	アムロ	ややあおむけ位置から ぐいとたつガンダム	内部のつぎめ、ジョイン トがはまる	おちかかると前のパーツに つつこむ	前のパーツがとび出す 開発を入れずしるのバ イツとびこむ	ガンダムの前のカバー外 れる	モニターに上る 下の白い四角。中央の線 につくとピンと点線が入 る	セイラ	ガンダムの足から外れて 下に落ちる	足のカバーが右へスライ ドする	モニターにバツと展開図 がでる	アムロ、パネル上面のボ タンおす	山かけからくるGアーマ
セイラ	「コンピューターが全部やつて くれたわ。さ、アムロ、ホワ	アムロ	「大丈夫ですかノ セイラさん」					0	セイラ	「……」 3, 2, 1, 0			アムロ 「バターンG。オート・マテッ ク。セツト。異状がありました ら……いえ。大丈夫ノいけます」	るわ。アムロノ

230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215
ドム、バズをうつ	くるガンダム	ドムの単眼が上るや バズを上むける	降下 ロケット噴出すガンダム	アムロ	ドムの砲撃みえる 入ってくるガンダム	ミライ、フラッシュパン マテルダへ	ドドドオーとWベースの ま近で爆発が上る	ハア と明るくなる	セキ大佐 「原因は判りました、3分まっ て下さいノ」 マテルダ「2分ですませて下さ い。あ？」	マテルダ「2、3番は、圧力が上りまし た。あとはだめです。むしろ、 下ってます」	アムロ 「まさか、マテルダさんのミデ アじゃあ……」	ガンダム、一度、木のか げにとびこみ出てくる	アムロ	アムロ、ン？ と、のり 出す	ガンダム上昇
				アムロ 「あそこかノ これ以上やらせ るかノ」	ミライ 「主砲ノ 撃て、前部ミサイル マテルダ「モビルスーツか？」	セキ大佐 「原因は判りました、3分まっ て下さいノ」 マテルダ「2分ですませて下さ い。あ？」	マテルダ「2、3番は、圧力が上りまし た。あとはだめです。むしろ、 下ってます」	アムロ 「まさか、マテルダさんのミデ アじゃあ……」	アムロ	「あ？ ミデアがノ」	アムロ	「あ？ ミデアがノ」	アムロ	「あ？ ミデアがノ」	アムロ 「あ？ ミデアがノ」

324	322	322	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	160	
さかさまになつて爆発するミデアをつつみこむ火	ガンダムふつとぶ	林のロング・チャドク——ンとバクハツ	ふくれ上るダム	切った処から閃光	ダムの股下まで切りきるガンダム	アムロ、顔を下げる	ひっくりかえるミデアエンジン部分から、ド、ド、と爆発	機体ゆらめく	ひっくりかえるミデア	すぐ地上にぶつかるミデア	ひっくりかえり	ダム、手をふりあげ、ふり下す	ガラスを割るダムの手、破片とぶそのむこうにダムの顔が上り 単眼輝やく	マテルダ	160ダム フレーム
						アムロ					オルテガ	マテルダ「あゝ………」	マテルダ「そのまゝ地面に叩きつけるんだ！ あつ!!」		
															

333	332	331	330	329	328	327	326	325
レビル	ふりむいて	エルラン	ビック・トレイ、作戦室 レビル顔をあげて	朝ぼらけ、ビック・トレイへ O・L	ダム2機、林の中へきえてゆく 左手にキノコ雲上っている	ガイア オルテガ cut・in して	爆風の中、2機のダム後退する	ゆるるGファイター セイラ
レビル	レビル エルラン (ニッコリ)「ハッ!」	エルラン レビル 「い、それはノ……おめでとーございます……」	レビル 「いいニュースだ。ホワイト・ベースは、ジオンの黒い三連星をしりぞけて、戦線に復帰したよ」		ガイア オルテガ 「武蔵がない……作戦も考え直さねばならん……」 「う、うむ……」	ガイア オルテガ 「マッシュムのダムが、や、やられた」 「ジエット・ストリーム・アタックをすりぬけるなんて……信じられん」		セイラ 「あ、あ……?! な、なにも……できなかつたなんて!」
								

346	345	344	343	342	341	340	339	338	337	336	335	334
ゆくWベース。カメラP・Dして谷間をみる	アムロの髪サワサワ	アムロ ひどくゆつくりと、閉じてゆくモニターの顔がみえなくなる	マチャルダ、しゃべっているハツチさる、なげキスする、マチャルダ	フラウ、アムロをみるアムロ、目を閉じている	セイラ、ハラハラつと涙	ゆくWベースの主翼の下、谷、爆発の跡がみえる	敬礼している人々	敬礼しているセキ大佐たち	敬礼しているアムロたち カツ、レツ、キラカ、ハロも敬礼している	敬礼しているアムロたち	ブライト、ちよい口に手をあて 気をつけをして	Wベースのブリッジより 中甲板あたりへP・D
アムロ さうんノ マチャルダ……マチャ	アムロ (モノ)「マチャルダさん、マチャルダさん……マチャルダさん、マチャルダさん」				セイラ 「私が、……不慣れなばかりに……す、すみません。マチャルダさん……」						ブライト「コホノ ……ミデア輸送部隊、マチャルダ隊の戦死者に対して……。哀悼の意を表し。全員ノ敬礼ノ」	て開始する」



第二十四話・おわり

時、午前4時
F・O

ルダ……さうんノ」

機動戦士ガンダム

UNDAM

機台本

第25話「オデッサの激戦」

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

株式会社日本サンライズ

第25話 オデッサの激戦

昭和54年9月22日放映

制作スタッフ


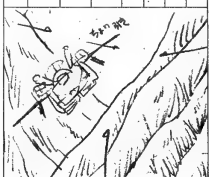
●脚本/荒木芳久 ●演出/貞光紳也 ●作画監督/重沢和雄 ●作画/長崎重信・鍋島修・亀垣一・越智一裕 ●背景/アッパル(渡辺毅・渡部孝) ●動画/中エック/浜津守 ●仕上/シャフト(三橋曜子・加藤勝) ●特殊効果/土井通明 ●撮影/旭プロ(斎藤秋男) ●編集/鶴岡友彰 ●現像/東京現像所 ●音楽監督/松浦良良 ●効果/松田昭彦 ●監音/日向國雄 ●録音/監音スタジオ ●制作進行/植田益朗 ●設定制作/円井正 ●A・P/神田量 ●キャスト&声優
●アムロ/古谷徹 ●ブライト/鈴置洋孝 ●カイ/古川登志夫 ●フラウ/鍋島みず ●ミライ/白石冬美 ●セイラ/井上高志 ●ハヤト/鈴木清信 ●マ・クベ/塩沢兼人 ●ジュダック/二又一成 ●ガイア/政宗一成 ●ウラガン/戸谷公次 ●ナレーション/永井一郎


S	C	面	音
14	13	カルとオムル	カル オムル 「判つてるよ! 怒鳴るな!」 「やめとけ。マサダ中尉がヤられて、荒れてんだからさ」 「こつちだつて同じさ!」
12	11	Gアーマーを整備している アムロ立っている	アムロ (off-on)「最少限度の修理だけでいいんです! 作戦は始つて出撃できるようにして下さい」
10	9	サブタイトル 「オデッサの激戦」	N 「オデッサの激戦」
8	7	Wベース、ゆく	N 「ホワイトベースは、マサダ隊の協力を得て、戦線に復帰をさせたものの、マサダをはじめとして、 多くの犠牲を強いられたのだつた」
6	5	ドム爆発	ドム爆発
4	3	ガンダムとぶ	ガンダムとぶ
2	1	ドムでる ピククトレーなめ上空を フライマンタ等がとぶ	N 「マ・クベ隊の守る特殊鉱物産の基地に対して、地球連邦軍の攻撃が決定された。 オデッサ作戦の開始である。 レビル将軍は、全軍をマ・クベ隊に向けて発進させるのだつた」

29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	
クレインにカル行く	ハッチしまつてゆく	セイラ、ヘルメットをかぶりながら	Gスルなめハッチ開いていく	開いていくハッチ	アムロなめフラウアムロ行く	フラウいる。	アムロなめセイラふりむいてン? となるアムロ	ハッと顔をあげるアムロ	笑いながらゆくマテルダ	マテルダの手、アムロをこすく	ふりむいて笑うマテルダ	アムロ	わる手	キャタピラーにそつとさ	キャタピラーなめ、アムロボードもついているそつと手をのばす
カル 「G・アーマー発進するぞ、フラウボウ、退つてノ」	アムロ(背中)「了解です」 ハッチ開いていく	セイラ 「ホワイト・ベースの進路の偵察、それと、私がハッチにこれに慣れるためにね。つきあつてくれるわね」				フラウ 「……大丈夫?」	セイラ 「いけないわよ。アムロ……。出撃命令が出ているわ、いさませよう」 アムロ(背中)「中 はい」	アムロ 「マテルダさん……」 セイラ(「off」)「アムロノ」 アムロ「は、はい?」							
															

45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32B	32A	31	30
Gアーマー	Gアーマーゆく	写真のUP マテルダ、アムロ	アムロ見つめている	写真の上を指すすべらせて押す マテルダとの記念写真である	アムロ、手をもそもそやつて、前に手をのばして	Gアーマー グループと反転する	アムロ	セイラ	ゆく、Gアーマー	Gアーマーゆく	とぶGアーマー	セイラにG、がかかる	Gアーマーの キャタピラー発進	受話器をもつフライト	Gアーマー	風がまきかこり フラウ、ダットにげる
							アムロ 「ど、どうぞ。セイラさん。そうして下さい」	セイラ 「フ……。アムロノ マテルダさんの運んでくれたガンダムのパワー・アップパーツ。少し慣らし運転させて貰うわよ」				セイラ 「うつノ」			「マテルダ、やりやアーマーにハッチ開いて、アムロさんお乗せ下さい」 「はい、はい」	フラウ 「キャッ!」

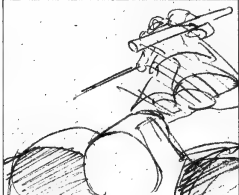
54	53	52	51	50	49	48	47	46	
立ち上るマ・クベ	ガイアふりむいて	マ・クベ パネルをはたき スイッチをおして	ドンドンとバズを撃つ ダブデ、ブリッジから見 ている マ・クベ	開いたハッチからガイア のぞいている	マッシュの遺品の銃と ヘルメットの前のドム	ダブデの上空、機隊がゆ く ドム2機、"ささげ銃" している	フラウ と、生る	ブライトなめフラウ、パ ネルの前に立ち止まる	雲のむこうからくる
マ・クベ「仇き討ちではない！ 我軍の 後ろを乱そうとする木馬を叩く」	ガイア 「判つておるわい！ 言われず とも、仇き討ちはさせてもらう」	マ・クベ「キシリア様の推測があつた兵 士とはいえ……いつまで無 駄な時間を潰しておるのか！ ガイア、オルテガ、作戦は開 始されているんだぞ」		ガイア 「マッシュの魂よ。……宇宙に い給え」		兵たちの（off）「フライド・チキン 展開 終了！」 「空軍の出足がおそいぞ。なん とかしてくれ」 「ダブデがもう一台来てくれて もいいんじゃないのか！」 「マ・クベ本隊のガルシナ隊は、 前へ出すさだぞ！」etc	フラウ 「はい。判りました」	フラウ 「はい」 「何もしなくていい。 外からのS・O・Sが入つたら 知らせしてくれだぞ」 「はい。判りました」	フラウ 「すみません。ブライトさん」 ブライト「あ、気をつけてく れよ。作戦は……」 「……」 「……」 「……」

72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	
W・B	行くGアーマー	Gアーマー上昇してくる	降下してくるGアーマー！ 地面スレスレで機首あげ	せまる山波	セイラ	アムロ	空中回転するGアーマー	加速の中のセイラ	上昇してくるGアーマー	山肌スレスレに行く Gアーマー	山の向うより Gアーマーくる	2機のドム走る 追うドップ編隊	ドップ3機とびたつ	ドップ離陸してゆく	発進してくるドップ	動きだすドム2機	ガイア	
					セイラ 「了解！ もう一度だけタッチ ・アンド・ゴーを！」	アムロ 「セイラさん。そろそろ、 敵と接触するところです。 気をつけて下さい」		セイラ 「ううっ……」									ガイア 「わかつておるぞ オルテガ出撃するぞ！」	これは作戦だ！ 作戦の本筋は、 作戦の機軸もつけてやるのだ！
																		

107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
ドム2機すすむ	雲の下をすすむ二つの シルエット	ドップ群より雲海へ	流れる雲のむこう、 ドップの6機編隊	すすむWベースから山脈 のむこうへ	カイがモニターに うつる	ブライト受話器をとる	ブライト、なに、と 見上げ	オスカーなめ、モニター 上尤点群近づく	ミライ、ブライトの方を 向いて	偵察機、山の向うへ消え る Gアーマーくる	進んでいくGアーマー
					カイ	ミライ	ブライト	オスカー	ミライ	ミライ	ミライ
					「ちよつと、ちよつと、作戦予 定時間より早いじゃないか、え え?」 「敵が、こつちの都合 ムダ弾を撃つなよ」 「ヘイ、ヘイ」	「やはり、スバイがいるという 証明ね」 「対空戦斗用意、ガンタンク、 ガンキャノン出撃用意」	「何だと?! まつすぐ来ている? off」 「はい、この高度でキャッ チされるはずがないのに……」	「スバイ?……あり得るわね」 「確かにな。……しかし、スバ イのためにミデアがやられたと すれば、その実体は、作戦開始 前までにはつかみたいものだ」	「ブライトさん、一時の方向。 敵機接近です!」		

[illegible]

175	174	173	172	171	170	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166
ガンタンタ連射	ハヤト	ガンキャノシなめ、ガンタンタ後退する	見るカイ	着地する	よけるガンキャノン着地	上昇するガンキャノンむこうには着地するドムバズを撃つ	カイ、ハッと追う	キャノンなめバツと出てくる、ドム	たおれるガンキャノン	ガンキャノンにあたり、ふきとぶ	ガンキャノンにきりかかるよけるガンキャノンバズを撃つドム	ガイアのドム、サツとそれをよけ、バズを撃つや剣をぬきつつくる	ガンキャノン射つ	ドッグやられる	W・Bの機銃射つ	ゆれるブリッジ
	ハヤト「こ、こいつっ！」		カイ「ハヤト！こんなのが相手じゃ、ガンタンタは誰が立たねえぞオ。退れ！退れ！」				カイ「は、早い！」									ブライト、ミライ「ああっ！」




191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176
ハヤト	手前から機銃ゆく、ガンタンタ上昇してゆく	機銃下にむけて撃っている	ブライト受話器をとって	W・Bのわきで爆発	ドッグ、ミサイル発射	ドッグ、ホワイト・ベースをすりぬける	上昇していくガンタンタ	ハヤト	ガンタンタのキャタピラ直撃	ドム構え撃つ	手の砲を撃ちつつ上昇するタンク	オルチガ、カット・イン	銃撃の中、すりぬけてゆくドッグ	タンクに至近弾	バズを撃つ
ハヤト「アムロ！早く戻ってきてくれよ！」			ブライト「オフ」「うっ！」 ブライト「ガンタンタの収容を急ぐんだ！モビルスーツを近づけるなア！」					ハヤト「うわっ！」				オルチガ「いいか、ドッグは手を出すな！お前らは、木馬をやつていればいい！」			



205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	192
カイ、カッターイン	つまさきをとばされる ガンキャノン	バズをうつドム	ドム、剣をふりきる よけるガンキャノン、 ドムをけとばす	ガイア	カイ	キャノン撃つてさがる 同時にドムが上る	フラウ、ナビ達	モニター内 アムロ、セイラ	フラウ、ナビ達 とみて	ブライトなめ、マーカ ー	ドアップられる	少年A、すりぬけるドッ プに陥る	ガン・Bに ガンタンク入ってゆく
カイ「うわーっッッ」		カイ「やったーッッ」		ガイア「もらったアッッ」	カイ「ありッッ」		フラウ キャカ 「ええッッ」 「あたしがついてるから、大丈 きッッ」	アムロ 「よし。おちついて、斗いの様 子を教えてくれればいいんだ。 頼むよ」	フラウ アムロ「off」 「え？ ガンタンクが戻ったわ ッッ。それで、 キャタビラーをやられたッッ…… ッッ。それ、 キャノンが……一人で危いのッッ」	マーカ ー「オベア」 「Gアーミー帰って きますッッ」 「一時の方向」 「よしッッ」 「ビル・ライフル の発射用意」		少年A「うわーッッ」	



217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207
Gアーミー	アムロ、セイラ	Gアーミーの盾外れる	ビームの近く、ドム、 オルタガ、カッター・イン	Gアーミー、 ビームをうつ	ブライト	フラウ、ふりむいて	セイラ、カッター・インサ るアムロ	Gアーミー行く	山のむこうから ビームくる つづけてくるGアーミー	着地してバズをすてる ガイア、カッター・イン
	セイラ アムロ 「山かげに逃げて下さい」 「り、了解ッッ」	オルタガ「マッシュの仇だッッ」			フライト 「ヤむを得んなッッ」 「ひき上げせろッッ」 「生きているッッ」 「キャタビラーをやられたッッ」 「それ、 キャノンが……一人で危いのッッ」	フラウ 「ブライトさんッッ」 「アムロが二 〇秒くださいますッッ」	セイラ アムロ 「昨夜のモビルスーツよ。アム ロッッ」 「あれはガンダムでなければ、 倒しにくい相手ですッッ」 「変るッッ」 「ホワイッ・ベースあと二〇秒、 保ちますかッッ」			ガイア 「ええッッ」 「弾が切れたわッッ」 「白い奴は、どこだッッ」 「マッシュ の仇はッッ」

263	262	261	260	259	258	257	256	255	254	253	252	251	250
地図	W・BよりGスカイでる 手前へせり上つてくる	Gスカイくる	ブライトなめマーカー	ハヤト手をあげて	Gコア・ファイターに Gパーツがドッキング	よけるガンダム	ドム2機 一機が放射ビーム発射	くるガンダム	ドム、バズをうつ、 ガンダムよける	消火液をみて	消火液をかけている消防 車上、少年B	Gファイター着陸 いきなり白い液体がかけ られる	モニター上、十字が合う
N													
「マ・クベ軍は、エルラン將軍 の裏切りを予定して、攻撃力を うすくしていた炮を、第一に突				ハヤト 「わざわざこわすつもりで出撃 する奴がいるもんですか。 いくぞ！」	ジョブ（背中）「ハヤト！こわしたら 承知しないぞ！」					セイラ 「了解！ドッキングセット、 解除セット……（背中）いそい でね！」	少年B 「格納庫にありたら、前のパー ィターは外してハヤトのコア・ラア ィターに変えます！」		セイラ（off）「レーザー聯合せ……！」



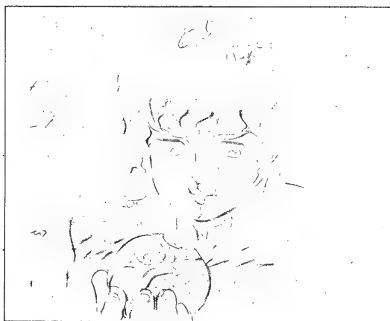
275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264
ガンダム、バズーカをは らい	ドム、バズを投げる	のり出すオルテガ	レビルとしていた目をあ けて、右手で前へチラと 手をふる	ビククトレー作戦室、 レビルへ	ビククトレー等いる	マ・クベ、アップ	マ・クベ、 マイクをとっている	ダブデ	フライ・マンタとぶ すでに半壊するダブデが 爆発して燃える そこそこ燃える 山のむこう、もう一台の ダブデがいる	後送するダブデ	ビククトレー走る ナレックスと終ると ビククトレーうつ
		N						N			
		オルテガ「てやいっす！」	「レビル将軍は、一言も語らな かったという。たゞ、前進を示 すための手を振っただけである と……」			勿論、核兵器を使わぬと約束を した、南極条約に違反はするが、 我々も、敗けたくないのでな	マ・クベ「オデッサ作戦の総司令官レビ ル将軍、きこえるか？私はマ・クベだ。 ここで、手をひいてくれねば、 我方は水素爆弾を使う用意があ る」	「だが、この土壇場にあつても、 マ・クベには、まだ残された手 段もあつた」			次に2機のモビルスーツ「ドム」 が、ガンダムに手間どつて、前 線に参加しなかつたために、前 進軍の足を、とめるべき大き な力を失っていた」

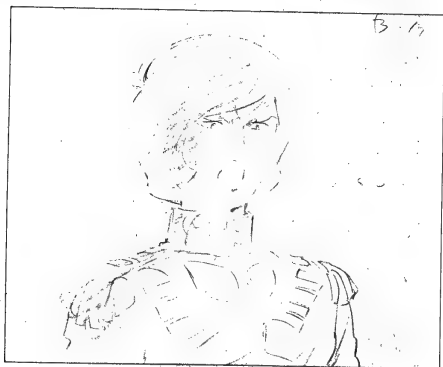
292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280	279	278	277		
オルテガ、カット・イン	とびあがるドム	おそいかかってくるガンダム	上昇するGスカイ	Gスカイの上に潜るガンダム	ハッソとりけるドム	剣をふりおろしてくるガンダム	はねかえすガンダム もう一機のドムがきりか かってくる、ガンダム とんでよけるガンダム	うけるガンダム	ふりおろされるドムの剣	ボンと上昇するドム	せまるガンダム	走るドム2機	ガイア	Gスカイのつた ガンダム	Gスカイの上へのる、 ガンダムの足	Gスカイの上へとぶ	
オルテガ「ドワーッ！」											ガイア「同じ戦法でくるのか？ フフ……。なめるなよ！」						

[illegible]

318	317	316	315	314	313	312	311	310	309B	309A	308	307
マ・クベとウラガン	マ・クベ、なめ近づく、ガンダム、ドム上る	マ・クベ、なめウラガン	マ・クベ、ふりむいて	ガンダムからはなれるドム	ヒート剣、盾をザツクリ切る	ガンダムはつとふりむくドムの機体入る!	ガイア	くるドム	アムロ	ブライト!	ドム、くる	ドム、くる
マ・クベ「連邦軍は強硬手段に出たのか...ならば、望み通り...」 ウラガン「し、しかし、今さら...」 マ・クベ「これはかけひきなのだよ! 連邦側は我々の要求を無視し	兵D (off) 「敵のモビルスーツです! ドムと交戦中のようにです!」	ウラガン「ハイッ。最終の防衛線を突破されつつあります」 マ・クベ「お、おのれ...」 マ・クベ「ン?」	マ・クベ「何っ、レビルの軍は、前進をやめないというのか?」				ガイア「ドムとて、どういう張当はできる!」		ブライト「本物なら?」 アムロ「(off) 「そうだ!」 アムロ「本物なら、か...。よし。ハヤト行け!」	ブライト「水曜が本物ならこもやられるんだ! やるしかない!」 アムロ		

335	334	333	332	331	330	329	328	327	326	325	324	323	322	320	319
ガンダムのビーム・サーベル、つらぬいている。ガンダム、ジャンプする	つき出されるビーム・サーベル	輝やくヒート剣	アムロに影がせまる	ドムが剣をつきおろしてくる	地面の上におちてくるガンダム ハッとし上げる	剣でガンダムをつきおとすドム	ハヤト	Gスカイをけるドムの足	ドムの剣をうけるガレダム	ドム構え ジャンプ	ハヤト	アムロ	ガンダムに照射!	ドム、拡散ビームを撃つ	ダブデの上、ぐんと上るミサイル発射
			アムロ「ワァーッ!」				ハヤト「ワァーッ!」				ハヤト「り、了解!」	アムロ「ハヤト! フル・パワーだ!			たのだよ! 彼らはその報いを受けるのだよ、ミサイル発射!
															





#70

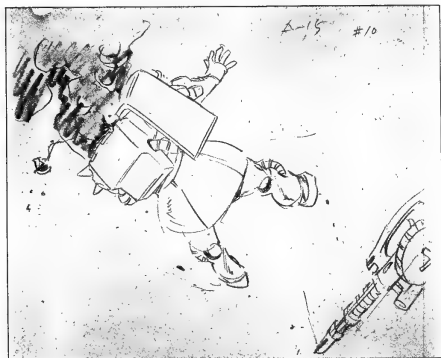
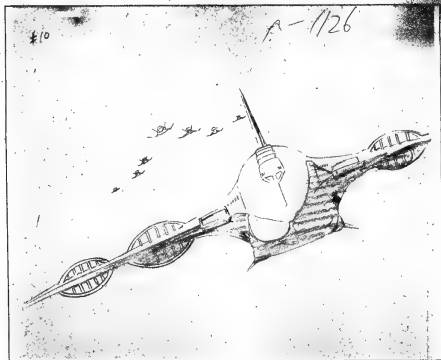
A-5
中日人04

h-3



A-15









#10



#10



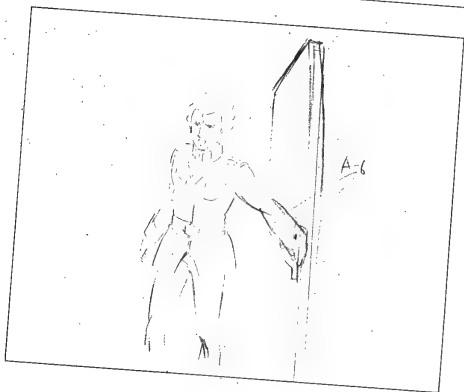
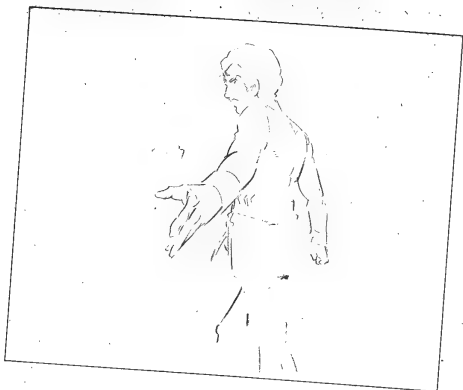
#13

(10) 10/10/10
p. 21



C-
E







録音台本

第26話『復活のシャア』

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

原案 日本サンライズ

第26話 復活のシャア


昭和54年9月29日放映

制作スタッフ


●脚本／松崎健一 ●絵コンテ／并谷登 ●演出／藤原良二 ●作画監督／安彦良和 ●作画／高木敏夫・伊東誠・戸川俊信・前島和子 ●背景／アート・ディンク・ワン ●森博敏・那須野幸子 ●動画チェック／浜津守 ●仕上／ディーン（和泉鋼子・佐々木公子） ●特殊効果／土井通明 ●撮影／旭プロ（平田隆文） ●編集／鶴岡文彰 ●現像／東京現像所 ●音響監督／松浦典良 ●効果／松田昭彦 ●監音／日向国雄 ●録音／監音スタジオ ●制作進行／量住政弘 ●設定制作／円井正 ●A・P・／神田豊 ●キャスト&声優
●アムロ／古谷徹 ●ブライト／鈴置洋孝 ●カイ／古川登志夫 ●フラウ／藤岡るみ子 ●セイラ／井上瑤 ●ハヤト／鈴木清信 ●レビル／池田勝 ●ミハル／関崎里美 ●シャア／池田秀一 ●マリガン／塩沢兼人 ●マーシー／二又一


●ナレーション／永井一郎


																		S
	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1			C
	A ガンベリ おとす	B ガンダム とドッキ ング	A ムロ	B ガンダム おちる	メ ーター	A ムロなめ ベリに近 づく		B ガンベリ 投下	ガンベリ に近づく コアラ アイター	「サブ タイトル 復活の シャア」	サンジ バル後 退	島塔や られる	戦車ゆ く	ビク・ トレと ダグ	ダグと 戦車			画 面
			A ムロ 「コア ダグ」		A ムロ（off） 「どうぞ」		A ムロ 「ガンベリとドッキ ング・サーチャー5 4 3」			N 「復活のシャア」	N 「オデッサ作戦は、地球連邦軍の勝利に終わった。これによつてジオン軍は、ヨーロッパから大巾に後退して、斗いは新しい方向へとすすむ」		DOL. BANK					音 声

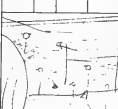
57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44
ゆく	シーランスヘシヤアの足	アングラのハッチ開くとシーランスにいる	海上、アングラのブリッジ浮上	写真をもつ手	マリガン写真をみて	シヤアとマリガン	マッドアングラとユーゴス	魚の群行くとマッド・アングラとユーゴン見える	艦内 艦長をふりむく乗組員	情報乗収艦	ゆれる小型ブイ 発信アンテナ P・D	ゆれるカブセル	波間をとぶ風船
マリガン(背中)「ブリンに命令を出すだけで事はすみますが」				シヤア(off)「フーム、判らんなこの辺りにはブリンの隊がいたな?」 マリガン「はっ」 シヤア(off)「シーランスを用意しろ」 海上を確認の上、マッド・アングラ浮上」	マリガン大尉「写真はだめです。電波障 シヤア(off)「みせろ」	マリガン(off)「107号からの情報です。 ベルファストに大型戦艦が入港したそうです」			乗組員 艦長 「107号より連絡が入りました」 「ふむ、司令にお伝えした方がよさそうだな」				


58	マリガン	「い、や、木馬ならこの目で確かめたい。キシリア殿に笑われようが、私にも、意地というものがあるのだな」	シャア	「いや、木馬ならこの目で確かめたい。キシリア殿に笑われようが、私にも、意地というものがあるのだな」
59	シャア	「判りました。マッド・アンダラーはここで待ちます」	マリガン	「判りました。マッド・アンダラーはここで待ちます」
60	シャア	「すまん マリガン」	シャア	「すまん マリガン」
61	発進するシーランス			
63	シーランス、コクピット シャアへ T・U	シャア	「……………」	
64	ニッと笑うシャア	シャア (M)「マッド・アンダラー殿にまわされて早々に……木馬に出会うか、私は運がいい……」	シャア (M)「マッド・アンダラー殿にまわされて早々に……木馬に出会うか、私は運がいい……」	
65	連絡機、ドックの上をとぶ	士官 レビル	「先程の連絡では、あと一日で外側の修理が終るそうです」 「ン、よからう、本番なら連中の一週間の休暇もやりたい筈だな」	
67	着陸する連絡機	レビル	「彼等は何？」	
68	機より出て来るレビル	司令 チビ共	「ハッ、集合させてあります」 「うわーッ」	
69	タラップ降りるレビル 廊を走り抜けるハロ キッカ カツ レッ 追うフラク敬礼して	フラク	「いたずらに、もうこのオー、あつ、 （背中）失礼しました」	
70	レビル敬礼	レビル	「ン？」	
71	キッカ カツ レッ敬礼 行くフラク	カツ レッ キッカ	「レビル將軍に対しー敬礼」 「レッ キッカ「ハッ」 「キッカ「ペー」	

105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94
カゴの中	出て来るカイに話しかけるミハル	手をのせた台座く	ゴツタくる	ユーゴン、ブリッジより旗を出しているブリンと副官	ゴツタ二機行く	ゴツタ行くと奥のユーゴンよりまた、ゴツタ射出される	ユーゴンの船首より射出されるゴツタ	ブリンなめユーゴン	機群の中 ユーゴンへT・U	レビル	アムロ セイラの方を見る
カイ 「ア？」	ミハル 「兵隊さん、なんか買つてくれない？」	カイ 「ヘーン 面倒くさいのね」	兵A (off) 「どうぞ」	副官 「ゴツタは八分后に木屑と接触するはずだ」 ブリン 「30秒前にミサイルを発射し、ゴツタの上陸を支援する」				ブリン 「二番艦、ゴツタ発進後、北からまわりこんでゆけ シヤア大佐が来るまでに、木屑を洗めてみせる」 ゴツタ発進 用意」		レビル 「何者だ、本手加減、敵の攻撃は、強力になろう。敵の攻めもかく、手に入つた情報は諸君に渡す。じゅうぶん対策を検討するよう」	アムロ 「ア？」 セイラ 「ア？」

115	114	113	112	111	110	109	108	107	106
ゴツタなめ前方に近づく陸地	ゴツタくる	アムロとフラウ 奥フライト来	カイ、カツ、レフ、キツカを相手に	アムロ	アムロとフラウ	ゲートをくぐるカツ、レフ、キツカにフラウとアムロ	アムロ呼びかけるくるフラウ	カツ、レフ、キツカとフラウくる	カイとミハル つづいてアムロ来る 
		フラウ 「別れたら、可哀そうよ」	カイ 「お前らドックに入つちやあぶねえんだよあつちで遊んでろ」 レフ (背中) 「ホワイトベースのトイレのそりじ、ベイトカバのとりかえ。やること一杯あんの」 カイ 「かわいくねえの」	アムロ (off) 「おら、おら」	フラウ 「私たちが軍隊に入つたら、この子たちの面倒をみてくれるの？ みんな、ホワイトベースになじんでるのよ」	キツカ 「ごころう」	フラウ (背中) 「いやつていうよりも」	キツカ 「やさしい、おじさんだったよな」	カイ 「ろくなもんないじゃんか」 ミハル 「みんな土地のもんだよ、うまいもんだから」 カイ 「かわいいわ、苦労してるようだけだよ」 ミハル 「じゃあ買ってよ」 ミハル 「タチ」 アムロ 「いいえ、買わない？」

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116
行く 水面から二機のミサイル	水面下 ミサイルのハッチ開き気泡出る	グリーン腕時計をみて	霧の中のユーゴンへ T・U	ラサ	フリジール・ヤードに包まれたゴック二機行く	作戦司令室のパネルより T・B	Wベールのドックより基地の司令部 P・A・N	フリジール・ヤードにひっかかった機雷	ゴックを包む、フリジール・ヤード	ラサ	機雷、ゴックに触れ爆発	機雷機雷くる	パネル内光点輝く	ゴック内コクピット ラサ
		グリーン 「時間だ、ミサイルを発射」		ラサ 「うまくもぐりこめそう。グリーン艦長、護衛の攻撃を願いますよ」		兵B（背中）「エリア22の反応が消えた。警戒体制に入ってください」				ラサ 「あうっ、やつぱり」 さすが、ゴックだ、なんともないぜフリジール・ヤード放射」			ラサ（off）「えらい小さいものだが、まさか」	ラサ 「いいぞ、マーシー、予定通りマーシー（off）「は」 ラサ 「なんだ？ こりゃ？」

145	144	143	142	141	139	138	137	136	134	133	132	131
フラウふりむく	モニターを見る	戦斗服のハヤト話す ミライら	ドックよりP・U WBみえる	行くミサイル	岩壁の穴からミサイル連射	ラサなめ 水面下の海中がみえる	ラサ	霧の中 またミサイル発射	グリーン	作戦司令室、受話器をとつてとなる司令	移動する光点	作戦司令室 パネルT・U
フラウ 「アムロは、ガンダムで出ます つて」	ブライト 「モビルスーツで今すぐに出撃 できるのはどれか」 少年A 「ガンダムだけです」 少年A 「ガンキャノン、ガンタンクは なんとかならんのか」 少年A 「キャノンはムリです。オーバ ーホールでバラします」	ハヤト 「ぼくら、どうしましよう」 ブライト 「そうだな」				サ 「アムロは、ガンダムで出ます つて」 少年A 「ガンダムで出ます」 少年A 「ガンキャノン、ガンタンクは なんとかならんのか」 少年A 「キャノンはムリです。オーバ ーホールでバラします」	グリーン 「二番艦にも攻撃をさせよう」 本馬の足音をきく	グリーン 「二番艦にも攻撃をさせよう」 本馬の足音をきく	グリーン 「二番艦にも攻撃をさせよう」 本馬の足音をきく	兵B（背中）「ミサイル探知」 司令 「エリア22か？」 兵B（背中）「いえ 54です」		

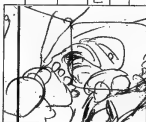
187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176	175	174
メカバーツの上、整備兵	Gブルメカ、バーツをP AN	レビル テラとみて	司令、チーブルのパネル に向つて	マドから見ているレビル、 と司令突然、怒ふきとぶ	司令室一室 レビルと司令居る		バルカンを撃つガンダム ビルを破壊する爆撃	増地するガンダム ビームをよける	ゴック ビームを射つ	マシー	丘の上のゴックへT・U	上昇するガンダム	上昇するガンダム
セイラ	士官B 「敵は目の前にきているんだ、 第三ハッチに移動させろ、Gブル ビームを連射せよ」	レビル 「全て、モビルスーツ、モビル スーツか、時代が変つたな」	司令「はっ、サト伝えます」 司令「背中」エリア60から65の防戦体 勢、どうなつてゐるのか、 「ハッ、ガンタンクは必死の を頼んだところでありませう」	レビル 司令 「そうであります、防戦でき んのか」	司令 「將軍、ここは危険です、 退避の方へ」 レビル「いや、やられる時は、 どこにいてもやられるものだ」				マディー「できたな、モビルスツ め」				

200	199	198	197	196	195	194	193	192	190	189	188
火柱あがる	後送する砲座にハヤト	ガンタンク振り向く	開きつつあるドア 倉庫のむこうの爆撃見え る	ガンタンク出動する	ガンタンク出てくる	フラウ椅子で、と、ふり むいて	ブライト	整備兵なめセイラ身をひ いて	セイラなめ整備兵横見て	セイラ	セイラなめ整備兵
	ハヤト 「どこからミサイルがくるんだ ？ ホワイトベース、情報を 送ってくれ」			ハヤト「off」「ガンタンク出ます、 か こいの通路を開いてくれ」		フラウ「はい」ハヤト「ハヤト、 ハヤト」ハヤト「ガンタンク、 前進しま す」	ブライト「フラウボウ、ハヤトにガン タンクを早く出させろ」	セイラ「ともかく、発進できるように、 第三デックへ移動させて下さい」 整備兵「はっ」	整備兵 「だめです、メイン・エンジン もう少し手間がかかります」 兵C 「なにやつてんだ、さつさと やらののか」	セイラ「うーん、難しいのね」 整備兵「off」「ええ、ガンダム中心で考 えすぎてますけどね」 セイラ「ま、いいわ、Gファイターで 私も出ます」	整備兵 「いえ、でもセイラさんがいれ ば、あとでガンダムとGファイ ターの二機で戦えます」

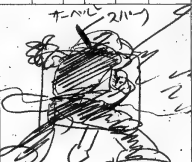
308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289
ガンダム、頭をささるゴツタのつめ	ふり下されるゴツタのツメ	両手を広げ迫るゴツタ	アムロ叫ぶ	ふきとぶガンダム	サーベルを抜きつつふりむくガンダムに体あたりするゴツタ	ラサ	ゴツタくる	アムロなめ審判なる	左右をみるアムロ	海中、ガンダム降下	海へとびこむガンダム	のぞくレビル	ガンダムゆく	別れる二機	ガンダムおき上る	ドッキング	おちる前のカバールしろつつこむ	前のカバール外れる	足外れる
			アムロ 「うわー」			ラサ 「かかったな、ガンダム」		アムロ 「うしろか」	アムロ 「どこだ?.....」			レビル 「ガンダムか.....探追いは危険だがな...」							



325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309
ガンダム、コクピットのモニターにうつるゴツタ消えたり、現われたりする	苦しいアムロ	アゴにつめくいくも	ゴツタ、サーベルをよけつつビームをうつ	ガンダム、サーベルを切りつける	ラサ	U ガンダムの頭へツメをくいこませたゴツタへT・	ガンダムの頭にくりこんだゴツタのつめ	構えようとするガンダムに突進するゴツタ	アムロ	ゴツタくる	魚雷よけるガンダム	二本の魚雷くる	左右を見るアムロへT・U	ガンダム左右を見る	PAN	ゴツタ行く
	アムロ 「モ、モニターが使えなくなる」				ラサ 「甘やかされてビーム砲をぶちこめばおしまいだ」				アムロ 「ン」							



「甘やかされてきたアムロは、
自分自身で戦うことを知らなかった」
甘やかされたアムロ

341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327	326
ブライト ミライ	あわてて坐り 立つフラウボウ	WBブリッジ正面モニタ に水柱がうつる	セイラ	Gファイターのむこう、 水柱が上る	ビカー ゴック爆発する	ガンダム退がる	ゴックを切ったサーベル より T・B	ゴックを切ったサーベル	ゴックつめをはなす ガンダムの左手がもう一 本のサーベルをつかむ	ラサ	ぬく ビームサーベル	ガンダム サーベルつつこむ	ガンダム コクビット きえたモニターがまたつ	ゴック、ガンダム回転が 戻る一瞬	アムロ
フラウ ムロ「無敵開きませんんかア ムロ」	フラウ 「アムロ、アムロ、応答せ よ、ガンダム、ガンダム、 応答して下さい」	マーカ（背中）「戦いが終わったよう です」	セイラ 「ど、どちらが……?」						ラサ 「うっ?! モニターがきえた?!」				「アムロ（背中）」「そこだ!」		アムロ 「そうか!」

356	355	354	353	352	351	350	349	348	347	346	345	344	343	342
くるシーランス	シーランスがくる	ミハルのぞいている	かがみボーズから立ちボ ーズのフィニッシュ（ユヘ）	立つガンダム	レビル 司令感心する	海中より出て来るガンダ ム	ブライト フロートと椅子 にもたれかかる	み上げるフラウ パツと 明るい表情になる	WBブリッジ正面モニタ にうつる白い軌跡	Gファイターなめ 海面に白い軌跡みえる	レビル 目をくもらせる	レビル 双眼鏡下して	双眼鏡の中 Gファイターとぶ	フラウ
							ブライト「そうか……?」 マーカ「オスカー（off）」「やったアッ	アムロ（雑音の中）「……接触が…… きこえるか。ホ ワイトベイス、 燃焼します」 フラウ 「ブライトさん、 アムロが燃 つてきます!」	マーカ「Gファイターからの映像受信 します」	セイラ（off）「海中をすすむものを発見 映像をおくらします」	レビル 「もつとも、あいうちというこ ともあるが……」	司令 「は?」 「敵が勝っているのなら、また 攻撃をはじめている」	レビル（off）「勝ったな……ガンダム」	フラウ 「アムロ、アムロ!」

357	358	359	360	361	362	363	364	365
ブリン	シーランズ ユーコンの艦へくるや 横つとびに上つて	ユーコンの甲板に 着艦	ブリン 肩をすくめ	モニターにうつるドック のWペーリス	シャア	シャア、ボタンをおすと ガンダム三面図でてく る	ブリン シャア	目だけが印象にのこるよ うな色が見えぬで、そし てF・O
ブリン			ブリン		シャア	シャア	ブリン	
「シャア大佐だノ、 収容スタンバイノ」			「ホッ さすが大佐だ。いい胸 をしておられる」		「まちがいない 木馬だ」 「しかし、ビデオを送ってくれ たゴックは二機共やられて」	「フフフ…… それでいい ブリン」	「ハ？」	「子供じみてるだろ？ フフフフ…… そう。私のプライドを傷つけた モビルスーツだからな」



連続テレビ・アニメーション番組



録音台本

第27話 「女スパイ潜入 / 」

株式会社日本サンライズ
〒107 東京都港区赤坂一丁目1番1号
電話03-433-7555

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

第27話 女スパイ潜入
昭和54年10月6日放映


制作スタッフ


●脚本/星山博之●絵コンテ/并谷登●演出/久野弘●作画監督/山崎和男●作画/多賀かずひろ●服部卓●美田佳子●栗野川繁美●背景/アツパル(渡辺毅・渡部幸)●動画/チェック・浜津守●仕上/シヤフト(森山政子・長谷川清)●特殊効果/土井通明●撮影/旭プロ(斎藤秋男)●編集/鶴岡友彰●現像/東京現像所●音響監督/松浦典良●効果/松田昭彦●監音/日向国雄●録音/監音スタジオ●制作進行/草刈忠良●設定制作/円井正●A・P・P/神田量

キャスト&声優

●アムロ/古谷徹●ブライイト/鈴置洋孝●カイ/古川登志夫●ハヤト/鈴木清信●フラウ・ボウ/鶴岡るみ子●セイラ/井上堇●シヤア/池田秀一●レビル/池田勝●ミハル/間島繁興●ミリー/松岡洋子●マリガン/塩沢兼人●コノリ/二又一成●ナレシモン/永井一郎

S	1C	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
画面	画面											
三面図を次々と出す	キャタピラー状態が出てその間フルサイズが出て	前の部分上にスライドするそれにガンダムがF・I O・Lして		チラッとみて アムロ、ボタンを押す			アムロなめノート	写真、マテルダ、アムロらのUP	立つカイ、と左にむく	ブライイト、みて	アムロ、ノートをみてスタリオンみて	ガンダムの腰の処赤く色がえ
アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	セイラ アムロ			アムロ	アムロ	カイ	ブライイト カイ	アムロ	アムロ
「これはガンダムの新しいパーツだけで構成されたGファイターです。セイラさんに操縦してもらっていますが、特に技術的問題はありません」	「このGファイターを前後に分割して、ガンダムを入れるわけで、これがGアーマーです。新しい部品全部とガンダムの組合せです」	「問題は、この空中ドッキングをテストしてないことです。セイラさんにまだ慣れてないんで……」	「悪かったわね」 「いいえ……」 でも空中でガンダムからのきりはなし ドッキングについての問題はありません				（背中）「このスピードなら戦斗中でも行なうことが、（off）できると思っています。レザサーセンサーの照準は甘いようにで」		「すまない、トイレ」	「急いでな」 （off）「ああ……」	「使い方の問題は、次にあります。Gスカイは	（off）コア・ファイターに、Gパーツのうしろのエンジンを

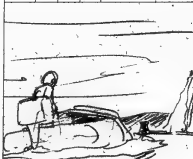
41	40	39	38	37	36	35	34	33
カイ、うけとる	ふりむくカイ 立ち止りアムロ、工具箱に手を出す	W・B ブリッジからPAN・DOWN	アムロ、のぞく ブライト、むこうへゆく 牧歌かかっている	カイ、笑って下へおる		アムロ、ふりむく と、カイ、下から一歩もどって	アムロ、一歩きて	立ち止るカイ ブライトもくる
カイ	アムロ	アムロ		カイ	ブライト	アムロ カイ	アムロ カイ	カイ アムロ
「ありがとうよ」	「これを持って下さい。 売ればいくらになります」 「それはお前の工作用具だろ？」 「どこにいてもお金は要るでしよ」	「カイさんノ」		「俺は限界を越えたのよね、ヘ」	「ムリは、ジョンの連中だって しているんだがな」	「でも」 「ブライトさんよ。無理のしすぎじゃ 斗いは勝てないぜ、だから俺は下りるんだ」	「好きなようにさせてやれ」	「しゃあねえな。 軍人なんておきたいのは、性に 合かねえんだから」 「カイさん、ぼくはあなたの全部が 好きというわけじゃありません。 でも、今日まで一緒にやってきた仲間 じゃないですかノ」 「そういう言い方、好きだぜアムロ、 ま、元気でやれや」 「カイさんノ」

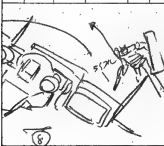

52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42
立ち止りつつ工具箱見て	被災で痛めつけられた街 PAN 片づけものをす 人、あたりを見回しな がら出てくる				ブリンのユーコン (うしろに「番艦」 (霧の中))	ブライト、何か調べもの をしているかんじでふり むく	カイのシルエットゆく	と、背中をむける	セイラ、ニコッと手をあ げる フッカも フラウ、固い表情	のり出して アムロもみる
カイ	カイ	ブリン	ジャア	ブリン	ブライ ト			セイラ キッカ カイ	セイラ 「/」 「いっちゃうの？」 「おろノ 死ぬんじやねえぞ」	カイ 「俺だって、お前の全部が好き ってわけじゃねえけどよ、愚に きるぜ」 アムロ (背中)「そう思ってくれば 嬉しいです」 「お世話になっただねノ ありが とノ」
え？アムロ」	「電気屋でも開くか？.....	「はっ！ さぐりは入れさせて おきますー」	「それ、いい。木馬の足をとめさせろ。 木馬があのドックを出て、どこ に向うかを知りたい」	「二番艦に水陸両用の重モビル スーツの「ズゴック」がありま す。これはあてになります。が我艦 にはゴックが一機あるだけです」 「それでいい。木馬の足をとめさせろ。 木馬があのドックを出て、どこ に向うかを知りたい」	「ミライだって、軟弱者だと思 うだらう？」					

62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	
カイ、ミハルの方をみる	がつつくミハル、み	パンをむさぼるように食	ミハル、ミハル、きびしい	弟のミハルとミハル、出てくるミハル、後ろにカイ	とそつとミハルのミハル	郡生する野の花(秋の花)	T・U	PAN 丘の上ドックが見える丘をのぼってくるミハルとカイ見えてくるB・G FOLLOWS 密着マルチ(ハイジ風)	と、Fr カイ、あわててついてゆ	off ミハル そしてニヤリとなる ミハル、ミハルをじろりつとみながらきて
		カイ	ミハル	ミハル				カイ	ミハル	「兵隊さん!!」 「また、あんだかい?」
		「やも こんにちは、へへ……」	「あゝ」	「姉ちゃんお帰り!」 「お帰りをさい」 「仲よくしてたかい?」				「それじゃあ、空き家に姉第三人もぐりこんでるのか?」 「あゝ」	「その様子じゃ、軍艦を追い出されたのかい」 「ま、そんな処だ」 「怖るとこないんだろ? ウチへおいでよ」 「いいのかい?」 「ありだろ?」 「まさか!」 「二、三日ならいってことさ。あたし、ミハルいんだ、弟と妹がいるけど、いいだろ?」	


73	72	70	69	68	67	66	65	64	63
中味は 26—105 参照のこと	洗しなめカウチ、カイ、組んでいた脚をのせるミハルのかごのっている足もとをみる	階段を上るミハル	カイ、と、ドア閉じる ボタン	ミハル、ドアを開いてゆく 二人の子供も立つ	立つミハル、と Fr. out	コップとって	目は冷静 口をモンモソやりながら	カイ、えつとミハルを見る	コップを下してポツリと パンをとって
	ミハル	ミハル	カイ		ミハル カイ ミハル カイ	カイ	ミハル	カイ	ミハル
	「判ってるよ」	「(低く)」「いいかい、あいつが外に出たらすぐ姉ちゃんに知らせんだよ」 「うん」	「……」 「ッノ よく仕込んであるよ」		「なに？」 「(背中)」「いや……おれの思いすぢさ」 「あんた疲れてんだろ、毛布もつてくるから休みなよ」 「あ？」 「遠慮することないよ」	「あゝ」	「そう、宇宙船なの」	「だけどホワイトベイスは船つても、宇宙戦艦つて方だからな」	「あんだの乗ってた軍艦だけどさ」 「(背中)」「あゝ」 「すごいんだろ」 「(背中)」「まあな。船好きなのか？」 「浜育ちだからね……」


108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98
リッパジ (ヒヤ)	船先でる ザアーンノ パシヤーン 轟	ゴック、発進	潜望鏡のむこう、ブリンとコノリイがいる 手前一杯 T・U	ニューコン二隻すすむ	次々と起き上るロケットランチャー	対潜ミサイルランチャー動き出す	士官、電話器を持ってい	さえるランプ	オスカ、上をみて	戦斗服のアムロ
			ブリン 兵士 D ブリン 「よしノ」 援護のゴック発進後 浮上ノ」	ブリン 「ズゴックが上陸地点につくと同時に我々も敵前攻撃をかける。その間にコノリイおまえは上陸しろノ」 (off) 「ズゴックのカラハから CCo二受信ノ」 (off) 「よしノ」	兵士 (off) 「港西警備砲台作動ソナーと連動させる」	兵士 (off) 「対潜ミサイル用意」	士官 「敵はフリジヤードを使ってるらしくって追えない?! それを突破してやっつけるのがこっちの仕事だろうノ」		オスカ アムロ オスカ 「どうだ?」「多少電圧にばらつきはありますけどいいけます」 「よし」	セキ 「(on ↓ off) 「緊急出動?! こっちはもう少しかかるガンキャノンとタンクをまわしとけノ」 Gファイターか Gスカイはどうなんだ?」

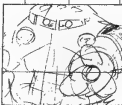
120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109
ハッパチのむこうかこいがバタクレーンさえみえているハッパチ開いてゆく	セイラ、左手でシートベルト下しつづ右手はヘルメットとおすサンバイザーあり	セイラ、のりこむ	セイラ、タラップごと出でくる	市街地とWベースのドック近くに当る	爆撃	同	迎撃ミサイル連射	ヒキで入りこむコノリイのボート むこうにニューコン二番艦ミサイルをうっている 轟	脇のハッパチからコノリイのボートが兵士におされで出る	ブリン、下から出て双眼鏡をのぞく (ヘッドフォンつけている 両耳に) (ミサイルの爆音よけ) 手前ミサイルの機が流れる	前部ハッパチ ミサイル連射
	セイラ メカマン セイラ 「気やすく言いのね。 ガンタンクは出てくれない?」 (off) 「い、いえ、シャフトが調子悪くて……」 「そう」	メカマン 「ぶち破って下さい。こいつの装甲なら、らくにやれます」	セイラ 「ドックのかこいは大丈夫ですかノ」						ブリン 「コノリイのボートを出させる」		

136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121
手前一杯PAN	極度の前傾姿勢をとる T・U	ガンダム、上昇する	Gファイター、すべりこむ ガンダム、上昇する	ガンダム、上昇する	ガンダム、噴射	セイラ、out、in	ガンダム、ドックから出る	ガンダムの足がハッチからドックに下りてくる		メカマンのつたタラッ ガンダムが目が輝く	かこいをぶちやぶって出てくるGファイター！ もって手前になる	かこいつつこむGファイター	うしろのハッチからとび出すGファイター！	セイラにGがかかる	キャタピラー、射出
						アムロ セイラ 「セイラさん！ せて買います！ ア解！」			アムロ 「ごろうでした！ 出ます！」	メカマン 「修理は終わった！ れー！」				セイラ 「うっ！」	
															

150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137
あつと、とまるコノリー	はつと止るミハル	二台の自転車すれちがう	私服のコノリー、自転車 をこぐ	火線がゆく爆発する ミハル、自転車がゆくス ライド	市街地におちる爆撃	ニヤリとして と、正面をみる	カイなめ弟妹	カイ、勝手口から出てき 身をよせ合う弟妹	カイ 「お姉ちゃん、どこにいった！」 「背中」 「さ、すぐ帰ってくる （背中）」 「か、買物に行ったん だ」 「フーン、本当かい？」	カイ 「ホワイトベースが攻撃 されている？！ ミハルが知らせたにしちゃあ早 すぎる様だけども……」	カイ 「空襲か？」	うしろT・B ねているカイ 迷くから砲声爆撃音 毛布をはねのける のぞ く	カイ 「は、本当だよ」
コノリー 「え？ あんたが？……あ、い やノ 別にいいでいませんよ」	ミハル 「んちは……あ、いませんよ」		コノリー 「（お）「自転車、返してくれノ」 「軍で貸りるんだノ あとで返 すノ」			カイ 「信じてやるよ。お前らの言う ことは、海から攻撃してやる のか？」	ジル 「は、本当だよ」	カイ 「お姉ちゃん、どこにいった！」 「背中」 「さ、すぐ帰ってくる （背中）」 「か、買物に行ったん だ」 「フーン、本当かい？」	カイ 「ホワイトベースが攻撃 されている？！ ミハルが知らせたにしちゃあ早 すぎる様だけども……」	カイ 「空襲か？」		うしろT・B ねているカイ 迷くから砲声爆撃音 毛布をはねのける のぞ く	カイ 「は、本当だよ」

151	152	153	154	155	156	157	158
うしろ火線がとぶ Pr・inするコノリ	懐中から金の入った袋を出して	むこうに行きながら 前進するユーコンの潜望鏡 対岸に爆煙	そのスコープ くるガンダムとGファイ ターノ	潜望鏡をのぞくブリン	ゴック、あおむけでくる 上に向ってビーム砲を開く	水面をつき破ってビーム 走る	Gファイターよける 同時にガンダムはなれる
ミハル コノリ	コノリ ミハル コノリ ミハル コノリ ミハル コノリ ミハル コノリ	「こんな処に呼び出してなんで す？」 「背中」 「いや、僕れでなくって な。あんたみたいな人だと思 わなかった」	ブリン (off)「きたな。シルエットか らすると」 ガンダムと戦う機らしいノ 対先 行のゴックに攻撃させるノ 空戦用意ノ				
							

159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169
アムロ 「セイラさんノ 気をつけて下 さいノ」 「一巻じゃないようです」	セイラ 「了解ノ Gファイター、前方 の潜水艦に攻撃をかけるわ」	Gファイターのさきつち えがおれて ミサイル二 発	ズン、ズンと海面に ドォーン爆発	降下するガンダム 足がPr・Toutすると水しぶ きが上つき一杯になる 水しぶき一杯になる	木かげに立つシルとミリ 自転車をとめる気分のミ ハル	ミハル、ギタリ!! シルの方へ	ミリ、一歩出る 二人、顔見合わせ またミハル、見る	ミハル? 正面みて シヤがんで つないでシヤがむ 真顔のミハル、二人を見 ながら	コックリとあごが胸につ くほど深くうなずくシル	
ミハル 「(背中)「おき場所は誰にも教 えちゃあいけないよ」	ミハル 「お姉ちゃん、仕事に行ってく かもしれないけどいいね、お金 は少しづつ使っただよ」	ミハル 「お姉ちゃん、仕事に行ってく かもしれないけどいいね、お金 は少しづつ使っただよ」	ミハル 「お姉ちゃん、仕事に行ってく かもしれないけどいいね、お金 は少しづつ使っただよ」	ミハル 「お姉ちゃん、仕事に行ってく かもしれないけどいいね、お金 は少しづつ使っただよ」	ミハル 「お姉ちゃん、仕事に行ってく かもしれないけどいいね、お金 は少しづつ使っただよ」	ミハル 「お姉ちゃん、仕事に行ってく かもしれないけどいいね、お金 は少しづつ使っただよ」	ミハル 「お姉ちゃん、仕事に行ってく かもしれないけどいいね、お金 は少しづつ使っただよ」	ミハル 「お姉ちゃん、仕事に行ってく かもしれないけどいいね、お金 は少しづつ使っただよ」	ミハル 「お姉ちゃん、仕事に行ってく かもしれないけどいいね、お金 は少しづつ使っただよ」	ミハル 「お姉ちゃん、仕事に行ってく かもしれないけどいいね、お金 は少しづつ使っただよ」
										

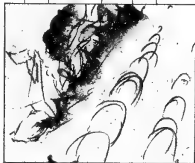
183	182	181	180	179	176	175	174	173	172	171	170	
岩の上にストンとのるカイ	Wベース、ハッチガン キャノン出てくる	うつ機銃ノ	ザブザブくるズゴック カメラにむけてうつ ゆらゆら輝く草履	ドッパと火線がくる	Wベースなめむこうにあ られるズゴック(水し ぶき)	キャノンの上体がはまる	ドゥン、かこいが破られ る うしろWベースとかこい ある	だきあり三人	ハッとするミハル 思わず涙あふれる	PAN	ミハルアップ	抱きしめる
カイ	ハヤト				ハヤト	「後方四時ノモビルスーツが 現われましたノ」 「ハヤトノどうしたノ」 「キャノンで出させるノ」			ミハル	「うん、大丈夫……」 「姉ちゃん……姉ちゃん、母ち ゃんのにおいがするんだね」	ミハル	「うん、判ってるって……」
「俺にはもう関係ねえんだよな。 ドンパチなんか……」	「ハヤト、ガンキャノン出ます ノ」				「今、出ますノ」 「ライフル用意してあるなノ」							

199	198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184
ブライト、どなる	カイ、ふつとぶ	歌る	カイ 首をふる	立ち止るカイ ビカビカビカーン	ロケットで脱出 ビカーン ビームがちる	手がきてうつ ビカーン		キャノンなめザアツと 上るジオッグ	とまる 正面をみる	命中 ぶったおれるガン キャノン	ズゴックの射ったビーム	ハヤト、口惜しがる	水柱の着弾おくれる 早	ずんと横さまにころがり 肩のキャノンをうつ	カイなめ火線ゆきかう ビカビカーン
			カイ 「関係ねえよ……し、しかしよ ……善生!!」 「なんで今更ホワイ トベースが気になるんだ……」				ガハラ 「これがあのガンダムかいノ ハハハノ 噂ほどのものじゃな いぜノ」		ハヤト 「うわーっノ、な、なんて射 撃の正確な奴だノ」			ハヤト 「この、この、このオノ」			



217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200
ひっくりかえってうつガンダム	盾をつき出すガンノゴッグのツメが盾をはじく		ガチャンと手を出すゴッグ	右方にみる	すれすれでビームをかわすゴッグ	ふりむいてうつ(これだけ)	ゴッグくる	ふっと目がうるんでいる	セいら、しゃべっている	セいら、さげふ	セいら、歌る	セいら、カインの顔を明くする ふっとくらくなりcut 既また明るい	写真と同一(走り出すカイン)	リウウ、どなっている	ハヤト、リウウ、カイン、ふせている	アムロ、怒鳴る	カイン、アムロ
		アムロ 「同じ手にのるか!」		アムロ 「ノ」				カイン 「ほんと……軟弱者かもね……」			セいら (エコー) 「軟弱者——」						



231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	218
かけ出す	残ガイ 水面につらく	機 炎上して撃滅	ドン・エスカルゴに集する火線 引き裂かれる	銃撃するスピットに集中するがはずれ火線が	分散する多弾頭弾	うしろをGファイターがすりぬける ドン・エスカルゴ対潜水艦 魚雷をおとす フォロー	セいらをフラウにする 両方の面ともチラついて	アムロ	顔を出すガンダム	水柱が上る ドォーン	ビール走る ビカーンノ	ニヤリ	盾をふきとばしたかんじのゴッグに中なして四ボーズぐらいかわって
						セいら 「捨てハヤトのガンキャノンが敵のモビルスーツに」 「こちらセいら、Gファイター。援護の対潜攻撃機がきてくれたわ。大丈夫よ!」	アムロ 「セいらさん! 戦いはどうなつて!」 「アムロ! 戻ってきて下さい!」					アムロ 「それみる!」	



276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260
岩壁に足かけたガンダム 背中のライト・サトベル	草腹が動く	ハノ	ブレ 横に大きい	顔のミサイル打ちつつ、 つつこむジオッグズ	頭を下げつつこむ うしろに		爆撃の中右に逃げるジオ ッグ	カイなめうちつつける	キャタビラーくる	砲撃のてり返しの中	タンク、うつ		右にあたる砲撃 ザンと左によろけるジ オッグ キャノン、下る ンノ とみるジオッグ	ブレ	手前の手が上下に大きく ゆれる	
		カハラ	カイ 「わーノ」			カハラ				カイ		カハラ		ハヤト		カハラ
		「グハハハハ」				「ようし水中にさそいこんで、 一氣にけりをつけるぞノ」				「これ以上好きにやあさせねえ ぞノ」		「うつノ せ、戦車か?」		「だ、だめだァーやられすぎ で、バ、パワーが……」		「フフハハハ ひき切ってやる 」

291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280	279	278	277
ドックのかていの処の入	ミハル、走る	もそつと倒れたフュンス のむこう、ちよい様子み てミハル、くる さつと 走る	戦車 すつとかくれる	のぞくミハル やられる	ミハル、走る	ぐいっときて	同 気泡の 中手をはなし たジオッグ	同 ガンダム入水	TOP露出オーバートより ノーマル	サー 岸から海へ	アムロ プレ	すべるガンダム とびちる火花	ガンダムの左足に爪をか けてひっぱるノ	に手をのばす ライトサベル抜きなが ら身をかがめる
						アムロ					アムロ			
						「自分の得意な水中で勝負をつ けようっていうのかノ」								
											「こ、こいつーノ」			

306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	292	
ビーノの中からしずみはつとズゴックの背中すべりこむ	アムロ UP	手を払ってくるズゴックスパーで輝く	ガンダム、やられる	カハラ	ガンダム、よろける	急遽にせまるズゴック。屍でミサイルの火線で	となる	ガンダム、やられる 波ガラス	海面に巨大な火柱 ゴンドラT・B セイ	海面を水柱が走る スビッパに命中 爆発	G パーツ銃撃	ブリッジにロケットオン	ミヘル、走る	Wベース Fr・inするミヘル みてからさつとFr・out	見上げるミヘル
	アムロ 「なめるなァーノ」			カハラ 「ふふ、こっちが本物のガンダムらしいが、これでおしまいだ」			アムロ 「う／くるノ」		セイラ 「こちらセイラノ 敵艦撃沈!!」						



319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	307
ドックのかこいこわれて いる P・	つなみの中のWベース ンク	水中ヘドポーン ガンと水がふくれ ビカーン 透過光の手前ザマーンと 水がおしよせる	ザッとおちてゆくズゴ ック (ヒキ)	切りさげてズゴックの腹 が	ズゴックなめガンダム 頭から切り下げ 切り下してゆく	B・G イメージ すーっとおちるガンダム	手前一杯P・U プレ	アムロ、ドUP 手前一杯P・U プレ	ズゴック、追いかけよう と、とび上り ドオーン よろり	ザバイン ズゴック、海面に出る ガンダム、海面に出る Fr・out ガンタンク、いるT・U	ロケット噴射のガンダム 上昇ノ 追うズゴック	カハラ 「逃すかいノ」
							アムロ 「うおーノ」		カイ 「くるな?」			



328	327	326	325	324	323	322	321	320
窓の外、フオロー P・Dミハル、制服を きている T・U	二つか三つの灯しかみえ ない ベルファスト Wベース上昇する	シャア、コービーのカッ プの手をとめる シャアなめマリガン と、正面みて	T・U マッド・アング ラーへ	ブタとしているハヤト	カイ カイ、Fr・inして	アムロ、うけとって セイラ、きて アムロ、うけとって セイラ、きて	肩をすくめて タンクをすべり下りて ハヤト、アムロらいる	ブレ止り光も Fr・outして ゆく
N		マリガン マリガン 「スパイの一〇七号は木馬に潜 入したもようです。 ゴック、ズゴックは各一機撃沈 されたとのことだ」 「ン……まあ、そんな処だな。 ブリンの責任だ。彼にはスパイ とは接触をとる手はずをととの えさせろ」 (off)「はっ」	ハヤト 「どうせそうでしょうよ」		カイ カイ 「みなさんの見てるのつらくっ てねノ」 「へへ……なノ」 ハヤト	カイ カイ 「アムロのこの工具、一銭にも ならねえってよ」 「ようっ」 「アムロのこの工具、一銭にも ならねえってよ」 「そうですか……」 「あら……お帰りのさい、カイ くん」 （背中）「やノ セイラさん」	マリガン マリガン 「スパイの一〇七号は木馬に潜 入したもようです。 ゴック、ズゴックは各一機撃沈 されたとのことだ」 「ン……まあ、そんな処だな。 ブリンの責任だ。彼にはスパイ とは接触をとる手はずをととの えさせろ」 (off)「はっ」	マリガン マリガン 「スパイの一〇七号は木馬に潜 入したもようです。 ゴック、ズゴックは各一機撃沈 されたとのことだ」 「ン……まあ、そんな処だな。 ブリンの責任だ。彼にはスパイ とは接触をとる手はずをととの えさせろ」 (off)「はっ」




52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	
	カイ	ミハルとカイ	カイも身を引く	ミハル出てきて	カイとびのき終って と、のぞき込む	ミハル	とびのくカイ	ミハル、カイと知って、 はっ	カイ、自分の服を調べて みると、股倉調べたりし て、あっとむこうみる	ミハルのむこう、カイの 腰がみえる	ミハルかすかに身じろぎ をする、肩の縫い目が ピツと音をたててはつれ る	拳銃を出して身構える Pr・Inするカイの足
ミハル	カイ	ミハル	カイ	ミハル	カイ	ミハル	カイ		カイ	カイ		カイ
「うそじゃないさ！……は、 半分はうそじゃない」	「判ってるよ。……あんなに弟 妹思いのあんた俺を思ってた なんていうのウソだつてこと」	「カイさん！その拳銃もさ」	「あ、あねえか？……なんで……？」	「うム？……あつノミハルじ やあねえか？……なんで……？」	「あ？へへ……お、おどかし つこなしだぜエ。だ、誰ちゃん ？」	「で、ごめんよ。お、おどかし て……」	「うっ？」	「なにが、破れたんだろ？」	「カイ（off）「なんだ？」			「あれー、もう上がってんの ？」

61	60	59	58	57	56	55	54	53	
窓にとりつくミハル ノモをみる	ドア閉まる、カイひつこ む	ミハル傾いて	のりだし 肩を抱いて	ドアの所で様子を見てい るミハル カイくる	アムロ、カイにきいてし まり カイ入ってきて	カイ手をあげて	アムロ	カイの部屋の前、カイ戸 を開けて、アムロ入って くる、それに気づきミハ ルはっとしてとびこむ	カイ「シッ！俺についてきな」
ブーン（off）「今朝五時ごろ、腕の無敵 機で連絡をとる……。どうするん だろ？」		ミハル「う、うん。そりゃそりさ」	ミハル（背中）「南米はどこにいくの？」 「宇宙船用のドックに入るんだ よ。だけれど、これ以上の情報は 教えられねえよ。南米に飛くま でに、ホワイト・ベースやられ たりしたらお互い生き残れねえ だろ？」	ミハル（off）「ええ。俺は何も見て ませんから……」 カイ（off）「すまねえ！」	アムロ（off）「誰です？」 カイ（背中）「ヤガなこときくんじゃね えの」 「悪人さんですか？」 アムロ「ハハハ、そんな処かね。南 米で下ろすからさ、みんなに 内緒だぜ」	カイ「ハハ……」	アムロ「？」	カイ「俺の部屋だ。」	

94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	
すべりおりに駆けてくる	カイ手すりをすべってく	カイ走る	ミハル	だつと行く	あつと見上げるミハル	あわてるカイ	かがみこんでミハル身をひく 作り笑い浮べ	ミハル	カイ	腕を下ろして行くミハル カイ入口の処にたつてい	ジョブみる と、出てくるブーン	おす ー O.U.T. inするブ
			ミハル		カイ	カイ	ミハル 「そ、そりやるけど……」 「……め、迷惑かけちゃ ね。あたしがスバイでさ」 「まあな。あ／＼」	ミハル	カイ	ミハル 「フーッ」 「何をしていた？」 「あー」 「連絡をつけたのか？」 「ううん」	ブーン 「さつぱりしたア」	ミハル 「南米の宇宙船用ドッグ」 「よし。あとは？」 「まだです」 「上出来だ。がんばってくれ」

107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95
合機入ってくる	アングラから水が流れる、 チカチカチカと光を、組	浮上するマッド・アングラー	ガスっている 水面スレスレにとぶ組合機	カイ身をひいて ブーンとモニターきえる	モニターの中のカイ	ブライト	モニターにカイ写る とFr・0	カイ	ふりむくカイ おくにはジョブがい ふりむき	うしろ姿の組合機Fr・0 してゆく	走るカイ	組合機がカタパルトで射 出される／＼ カイ走りこ
			カイ 「い、いや……こんな時間にか かしいからよ……」	ブライト 「カイ……。何か狂気でもある のか？」	カイ 「し、しかしだな／＼ その飛行 機ジオンの途中がかつばらった かも知れない／＼ないか」	ブライト 「一応……確認はしたがな。身 体検査も……。飛行機だつて、 間違いない／＼。乗組員のものだつ た……」	カイ 「ブライト／＼。ありヤスバイじ やないのか？ よく調べたのか ／＼ええ／＼」	カイ 「こんな時間に、わざわざホワ イト・ベースに近づく取、怪し いと思わねえのかよ。まったく ／＼」	ジョブ 「カイさん／＼。どうしたんです ？ あれはただの カイ（背中）「バックカロー／＼」	カイ（背中）「あー あれはスバイだ／ 撃ちおとせ／」	カイ 「まてー／＼ その飛行機／ 待 たせろー／」	

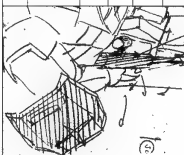



119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108
くる三機	ビカーと輝やくどつと出てくるグラブロー、二機のズゴックがひっぱられていく	シャア敬礼をする	アクアラングの兵隊・0として行く、人影がみえる	うしろに二機のズゴック	シャア ニヤリ	グリーン	シャア	グリーン	シャアとブリン	シャアとブリン	シャア、マリガンらみえる アングラーの甲板に沈んでゆく
					シャア	グリーン	シャア	グリーン	シャア	シャア	「うまいくつたらしいな、ブリン」
					「うむ……いいだろ」	「仇うちとはいいたくありませんが、私は四機のモビルスーツを洗われています。やらせて下さい。モビル・アーチャーなら、ここから発進しても、木馬をキヤッチできます」	「グラブローか？ 整備はしてあるが……」	「私はパイロット上がりです。モビルアーチャーをお貸しいただけませんか？」	「アフリカ戦線ではないのだな？」 「ハッ！ 間違いない、南米の宇宙船用ドックへ向かいます」 「こっちにこないのは有難いが、マッド・アングラーは、ここを動けん。アフリカ戦線の様子もみなければならんしな」		


132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120
セイラとアムロ	セイラ、ヘルメットをかぶる	セイラかけこむアムロ立ち止まる	Wベース 左へゆく 手前にも霧流れる	ミライ、ハンドルをまわす ブライト怒鳴っている	下にもミサイルうつ うしろにもうつWベース	床面のモニターにも来る	二つの光がくる、マーカー	Wベースの主翼をぬ シュシュとゆく線 ややあつて、ビカーノ	Wベースの後 キューリン、ミサイル行く	受信機をとるブライト	ビ、ビ、ビノと光	同・ブリッジ
セイラ	「ミライは、モビルスーツがく	セイラ 「アムロ？ どう思ってる？」 「ええ、敵の様子が判らないと なんで、出動するか、問題です ね」 「そうね」 「海上ですから……ガンキャ ンガンタンクは不利です。そ うなると……」	セイラ 「アムロ？ どう思ってる？」 「ええ、敵の様子が判らないと なんで、出動するか、問題です ね」 「そうね」 「海上ですから……ガンキャ ンガンタンクは不利です。そ うなると……」	ブライト「潜水艦だ！ 各員、個々にミ サイルを発射しろ！ ガンダム 関係スタンバイ！」	オスカ 「いやノ 第四波第五波も下か らきます」	マーカー「第二波ノ 第三波つづきます 」			ブライト「後部ミサイル発射ノ七時だ！」	マーカー「きました。ミサイルですノ！」	マーカー「（悲）「はなれませんでした。七時 の方向にあらわれています」 ブライト（悲）「潜水艦が追いつくわけ ないだろ。ミサイルだけ気を つけて……」	


168	167	166	165	164	163	159	162	161
Gアーミーよける、手前ミサイル数本、上昇してゆく	ズゴック出るヤミサイルをうち落る	ミハルとカイ	二人もつれて倒れる ミハルはつと起きる	廊下に出る二人 ザーンと傾く、よろける 二人 ミハル救命具をはなす	ドア開いてカイとびこみ 救命具を差し出す	大きくゆれるフラウ、のりだして テラッとマーカーみて	ふりむくセイラ	Wベースの右のハッチ、 煙が出ています
		カイ 「お、おい！ 待て！」	ミハル 「あ、あたしのせいなんだ！」 カイ 「あたしが情報を流したばっかりに、カイさんたちが……」 カイ 「お前の情報ぐらいで、こんなに攻撃されねえよ」	ミハル 「あたしにもやらせて カイ・ミハル「ああ」	ミハル 「直撃だつたんだわ」 カイ 「救命具をつけている！ 死んじゃあ何にもならねえんだから」 ミハル 「あんたは？」 「防戦中さ」	フラウ 「キャー！ 弾が当たったのはどこですか！」 「被害状況を教えて下さい！」 「被害状況」	セイラ 「アムロ！ ホワイト・ベースがやられたの！」 アムロ 「大丈夫です！ ハッチを少しやられただけですから！」 セイラ 「そう……」	

184	183	182	181	180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169
蒸気上がる	ビームゆく、閃光が上がる	ビーム走る	ガンダム、ライフルうつ	ボタンをおすアムロ	スクリーンが入る	スコップを合わせるアムロ	ガンダム目が輝く	射をつきだす、盾が外れる おちる所に左の盾を合せてゆく	ドッキングするGファイター	A、Bバース接近	ガンダムの前のカバー外れる	セイラ 「四、三、二」	ガンダムの足から外れる Bバース	脚部外れる	アムロCUT・inして
				アムロ 「アムロ（お）「あれか」	アムロ 「どこだ！」										セイラ 「アムロ！ いくわよ！ 「アムロ「了解」



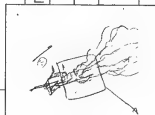
198	197	196	195	194	193	192	191	190	188	187	186	185
ブライト	メカマンのオムル出て	ブライト、ミライやられ ブライト受話器をとって	下にもう一発あたり ハッチがひん曲がる	ガンダム・デツキの内爆 発おこる	直撃二発 Wベースのわき、通過す る二発	ズゴック浮上して ミサイルを撃つ	ハヤトリしるをみて	コア・ファイター発進	コア・ファイター、エン ジンふかす	ブーン	気泡と共に入ってくるガ ンダム	ガンダムおちる 水しぶき上がる
ブライト「ガンベリーは、どうした?」	オムル 「カタバルトやられてコア・フ ファイターが出ません! コア・フ ファイターもやられました!」	ブライト「うわーっ! 各ブロック! 被害状況を知ら せろ! カイのコア・ファイター は発進させることができない のか?」					ハヤト「あ、あそこか!」		ハヤト「コア・ファイター・パワ ー!」 九十七、九十五 九十三、九十一、八十九 「(90) 百 / 百二十 / いき まーす!」	ブーン 「ブーン! 来たなガンダム殿。 水中戦に、ほどの自信がついた のか? それとも、我々をなめ ているのかな?」		


212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	
ハヤト	コア・ファイターくる	Gファイターのうしろの 間をすりぬけるミサイル	ばつとはねとぶGファイ ター	セイラ身をひく	あらわれるズゴック	火球の近くふきとぶズゴ ック	火球 火球	ビーム行く、海面に白い	Gファイター、ビームを うつ	走るカイとミハル	カイとびだしてくる うしろにミハルもついて くる	フラウ・ボウ	ブライト	オムル
ハヤト「こいつ、逃がすものか!」				セイラ「ああ!」						フラウ「はい! 第三ハッチ! ガン ベリー発進用意して下さい!」 「ミハルはどこですか! 第三 デツキに向かって下さい!」	フラウ「はい! 第三ハッチ! ガン ベリー発進用意して下さい!」 「ミハルはどこですか! 第三 デツキに向かって下さい!」	ブライト「フラウ・ボウ! 第三ハッチ を開かせろ! ガンベリーを発 進させるんだ!」	オムル「そ、そうでした! カイをそ つちにまわさせます!」	あれには対潜ミサイルがつんで あるはずだ!
														

229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213
スクリーンにうつる光	ブーン	ブーンなめランプ、ビビーンときこえる	海中にまで届く光 ガンダムとグラブ	火球より海面へ	セイラ外から光	ズゴックにビーム砲が貫通している、光の狂演	Gファイター、ビーム発射	水柱のおちる中のズゴック 照準合う	セイラ、スコープをまわし	水柱の処、すれちがうコア・ファイター	全体に上昇、ズゴックの単眼が輝きビーム砲うつやや太目のビーム砲くよけるコア・ファイター	ハット	水柱の中、上昇するやズゴックの手がみえる	ミサイルつつこみ水柱	コア・ファイター、ミサイル口開く、ミサイル出る	
ブーン (G) 「よし、いけ」	ブーン 「このオー」	ブーン 「う、ゴダールのズゴックが」			セイラ 「あ、……一機撃沈」				セイラ 「うまい」			ハット 「あーっ」				





244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230
くるグラブ	ガンダムくる	ふりあいで	マーカーとブライト	フラウ	マーカーとブライト	Wベース下へミサイル撃つ	セイラ	Gファイターの火をつつむように白い霧状のものが、火をつつんで消してゆく	コクピットの内のセイラ	Gファイター火をふく	Gファイターやられる	ミサイル二機ゆく、Gファイターの右エンジンにあたる	ミサイル水上にとび出す	ブーメラン・ミサイル出る
		マーカー「それは、はい」	マーカー「大体、ガンダムは水中戦用の武器はもっていないんですかね」	フラウ「応答ありません、苦戦中ですよです」	マーカー「判っている、対潜ミサイル、よく狙って撃つように伝える、フラウ・ボウ、ガンダムはどだ？」	マーカー「推力四十パーセントに落ちます」	セイラ 「よし、消火 終了！ ホワイト・ベースは」		セイラ 「し、消火を」	セイラ 「あー」				





259	258	257	256	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245
カチンとガンダムの足をつかみひっぱられる	左の手が手前にある	そりはいってもツメはとけ、手のひらもとけてくる	アムロ	せまるグラブ	下から上がる手、ビームが光る	ガンダム構え、ビームをうつ	せまるグラブ	アムロ	ブーン	上昇するガンダム、ひきこむ	ずんと上に少しくぐが、すぐにシートにしがむアムロ	ガンダムよけるが二発目が爆発する、ガンダム、上にとばされる	グラブ・ミサイル発射	ブーン キツとして
			アムロ					アムロ	ブーン		アムロ			ブーン
			「うつ／や、やはりビーム・ライフルのパワーは、水中では半分でもない」					「うつ／ 早ス」	「このグラブに対して、うかつに海中に入ったのが、お前のミスだよ」		「うつ／ だめだ／ 海の上におびき出さないかぎりガンダムに勝ち目はなげ」			「こいつ／ 水中戦闘用の武器に何を持っているのだ？！ みていろ／」
														

273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260
またカイをみてミハル	キツカごと消火器をおこすカッ、レッツ	カイ うしろミハルとびだして	のびてる三人	床に転がる三人、かけこむカイ	廊下のおくの方爆煙、カッ、レッツ、キツカ、ハロふつとぶ	Wベースの前 ミサイルすりぬける	ハヤト	コブ・ファイターの前方 ミサイルゆく	バルカンゆく 水中からズゴックのミサイル出る	ハヤト	コブ・ファイターうつ	アムロ	ブーン
少年B 「あ、あ、あ、ジョンはどうした？」	カイ 「お、お、お、お前は」	ミハル 「このままだったらまた、ジョンに利用されるだけの生活よ。それに、あたし、ただ見てるだけ」	レツ 「だ、だ、大丈夫だよ／このっ位いさ」	カイ 「大丈夫か？」	カッ・レッツ・キツカ「うわッ／」		ハヤト 「しまったア／」			ハヤト 「こいつ、こいつ、こいつ／」		アムロ 「しまったア／」	ブーン 「ホーレ、つかまえたぞ／ ガンダム」

317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	306	305	304	303	302
ミハルの頭、どこかの角にぶつかる	そのミハル	ミサイルの噴火 ミハルの体りき上がった	バオ 三連斉射ノ 同時 にトメ	ミハルのりだしてレバーをひく	水面下 黒いかげが走る	ミハルの手がかじりつき上がる	よろけるミハル、ミサイルにかじりつく、はいずりこむ	ビームよけるガンベリー	カイトしろみて ロリT尻 ビームくる	ミハル下りきって前へのりだす	ミハル一歩一歩をりてくる	ミハルゆれる	右へすべるガンベリー	カイ	立ちあがりつつふりむく ミハル
				ミハル 「アハッノ(うれしい)カイ むこうからきてくれたよ!」		ミハル 「カイノ 当るよに飛行機を!」	ミハル 「ありっ!」		カイ 「ミハルノ いいかちゃんとやらねえといけないんだぞノ 判ってんのかノ うわ」	ミハル 「こ、これかあ……」		ミハル 「ありっ!」		カイ 「ミハルノ あぶねえぞノ うわっ!」	ミハル 「カタバルトの脇にレバーがあるんだろ!」
															

330	329	328	327	326	325	324	323	322	321	320	319	318
ガンダム	サールをぬく 波ガラス グラブくら	露出オーバーよりノーマ	破片とぶ そのむこうにブーンがい	サールつっこむ	ガンダムの脚をにぎった 手が下から上へ上がる、 それをすりぬけたガン ダム迫ってるのです	ブーン、ランプのビビッ と光ってきえてゆくの がつる	上がるガンダム	ガンダムの足が膝下から 千切れる	爆発 ガンベリーゆっくりとぶ	のりだすカイ	三連射のミサイルつっこ む すぐに火と煙がふき上が	ミハル、ガンベリーの反 対からとんでゆく、ミハ ルの体、ゆったりと回転
		アムロ 「ガンダムの足をき切ったのが 間違いだつたよ。動きやすくし てくれたッ!」	ブーン 「うわっ!」			ブーン 「フフミもう一息で、ン?も う一機のズゴックもやられたの かノ チー!」				カイ 「やったアッ! ミハルっ! やっただぞアッ!」		
												

	342	341	340		339	338		337		336		335		334	333	332	331
	カイ	アムロ	ブライト		カイのむこうにアムロと フラウ	カイ		ハヤト と、セイラをふりむく		立ち止まるブライト		0 ・ L		カイ P A N	ガンダム上る	水柱	沈んでゆくグラブ、 ビカノ
	0 ・ L																
	カイ	アムロ	ブライト		アムロ フラウ	カイ(背中) 「うっ…… うっ……」		ハヤト 「いいえ。知りません。……ね ええ」		ブライト 「ミハルがいなくなっただけ？」 ジョブ 「ええ……ガンベリでカイと 一緒に出撃したらしいんですけど」 ブライト 「誰なんだ？……知っているの か？」			カイ 「おう！ 了解！」	カイ(ON ↓OFF) 「おいミハル！ どうし んだ！ 上ってこいよ ミハル」 フラウ(ON) 「カイさん！ 気をつけて 着陸よ！」			
	「うっ……うっ…… い、いなくなっちゃって……」	「いえ、カイさんの部屋に女 が入るのみてたんですけど、 ……すぐ、敵がきたもので……」	「知っていたのか？」		「密航者だっただんです」												

347	346	345	344	343
「うっ……うっ……」	「なんで死んじゃったんだ！」	ミハル 「あんたと会えてよかったと思 うよ。……。ジルとミリーか い？」 「ハハ……あの子たちなら大丈夫 さ。あたしたちよりずっとうま くやってくれるって……いつま でもこんな世の中じゃないだろ う？ ねえ……カイ」	ひとりたれたずむカイ それとミハルが カイとミハルの出会い P・Iするカイとミハル カイ、ミハル歩む	カイ やや傾いた胃ベースがゆ る



連続テレビ・アニメーション番組

機動戦士 ガンダム UNDAM

鎌倉台本

第29話 「ジャブローに散る」

株式会社 日本サンライズ
〒105 東京都港区芝上4-25-11
大井ビル5階 電話03-5561-1111

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

第29話 ジャブローに散る

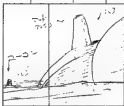
昭和54年10月20日放映

制作スタッフ

●脚本／荒木芳久 ●絵コンテ／斧谷松 ●演出／貞光純也 ●作画監督／安彦良和 ●作画／伊東康・前島和子・戸川俊信・坂野一郎 ●背景／アップル（渡辺毅・渡部孝） ●動画チェック／浜津守 ●仕上／シャフト（三橋曜子・鶴黒裕子） ●特殊効果／土井通明 ●撮影／旭プロ（斎藤秋男） ●編集／鶴洲衣彩 ●現像／東京現像所 ●音響監督／松浦典良 ●効果／松田昭彦 ●監音／日向国雄 ●録音／監音スタジオ ●制作進行／植田益朗 ●設定制作／円井正 ●A・P／神田量

キャストと声優

●阿姆ロ／古谷徹 ●ブライト／鈴置洋孝 ●カイ／古川登志夫 ●フラウ・ボウ／鶴飼るみ子 ●ミライ／白石冬美 ●セイラ／井上瑤 ●ハヤト／鈴木清信 ●マリガン／戸谷公次 ●シャア／池田秀一 ●ウッディ／田中秀幸 ●アントニオ／二又一成 ●ナレ／シモン／永井一郎

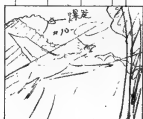
																		S
	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	C
水面のユニコン・マッド	マッド・ファンクラ浮上する	ユニコン浮上する	サブタイトル① 「ジャブローに散る」			Wベイスなめ 南米大陸がみえる						レバーをす	ベリリなめ水面	ミハルかじりつく	ミハルよろける	カイ 正面前をみる ビームくる	ガンベリよける	面 面
			N			N	N	N	N									音 声
			「ジャブローに散る」	「ジャブローに散る」	「ジャブローに散る」	「ジャブローに散る」	「ジャブローに散る」	「ジャブローに散る」	「ジャブローに散る」	「それは、素人ゆえの悲しい出来ごとであったかも知れない」	「しかし、戦火の中に散っていった、その若い生命の事は、決して小さいことではなかった」	「カイ・シデンの深い悲しみを、慰めることなど、誰にもできない」	「ホワイト・ベイスは、南米大陸に入った。地球連邦軍本部、ジャブローへ向うために……」	「ジャブローに散る」				

86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75
うしろ、だーっとカッ	セイラ ベルトしている	カイ ハヤト アムロ 追う	カイと腰をく アムロ、ハヤトみて	アムロ	アムロ ドアを閉じつつ	アムロ Wベースのドックより 建物一杯になる	水面に降下するゾック 水しぶきいっぱいになっ 水中になり、ゾックとゴ ックの編隊すむ	ゾック前進する	ゾックを、噴いて上昇す るゾック	ゴック2機つつこむ	シャア 「果してもらいたい。諸君等の 働きに期待する」
セイラ	セイラ	カイ	アムロ	ハヤト	アムロ ハヤト	アムロ ハヤト					シャア
「さすがにそろいすぎるくらいに、そろっているわね、この「施設」	「オレは、身体強健、精神に異常なしだよ」	「カイさん……」	「いや……脳波やらレントゲンやら、忙しかつたけど……同じだろ？」	「だけど、アムロのは特別長かつたけど、何かあったのかい？」	「ありがとうございました」 「身体検査がこんなに手間のかかるものとはね」 「まったくさ」	「ありがとうございました」 「身体検査がこんなに手間のかかるものとはね」 「まったくさ」					

96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	
アムロ	ウッディ 顔をあげ	アムロ	ウッディ なめアムロ	ウッディ、ホットドッグ 食べながら面をみている 顔をあげて	兵、一人歩く	水柱が上る	魚雷をつらぬく	ビラルターなめ ゾック、ゴックくる ゴック、レーザー撃つ	カッ レッ キッカきて ひよいとこのぞく女医さん	レッツゆく さらにキッカ、 クラウとくる
アムロ	ウッディ	アムロ	ウッディ	ウッディ「おう アムロ君……」	兵士「では……」 ウッディ「頼む」 アムロ（off）「ウッディ大尉」			女医「虫歯はないようね」 キッカ「あ？」	カッ、レッツ「この体のどこが悪いっていうんだ」 ウッディ「そうだ」 キッカ「そうだ」	おれ、ウッディ「どこも悪くない」 セイラ「カッ、レッツ、静かにして」
アムロ	ウッディ「結婚を……？」 「……」 「その時は、ホワイトベ ーの人もシャブローにいるだ ろうから、式には出てもらか うと、マチルダはいって……」 「……」 「そ、そうだったんですか そんなことがあったんですか……」	ウッディ「彼女とは……オデッサ作戦が 終つたら、結婚する予定だった んだ」	アムロ「す、すみません、大尉はマチ ルダ中尉とは」	ウッディ「お休みにならないのですか？」 ウッディ「監督は損な役でね」 アムロ「お手伝いできることがあれば と思つて……」 ウッディ「（きつく）「ジャブローにいる 時ぐらい我々に任せたまえ」						

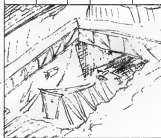
157	156	155	154	
アイ キャブチャイ	ガウの各機からミサイルがとぶ	ミサイルゆき	ジャングルに猛爆	ジャングルに猛爆
アイキャブチャイ	ジャングルに猛爆	ジャングルに猛爆	ジャングルに猛爆	ジャングルに猛爆
アイキャブチャイ	ジャングルに猛爆	ジャングルに猛爆	ジャングルに猛爆	ジャングルに猛爆
アイキャブチャイ	ジャングルに猛爆	ジャングルに猛爆	ジャングルに猛爆	ジャングルに猛爆

CM




153	152	151	150	149	148	147	146
ガウの発進口より、ミサイル連射	ガウ コクピット部	ガウ機隊	警報のなるドック	アントニオ	ジャブロー監視モニターに写る花火	ジャブロー上空	アマゾン フカン
ガウの発進口より、ミサイル連射	ガウ コクピット部	ガウ機隊	警報のなるドック	アントニオ	ジャブロー監視モニターに写る花火	ジャブロー上空	アマゾン フカン
ガウの発進口より、ミサイル連射	ガウ コクピット部	ガウ機隊	警報のなるドック	アントニオ	ジャブロー監視モニターに写る花火	ジャブロー上空	アマゾン フカン
ガウの発進口より、ミサイル連射	ガウ コクピット部	ガウ機隊	警報のなるドック	アントニオ	ジャブロー監視モニターに写る花火	ジャブロー上空	アマゾン フカン

173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158
ブライト	ドック	ジャングルに猛爆	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが
ブライト	ドック	ジャングルに猛爆	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが
ブライト	ドック	ジャングルに猛爆	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが
ブライト	ドック	ジャングルに猛爆	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが	ジャングルのそこが



213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200
グフが下りてくる	ジャンタルの中 ザクと下りる	核爆発の光が揺る ホウガンと下りる	ジャンタルの上空 ザクやられる	降下するドムにビーム 連射 ドンと爆発をおこしてさ がる	グフやられる	降下する ザクやられる	機銃の中 ドップ旋回する	機銃の中 ドップ旋回する	突然、ジャンタルのそこ こから銃弾幕が上る	ミサイルをうつがウの下、 モビルスーツの群が降下 する	ジャンタルのズゴックと二機 のズゴックがつく 手前にはザクも下りる	とび下りるジャンタルのズゴ ック	ジャンタルのズゴックと二機 のズゴックがつく 手前にはザクも下りる
													
												ジャンタル「フフ……フフ……」 シャア「リー・ホワン ジャンタルいく ぜ、はなれるなよ」 リー、ジャンタル（01）「はっ」	

226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214
モニター上 グッパくる つづいて左にも提督Aが くる	ズゴックくる	シャア 正面見る	ズゴックやられる	ジャンタルのズゴックよける むこうにズゴックもぐつ てくる	水中迎撃 ミサイル発射	ハッとするシャア	シャアのズゴックからて 柯に入る	シャア「なめ正面モニター 右に左に流れる」	正面みて ハッとするシャア	ビームをよける シャアの赤いズゴック うしろのズゴックにビー ムあたり爆発	ドム三機 ジャンタル上空をとぶ	グフの足着地する
グッパ 「狙いは宇宙船ドックのあるA ブロックのみ」	アントニオ「28機のモビルスーツが降下 したようです」 グッパ「かなりの大部隊だな」 提督A（背中）「とはいっても、シャア ロー全部を攻撃するに足るは少 なすぎる」	シャア 「ジ・ジャンタルもか、 ええい、先発隊と接触するの が第一だな」					シャア 「ン?」	シャア 「リー・ホワンがやられたか?」 さすがにシャアローだ。何機だ」 モビルスーツが下りられるんだ」 ?				


228	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227
ガンキャノン カイ	フタのふちから爆煙ふきこむ	きあいがある	ハフチのうらに爆煙のい	むこうに、こつちに爆煙	カイ	ガンキャノンとカイ	サンバイザー下すセイラ	アムロ 手袋をいじっている	タンクGブル キャノンでハッチをわた めている	ブライイトふりむいて	提督A、ゴッブ マーカー上 モニターに光点
カイ「来るな！ ジオン奴」				カイ「ミハルの働きも討てねえのかよ。全く……」	カイ「こつちから出てつて目の前に敵がいたんじやあ、合わねえしな……」	セイラ「敵の動きが一切判らない、というの戦いようがないわね……」	アムロ(M)「まいったな。うかつに外に出ては、ジャブローの入口を敵におしえることになるし、このままでは……」		ブライイト「全てのテレビを船外監視用に切りかえろ、これでは斗いようがない。あとで作戦本部に怒鳴りこんでやる」	マーカー「作戦本部からの回線がまるつきり入りません、中絶が……」	提督A「ホワイト・ベースつづられましたな」 ゴッブ「あゝ、永遠にやつかいものかな。ホワイト・ベースは……」 「黒いベース」

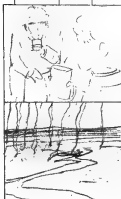
251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240	239
木がふき上る	フカン 壁面爆発	ゴックでる 岩壁で爆発	ゴックなめ 二機岩かげにかくれる ゴボツとのぞくゴック	ズゴックとゾック右へい	シャアうつむいて	シャア一方をみて ボニキニフ カット in	ある ゾックの単眼むこうにま 手がゾックの肩にさわる	二機のゴックがいる	シャア ニヤリとして	染料が流れている	シャア なめ 水中、染料が糸のように流れているのを追っている	赤い染料が流れている ズゴック行く
					シャア 「ふむ……両面でもいい。ここはゴック二機でやらせる。私とボラスニフは上流から侵入するつもりでいい」	シャア 「ボラスニフは500m上流にもう一つ小さいのがあります……」	シャア 「ボラスニフ 首尾はどうなのだ」 ボラスニフ「ハッ！ 爆発をしかけた船であります。突入しますか？」 シャア「いや……正面からか？」 ボラスニフ「他に入口は？」 ボラスニフ「他は入口は？」		シャア 「うん、そこか？」			



266	265	264	263	262	261	260	259	258	257	256	255	254	253	252
ビームをかすめる ガンキャノン ビームにかまわずうつ	ゴック ビームをうつ	ハヤト	ハヤトなめ タンクの砲うつ	爆発の中 ゴック右へゆく	ウッディ 顔をあげ	ふりむくウッディ	ビームが走る ドックの近くである	戦車の脇 ビームゆく	爆風の中 さらにビームが走る	ハッチ内側がやぶれる さらさら	ミサイルをうつ ゴックもビーム砲をうつ	爆煙のふきこむ中 ゴックのシルエツトつこむ	ドッキとするカイ	ハッチの内側へ爆発くる
「ええ、い、やらせるからさ」		「ハヤト 「ホワイト・ベースには近づけ させるものか」			ウッディ 「はっ」	ウッディ 「ジョンの侵入を許したのか? なんていうことを 作業員も防戦にあたらせる」	兵士 「うわーっ! ジョンだー!」						カイ 「きた」	

281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267
光の中のWベース 爆圧でバルカン砲装甲 車 ふつとぶ さからうようにくる 対 モビルスーツ・クラフト 「ファンファン」	ガンダム「GM」 ふつとんできて 核爆発	セイラ	戦車がふきとんでくる	ずつとくるGブル	Gブル ターンしつづ行ぐ		セイラ	セイラ うしろ向き	Gブルよける	ゴックふつとぶ 爆発	ゴックに直撃	ビーム ライフルうつ	カイ	ゴックつづとんでくる
ウッディ「ジョンだ! これは俺たちの ホワイトベースだ」		セイラ 「か、かなりの敵がいるらしい わよ。アムロ」				セイラ 「アムロ」	セイラ 「アムロ」	セイラ 「アムロ」	セイラ 「アムロ」	セイラ 「アムロ」	セイラ 「アムロ」	セイラ 「アムロ」	カイ 「なめるなア」	

385	382	381	380	379C	379B	379A	378	377	376	375	上 ている
アマゾンの上座 そこそこから煙	アマゾンの遠い山 ちて、コービーが散る	すーっとおちるセイラの コップ	見ているセイラ	アマロ ブライト	セイラ ドキッとする	アマロ 口につけていた コップ外して	セイラ ハヤト	ミライなめ カイ	ブリッジの二回	ドックのWベース	
			セイラ 「アムロム off」 「赤いモビルスーツしかみ ていませんが、あれは赤いすい 星のシャアです」	ブライト 「シャアが？ みたのか？」	アマロ 「いえ」	セイラ 「さア……」	ミライ 「男の人って……そんな感じ方 するのよね」	ミライ 「判るわ……」	「はい……僕ら以上にホワイ ト・ベースに愛着があったよう です。そんな気がします」	「ワッディ大尉が死んだのか」 「はい……僕ら以上にホワイ ト・ベースに愛着があったよう です。そんな気がします」	



「シャアが？　みたのか？」
「いえ」

ブライト
アムロ

「？」
セイラ
アムロ（off）「赤いモビルスーツしかみていませんが、あれは赤いです星のシャアです」

セイラ「?」
「off」赤いモビルスーツしかみていませんが、あれは赤い星のシャアです」



連続テレビ・アニメーション番組

機動戦士 ガンダム UNDAM

録音台本

第30話 「小さな防衛線」


株式会社日本サンライズ
〒100 東京都千代田区千代田一丁目11
電話03-5561-7593



名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

第30話 小さな防衛線
昭和54年10月27日放映



制作スタッフ

●脚本/山本優 演出/藤原良二 ●作画監督/安彦良和 ●作画/多賀かず
ひろ・服部卓・英田佳子・栗野川智美・青景ノアイト・ティク・ワン(森
博敬・那須野幸子) ●動画チェック/浜津守 ●仕上/ディーン(五島ミチ
子・柿崎幸日) ●特殊効果/土井通明 ●撮影/旭プロ(平田隆文) ●編集
/島渚友彰 ●現像/東京現像所 ●音響監督/松浦典良 ●効果/松田昭彦 ●
監音/日向国雄 ●録音/登音スタジオ ●制作進行/豊住政弘 ●製作制作/
円井正 ●A・P/神田量
キャスト&声優
●アムロ/古谷徹 ●ブライイト/鈴置洋孝 ●カイ/古川登志夫 ●フラウ・ポ
ウ/鶴岡るみ子 ●ミライ/白石冬美 ●セイラ/井上喜久 ●ハヤト/鈴木清信
●文官/二又一成 ●シャア/池田秀一 ●青見官/加川三起 ●子供A/松岡
洋子
●ナレーター/永井一郎

																		S
	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	C
場面	ジャングルをジュニタン	ジャングルで炸裂する爆	ガウ爆弾投下	ガウ爆弾投下	ジャングル上空、銃火の中ガウ、ドップ行く	浮び上る連邦軍戦車、高射砲 トーチカ	サブタイトル「小さな防衛線」	少年の叫び	少年の叫び	ガンダムとデビル	少年の叫び	少年の叫び	少年の叫び	少年の叫び	少年の叫び	少年の叫び	少年の叫び	画面
音声					S・E 「ドゥーン ドゥーン」	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	N	「北米を突進したガウの編隊はシャア大佐をとらえて地球連邦軍本部、ジャブローを奇襲した。」
映像																		

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20		
アッガイ 降下するゾロと アッガイ	来るゾロとアッガイ 穴の中へと降りる	アッガイ行くと奥に車 三つ鐘く	ふりむくアッガイより T B へび逃げる comes アッガイ	アッガイ、トーチカをた たきつぶす	のぞくアッガン あわてる兵士 A、B	兵士 A、B、だらしなく 定時報告のあと外を見て 驚く	トーチカへ T・U	やられるドップ	ミサイルをよけるフライ マンダ、 機銃うつ	ドップミサイル発射	フライ・マンタ発進		
						<p>兵士 A 「ポイント B-3 ク 現在まで のところ、まったく異常なし、 ジョンの定時爆撃例のごとし」 兵士 C 「off-「了解」 兵士 A 「こんなへんびな所に定時報告 もくそもあるかって」 兵士 B 「ほやくな。ほやくな。あちら さんだつて給料いただくために パトロールやつてんじゃないん あつく」 兵士 A 「どうした。あつく」</p>							

42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32
整列した兵士達の前に 文官キ・ロキ・ロとして	辞令の紙	アムロ紙を見えて	アムロ書類をうけとる そして退る	アムロみている	一歩出るブライトに補佐 官来て辞令の紙され渡す	ジロツと見て文官、整 列した兵士達の前に、整 文官吸ばらい	整列した兵士達	整列した兵士の前 文官、青児官、補佐官	警報鳴りひびく PAN 地下空洞内、連邦軍基 地	降下して行くアッガイ アッガイ
文官「フラウ・ボウ上等兵 おらん カッ・レツ・キツカ(off)「ワ、キヤ フラウ(off)「待ちなさい」	文官「(MONO)こんなものもら はじめて、小学校の卒業証書以来 つんだるう？(何の役に立 たないやろ)	文官(off)「フラウ・ボウ上等兵」	文官「(MONO)こんなものもら はじめて、小学校の卒業証書以来 つんだるう？(何の役に立 たないやろ)	文官「(MONO)こんなものもら はじめて、小学校の卒業証書以来 つんだるう？(何の役に立 たないやろ)	文官「(MONO)こんなものもら はじめて、小学校の卒業証書以来 つんだるう？(何の役に立 たないやろ)	文官「(MONO)こんなものもら はじめて、小学校の卒業証書以来 つんだるう？(何の役に立 たないやろ)	文官「(MONO)こんなものもら はじめて、小学校の卒業証書以来 つんだるう？(何の役に立 たないやろ)	文官「(MONO)こんなものもら はじめて、小学校の卒業証書以来 つんだるう？(何の役に立 たないやろ)	文官「(MONO)こんなものもら はじめて、小学校の卒業証書以来 つんだるう？(何の役に立 たないやろ)	文官「(MONO)こんなものもら はじめて、小学校の卒業証書以来 つんだるう？(何の役に立 たないやろ)

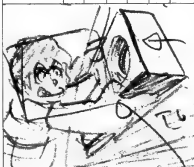
78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66
走り行くシャア連五人	シャア爆弾をとっていく 追う兵士連	兵士連、姿勢を直す 赤鼻ものりだして	シャア立ち止まる、赤鼻、 爆弾をハッチより とりだしている 荷を降ろす赤鼻の処へ来 るシャア、来る兵士連	ハッチ着地すると兵士、 左右へ行く	降りていくシャアの ハッチと赤鼻のハッチ 降りる	シャアあたりを見廻して	片ひざついた格好をとる シャアのハッチ開いて 出て来るシャア	アッガイら来てとまる	高速道路の下、身をかく しつづけるシャア、ア ッガイ	フラウ	アムロ	「でも」 「小さい子が人の殺し合いみる の……いけないよ」
	シャア「よし、いくぞ」	兵士連「ハッ、ハッ」 赤鼻「シャア大佐、準備出来まし た」	シャア「よし、いくぞ」 兵士連「ハッ、ハッ」 赤鼻「シャア大佐、準備出来まし た」							フラウ「……そうかもね……」	アムロ	

89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79
子供A前を向くと殴る レッ	悲し気になるキッカ レッあわててのりだし	子供Aなめカッ、レッ、 キッカ	シーンと明るい育児室	子供Aしゃがむ、 来るカッ	カッ、レッ一勢にみる	子供A	来るロボットからジュ キスをうけ取るカッ、レッ キッカも来て	カッ・レッ・キッカ(背中より)「ワ ッ、ハッ、ハッ」	カッ・レッ・キッカ「キャッ、 キャッ」	速くアッガイやコ 手前来るシャア連五人
少年A 「うわっ、こいっ」 小年A	少年A 「だつて、怪けたちの集しみつ がないよ」 「うわっ、こいっ」	子供A 「今ね、戦争だよ」 「関係ないよ、ここでじつとし ていればお父様とお母様は一週 間に一度、会いにきてくれるし さ。それだけが……」	少年A 「ザーっ、こんな地獄いたら、み んな、こうなるよ」	子供A 「昔はいい大人が……」 「だけど、そ んなの大人を喜ばせるだけだよ」 カッ(背中)「お前、可愛いくないね」 「ザーっ、こんな地獄いたら、み んな、こうなるよ」	子供A 「ア？」 「子供が無邪気じゃいけないの かよ」 「タタタ……」	子供A 「無邪気なもんだなみんな」	ロボット(off)「ジュース、ジュース おいしいジュース」 カッ・レッ「うわっ、うわっ」 キッカ「あたいはソフトクリーム」	カッ・レッ・キッカ(背中より)「ワ ッ、ハッ、ハッ」	カッ・レッ・キッカ「キャッ、 キャッ」	速くアッガイやコ 手前来るシャア連五人

126	125	124	123	122	121	120	119	118	117
来るカツ、レッツ、キツカ	伏した二人なめ、来るカツ、レッツ、キツカへT・U	作業員Aのところへラジウム来てキ・ロキ・ロハツとなり伏せる二人	走る人影	爆弾セツトする手	ドアの中に入つて行くカツ、レッツ、キツカ	カツとキツカ	走り来るレッツ、カツ、キツカ キツカころぶ	走るカツ、レッツ、キツカ	カツ、レッツ、ギツカ 走り来る
キツカ 「あつ、みて、ガンダム」	キツカ 「あつ、みて、ガンダム」	ラムジ 「あつ、みて、ガンダム」	ラムジ 「あつ、みて、ガンダム」	ラムジ 「あつ、みて、ガンダム」	ラムジ 「あつ、みて、ガンダム」	ラムジ 「あつ、みて、ガンダム」	ラムジ 「あつ、みて、ガンダム」	ラムジ 「あつ、みて、ガンダム」	ラムジ 「あつ、みて、ガンダム」
「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」

137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127
カツ、レッツ、キツカ、身をよせ合う	逃げるカツ、レッツ、キツカの前に立ちはだかるラムジ	作業員AよりT・B	驚くカツ、レッツ、キツカ	カツ、レッツ、キツカの前にくる黒い影	おびえるキツカ レッツ、カツ走り行く	ガンダム・タイプの足もと	おびえるキツカ	ガンダム・タイプより PAN・DOWN 黒い影動く	??となるカツ、レッツ、キツカ	カツ、レッツ、キツカより PAN・UP PAN・タイプ（GM）
カツ、レッツ、キツカ、身をよせ合う	逃げるカツ、レッツ、キツカの前に立ちはだかるラムジ	作業員AよりT・B	驚くカツ、レッツ、キツカ	カツ、レッツ、キツカの前にくる黒い影	おびえるキツカ レッツ、カツ走り行く	ガンダム・タイプの足もと	おびえるキツカ	ガンダム・タイプより PAN・DOWN 黒い影動く	??となるカツ、レッツ、キツカ	カツ、レッツ、キツカより PAN・UP PAN・タイプ（GM）
「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」	「あつ、みて、ガンダム」


182	181	180	179	176	174	173	172	171	170	169	168	162	161	160
エンジンのキーをまわす レッツの手	工場見えて来る	走るバギー	カッ、レッツ カッ、レッツ左を見る 爆弾をかかえたキッカ	カッ・レッツ「ハア、フッ キッカ早く……」	カッ・レッツ「ハア、フッ キッカ早く……」	カッ・レッツ「ハア、フッ キッカ早く……」	カッ・レッツ「ハア、フッ キッカ早く……」	カッ・レッツ「ハア、フッ キッカ早く……」	カッ・レッツ「ハア、フッ キッカ早く……」	カッ・レッツ「ハア、フッ キッカ早く……」	カッ・レッツ「ハア、フッ キッカ早く……」	カッ・レッツ「ハア、フッ キッカ早く……」	カッ・レッツ「ハア、フッ キッカ早く……」	カッ・レッツ「ハア、フッ キッカ早く……」
レッツ「だ、……ためだよ、どこにもないよ。このままじゃドカーンだぞ！」	レッツ「い……いやだよ。ど、どうしよう！」	レッツ「う……」	レッツ「う……」	レッツ「う……」	レッツ「う……」	レッツ「う……」	レッツ「う……」	レッツ「う……」	レッツ「う……」	レッツ「う……」	レッツ「う……」	レッツ「う……」	レッツ「う……」	レッツ「う……」
「だ、……ためだよ、どこにもないよ。このままじゃドカーンだぞ！」	「い……いやだよ。ど、どうしよう！」	「う……」	「う……」	「う……」	「う……」	「う……」	「う……」	「う……」	「う……」	「う……」	「う……」	「う……」	「う……」	「う……」

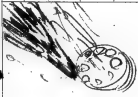


196	195	194	193B	193A	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183
バギー上のアムロ、 ハヤト、カイ	バギー行く	接近する二台のバギー	アムロ遠驚く	壁をつき破って行く バギー	壁より出て来るバギー	前を見るカッ、レッツ、 キッカ	前進するバギー	のけぞるカッ、レッツ、 キッカ	後退するバギー	車輪勢いよくまわり だし	カッ、レッツ、キッカ	キーまわすレッツの手 エンジンかかる	行くアムロたちのバギー	カッ、レッツ、キッカ
アムロ「カッ、レッツたちの声？」 ハヤト「な、なんで、こんな処にいるんだ？」 アムロ「追いかけるんだ！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」	カッ・レッツ・キッカ「うわー！」 カッ・レッツ・キッカ「キヤー！」
「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」	「は、はやくしろよ」 「やつ、やつてんだけどかからないだよ」 「でも、本当に動かし方しってんの?！」




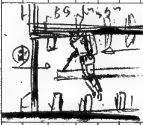
197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208
バギーへT・U	バギーに追いつくバギー	ならぶアムロとカツ、レツ、キツカ	カイのりだす 爆弾よりT・B カイ		アムロ身をのりだしながら	アムロ、バギーからバギーへとびうつる	アムロ、レツと運転をかわり	キツカ、レツ、カツなめカイ	カイ、レツの手を把つてひつぱりこむ	カイ、レツをイスにすわらせて	カイ、キツカをつかむ
ハヤト「う、うん！」	アムロ(off)「車をとめるすだノカツノ、とめろノ！」 キツカ「アムロ兄ちゃんノ！」	アムロ「一体、何をしているんだノこんな奴……」 キツカ「ジョンが、ば、爆弾をしかけたの、すてにいくのノ！」	カイ「爆弾？」	カイ(背中)「う……… こ、こいつ……」 爆弾だ」	アムロ「どこにあつたんだノ！」	キツカ「ガンダム工場中なのよノ！」	アムロ「さあレツ、あとはまかせて、向うの車にのるんだ。はやく」 レツ「う……うん」 アムロ「カイさん、子供達をそちらの車へゆかりなせよ、まじ！」	カイ「まかせてつけて。……… 前からだ。……… よし、レツ、お	レツ「う……うん」 「いいか、こわくないぞ、せいの、ほれ」 「うわっ」	カイ「ほうら、大丈夫だるう！」	カイ「そらつぎはキツカちゃんだ。ほれ」 「キツカ」

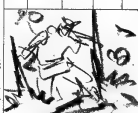
224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	
身をおこすアムロ	ハヤト、カイ よろこぶカズ、レス、キツカ	アムロ顔上げるT・U		道の向こうよりのぼる爆煙手前、ジープとアムロいる	爆発するバギー	落下するバギー	来るバギーよりとびおりるアムロ	アムロ	カーブへT・U	絶壁よりPAN バギー来る	時限爆弾	バギー上のハヤト、カイ、カズ、レツ、キツカ	時限爆弾		カズを座らせるカイ	今使はカズをつかまえ ひっぱりこむ
アムロ 「ホワイトベースが危い これを仕掛けた連中は、おそらく ホワイトベースも狙ってくる	カズ、レツ、キツカ「やったい」 ワイワイハハハ……」											アムロ 「ありがとうございます。カイ	カイ 「さあつぎだ。それれ」 「うわっく」	カイ 「よし、上出来だく」 アムロ 「いぞ」		

238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	
連邦軍監視所	爆発	ミサイルうつアッガイ	戦車を襲うアッガイのビル	三機のアッガイが右手のミサイルをうつている	戦車、トレーラーをふきとばす アッガイの腕	右腕がのびるアッガイ	道路に命中のバルカン	立ちあがるアッガイバルカンうつ	行くシャア連銃火追う	岩かけのシャア連	銃火かわして岩かけにくれるシャアたち	ドッグ下、作業員とシャア連 銃火の中	Wベースのドッグ下へT U	
										シャア 「フー、フフ……ラムジの方は派手にやつたようだな。」 イワノフ「お、は、はい。シャア大佐」 シャア「こちらは失敗した。アッガイを出して注意をそらしてくれ」 イワノフ「わかりました」 シャア「行くぞク」				ぞ
<p>北軍は、シャア連の基地を襲った。シャア連は、基地を襲った。シャア連は、基地を襲った。</p>														

256	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240	239	
岩の上、シャア	セイラよりPAN・UP	シャアとセイラ出会う	シャアふつとほほえみ	見上げるセイラ	止まるセイラふり向く	くるシャア	岩かげより出るセイラ	走るシャア、みる	走るシャア	兵士行く、シャア行く	シャア、岩のむこうへと びこんでゆく	走るシャア連	アムロ	アムロ、カイ、ハヤト連	走るバギー	十字砲火の中、アッガイ	戦車、砲撃しつつすすむ	
		シャア「……／やはり」				シャア「……／ア／アルティマ……」	セイラ「カッ／レッ／キッカー／」	ミライ（off off）「カッ／レッ／」 フラーウ（off off）「キッカー／」	ミライ（off off）「カッ／レッ／」 フラーウ（off off）「カッ／レッ／」 セイラ（off off）「カッ／レッ／」	セイラ（off off）「カッ／レッ／」 フラーウ（off off）「カッ／レッ／」			アムロ「あれは？」	カイ「あれでキヤがつたな」 ハヤト「モビルスーツがでてきたんで すよ」 アムロ「ン？」			戦車、砲撃しつつすすむ	

270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	259	258	257
うつつ六輪車 手前に来る戦車	シャア、ハッチの中に消えるやPAN・UP、 立ち上がる	シャア、ハッチにのる	シャアのそこへ来る シャア達	ミライけんそうに ミライけん	ミライなめ、 セイラとほける	ミライ、え?!となり	セイラ、足音にはつとし ミライくる	セイラ、足音にはつとし ミライくる	セイラ、足音にはつとし ミライくる	セイラ、ミライをみる シャアゆく A・C	ミライ拳銃をうっている	シャア	口を半開きにするセイラ
				ミライ	セイラ	ミライ	セイラ	セイラ	セイラ	シャア	ミライ (off)「セイラ、いるの! 答えて!」	シャア	セイラ
				「ミライ?」	「ど、ごめん……じゃ、むこうに いかない方がいいかしら」	「いたの? つて、この岩の上に ジオンの士官が……気がつか なかったの?」	「どこにいるの、キャッ!」 「セイラ!」 「あ、あ!」今の銃声なに?! ジオン兵でもいたの!	「どこにいるの、キャッ!」 「セイラ!」 「あ、あ!」今の銃声なに?! ジオン兵でもいたの!	「どこにいるの、キャッ!」 「セイラ!」 「あ、あ!」今の銃声なに?! ジオン兵でもいたの!	「いいな!」 「兄さん!」		「軍から身をひいてくれない か? アルティシア!」	「……! (思!) ま、まさ か、ジオン軍に入っているな んて、やさしいキャスベ ル兄さんなら……!」
													

285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271
むこう、ブランコするア ッガイ、ガンダムくる	ブランコして行くアッガ イ、シャア	アムロ	走るガンダム	着地するガンダム、走る	着地、ジャンプして行く ガンダム	行くガンダム	ガンダム方向転換	ガンダム発進	アムロにGかかる	走るアッガイ、ブラン コして行くアッガイ	天井の岩につめをひつか けぶらんとして奥へ行く、 アッガイ	つづいてアッガイ腕を伸 ばす	アッガイ、アッガイのま わりで爆発する銃火。 PAN・UP 赤鼻、シャア CUT・ inして	射つ戦車、アッガイと アッガイのまわりを襲う アッガイ、アッガイのま わりで爆発する銃火。 PAN・UP 赤鼻、シャア CUT・ inして
		アムロ							アムロ				赤鼻	赤鼻
		「逃がすものか、四機や五機の モビルスーツなぞ!」							「いきまーす!」				「シャア大佐」 「かまうな、全員脱出する。作 戦が失敗となれば、直ちに撤退 だ! いいな!」	「シャア大佐」 「かまうな、全員脱出する。作 戦が失敗となれば、直ちに撤退 だ! いいな!」
														

336	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327	326	325	324	323	322
アムロ	育児官	カツ、レツ、キツカ、フラウなめカイ	育児官	ドッグの見える所より T.B.アムロ アムロ	水の中ゆくジヤカ、 水の中、来るジヤカ、 水の中ゆくジヤカ、 水の中、来るジヤカ、		地下水脈 P.A.N.	アムロ左右みて	アムロなめ洞くつ内 ガンダム・コクビット	煙はれてゆく ガンダム、キョロキョロ	ゆれるアムロ	ガンダムに落ちる瓦礫	天井の壁に直撃 くずれ落ちる瓦礫	ガンダムのまわりで炸裂する	ミサイルうつ	アムロ
アムロ	育児官	カイ フラウ	育児官	「あなたがたの気持は分かるわ。でも……ここにいれば安全であることはまちがいない。それに子供達は連邦軍の未来を背負う者として大切に育てられるんですよ」				「シ、シヤアのことだ……こ、このすきに逃げたな」			アムロ					アムロ
「それに……連邦軍の未来……つて、ジオンも連邦軍もない世界だつて、」	「それ……それは……」	「今日みたいなきことがあつても「それに、私……」									「うう……ま……ま……」					「シ」

349	348	347	346	345	344	343	342	341	340	339
沈痛なブライト	作戦会議室 O.L. ブライト以下、各艦長が	喜ぶアムロ、キツカ、カツ、レツ、フラウ達より セイラひとり振しそ。	ミライも目をふいて	カイとアムロ	バツと明るくなるフラウとチビたち	育児官	キリッとしたチビ達、フラウ	育児官	カイ	詰まる育児官
		「ハハハ、よかつたね」 「これからもケンカ出来るな」 「そうそう」 「その頃、地球連邦軍は、シャアのゲリラ攻撃等の理由によつて宇宙戦略を急ぐ事と決定した。提督たちは考えたのである。ホワイトベースの実力を、ジオンも、これは困りとして絶好である……」			フラウ「……じゃあ……じゃあ」 カツ・レツ「よかつたよかつたね、みんな」 カツ・レツ・キツカ「ビヤホー、ビヤホー」	育児官 「……そ、そうかも知れないわね。……手続きは、私がな……んとかしてみます」		育児官 「で……でも……」	カイ 「うちのチビ達はね、そんじょ……何だかどうと違ふのよ。今迄、俺達と一緒にぐり抜けて戦って来たんだぜ。大人のあんたにだつて想像のつかない地獄をね。このちつこい目でしつかり見て来んだよ。わかつて、俺達と離れたくないんだよ。な……」 カツ・レツ・キツカ「うんく」	「来るかも知れないでしょう。そんな風に御考えになれませんか」

ブライト、ふつと目を開いて
F・O

ブライト「第十三独立部隊というのは……
……砲り専門ということなので
すか。」

……………第三十話・おわり……………



G 機動戦士
ガンダム
UNDAM
録音台本

第31話 「ザンジバル、追撃！」

制作 名古屋テレビ
創通エージェンシー
日本サンライズ

昭和54年11月3日放映

●脚本／星博之／絵コンテ／斧谷稔／演出／又野弘／作画監督／安彦良和／作画／青鉢芳信、広岡光昭、前島和子、戸川俊信／背景／アッパル（渡辺朝枝・渡部幸）／動画／チェック／浜津孝／仕上／シャット（森山政久、千葉澄生）／特殊効果／土井通明／撮影／旭プロ（斉藤秋男）／編集／鶴淵友彰／現像／東京現像所／音響監督／松浦典良／効果／松田昭彦／聲音洲友彰／演出助監督／森音スタジオ／制作進行／草川忠良／設定制作／円井正・A・P／神田量

キヤストと声優
●アムロ／古谷徹 ●ブライト／鈴置洋孝 ●カイ／古川登志夫 ●フラウ・ポ
ウ／鶴岡るみ子 ●セイラ／井上瑞 ●ハヤト／鈴木清信 ●シヤア／津田秀一
●スレッガー／玄田哲章 ●トクワン／政宗一成
●ナレーター／永井一郎

8	面	面	音	1声
0	1	2	3	4
1	2	3	4	5
2	3	4	5	6
3	4	5	6	7
4	5	6	7	8
5	6	7	8	9
6	7	8	9	10
7	8	9	10	11
8	9	10	11	12
9	10	11	12	13
10	11	12	13	14
11	12	13	14	15
12	13	14	15	16
13	14	15	16	17
14	15	16	17	18
15	16	17	18	19
16	17	18	19	20

「不敵にもシャアは、地球連邦軍本部ジャブローに潜入した。しかし、カズ、レツ、キッカの活躍とガンダムの追撃の前に、シャアは、撤退せざるを得なかった。」

N
「シ、シャアの奴！」

N
「サンジバル、通報！」

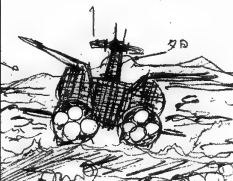
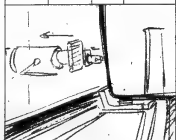
ゴッブ
「ティアナム艦隊は、二一時に、ここジャブローを発進する。そこで、君たちホワイトベースは、その二時間前に発進してくれたまえ！」

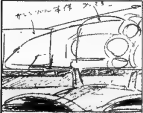
ブライト「二時間も前に？ でありますか？」

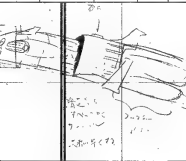
26	25	24	23	22	21	20	19	18	17
ブライト、フライとFr。 ミライ、フライとを	と、右へFr・O	ちよっと困るミライ	書類をとって立ち上りつ	敬礼をしながら、ミライ	三人の提督も軽く敬礼をする	ガタンと立つブライト、ミライ二人、敬礼する	ゴッブふりむいている (矢印で) (赤印) 29-26に合せる と、カメラPAN 矢印で (Wメリ)	二人、顔を見合わせる またみる	ノートをのぞきこんでいる。から顔をあげずぐ、またノートをみる
ミライ	ゴッブ	ミライ	ゴッブ	ミライ	ゴッブ	ブライト	ゴッブ	ブライト	ゴッブ
「い、いえ……」	「あゝ。……フィアンセがいた っけかな？ すまん、すまん」	「え？ え……」	「大丈夫、ソロモンがあられば、 国力のないジオンは和平交渉を もちかけてくるよ。そして、戦 争はおしまいだ。それなら、あ んたのムコさんの面倒をみさせ てくれ」	「ありがとうございます。提督」	「ミライ少尉も体には気をつけ てな」	「ハッ！ ホワイ・ベース、 本日、十九時をもって発進致し ます」	「ティアンム艦隊はまっすぐ ルナツーに向かわせるから、ホワ イトベースは反対の人工衛星軌 道にのってゆく。 そのあとで、ジオンの宇宙要塞 ソロモンを叩きにくというわ けだ」	「……」	「そうだ。 主力艦隊の進路を監視する者 はわかれはいいかん、それに、 私は第十三独立部隊の第一の 指揮官が…… あ、四り艦は、他に3隻出す」

35B	35A	34	33	32	31	30	29	28	27
ブライト、ふりむいて	カイ、ヒコキーを折って をい、よつと略式の礼 をして	ブライト、みて	カイ、接続メカネをして スレッガー、声かける	ブライト、おりて	バギー入ってFr・Oヒ コキーおってる アムロ	スレッガーのむこうバギ ーゆく	スレッガーのむこうバギ ーゆく	ミライ ブライト ミライ ミライ、ふつと目を閉じ て、ブライト、ミライを みる フロー	追いかけてようとする 走るバギー車
ブライト「ミライ。きいているか？」	スレッガー「スレッガー・ロウ中尉だ。 今日づけて、こっちに転属にな った」	ブライト「ン？ なんです？」	スレッガー「よお、ホワイ・ベース 隊の責任者は誰だい」 スレッガー「どこにいらんだよ」 カイ「ブライトさん、お呼びだぜ」	ブライト「ホワイ・ベースは一時閉店 にここを出発する。それまでに、 準備をいそげ」	カイ「おかえり」			ミライ 「フィアンセといっただって、親 同士の話よ」 ブライト「どこにいらんか？」 ミライ「戦争を避けるためにサイド6 に逃げたとか……くるべきもの が、きたってかんじね」 ブライト「あゝ……」	

43	42	41	40	39	38	37	36		
ジョブ、知らぬ顔をして スレッガー、ククッと笑 っている、正面をみる	カツ、レツ、キツカ	並んでいる一同	スクリーンに写るゴッブ	ドスンとベツトにザツク を投げ出すスレッガー、 左右みて アムロに向かって何かし スレッガー	スレイラ?、ふりむいて スレッガーの前、すつと ゆくヒコキ	セイラの方をむいて	セイラ?、ふりむいて スレッガーの前、すつと ゆくヒコキ	ミライ と、ファイルを見て スレッガー、いして ミライ、ムッとしながら 手を出すスレッガー、ブ イ、横をむくミライ	ミライ 「え?」 「あ、あります」 スレッガー「ハハ、おれもついできた な。こんなきれいなお嬢さんと 御一緒できるなんて」 ミライ「よろしく。ミライ・ヤシマで す」 スレッガー「よろしく」
スレッガー「フフ……」 「さて、 いよいよ、発進だノ 各員、持 ち場に付ケ」	カツ 「体の大きいとこなんか、死ん だリユウさんそっくりだ」 「リユウみたくにやさしいかな」 「お調子もんならしいぜ」	カツ 「体大きいとこなんか、死ん だリユウさんそっくりだ」 「リユウみたくにやさしいかな」 「お調子もんならしいぜ」	ゴッブ「(直)」「大いなる斗いの第一歩は、 諸君らの勇気ある行動にかかっ ている」 この斗いに我連邦軍が勝利した 瞬間は、今日という日は、 偉大なる一日として国民に記憶さ れるであろう。全将兵の健斗を 祈る次第である」	ゴッブ「(直)」「大いなる斗いの第一歩は、 諸君らの勇気ある行動にかかっ ている」 この斗いに我連邦軍が勝利した 瞬間は、今日という日は、 偉大なる一日として国民に記憶さ れるであろう。全将兵の健斗を 祈る次第である」	スレッガー「ハハ……」 スレッガー「よろしく、お嬢さん」 セイラ「セイラ・マスです」 スレッガー「(背中)」「フーン。あんた男 の人のことと悩んでいる相がで ているよ」 セイラ「え?」 スレッガー「ハハ……よノ 俺の寝ぐら どこ?」	セイラ「え?」 スレッガー「ハハ……よノ 俺の寝ぐら どこ?」	セイラ「え?」 スレッガー「ハハ……よノ 俺の寝ぐら どこ?」	セイラ「え?」 スレッガー「ハハ……よノ 俺の寝ぐら どこ?」	セイラ「え?」 スレッガー「ハハ……よノ 俺の寝ぐら どこ?」

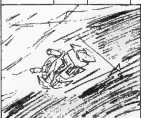
54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	
手前、コンドルがババツととび上る。ジャングルの開から上昇してゆくWベース。	Wベースの下、密林の中に、洞窟への入口が暗くみえる。	手前、コンドルがババツととび上る。ジャングルの開から上昇してゆくWベース。	空は、夕焼けがすどい。浮上をはじめたWベースが上昇してゆく。	管制室の兵セリフ終ると天井のハッチ開く。夕日があかい。	点々とレールの中央につながる誘導塔、せり上ってゆくW・ベース(ヒキ)。	Wベースの上を移動してゆく。	Wベース、レールの上を移動する。	手前にひっこむドッキング・ロツク。ゆっくりと移動しはじめる、Wベース。	ひっこんでゆく、ドッキング・ロツク。	ブライト、ふりむいて「ドッキング・ロツク解除ノ」 ホワイト・ベース発進するノ」	
				兵 A 「上空クリアーノ ハッチ開け」							


63	62	61	60	59	58	57	56	55
カメラ前、巨大な炎、あつて ボムッ、ゆくザンジバル (ゆつたり)	手前にマッド・アングラ ーが浮いている(T・B) ザンジバル、ブースター つきで待機 ゴォー ンノ ロケッ ト出る	ハッチの所で、シャア と、Pr・O	トクワン	敬礼しているトクワン、 シャアつづいてマリガン がゆく トクワン、敬礼おろしつ	ザザアと通りすぎる フラミンゴ、その上に Wベース ドゥ ン さらけ 巨大な噴煙を残してWベ ース早くなる	叫ぶミライ、一同みている ブライト受話器にどなっ ている セイラもいる	フラミンゴとぶノ 大群、 フォロー	キッカ 「うわぁーノ トイダァー カッ 「きれーっノ」
		シャア「急げ」	シャア(背中)「木馬はどうなっている かノ トクワン大尉」 トクワン「ハッノ 南米の、 ジャブローは降進したようであ ります」 シャア(off)「よし」			ミライ「うわーっノ」 ブライト「手のあいている者は左手を見 ろノ フラミンゴの群だノ」 「ビデオに撮っておきますノ」 「許可するぞノ」		


74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64
トクワン シャア立ち上り	cut 虎正面みる	シャア、正面みて	トクワンなめシャア	点線cut・in、新しい点線 と点が加わり、二つの点線 同時に数字が二つcut・in する	ブースターふきとんでゆ く ザンジバルへT・U	ブースターのロケットき える 外に点火する火花あつて 外れてゆくブースター	正面にする	ザンジバルの炎がゆく ブリッパくすかにブレ	滑走台からとび上ってゆ くザンジバル(さらに早 くする)	滑走台をすべってゆくザ ンジバル、次第に早くす る
トクワン シャア「うむ。みせて貰おうか。作戦	トクワン 「ごらんになりますか? ビグ ロを?」	シャア 「我ながらそうは思ひや。この ザンジバルが、ビグロの実戦テ ストの準備をして、いなければ、 木馬は追いきれなかった」 トクワン (off)「大佐」	トクワン「三十分程で戦斗圏内に入れま す」 シャア「ごころうだった。キシリア殿 は、お怒りだったろうな?」 トクワン「はア……」							



131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	
アムロ、スコープ合せる	Wベース上昇する。三連射のビームがゆく。後方ミサイルうつホワイト・ベース	てり返りうける	主翼をかすめるビーム	ミライ、ハンドルまわす	ビームゆく	宇宙空間、キラノブリンとビームくるノ	セイラ 正面みて	コアファイターコクピット アムロ	右へFr・OしてゆくセイラのGFブル	アムロ	Gブル・イージー、Gスカイの後方につく フキ	カメラP・Uして、Fr・IするGブル (フキ)
アムロ 「来たなノ」		ミライ 「うっ」		ブライト「回避運動いそげノ 後方ミサイル迎撃いそげノ」			セイラ 「ありがとうノ 気をつけるわ」	アムロ 「気を付けて下さいノ スビードをあげると、重力にびっばらされて落下します。たえず、上昇する気分で飛行して下さい」	セイラ (直)「了解ノ」	アムロ 「セイラさんノ もっと離れて下さい。このまま直撃を受けたら2機ともやられてしまいます」		

148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132
GビドロにひっかけられたGブルへT・U フォロ	ツメが楯に激突してFr・O、ひっかかり全体	cutT・U cut民左にむく	ビームうつGブル	スーパードでせまるビドロ	カチャーンと下りるつめ	cut・inするかんじのビドロ cut・out くるノ ビドロ (スーパード)	セイラ	キューンゆく、ビドロ	バウノ Gブルのビーム	風防なめ、くるビドロ	ギョッとするセイラ	早い、行く、ビドロ	ビドロがキューンとくる	アムロ T・U	アムロ リック・ドムと	スコープの中の三つの点へT・U
						トクワン「このビドロのスピードを上げられるかも？」	セイラ「は、早いノ」				セイラ「あ」			アムロ「ようし……いただくぞ。ン」		
						<p>133より 右つーへ</p>										

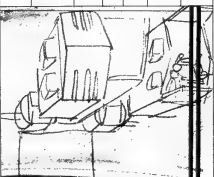
160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	1
スレッガーうつる	受話器をとり	Gスカイ降下する (Fr. I ↓ Fr. O) リック・ドム追って、バズをうつ	アムロ	Gブル・イージー間ケツ的にロケットが降下する (スーパード・B)	ベタルふむセイラの足 (フレ)	Gブル、地球の夜の部分 (おちてゆく) (スーパード)	T・B ブレ	ずんと下にGがかかる	ビクンと指をあげる	チーンと砲身から粒子がでるが……	セイラ	「な、なんてパワーなの、け、けど、ひっかけ方が悪かったわ。ビーム砲……」
スレッガー「おう、なんだ!! プリッジのすぐ下にいるぞ」	マーカー「モビル・スーツは三機です。ガンキャノンも出して下さい」 ブライト「よし、カインにガンキャノンを発進させろ」 スレッガー「中尉はどこだろ」		アムロ 「だ、だめだ、セイラさん、上昇するんです」				セイラ 「あ——」		セイラ 「ま、まさか……このモビル・アーマー。兄さんがパイロットだなんて……」		セイラ	

170	169	168	167	166	165			164	163	162	161
Wベースのまわりビームとぶ、至近弾が爆発する (フオロー)	主砲もうつ (フオロー)	ビーム砲、エネルギーたまるやがウノ	照り返し、きえてゆくシヤア	ザンジバル、スレスレにくるミサイル、4本ぐら	アイキャッチャー	Wベース、ミサイルうつ	アイキャッチャー	モニターのスレッガー ブーン、ときえる	ブライト	スレッガー	ブライト
			シャア 「いいかあと十五秒だけ攻撃しろ、これ以上の砲撃は、味方のモビル・スーツを撃ちかちすことになるかもしれん」					スレッガー「じゃあ、やらねえ。当てる自信がねえからよ」	スレッガー「条件がある」 ブライト「(or) 条件?」 スレッガー「ホワイド・ベースを敵に向けてくれ、慣性飛行をしているからできるはずだ」 ブライト「しかし、それでは追いつかれる」	スレッガー「条件がある」 ブライト「(or) 条件?」 スレッガー「ホワイド・ベースを敵に向けてくれ、慣性飛行をしているからできるはずだ」 ブライト「しかし、それでは追いつかれる」	スレッガー「(or) 条件?」 「大砲でも戦斗機でもいいぞ」 「主砲の方に回っていただけませんか? 中尉」

206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	192	191
セイラ T・U	ドムくる	はつと身をひくアムロ	ゴンドラでせまるビグロ	と、画面全体右下へか るかんじで	よけるビグロ	腹のミサイル、ボットか らミサイルでる 発射ノ	アプターバーナー目一杯 遠ざかる	P・U ふりこみ (アム ロわめいている)	すべりこむが、アプター バーナーの炎すごい (ヒ キ)	トクワン、はつとして下 をみる	爆発の散る中、降下した Gスカイが アプターバーナーをふい てFr・O	アムロ	うしろからミサイル ドローン、Gスカイ前へ よるける	アムロ	ミサイルつつこむ
セイラ 「あー!!」		アムロ 「うー」		トクワン 「よくやるぞ、 わりこんでいったら、落ちる かも知れねえってのによ しノ」				アムロ 「いくぞオー」		トクワン 「下へまわりこんだのか？」		アムロ 「うわーっ」		アムロ 「このオー」	
															

218	217	216	215	214	213	212	211	210	209	208	207
スレッガーなめブライト	手すりの処で	ブライト T・U	立ち上るハヤト、手前オ ムル	ブライト受話器をとって	ガンキャノンゆく	ガンキャノン発進、ゆく	戦斗服のカイ、モニター に写る パフとモニターをえる	マーカー	ドム、単眼がせわしく動 く (笑っているみたいだ ノ)	別のリックドム、右上に よける ビームゆく	ビームうつ
ブライト 「某軍艦の射撃の音も、主砲 の射撃をやって貰いたいものだ な。自衛隊あるのだから」	スレッガー「クク……。 いいねえ。ブライト中尉。あん たはいい」	ブライト「ホワイト・ベース百八十度回 ミライ (右)」「はい」 ブライト「対艦砲撃用」意ノ	オムル 「了解しました。ハヤトには伝 えます」	ブライト「ガンタンタは、発進口にしる 砲台として使う予定だノ いい」		ガンキャノン発進、ゆく	ブライト「(背中) カイノ 何している んだ」 「オーライ」いろいろあって ね、カタバルト、オーケーよ」 ブライト「(背中)」「アムロ、セイラを援 護してくれ」 「了解、いけますよ」	マーカー「敵3機のうちの1機は、モビ ル・アーチャークラスのようにです。 ガンキャノン発進急がせて下さ い」	 C-146		


253	252	251	250	249	248	247	246	245	244	243	
ドム、うつ (フォロー)	下半身が外れるノ (フォロー)	アムロ	くる、リフク・ドム	テラッと正面から右をみて アムロcut・inして セイラ右をみて ここでアムロcut・out	アムロを左上モニターにセイラうつる	Gブルのシリにつこむ下半身	すべりこんでゆくGスカイF・Oして Gブル・イージーのうしろへ入りこむ、Gスカイの出来そこない	アムロ	Gのかかるセイラ	Gブルのすぐうしろで爆発がおこる 前へふきとばされるGブル	発射 (4発少しづつずれる)
		アムロ・「了解ノ」		セイラ 「アムロ、あのモビル・アーマーのバレット、どういう人だと思ってる」 アムロ 「え? なぜですか?」 セイラ 「アン? ううん、いいのよ。アムロ! ドムが来たわ、いそいで!」 アムロ (off) 「はい」	アムロ (背中) 「セイラさん、大丈夫ですか?」 セイラ (えい) 「アムロ、急いでね」			アムロ 「減速したノ、よし、ドッキングに入るノ、セイラさん、たのみます」	セイラ 「うっ」		
											

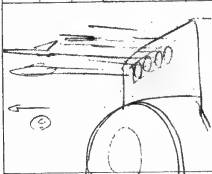
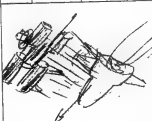
267	266	265	264	263	262	261	260	259	258	257	256	255	254
ブライトなめシャッター	ブライト	T・U W・B カメラ坐っているブライトへ	ガンダム、Gファイター 離脱	セイラ	A、B パーツ、ドッキング	中 ドカ——ン	ガンダム立つ バルカンうつガンダム	リフク・ドム、うつ	パーツ接近 フォロー	④ (パーツの外れる フォロー)	爆発四方へ散る中パーツ外れてゆく(フォロー)	アムロcut・in	爆が外れる(フォロー)
				セイラ 「Gファイターノ ドッキング終了」								セイラ 「ア、アムロノ、なんとかします」	

279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269
ビカ 「ザンジバル、ブリッジ ビカ」 (ブレ)	「数字が踊る。cu尻キラリ ボタンおす、ビカ」 ン	スレッガー「ヘルメット だけかぶっている」	(フォロー)	シャア	ミライとブライト	イメー 線の中を走るアルタイシ ア・U 5回	シャアみて ニア ふっと不安 T・U	点線が出るや、数字輝や く	シャア、正面をみて T・U	ザンジバルへT・U
兵士(off)「さました、こちら」 シャア「さて」 兵士(「うわ」)	スレッガー(「3、2、1」 「背中」)	スレッガー「ヘッ、このホワイト・ベ イスの主砲の威力がどのくらい か知らんが、……まあみていろ」	マーカ(「あと十五秒です、各 員、用意」)	兵士(「あと二十秒」で撃てます シャア「うむ」)	ブライト「回避運動は三秒単位だ」 ミライ「了解」 マーカ(「あと二十秒で射撃距離 に入ります」)		シャア 「木馬の射撃距離と、どちらが 長いのか、神のみぞ知る。か…… アルタイシア、乗っていないだ ろうな」	兵士「三十秒で有効射撃距離に入り ます」	シャア 「Jタイプのみサイルが使えん のはやむを得んな、砲撃使用 である、回避運動を行ないつつ である、よく狙え」	

294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280
シャア	ハヤト	前部甲板のタンクももうつ ガンタンクのコクピット、	爆撃機上る	ホワイト・ベースのまわ り、ビーム襲う	ザンジバルの砲撃射	ザンジバルのビーム発射	ザンジバルに直撃 とびぬけるミサイルもある	Wベース、ミサイル連射、 上から下へ	ブライト	上下によけているザンジ バル、 ドォーン	ホワイト・ベースの主砲 も撃つ	ハヤト・ベースのビー ム砲撃やく	叫ぶシャア	ザンジバルかすめたのだ。 残片がとぶ
シャア 「よし、木馬にぶつかるとも りて、つっこめ」	ハヤト 「ザンジバルめ、なんとして でも撃ちおとしてやる」					シャア 「うーむ。よろし、よく我慢 した、うて」			ブライト「ミサイル連続発射だ」				シャア 「まだ撃たせるな、ひきつけ て撃つ」	



308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295
Wベースの横腹に当る機	ザンジバルも機銃うつ	主砲むこうからまわる、脇の機銃撃っている フォロワー	W・Bのわきをかすめる ザンジバル	スレックガー	ザンジバルくる、W・Bの主砲も撃っている	シャア	ザンジバル、一杯右へP AN	ハアとするブライト	ザンジバルのまわりに攻撃つづく T・U	ブライトなめビームゆき、キラキラ爆発の輝やぐ中、ザンジバルみえる T・U	W・B アップリッジ 立つブライト	シャア、不敵に	パイロット、シートの兵士
				スレックガー「こ、こいつ——」		シャア 「木馬は、おじけづいている、砲撃手は、よく狙ってな」		ブライト「シャア、だ……ここ、こんな戦い方をする奴は、シャア以外にいない、セイラの言った通りだ、シャアがきたんだ」			マイカー（off）「ザンジバル、よけません、つっこんでます」 ブライト「なんだと——」 右へ、にける	シャア「うろろう満るより当らんものだ、私が保護する」 兵士（off）「ハッ」	兵士「は？！ し、しかし——」
													

320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	
ドム、うつ	ドム、左右に分れる、ビームゆく	Gファイターうつ フォロワー	ザンジバルゆく（スーパーミサイル追う） （ザンジバルF・O） バンパインと爆発おこるが、やられたのではなからう。小さい爆発	後部ミサイルうつ（二回）	受話器とるや	ザンジバル機銃をうつ、ビームゆく	スレックガー	リッパ（ブレ）ザンジバル、ブライト	ザンジバルの右うしろに当る	W・Bの主砲、うしろむくやうつ、スーパーでザンジバルゆく	上下にすりぬけるWベースのザンジバル相互に機銃を撃っている（ヒキ）	銃 フレーム
					ブライト「後部ミサイル、うて——」		スレックガー「どうだ？！ 俺の乗っている艦に、突攻めなんか、かけるからよ」	兵士「うわ——っ」 「直撃か？！」				

連続テレビ・アニメーション番組

G 機動戦士 ガンダム UNDAM

録音台本

第32話 (仮)「強行突破作戦」

名古屋テレビ
制作 創造エージェンシー
日本サンライズ

第32話 強行突破作戦
昭和54年11月10日放映

制作スタッフ
●脚本/松崎健一 ●絵コンテ/押谷隆 ●演出/関田進 ●作画監督/富沢和雄
●作画/長崎重信・鍋島修・龜垣一・越智一裕 ●背景/アール・ティク・ワゴン(清水昭紀・加藤明美) ●動画/チエック・浜津守 ●仕上/ディーン(阿部みち子・工藤良子) ●特殊効果/土井通明 ●撮影/旭プロ(平田隆文) ●編集/鶴岡友彰 ●現像/東京現像所 ●音響監督/松浦典良 ●効果/松田昭彦 ●監音/日向国雄 ●録音/監音スタジオ ●制作進行/神田豊 ●設定制作/円井正 ●A・P/神田豊


キャスト & 声優
●アムロ/古谷徹 ●ブライト/鈴置洋孝 ●カイ/古川登志夫 ●フラウ・ボウ/瀧野由美子 ●ミライ/白石冬美 ●セイラ/井上瑤 ●ハヤト/鈴木清信 ●シャア/池田秀一 ●スレッガー/玄田哲章 ●マリガン/塩沢登人 ●ナレーター/永井一郎

																				S
	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	C
	サブタイトル 「強行突破作戦」	ガンダム、ビグロにとどめ	ビーム、うつ	ガンダムよけて	ビーム砲うなる	ガンダム上る	アムロ、ハットする	ビグロにひつばられたガンダムくる		ザンジバルを追うミサイ	直撃をうけるザンジバル	すれちがう二艦	W・Bにあたる	ザンジバル、うつ	主砲追う	ザンジバル、すれ違う	ザンジバルくる	全 W・B	つも突進	ザンジバル 直撃をうけつ
	N	N								N										
	「強行突破作戦」	「ガンダムは、モビル・アーマー、ビグロ」を破壊するにどまっただけである」								「シャアの指揮するザンジバルと接触をしたホワイト・ベースではあったが、これを撃ちとることはできなかった」										
																				音 声

29	28	27	26	25	24	23	22	21	20
セイラとブライト	ブライト、つかまり	手すりのむこうにとぶ ブライト	フラウ、ふりむいて	アムロ モニターにうつるフラウ	ハヤト、手をあげて首の ファスナーをしめる	ハヤト、立ち上る	フラウ・ボウ	Wベース内 マーカー ブライト、きて	Wベースくる
セイラ 「でも、敵が……」 「バック中」 「スレッガー中耐も加 わっている、少し休め。命令だ」	ブライト 「セイラ、少し横になったらど うだ。重力ブロックの部屋を使 え」	ブライト 「かまわん、やらせろ」	フラウ 「ガンダムも発進すると言っ てますけど、いいんですか？」	アムロ 「ガンタンクだけを出すのか？」 「カイさんはまだ、シャワ ーみだつていうし……」 「判った。こちらでも考 えていることがある、ハヤトには先 に出てもらってくれ」	ハヤト 「敵は「機」なんです ね」 「オフ」 「機」はよつハヤト」 「ハイ」	オムル 「ガンタンク、発進用意さ せま す」	フラウ 「誰にします？」 ブライト 「（off）「体の調子の一番いい者 でいい」 「ハヤトですか？」 フラウ 「（off）「急がせろ」 「ハヤト」 「ガンタンク発進願 います」各機は待機して下さい」	マーカー 「援軍ですかね。また一機、接 触するモビル・スーツあります」 ブライト 「シャワールームに行つた連中はど うした」 「各デッキで、メカの整備中 です」 「（背中）「フラウ・ボウ」 「機」か、「機」、発進させろ」	

44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30
シャア、ふりむいて	立つシャア	タンク、上昇 ザクレロの光点も上昇す る	ハヤト	上にねるタンク、ビー ムを上げる	ビーム、ゆく	ザクレロ、ビームを放射 する	せまる「ザクレロ」	くるガンタンク コクピットなめ右に流れ るモビルアーマー 「ザクレロ」撃つ	ハヤト	ガンタンク、ゆく	ハヤト	ミライ、みている ブライト、きて	セイラ、ゆく ブライト、カメラの方を むく	セイラの手がリフト・グ リップをつかむ セイラ、ゆく ブライト、カメラの方を むく
シャア 「デミトリイが出たのか？ あ れね、止めておいたのに、あ なぜやらせたのか？ 私の許可 なくして……」			ハヤト 「な、なんだ、あのモビル・ アーマーは、先刻のとは違 う……」					ハヤト 「あれか」		ハヤト 「このまま直進する。百十秒 後に、敵と接触」以後無敵封鎖	ハヤト 「このまま直進する。百十秒 後に、敵と接触」以後無敵封鎖	ブライト 「セイラの身体検査の結果は？」 ミライ 「別に、異状はないわ、至 って健康」 「（背中）「そうか……」	セイラ 「機、はい、そ、そうします」	セイラ 「機、はい、そ、そうします」

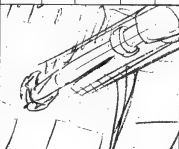


57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45
ハヤト	タンクのまわり爆発	ガンダム、ゆく	コクピットのアムロ	ガンダム、B パーンをつけてゆく	ガンダム、G スカイのパーンを足にはいてとび出す	シャア	マリガン、敬礼をして	シャア、左をみて	シャア、背中をむける	マリガン	シャア、手をふつて	マリガン 
ハヤト 「うわ——っ／＼、ミ、ミサイ ルもあるのか／＼」			アムロ 「早いな、先刻のと違うという のか？」			シャア 「ただし、今后同じ事をしたら、 軍法会議ものだぞ、中尉／＼」	マリガン 「ハッ／＼ ありがとうございま す」	(背中) 「ここは我々の庭だといった。 ドレンのベトロール隊との接触 も可能だという時に……」 「判った。お前達がトクワンを 裏切り気持は判るが……」 「気がすんだらデミトリイにはす ぐ戻らせろ」	シャア 「ここは我々の庭だといった。 ドレンのベトロール隊との接触 も可能だという時に……」 「判った。お前達がトクワンを 裏切り気持は判るが……」 「気がすんだらデミトリイにはす ぐ戻らせろ」	マリガン 「実用テスト前に放棄された奴 です。しかし、デミトリイは、 ザクレロの拡散ビーム砲は……」	シャア 「きいてはあらん／＼ そんなモ ビル・アーマーは」	マリガン 「御言葉ではありませんが、シャ ア大佐は、トクワン少尉の仇き 討ちをとめられました。 それに、デミトリイは、以前か らモビル・アーマー、ザクレ ロのテストパイロットをやつ ておりましたので」


74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58
アムロ	ビーム、とぶ つづいてガンダムゆく	再度ビーム、うつ	アムロ	せり上るガンダム	カメラ右へPANする	ビーム、とぶ	ハヤト	デミトリイ	ザクレロの腕、タンクの 砲をはねのける	タンクの上に出ようとす るザクレロ	タンクの手、殴りか かる	ゆれるハヤト	右手をガンタンクの胸に ぶちこむ			ザクレロ、左右からミサ イルを二、三発うつ て デミトリイ、カットし て
アムロ 「あんなかった竹 ハヤト／＼ 保つてくれよ」			アムロ 「外れたのか？」						ハヤト 「うわ——っ／＼」			ハヤト 「うわ——っ／＼」				デミトリイ「こんなモビル・アーマーの でこそこないなんぞ、あと一撃 で」





92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75
デミトリイ、正面みる	くるガンダム	ザクレロ、左上へゆく	砲撃するガンタンクくる	ガンダム、よける	拡散ビームを放射する ザクレロ	すごい早さでふりむくザクレロ	ガンダム、さかさビームライフルを構える	左右に分れる二機	アムロ、こらえる	ガンダムの足のカバーをひっかくザクレロの爪	ザクレロにビームかすめる	ガンダム、ビームうつ	左右から近づく二つの光	デミトリイ、ドキッとして	正面パネルのむこうガンダムくる	デミトリイ	ザクレロ、タンクをうしろにくる
デミトリイ「見え——よし、うろさい 奴だ、ン、よし、まずあの									アムロ「うわ——っ」					デミトリイ「きたッ!」		デミトリイ「別のモビル・スーツか? それにしちゃあ早すぎる、そのスピードは一体なんだ?」	
																	

106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94	93				
モニターにうつるフラウ	アムロ	爆発する	スパークを発するザクレロ	アムロ	左右に分れる二機だが、動きが止るザクレロ	ガンダム、Fr・inする	ザクレロの背中につきささるビーム・サーベル	ガンダムの左手もビーム・サーベルを逆手にもつてふり下している	ガンダム、すりぬけようとするがツメがひつかかる	上るザクレロの腕	手前からビームゆくガンダム、上にはねてよける	拡散ビームをはくザクレロ	デミトリイ	せまるガンダム			
「こちらのコンピュターで断る!」アムロ、きこえて? モビル・アーミーの撃破確認。急いでひきあげて下さい。現在、敵の動きはないようです」	アムロ			アムロ						デミトリイ「バカめ! 同じことをやる」			デミトリイ「いただき」				できそこないから」
																	

117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107
アムロ、答え立つ	ドア開いてセイラ、入ってくる スレッガー、チラッとセイラをみるがすぐアムロにむく アムロの方をみて	アムロ	スレッガー、眉をひそめて	アムロ、チューンを口からはなして	スレッガー	アムロの脇にスレッガー、くる	ガンダム、整備をしている	Wベースへ向うガンタンク、ガンダム	Et・inするガンダム	顔をあげ、ニッコリするアムロ
アムロ	セイラ アムロ、休みなさい。私がここに いるわ	アムロ	スレッガー「ブリッジでも二言目には、シャアだな。そんなにすこいのかよ？」	アムロ 「中尉は、シャアという人を知らないそんなこというんです。あの人、すぐに次の手をうつてきます」	スレッガー「しかし、当面の敵は片づけたんだ。あせる必要はなからうぜ」	スレッガー「どうした？ たて続けの出撃で疲れたのか？」 アムロ「いえ……ガンダムの右腕がやられました」				アムロ 「了解。こちらから二カ所やられた。急いでひき上げる」
アムロ	「すみません。ブリッジに上つてきます」									


125	124	123	122	121	120	119	118
マリガン、チラりとみる 左正面をみて	シャア 	シャアのうしろマリガン、ひかえている	図表がうつるモニター 手前にシャアがいる	ザンジバル、修理している	ザンジバル	セイラの口元から笑いが きえて	スレッガー、セイラに話しかけようとする、アムロ、口をはさむ スレッガー、ムツとして
マリガン「は、はい」 兵A（off）「キャメル艦隊のドレン大尉、出ました」	シャア 「マリガンこの理め合せは、いつかしてもらう。軍法会議が、サカサマにやせせん」	シャア（off）「はっ、はっ」 マリガン「た、大佐……」 マリガン「デミトリの件、申しわけありませんでした、私の知らなかつた戦力の事など」 マリガン「は、はい……」	シャア（背中）「キャメル艦隊と交信できるのか？」 兵A（背中）「はい、航路コンピュータにトレースしていますから出来ます」			セイラ 「……フ………ここに兄さんか……」	スレッガー「へへ………セイラさん……」 アムロ「中尉、主砲の方いいんですか？」 スレッガー「いいじゃねえか？」 アムロ「プライトさんに怒られますよ。戦中ですよ」 スレッガー「生意気だね、お前」 アムロ「はい」 スレッガー「じゃあ、今度静かな時にね」 セイラ「え」

139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126
Gブル、うつ	ビドロ、せまる	夢をみているらしい	そのセイラへ	セイラ、椅子にかけて眠っている	ゆく三隻のムサイタイプ	ムサイタイプがキャメルとくしろにつく「スワメル」トキメル	ムサイの外ドレンのシルエット手を前にふるっている	ドレントムサと見上げ	ムサイの内敬礼しつつ、モニターきふるむくドレン	シャア、ニヤリとして	モニターにうつるドレン手前にシャア	シャア	ムサイのブリッジのドレン、写る敬礼している
								ドレン	ドレン	シャア	ドレン	シャア	ドレン
								「大佐が宇宙の戦場に燃つてこられたか」	「申しわけありません、大佐」 「軌道変更、マイナス百十ノ木馬を追撃するぞ」	「ドレン……私を誰だと思っ ているのだ？」	「御機ががありますな、木馬とは……有りました、追いつけ ますか？」	「木馬を追っている。丁度お前の 艦隊の位置なら、木馬の頭を おさえられる」	「お久しぶりです。シャア少佐 ……いい、いや今は大佐でいら っしゃいましたな」 「背中」 「あい変わらずだな、ドレ ン」 「は……」

151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140
セイラとアムロ	ガンダム、胸の外装を外して、工作するメカ・マアムロ、バネルをみている うしろをふり返り バネルを見ようとして、あれ? とふりむく	セイラ、ういている本をとるが	セイラ、カメラの方をみ格納庫の方をみる	袖汗のセイラハッ目覚める	シャア、ものすごく怒鳴っている	セイラにG、かかる	シャア、わめきつつせまる	セイラ、はつと指を外す	ビドロの爪Gブルをひっかける	Gブル、うって横むく	ビドロ、せまる
アムロ	アムロ セイラ 「ええ、いいですよ」 「私ね……どうしたら早く、いいパイロットになれるかしら?」 「セイラさんは、今でもいいパイロットですよ」	アムロ 「まだ、切断されている部分があるというわけか……」 「TC17のプロテクタもとりかえておけ」 「おう、なんですか?」	セイラ 「……私は、認められない、兄さんのやり方……」	セイラ 「私の邪魔をしないでくれ」 「ハッ……フ……」	シャア（画とはうらはらにやさしく） 「アルティシア、私はザビ家を許せないのだ。」						
											BG PL

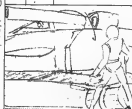
162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152		
スレッガー、戦斗服をきる	マーカ	ミライ、パネルをみて	ブライト、坐っている すくつと立ち	フラウなめクレイン	アムロなめモニターのフ ラウ	アムロ、手をのばす	セいら、宙をとんでゆく と、響く	作り笑いでごまかしてセ イラと背をむける	アムロ、え？ と肩をひ そめ	アムロ、え？ となり	セいら、ニッと笑って	ふりむくアムロ
スレッガー「やれやれ、またかい」	マーカ「E、C、M、レーザー・サ ー最大発振ノ！ ミノフスキ ー粒子戦斗値散布ノ！」	ミライ 各、機関の防御確認ノ！」	ブライト「うしろにザンジバル、前にム サイか強行突破しかないな。全 員、第一戦斗配置だ！」	オスカ 「一時の方向、三十度上方に敵 機三隻ノ……えいと。ムサ イ・タイプです」 フラウ 「ムサイ・タイプ三隻キヤッチ ノ 戦斗体勢に入つて下さい」	フラウ 「まっつてノ 今、情報を確認し てます」	アムロ 「フラウ・ボウノ」	アムロ 「?!」	セいら 「例え話よ。アムロ。 私があなたみたいならね……」	アムロ 「……ノ 無理です。そりゃ、 ザク・タイプの時には、僕でも 斗えました。でも、今は……」	アムロ 「わ、私だつて…… シャアぐ らいと」	セいら 「お世辞はやめてよ、アムロ。 私は、どうしても生きのびたい のだから」 アムロ 「……？」 おかしいですよ、 急に……」	セいら 「お世辞はやめてよ、アムロ。 私は、どうしても生きのびたい のだから」

179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163
アイ キャッチャー	ドム四機、ムサイ三隻歩く	ドム六機も白い炎をふく	ドレン ドオーン、ロケットの白い尾がのびる	ブリッジのドレン	ムサイの前に六機のドム上昇する	リック・ドム二機出る	三隻のムサイ	フル装備の出たW・ペー	機銃出る	敵、出る	メカ粒子砲とまる	主砲、上昇する フオロー	主砲、開く	ブライト	セいら、戦斗服のヘルメットをかぶる	チビ三人走る
			ドレン 「攻撃をかけるぞ！ 因縁浅からぬ、本馬とガンダムか。各機、最大戦速！」	ドレン 「いいか！ シアア大佐と同じ戦法をとる。リック・ドム六機とキャメル、リック・ドム六機は、本馬に！」							少年★「メカ粒子砲」			ブライト「各機銃座！ 主砲！ メカ粒子砲、開け！」	チビ 「第一戦斗配置だ！ いけ、いけ！」	
																

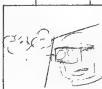
190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	
ガンキャノン、ゆく	ガンキャノン、しゃがむ	カイ、手をあげ	タンク、ゆく	スレックガーとまつて ドリッブを壁にたたくこ んで、左へ流れる	ふりむくフラウ パホルに向き直り	ブライト、ふりむいて	マーカー 	モニターに写るアムロ	ブライト、見上げて 正面みて	マーカー	アイキャッチャー
		カイ「おー！ がんばってくれるね、ハヤト軍曹、では、小生も……」	ハヤト（off）「こちらハヤト、ガンタンクゆきます」	スレックガー「やれやれ、主砲じゃないのがよ」	フラウ「は、はい！ スレックガー中尉！ 第二デッキ、Gファイターへ搭乗して下さい！」	ブライト「フラウ・ボウ！ 予備のGファイターに、スレックガー中尉を……」	マーカー「自衛隊の通信機、あの「スカート」の奴です」	「……」	「……」	マーカー「モビル・スーツが飛来した……」	

C
M

200	199	198	197	196	195	195	194	193	192	191
ニッコリとアムロを見る セイラ	セイラ、コクピットに近づいて乗りこむ	ブライト	フラウ、ふりむいて	ブライト、受話器をとって	マーカー、見上げている 数字がでる	左のハッチから射出する Gファイター	ミライ、正面をみる むいて	アムロとスレックガー とんと上昇するアムロ	Gファイターのところ、 アムロとスレックガー ガンダム格納庫	ガンタンクにおいつく ガンキャノン
アムロ セイラ	アムロ セイラ	「気分はいいんですか？」 「大丈夫よ、アムロ。」 「ガンジバルから発進した モビル・スーツじゃないでしょ。 タツタサしてくるから、あばれてさっばりしてくる」 「セイラさん、おかしいですよ」 「そう？ さっきより元気よ、大丈夫」	ブライト「そうか……大丈夫なのかな？」	フラウ「セイラさん、第二デッキにいます。出撃するそーです」	「……」 「セイラ！ そろそろ起きてくれ……」	マーカー「九十秒後に接触します。 ムサイも最大戦闘速度で、ついてきますよ！」	ミライ「「ブライト、スレックガー中尉、大丈夫かしら？」 「ガンタンクもガンキャノンも高速戦闘向きではない。この際、一機でも多い方がいい」	アムロ「「Gアーマーの時にしか使えないんですから」 スレックガー「要するに、Gファイターってのは手で動かすんだろ？」 アムロ「はい」 スレックガー「俺、向きでいいじゃねえか」 アムロ「「お気をつけて」 スレックガー「あいよ！」	アムロ（off）「よろしいですか？ このコンピューターは、当てにしないで下さい」	

209	208	207	206	205	204	203	202	201	
マゼラン、サラミス、ブ ボウノ 本体のロケット 火を噴く	ドックとブリーガーのロケ ット火を噴く	大気圏上。最低衛星軌道 マゼラン、サラミス、サラミ スタラス、上昇してゆく	ザンジバル、ゆく	シャア、頸に手をあてて	シャアと兵B	ザンジバルへT・U	いくGファイター	と、アムロ、上昇する アムロ、着地する 前進するGファイター、 とまる ザツと身をひくする アムロ どつと射出されるGファ イター	アムロ「じ、じゃ、慎重に」 セイラ「生意気ね」
		N 「その頃、南米のジャブローを 発したティアンム提督指揮する 地球連邦第二連合艦隊の一群が、 大気圏を突破。 ルナツーに向けての進路をとり つつあった」	兵B（off）「伝えます」 シャア 「ザンジバル、加速」 コースは、このまゝ木馬を追 いこむ」	シャア 「やるな。ムサイを突破しよう というわけか。キャメル艦に指 令、木馬に攻撃を集めるとな る」	兵B（off）「木馬の動きは?!」 シャア 「ムサイをキャッチしたよう です」 スピードをあげています。 コースは変えませんが」				

221	220	219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	
カイ、左をみて	ガンタンク、とぶ	正面をみる	ハヤト、左をみて、すぐ正面をみる	手前から砲弾ゆく 光は三つづつに分れる	ギョーンとゆくビーム そのむこう、タンクがよける cut inするハヤト 発砲するガンタンク	ビーム、六つの光点のむこうにきてゆく 逆にむこうからビームがくる	キャノンとタンクの上空 ビームがゆく カイ、cut inして	Gファイター、ビームを撃つ	スコップの中、六つの光点が見える	スレッガーの指、おす	スレッガー ニヤリとして スコップをまわす	むつたり上昇するガンタンク、ガンキャノン Gファイターもすべりこむ
カイ「よし、ハヤトが左なら俺は……」		ハヤト「二手に分れたのか?! やむを得ない」	スレッガー「……」 「M」さて、ここでパイロットとしても、いい処をみせてやらにやあな スレッガー「よし」	スレッガー（off）「……」 やつてみるか……	カイ「スレッガーさんかい、早い、早い」							



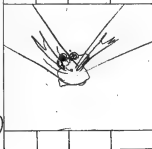
236	235	234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222
三機のドムがせまる	キャノン、ゆく バズの弾体がくる	カイ	ドム三機、降下 先頭のドムがバズをうた	ハヤト	キャノン、Gフアイター、 ガンタンク、入りこむ	タンク、つづいてGフアイターとすべりこんでくる	セイラ	ハヤト	セイラ	Gフアイター、すべりこむ	Gフアイターゆき タンクの上につく	セイラ	セイラなめキャノンと Gフアイター 左にゆくのが見える	右へすべるガンキャノン うしろにスレッガーの Gフアイターがつく
		カイ「野郎！」		ハヤト「きん！」			セイラ「了解」	ハヤト 「了解です。ボクとセイラさん で、カイ、スレッガー機のうし ろにつきましよう！」	ハヤト 「了解です。自分たちだけで勝て ると思っているわく」	セイラ 「敵と同じように、分れては勝 ちめはなくなるわ」		セイラ 「敵と同じように、分れては勝 ちめはなくなるわ」	セイラ（背中）「カイノ……それにはス レッガー中尉まで、ガンタンク から離れるなんて！」	

251	250	249	248	247	246	245	244	243	242	241	240	239	238	237
至近弾、爆発 キャノン、ふつとぶ	キャノン、うつ そのむこうをドム、ゆく ドンとバズをうた	身をひくくするカイ レバーをひく	手前に破片が散る中、 す早くドムがくる。	バズーと光が散る	スレッガー	ドム、爆発する	カイ、スコープをはねの けながら	ドムにビーム直撃	カイ	スコープの中、ドム、一 機くる スコープ合う	カイ、スコープをセンタ ーにもつてくる	小さくよけるガンキャノ ン	ドム、撃つ！	カイの目パチーッ
		カイ「しまった！」			スレッガー「ホーウノ 見かけによらずやることは冷静 だな。見直したぜ。 ン?! まてよ」	カイ「やったァノ！」			カイ「いけーノ！」					カイ「もつと、ひきつけるんだ！」

266	265	264	263	262	261	260	259	258	257	256	255	254	253	252
▲ 残光の輪の中、片腕のドムをうつ	照り返しの中のミライ	片腕のドム、ゆくバツと閃光につつまれる	ブレ ダアンとふつとふハヤト	ガンタンクの背中へ直撃	片腕のドム、木を下にむけてうつ	ビームがつかぬいている後続のドムの左手がふつとんでゆく	セイラ、cut inして	ハヤトの左右、光がゆくと、Gフアイターが上昇する	手前からゆく弾光をよけるドム、木をうつ	すつと上昇するタンタ、うつ	ドカーン、右翼にあたる	Gフアイターのビーム砲うつ、うけつつくるドム二機うしろのドムが木をう	スレッガー	木をよけながらGフアイターにせまる
	セイラ「あと一機は?!」		ハヤト「うわー!」				セイラ「うまら!」	ハヤト「うつ!」			スレッガー「うわつ!」		スレッガー「きやつらア!」	




278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267
Wベース	ブレかさまってゆくスクラインにうつる	Wベースに当る	主砲撃つWベース	Wベース、四方八方へ機銃つている三機のリックドムがとびかり	ガンタンク、ガンキャノン、Gフアイターがこうたいする	ビーム砲発射するムサイ三機	ムサイ中、のり出すドレン	ドムに二本のビームゆくすいこまれ光のうず	Gフアイター	ビーム光と共にふつとんだドムの胸	木をよけながらGフアイター、上昇しつつビームうつ
オスカ(背中)「第六ブロック被弾!」				ブライト「頼む! スカートつき」を叩かん限り、ムサイに攻撃もできない。急いでくれ!」	セイラ「ホワイト・ベースをこえまスカ! こちらセイラ!」ホワイドベースの防御にまわります!」		ドレン「ドムがやらされた空域を掃蕩しろ!」木馬まで一気に突撃を敢行する!」				



293	292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280	279
左翼のムサイに向う ビーム	Wベースのビーム砲	ドレン	ドレン、左手を水平にあ げる おくのムサイ艦右へ移動 する バックとビーム走る	手前からのビームゆく ムサイ砲撃している	ビーム砲うつ	Wベース、主砲うつ	ブライト 「ブライト」	Wベース、ぐいんと上る ビームが宇宙空間からくる	ミライの体ぐいつとうど	ミライ	ブライトとミライ	スクリーン 三つの点が点滅しつづく	フラウのいる椅子	ブライト、正面みて 左みて
		ドレン 「敵を撃てば、いいというもの ではない、よく狙え！」					ブライト「主砲、メガ粒子砲はムサイ のブリッジ、あるいはエンジンを 狙え！」		ミライ「おかもじ！」		ブライト「回避運動まさせる！」 ミライ「はい！」	マーカー「ムサイ、盾ラインをこえまし た！ ビーム来ます！」	フラウ「off！あと少しです、まっつて下 さい！」	ブライト「弾幕が薄いぞ！ 相手は動い てくれるのだ！ なまじ狙らわ ずに撃てといえ！ フラウが ガンダムは！」


307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294
ガンダム、前傾姿勢をと る ドムがすべりこみバ ズを撃つ	アムロ、す早く手を動か	ガンダム、バズーカ持ッ てカタパルトにのる	W・Bに直撃	ドム一機せまる バズをうつ	アムロ、敬礼して	ブライト	モニター アムロが写る	受話器をとってブライト、 怒鳴る	ビームをよけるW・B	ムサイ、爆発した処から 四方へ拡散する煙 残った塔が撃つ		スクリーンに写るムサイ、 前部が閃光につつまれる	ムサイの主砲に直撃あた る ドォン 上の砲塔をま きこむ
					アムロ	ブライト「急いでくれ。目標はムサイだ。 スカートつきのモビル・スーツ は構うんじゃないぞ」 アムロ「了解です！」	アムロ ガンダム発進します！」	ブライト「えい！い！ 左翼のムサイにの み集中攻撃だ！ 他には目をくれるな！」			ブライト「誰が砲塔を狙えといつたか！ 機関を破壊すれば、ビーム砲は 使えなくなる。攻撃は集中して 行なえ！」	マーカー「(背中)」「直撃、左翼のムサイで す！」	

323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308
バアと二艦のムサイが白く輝やく	ムサイに砲火集中ボウノエンジンに光が入るだんご状になりバクダツ	ドム、ビームをよける	Gフアイター	ドム、入ってくる	Wベースのハッチについてガンタンク、砲撃する	後退しつつビームライフルを撃つガンヤアノン	ガンダム、上昇する	アムロを前に放りこむ	ドムの単眼へバルカン集中してのけるドム	バルカンうつガンダム	切りかかるドム	アムロ、チラと見上げる	射出されたガンダム	爆煙の散る中ガンダム発進	Gがかかる
								アムロ「チーノ」							
								アムロ「スカーフトき奴ノ」							

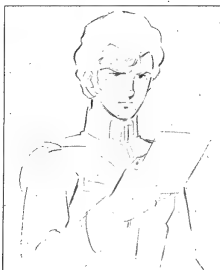
336	335	334	333	332	331	330	329	328	327	326	325	324
ドム、やられる	ドレンなめ一機のドム	ドレンに怒鳴るようにドレン、見上げる	手前、ドムはいってくる	W・Bのミサイルうつ	W・Bのビーム砲連射	ドムが二機が後退している	ミサイル発進する	ブライト	ミライ	Wベースのむこうからバアとビームくる	ドレン、砲撃の照り返しの中ドレン	ドレン
ドレン	兵E「off」	兵E「あのリック・ドムは？」	兵E「フラシイのですノ」	兵E「なに?! きこえないノ」	兵E「ガンダムがいないそうですノ」	兵E「あのリック・ドムは？」	兵E「フラシイのですノ」	ブライト「ミサイ二機ノ……きます」	ミライ「ミサイ二機ノ……きます」	ドレン「シャア大佐が来る前になんとしても……とどめを……」	ドレン「うわーッ、トクメルが……ッ、リック・ドム二機後退させるノ、こちらから砲撃の邪魔だノ」	ドレン「うわーッ、トクメルが……ッ、リック・ドム二機後退させるノ、こちらから砲撃の邪魔だノ」
												

350	349	348	347	346	345	344	343	342	341	340	339	338	337
アムロ	アムロ、T・O・L	くるガンダムT・O・L	くるガンダムT・O・L	キラッと流星のように流れる光、T・O・L	ふらつと身をひくドレン見上げる	ブラッッジへバズーカの直撃！手前エンジンへさらにもこのエンジンへさらに二発が主砲へ当たる	ドレン、のり出して	はつと左をみる	スクリーンにうつる点	ぐいつと顔をあげるドレン	W・Bの右脚にビームが当たる	ブライト	Wベースのモニターにうつっているムサイ
					ドレン「ガ、ガンダムだ……あ、あの白い奴だ」		ドレン「スワメル！よけるんだアー！」	ドレン「なんだア！」「モ、モビル・スライム……高熱源接近！」	兵E（背中）「ゼロ方向から接近するものあります！」	ドレン「そんなはずはない！ガンダムは悪るはずだ！どこなんだ！」		マールカー（Off）「やったか！」	ブライト（Off）「いや！モビル・スライムに当たったんだ！」

367	366	365	364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	351
（小さい） ドムの手、剣を下に下す	アムロ	ドム、くる	ふりむくガンダム	兵士が破れた処からとんでゆく	ドレン いきなり体が手前へとぶ	天井まで切りあげる	ガンダム、ムサイのブリッジを切り上げてゆく	下から上へはねあげるガンダム、ドム、すれちがう	ガンダムのサーベル上る	タテでうける	切りかかる	ムサイの前へ最後のドムくる！	やや緊張のアムロ	ガンダムくる	ドレン、身をひく	ガンダム、ゆく
	アムロ「上か？ 下か？」			兵E「うわー！」「お、つ！」「	ドレン「うっ！」「ガンダムが……」	ドレン「うわー！」「								ドレン「う………？！」		小爆発しているトクメルエンジン爆発するズンと入りこみ、ガンダム、くる！

364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	351	350	349	348
ザンジバル O・L	ムサイの二機のエンジン をつらぬくジャベリン、 T・B バタハツする	ジャベリンゆく	ジャベリンをけるガンダ ム	右をむくアムロ	ドム、爆発する	ドムの腰にサトベルささ る	アムロの体がしずむ	創同士のスパーク	盾に当たる 盾切れて下の方はねと ぶが、むこうはもう一本 のサーベルが剣をうけて いる	ドムの剣くる	身をひくドム のめるガンダム	ガンダム、つきあける	ハッと下をみるドム	すつと下へまわりこむ ガンダム	切りあける すつと下へまわりこむ ガンダム	ガンダム、つつこむ
				アムロ「あとはムサイのみ！」			アムロ「クッ」									アムロ「下か！」
 																

395	394	393	392	391	390	389	388	387	386	385
ふつと顔をあげるミライ ブライト、Fr. inしてミ	ミライ、銃輪に近づく	ブライトとスレッガー	スレッガー、ニヤリと	ミライ、顔をふせ	ブライトとスレッガー	ミライ	ブライト 入ってくるスレッガー	ミライ、入ってくる	シャア シャア	シャア、立ち上る
ミライ ホワイト・ベース、サイド六	ミライ「そのかわり、ジオンにとりか スレッガー「やむを得んさ、その時はそ の時さ」	スレッガー「サイド六は中立サイドだ。 戦斗行為は南極条約で禁じられ ているし、うまくいけば、ホワ イト・ベースの修理もできる」	スレッガー「い、いえ……別に……」	ミライ「このまゝ、ザンジバルと斗つ たとしても、勝つ見込みは限と んどないぞ」 スレッガー「そうだな……外からみても ホワイト・ベースのやられかた はひどいもんだ」 ブライト「気になることでもあるのか？ ミライ？」	ミライ「でも、ブライト、 サイド六に向つたて、どうな るというものでもない……」	ブライト「手柄を急ぎすぎましたかね？」 スレッガー「フフ……そんな奴だな」 ミライ「off」 サイド六に向つたて、どうな るというものでもない……」	スレッガー「賛成だな、少尉。Gファイ ターを傷つけてすまん。 アムロ曹長にしたられたよ」 ブライト「アムロ曹長にしたられたよ」 スレッガー「フフ……そんな奴だな」 ミライ「off」 サイド六に向つたて、どうな るというものでもない……」	ブライト「それは確実なのか？」 マリーカー「はい。これからルナツーへ道 路をとれば、98%の確率でザン ジバルと接触します」	シャア「あのドレンが……私の到着ま でもちこたえられんとはな……」 本馬のコースは？」	シャア「あのドレンが……私の到着ま でもちこたえられんとはな……」 本馬のコースは？」



398	397	396	
W ベース、ゆく	W ベース、とぶ	W ベースゆく	ライをみている
N			「向います」
<p>「サイド六。幾つかあつたサイドのうち、ジオン公団にも、地球連邦にも属さず、戦争には参加していない。また、このサイド六の支配下の空域では、一切の戦いは禁止されていた」</p>			

第二十二話・おわり



機動戦士 ガンダム UNDAM

録音台本

第33話『コンスコン強襲』

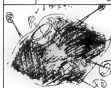
名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ


第33話 コンスコン強襲
昭和54年11月17日放映


制作スタッフ

●脚本／山本優 ●絵コンテ／并谷隆 ●演出／貞光紳也 ●作画監督／中村一夫 ●作画／中村プロ（西城明・小林大介・坂野芳子） ●背景／アッブル（渡辺毅・渡部孝） ●動画チェック／浜津守 ●仕上／シャフト（三橋曜子・三橋則子） ●特殊効果／土井通明 ●撮影／旭プロ（斉藤秋男） ●編集／鶴岡友彰 ●現像／東京現像所 ●音響監督／松浦典良 ●効果／松田昭彦 ●監音／日向国雄 ●録音・監音スタジオ ●制作進行／植田益朗 ●設定制作／円井正 ●A・P／神田量 ●キャスト&声優
●アムロ／古谷徹 ●ブライト／鈴置洋孝 ●カイ／古川登志夫 ●フラウ・ボウ／鶴岡るみ子 ●ミライ／白石冬美 ●セイラ／井上瑶 ●シャア／池田秀一 ●スレッガー／玄田哲章 ●カムラン／塩沢兼人 ●テム／清川元夢 ●ナレーター／永井一郎

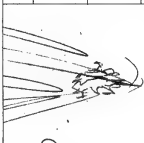
														S
														C
14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
地球からWベース、コロ	ムサイ、デベ、すゝむ	デベ、ムサイ前進する	敬礼をとくドズル	将 敬礼を返すコンスコン少	ドズルのむこう、デベのブリッジがめくドズル、敬礼をする	ムサイ、ソロモン	損石よりソロモンへ	サブタイトル 『コンスコン強襲』	ブリッジが切れ、ふつとぶドレンたち	ガンダム、ブリッジを切る	スワメル爆発 ガンダムくる	ドレン、身をひく	ムサイの、スワメルにバズーカの直撃	画面
			N		N		N	N					N	音
			「ドズル中将は、姉のキシリアがシャアを使っている事に反感をもっていた。できることなら、自ら木馬を討ち、シャアの無能さを証明してやりたかった。」		「今、ここからコンスコン機動部隊が発進する」		「かつて、サイド一のあった空域。ここにはドズル・ザビ中將の指揮する、宇宙攻撃の本部ともいべきソロモンがある」	「コンスコン強襲」					「ホワイト・ベースを迎えうつ、ドレン大尉ひきいる三隻のムサイは、ガンダムの活躍によって、突破された。そして、ホワイト・ベースはサイド六へ、進路をとった。しかし……」	声
			がある、テアンム艦隊の目的が判らぬ限りこれ以上の兵力を出すわけにはいかない」											



24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	
いる ブラウ・キヤ、沈黙して	岩の間にブラウ・キヤが停泊している	アムロ ふとみて、ドヤッとのり出しセイラ、cut・in	モニター内、セイラ	アムロ、えっ？となり	セイラ膝のバネにメモなどして、ふと顔をあげ	アムロ	G・フッターも通過 コア・ファイター、cut・in cut!	セイラ 一方をみて 	アムロ 「セイラさん。どうですか？ 異状ありませんね」 セイラ 「(off) 「そうね、大丈夫だと思えるけど……」」	コア・ファイター、G・フッター、飛ぶ
		アムロ セイラ 「別に、嫌いになってるわけじゃない。左を！」	セイラ 「そうかしら？ そんな時だからこそ、友情って大切よ」	アムロ セイラ 「(off) 「なぜって……あなた最近、ブラウ・ボウに冷めたいででしょ？」」 アムロ 「そんなこと、ないですよ」	セイラ 「私にとって、航法の勉強になるし、ね、アムロ、あなただけのボウのこと、どう思っているの？」	セイラ 「(off) 「結構よ」」	カイ 「異状なし！ こっちは足が短かいんだ、ひき上げるぜ！」	セイラ 「この辺も、岩が多いからなんとも……」 アムロ 「どう？」		

36	35	34	33	32	31	30B	30A	29	28	27	26	25
兵A、なめ入ってくるシムス	出てくる「ブラウ・ラク」	アムロ	セイラ	ビームはしる上へよけるG・アーミー	ビタンとビーム砲むいて射つ	アムロ、ハッとして	岩と岩の間ハイバビーム砲見える	G・アーミーなめ岩	G・アーミー、ひねりゆく	シムス、コワルなめ、ゆくG・アーミー シムス、ふりむいて	シムス・アル中尉(女) およびコワル	G・アーミー、ゆく「プロ手前、ブラウ・キヤに宇宙服をきた三人ぐらいがいる」
兵A 「馬鹿が！ なぜ、撃つたのか！」「こ、攻撃をしかけてきましたので！」	シムス	アムロ 「い、いえ、モビルアーミーかどうか？……き、来ますよ！」	セイラ 「う、うってきた！ ジオンのモビルアーミーだわ！」	アムロ 「い、いけない！ セイラさん(off) 「え？」」	アムロ セイラ 				シムス 「エンジンは動かない！」 コワル 「(背中) 「一応は……」」	シムス 「見つかったようです、砲撃を……」 コワル 「まて……もう少し……」 「よりによって故障した時に……」	コワル 「見つかったようです、砲撃を……」	

49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	
カバー外れる	カバー外れる	セイラ	Bバートツ下る	カバー外れる	兵A、なめシムス	のびていたビーム砲塔ひっこむブラウ・キヤッ	岩の向うからG・アーマーくる	セイラ、アムロ	G・アーマーの右やられる	ブラウ・キヤッ、本体がビーム砲のこして右へにげる残ったビーム砲うつノ	G・アーマーへ四本のビームがつつこむよけてビームをうつG・アーマー	向きをかえるブラウ・キヤッ ビームうつノ	
		セイラ			兵A シムス			セイラ アムロ					シムス
		「三、二、一」			「チーノ！ 一気にパワーをあげすぎましたノ！ 「機わぬ、このブラウ・キヤッをみられたからには、敵を倒さねばならん」			「あー！ 「妙なモビルアーマーですノ！ 「ボトル・アウトします。岩のうしろへ」 「了解ノ！」					「相手にそのつもりはなかったノ！ 「そそっかしいノ！」




66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50
ビームゆく ッ ッ ブラウ・ キヤ ッ、はねてよ	Gファイター、cut in セイラ、ビームうつ	ブラウ・ キヤ ッ、ゆく ガンダム来てビーム撃つ	アムロ	はつとなるガンダム 盾をぶちぬくビーム	ビームゆく ッ ッ ブラウ・ キヤ ッ、よけると 全く違う処からビームくる	ブラウ・ キヤ ッ、よける さらにガンダム、つつこ みビーム射つ	ビームうつGファイター	セイラ	アムロ	シムス、チラとみて	一つの走る光	兵A、なめシムス	ブラウ・ キヤ ッ、岩の向う からでてくる	ガンダム、Gファイター、 はなれる	ガンダム	ドッキング
	セイラ		アムロ													
	「この程度のスピードでっノ！」		「うわー！ 「……撃つてくるんだノ！」						「了解ノ！」	シムス 「相手が一機だ。しとめるぞ」		シムス 「ン？ あそこかノ！」				
										シムス 「相手が妙な方向からきますよ。 「気をつけて下さい」						



100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	90
ブライト、ふりむいて	アムロ、マーカー	フララ、セイラ、チビ達	ミライ	ミライなめカムラン	ミライ、パネルをみて うしろカムラン、はっと して、きてのぞく ミライ、チラとみるが 正面をみてから気づく	港口に入って行くWベ ース	港口開く	ミライなめ、カムラン カムランの部下	ミイラのところへ来るブ ライトカムラン	アムロなめブライト、カ ムラン
ブライト「カ、カムラン機察官。入港中 です。遠慮していただきたいノ ミライ少尉もノ」	アムロ「マーカー「親戚じゃないの？」」	セイラ キツカ 「え？」	ミライ「あ、あなたこそ元氣者で……」	カムラン「ミ、ミライ。生きていてくれ たのかいノミ、ミライ」	ミライ「三百六十度、レーザーセンサ ー開放ノ」 カムラン「ミノ……」 ミライ「あ……」 カムラン「ミライノミライじゃないか ノ」 ミライ「カ、カムランノあ、あなた ……」			マーカー「df」「サイト六、バルダ・ベ ースに入港ノ各員、保留作業用 意ノ」	ブライト「丁度よかった、入港する処で す」 カムラン「はあ」 ミライ「侵入角良好ノ保留用ノ意」	ブライト「判らんのか？」 マーカー「はあ、どうも新型ですね、ア ムロたちの出会ったモデルア ー」 ブライト「そうか」

110	109	108	107	106	105	104	103	102	101
ミライ、カムラン	ミライ、悲しい振しな るうつむいて	ミライ、カムラン	カムランなめミライ	Wベース 港務作業員がスーッと、 とんでゆく ミライ、カムランいる	Wベースうすよどれ、こ われたりしている Wベース、パトリック にひかれてくる	ブライト、また正面をみ る	カムラン、ミライ	ブライト、正面みるが、 チラとみる	カムラン、ふりないて逃 りつつ ミライ、正面みるが、カ ムラン離れない
カムラン ミライ	カムラン ミライ	カムラン ミライ	カムラン ミライ	カムラン ミライ	カムラン ミライ				カムラン「あ、ああノ中尉……す まない、ミライノ」 ミライ「え、ええ」
<div data-bbox="600 1179 911 1436" data-label="Image"> </div>									
<p>「ミライ、このサイト六に移住する問題 だったから、僕が……父の 活動を手助けした……」 「結局、親衛士のきめた結婚話 だったのよね」</p>									

[illegible][illegible]

174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157
テム、箱をサイドテーブルにおきながら箱の中のメカをとり出す	テムなめテムロ、ドアをうしろ手に閉じてテム、箱をもつて歩く	ブレハブの工場テムロ、入口に立っている	テムロ、テムにかけよる	テム	走るテムロ	テム、立ち止りふりむく	テムロ、走る	テムから下りるテム・レイ	走るテムロ	くるバステムロ	テムロ、走る	テムなめ走るテムロ	テムロ、くるバスゆく	テムロ、走って行く	テムロ、走る	交差点でバス停る	テムロ、人をよけて走る
ここに住み込みをさせて貰っている。こいつをガンダムとつづける	テムロ「ここは？」 「ジャント屋という処は、情報を集めるのに便利なのでな、ここに住み込みをさせて貰っている。こいつをガンダムとつづける」	テム（off）「ホラ、何をしているの？入って入って」	テムロ「は、はい、父さん！」 テム「は、はい、来るがいい」	テム「ガンダムの戦果はどうだ？順調なのかな？」	テムロ「父さん！」	テム「おう、テムロか！」	テムロ「父さん！」			テムロ「は、はい、父さん！」			テムロ「父さん！」				
																	

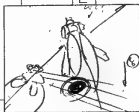
187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177	176	175
メカ、プラスチックの悲しい音をたてる	テムロ、なげる	メカを差し上げる	テムロ、走ってくる	テム、ぐいっとふりむいて	テムロ、泣きそふになる	テムロなめテム、ふりむきつつライドをつける机にしがみついて	テムロ	テムロなめ立つテム、歩く	立つテムロ	テム、テムロ	メカを差し出し	テムロ、父をみる
			テムロ「アア……」	テム「急げ！お前だって、軍人になったのだから！」	テムロ「と、父さん……」	テム「う、うむ。戦争はもうじき終る。そしたら、地球へ一度行こう」	テム「父さん！……か、母さんのこと気にならないの？」	テム「父さん！……母さん……」	テム「う、うん。早く父さん……」	テム「そして、すぐとりつけて試すんだ」	テム「は、はい。でも父さんは？」	テム「研究中のものが一杯ある。また、連絡はとる、さ、行くんだ！」
									「う、うん。早く父さん……」		テム「すごいぜ、ガンダムの戦斗力は数倍にはね上る、もっていか！」	テム（off）「ジオンのモビルスーツの回路を参考に開発した（と、セリフF・Oしてゆく）」 テムロ（M・F・I）「と、こんな古いものを……と、父さん……」 「酸素欠乏症にかかって……？」


198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	
ガンダム、ライフルもつて出てくる Bと曳航機	ミライなめベルガミノ	ブライト	ミライなめベルガミノ	ブライト、ベルガミノにむいて	曳航機にひかれてW・Bでてくる 各機もいる	ミライ、ベルガミノ、ブライトモニター内アムロ	モニター内アムロ、カイ	ミライなめベルガミノ、ブライト、モニター内アムロ	W ベース	泣いているアムロ	こわれもしない ふらっと背をのばすアムロ
	ベルガミノ「私には、両方の偉いさんにコネがあります、お嬢さん安心なさって下さい」 ミライ「助、ありがと。ベルガミノさん」	ブライト「我々は追われています。大丈夫……」 ベルガミノ「(off)」「なア——」	ベルガミノ「領空の外のドックなら、ジオンの船だろうと、連邦のだろうと直させてもらってますから」	ブライト「ベルガミノさん、本当にカムラン・ブルーーム検査官の依頼だったのですか？」 ベルガミノ「はあ、首相官邸からのテレビ電話です、間違ひありませんです」	ベルガミノ「はい」	ブライト「ガンダムで、ホワイトベースの護衛に出るんだ」	アムロ「す、すみません……」 も急に空港だなんて……」	ブライト「アムロノ、個人的に街をブラブラする時間を与えた覚えはないぞ、貴様のおかげで出港が遅れた」	アムロ「ク、う……う……う……」		



223	222	221	220	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199
下から浮き上るコンスコン、バット手すりにつか	チベ	流星のように流れる光	アムロ	ビーコンなめガンダム、うしろむきでとぶ そのうしろにW・Bゆく	ベルガミノ「何の浮ドックみえてくる」	アムロ	ガンダム背中	アムロ	ガンダムくる	カヤハワ少尉なめモニターに写るW・B	リック・ドムのぞく act・inするカヤハワ少尉	モニターのスレッガー「笑う」	アムロ、ムツとして	アムロ、正面、左右とみる モニターにスレッガーがうつる
コンスコン「カヤハワから信号弾だぞ!」			アムロ「ン? 何だ?……」			アムロ「あれが、うきドック?」		「機体の影は、本しが」	カヤハワ「(背中)」「このこと、よくも出てきてくれたもんだ」	カヤハワ少尉「つ、つかまえたノ、こりやあ木屑じゃなにか!」	カヤハワ少尉「つ、つかまえたノ、こりやあ木屑じゃなにか!」	スレッガー「ハハハハノ、すまん、悪かったな」	アムロ「スレッガーさん」 スレッガー「(off)」「なんだい」 アムロ「その、いい子だつてのやめてくれませんか」 スレッガー「(off)」「クッノ、ハハ」	スレッガー「よう、アムロ、少しは元気になつたか」 アムロ「ずっと元気です」 スレッガー「そうかい、それならいい子だ」

227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214
ブライト、ベルガミノ	Wベースなめ浮ドックを ビームぬけるノ	アムロ	ドックをぬけてくるビー ムノ	アムロ	ドック	Wベースなめ浮ドック	シャア	兵Cなめスクリーンに映 る画	立つシャア	三隻のムサイの前、十二 機のドムが前進する	コンスコン、ふりむいて	コンスコン、椅子につか まり兵Bふりむき	兵B 手前流れるコンスコン
ブライト「し、しまったノ わ、開かつ ノ」		アムロ 「なに?」		アムロ (背中) 「大きいな……」			シャア 「やれるのかナリ ああ、へらず 口の將軍が」	兵C 「リック・ドムも発進させまし た」	シャア 「コンスコンが本局をキャッチ したのか?」 兵C (off) 「ハッ、そうらしいです」		コンスコン「ベルガミノ? ああ、戦争で 大儲けをするという? 丁度いい ……………」 我艦隊は、敵と一直線にならぶ わけだな、リック・ドム、十二 機発進させろノ」	兵B 「本局がサイド六の傾空を出た 合図ですノ」 コンスコン「位置を確認ノ エンジン全 開ノ」	

229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214
ドムの腹にあたるビーム 轟音	うつつ	アムロ バズをよけてガンダム、 うつつ	ドムに直撃ノ	ガンダム、ひっくりかえ ってビームうつ むこりバズーカをうつド ム	アムロ	ガンダムのむこり、ババ ッと交差するドム それがみんなバズーカを うつノ	アムロ	手前、ガンダムも上る	リック・ドムがとび上つ てくる	コアフブイター、ゆく コアフブイター、ゆく	ガンダム、ゆく	ブライト ベルガミノ、かじりつく	ミライ、ハッとみて	ブライト、ふっノ とミ ライをみるノ	ベルガミノ「ああ——ノ わ、私のド ックが——」
		アムロ 「一つノ 次ノ」			アムロ 「チィッノ」		アムロ 「スカート付きかノ」					ブライト「よし、よしノ 各機、展開を急 がせろノ」 ベルガミノ「ち、中尉ノ ド、ドックか ら離れて下さい。そうすれば、 私のドックは助かります」 ブライト「やってくるでしょうノ」	ミライ 「ブライトノ カムランは、そ んな人じゃないわノ おもかじ 一杯ノ」		



234	233	232	231	230	229	228	227	226	225	224	223	222	221	220
Wベリース、ドサタのかけ	チベ、猛射ノ	チベのシートのコンスコンのり出して	光の中のチベ	主砲 ビーム、中央のムサイへ集中するややあつて爆発	主砲うつノ	ビームうつ	ミサイルうつ	ゆれるブリッジ	W・ベリース、ドックのかけから出てくるビームとび交うノ左前にあたりビームの閃光輝やく	ムサイ、うつ	射つガンダム	目から閃光	アムロ	アムロ
		コンスコン「う、うお」 クワメルが、 「やられたのか ッ!、ドムはノリック・ドムの部隊はどうなっているかノ 敵の手はゆるめるなノ」						ブライト「うっ!」 ミライ「あゝ!」 ブライト「目標ノ」 中央の艦ノ 狙て				アムロ「三つ!」		アムロ
														

270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	259	258	257	256	255
コア・ファイター、翼を切られる ドム、右へ旋	バズーカすてくるドム	ミサイル出る	ボタン、おす	コア・ファイター、ゆくドム、うつ	アムロ	ドム、爆発	ふりむきうつガンダム	ドムの単眼やられる	ガンダム、バルカンもうつノ	アムロ	ドム、爆発	前進するパトロール機	カムラン	パトロール機のコクピット	光の手前、パトロール機入ってくる
					アムロ「三つ!」					アムロ「四つ!」			カムラン「あ、あれは、ベルガミノの浮ドックあたりだなノ」	カムラン、パイロットA	直撃
													カムラン「(真)「な、なぜ、ジオンに判つたのだ………斗いをやめさせねばならんノ」 「ドムがサイド6の領空に入ってきているのはまずい!」	カムラン「あ、あれは、ベルガミノの浮パイロットA「は、はい」	
															

312	311	310	309	308	307	306	305	304	303	302
ミライの脇にしゃがむカ ン	ミライ、ふっと涙出る うつつく 涙、宙にうく	カムラン	ミライ	顔をあげ 顔をふり	Wベースの脇、ミライと カムラン	と、みる ビーコンのむこうWベ ースと各機	カムラン、パイロットA なめガンダムらひき返す で上	Wベースの脇にすべりこ んでゆくパトロール機	シャア、立つて	ザンジバル
カムラン「ミライ、昔は、そんな と云う君ではなかった。一体、	ミライ「……判って下さらないのね。 それでは、私は……ホワイ ・ベースは捨てられないわ」	カムラン「……父に頼んで やるって、さつきから……」	ミライ「……だ、だから、父の力を貸られ ば、サイド六で難を住めるよう にしてやるから」 「そうじゃないの、ホワイ・ ベースを捨てる私に、あなたは あなたは、何をしてくるの？」	カムラン「大丈夫……封印を破った件 は、父がもみけしてくれ……」	カムラン「……だ、だから、父の力を貸られ ば、サイド六で難を住めるよう にしてやるから」 「そうじゃないの、ホワイ・ ベースを捨てる私に、あなたは あなたは、何をしてくるの？」	カムラン「……だ、だから、父の力を貸られ ば、サイド六で難を住めるよう にしてやるから」 「そうじゃないの、ホワイ・ ベースを捨てる私に、あなたは あなたは、何をしてくるの？」	パイロットA「フ……カムラン 機長官、 H、こんな危険をかかしてまで 斗いをやめさせるのは、ごめん です」 カムラン「……すまん。しかし、あの連 邦軍の艦には、私の未来の妻が 乗り組んでいるんだ」 パイロットA「ホウ……」	シャア「砲撃まで、サイド六のバト ロール艇だ、コンスコン艇に も砲撃をやめさせるの、パトロ ール機をキズつけたら国際問題 になるぞ」	ミライ「……だ、だから、父の力を貸られ ば、サイド六で難を住めるよう にしてやるから」 「そうじゃないの、ホワイ・ ベースを捨てる私に、あなたは あなたは、何をしてくるの？」	

319	318	317	316	315	314	313
ミライ、手前にきれる たたずむカムラン	ミライ	とぶミライ	カムラン	上昇してゆくミライ 見送るカムラン	ミライなめカムラン中腰 になつて トンと上昇するミライ	カムランなめミライ 立つミライ
ミライ「……だ、だから、父の力を貸られ ば、サイド六で難を住めるよう にしてやるから」 「そうじゃないの、ホワイ・ ベースを捨てる私に、あなたは あなたは、何をしてくるの？」	カムラン「……だ、だから、父の力を貸られ ば、サイド六で難を住めるよう にしてやるから」 「そうじゃないの、ホワイ・ ベースを捨てる私に、あなたは あなたは、何をしてくるの？」	カムラン「……だ、だから、父の力を貸られ ば、サイド六で難を住めるよう にしてやるから」 「そうじゃないの、ホワイ・ ベースを捨てる私に、あなたは あなたは、何をしてくるの？」	カムラン「……だ、だから、父の力を貸られ ば、サイド六で難を住めるよう にしてやるから」 「そうじゃないの、ホワイ・ ベースを捨てる私に、あなたは あなたは、何をしてくるの？」	カムラン「……だ、だから、父の力を貸られ ば、サイド六で難を住めるよう にしてやるから」 「そうじゃないの、ホワイ・ ベースを捨てる私に、あなたは あなたは、何をしてくるの？」	カムラン「……だ、だから、父の力を貸られ ば、サイド六で難を住めるよう にしてやるから」 「そうじゃないの、ホワイ・ ベースを捨てる私に、あなたは あなたは、何をしてくるの？」	カムラン「……だ、だから、父の力を貸られ ば、サイド六で難を住めるよう にしてやるから」 「そうじゃないの、ホワイ・ ベースを捨てる私に、あなたは あなたは、何をしてくるの？」



連続テレビ・アニメーション番組

G 機動戦士 ガンダム UNDAM

録音台本

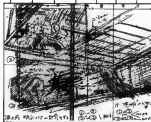

第34話 「宿命の出会い」


株式会社日本サンライズ
〒107 東京都港区上野町一丁目11
電話 03-3498-7100

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ


第34話 宿命の出会い
昭和54年11月24日放映

制作スタッフ
●脚本・原山博之●演出・藤原良二●作画・多賀かずひろ・兵頭敬・板野一郎・前島和子・戸川俊信●背景・安西徹夫・長野ゆかり・広瀬正明●動画・チェック・浜津守●仕上・ディーン(中島晶子・神田久子)●特殊効果●土井通明●撮影・旭プロ(平田隆文)●編集・鶴岡友彰●現像・東京現像所●音響監督・松浦典良●効果・松田昭彦●監音・日向国雄●録音・登音スタジオ●制作進行・量住政弘●設定制作・内井正●A・P●神田量
キャストと声優
●アムロ・古谷徹●ブライト・鈴置洋孝●カイ/古川登志夫●ハヤト/鈴木清信●ミライ/白石冬美●ラファ/藤恵子●スレッガー/玄田哲章●シヤア/池田秀一●カムラン/塩沢兼人●テム/清川元夢
●ナレーター/永井一郎


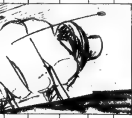
																			S	
18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		C	
歩いて来るブライト	ふり返るミライ	艦内、民間船見える、更にPANNWベース見える	サイド6、ハッチよりPANNWベース見える	サブタイトル『宿命の出会い』	戻るWベース	ガンダムひく、ドムやられ	ドムやられる	ドムあらわれる、ガンダム交戦	ガンダム、コアファイターゆく	ガンダム 9アーマーから外れる										画面
ブライト「海在の手続きがどうの、と云	ミライ「お帰りをさ。……どうだった？」	N「宿命の出会い」		N 「ドズル將軍麾下のリック・ドム十二機は、ホワイトベースのデッキワークの前に破れさった。しかし修理を受けることなくサイド6に引き返した。ホワイト・ベースにとって、サイド6も、また安住の地ではなかった」																音声
																				


148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136
アムロ	シャア、アムロみて	バギー前進すると、ロープがはねる	アムロなめララののつたバギー、エンジンがかかる	アムロ、あつとなる	アムロの横シャア	シャアなめアムロのりだし	ロープゆるる	アムロのよこへシャアくる	シャア、ロープを解きつつ来る	アムロ	シャア、ロープをとりだしてシャアがむ	アムロ眉がふるえる
アムロ (MONO)「は、はじめて会った人というのに、……何故、シ	シャア(背中)「どうしたノ 遅れ、アムロ君」		シャア「ゆっくりだよ。いいな。ララア」	アムロ (MONO)「シャア、(お)「ララア、車を動かして」 (お)「はい、大佐」 (MONO)「あ、あれがシャアか……シャア・アズナブルといつたな？」	シャア (MONO)「お名前は何？」 「シャア・アズナブル。ごらん、の通り軍人だ」	アムロ (背中)「お、お手伝いします」 (お)「すみません。あ……」 「……」						アムロ (MONO)「そ、そう……し、知っている……けど、僕は、あなたを……知っている……」

159	アイキャッチャー	アイキャッチャー	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149
Wベース・メインブリッ			ララア	シャア、ララアを見る	行くアムロのバギー	アムロ、バギーにとびのり行く	慌てるアムロ あつさり走り行く	シャア手を休めて	アムロどきまぎ	シャア、バギーのロープをほどき立ち上がる	アムロの前、シャア行く	ララア(TU)
			シャア ララア	「どうしたんだ？ あの少年」 「大佐の名前を知っているからでしょ？」 赤い警星のシャア おびえていたんですよ。 きつと……」			アムロ 「あ……い……いえ、そのう……あ…… ……ありがとうございます。じ…… これで、僕は……」	シャア 「そうか……若いな。目の前に敵の兵士をいれて、かたくなるのはわかるが……せめて、礼ぐらいは言って欲しいものだな、アムロ君」	アムロ 「あ……じ……十六才です」	シャア 「君は年はいくつだ」		「アアだつて判ったんだ？ それに、あの娘……ララアといつたな」

194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182
ブライトなめ木々の光が せまる	カムラン艇内 パイロットなめカムラン	カムラン艇内 カムラン、ドムの方をの ぞく	サイド6、Wベース、カ ムラン艇、手前通りすぎ るドム6機	ドム六機くる	ゆくドム	ロケットをふかしゆくリ ック・ドム		コンスコン	チベ艦橋 コンスコンと兵C	宇宙空間、チベ艦橋のそ ばに漂っている	コンスコンと兵士C	チベとムサイ
	パイロット「話が通じやないスカ。手 あて、はずんで貰いますぜ」 カムラン「ア？」					コンスコン「リック・ドムを発進さ せい。領空侵犯もかまわん。ど の道、戦斗は領空外だ。シャア ごとく若僧になめられてたまる かよ」	兵C「(背中)」「木馬は、進路を変えて、 反対方向から脱出するようです」				コンスコン「来たなガ」 兵士C「しかし、サイド6の民間機が 木馬にピッタリついていきます」 コンスコン「ヘン。物好きがいるもの だ。リック・ドムの発進は？」 兵C「もう出来るはずです」	

206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195
ミライはととする	オスカーなめスクリーン にライン輝やく	Wベースなめ三機のドム 追いこしてゆく	スレックガーなめアムロ来 る	ミライ	モニターTVなめブライト	モニターにカムラン写る	Wベース・メインブリッ ジより外を行くドム三機 カツ、レッツ、キツカさわ く	Wベース、カムラン艇の そばを……通り抜けるドム	カムランびくつく	カムラン艇、コクビット より ドム三機も抜けて行く	ブライト
オスカー「サイド6の領空線に近づきま す」		パイロット「ああ……」 パイロット「ヒッ……カ：カムランさん。 もう領空内いっばいですよ。こ れ以上行けば……」 カムラン「わ……わかってる」	アムロ「上で何かあったんですか？」 スレックガー「子供に關係ないの。俺は主 砲にいくよ」 アムロ「はこ」	カムラン「い、いや、領空を出るまでは ……(off)いや、この船がと べる限りはおともさせてもらい ます」	ブライト「カムランさんは、ここで結構 です。この先は私達だけでなん とかやっています」	ブライト「きたな!!」 カムラン「ブ：ブライト君!!」 ジ、ジオ ンのモビルスーツだ」 ブライト「はい!!」	カツ「ワ！ きたー!!」			ブライト「コンスヤコ殿ノ、契約を無視 して」	

283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268
テムの部屋 テレビで見ているテム	モニター画面	テム・レイ	冒となるアムロ	テム入れかわりすり抜け	アムロ・キヨロキヨロ	ガンダムのみわり、入れかわりすりぬけるドム	逃げるドムに命中し、爆発	バズ弾をかわすガンダム射つ	ドム撃つ	ムよけるガンダム。来るドム	来るドム	のがれるガンダム。行くドム	バズーカをかわすガンダム	レバーを前へ押す手	アムロなめ正面スクリーンドム
テム 「ガンダムを写せ、ガンダムの戦いぶりを……そ、そのだ……そう、ええい、アムロ殿、なにをやっているか！」	テム（泣） 「ええい、ホワイ・ベースはいい」	アナウンサー（泣） 「ドラマではありませんが、これは実戦です。宇宙のかたすみで、連邦とジオンが戦いつづけるのです」			アムロ 「見える……うごきが見える」										アムロ 「ワッッ!!」

299	298	297	296	295	294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	284
ガンダム盾でドムをはらいのける	剣をぬきつつ来るドム	ビーム、バズ弾に命中	うつガンダム	間よりバズ弾来る	ドム二方にわかれ、その間よりバズ弾来る	ガンダム	ドム、バズーカを撃つ	TVモニターへTU	ララアなめシャア見る	ララアなめシャアとララア	テレビ画面T・B	手前ムサイinしてうつ	Wベース、主砲うつ	カイとスレックガー	主砲のわきをビーム行く
							アムロ 「この」	アナウンサー（泣） 「この事実を目撃したならば、今後、我が国をとるべき立場を大いに考えていかなければならない処でしょう」	シャア 「はい……」 「よく見ておくのだな。実戦というものは、ドラマのように恰好のよいものではない……」	ア 「何度くりかえすようですが、これは、本当の戦争です。サイド6の、すぐ外で行なわれている闘いなのです。連邦のホワイト・ベースは一隻で、ジオンの三隻に対して……」 「フラナガンは、やさしくしてくれませんか？」				スレックガー「中尉、できてきました、みているよ」	

連続テレビ・アニメーション番組



録音台本

第35話 『ソロモン攻略戦』

制作会社 日本サンライズ
〒107 東京都港区上野国1-10-13
光井ビル5階 TEL 03-3499-7505

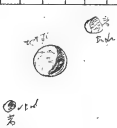
名古屋テレビ
制作 創造エージェンシー
日本サンライズ

第35話 ソロモン攻略戦


昭和54年12月1日放映

制作スタッフ

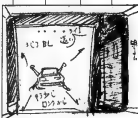
脚本 ● 松崎健一 ● 演出 ● 久野弘一 ● 作画 ● 伊東誠・広岡光昭・板野一郎・前島和子・戸川俊信 ● 背景 ● アップル (渡辺毅・渡部孝) ● 動画チェック ● 浜津守 ● 仕上 ● シャフト (森山政子・古谷素子) ● 特殊効果 ● 土井通明 ● 撮影 ● 旭プロ (斉藤秋男) ● 編集 ● 鶴岡友彰 ● 現像 ● 東京現像所 ● 音響監督 ● 松浦典良 ● 効果 ● 松田昭彦 ● 監音 ● 日向国雄 ● 録音 ● 監音スタジオ ● 制作進行 ● 草刈忠良 ● 設定制作 ● 円井正 ● A・P ● 神田量 ● キャスト ● 声優 ● アムロ ● 古谷徹 ● ブライト ● 鈴置洋孝 ● カイ ● 古川登志夫 ● ハヤト ● 鈴木清信 ● フラウ ● ポウ ● 鶴岡るみ子 ● セイラ ● 井上あづさ ● ドズル ● 長瀬芳夫 ● スレックガー ● 玄田哲郎 ● シェア ● 池田秀一 ● ワッケイン ● 榎本和行 ● ゼナ ● 角谷美佐 ● ナレーター ● 永井一郎

																			S	
	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	C	
	サブタイトル「ソロモン攻略戦」									眼輝やく ガンダムひつくりかえる	ドッキング	近づく	A パーツ外れ	パネル	セイラ	B パーツ下りる	カパー外れる	G・アーマーくる	画面	
N									N						セイラ セイラ (off) 「パーツ・アウト」	セイラ 「四、三、二…」	セイラ 「四、三、二…」		音声	
「ソロモン攻略戦」									<p>「サイド6を脱出するホワイトベースに対して、コンスコン機動隊の攻撃は執拗を極めたが、ガンダム以下、各機の活躍によって、しりぞける事に成功した。しかし、本格的な戦いは、これからである」</p>											

55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	43
アムロ、アノとニコッとするがあれ？という表情になる	ブラウくる	アムロみる	人かげがくる	アムロ、メカ整備をして いる	ガンダム整備中のアムロ	とむいて 前へ出ながら	ワッケイン ワッケインなめブライト	ワッケイン ふつとうつむいて	ニット笑って	ブライト目を見はる	ブライト、ワッケイン立ち止まる 床がスクリーンになる
		少年A (off) 「お食事です」		アムロ 「磁気圧が上がらないのか？ まいったな……」		ワッケイン「ああ、あの、ガンダムの妨 やか。素晴らしい才能の持主だ。 彼は、我々と違う？……どう？」 ワッケイン「そう思えるのだ……」	ワッケイン「君自身、そんなことを考え られるようになったものだし、ふ 余裕ができた証だ。…… 大丈夫だよ」	ワッケイン「そりですか……大変な任務で すね。我々に出来ませうか？」	ワッケイン「それだ。ホワイト・ベース は我々と共にソロモン攻略の先 鋒となる」	ワッケイン「これは……やはり作戦目標 は、ソロモンですか？」	ワッケイン（背中）「みたまえ」 ワッケイン（背中）「これが現在、我々の 通っているコースだ。主力は 大きく迂回してすすんでいる」

67	66	65	64	63	62	61	60	59	58	57	56
		ファイルを取り出し	ムスツクとなるドズル	いいにくそりに士官B	ファイルみて	ファイルをとりあげて	ドズルと士官Bいる	パイプにパイプの船首が つつこむ	港内に入るパイプ	目頭をおさえるアムロ	ブラウは少年Aにかわる
上官C	ドズル	兵D	ドズル	士官B	ドズル	士官B	ドズル			アムロ	少年A
「申しわけありません、 フスキー校子の態度に悪い処を 多謝中ですが、ダミーが	「それにだ、アナム艦隊の 動きはつかめぬのか？」	「ハッ」	「ええい、 「ビッグ・ザムの組立てを急がせ ろ」	「何だ、 「今回のビッグザムも試作段階で して。開発は急いでいるのです が、何分各方面からの要請が ……」	「ええい、 「兄上は、何を考 えているのだ。 今あるリック・ドムでは数が足 らんのだ。新鋭モビルスーツの 一機をよこすくらいなら、ドム の十機も廻さんのか？」	「ええい、 「兄上は、何を考 えているのだ。 今あるリック・ドムでは数が足 らんのだ。新鋭モビルスーツの 一機をよこすくらいなら、ドム の十機も廻さんのか？」	「（背中）「パイプ艦でたつた一機 のビッグザムだけだ」と？ 「ハッ」 現在はいれしか出せ ぬと」			「あ……そこ、おいておい て下さい。あ、ありがと」 アムロ 「まいったな……」	「どうかしましたか？」

68	怒鳴るドズル	ドズル 「それが戦争というものだろうが！」
69	サイド6の1つのコロニー	
70	その港に	
71	その港内 ザンジバル停泊している コンテナが入ってゆく	兵B (off) 「物資搬入急げ！」 兵C (off) 「気送パイプ解除。バルブ閉鎖」 兵D (off) 「艦内気圧チェック急げ！」 水先案内人どうした！」
72	ザンジバル・エアロクック なめ閃火艇くる	
73	明るいエア・ロクックの中 にすべりとむ	
74	ロクック内の出っぱりをつかむ 閃火艇のツメ	
75	うしろのエア・ロクックの ドア閉じていく	
76	閃火艇のドア開く シャアでてくる	シャア 「御苦労でした。監察官殿 封印は解いていただけましたかな？」
77	シャアなめカムラン	カムラン「封印はとりましたが、領空内での発砲は……」 シャア (背中)「承知している」
78	シャアとまる	カムラン (背中)「早く出ていって貰いたいものだ。二度と来てもらいたくない」 シャア「言葉には、気をつけたまえ。ミスター・カムラン」 カムラン「なに？」 シャア「「サイド6が生き延びてこれたのもジオンの都合による。その辺を、よく考えるのだな」

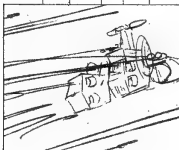


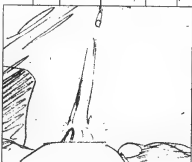
79	ギリッと歯をかむ	カムラン「……／お、お目こぼしだともいえるのか？」
80	手をぶつて	シャア「ララア……。何をしている」
81	カムラン見る	
82	ふつとランチの入口にか がむララア	
83	カムランとその部下のり だす	
84	手と足で前方に体を蹴る ララア	
85	とぶララア	
86	とぶララア	
87	とぶララア	
88	とぶララア	
89	とぶララア	
90	息をのんでいるマリガン カムラン	
91	ララア ゆく	
92	シャアなめカムラン	カムラン「ど、どなたですか？」 シャア「私の妹、……とでもしておいてもらおう」
93	手すりにつかまっ て着地するララア	
94	ララア、シャアを待つ	
95	シャアがくる	
96	ララアうれし	
97	あるサイドのコロニーの ガラス部分に写る第三艦	




110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	隊
ワッケイン	正面 マゼラン	コッスンとヘルメットつけて三人	あけはなしたドアのむこうに三つのノーマル・ス	フラウなめブライト振り向いて	サラチス二艦、前へ出る	不安気なみづめるフラウ	カイ、キャノンにのるハッテしまる	全員、ノーマル・スーツを着用	ブライト、ノーマル・スー	Wベース、マゼラン	マゼラン、Wベースなど	ボロボロのコロニー、手前に第三艦隊の先鋒がゆ	
ワッケイン (off) 「戦法は正攻法。突撃を形成する。全艦正面より進攻する。」	レツ「こんな処、ジャとしてんなんてさ」 「こんなの着てなきや戦えんだ」	「はいい」	「フラウ・ボウノ カツ、レツ、 「重力コアのEプロットにいま 「ハロもか？」	「はいい」	ワッケイン (off) 「艦隊機一文字体型に移動」	ワッケイン (off) 「以後は、敵と我々の間を邪魔する物は一切ない」	カイ 「やれやれ」	ワッケイン (off) 「現在は、敵と我々の間を邪魔する物は一切ない」	ワッケイン (off) 「現在、我艦隊は敵の宇宙要塞ソロモンから 第三戦 斗距離に位置する」				


125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111
サラミス三艦ゆく	ゆくWベース	マゼランくる	のびるロケットの軌跡	すむバブリカ	れる バブリカブースター外	バブリカ各機、ブースターを外す	叫ぶワッケイン	真ん中のカウンターが 〇〇〇になる	ワッケイン スタリオンに写っている		ワッケイン	アムロに向かってカイ	アムロうつる	カイ、チラと見上げ
							ワッケイン「発進」	ワッケイン「攻撃開始、マイナス八ノバブリカ各機……三、二、一」	アムロ「対、要塞兵器？ ……なんだろ」	ワッケイン「諸君らは、十五分だけ持ちこたえればよいんだ。その間に本隊が、対要塞兵器を使用する」	ワッケイン「そんなこと言ったつて、おめえ」 「ムダ口がすぎるわ。カイ。主力のタイアナム艦隊を信頼するのね」	カイ「そんなこと言ったつて、おめえ」 「ムダ口がすぎるわ。カイ。主力のタイアナム艦隊を信頼するのね」	アムロ「大丈夫ですよ。連邦軍だつて考えてますよ。ほくら、一人じやありませんから」	カイ「じ、冗談じゃないよ。たつたこれだけじゃ、死ににくいようなもんじやねえか」

139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126
その時、ソロモンで光が	ソロモンに向うバブリク 二機は射つた後、	バブリクのミサイル次々と発射	ビーム曳光弾とび ソロモンに爆発がおこる	マゼラン主砲りなる	ミサイル、主砲、ビームの斉射はじまる	ブライト	Wベースより点線がのびる	ビームがサラムスの脇をかすめる、手前に当ろうとするビームわずかに曲っている	バブリクなめ、ソロモンのビームがくる	ドズル坐りつつ	ソロモンの各砲塔、撃ち上げる	ソロモンに対しての図示がきらめいている	ドズル立ち止まる
						ブライト「ミサイル、主砲、ビームの斉射用意……うて				ドズル「(背中)「オオ、ソロモンの各砲塔、発射できる集から発射させよう」	ドズル 士官 「はっ」	士官 「ハッ、サイド4の残骸にまぎれて接近中でありました」 「ミサイル攻撃入りました」 「よし、しとめよ」	ドズル 出の状態は」敵の進
													

153	152	150	149	148	147	146	145	143	142	141	140		
マゼランの腹からG.M.が次々と出る	ハッチからボール、モビルスーツ発進する	ワックインなめ、ソロモンよりミサイルと曳光弾とんでくる	バブリク、ミサイルをうつ放散するビームの直撃にバブリクやられる	ドズル左をみて怒鳴る	ソロモン司令室	エネルギー・ビームうつコリスがねじまげられる	発射するビーム砲	飛来するミサイルにビーム命中爆発するがそれも紅色となる	発光しだす	胴体の横に弁が開き、紅色の粒子が吹き出す	ミサイル二機ゆく	きらめきビームが来る	
		兵B (off)「ワックイン」(背中)「よし、各艦任意に突撃せよ」我艦もジム各モビル各モビル・スーツ隊発進		ドズル「敵は強力なビーム機を張ったぞ、リック・ドム、ザク敵は数が少ない、ミサイル攻撃に切りかえるのだ、ミルバ艦隊、左翼に展開しろ、ミルバ艦隊、後方をおくろ。ティ・アナムの主力艦隊は、別の方向からくるぞ」									

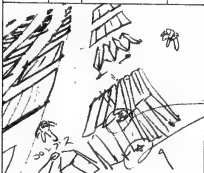
	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	159	158	157	156	155	154	
	アイ・キャッチャー	アムロ左右をみて	ガンダム、うしろにも降下するボール	ジム、ボール前進する	曳光弾の中ゆく各機モビルスーツ	サラミス正面、砲撃している(左)	ガンタンクゆく	行くガンダム	ガンダム発達	アムロ	キャノンゆく	キャノン、カタパルトにたまえる	キャノン、カタパルトにゆくGフアイターのロケット炎	セイラのGフアイター、セイラCUT・in	Gフアイターゆく	ハッチ開ききる、途中でスレッガーCUT・in ロケット噴射	ミライなめブライト
	アムロ 「……これが……戦場か」								アムロ 「……行きますす！」	カイ 「ガンキャノン、いくぜえ！」	セイラ (MONO) 「ザンジバルさえないなければ…… (on) セイラ、いますす！」			スレッガー 「みんな、出遅れるなよ！」			ブライト 「モビルスーツ、各Gフアイター発達はじめノ、協同作戦だといふことを忘れるな！」


[illegible]

193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180
ドア左右に開く、兵、敬礼する	立ち上がるドズル むこうへゆく	ボールへガトルつつこむ ガトルやられる	ムサイ三鞭砲撃	ドズル 受話器をとって	カイ手をあげ、すべりこむ Gフアイター	ドム、バツと散る	セイラ CUT・in Gフアイター、ビーム撃ち終る	キャノンのうしろ、ドムがつつかかる、がビームによるめくドム、ふりむく キャノン	二発目の砲撃めりこむ	ガンキャノンうつつ	カイ、ボタンをおす	せまりくるミサイルに左 右からスコープ合つて爆 発、光が画面一杯になる、光 が消える、次のにもすぐ ザグが入りこむ	スコープを合せるカイ 「たいした物量だぜ、この野郎」
	ドズル「ラコック」 「off」「ハッ」 「す」 「戻る」 「中將」 「はっ」			ドズル「戦艦クワン発進しやげ」 「ビグ・ザムの組立は終らんのか」	カイ「セイラさん」 「受しているよ」		セイラ「カイ、息をぬいてはだめよ」				カイ「うわーおっ」	カイ「(off)」「一発目……」 お次はク」	カイ「(off)」「一発目……」 お次はク」

205	204	203	202	201	200	199	198	197	196	195	194
四方八方からミサイルをうける	ドムすりぬけてくる バズーカうつつ	爆発	ドムの上体に二発あたる	Gフアイター ミサイル	Gフアイターのスレックガ	戦艦クワン浮上	身をひいて肩をゆすつて 笑う 行く	眠る赤ん坊、ミネルバ・ラオ・ザビ。くすくす んと首をふるミネルバ	かがみ赤ん坊をみる	ゼナ、赤ちゃんを抱いて 身を起こす	ドズル「万一のことがある。女共は退却カブセルに移れ」
				スレックガー「(off)」「ホイ」	スレックガー「チャイこつち、チャイこつち、そりそり」		ドズル「フッ、フハハハ 急げよ」	ミネルバ「(背中) 手に入れたミネルバのため」 ゼナ「お声が大いから……」	ドズル「急いでな」 ゼナ「(背中)」「戦局はそんなに悪いので すか？」 ドズル「急げ」 ドズル「(off)」「は、はい」 「このソロモンが陥ちるものか。 万一だ、……万一の事を考えて ようやくにも……」	ゼナ「」	



214	213	211	211	210	209	208	207	206	
おくて開くミラー 手前ゆくミラー	左右に開くミラー とまるミラー	マゼラン、サラミスから 流れる光が、キラキラと みえる 岩のむこう、ズラリ とならんでいるミラー	岩のある宇宙 宇宙へT・U	PAN・T・U やや早 走る ビームやら、ミサイル	タンク、キャタピラーや はげしくブレるタンク	ガンダム、ビームをよけ る ビーム構えつアムロC UT・in、左右をみる、 Gフアイターうつ、セイ ラCCUT・inin、スレッガイ ハヤトとカイ	ふくれ上がるムサイ	ムサイ砲塔にあたる	サラミスやられる
		O・L	O・L	N		アムロ「次はっ」 セイラ(息)「ハッ」 セリッ「このお」 ハヤト「あれか」 ハヤト「ハッ」 ハヤト「ハッ」			
			<p>「生か死か、それは終つてみな ければ判らなかつた。確かなこ とは、美しい輝きが一つおこる たびに、何人か、何百人かの人 々が、確実に、宇宙のチリとな つていくというのだ……」</p>						

226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215
ムツとする	ふつとコップをみつめ、	ドズルのむこう、ラコック、 コーヒールにいてる ラコック、コップ差し出 しながら	ムサイの前からうしろま で ビームぬける	アムロ	ガンダムの前にムサイく る	ドム・GMに切りかかる そのむこうをゆく衛星弾 正面みるガンダム	アムロ見上げる	衛星ミサイルゆく バズーカうつボール 手前、衛星ミサイルゆく ボールにぶつかる	ゆく衛星ミサイル	うしろのドアが開いてド ズルくる	マゼラン・ブリッジ ミラーならんでいる ティアンむこうをみて 正面を見て
ドズル	ドズル	ドズル 「敵本隊に戦艦グワランとムサ イを向かわせろ」 「第七師団に援軍を求められま したら?」 「ナまん……」 「キシリアにか!」		アムロ 「うおー」			アムロ 「あれは?」			ラコック「なに?」 「1の残骸に隠れていたのが、判 りましたアア」 「どうしたか」 「ティアンムの主力艦隊です」 「衛星ミサイルだ」	ティアンム(背中)「ミラーの準備はあ と?」 「ハッ」 あと四分ほどであり ます ティアンム「ソロモンも、そろそろ こつちに気づくぞ」
			<p>「……」 「これしきのことで、 国中のもの笑ひになるわ」</p>								

342	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331	330	329
爆発続くソロモンから遠	ゼナとミネネバはクッ ションにねている	宇宙空間に射出される脱 出ポット	ドズルのおだやかな顔 身をひいて	身をひきつつゼナ	顔にキスして、そのまま （白詞（セリフ））	脱出ポットの 侍女が中へ声をかける 出てくるゼナ	ドア開く、ひどく明るい ドズルと、くる	目をしばたいて……	双眼鏡をみるカムラン	カムランのバトロール要 へTU	ザンジバルゆく	ザンジバルゆく	ザンジバル噴射
			ドズル 「私は軍人だ。……ザビ家の伝 統を嗣する軍人だ。……死にはせ せん。いけい。ゼナノ、ミネ ネバと共に」	ゼナ 「あ、あなた!!」	ドズル 「いや、脱出して姉上のグラナ ダへでも行ってくれ。」 「大丈夫だ。案ずるな。……ミ ネネバを頼む。強い子に育て てくれゼナ」	侍女 「ゼナさま。中尉がいますし、 おまじなを」 ゼナ 「あ、あなた!! いけないので すか?」 ドズル（背中）「周旋をいうな。ソロモ ンには、随分はせんて」 ゼナ 「では?」 ドズル 「いや、脱出して姉上のグラナ ダへでも行ってくれ。」 「大丈夫だ。案ずるな。……ミ ネネバを頼む。強い子に育て てくれゼナ」	ドズル 「ゼナはいるか?」	カムラン 「いつてくれたか…… やれやれ……ミライ……。せめて 長生きしてくれよ……」					

第三戦斗配備



350	349	348	347	346	345	344	343
FW・O 猛攻の中、ソロモン	ドズル、ビグ・サムへ近 づく ぐいっとふりむきつつ	ニッとして	整備塔の中、ビグ・サム、 スポットの中にある	前見て	ガトル機の上を流れてゆ くドズル	流れてゆくドズル ザク、ドムの単独つく	リフト・グリップでくる ドズル
	ドズル 「反撃姿勢、いそがせい」 「ソロモン、また、敵軍の集 集している」	ドズル 「これがビグ・サムか!!」					ドズル 「モビルスーツ隊の編成を急げ 敵は上陸しつつある、 決戦用、リフト・ドム、ザク ……出動用意」 ガトル戦斗隊、ミサイルの補給 …… 「さんだものから発進させい、 ビグ・サムの用意はどうか、 決戦はこれからである」

第三十五話・おわり



G 機動戦士
ガンダム
UNDAM

無言台本

第38話 「恐怖 / 機動ビッグ・ザム」

制作 名古屋テレビ
創通エージェンシー
日本サンライズ

第34話 恐怖！機動ビグザム

昭和54年12月8日放映

制作スタッフ

●脚本・松崎徳太郎 ●熱コンテ・斧谷敏彦・演出・関田修 ●作画・山崎和男
●美術・芳尾 昭一郎 ●原稿・葉野川智美 ●背景・マジック・ハウス（小林和史）
●村名里・桑村茂雄 ●動画チェック・浜津守 ●仕上・ディーン（小林和史）
●三枝幸子 ●特殊効果・土井通明・撮影・旭プロ（平田隆文） ●編集・
鶴岡友成 ●現像・東京現像所 ●音響監督・松浦典良 ●効果・松田昭恵 ●監
音・日影 範 ●録音・聲音スタジオ ●制作進行・深田節雄 ●設定制作・田
井正 ●A・P・神田量

キヤスト&声優

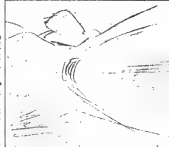
● アムロ／古谷徹 ● ブライト／鈴置洋孝 ● カイ／古川登志夫 ● ミライ／石冬美 ● スレック／玄田哲章 ● ドズル／長堀芳夫 ● マ・クベ／塩沢兼人 ● シン／二又成 ● バロム／滝雅也 ● ハワド／塩谷真二 ● ゼナ／角谷美佐子 ● ナレーター／永井一郎

8	C	面	面	音	声												
17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	C
浮かぶホワイト・ベイス 手前より損傷をうけたG フアイターが入り込む	攻撃するGM、ゴール	応戦するガトル	ソロモン続けただれた地 表の上攻撃するGM、ポ ール	手前ガトルつつこむ	ソロモンから撃ち上がる ビームやミサイルつぎつ ぎに降下するボールやGM	サブタイトル 「恐怖ノ 機動ビグ・サ ム」	ガンダムなめ爆発	ソロモン直撃	ソロモン直撃	ソーラ・システム輝く	タンクやられる	やられるオブリック	やられるGM 爆発	サラミスやられる	ガトル出る	ソロモン砲撃	
										N							
					N 「恐怖ノ 機動ビグ・サム」					「地球連邦軍、第三艦隊の宇宙 要塞ソロモンに対しての総攻撃 は、ソーラ・システム・システムに よって一つの突破口を開いた」							
					N 「恐怖ノ 機動ビグ・サム」												

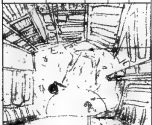
57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43
金ムタの指輪を差し出す	ミライの方むいて	スレツガーとミライ	スレツガー頭を下げる	また涙がジワツとミライ	停まるスレツガー苦笑 そしてミライをみる	立ちあがるスレツガー	スレツガーとミライ スレツガー目線をは少し	みているスレツガー	スレツガーとミライ	な、なんだという顔のス レツガー……	なみだをうかべているミ ライ	食事を続けるスレツガー ミライをみて	ミライ、ニツとして	ミライ入ってくる
ミライ	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」
「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」	「……死なないで下さい」

72	71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58
ゆらめく体を右手で腰に 支えて動きをとめるミラ	スレツガー	スレツガーの顔がミライ に近づく、スレツガーの 右手、ミライの体からぬ きながら床をける	スレツガー	スレツガーとミライ	やさしいスレツガー	ミライが目を閉じる	スレツガー 腰がゆれる	スレツガー 腰がゆれる	スレツガー 腰がゆれる	スレツガー 腰がゆれる	スレツガー 腰がゆれる	スレツガー 腰がゆれる	スレツガー 腰がゆれる	スレツガー 腰がゆれる
スレツガー	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」
「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」	「中尉ノ」

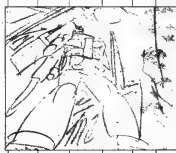


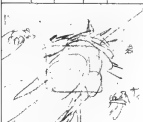
118	117	116	115	114	113		112	111	110	109	108	107	
ボールとぶボール	地面にたたきつけられる	爆発	すごいビームの中、ちぎれながらふつとぶボール	一歩くる巨大な影、ビーム発射	コクピットのドズル	爆発の中、巨大な影 単眼、す早く動いている	射ちながら進むボール	身を引く別のGM	GMに命中したかと思うと爆発	グイッと向くと すごいビーム砲を発射!!	ザクまた一機やられるとびらのそばに何か巨きな影	連邦側のボールもやられる	レーザーとびかり射っているザク、ドム
			ドズル 「来るぞノ、木の樫共がノ、このビグザムがそこらのモビル・アーチャーやモビルスーツと違う処をみせてやれ」	マイヤー 「ハッノ」			シン 「注意しろ、新型だ!! てかいパイロットヨ(○)」 「なんだと、何機いる」 「待て、新型は一機だけのようだノ、後はリック・ドムかザクしかない。やるぞ!!」 「待、まて、相手の戦力を……」						
													


134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119
ドズル	応答するラコッタ ビク・ザムのコクビット	右手にもった銃で壁をこわし奥へゆくガンダム	シンの声がブツンと消える 眉しかめるアムロ	ビク・ザム、中央輝いてくる砲筒	シン	それてしまいうビーム	ビームを連射するGM	叫ぶシン	悲鳴にハッとなるアムロ	アムロ	ガンダム足をあちす正面をむくガンダム	おびえるシン	爆発のむこう近づく巨大な影	しりぞくGM、おびえるシン	ボール爆発
ラコッタ(○) 「よし、しかし、残存艦隊も発進しつつあります。閣下自	ラコッタ(○) 「なんだノ」 「か、閣下はどちらに?」	ラコッタ「こちら司令部ですノ 閣下は	アムロ「化物?! だしかめてやるノ」	シン「ば、化物だ」	シン「ビ……ビームが……」			シン「うわあぁ……」		アムロ「出てくるのなら早くでてくれよ」		シン「ああ……」		シン「ああ……」	

198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185
198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185
一方を見る	通路の奥	とぶガンダム	奥の方で光がもれる	ガンダム岩かげよりのぞき ビーム・ライフルを構える	G.M.がかけてむが、ビグザムのロケット噴射でとけてゆく	ソロモンの内とけたG.M.、ボールいる爆発おさまるガンダムでてきて立ち止まる	ムサイのブリッジをすりぬけるG.F.ファイター	スレタガー	G.F.ファイターすべりこみ ビームうつ	ムサイのアオリ	ソロモンを背にした二隻のムサイ、ビームうつ中をつつこむG.F.ファイター	スレタガー	チベの後部がババアとスパークしている
					アムロ	アムロ		スレタガー「ハハアー なんてじょノ 怪ノ おつと ノ」				スレタガー「おつきはカ」	
					「むこうか!!」	「おそかったか!! 一体どんな奴だ? モビルスーツをこんな風に破壊できるのは?!!」							
													

(ア)

214	213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199
ブライトはっとして	スカ ブライトとマーカー、オ	飛ぶWベース	ビグ・ザム上昇する	ビグ・ザム、ソロモンより上昇する	ビグ・ザムのビームをよける	ビグ、ザクの頭足がすべるキャノン	キャノン、ビームをよけ、おきる	ソロモンに向かって砲撃するキャノン	たて穴、ロケットの噴射見える	たて穴の処、立ち止まるガンダム見上げる	ガンダム走る	ロケット噴射が上昇してゆく ふきこむ煙、ガンダム入りこむ	アムロ	爆風の中、膝まづくガンダム	G.M.とける
マーカー・オスカー「ソロモンに、まだ発進する船がありますノ」 オスカー「ソーラ・システム集点合せ略号キャッチノ」 ブライト「なにノ ソーラ・システムが					カイ								アムロ 「な、なんだ!!」		
															

227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215
ブライト うしろにふりむく	マーカールとオスカー	百ベースへ降下するセイ ラ機	ミサイルがゆき爆発	上昇するセイラのロフア イターミサイル通り	上をみるセイラ	進むビグ・ザム ドム、ザクが二機ぐら いづつくついている	ドズル、宇宙服のフラス ナーをあげる	灼熱したムサイが爆発す る手前別のチベがミサイ ル・ビーム砲うちつつ進 む	光の中、ムサイ爆発	ムサイ、チベやられる	ムサイのブリッジフロ ント・ガラスがふきとぶ	ビームの交戦中のソロモ ン艦隊バツと中央の三隻 だけ発光する
ブライト 「格納次第、ソロモンを突進し た大型モビル・アーマーを追う ノミライ!!」	マーカール「セイラ機被弾、第三デブヤ リ格納します」 ブライト「いそげよ」					セイラ「ノ」	マイヤー「残った艦は敵主力艦に突攻を かけます」 ドズル「ようし」 マイヤー「ビグ・ザムの目標は!!」 ドズル「後方の指揮艦を狙うノ」 「ザコ には目をくれるなノ」				真流「ううわーッ」	まだ生きているのか!!

238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228
ガンダム、ロケットをド クと噴く	カイOUT・in スレックOUT・in	のりだすアムロ	サラミスの半分ぐらいを つつむビーム、あつとい う間に爆発ノ	正面のビーム発射	サラミスとドム左右より 接近	百ベースまわる	ミライ、チテとブライト を見る	ブライト、ミライをみて いる	バンマスとかわるミライ 蛇輪にとりつく	ブライトのむこうにミラ イがいる
	アムロ 「やっぱりノ! ただ大きいだけ のモビルアーマーじゃなかった」 スレック「い、いま、確かにビームを はね返した!!」 「ミ、ミサイルの効かないとい うわけか? ... 損害がふえら ないで!」			マイヤー(背中)「サラミスですノ」 ドズル(背中)「かまわんノ 前部ビ ムうて」			ミライ「百八十度回頭だノ いそげノ ミライ「はいノ」		バンマス「はい」	ミライ「すみません……。中尉。……。 もう大丈夫ですノ」 ブライト(背中)「よし、バンマスノ サブ・ブリッジに戻ってくれ」


279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263
モニターにスレタガーウ	Gアーマーに						ガンダム・ドッキング	Gファイター、ロケット ふかして外れる	アムロみてゆく	スレタガー、手で大きく ドッキングするぞ、と合 図する	ガンダムのむこう、また 一つの光の輪、その間に Gファイターまわりこみ	マゼランの船体二つにな り爆発	兵はねとぶ ティアンムも光の中	マゼランをうつビーム	ビームがゆがむ、ビグ・ ザムはすすむ	光の中のドズル
スレタガー「いくぜ！アムロ晋長！」	アムロ（晋中）「は、はい、しかし、								アムロ 「スレタガー中尉！ドッキング こもうっていのだな？」	スレタガー「！」			兵・ティアンム「うわ！」			ドズル 「ハハハハ！みたか！ビグ ・ザムが量産のあかつきは、連 邦なぞ、あつという間に叩いて みせるわ！」




292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280
アムロのむこう、ドムが	ザクにあたり動きがとま るザク、そのむこうをG アーマーかけぬける	Gアーマーに直撃 爆弾の中からとび出すG アーマー、ビームうつ	ビグ・ザムのまわり、ビ ームゆく、ドムとザクく	Gアーマーつつこむ	四方へビームをうち出す ビグ・ザム	スレタガー	Gファイターひねりゆく	スレタガー	アムロ	スレタガー	アムロ	スレタガー
						スレタガー「アムロ！下からつつこむ ぜ！」		スレタガー「私情は棄物よ。奴のため、 これ以上の損害は出させねえ。悲 しいけどこれ戦争なのよね」	アムロ「スレタガー中尉！」	スレタガー「いやは三重の武器があるとな りやあ、こつちがやられたつ て……」	アムロ「はい！」 「スレタガー「こつちのビームがだ めならガンダムのビーム・ライ フル、そしてビーム・サーベル だ。」	スレタガー「つもらも、つもらでなにも あるものか。磁界をはっている となりやあ、接近して、ビーム をぶらこひしかなない！」





307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293	
を ビーム 中心に 内から 爆発おこ	ゆれるビグ・ザムの足 ガンダムの手上がりビー ムを連射する	レバーおしてボタンおす	ゆれるビグ・ザム Gアーチャー大きくゆれる	ふりむくスレッガー	スレッガー照り返しの中 どなっている、むこうの 砲身にビグ・ザムの爪が かかる	スレッガーのつげ根にビ ームがゆき、四方へちる	Gアーチャーへ左右からツ メぶちこまれる、Gアー チャーのビーム輝く	ビグ・ザムのツメがとぶ	ビグ・ザムのツメがとぶ	ビグ・ザムの下にツッコ むGアーチャー	ドズル	スクリーン、情報の数字 入る	ふりむくドム 三発のミサイルあたって 爆発	Gアーチャー、リア・ミサ イルうつ	通りすぎる
		アムロ 「うわっ!」		スレッガー「まだア!」							ドズル 「下か!! 対空防御!」	ドズル (off) 「ん?」			

321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	
アムロ	ガンダム、ビーム・サーペルをふりあげてふり下ろす	ドズルのむこうモニターのすきまから爆発がこる	体ごと切り下ろすガンダム	ドズルのサンバイザーに上昇するガンダムがうつる	ロケットふかして上昇するガンダム	キラノとビーム・サーペルぬくガンダム	ノズルにビーム・ライフルをつっこむ、引金をひく	アムロ	Gアーチャーの破片と共にスレッガーの体ふつとぶ	アムロ	爪のくいこんだGアーチャーのコクピット、爪手前へくる ガラスわれスレッガー、カメラ前にとんでくる	コクピットのドズル	ゆれるビグ・ザム	右胸のつげねが爆発する
アムロ		ドズル		ドズル				アムロ		アムロ		ドズル		
「このオー!」		「う、うわっ!」		「うわ!!」				「やったなアー!」		「中尉!」		「うっ! こ、このオー!」		
														

337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327	326	325	324	323	322
型銃をうつドズルのうしろ ゆらゆらっと上る何かの	アムロ	ゆらりと身をひくアムロ	ドズル	ガンダムに当たりはじける銃弾	ドズル銃をうつ	T・B ドズルのむこう ガンダムがいる	ドズル	ドズル P・U	ドズル銃をかまえて	身をひくアムロ	ドズルのりだす	ドズルの手、無反動砲をつかむや	ドズル身をひき	モニターがふっとび、あちこち爆発する	ガンダム、サーベルを切りこみひく、ぐいっとかまえる
		アムロ 「な、何者なのだ？ あ……あ……!!」	ドズル 「ジオンの栄光！ この俺のプライドノやらせはせんノやらせはせんノやらせはせんぞオ！」		トボキ 「うおお……うお」		ドズル 「やらせはせんぞノ貴様ごときに、やらせはせん！」	やらせはせんぞノ		アムロ 「うあ？？」	ドズル 「このビグ・ザムがやられるのか?」		ドズル 「た、たかが、井中艇一機のモビル・スーツに……」		

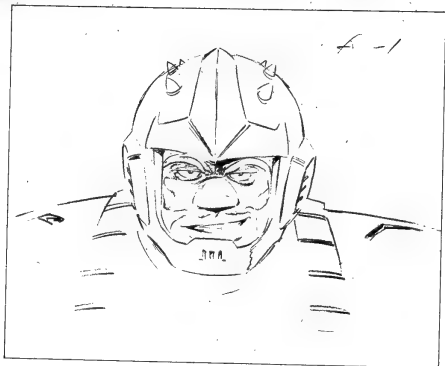
349	348	347	346	345	344	343	342	341	340	339	338
マ・クベ、再びゼナをみ	マ・クベとパロム	マ・クベ、ジロリとみて	マ・クベとゼナ	マ・クベとゼナ	グワジン	星々の中、光が一つゆつたりときえてゆく、グワジン入ってくる	ビーム・サーベルもつガンダム退る、ビグ・ザム爆発	ふっと見える型 ビグ・ザムの爆発にドズルの体がつつまれる	アムロ	ガンダムなめ、ゆらめきの怪る型	アムロ
マ・クベ「よからう。私もその任務につこう」	マ・クベ「そうだな。君はあくまでも、ソロモンが持ちこたえられた時の情報収集と脱出者救助の難をのこします」	パロム 「ハッ……奇襲をかけるにしてみれば、すでに時を逸したようでは、ソロモンが……」	マ・クベ「……どうだろう？ 大佐は、このグワジンでゼナ様をグラナダへお届けしろ。私は、チベリつり、今後の連邦の動きを見届けたいが？」	マ・クベ「ソロモンが……おちた……なパロム」「ハッ……」 ゼナ(没く)「うう……うう……」					アムロ 「……」		アムロ 「な……なんだ？……」
											

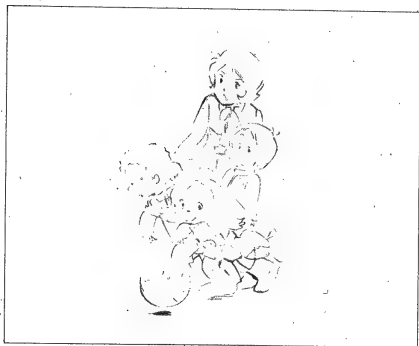
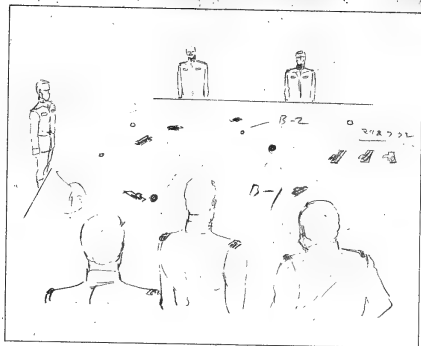
363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352	351	350	る
マ・O やけただれたソロモンの まわりの連邦軍の艦艇	セイラもうつらうつら カイウいてねている	アムロうけとる アムロにジュエ スの入れものをわたす	カフカ、ノーマルスツ から、はいだす	ハヤト、目をしばたか せる	麾下にねている兵たち	ドンと壁に体をなげだす ミライ	ミライのりこむエレベ ーターのドア閉じる	ミライくる、セイラ見送 る	うつむくミライ	ブライト	見ているフラウら	アムロにとりすがって、 ふるえているミライ	手でいっぱいさがすミ ネルバ	
						ミライ「ああーッ」						ミライ 「……うそって……うそだって、 いえないの、アムロ……」	ゼナ（泣く）「う……」	
														

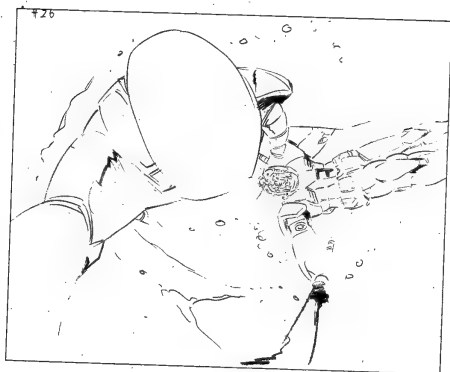
第三十六話・おわり……











機動戦士ガンダム UNDAM

録音台本

第37話 『テキサスの攻防』

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ

第37話 テキサスの攻防
昭和54年12月15日放映

制作スタッフ
●脚本/山本優 ●絵コンテ/并谷隆 ●演出/貞光紳也 ●作画監督/中村一夫 ●作画/中村プロ(西城明・小林大介・伊藤昌宏) ●背景/アッパル(渡辺毅・渡部孝) ●動画/チェック/浜津守 ●仕上/シヤフト(三橋瑞子・小西生久栄) ●特殊効果/土井通明 ●撮影/旭プロ(斎藤秋男) ●編集/藤沢友彰・小谷地文男 ●現像/東京現像所 ●音響監督/松浦典良 ●効果/松田昭彦 ●監音/日向国雄 ●録音/豊音スタジオ ●制作進行/植田益朗 ●設定制作/円井正 ●A・P/神田豊

キャストと声優
●アムロ/古谷徹 ●ブライト/鈴置洋孝 ●カイ/古川登志夫 ●ハヤト/鈴木清信 ●フラウ・ボウ/鶴岡るみ子 ●ミライ/白石冬美 ●セイラ/井上瑤 ●ラファ/潘恵子 ●マリガン/戸谷公次 ●シヤア/池田秀一 ●マ・クベ/塩沢兼人 ●ウラガン/二又一成
●ナレーター/永井一郎

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	S
「サブタイトル 『テキサスの攻防』」		デギンなめギレン、將軍	ギレンに対して顔くし (デギン)	ビクンと体をふるわせる	Wベースよりソロモン	ビクザム、爆発	ドズル 火につつまれる	ガンダム切りかかる	ガンダムとび、ビクザム へ切りかかる	スレッガー行く	スレッガーとぶ	サラミス散る	ボール散る	Gファイター、ガトルを おとす	ドム散る	ムサイ チベが散る	攻防中のソロモン	画面	
N	N	N	N	ギレン	N														音声
「テキサスの攻防」		「ギレンはその公王に怒りをお ぼえつつも、きら星のごとく屈 ならぬ高官達の前で叫んだ。ア ・バオア・クーを最終防衛戦と して連邦を討つ」と	「デギン・ザビ公王は、ドズル にしてもっともなことであるよ と、ギレンに答えたという」	「ソロモンの攻略戦が終わった。 ドズル中尉麾下の宇宙攻撃軍は 事実上、壊滅をした。ジオン公 国にとっては予想だにしないかっ た敗北であった」															


19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
ゆったりとW・B 飛翔する	Wベース行く	Wベースブリッジ、ブライト眠っている	コーヒの吸い口をとってすうマーカー	サンマロ 手を洗っている ドアの向うフラウ	アムロを検診するフラウ	フラウをぬアムロ	フラウ、メモとっている と、あらためてアムロを見る	アムロ、フラウをのぞく	アムロをぬフラウ	アムロ、つまって
	マーカー (「第二戦ライン内、異常なし……敵艦……なし、ノ雷なしと……」)	マーカー 「結構なことですよ……あと三十分で交替ですからね」	フラウ 「アムロが来ました」 「血圧測ってといてくれ」 「はい」 「オスカー、マーカー、アムロ、みんなよく保つな。あー」	「……」 「フラウ・ボクも、いろんな事やらされて大変だね」 「(背中) アムロに比べたら楽なものよ」	「……いつからだっけ？」 「(背中) 何が？」 「僕ら、話しくなってる……」 「(背中) ……そうね、無我無中だったからね」 「うん」	「コンビューターの内診は異常なしよ……アムロってこわいくらい、たくましくなったのね」	「え？」 「(背中) あたしなんかには届かなくなっちゃったのね」	フラウ 「でもいいのよ、弱虫のアムロなんてみたくもないし、みんなこうして大人になってくんでしょ？」	アムロ 「ど、ごめん……フラウ・ボク。」	

30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	
アムロなめフラウ 大きく頷いて	アムロ、あごをひいて	アムロなめフラウ フラウ、と見て	サンマロ、立ち止る アムロはサンマロを見て	マーカーなめスクリーン 数字が出る	マーカーなめブライト	岩やらコロニーの破片などういている	テキサス、コロニーなめ	ザンジバル、浮いている	シャア、ララア、マリガン	
フラウ	アムロ	フラウ サンマロ 「(中) 「どう？」」 「あッノ 異常ありません」	アムロ、 「(背中) 順調だよ、運動をやってたおかげだね」	マーカー 「まいったな、テキサスの暗礁空域だ」 「(中) 「総員起しするか？」」 「マーカー」 「あ……」 「起してすいません」	ブライト 「いや」 「第三戦斗ライン、スレスレにいますのはチベですがテキサス・ゾーンにもいるようですね」	N 「ゾロモンを脱け出した敵艦の掃射作戦につくホワイト・ペリスはテキサス・ゾーンに入った。暗礁空域である。レジャヤと牧畜業専門に作られたこのコロニーは「テキサス」と名づけられ軍事的には何の意味も持たぬために、とり残されている」 それを囲む様に岩とコロニーの残骸が浮ぶ	シャア 「まだテキサスには着いておらんのか、エルメスとピコトは……」 「整備がおくれている様です」 「まあいい。私のマルグが居るだけだけでもな。テキサス」	マリガン シャア		
何も僕……」	「いいんだってば。でも……サイド6で何かあったの？ アムロ、変わったみたい」	「そ、そうかい……べ、別に……いつか話せる様になったら話そうよ。い、いろんな事があったんだ」								

55	54	53	52	51	50	49	47	46	44	43	42	51	50	
ミライ、純輪にとりつく電話で話しているブライ	Gアーマーゆく	Gアーマーゆく	セイラ	Gアーマー発進	Gアーマーなめハッチ開く	Wベースのハッチ開く	文句いいつつ髪をタオルをとるセイラ	バスから出るセイラの足	お風呂に入っているセイラ タオルひろげつつ立つセイラ	ブライとなめマーカー	Wベースとぶ	シャア	ザンジバルのブリッジなめ テキサスが見える	
ブライ「ソロモンから脱出した敵と思							セイラ 「ハ、命びろいのあとのいいお風呂だったのに！」		ブライ「敵接近ノ 敵接近ノ 全員第三戦斗配置ノ」	マーカー「チベが動きます。見つかったらしいです」 ブライ「よし、総員起こしたノ」		シャア 「こちらは、手持ちの武器がないのだ。奴にやらせろ、ザンジバルはテキサスに入港する」	マリガン「はい」 マリガン「「木馬はどうします？」」 シャア「「近くにマ・クベがいるだろ」」 マリガン「「はい」」	マリガン「「さあ……昔の従業員とコロニーの管理省の役人がわずかにいる様ですが」」 シャア「「無人コロニーみたいなのものか？」」 マリガン「「はい」」



65	64	63	62	61	60	59	58	57	56	
岩の向うにとびゆくGアー	マ・クベ、ふりむいて	マ・クベなめウラガン	チベ、ムサイ、発進してゆく	イスにすわっているマ・クベ、ウラガンいる	月を背にチベとムサイ二機がいる	ミライ	ブライト、笑って	ブライト、ミライを見て ミライ、ふりむいて	スクリーンにうつる対空戦、キャノン、カウレツら	ト
	マ・クベ「……ギャンは、私用に開発していたんだ。モビルスーツだ。キシリア少尉へ男としての面子がある。それに、シャアには例のモビルスーツが属していないという話だ。きやつの前で木馬とガンダムをしとめてみせるよ」	ウラガン「「しかし、マ・クベ大佐自らお出になる事はないと……」」 マ・クベ「あるのだな」 ウラガン「ハ？」		マ・クベ「「フフフ……予定通りだな。マ・クベ（背中）ウラガンノ 私のギャンの整備はどうかな？」」 ウラガン「「はい、いつでも」」 マ・クベ「よし、エリア2まで進んで、リックドム発進ノ 私もギャンで出動する」」		ミライ 「フ、ありがと……助かるわ、そういつてくれると……」	ブライト「「ムリはするな、俺でよかったらきき役ぐらいいはさせてくれ」」	ブライト「「ミライ、いいのか？」」 ミライ「「心配かけてごめんをさい。少し動いて疲れたいい林」」	（off） 「第二戦斗エリアに入ったらガンキャノンも発進する。各員、ソロモンのあととはいえ、気をぬくなよ」	

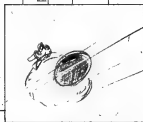
79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66
正面のモニターに宇宙空 うつる輝く閃光がうつる	ふりむくブライトなめま ーカー	ミサイルゆく	月を背にしたチベ、ムサ イよりミサイル連射	Gアーマーゆく 左に月が見える	セイラ、左を見て	輝くモニター	Gアーマーくる	下から上ってくるマ・ク ベのクレイン	ギャンの手前 マ・クベののったクレ ー 上昇する	Gアーマーくる	セイラ	アムロ	ひねりゆくアーマー
	ブライト「マーガー、どうなんだノ 敵 の動きは」 「ますます岩が多くて……」 「（モニター）正面ノ最大望 遠だ」				セイラ 「了解ノ」	アムロ 「きたなノ、セイラさんノ、チ ベですノ、そろそろ見えますよ」		マ・クベ 「ガンダムが現われたらテキサ スへさそいこめ。このギャンに はその方がやりやすい」 「ハッ、心得ております」 マ・クベ 「よし、いけ」	ウラガン （直）「ポイント3—AAに木馬 キャッチ、各員、戦斗配置に つけ、リック・ドムは敵、戦 斗爆撃機に対して先制攻撃をか ける」	セイラ 「了解ノ」	アムロ 「（背中）セイラさんノ、チベ が第二戦斗エリアにキャッチ出 来るはずですよ。気をつけて下さ い」		

93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	
セイラ アムロに cut・in	ゆくGアーマー 手前にくるミサイル四本 ぐらゐ		Gアーマーとぶ	ギャンゆく	マ・クベ	マ・クベなめドム群	その編隊	ドムの群れ	チベのハッチからリック ・ドムが二機発進する 三機目にギャンが出る	ウラガン	UPとなり cut・inするマ・クベ	カタパルトにつくドム うしろにギャン	ムサイから発進するリッ ク・ドム	ブライト
セイラ アムロ 「見えて？ アムロ。モビルス ーツ、四、五機かしら？」 「ミノフスキー粒子と岩のかか げで、判別つきませんね」	セイラ 「くるわノ、アムロノ」				マ・クベ 「私は仕掛けを作るノ、ガンダ ムを倒せば二階級等進ものだ というのを忘れるな」	マ・クベ 「（背中）作戦通りやれ。テキ サス近くで」			ウラガン 「了解でありますノ、出撃なさ って下さい」	マ・クベ 「ウラガンノ、木馬の足をとめ るのは任せろ、相手は一機 だが油断はするなよ、私の車 輪は油断のりや、ドムは敵 わすれな」			ブライト 「Gアーマーをねらっているの か？」	

110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94
スロープの中、はじける三機のドム。三機のバズーカがとんでくる	ガンダム、それをよけライフル構える	アムロなめ光点ゆくバズーカ、でてる	ガンダム、ボルト・アウ	セイラ、アムロ	来る別の三機	ドム、肩口からふきとぶが反転しつつ剣をぬく	うしろのドム、火をふく	Qアーマーとドムがすめ	ドム三機が縦隊でくる	来る Gアーマー	ビーム、ゆくドム、来る	アムロの手 ボタンおす	アムロなめ 小さく見えるドム	セイラ	パネルなめ ゆれ動く光点群	セイラ
		アムロ 「(背中) くるな！」		セイラ 「ボルト、アウト急ぎます！」								アムロ 「乙」	アムロ 「(背中) やってみます……」	セイラ 「アムロ、ねらえて？」		セイラ 「見えたわ！」



126	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112	111
ハヤトなめ 立ち止るサンマロ	ブライトなめマーカークライト、受話器をとる	爆発	ドムにビーム当る	Gファイター ビームう	セイラ、スクープをまわす	全	バズの弾体にかくれる様にして、リック・ドム	ガンダムの所へ Gファイターすべりこむ向うから三つの閃光がくる	アムロ	上にあがるドムガンダム、ビームをうつ	ガンダムの右足がドムにめりこむ	アムロ	閃光を背にガンダム来るが、片腕やられたドム、切りかかるガンダム、よける	ガンダムのビームと三機のバズーカが会出现
ハヤト 「(背中) サンマロ軍曹、また戦いが始まってんですか？」	マーカークライト 「ガンダム、Gファイター、テキサスへ流されている様です」				セイラ 「ドム！」				アムロ 「どこだ？」			アムロ 「うわーっ！」		



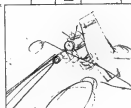
138	137	136	135	134	133	132	131	130	127
ララア、感じている 目を開いて	シャア、うしろを見て 計器を見入って	ララア、うつむき	シャア、ンと見て	ララア、あっと見上げる	馬車なめ 上空もゴウゴウと砂塵うずまき	馬車がゆく	シャア、見上げる 横にララアうしろには フラナガン博士がいる	コロニー内機馬車がくる	サンマロをなめハヤト サンマロ、行く
ララア	シャアガンノ フラナガン「テスト・ターグットではあります。今までこんな脳波の強震は示した事はありません」	ララア 「何かしら? 何かしら……これ? 何かが……」	シャア 「来る? 何がだ?」	ララア 「何かしら? 来るわ」		N 「牧畜とレジャーのためのこのテキサスも、戦争の余波でミラリが動かなくなり、八カ月前より夕暮のままだである。そのため、砂漠化がすすみ人もすまない」	シャア 「サンジバルに戻るか……」	カコ 「ミラーの調節のきかん、コロニーはひどいものだ。アラナラだ。フラナガン、どうだ?」 フラナガン「順調です。ララアはテスト・ターグットを七十パーセントの確率であてました」	ハヤト 「それは判りますが、僕のキズは思ったほどひどくないんですよ」 サンマロ「あと一日、二日したら起きられるんだから今は、こらえるんだ」 ハヤト「恰好よくいかんもんですね」 サンマロ「(ウ)病人の恰好っていろいろだ。あるのさ。手間をかけさせるなよ」

153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139
アムロ / PAN	セイラ、右から左にすぐ	ドムやられ GFファイターのすりぬける中 爆発	ドムに直撃	セイラノ	バズーカを上げる GFファイター	ブライト	Wベース ブリッジ	Wベースをめ閃光	上昇するガンダム 来るドム 爆発する	ガンダム行く	アムロ	ララア	シャアをなめララア、クスツと笑ってみせて	シャア
アムロ 「最後の一機」	セイラ「あと一機は……」						マーカー「ガンダムとGFファイターはテキサス、エリアに入りました」 ブライト「右舷の機体の動きはどうなんだ」 マーカー「変化ありません。ゆっくり移動しているようです」				アムロ 「手なれたパイロットたちだ。しかし、バターンは読んだぞ」	ララア (M) 「何だったのだらう……今の……あのしびれる様な感覚は……」	ララア 「うふふ 大佐が私の心をさわった感じなんです」 シャア 「(背中) 私が?……ララア……冗談はやめてしてくれないか?」 ララア 「嘘、はい」	シャア 「ララア、今、何といった?」



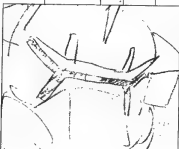
169	168	167	166	165	
機まくアムロの眼	ハクジさがる 針がひかる	ガンダムくる	ギャンよりガンダム	アムロ 表情かわり アイ キャップチャー	
ガンダム（？）とこをわかれ				アムロ 「こらっ……こさかしらと…… 思うノ」	


	164	163	162	160	159	157	156	155	154
アイ キャップチャー	マ・クベ、ニッと笑う	岩の上のアンテナよりギャン	アムロ	アムロ	ガンダム、つっこむ Gファイターすべりこみ ビームうつ ガンダムは手前へ	ギャンが岩の上にいる	アムロ、ふりあおぐ	ビームをうつガンダム 針の様なミサイルが機手からくる	ガンダム、つっこむ
		マ・クベ「さて……きてもらおうか？ ガンダム」	アムロ 「新しい新機をビームで撃つぞ」	アムロ 「こいつの処へさそいこむための作戦だったのか？」			アムロ 「なに？」		



184 A	183	182	181	180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170
ガンダムなめ港内、奥の方でゴーンとハッパの閉じる音がする	着床するガンダム	コロニーの港口、ガンダム入口へ向う	ギャンサイの入口にっこむ テキサス	最後の針ミサイルゆく ガンダム左へ追う	アムロ	機から針ミサイルゆく コロニーへゆくギャン	手前から針ミサイルゆく さがるガンダム	ギャンをビームかすめる 機から針ミサイルがでる	ふりあおぐマ・クベ	岩かけからとび出す光 （ガンダムである）	マ・クベ	ギャンなめ 閃光がきえてゆく	閃光の中ギャン後退する マ・クベ	ガンダム、岩の上をとびぬけようとしたところで岩爆発する
					アムロ 「……？」 テキサスににげるのか				マ・クベ 「アッ！」		マ・クベ 「クフフフ………斗いを、まともにやるうとするからこいう目に会ふのだよ。ガンダム」		マ・クベ 「フハハハハ、や、やったノ」	

256A	255	254	253	251	250	249	248	247	244	243	242	241	240	239	238	237
ラアラのいるバギーのうしろから前に進む シャアの赤いゲルググ	ガンダム 立っている	上体をあげるガンダム	ガンダム降下、着地	落下するガンダム	アムロなめ 荒野のフカ ン図が流れる	ガンダム 落下態勢に入 っている	ガンダム 雲の中からつ きぬける	暴風の中 ガンダム み えなくなる	爆発の閃光の中 ガンダムの機体、上昇す る	レバー前へ	アムロ	は連鎖爆発をする 爆発	アムロ よろけるガンダム	アムロ にぶつかり爆発	ガンダムの方向へ流れこ むハイドボンブ ガンダ ム左へ移動	流れてくるハイドボンブ
																
											アムロ 「うわっ 爆弾でえ」 と、こんな小型		アムロ 「りわー」			

269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	259	258	257	256B
すっと岩のむこうにあら われるW・B 主砲うつ	ミライ 計器のぞきこん で	ゆくゲルググ	ゲルググ発進	正面をみて シャア上をみている	ゲルググのモニター、ラ アラのバギー、右の入口 へ入ってゆく	ゲルググの足のむこうの ハッチ開く ラアラのバギー 右へ行 く	ゲルググいく	ラアラのうしろ、ゲルグ グの足がゴトッと動く	ゴトッと見下ろすゲルグ グ、ボッと半眼がつく	ラアラ 見上げる	ゆったりと上ってゆくハ ッチゲルググ、バギーい る	シャア	ゲルググくる
	ミライ 「三、二、一、どろぜん」			シャア 「マ・クベのお手筈を見せてもら うか？」					ラアラ 「(お)ラアラ、安全な場所から よく見ておけよ。モビルス ーツ 同士の闘いというものを」	シャア 「大佐……」		シャア 「良好だが、プロトタイプは 昔いかなう。やがて足すのりか けはよくなる」	

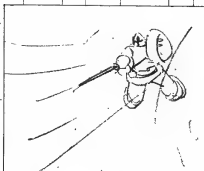
264	263	262	261	260	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270
岩の向うからのぞくギャン ou・iするマ・クベ	アムロ	ガンダム、パッど、とんでふみとどまる	爆発おこる	パネルなめ、閃光見える	シャアアリン? と顔をあげ	チベ 岩かげにせずむ	くりかえしの中ウラガン	ビーム 一隻のムサイのブリッギをふっとばす	下からビームがチベ、ムサイへ向う	前進 ビーム主砲連射	W・ベス 岩のむこう W・B 噴射すごい	W・ベス・ブリッギ窓の外、スパークすごい	ばつとひっこむW・B ビーム集中する	チベ、ムサイをビームかすめると三隻からビーム集中砲火
マ・クベ「動がいいのか? それとも、あの、新しいタイプの奴なのか?」	「地電線を作るなんて、一休のやうな奴をだす。小手先はね、おのれをやる。さういふ奴だ」				シャア 「あれか?」		ウラガン「うっ、バ、バロメルが?!! こっちも岩を爆にするんだ?!! 爆発!!」					「ムサイ、ムサイ、前進だ!! はい!!」		
														


300	299	298	297	296	295	294	293	292	291	280	289	288	287	286	285
グズンと着地する赤いゲルググ	シャア	赤いゲルググ、左右によける。ビームをうつつ	ビームを上げつつうつつガンダム	アムロ、スコープを入れる	ガンダムよける	アムロ	アムロ	ビームうつつガンダム	閃光きらめく	ガンダム、ターンする	せまる赤いゲルググ、ビームうつつ	アムロ、うつつとなり	ゲルググくる	アムロ	ガンダム、ビームうつつ同時に空からもビームガンダムよける
						アムロ 「シャアなのか?」					アムロ 「赤いモビルスーツ?」	アムロ 「やるなァ——」			マ・クベ「ハッ!! 味方のモビルスーツか?」


314	313	312	311	310	09	08	07	06	05	04	03	02	01
アムロ、目を下に下げて	ガンダム構えるがビーム出ない	剣をぬくギャン	うつつふみとどまるガンダム	ギャン、ロケット噴射して上昇する	ビームを撃ち切るとガンダム行く	二人cut・outビームくる ゲルグダ、ギャン、左右に分れる	岩を背にするガンダム、一方を見る	くるゲルグダの前にギャンが出る ふみとどまるゲルグダ	マ・クベのり出す	シャア	ゲルグダ走る追いかけるビームの炸裂	閃光舞い上る	針葉樹のむこうからビームとぶ
アムロ 「う?」						マ・クベ「今の貴様の任務は、ガンダムを倒すことではないはずだ」 シャア「味方が苦戦しているのを、見逃すわけにはいかんのだな」 マ・クベ「私なりの斗い方があるからこそ、ガンダムをひきこんだのだ」 「任せたよ。マ・クベ大佐、くるぞ!」			マ・クベ「シャア! ひけい!」				



330	329	328	327	326	325	324	323	322	321	320	319	318	317	316	315
ふりむくギャン、ビームうつ	ギャンノン上昇、ドムうつ	カイ	ギャンノンなめ、ドムくる	ドムにあたる	うつつ	Gファイター、ミサイル	ドム、スコープに入ってくる	セいら、スコープを合せ	ガンダムとび上り、ガンダムふりおろす	切りかかるギャン	つきたされる剣をよけるガンダム	ギャンの剣をはじくガンダム	剣をぬくガンダムの手	剣をつき出しつつくるギャン	マ・クベ
		カイ 「ふっふ」						セいら							マ・クベ「フッ! 今までのデータで確かめてあるノ、シャアとの小ぜりあいでビームを使いたさるのだよ」



346	345	344	343	342	341	340	339	338	337	336	335	334	333	332	331
マ・クベ、のり出す	アムロ	ギャン、つっこむ ダム、剣をはらうノ ろけるギャン	アムロ、ふりあおぎ	ララア ピクンとする	ララアなめ、二機のモビルスーツ	ララア、肩をひそめて	ララア、ロング	マ・クベのギャン、ガンダム走る	シャア	ゲルググ	左右に反動ではなれる二機 やられているダム	ダムにキャノンをつけて射つ	左右からとびこみダムの手をつかむキャノン	カイ、のり出し	ダムよけてせまる
マ・クベ「シャアを頭 ^マ にのらせないためには、ガンダムを倒さねばなら	アムロ 「きたない手しか使えないお前は、もうバワイまけしているノ」		アムロ 「見、もうノ 剣をひけえノ」	ララア 「なぜ……？ り!! ああノ……ここ、これだわ、さっきからの感じノ」		ララア 「大佐はなぜ、助けてあげないのかしら？」			シャア 「ガンダムが片をつけてくれれば有難いとも思ったが、マ・クベ奴、よくやる。ララア……見ているな？」					カイ「うお——ッ」	

360	359	358	357	356	355	354	353	352	351	350	349	348	347
マ・クベ	ガンダムのサーベル、ギャンを切ってゆく	ガンダム、体をひく		アムロ	ララア	ガンダム、剣をギャンの背中にあてる	大きくショックで、ゆれるマ・クベ	ガンダム、つっこむ 剣をつき出すギャンが、すでにぶつかっている	ガンダムの頭をかすめる 剣、ビーム剣ひいた剣をつっこむガンダム	ギャン、剣をつき出す ガンダムよける	マ・クベ、顔をふりあげ	ギャンの斬を切りおろす サーベル	野牛の群とび出すややあってよろつととび出す ガンダム、ギャンの剣をうける はねつつ右手の剣をぬくガンダム 切りかかる
マ・クベ「うっノ うわ——ッ」			アムロ「え？ なに？」	ララア(M) 「もう、おやめなさいノ 終ったのよ」	ララア「あっノ」		マ・クベ「なぬッ!!」 				マ・クベ「なんとお——ッ」		んのだよノ

375	374	373	372	371	370	369	368	367	366	365	364	363	362	361
アムロ	もそつとガンダム	荒野のガンダム	荒野へ アムロなめ、爆発口から	アムロ、不安そうに左右 みてゆく	閃光の中、ガンダム	爆発する	ゲルググなめギャン爆発	ララア 伏せる	ララア 走 る ズーンとゲルググお ちる よけるララア倒れ る ゲルググかがみこむ	ゲルググ、うちつつもむ こうへゆく	バツとガンダム下る ギ ヤン、スパークしている むこう、ビーム輝やくガ ンダムよける	のり出すゲルググ シャット・cut outすると、ドワとロ ットを噴かしてとぶ	ビームが、ギャンの機体 をすべってゆく	マ・クベリ 造 閃光
アムロ 「……これは……シャアじゃな い……」				アムロ 「誰だ？……誰かが、ぼくをみ ている……」				ララア 「大佐！」	ララア 「うっ」		シャア 「それ見たことがノ、つけやき 刃に何ができるというかノ」			マ・クベ 「ウラガンノ、あの壺をキンリ ア様に届けてくれよ、あれは…… ……いいものだ……」



380	379	378	377	376
もそつと、立ち終るガン ダム	顔をあげるアムロ	ララア肩をひそめ	アムロのイメージ	耳から手をはなしてゆく ララア右をみる
	アムロ 「……ラ・ラ？……」	ララア 「……ア・ム・ロ……？」		ララア 「こ、これは……」

……第三十七話・おわり……



連続テレビ・アニメーション番組

機動戦士ガンダム

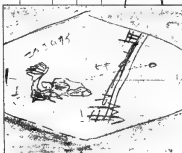
UNDAM

録音台本

第38話 「再会、シャアとセイラ」

名古屋テレビ
制作
創通エージェンシー
日本サンライズ

第38話 再会・シャアとセイラ
昭和54年12月22日放映
制作スタッフ
●脚本・松崎健一●演出・絵コンテ・藤原良二●作画・長崎重信・鍋島修
●板野一郎●前島和子●戸川俊信●背景・安西徹夫・長野ゆかり・広瀬正
明●動画チェック・浜津守●仕上・ディーン(杉山忠洋江・秋元ひろ子)●
●特殊効果・土井通明●撮影・旭プロ(平田隆文)●編集・藤澤友彰●現
像・東京現像所●音響監督・松浦良良●効果・松田昭彦●監音・日向国雄
●録音・監音スタジオ●制作進行・豊住政弘●設定制作・内井正●A・P
／神田量
キャスト&声優
●アムロ／古谷徹●ブライト／鈴置洋孝●カイ／古川登志夫●フラウ・ボ
ウ／藤原るみ子●ミライ／白石冬美●セイラ／井上喜久子●ララァ／藤恵子●
ウラガン／戸谷公次●シャア／池田秀一●ワッケイン／曾我部和行●パロ
ム／海老原也
●ナレーター／永井一郎


																		S
17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7		6	5	4	3	2	1	C
アムロ、左右をみている	ガンダム立ちつくしている	OWN荒野	サイド5内			正副ネクリンに導るム サイの残骸			「再会、シャアとセイラ」	サブタイトル ス居る	小隕石、PAN Wベ		残骸	サイド5なめ太陽	コロニーの外壁からふき 出る爆発	キノコ雲	爆発	面
アムロ									N			N						音
																		
<p>「今、ホワイト・ベースとマ・クベ艦隊は、テキサス・ゾーンの漂流物に身をかくし、互いの位置を確認出来ないまま対峙していた」</p>																		

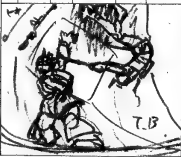
64	63	62	61	60	59	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46
アムロ 出る	ガンダムの手 サーベルの柄よりビーム	ビームをよけるガンダム、 向き直る	射つゲルググ	アムロ、ピン!!とくる	ガンダムなめゲルググ来る	アムロ	ララァの車行く 追って来るガンダム	左へ歩くガンダム 手前、ゲルググ	シャア、ニヤリ	ゲルググくる	アムロ	ララァの車へT・U	アムロ	行くララァの車	アムロ、左右を見て?!と なる	アムロなめ正面スクリー ン	ロケットと来るガンダム
アムロ						アムロ			シャア		アムロ		アムロ			アムロ	
「北、シャアが、う、うしろから仕掛けたのか!!」						「ララァだ! ま、まちがいない!」			「見つけたぞ……。ガンダム」		「あの車?.....ララァ?.....」		「車だ?」			(背中)「紗だ.....もう一機のモビルスーツが.....」 (正面)「みえない!.....うかつだったな、あれは赤いモビルス ーツだった。シャアかも知れな いんだ」	



80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65
ガンダムに互に落ちる	岩をくたくし	ガンダムのまわり爆発す る	出て射つゲルググ	溜地、走るガンダム	ビームよけるガンダム	ビームくる	溜地するガンダム、シャ ンブ	ゲルググ逃げる ビーム・サーベル岩をく たく	ガンダム切りこむ	シャア	アムロ	行くガンダム	ビームよけるガンダム、 ジャンプ	ゲルググ出て射つ	ガンダムよりPAN 滑むゲルググ
										シャア	アムロ			シャア	
										「チー!」	「やー」			「やっかいなことになりそうだ。ガンダムのパイロットも、 ニュータイプだとはな.....もう 一度ためしてみるか」	れとも、別の敵か?」



98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81
シャア	岩壁よりガンダム来るT・B グルグ	アムロ	アムロなめ正面スクリー	ガンダム岩かけにかくれる	アムロ	ビームをよけるガンダム	ビーム来る	サイド・スクリーン 写る平原	アムロ	ビーム、ガンダムをかすめる	ハッパと見るアムロ	ビームくる	キョロキョロするガンダム	シャア	砂塵よりT・B シャア	来るグルグ	アムロ
シャア 「アムロ、ガンダムだ!! させい をかけ争って!!」		アムロ 「よし 見てろ!!」	アムロ (背中)「どこだ? シャア? どこから?」		アムロ 「くっ! 今度は前からか! さ、さすがだな、シャア!」			アムロ 「ワァー!! よ…横からか!」			アムロ 「はッ!」			シャア 「間違いないと思ってた。……私の 射撃は、正確なはずだ。それ をことごとく外すとは……」			アムロ 「アァー アァァ 「あゝ…」

116	115	114	113	112	111	110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99
倒れこむガンダム	グルグに足げりされた ガンダム	グルグの足が上がる	グルグ、サーベルをとり 出しガンダムのビーム をうける	着地するガンダム サーベルをふるう	グルグの腕を突きさし た ガンダム	シャア		グルグのうでに突きさ さる サーベル			射つグルグ	アムロ	サーベルふり降ろすガン ダム	サーベルふり降ろすガン ダム	シャア	T・B ガンダム	ガンダムかくれる
						シャア 「しまった!!」					アムロ 「ワァー!!」		シャア 「なんだと?」			アムロ 「ノ シャア、よめたよ」	

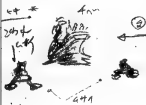
132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117
ルガンダムのビームサーベ	グルググの脇腹にめり込 む	ガンダム、サーベルぬく	シャア	サーベル受けるサーベル	グルググ、サーベルをふ る		アムロ	ゆるけるガンダムをかす める サーベル	グルググ、サーベルをふ り降ろす	シャア	アムロ	時々、体をかすめるサー ベル	転がるガンダム 追うグルググ	ガンダムよける の足 サーベル、グルググ	サーベルふるるグルググ
							アムロ 「う……シ、シャア！」		<p>「アムロ、サーベルをぬき、 拳で攻撃する。シャアは、 腕の力でガンダムの拳をかわし、 肩をよける。シャアの腕は、 肩の力でガンダムの拳をかわし、 肩をよける。」</p>	アムロ 「わあ……も、もう少し速く反応 してくれ！」					

152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133
マゼラン	来るマゼラン	行くシャア	シャア	ハッチ開いてシャアが出 てくる	グルググ	小石おちる。PANグル ググ	アムロ	爆発よりT・B ガンダム	アムロ悔やしが る	落下するグルググ	アムロ	計器点滅	アムロ	ガンダム、ジャンプする が間あって、落ちてくる	アムロ	アムロ	グルググ、サーベルをぬ いてガンダムにきりかか る	シャア	同上
				シャア 「大分やられたな。 …… ニセの爆発であのパイロットを だませたとも思えんが……」			アムロ 「や……やったのか……?! ……あ、あのシャアが……?!」		アムロ 「もう一息だった……」	アムロ 「うっ！ 大分消耗して……あ?!」	アムロ 「うわッ」		アムロ 「逃がすかい!!」				シャア 「な、ならし運転もしないで使 うと……」		

154	マゼランのブリッジヘT・U	ワッケイン「ホワイトベースとは、まだ接触出来んのか!!」 兵士A「はっ、この付近はミノフスギー粒子の濃度が高いうえに、こり漂流物が多くては……」 ワッケイン「判っている。それを承知で……」 兵士A「いえ、まって下さい!!」 ワッケイン「ホワイトベースか!!」 兵士A「ジョンの高速度滑降機です!!」 方位・〇八の三二二 相対速度〇〇七八
155	ジオン・パロム艦	兵士B「(off)「本艦に接近する艦があります」 兵士B「(off)「連邦軍戦艦マゼランタイプです!!」 パロム「よし、戦斗用意、主砲まわせ!!」 パロム・他「ウワー!!」
156	パロム艦・ブリッジ	兵士B「(off)「本艦に接近する艦があります」 兵士B「(off)「連邦軍戦艦マゼランタイプです!!」 パロム「よし、戦斗用意、主砲まわせ!!」 パロム・他「ウワー!!」
157	ビームくる	
158	パロム艦を貫くビーム	
159	マゼラン、ビームうちや	
160	パロム	
161	パロム艦、主砲をうつ	
162	ロング ビーム砲の応答	
163	チベ	
164	チベ・ブリッジ、点滅する光点T・B デラミン	兵士C「(off)「ポイントAー七B三三C六付近で戦斗光らしきものの確認。パロム司令の予定コース上です」





165	デラミンなめウラガン	ウラガン「艦長!! まさか、パロム司令デラミン「うむ、やむをえん!! 金艦、現地点を急速離脱、該当地点に向う!!」
166	行くチベ、ムサイ	
167	三つの光点移動	
168	マーカールなめスクリーンに光点移動	マーカール「敵艦隊、探知しました。未確認戦域に向かっています」 ブライト「しびれを切らしたな。セイラ」 Gファイター発進だ。ジョブ・ジョングアン・キャノンもスタンパッとけ!!
169	ミライなめブライト	ブライト「ホワイト・ベース前進ノ」 ミライ「はいノ」 ブライト「艦対艦戦戦に入る」 セイラ「Gファイター発進します」
170	セイラ	
171	Gファイター発進	
172	Gをうけるセイラ	セイラ「ウワー!!」
173	Wベースのロケットや	
174	Wベース行く	
175	ムサイ、チベ行く	
176	Wベース行く	
177	Gファイター行く	
178	デラミンなめスクリーンに光点点滅	兵士C「(off)「後方より木馬が追って来ます」 デラミン「あわてるな!! 全砲攻撃しろ!!」
179		
180		



196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243	244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303	304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363	364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423	424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483	484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543	544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603	604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663	664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723	724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783	784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843	844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903	904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963	964	965	966	967	968	969	970	971	972	973	974	975	976	977	978	979	980	981	982	983	984	985	986	987	988	989	990	991	992	993	994	995	996	997	998	999	1000	1001	1002	1003	1004	1005	1006	1007	1008	1009	1010	1011	1012	1013	1014	1015	1016	1017	1018	1019	1020	1021	1022	1023	1024	1025	1026	1027	1028	1029	1030	1031	1032	1033	1034	1035	1036	1037	1038	1039	1040	1041	1042	1043	1044	1045	1046	1047	1048	1049	1050	1051	1052	1053	1054	1055	1056	1057	1058	1059	1060	1061	1062	1063	1064	1065	1066	1067	1068	1069	1070	1071	1072	1073	1074	1075	1076	1077	1078	1079	1080	1081	1082	1083	1084	1085	1086	1087	1088	1089	1090	1091	1092	1093	1094	1095	1096	1097	1098	1099	1100	1101	1102	1103	1104	1105	1106	1107	1108	1109	1110	1111	1112	1113	1114	1115	1116	1117	1118	1119	1120	1121	1122	1123	1124	1125	1126	1127	1128	1129	1130	1131	1132	1133	1134	1135	1136	1137	1138	1139	1140	1141	1142	1143	1144	1145	1146	1147	1148	1149	1150	1151	1152	1153	1154	1155	1156	1157	1158	1159	1160	1161	1162	1163	1164	1165	1166	1167	1168	1169	1170	1171	1172	1173	1174	1175	1176	1177	1178	1179	1180	1181	1182	1183	1184	1185	1186	1187	1188	1189	1190	1191	1192	1193	1194	1195	1196	1197	1198	1199	1200	1201	1202	1203	1204	1205	1206	1207	1208	1209	1210	1211	1212	1213	1214	1215	1216	1217	1218	1219	1220	1221	1222	1223	1224	1225	1226	1227	1228	1229	1230	1231	1232	1233	1234	1235	1236	1237	1238	1239	1240	1241	1242	1243	1244	1245	1246	1247	1248	1249	1250	1251	1252	1253	1254	1255	1256	1257	1258	1259	1260	1261	1262	1263	1264	1265	1266	1267	1268	1269	1270	1271	1272	1273	1274	1275	1276	1277	1278	1279	1280	1281	1282	1283	1284	1285	1286	1287	1288	1289	1290	1291	1292	1293	1294	1295	1296	1297	1298	1299	1300	1301	1302	1303	1304	1305	1306	1307	1308	1309	1310	1311	1312	1313	1314	1315	1316	1317	1318	1319	1320	1321	1322	1323	1324	1325	1326	1327	1328	1329	1330	1331	1332	1333	1334	1335	1336	1337	1338	1339	1340	1341	1342	1343	1344	1345	1346	1347	1348	1349	1350	1351	1352	1353	1354	1355	1356	1357	1358	1359	1360	1361	1362	1363	1364	1365	1366	1367	1368	1369	1370	1371	1372	1373	1374	1375	1376	1377	1378	1379	1380	1381	1382	1383	1384	1385	1386	1387	1388	1389	1390	1391	1392	1393	1394	1395	1396	1397	1398	1399	1400	1401	1402	1403	1404	1405	1406	1407	1408	1409	1410	1411	1412	1413	1414	1415	1416	1417	1418	1419	1420	1421	1422	1423	1424	1425	1426	1427	1428	1429	1430	1431	1432	1433	1434	1435	1436	1437	1438	1439	1440	1441	1442	1443	1444	1445	1446	1447	1448	1449	1450	1451	1452	1453	1454	1455	1456	1457	1458	1459	1460	1461	1462	1463	1464	1465	1466	1467	1468	1469	1470	1471	1472	1473	1474	1475	1476	1477	1478	1479	1480	1481	1482	1483	1484	1485	1486	1487	1488	1489	1490	1491	1492	1493	1494	1495	1496	1497	1498	1499	1500	1501	1502	1503	1504	1505	1506	1507	1508	1509	1510	1511	1512	1513	1514	1515	1516	1517	1518	1519	1520	1521	1522	1523	1524	1525	1526	1527	1528	1529	1530	1531	1532	1533	1534	1535	1536	1537	1538	1539	1540	1541	1542	1543	1544	1545	1546	1547	1548	1549	1550	1551	1552	1553	1554	1555	1556	1557	1558	1559	1560	1561	1562	1563	1564	1565	1566	1567	1568	1569	1570	1571	1572	1573	1574	1575	1576	1577	1578	1579	1580	1581	1582	1583	1584	1585	1586	1587	1588	1589	1590	1591	1592	1593	1594	1595	1596	1597	1598	1599	1600	1601	1602	1603	1604	1605	1606	1607	1608	1609	1610	1611	1612	1613	1614	1615	1616	1617	1618	1619	1620	1621	1622	1623	1624	1625	1626	1627	1628	1629	1630	1631	1632	1633	1634	1635	1636	1637	1638	1639	1640	1641	1642	1643	1644	1645	1646	1647	1648	1649	1650	1651	1652	1653	1654	1655	1656	1657
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

246	245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234
セイラ	ミライなめブライト	セイラ	バギー走る	シャア・ニヤリとして	セイラのバギー来る	?!となるシャア	牧場の建物PAN、走る シャア	見ているブライト レシーバをつける		フラウなめブライト	ブライトなめフラウ	居ねむりしているフラウ
セイラ	ブライト	セイラ 「あ、今休ませた。どうだ、まだ見つからんのかノ」	セイラ 「あ、今休ませた。どうだ、まだ見つからんのかノ」	シャア 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」	シャア 「ん?!……」			ブライト 「……は……はい、わかりました」	フラウ 「……は……はい、わかりました」	ジョブ 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」	ジョブ 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」	ジョブ 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」



258	257	256	255	254	253	252	251	250	249	248	247
デギンの手、ジオンの手をとる	ベッドに横たわるジオンよりPANデギン	回想人々、ベッドのまわりを集まっている	セイラなめシャア	ブライト	セイラ	セイラなめシャア 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」	チャラッとふりむくミライ	「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」	セイラ	セイラを狙う銃PAN	セイラなめシャア、バギーとびのる
			シャア 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」	シャア 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」	シャア 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」	シャア 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」	シャア 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」	シャア 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」	シャア 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」	シャア 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」	シャア 「ア……ザンシバルまで多かずに済みよーだ」


267	266	265	264	263	262	261	260	259
シャア	セイラ	シャア	セイラ	シャアとセイラ	砂塵の中のバギー	老いたジンバ・ラル夫妻と幼いシャア、セイラ	ベッドに横たわるジオンのまわりの人々	デギン耳をよせる ジオンの口がもそもそとく
								
シャア	セイラ	シャア	セイラ	シャア	シャア	ジンバ・ラル(MONO)	デギン	「わ、わたしごときを次期首相に！」
「うむ……そのニュータイプを敵にするのは、面白くない。今後は、手段を選べぬ、ということだ」		「ニュータイプの発生だ。……これは、ニュータイプの先がつかぬ。……知られんといわれているが、……まだの革命家だれかと思える。……しかし、今は、私たちの……まわりの……何人かの……」		「なぜ？」	「ジオンに入国して、ハイスターから士官学校へ進んだのも……ザビ家に近づきたかったからだ。……しかし……アルティシア……私だって、それから少しは大人になった。……ザビ家を通報が倒すだけでは、人類の真の平和は得られないと悟ったのだ」	「私は、ジオン様の御気性を、よく存じております。デギンを御指名になったのは、御自分の暗殺者です。デギン公だと教えられたので。……そうでなければ、お父上の味方が次々と倒されたり、……カスバル様とアルティシア様にうその名前までつけて、地球でお育てするようなことを、……この箱は、いたしませぬ」		

278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268
バギーより降りるセイラ	シャア	セイラ、サンバイザーをあげて	シャア行きかけてふりむき	セイラなめシャア	セイラ	セイラなめシャア	シャアの胸に手のせるセイラ	セイラなめシャア	ブライト	セイラ
セイラ	シャア	シャア	シャア	シャア	シャア	シャア	シャア	セイラ	ブライト(MONO)	セイラ
「兄さんノカスバル兄さんノ」	「きれいだよ、アルティシア。お前に戦争は似合わない。木馬を下りろよ！」	「……悪い直して下さいノ兄さん」	「アルティシア。……その素顔をもう一度みせてくれないか？」	「マスクをしているわけが判るか？私は過去をすてたのだよ」	「兄さんノ」	「ああ（と涙いて）。ここから地球に脱出するくらい金塊を残してゆく。地球に行つて一生を全うしろ。……私は、……前のシャアだ。シャア・アズナブルと……」	「……（と涙いて）。……もう手段を選べぬといった。アルティシアは、あの木馬からおりるのだ」	「木馬？！あのホワイト・ベースト？」	「……（と涙いて）。……ここから地球に脱出するくらい金塊を残してゆく。地球に行つて一生を全うしろ。……私は、……前のシャアだ。シャア・アズナブルと……」	「アムロがニュータイプだから！」

292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280	279
アムロ	とびさるエルメス	アムロ	下	エルメスのシルエット降	アムロ、ゴンゴンやって いる	ガンダム、背中アムロい る	膝まずくセイラ	セイラ涙一杯	行くシャア T・B イラ	ブライトなめミライ	ブライト	セイラ	シャア走ってゆく
アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	アムロ	セイラ	セイラ	ミライ	ミライ	ミライ	セイラ	
「ン? ホワイト・ベースのバ ギーだ?!.....」		「なんだ?.....み、みたことの ない機体だけど?.....」			「だめだ.....みんなやききられ ている。こいつも、あれ...?? あははは」		「キャスバル兄さん! に、にい.....さんノ.....」		「.....そうなの?」 「あ、ああ、心配だな、ア ムロ.....」	「(off)「ブライト」どうした の?」「い、いや、なんでもない。 さ、雑音がひどくてな.....」	「(off)「ブライト」どうした の?」「い、いや、なんでもない。 さ、雑音がひどくてな.....」	「キャスバル兄さんノ」	

304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293
ララァ	ララァなめシャア	ララァ	ザンジバル内・ブリッジ シャアとララァ	ザンジバルでてる	Wベース上昇する	ミライ「レドをかしつ	ブライト	バンマス	ブライト	ふりむくセイラ	行くセイラのパギー T ・B アムロ 立ち上がる
ララァ	シャア	ララァ	シャア	シャア	シャア	ミライ	ブライト	バンマス	ブライト	セイラ	アムロ
「...判ります」	「ララァ.....私にも悲しいこ ろか?」	「大佐.....テキサスで、何が あったのです?」	「マゼラン・タイプ」一隻ノ 「一気に突破するぞ!」			「了解」	「なんだとオ?」ガンベリーの 発進は中止だ。ホワイト・ベ ース直進して、ガンダムとジ ョブ、 オムルを収容する」	「ワッケイン隊からです。テキ サスの反対側の港からザンジバ ル・タイプの戦艦が出港すると ノ」	「よし、すぐ発進させる!!」 「よし、すぐ発進させる!!」 「よし、すぐ発進させる!!」	「あ?! ア、アムロノ」	「(背中)「おーい ここだ!」

318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308	307	306	305
アンテナとぶ	マゼランの一部の砲ふきとぶ	ザンジバル砲撃	ホワイト・ペー・ス機火ノ	ブライト	ガンダム、Wベースの中へひきこまれる	その船体で爆発するビーム砲うつ	ザンジバルをかすめるビーム	ザンジバルも応戦	うつマゼラン	ワッケイン	マゼランもビームうつ	ラファ ニヤと笑う	シャア
				ブライト「よし！ ミライノ 発達だ！ ザンジバルの使った港から出て、 追撃戦にうつる！」					ワッケイン「敵は一隻だ！ よく狙えっ！ すぐにホワイト・ペー・スも 応援に来てくれる！ それまで 保たせる！」			ラファ 「……！」	シャア 「ラファのおかげでグルグも 回収できた。すまん」
													

332	331	330	329	328	327	326	325	324	323	322	321	320	319
ミライ	のりだすブライト	Wベースでくる	オムル、流れてくるトラ ンクをつかむ	オムル、流れてくるトラ ンクをつかむ	すうっと流れこむトラン ク キャノンみる	？となるカイ	キャノンなめ近づくハッ クのところのトランク	点	マーカールなめ点滅する光	ポート内来るWベース	ポートへ近づくWベース	マゼランへ向うビーム	ザンジバル主砲うつ
ミライ「あつ……！」	ブライト「……！ ワ、ワッケイン司令 ！」		オムル「オットトッ！」			カイ「ブライトノ 爆発物じゃあな いらしいぜ！ ただのゴミだノ ゴミ！」		ブライト「爆発物か？！ （off）「わ……わかりません。た だ、ひじょうに小さなものです」 ブライト「えい、この緊急の時に！！ オムルに調べさせろ！」	マーカール「第三シャッター付近に爆発物 体をキャッチしました」				
													

346	345	344	343	342	341	340	339	338	337	336	335	334	333
セイラ	ブライト手紙をひいて	セイラ	ブライト	セイラ	ブライトの部屋 セイラをぬくブライト	艦橋をぬく、行くWベース	マゼランの残骸をぬく奥行くW・ベース	ブライト無念	アムロ等隊員、見ている	マゼランの残骸	Wベースをぬく流れてゆくマゼランの残骸	のりだすアムロ。 くるフラク	立ち止まるガンキャノン奥Wベース、CUT・inするカイ
セイラ	セイラ	セイラ	セイラ	セイラ	ブライト「トランクにはりつけてあった手紙がセイラあてだということしか、私は知らん。オムルもだ心当りはあるのかね？」			ブライト「クワッケイン司令……」				カイ「チーノシ、シャアの野郎ノ」	
セイラ 赤い隼星です」	ブライト「間違いないのだな？」 セイラ「(off)「おそらく……」 ブライト「差し出し人は？」	セイラ 「トランクの中味は……きつと金塊だと思っています……」	セイラ 「あります」 ブライト「(off)「私には検閲する権利もあるが……」 ……(on)「教えてもらえんか？トランクの中味と差し出し人のことを……」	セイラ 「あります」 ブライト「(off)「私には検閲する権利もあるが……」 ……(on)「教えてもらえんか？トランクの中味と差し出し人のことを……」							アムロ フラク 「お、おそかったのかノ」 「ああー!!」		



……第三十八話・おわり……

352	351	350	349	348	347
ラF・O	砂塵の中、バギーとセイラ	回想 膝まづくセイラ	セイラ手紙を握りしめてうなだれる	金のペ板 PANセイラ	ブライト目を見はり
		N	セイラ (背中)「ああ……ノ 兄さんノ……」 (泣く)	シャア (MONO)「先の約束を果たしきアルティシア・シム・ダイタンへ。キャスバル・レム・ダイタンより、愛をこめて」	ブライト「?!」…… そ、そんな屈辱なッノ
		「キャスバル兄さん、セイラ……いや、アルティシアは、自分勝手な心ついた頃から、いつも、いつも、兄の背中に向かってこう叫んでいたような気がする。兄の姿があった時も、なかった時も、もう呼べないのか？ キャスバル兄さんと……」			

名古屋テレビ
制作 創通エージェンシー
日本サンライズ


タイプ、シャリア・ブル
昭和54年12月29日放映

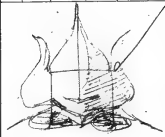
●脚本／山本優・絵コンテ／荻谷敏・演出／久野弘・作風／多角がずひる
●兵頭敬・清水恵子・前島和子・戸川健信・背景／アッパル（渡辺敬・清水
部孝）●動画／セック／浜津守●仕上／シャフト（森山政子・三橋明子）
●特殊効果／土井通明・撮影／旭プロ（斉藤毅男）●編集／鶴岡文彰●理
像／東京現像所●音響監督／松浦典良●効果／松田昭彦●音音／日向雄雄
●録音／整音スタジオ●制作／進歩行／草刈忠良●設定制作／円井正●A・P
●神田量

キヤスト&声優

●アムロ／古谷敏 ●ブライト／鈴置洋孝 ●カイ／古川登志夫 ●ハヤト／結木信太郎 ●フクロ／ボウ ●獨逸のみ子／ミライ ●白石冬美 ●セイラ／井上喜久江 ●シキア／池田秀一 ●ララ／潘恵子 ●ギレン／田中真実 ●キシリア／小山まみ ●シャリア・ブル／木原正二郎 ●將軍／佐藤正治 ●シムス／松沢和子 ●ナレーター／永井一郎

[illegible]

26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	
カッと目を開くレビルと首をならすレビル	叫ぶ士官A	合室 PAN	ノイズが交差する作戦司令室	閃光が大きくなるマゼラン、サラミスのシルエツトうかぶ	コロンパス爆発、サラミスの方へ流れてゆくドオイン	GMの前、兵、立って左右GMもみる爆発するGM手前のノーマルスーツもはねとぶ	マゼラン爆発 ソロモン	マゼランのブリッジゆれて傾く 閃光走る	ラアラの声、細くふるえるように聞こえるカメラP・D 閃光がきらめきマゼランに激突	レビルおきる
士官 Aノ 38エリアノ 將軍	士官A 「現場なら敵が見えるだろ!! え?! こっちは電気系統の整備がまだ終わってないんだ。 見えるわけないだろ!」	兵A 「ま、またきこえるぞノラ、だ」 兵B 「コースはEの6だが?」				S・E (off)「ラ、ラ……ラアラ……!」		S・E (off)「ラ……ラアラ……!!」	N 「すでに時間の問題と思われた時、ソロモンに奇妙な事件が起った」	

42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27
エルメスからT・B	チラッと目がるラアラ ピンとスパークノ	→PAN 小さいモニタ ーチカチカ	コクピット内 ラアラい る	エルメス コクピットへ T・U	エルメスへT・U	31-73あたりをベースに シャア	宇宙のむこう、また、ピ カールと輝きが上る	シャア ため息をつく 宇宙のむこう、また、ピ カールと輝きが上る	シャアのゲルググへT・ U うしろにエルメス	岩の一つへT・U		宇宙 PAN	宇宙をPAN	PAN・DOWN O・L	ソロモンの砲座にのりこ えりとした兵 爆発 P・D ヤ A・C P・D P・D
										S・E (off)「ラ……ラ……ラ……」					


[illegible]


55	リフトグリッブでくるカイ Fr・Oするカイ	56	カイ キヤノンへ向う	57	ハヤト 腹をおさえつつ起き上る あっと	58	ヤヤ戻りぎみにつけこむ 3人 ハヤト	59	ハヤト	60	セイラ、Gファイターにのりこむ	61	ブライト モニターをめぐらしてセイラをみる	62	セイラ ムツとしている	63	ブライト	64	セイラ 正面をみてモニターを見る	65	ミライ プライットに	66	ミライ 顔を正面にむける	67	アムロ	68	ガンダムでる	69	ガンダムゆく
55	「人使いが荒いんだから」 きく本	56		57	「ノ あノ キッカノ」	58	キッカ ハヤト (背中)「ん?」 「ん、ぼくのノーマルス 1ツ、もってきてくれなにか?」 「サンマロさんにおられるよ」 ハヤト 「大丈夫 もう 大丈夫だよ」	59		60	ブライト「セイラ 君を信じてもいい が、戦いに私情はもちこむなよ」 「私の今までの行動は、ウソではなくてよ」	61	セイラ	62	ブライト「指揮官として確認したまでだ。 信じているよ」	63	セイラ	64	「ありがとう…… Gファイター 1ノ 発進できますよ」	65	ミライ 「何かあったの? プライット?」 「ん?」 「何か、セイラ……一人で悩むど とを、かかえているようにね」	66	ミライ 「そうね……」	67	アムロ 「行きますアスノ」	68		69	

107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97
ギレンの部屋	ザビ家公邸	月からジオンへP・D	アムロ	宇宙の中のガンダム	左右をみ、パネルをみ また左右をみ	フォロロー ロケットをとめつつある ガンダム	ガルグダとエルメスの前 に先行するリック・ドム 護衛につく、フォロロー	後を追う ターニンするエルメス（早 い）	inするララア	コクピットのシヤア ターニンするシヤアのグル ググゆく ターニンするエルメス（早 い） 後を追う
ギレン	ザビ	N	アムロ	アムロ	アムロ				シヤア ララア	ララア シヤア （off）「ララア、疲れたか？」 「はい、大佐です。まだやれます」 大
「今回の君の船団の帰還で、ヘ リックの心配はいらんわけだ。 私とて、何年もこの戦争を続け るつもりはないからな」 シヤア・プル（背中）「お、総帥 は、この戦争を一月で終らせ		「これに先だつ数時間前、ジオ ン公国ザビ家の総帥、ギレン・ ア・プル大尉を捕獲していた」	「確かに、何かが呼んでいたイ だ……」	「……きこえなくなった……？ ……なにが……きこえていたん だ……？」					「いや、今日はやめておこう。 戦果は充分に上っている。一度 休んだ方がい」 「はい、大佐」	
										

116	115	114	113	112	111	110	109	108
目をあげてシヤア・プ ル	ギレン	ギレン ニタリ 目をさげるシヤア・プ ル	シヤアノ	横位置ギレン	顔をあげ シヤア・プル、ファイ ルをみてとる	ノートを一枚、持ち上げ てみて	ギレンの手、ボールペン をおく	ギレン、ボールペンもっ てる
シヤア「お言葉とあれば」 ギレン（off）「うむ、空母ドrossが用意 してある」	ギレン 力を利用したモビルアーマーの 用意がすめられてる」	ギレン シヤア「……」	シヤア・プル「……」 「キシリア殿 のもとへ行くと？」	ギレン 「そう、君は自分でも気づかぬ 才能を持っている。勿も……ニ ュータイプの事はまだ未知の部 分が多いだが、それを役立て て欲しい。今度の大戦ではもう 人が死にすぎた」	シヤア「シヤア・プルに関するニ ュータイプの発生形態？ 私に、その才能がある」と？ ギレン 「そう、君は自分でも気づかぬ 才能を持っている。勿も……ニ ュータイプの事はまだ未知の部 分が多いだが、それを役立て て欲しい。今度の大戦ではもう 人が死にすぎた」	ギレン 「木屋のエネルギー船団を新め た君の才能のゲーターはそろっ といる。フナナガン機関に検討 させた その机の上にある」	シヤア「はい。ありがとうございます。 しかし、お話をニュータイプの 件ですが、私は、多少、人より 動が早いという程度で」 ギレン（背中）「君のことは、君以上に 私は知っているぞ」 シヤア「はい？」	ギレン 「それをいうな。シヤア・プ ル坐ってくれ、本論に入ろう」

150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	
シャア	ララア	シャア	ララアとシャアも入りボタンをおす うしろのドア閉じる	フラナガン シャア ニフラナガンはすぐむこうをみる と、二人左へゆく	フワと着地するララア	シャアもみて	みてフラナガン と 右の方をみる	シャア	フラナガン	シャア(背中) フラナガン
シャア	ララア	シャア	ララア シャア 「シャア・プルという方、気になります」 「なぜだ？」 「フラナガン機嫌でよくない水着で来たの、さでれたニヤニヤ」	ララア 「ララア 戦場で胴子にのりたぎると命とりになるぞ」 「(背中) フラウ・プロが着くそうです」 「ソノ よし、ブリッジに上ろう」 「はい」	ララア 「大丈夫です。もうしばらくすれば実戦に出られます」	シャア 「ララア いいのか？」	フラナガン「そういつていただけると、助かります」 「なにしろ、サイコミュが人の洞察力を増やすといっても……」	シャア 「やむを得んというより、その方がよからう、速すぎる」と、かえって敵の確鑿がしづらう	フラナガン「今日のような長距離からのビートのコントロールが不可能になりますか？」	シャア 「直せるか？」

151	150	159	158	157	156	155	154	153	152	151
ふっと顔をひいてシャア	いやと含み笑いをしてシャア	シャア ニツとして	シャリア	ララア上り T・B シャリア見てる	シムス シャリア見て シャリア ララアをみる	シャア 	シムス 「フラナガンの秘蔵子といわれるララア？」 「なに？」 「いい、いい、軍艦の用意がなにかと？」(少尉)	シャア 「どくらうノ シャアだ こちらがエルメスのバイロット ララア・スン少尉」	シムス 「シムス・パバロス中尉ノ シャリア・プル大尉 只今、到着いたしましたノ」	ララア 「シャア(背中) フラナガン 逆流して、ララアを刺戟するようです」 「直せるか？」
シャア 「で？」 大尉は私から何を感じ	「その方が、大佐の御立場を御考え下さるかどうか」	「その方が、大佐の御立場を御考え下さるかどうか」	「その方が、大佐の御立場を御考え下さるかどうか」	「その方が、大佐の御立場を御考え下さるかどうか」	「その方が、大佐の御立場を御考え下さるかどうか」	「その方が、大佐の御立場を御考え下さるかどうか」	「その方が、大佐の御立場を御考え下さるかどうか」	「その方が、大佐の御立場を御考え下さるかどうか」	「その方が、大佐の御立場を御考え下さるかどうか」	「その方が、大佐の御立場を御考え下さるかどうか」


171	170	169	168	167	166	165	164	163	162
シャア	シムスなめシャリア	ふっと顔をひいて	身をひいて シャア ララア見て		シャア ドキッとして	シャア のり出して握手をする	不安なララアに微笑がうかぶ シャリア・ブルをみる	ララアなめ	すっと顔をあげ
	シャア	「はい……」	「人類全体の」という意味にと っていいのだな？」 シャア 「(off)「はい……」 「ララア 判るか？」 大尉のお っしゃることを！」	「はい 大佐」	「イヤ そんなものか……」	「よろしく頼む、大尉」 シャリア・ブル「いえ、もし、我々がニ ュータイプならニュータイプ全 体の平和のために案ずるのです」	「シャア (off)「私は、また友人がふえた ようだ」	「シャア 「良い忠告として受けとってお こう」	「シャリア 「ジオンのために素晴らしい事だ と思われますな」 「良い忠告として受けとってお こう」
「やっかいなことは、ガンダム というモビル・スーツのバイロ ットがニュータイプらしい。つ まり、連邦はすでにニュータイ プを実践に投入しているという 事実。それには、後者も驚きお それるものだ」	「やっかいなことは、ガンダム というモビル・スーツのバイロ ットがニュータイプらしい。つ まり、連邦はすでにニュータイ プを実践に投入しているという 事実。それには、後者も驚きお それるものだ」								「ののかね……」

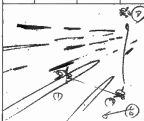
(12)


183	182	181	180	179	178	177	176	175	174	173	172
ララア シャアを見上げ ている	ララア シャアを見やり PAN シャアへ	ザンジバル・ブリッジ火 がゆきすぎる ヤヤあつ て	ザンジバルの前 ブラウ ・プロ ぐわーっと出て くる	ミライ	ふりむくアムロ	ミライ	パネルのある処にいる一 同 ミライ Fr・I して	ミライくる	ふっと息をついて	シャア	うー？ と息をのみ
	ララア シャア	ララア (背中)「なぜ 大尉だけ、おや りになるのです？」 シャア (背中)「機嫌すぎるのだな、プ ラウ・プロのテストをしたとい ってきかなかった……」		ミライ 「さういふわけ？」	アムロ 「ガンダムの操縦系が、ちよつ とオーバーヒート気味なんです。 それで……」	ミライ 「何、騒いでいるの？」	ミライ (背中)「ハヤトノ 起きていら の？」 ハヤト「すいません 御心配かけて」 ミライ 「何、騒いでいるの？」	「シャリア「あ、あり得な……」 「(off)「ガンダムの方向は本 来……」 「(off)「カイ・シバ、にふいかな ら……」 「(off)「……」	「シャリア「あ、あり得な……」 「(off)「ガンダムの方向は本 来……」 「(off)「カイ・シバ、にふいかな ら……」 「(off)「……」	「シャリア「あ、あり得な……」 「(off)「ガンダムの方向は本 来……」 「(off)「カイ・シバ、にふいかな ら……」 「(off)「……」	「シャリア「あ、あり得な……」 「(off)「ガンダムの方向は本 来……」 「(off)「カイ・シバ、にふいかな ら……」 「(off)「……」


192	191	190	189	188	187	186	185	184	
身をひいて	キャと顔をあげ、涙かすかにたまっていて、うつむいて	えノとのり出し	目を開き	ブライト背もたれにもたれ	ブライトをみて ブライトの背中ゆれる セイラ、目を伏せ、微笑して	セイラ靴をみて	ブライト坐る テーブルの端を見つめている セイラをみる	セイラ ドアを開く ブライト	ややあつてむこうをみる ノックする
ブライト「おにぎ セイラ (off) ええ、キャスバル……」 ブライト「で？」	ブライト「兄はおにぎです。父の本当の望みをゆがめて受けとめて、自分ができるまで……キャスバル兄さんじゃありませんノ」 (アマ)	ブライト「セイラノ」	セイラ「いえ……もう……それでもきないでしょうね。ホワイト・ベイスに愛着もあるし、それに出来もしないことを出来る……と信じている兄を思うと刺し違えてもいって……」	ブライト「……フ……で？ 煙を下りるつもりなのか？」	セイラ「シャアは、私の兄なんです」 ブライト (背中) 「兄？……休、兄さん？……また、それがなんで……」 セイラ「事情は……いろいろとね……」	ブライト「まあな」	ブライト「こんな時に、なにかね？」 セイラ (背中) 「あなたの誤解を解いておきたいで……」 ブライト「僕の誤解？」 セイラ「腹が立つ中身でしょう。私が、あのシャアを知っていて隠していたこと」	セイラ「すみません わざわざ……」 ブライト (off) 「いや」	セイラ (off) 「どうぞ」

203	202	201	200	199	198	197	196	195	194	193
被 ソロモンより発光信号点	セイラ見送る ドアが閉じる ボタンと	ブライト「兄は……」 セイラ「兄は……」 ドアが閉じる ボタンと	立ち上りきつて	セイラ ニッノ	ン？ とその手をみて	身をひく ブライト 金目のベイス 今度はセイラ、ブライトのひざにでも、手をかくつもりで	ふっと顔をあげ、笑ってさえる	ブライトの手 セイラの手に、握りこぶしをつくる	ブライトの手 セイラの手 上にある セイラの手、握りこぶしをつくる	セイラ ハラと涙をふいてのり出して クリスのフタを開いて
	セイラ「判っているわ」	ブライト「頭で考えるほど、案なことではないと思うがな。ま……あてにするぞ、セイラ」			ブライト「いや……君の強さには敬服するだけだ」	セイラ「以前と同じように君を扱うだけだ」 セイラ「ありがとう、ブライトさん」	セイラ「でも、同情は禁物。私自身、前線に立つべきではない」	セイラ (off) 「セイラの選んだ道は辛	セイラ (off) 「承知しているつもりよ」	セイラ 「兄が私にくれた金のベイスです。これを、ホワイトベイスのみなで分けて下さい」 「その方が……いいの？」 セイラ「私がスナキリします。こんな自分勝手な言い草はないと思いませんけど……」 ブライト「……」

243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231
ゆるるコクピット 色(元にもどる	色かえシャリア・ブル ガンダム ビーム射つ F・Iするブラウ・プロ	レバーをゴキゴキやるアムロ	ロケットノズル噴く むこうへゆく 手前にビーム上る	上昇するガンダム ビームも追う	レバーをひく そのレバーのつけ根がスパーク	T・B アムロ プレ	ガンダム機でよけるが 機がやられる	ガンダムのビームゆく 下からビームさる	ビームをよけるガンダム ライフルを下にかまえて うつノ	叫ぶアロム	移動するブラウ・プロ ビームをうつ	ガンダムをよけてライフル をかまえる
シャリア 「うつ!!」	シャリア・ブル 「すごい、モビルスーツこそ真のニュータイプに達しない。それでなければ、このブラウ・プロのオールレンジ攻撃を避けられるわけがない」	アムロ 「くっノ、やはりガンダムの反応が鈍い!」				アムロ 「チーッ!」				アロム 「下かアー!」		

258	257	256	255	254	253	252	251	250	249	248	247	246	245	244
キャノンノズルのロケットをふかして後退 右上へPr・O 正面をみ	セイラ 前見て	恩をのむカイ	ビームがキャノンの足を ふつとばす スロー!	Fr・Oする ビームくる	カイ はつとみる	ガンダムよける キャノ ン前から出てくる	くる ブラウ・プロ ビーム射つ	アロム はつと気づいて へすべりこむ	ガンダム、キャノンの前	光がF・Oしてゆく	スレスレに ガンタンク	ビームのどぶ中、ブラウ ・プロ ジグ・ザグによ ける ビームとぶ	機がくる ビームくる ガンキャノン ガンタン ク G ファイター 三	ブラウ・プロ 銃弾に爆発 が散る
ハヤト 「カ、カイさん! どこだ?!」	セイラ 「カ、カイ! ど、どこから……!!」	カイ 「うわ~~~~~!!」			カイ 「ヤッ!」			アロム 「遅れ! この敵はいつものモビルアーマーとは違うぞ! 遅れ!」		ハヤト 「うわっ!」 「二機か三機のモビルアーマーがいるのか?!」				

272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	259
ワイヤーひっこむ B ビームうつつ T・	ワイヤーひっこむ ちぎれたワイヤーひっこむ	ワイヤーのびたビーム 砲をおとす	宙返りをするガンダム 四方からくるビーム フォロイガンダム ビームうつつ		ガンダム左右に身をかわす 前後左右からビーム くるフォロイ	アムロふりむく	シャリア・ブル驚き	キャノンとゆくブラウ・ プロガンダム、ハットと 右をみつ上昇 手前ビ ームゆく	ハットと右をみるガンダム	ビームゆく ビームゆく ブラウ・プロは左手前へ くる	アムロ	銃をかまえるガンダム	ぐいっとなレバーをおす する目
				アムロ 敵は、「一機のモビル・アーマー のはずだ！」		シャリア・ブル 「あのパイロットは、 反対からの攻撃も読んだぜ！」				アムロ 「ガンダムの反応がノ おそい！」			アムロ 「遅れ！ この敵は違うんだ くっ！」

294	293	292	291	290	279	278	277	276	275	274	273	
端でビーム砲上げるヤ ム砲くる	ブラウ・プロへT・U その前へもう一機のビ ーム砲くる	つうこむガンダム ビ ームうつつもう一機のビ ーム砲 フォロイ可 ム砲	ガンダム下へおろすつ つくる	ビームをうつつ	！と見るシムス	シャリアふりむいて	ビームの交叉する中、ガ ンダムくる	シャリアと光が走る T・U	目の間からスパークする アムロ ぐいっとな 目を閉じる フラット画面白くなる 流れる光 キラリと光る カッと目を開くアムロ	レバーひくが下の方から スパーク アムロへT・ U	ゆくビーム ガンダムう つつ 反対からもビームくる ふりむくガンダム	や、バツと下にのびるワ イヤ！
					シムス 「え？」	シャリア 「シムス中尉ノ 逃げる！」		シャリア 「見つけたのかぜ？」	アムロ 「敵はいつ？」	アムロ 「オオオーバービートだノ うつつ！」		
												

294	293	292	291	290	289	288	287	286	285
横を向き シャア	シャア ララアをみて	ララア シャアに	シャア ララアをみて	ララア シャアに	シャア ララアをみて	ララア シャアに	シャア ララアをみて	ララア シャアに	シャア ララアをみて
「戦いは危険を冒してはならぬ、少くともソロモンに在るガンダムは危険だ。それに……シャリア・ブルのことも考えてやれ。彼は、ザレン様とキシリア様の間で器用に立ちまわれぬ自分を知っていた男」	「戦いは危険を冒してはならぬ、少くともソロモンに在るガンダムは危険だ。それに……シャリア・ブルのことも考えてやれ。彼は、ザレン様とキシリア様の間で器用に立ちまわれぬ自分を知っていた男」	「戦いは危険を冒してはならぬ、少くともソロモンに在るガンダムは危険だ。それに……シャリア・ブルのことも考えてやれ。彼は、ザレン様とキシリア様の間で器用に立ちまわれぬ自分を知っていた男」	「戦いは危険を冒してはならぬ、少くともソロモンに在るガンダムは危険だ。それに……シャリア・ブルのことも考えてやれ。彼は、ザレン様とキシリア様の間で器用に立ちまわれぬ自分を知っていた男」	「戦いは危険を冒してはならぬ、少くともソロモンに在るガンダムは危険だ。それに……シャリア・ブルのことも考えてやれ。彼は、ザレン様とキシリア様の間で器用に立ちまわれぬ自分を知っていた男」	「戦いは危険を冒してはならぬ、少くともソロモンに在るガンダムは危険だ。それに……シャリア・ブルのことも考えてやれ。彼は、ザレン様とキシリア様の間で器用に立ちまわれぬ自分を知っていた男」	「戦いは危険を冒してはならぬ、少くともソロモンに在るガンダムは危険だ。それに……シャリア・ブルのことも考えてやれ。彼は、ザレン様とキシリア様の間で器用に立ちまわれぬ自分を知っていた男」	「戦いは危険を冒してはならぬ、少くともソロモンに在るガンダムは危険だ。それに……シャリア・ブルのことも考えてやれ。彼は、ザレン様とキシリア様の間で器用に立ちまわれぬ自分を知っていた男」	「戦いは危険を冒してはならぬ、少くともソロモンに在るガンダムは危険だ。それに……シャリア・ブルのことも考えてやれ。彼は、ザレン様とキシリア様の間で器用に立ちまわれぬ自分を知っていた男」	「戦いは危険を冒してはならぬ、少くともソロモンに在るガンダムは危険だ。それに……シャリア・ブルのことも考えてやれ。彼は、ザレン様とキシリア様の間で器用に立ちまわれぬ自分を知っていた男」





300	299	298	297	296	295
F・O	U	整 備 中 の ガ ン ダ ム P・	立ち止るハヤト 何か話している	シャア ララアのり出し シャア ララアをみて	シャア ララアのり出し シャア ララアをみて
N	N	N	N	シャア ララア	シャア ララア
「つまり、アムロの発達しはじめた反射神経に、ガンダムのシステムが、ついていけなくなつたのである」	「心配されていたガンダムの操縦系のひずみが現実のものとなつた」	「一方、ホワイトベースでは深刻な事態に陥つていた」	「青い そんな……そんなことを」	「ニュータイプは万能ではない。戦争の生み出した人類の悲しい変種かも知れんのだ」	「だ。いさぎよく、死なせてやれただけでいい」



21	20	19	18	17	16	15	14	13	
Wベース、ソロモンへ降	と、前に出るミライ	ミライ肩をすくめ	ブライトふりむく	ミライ	ブライト	ブライトの方をみている	ミライなめブライト	ミライ肩をひそめて	ブライトややきつい表情
	ミライ	「それやそうよ。おれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。」	「それやそうよ。おれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。」	「それやそうよ。おれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。」	「それやそうよ。おれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。」	「それやそうよ。おれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。」	「それやそうよ。おれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。」	「それやそうよ。おれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。」	「それやそうよ。おれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。おれが戦うのはおれだつたわい。」

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22
ブライト入ってきながら	アムロ	モスク	モスク	モスク	モスク	モスク	モスク	モスク	モスク
「俺の理論を応用して、ガンダムの動きを早くしようってんだ」	「俺の理論を応用して、ガンダムの動きを早くしようってんだ」	「俺の理論を応用して、ガンダムの動きを早くしようってんだ」	「俺の理論を応用して、ガンダムの動きを早くしようってんだ」	「俺の理論を応用して、ガンダムの動きを早くしようってんだ」	「俺の理論を応用して、ガンダムの動きを早くしようってんだ」	「俺の理論を応用して、ガンダムの動きを早くしようってんだ」	「俺の理論を応用して、ガンダムの動きを早くしようってんだ」	「俺の理論を応用して、ガンダムの動きを早くしようってんだ」	「俺の理論を応用して、ガンダムの動きを早くしようってんだ」



57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	
ムッとするギレン	デギン目を伏せたまま	ギン デギンの関見の部屋 T ・Uギレンと対峙するデ	ズムンチー	小型艇ゆくむこう、 太陽電池ゆく	小型ロケット・ツウルが 太陽電池を運ぶ、手前に LOW FOL	工作戦パゾックから外板 を下している	が数隻いる	パプア・パゾック輸送機	中央分離帯 P A N コロニーの中、バスを中 心とした車がビッシリと 並んでいる	兵 C 手前に男 	たおれる男
ギレン 「私に、面と向かってよくおっ しゃる」	デギン 「……。しかしな、ギレン。数 百万の一般国民を疎開させると いふことは、これは、軍人の無 能を示すことだ」			人々は不安気にその作業を見守 るだけであつた」	他のコロニーで使われている太 陽電池が、次々とマール周辺に 運びこまれていた。	誰の目にも明白であつた。		N 「マールの人口六百五十万人の 強制疎開が始まったのは、四日 前からであつた。軍事機密のた め一切の理由を人々は知らされ ていなかった。 しかし、本土決戦のための計画 であることは、 誰の目にも明白であつた。	兵 C 「その……の……の……、一人 の……を……する……は、 ……の……と……は……ない……」 老人 「背中」……しかし、行き先が 判らんじやろ」 兵 C 「ジョン園内だ。すぐに見つか る」 兵 A 「次の班、いそげ」 兵 C 「お前たちが 乗る番だ」	老人 「ま、孫娘と離れてしまつたん だ。それを……」	

69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59	58
デギン左をみて	ギレン 	デギン	ギレン	デギン 書面をさし出すギレン	ギレン	モニター	ギレン、ジョロとみて	ギレンとノートを開いて テレビモニターつく	デギン ジロとみて	ギレン、うしろに指をな さす	デギン、ムッとして顔を あげ
デギン 「貴公、知っておるか。」	ギレン 「せっかく減つた人口です。こ れ以上ふやさずに、優良な人種 だけをこす。それ以外に人類 の永遠の平和はのぞめません。 そして、そのためには、ザビ家 独裁による人類のコントロール しかありません」	デギン 「で?! どうするつもりか?」	ギレン 「デギン公王あつてのジオン公 国ですから……」	デギン 「そこまでして、勝つて、どう するのだ? ギレン」 (off) 「サインをいただけなけ れば、この計画は実行できませ ん」 「やっておつて、今さら……」	デギン 「……(on) このシステムはコロ ニーを便えるために金も時間も かからずに……」 (off) 「……」	デギン 「……」	デギン 「ここを突破されれば、ジオン は理同然です。その前に、ソー ラ・システムで……」 (off) 「……」 「……」 侵襲する連邦軍艦隊 を討つ	デギン 「(ビシヤンと)「我ジオン本国 ア・バオア・クイ(③)は最終 防衛線です。それに対して、地 球連邦軍は、三つのコロニーから 侵襲することが考えられます」	デギン 「作戦をぞ、いい」	デギン 「ギレン、……どて公王制 をひいた男だ……。貴公の軍政の みを支持する……」	

109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95
シャア、マリガンの方へ ふりむき	立つシャア	サラミス三隻の中央、光 が散ってゆく、サラミス からは機銃がくる、Jミ サイルの炎、右奥くのサ ラミスへつつ込む ビカーン 光の輪拡る	ミサイルの火長ゆく	ザンジバル 反対のミサイ ルうつ	シャア	まわり出すミサイル うしろ輝く	シャア叫ぶ	マゼランにつきささる光	数衆の光線がゆく が、Jミサイルくる	手前のサラミスの主砲で るつつむく、撃つ、機銃 もうつ	ドム二とエルメスの上 ゆくJミサイル	Jミサイルくる	ずんと背もたれにおしつ けられる兵とシャア	ビカーン 奥が輝く ミサイルくる
マリガン 「ハ、ハイ！」	シャア 「上出来だ、私はゲルググで る」				シャア「うて！」	シャア 「Jミサイル第二攻撃、照準合 せ！」						兵 B 「うっ！」		


123	122	121	120	119	118	117	116	114	113	112	111	110		
向からもビームがつつこ	サラミスのエンジンにつ きささるビーム、別の方 向からもビームがつつこ	間 ビームが撃ちだされる	ロケットが左へ流れる瞬 間	二機のビレットがゆく そのむこうにはサラミス が砲撃をしている	ララァ 「言いつ終ると外を左から右 へビレットがゆく」	シャア ニヤリ	ビーム手前からゆく	ビームが一本となつてゆく	ザンジバル主砲うつ	手をあげるマリガン	とび下りつつ ロケットをふかすや一気 にゆく	ザンジバルのハッチ開く ライフルを持ってとび下 りるゲルググ		
			ララァ 「左のサラミスを！」	シャア 「それでいい！マリガン！ 急げっ！ゲルググ！」						マリガン「よし！援護射撃三十秒！ 味方のモビルスーツにあてるな」				シャア 「私が出たら三十秒だけ援護射 撃をしろ」 マリガン 「は、はい！」


134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	
ラッパ右をみて	エルメス手前にくる ドムが二機うしろにすべ りこむ	ラッパ	銃火の中、ドム左へさが る もう一機もさがる	ラッパ 左をみ 右をみて、あ?!となる	エルメスに向かって猛烈 な銃火がおそり、エルメ スよける	ラッパ、と、サンバイザ ーに銃火がうつる、あっ と身をひく	生きのこったもう一隻の サラミス火線をひく	ラッパ ニッコリして	ドム一機 バタシヤム	サラミスの前方、前へお し出され、さらに前方へ 爆発が拡る	む、ひきちぎれるエンジ ン 大爆発
ラッパ		ラッパ		ラッパ 「ドムのか、ドムが後援 をノあ?」		ラッパ 「よし、もう一隻ぐらいノ あ……」		ラッパ 「や、やったノ 大佐、やりましたよ」	バタシヤム「むの?! エルメスのビット か?! (じろつと左を見て) ま、 まるで、ベチラン・バイロット じゃないか?! あれが初めて斗 いをする女のやることなのか?」		

	134	143	142	141	140	139	138	138	137	136	135	
アイ キャッ チャ	あせるウラッ	最大戦速でつっぱしるサラミス絶撃している、そのまわり、シュ、シュと走る光		砲撃をするサラミス兵二人、ビクッとして		キュンとこわい表情となるウラッ	サラミス完全にくしろをみせてゆく	エルメス左右のビームをやみくもにうつ	大きくゆれるウラッノーマル・スーッとこぐいともまきこめて	火線が当り爆発 エルメス左へ大きくゆれる	ウラッ ふっと目をあげて	サラミスが撃っている、火線くる
	ウラッ 「ああ、当らない！」		兵 E 「は、発信源は不明！」	S・E 「あ、あと一発だとい	ウラッ 「あ、あと一				ウラッ 「ああーッ、援護がなければ集中しきれない」		ウラッ 「私がやるしかないの?！」	


159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145
機銃火を追う	そのあとビッド通過する エルメス通過する 手前の機銃追いかける	エルメス、ビームをうつつ	ララア キョ	ララア	シャア	ロケット火になりつつこ むエルメス、そのむこう から銃火とぶ	ララア	エルメスのまわりから光 の流れつつこむ、それに 襲いかかる銃火、ビーム	ドムむこうをみる、ゲル ググ前へ出る、と手を前 へふる、バタシャム	シャア	カメウ、ドムよりエルメ スへ	シャア	シャアのゲルググゆく	エルメス、火線をのがれ ているだけ
			ララア 「撃つ！」		シャア 「ララア、無茶をするなっ！」		ララア (ハッとして) 「そ、そうか！ ……やってみる！」		バタシャム「バカ言え。エ、エルメスが いたら俺たちの前に出ること はないだろう！」	シャア 「バタシャム殿！ 貴様が前に 出るのだからが！」		シャア 「ん？ どういうことだ？」		

173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160
ゲルググ、タインする、 ドム二機もゆく、	ララア	ノイマル・スリツの中、 もたれかかるララア、ゲ ルググ手をあげる、ララ アの方をみて	エルメスのむこう、光の 輪がでてる、ゲルググ近 づく	サラミスのエンジンに左 右から光がつつこんで、 つきぬけて爆発	ララア	サラミスの舷側に当るビ ーム	サラミスにける、右に砲 その回り光が走る	兵士二人おどろく	正面をみて	ゲルググ、ビーム砲をう つ	シャア	ゲルググくる、手前から エルメス入って、おくて タイン	ララア ハッとして
	ララア	ララア 「……(ふつと溜息)」 シャア (Hoff) 「ララア、よくやった！」 ララア (背中) 「大佐！」			ララア 「次！」			兵士 E 「ま、まただ！」	ララア た、大佐がいれば……」		シャア 「ララア、援護するぞ！」		ララア 「射撃をあてにしているわけではないこと？ 大佐！」
	ララア 「え、援護をして下さって……あ りがとう……」												

227	226	225	224	223	222	221	220	219
キシリア	シャア	キシリア 正面をみて	シャア、ララアをみて ふりむき	キシリア	シャア来て敬礼をする シャア、右前へ出る ララア入って	キシリアと兵士	アムロ やアムロとして	セイラ
								
キシリア 「二隻も……それはすごいな。」	シャア 「初陣で二隻のサラミス沈めました。ララアとエルメスの組合せは絶大であります」	キシリア 「私の名前で督促させる。目ざわりだ。で？ どうなのだ？ 性能は？」	キシリア 「ハ？」 「ハ？」 「少尉のサイズを補給部へまわしておけ」 シャア 「補給部隊の連中は、服で戦争をするではなからうと、いつも……」	キシリア 「大佐は、私の遊撃隊に入り、シャア（off）「ハッ」 「戦斗指揮をとれ」 キシリア 「気に入らん、その服は」	キシリア 「シャア・アズナブル大佐、ララア、スナ少尉入ります」 キシリア 「空母ドロスの主力隊は、グラナダとア・バオア・クールの線上に展開させた」	キシリアと兵士	アムロ 「そう、正面きつていわれると、いい気分のものじゃありませんね」	アムロ 「タク……タイプからいって、古い人間らしいけど」 セイラ 「フ……そうね。おセンチで、ちつとも翔んでないのにな、アムロって」

242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228
ミライとブライト	Wベースの前方、閃光みえる	ブライト	クラウ、ハッとして見て	ガンダム一万を指さす	フラウ、と正面みる	ミライ	ブライト	ミライとブライト	ガンダムとび、ぐいっと上へゆくやむこうへゆく、早い	フラウ外をみている	ジュン・ムサイ	ジュン・ムサイ	キシリアふつと背もたれ	シャア
ミライ 「合流予定ポイントよ、本隊が敵と接触したらしいわ」 ブライト 「敵は？」		ブライト 「ン？ 敵対敵か？」	フラウ 「ブライトさん、アムロが？」			ミライ 「ニュータイプ？」	ブライト 「あれだけ使いこなせるという在するのかもしれない」	ミライ 「モスク博士、たいしたものね」 ブライト 「いや、アムロだよ」 ミライ 「え？」					キシリア 「ふむ……。見せて欲しいものだな。エルメスの動きを……」	シャア 「はい。ニュータイプの実戦部隊の実現。いよいよかと……」
														

305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293
キャーと一本の光がゆ	はつとふりむくアムロ アムロの目、全天をみる	ふりむいてりつガンダル	発二つ	ビットをうつ、うつ、爆	むこうむいてりつ	ビットの機、ふらふら とおそくなる、ビーム直	シャア	ラッパ	モニターのシャア、ゆが む映像	近づくラッパ モニターにシャアうつつ て、下をみて	肩口をスパイクさせてい るゲル ダグヘルメス近づく	ガンダムふりむきつつ上 へにける、ビットのビー ムくる、ビットおいかける、エル メスくる
ラッパ (off)「悪い人だ……」 アムロ (off)「シャアをいじめる悪い人 だ……」						シャア 「……………なんだと!!」	ラッパ 「あ、頭が……おさえつけられ るように……重いのです」	シャア 「けれど……何だ!!」	ラッパ 「大佐! 脱出して下さい!」 「大丈夫だ。この程度なら、ゲ ルダグは爆発しない」 「で、でも」 「エルメスにつかまらせて賣う 攻撃は続ける!」 「続けています。け、けれど……」	ラッパ 「大佐!」		
												

315	314		312	311	310	309	308	307	306	
月を背にゆつたりすすむ ヤシリア隊	ふと顔をあげるシャア ヤシリアをみる	ラッパ ニッコリする	ヤシリア、ラッパと握手 する	艦隊に近づくWベース	ゆくエルメスとドム それにゲルダグ	シャア	ラッパ	エルメス、傷ついたゲル ダグをひきつれてゆく		ガンダム入り込む
N 「今、戦場は月の裏側へ移動し つつある」	シャア (MONO)「しかし……ラッパ の頭痛の原因がガンダムのパイ ロットと関係があるようなら…… 事は、簡単にすすまん」			N 「ホワイト・ベースは先行する 第十三独立艦隊と合流をした。 しかし、この時すでに艦隊は三 隻のサラミス・タイプを撃沈さ れていた。 そのうちの二隻はエルメスによ るものであり、すなわちラッ パは、一日にして四隻の艦を沈 めたことになる。これは空前の 壮舉であった。」				アムロ 「誰が……悪い人なんだ!」		

……第四十話・おわり……



連続テレビ・アニメーション番組



録音台本

第41話『光る宇宙』

名古屋テレビ
制作 創造エージェンシー
日本サンライズ

第41話 光る宇宙

昭和55年1月12日放映


制作スタッフ

●脚本／松崎健一●絵コンテ・演出／貞光紳也●作画／青林芳信・伊東誠
●板野一郎・笠木寿子・清水恵子●背景／アッブル（渡辺毅・渡部孝）●
動画チェック／浜津守●仕上／シャフト（三橋曜子・長谷川悦子）●特殊
効果／土井通明●撮影／旭プロ（斉藤秋男）●編集／鶴岡友彰●現像／東
京現像所●音響監督／松浦典良●効果／松田昭彦●監音／日向国雄●録音
／監音スタジオ●制作進行／植田益朗●設定制作／円井正●A・P／神田

キャスト&声優

●アムロ／古谷徹●ブライト／鈴置洋孝●カイ／古川登志夫●ハヤト／鈴
木清信●フラウ・ボウ／鶴岡るみ子●ミライ／白石冬美●セイラ／井上瑞
●シャア／池田秀一●ララァ／藤恵子●ギレン／田中崇●キシリア／小山
まみ●マリガン／戸谷公次●アサクラ／広瀬正志
●ナレーター／永井一郎

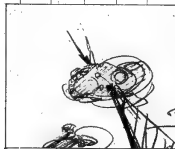
													S
													C
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		
デス ターの チャ イム の方 を	ギ レ ン デス ターの 呼出 しチャ イム が なる	ギ レ ン な め 多 面 ス タ リ ー ン に う つ つ て い る グ レ イ ト ・ デ ギ ン	サ ブ タ イ トル 光 る 宇 宙	月 の 下 を 行 く グ レ イ ト ・ デ ギ ン 一 行	モ ニ ター を み て と、 背 も た れ に も た れ か か る	テ ー ブル な め デ ギ ン	テ レ ビ の ガ ル マ し ャ ベ る そ れ に ギ レ ン W る	デ ギ ン な め ガ ル マ し ャ ベ つ て い る。	デ ギ ン、 ぼ ん や り と テ ー ブル を み て い る	グ レ イ ト ・ デ ギ ン	グ レ イ ト ・ デ ギ ン な め ジ オ ン ・ コ ロ ニー 群	前 進 す る グ レ イ ト ・ デ ギ ン	画 面
女 の 声 (off) 「技 術 顧 問 の ア サ ク ラ 大 佐	ギ レ ン 「老 い た な 父 上 時、 す で に 遅 い の だ が な」 「なん だ が ？」	ギ レ ン 「無 論、 ギ レ ン ・ ザ ビ 総 帥 の 知 る 処 で は な い」	N 「光 る 宇 宙」	N 「「 デ ギ ン ・ ザ ビ 公 王 は、 自 ら の 意 志 を は ず れ た ら 局 面 を 打 開 す べ く ジ オ ン 公 国 を 発 進 し た」	N デ ギ ン 「「 な あ、 ガ ル マ ……」 「 デ ギ ン ・ ザ ビ 公 王 は、 自 ら の 意 志 を は ず れ た ら 局 面 を 打 開 す べ く ジ オ ン 公 国 を 発 進 し た」	デ ギ ン 「「 だ か ら こ そ、 戦 争 回 避 の 努 力 を せ ね ば な ら ぬ も の を……」 （off） 「そ の た め の ゾ ー ラ ・ シ ス テ ム で す。一 拳 に 連 邦 を ほ う む つ て み せ ま す よ 父 上」 「で き る も の か よ」	ギ レ ン 「「 あ の レ ビ ル な ら 考 え そ う な こ と で す」	ギ レ ン 「「 グ ラ ナ タ ・ ア ・ バ オ ア ・ ク ー を 抜 く 力 は な い。と な れ ば、 直 接、 我 本 国 を 襲 撃 す る で し ょう」	ギ レ ン （off） 「「 し か し、 連 邦 軍 の 戦 力 と わ ち ら の 底 を つ いて お り ま す。す な わ ち」				音 声


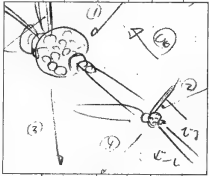
20	19	18	17	16	15	14	13	
シャア 前にかがみ	キシリア	シャア ふっと顔をひく	キシリア	イスのキシリアなめシャア	グワジン ムサイ ザンジバル	ギレン 正面をみる		<p>見ているギレン</p> <p>ギレンなめスクリーンに アサトラ大佐うつり、敬 礼して</p> <p>アサトラ ファイルを見 て</p>
シャア 「キシリア横に呼ばれた時から	キシリア 「私は、四才ごろのキャスベル 坊やと、遊んであげたことがあ るゆだよ?.....お忘れか?」	シャア 「私の?」	キシリア 「で、その前に一つ、きいてお きたいことがある。お前の打倒 ザビ家の行動が変ったのはなぜ だ?」	シャア 「グルググの修理はあと二、三 〇分で...」 「(背中)「木馬の隙を破ったら、 直ちにア・バオア・タへ向う、 情報では、レビルの主力艦隊は グラダナを無視するとみえた」 「ホウ」	キシリア 「(背中)「木馬の隙を破ったら、 直ちにア・バオア・タへ向う、 情報では、レビルの主力艦隊は グラダナを無視するとみえた」 「ホウ」	ギレン 「よく判った.....準備を万全 にな」	<p>「よし、つなげ」</p> <p>アサトラ 「報告いたします。ソール・レ イは可動体勢に入りました」</p> <p>ギレン (背中) 「クム.....」</p> <p>アサトラ 「二時間後には臨界点に達しま す。ただ.....」</p> <p>ギレン (背中) 「続けたまえ.....」</p> <p>アサトラ 「(ハッ) 臨界透過まくと偏光ミ ラーが実用テスト用に製作され た物しか使えませんので ソール・レイ、システムは一度 しか、使えません」</p> <p>ギレン (背中) 「能力は予定通り出るの か?」</p> <p>「はい、三秒間の連続照射と、 その間、十度の変化が可 能です」</p>	

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	
セイラなめ 「ラウ ハヤト フ	セイラ えりをくつろげているブ ライト	艦隊の中の Wベース	シャアなめキシリア	シャア ふっとうつむく	キシリア	シャア手を下す	キシリア	シャア	シャアなめキシリア	右手を差し出す
カイ 「今はその考えのいいのじゃな くて?」 「そんなのが相手じゃ、俺たち が勝、たつわけないじゃないか」	セイラ 「(off) とは違うという訳だな」 「(on) けれど、アムロの話を聴く ると、超能力的な敵としか思え んが.....」	ブライト 「ニュータイプが.....超能力者 とは違うという訳だな」 「(off) けれど、アムロの話を聴く ると、超能力的な敵としか思え んが.....」	キシリア 「そのあとのことは全て、連邦 に勝つてからのこと。よろしい か?」 シャア (背中) 「はっノ 確かにノ」	キシリア 「(off) 「ギレンはア・バオア・ タで指揮をとる」 シャア 「はい.....」	キシリア 「お前もラアバによって、ニ タイプ以上の存在を信じ、打倒ザ ビ家以上のことを考え出した」	シャア 「.....」	キシリア 「その、お前の、先読みする能 力を知って徹底的に調べさせた わけだ」	シャア 「(off) 「それ.....また なぜ?」 キシリア 「(off) ラアバだ。お前がフラ ナガン機関にラアバを送りこ んでいたな」	キシリア 「私だってそうだ。お前の素性 を知った時にはな」	いつか、このような時がくると は思っていました。が、イザとな ると怖いものです。手の震えが とまりません」

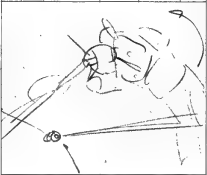
51	オベレーターの上のスクリーンで光点点滅	マーカー「敵が動き出しました！ フライン突撃します」
52	立上がるアムロ	アムロ「カイさん！ ハヤト！ セイラ「早く進めよ！」
53	アムロたちダツと行く ふっとアムロたちをみる フラウ・ボウ	ブライト「シフトはどうするか?」 ミライ「もう任せましょう」 ブライト「ニュータイプか………」
54	二人手前へきれるアムロ・セイラ 奥にいるブライト・ミライ ミライ行く ブライトふっともたれて チラとミライをみる	ミライ「フラウ・ボウノ 各機の発達を急がせてねノ」 フラウ・ボウ「はいノ なにか?」 ブライト「いや………」
55	ミライ フラウの方をみて チラとミライをみる	キッカ「あっ アムロ」
56	ミライ フラウの方をみて チラとミライをみる	チビたち「ワアッ!」
57	ブライト 奥にキッカたちいる 前からアムロ セイラ行く	キッカ「もう、アムロったらノ」
58	アムロ チビたちをとびこえる その勢いにはじけるチビたち つづけてセイラ チビたち、一カ所にボンとあつまり その手前をハロが横切る	
59	ガンダム射出 ガンダムゆく キヤノン出る つづいてGファイター タンク	
60	ガンダムゆく キヤノン出る つづいてGファイター タンク	
61	ガンダムゆく キヤノン出る つづいてGファイター タンク	
62	Wベースあとにガンダム	

63	Gファイターらくる サラムスよりGM出る	
64	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
65	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
66	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
67	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
68	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
69	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
70	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
71	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
72	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
73	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
74	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
75	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
76	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
77	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
78	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
79	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
80	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
81	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
82	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
83	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
84	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
85	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
86	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
87	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
88	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
89	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
90	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
91	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
92	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
93	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
94	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
95	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
96	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
97	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
98	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
99	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	
100	マゼランよりGM出る マゼランよりボール出る	



129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	114	113
ビーム行くが、よけるビーム	ガンダムふりむきビームうつ	上昇するガンダム ビッ トがきてビームうつ 手前にもう一つきて射つ よけるガンダム	ガンダムいく 手前をか すめるビーム	ビーム来て ビームうつ	弾を出すガンダム ビ ンビーム発射 すぐにビッとはにげる ガンダム狙いうつ 別のビームよける	アムロにWるビット群	ビット移動しながらビ ーム射つ	ビット二つきて ビー ムうつ	ビットきて射って行く	ガンダムのまわりにとり つく	ビットの群れが、つぎつ ぎとくる	眼をはさめるアムロ	ガンダム来る	G.Mとドム左右よりつ こみ、入りみだれる	ボールやられる
										アムロ 「ノ」とんがり帽子「だな」					

148D	148C	148B	148A	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130
ビッ トに ビーム あたって 爆発	ライフル射つ	ビッ トきて ビーム 発射	ニッとなるアムロ 見る	きたビッ トそこへ ビーム きて爆 発	銃なめ のびる ビーム 移動 する ビッ ト	ガンダム わずかに 銃を下 に移動 させて 射つ	アムロの 眼の中、 移動 する ビッ ト	ビッ トに ける	ガンダム 身をひ いてビ ーム よけそ のまま 銃をか ま える	ダイ ンと見 るアム ロ	アム ロにW るビッ ト群	ガン ダム すりぬ ける	エル メス よりビ ットお そ う	クッ ノと身 をひく アム ロ 何かを 思いつ き グッ と眼を とじる	ビーム 行く よける ビッ ト	ふり むいて 射つ ガン ダム
										アムロ 「見えるぞ」	アムロ 「クッノ」 アムロ 「そうか? コントロールを?」					

156	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143J	143I	143H	143G	143F
ガンダム メス	アムロ	コクビットのラアア	エルメス コクビットへ		さらに近づいてくるエル メス	アムロ	近づいてくるエルメス	アムロ	速くに見えるエルメス	やられるビット二つ	やられるビット	ガンダム、そのビームを よけて射つ 手前からビームいき ふりむいて射つガンダム	ビットやられる そこへ別のビットきて 射つ	ビットきてビームうち、 すぐに行くガンダムひっ くりかえって射つ	ふりむくアムロ	ガンダムの前をビームす りぬける くるビットを射つガンダ ム ビット爆発
	アムロ 「あ あ!!.....」							S・E 「あ あ!!.....」	S・E 「あ あ!!.....」							アムロ「見えるぞ」
																

176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160
エルメスのビーム砲発射	アムロ	ラアアの眉間より光	ガンダムふりむきライフ ルかまえる	ビットの攻撃を四方によ けて、とカメラにむくガ ンダム	ラアアの眼	ラアアにWる アムロのイメージ	ラアアのみけんにスパー ク入る	エルメス	ビームよけてガンダム	アムロ身をひく	スパークが四方から入り うかぶラアア	アムロのり出す みけんからスパーク	エルメスよける ガンダム の方につつこんでいくエ ルメス	エルメスよける	上昇しつつガンダム 補 でうける ガンダム射つ	エルメスおくへ行きつつ、 ふりむいてビームうち、
	アムロ 「あ あ!!」	ラアア 「ノ アムロ!!」			ラアア 「ア!!」		ラアア 「ン!!」			アムロ 「ンノ」		アムロ 「チーノ」				

191	190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179	178	177
光て ラアア消える	ラアア アムロの眼 out・in アムロ UPになつて	ラアア ガンダム コクビットな め エルメスくる	群れとおビットをきりま わるガンダム	ビット 下から剣できり あげられる	剣をぬくガンダム	ビットがくる	ラアアの眼よりスパーク	アムロ	ラアア	アムロ	ラアア	アムロ	銃 弾の カゲに かくれる ガン ダム 爆発	ガンダムの銃にビームあ たつてはじける
ラアア 「おそれなげ……なげ今になつて、 現われたの?!」	ラアア 「おそれなげ……なげ今になつて、 現われたの?!」	ラアア 「おそれなげ……なげ今になつて、 現われたの?!」	ラアア 「おそれなげ……なげ今になつて、 現われたの?!」	ラアア 「おそれなげ……なげ今になつて、 現われたの?!」	ラアア 「おそれなげ……なげ今になつて、 現われたの?!」	ラアア 「おそれなげ……なげ今になつて、 現われたの?!」	ラアア 「おそれなげ……なげ今になつて、 現われたの?!」	アムロ 「おそれなげ……なげ今になつて、 現われたの?!」	ラアア 「おそれなげ……なげ今になつて、 現われたの?!」	アムロ 「おそれなげ……なげ今になつて、 現われたの?!」	ラアア 「おそれなげ……なげ今になつて、 現われたの?!」	アムロ 「おそれなげ……なげ今になつて、 現われたの?!」		

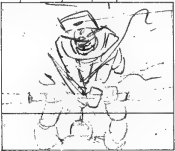



203	202	201	
ガンキャノン をうつ	ドム切りかかる	ガンキャノン退る ドム おそいかかる	アイキャッチャー

C M

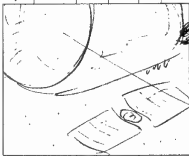
200	199	198	197	196	194	193	192	
アイキャッチャー	アムロ	ラアア	ラアア	ガンダムつっこむ エル メスよける	行くガンダム そちらを 向くエルメス ビーム発射 よけるガン ダム	ビームよけるガンダム	エルメスの銃口かビ ーム発射	ガンダム パツとよける きたビットをたたき切る
アムロ 「だ……だ……どうだという のだ?!」	ラアア 「私には見える! あなたの 中……ふるさともない というの……」	アムロ 「守るべきものがない?」	ラアア 「なぜ、なぜなの? なぜあ なたはこうも聞えるの? あなた には守るべき人も、守るべき物 も無いというのに……」					ビットきてうつ



270	269	268	267	266	265	264	263	262	261	260	259	258	257	256	255
ナギナタをふる	セイラなめ ゲルググ	セイラおびえ	よけるGファイター	エルメスの銃口発射	射つ Gファイター	ラアラ	それをよけるゲルググ	ガンダム、ゲルググの刃をスッとかわし バルカン射つ	ガンダムの剣をうけるゲルググそのまゝさかあがり	ゲルググ上昇 す早くターイン	ガンダム	ゲルググ上へとぶ、ゲルググの刃すぎる	アムロ	アムロ	ゲルググの刃、ガンダムの柄をきりさく
	セイラ 「キヤッッ！」					ラアラ 「大佐！ 近づきますす！」						アムロ 「フッ！ ウッ！」		アムロ 「うっ！」	
															

264	263	262	261	260	259	258	257	256	255	254	253	252	251
はなれていく両者	シャア	セイラみあげている	シャア ハッと身をひき	Gファイターのコクピットにいくこむ刀	ラアラ ビタンと何かをかんじ	ゲルググの刃がせまる	セイラうつむく	Gファイターの方にきりかかるゲルググ	ふりむくアムロ	ガンダムなめエルメスキビーム発射 柄をふっとばす	ガンダムにきりかかるゲルググ	ビームすぎる ビタンと身をひくゲルググ	アムロ 「セイラさんか!!」
	シャア 「アルティシアか!!」		シャア 「うっ！」		ラアラ 「兄さん！ 思い出に！」	大佐！ いけない!!							
													

351	350	348	349A	348	347	346	345	344	343	342	341	340
グワジン	ソラー・システム グワジン	ア・パオア・クーより字 宙へ	司令官のギレン	ア・パオア・クー	デギンの立つブリッジ	マゼランの艦グワジン グレート・デギン	マゼラン サラミスの前 方にせまる グワジン グレート・デギン	士官 レビルに近づく なによりなるレビル	レビル指をさす スクリ ーン上に艦があらわれる	レビル艦隊	アムロなめカッ	アムロ セイラ ハヤト カイバロら
ギレン ある。ソラー・レイ・システム	ギレン (直)「ソラー・レイ、グル・ド ルバ照準に合せば、敵主力三 分の一」	ギレン (直)「敵のレビル艦隊の主力は 三つの隊に分れてはいるもの だ」	ギレン ある。ソラー・システム最終目 標を伝える」	N 「しかし、丁度その頃……」				士官(小さく)「グレート・デギンが和 平交渉をと……」	N 「ここに至り、レビル將軍は、 攻撃目標を示した。ア・パオア ・クーを抜き、ジオンに進攻す ると」	N 「ア・パオア・クーに対する、 第三戦、斗ライオン上に集結しつづ あった」	N 「フフ……ありがとう」 「その頃、レビル將軍指揮する、 地球連邦軍艦隊は」	アムロ セイラ アムロ ハロ 「大丈夫です 斗えますから」 「な? ハロ? 大丈夫だろ?」 「アムロ 脳波レベル優良ノ 優良ノ」

364	363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353	352
サンダラスをかけるアサクラ	レイ スクリーン上 ソラー・	ソラー・レイ	アサクラ プログラマー	発電システムの上をムサイが横ぎっていつて影がおちる	ゆっくり回転するソラー・レイ 制動がかかって止まる	ゆっくり回転するソラー・レイ 制動がかかって止まる	お尻の方も、もちあがっていく	ゆっくりうごいていくソラー・レイ	模式図が微妙に角度変化、実物より小さいロケット噴射	アサクラとプログラマー	ソラー・レイ・コントロール室	アサクラなめ モニター内ギレン
係員A(直)「センパイノ」	係員A(直)「ソナー・レイ・システム・スタンバイノ」		アサクラ「八二五発電システムのムサイ退れノ」 影をおとすと出力が下るノ」						アサクラ「発射角調整ダウン〇一二、ライト〇三二」 プログラマー「基本ターゲットノ ゲル・ドルバノ」	係員A(直)「発電システム異常なし、マイクロー・クエーブ送電良好、出力八五〇〇ギガワット・パー・アワー」	ギレン 「(雑音) スタンバイノ」 アサクラ(背中)「了解でありますノソナー・レイ・システム・スタンバイノ」	

G 機動戦士ガンダム
UNDAM
機動戦士

制作 名古屋テレビ
創通エージェンシー
日本サンライズ

昭和55年1月19日放映

●脚本・星山博之・絵コンテ・西城明・小林立・伊藤昌弘
●一夫・作田・中村裕・斧谷裕・演出・藤原良二
●背景・安西重夫・美術監督・中村裕
●長野ゆかり・広瀬正明・動画・エッタ・浜津守・仕上・ディーン（渡江）
●敬造・堀井加奈子・特殊効果・土井通明・撮影・旭プロ（平田隆文）
●編集・鶴淵日彰・現像・東京現像所・音響監督・松浦典良・効果・松田昭
●監・監督・刈野田・録音・録音スタジオ・制作進行・量住政弘・設定・制
作・円井正・A・P・神田量

キヤスト&声優

●アムロ／古谷徹●ブライト／鈴置洋孝●カイ／古川登志夫●ハヤト／鈴

水清信●フラウ・ボウ／鶴飼るみ子●ミライ／白石冬美●セイラ／井上瑤

●シャア／池田秀一 ●ギレン／田中崇 ●キシリア／小山まみ ●レビル／池田


トワニング／佐藤正治 ●士官／二又一成

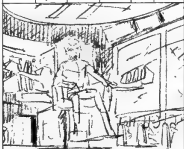
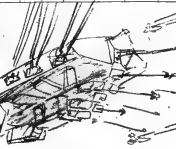
ナレーター／永井一郎


17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0	S
ふきとぶ戦艦ブリッヂ	光の中、爆発流れる GM、ボールも流れる	光の中の艦隊	光の中の艦隊	光の中、レビル	光の中、デギン・ザビ	同、グラレート・デギンと マゼラン	光につつまれるグラレート・ デギンとマゼラン	デギンなめマゼランのブリッ ジ	デギンへT・U	レビル將軍と士官Aなめ グラレート・デギンのブリ ッヂTU	兵士Aなめ艦長	ある遠征軍戦艦のブリッ ジ	月の前をゆくビーム	来るビーム	レイのビームゆく	ソーラ・レイのビーム輝 く	音 面	
				レビル 「うわ!!」	デギン 「あう!!」			デギン(背中) 「これで、和平が……」 兵B(off) 「デギン公王ノ」 デギン 「何か?」		士官A 「デギン公のようで……」 レビル(背中) 「うむ……」	兵A 「無源者か?」 艦長 「あ? なに?」						音 声	
																		

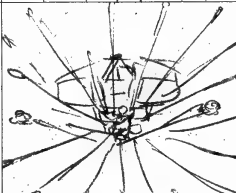
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18
兵E	兵C、Dなめキシリア	太陽。まわりで点滅する光点 来るグワジン	サブタイトル 「宇宙要塞ア・バオア・クー」	アムロ	Wベース・ブリッジ内 艦長バハ・PAN	Wベースのブリッジなめ ビームのシグ	サラミスがサラミスにぶ つかり爆発	光の中、マゼランとコロ ンブスとけてゆく	光の中、サラミスがとけ てゆく	光の中、ふきとぶマゼラ ン	光の中 コロンブスとけてゆく	光の中、溶けて流れる破 片
兵E	兵D	兵C	N	アムロ	ブライト「え、なんだ、あの光はノ……ミライ」 「レビル艦隊の主力部隊のいる処よ」							
「ああ。きこえていたがな……、そっちでもきけたか？」	「あ。ああ。おいノ、レーザー・センサーの方はどうなんだ」	「ソーラ・レイノグル・ドルバ照準で発射されました。なに聞いたろ？」	「宇宙要塞ア・バオア・クー」	「ぜ、全滅じゃあないけど……ぜ、全滅じゃあないけど……」								

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31
ふりむくフラウ	ブライト、ミライ、左右 みている	Wベースなめマゼラン少 く	Wベースなめ マゼラン以下数隻がくる	Wベースなめ、来る戦艦、 数隻	キシリア	キシリアなめ兵C	キシリア	キシリアなめ兵Cくる	キシリア
フラウ フライト	兵員たち「(off)」「第十二分隊は、サフラ ンだけだ」「シスコも被弾している」 「ソーラ・システムであること はまちがいないノ」……etc 「こちらには八隻ね、本部側ついで いるのがあるわ」 「フラウ・ボグノ」	兵C 兵O	兵C 兵O	兵C 兵O	キシリア「グレート・デガンが……妙 な……」	兵C「いえ……」 キシリア「(背中)」「判った。敵の残存兵 力の監視をノ恐らく、半分沈ん だとは思えん」 兵O「はいノ」	キシリア「グレート・デガンが？」 兵O「(off)」「はい。しかも、敵艦隊の主 力と全くの同一地点であります」 キシリア「出撃の報告はあったのか？」 「グレート・デガンの」	兵C 兵O	キシリア「どういふことなのか？ 第二戦 闘配備中である。不明瞭な会話 はやめよ」

69	68	67	66	65	64	63	62	61	60	59
艦隊をおそう銃火	ビームゆく 間あつて、くる銃火	カイ 	アムロなめセイラ、カイ	ドア開いて とび出すチビ達とハロ	セイラとアムロ	カイ	エレベーター内 くるカッ、レツ、キツカ、ハロ	手前、チビ逃くる	アムロ	アムロゆく くるハヤト
		カイ	セイラ	アムロ	カイ	セイラ	アムロ	カッ	カッ	アムロ
		「そりゃそりだな。さかだちし たつて人間は神様にはなれない からな」	「アムロ……さっきお前の言っ たこと本当かよ」 「うそですよ。ニュータイプに なつて未来のことが判れば苦労 しません」 「アムロに、ああでもいつて責 めなければ、みんな逃げ出して いるわ……。こわくてね」	「頭張ってね、信じてんだから」 「あり！」	「いやらしい笑い方」 「アムロ……」 「いいじゃないですか」 「そりゃだけど」	「ハヤトは？」 「お姉ちゃんここにひっかかっ てる」 「ビビビ！」	「おれたちチャイプロックに退避 だ！」 「みんな頑張つてニャン！」	「すぐ下りる」 「ああ」	「だ。じゃあ、またあとでね」 「アムロも無茶は駄目よ」 「アムロ（off）」「ああ！」	

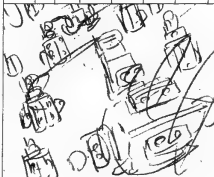
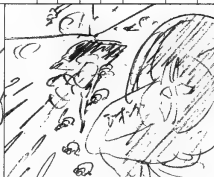
86	85	84	83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	70
める ガトル、パブリクをしと	ミサイルの軌跡がア・パ オア・ターへゆく	ミサイルがとんでくる	司令室内 ギレン	ミサイルがビーム機散腹 を放出する	ア・パオア・ターへ向か つてパブリクゆく	ガトルとミサイルすれ違 う	ミサイル発射するパブリ ク	パブリク、ミサイル発射	パブリク、大型ミサイル を発射する	パブリクくる P A N	パブリク編隊ゆく	パブリクつっこむ	交互するビーム、銃火 手前、ゆくパブリク	ア・パオア・ターより発 進するガトル	ドロス砲撃。発進口より ガトル発進してゆく	ガトルがドロスより発進
			兵D（off）「敵はビーム機散腹を張りつ ギレン 「ミサイルで対抗しろノモビル スーッ隊は、まだ動かすな」													
																
																


122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	112
キシリア	ギレンなめキシリア 立ちまゐる	ギレンなめモニター内の 兵E	マゼランにビーム命中		マゼランからボール離れ る	行くボール、マゼラン、 サラミス、GM	別のマゼランからもGM とびだす	翼をひくガトル 手前ガトル、ミサイルう つ	すりぬけるガトルをGM	射 ガトル三機、ミサイル発 マゼランに直撃するミサ イル
キシリア 「少しでもニュータイプと思え るものをぶつける以外、ガンダ ムは倒せません」	キシリア 「申しわけありません」 ギレン 「フン、エルメスが沈んだぞう どな」 キシリア 「はい」 ギレン 「ガンダム一機に手こずるもの だな」 キシリア 「ジョングを使います」 ギレン 「未完成品をかい？」	兵E 「マゼラン・タイプ撃沈ノ敵の モビル・スーツ部隊が発進した ようです」 ギレン 「ンノ、さて、ドロス、うま くやれよ」 兵F (off) 「機師」 キシリア様が戻ら れました」 ギレン 「おそかったな」								
										

136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123
GM爆発	ドム 左右より乱れるGM、ボ ールとザク、ゲルググ、	ドロスの前、モビル・ス ーツの軌跡が四方へのび る	ドロスよりドム、ザク、 ゲルググくる	GM、ボール砲撃する	クワジン、ドロス、砲撃 して、手前よりGM ボールつっこむ	降下するGM、ボール	降下するGM、ボールの 編隊	キシリア UP	ギレンふり向く PAN キシリア	キシリア	ギレン、ジロリとみて	キシリア	ギレン
									ギレン 「機がゆい。……キシリア。 ……父が、グレート・デギン を手離すと思うのか？」 キシリア 「(off)「思いません」 ギレン 「では、……そういうことだ」 キシリア 「ノ」	キシリア 「ホウ……デギン公王から調達 なさったので？」 ギレン 「沈んだよ、先行しすぎてな」 キシリア 「……」	キシリア 「グレート・デギン、どこに配 いですか？」 ギレン 「……」	ギレン 「また……シヤアか？」 兵F (off) 「ドロス、突出しますノ」 ギレン (背中) 「こたわりすぎるな」	

181	180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168
キシリア	ギレン	「キシリアふりむいて」	ギレン 左を見る、P A N、 キシリアいる	サラミス、ドロスの前に 出るやおしつぶされる	サラミスやられる	ドロスうつ 手前、G M、ボールかす める	ギレン	衛星ミサイル、ボールを つぶす	衛星ミサイル、サラミス と衝突	衛星ミサイル行く	ビームムサイに命中	マゼランうつ	つべ、ビームをよけてう つ
キシリア「フ……。でしやうね。シヤア 大佐のジョングは、どうなこて	ギレン 「そうかい？……所詮は、生 き残り部隊の最後の愚あがきだ ろ？」	キシリア「連邦もよくやります」	ギレン 「ドロス殿。よく支えてくれる。 Nフィールドの全艦隊を前進さ せ」 ギレン（off）「新しい艦隊だと？ 連 邦軍のか？」 ギレン 「何？！」 キシリア（背中）「それは確かなのか？」 兵G（背中）「Nフィールド線上です。 計測します」				ギレン 「アフリ……。ここを攻めるに しては、やはり数が少なすぎたよ うだな」						

196	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183	182
シヤア	シヤアなめミサイル銃火、 くる	ジョング・コクピットの シヤア	ジョングも降下	降下 ジョングも降下	ザク、ドム、砲撃するア・ バオア・クローをうしろに	砲撃が交差する。所々で爆 発おこる	ミサイルの軌跡とビーム 砲火が交差する。所々で爆 発おこる	ア・バオア・クローの下部 砲火おこる	腰のレーザー・ライフル をすつと撃てるキシリア	キシリア	ギレンふりむいてカード を示し	モニターのシヤア、敬礼 して消える	モニターにシヤアうつる キシリア
…（on）私に、明確なニュータ	「なんだかんだといふながらも オコいものだな。技術は確固 ですんでいける」 …（背中）問題は	シヤア 「はっ！ Sフィールドに侵入 する敵を撃滅します！」	キシリア 「はっ！ Sフィールドに侵入 する敵を撃滅します！」	キシリア 「はっ！ Sフィールドに侵入 する敵を撃滅します！」	キシリア 「はっ！ Sフィールドに侵入 する敵を撃滅します！」	キシリア 「はっ！ Sフィールドに侵入 する敵を撃滅します！」	キシリア 「はっ！ Sフィールドに侵入 する敵を撃滅します！」	キシリア 「はっ！ Sフィールドに侵入 する敵を撃滅します！」	キシリア 「はっ！ Sフィールドに侵入 する敵を撃滅します！」	キシリア 「はっ！ Sフィールドに侵入 する敵を撃滅します！」	キシリア 「はっ！ Sフィールドに侵入 する敵を撃滅します！」	キシリア 「はっ！ Sフィールドに侵入 する敵を撃滅します！」	キシリア 「はっ！ Sフィールドに侵入 する敵を撃滅します！」


210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	199	198	197	196
ジョング行く	ア・バオア・ターをうし るにくるジョング	密集隊型のルザル隊 マゼランとサラミスの艦 隊とWベース	マゼラン以下、ルザル隊 ロング。行くルザル隊	ルザル隊行く	隕石ミサイルくる	サラミスの艦隊のむこう、 隕石ミサイルすれちがう。 が奥のサラミスに命中爆発	流れる光玉、奥にWベ ース	サラミスにあたる隕石ミ サイル	ミサイル集中攻撃の中 ぐるドム	光の艦隊よりくるジョ ングとドム	サラミスの機銃うつ	ザクくる	ジョング、両の手をあげ る	シャア
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>														
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>シャア「沈めい！」</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>イブの素顔があるか、どうかだ が……」</p> </div> </div>														


227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214	213
ガンダムつつこむ	GM、ボールがゆく その中からガンダム来る	単眼が頭にくるジョング なめ、光の流れ	ふりあわぐシャア	上からバズーカ弾くる ジョングよける	シャア	爆発の中、点々と艦影が 見えてくる、手前くるジ オング	Wベースのブリッジゆれ る	Wベースに破片つきささ る	Wベース、サラミスの艦 へもふつとぶ破片	にけるサラミス、隕石ミ サイルに激突、爆発	爆発おしよせサラミスか たむくや爆発	マゼランのブリッジ、サ ラミスのブリッジに激突	ブリッジがふきとぶと、 うしろにはサラミスの密 集隊型がいる	ビーム マゼランに命中 爆発
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>シャア「うわーっ！ ミライイト」「は、はい！」 「回避だ！」</p> </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div>														
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>シャア「よし！……しかし、奴はどこ に居るのだ？」</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>シャア「うっ！ あれか?! モビル・ スーツ隊」</p> </div> </div>														

246	245	244	243	242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229	228
つっこむガンダム	アムロ	U・パオア・クーヘT・アムロ	アムロ	ジオングよける	ゆくガンダム、バズーカうつ	アムロ	ガンダムよける	ジオング来てビームうつ	ビームおそう中、ガンダム下へゆく	ジオングのビームくる	アムロ	左右にすれちがうガンダムとジオング	アムロ	構えるガンダム	上昇するジオング	アムロ	行く	シャア
	アムロ 「本当の敵は、あの中にいる。シャアじゃない！」		アムロ 「しかし、今はア・パオア・クーにとりつのが先だ！」			アムロ 「シャア以上のニュータイプみたいだノ……しかし、……ノ！」					アムロ 「うしろから!! なんだ? テノ」		アムロ 「大物だノ シャアか?」					シャア 「奴めノ」

280	279	278	277	276	275	274	273	272	271	270	269	268	267
M・マゼラン、サラミス、G	ドロスが撃沈	キシリア椅子の前に立つ	見ている兵士達	ギレンの体が流れる	兵士達行くとなる	ギレンの体とぶ	ギレンの体、モニター・スクリーンにぶつかりはねかえる	ギレンの脳天を貫くビーム	キシリアの指が引金をひく	キシリアよりT・B・ギレン	キシリア、銃を上げる	火、ドロスの前方で炸裂する	突、火、ドロスとぶ。戦艦激突
		キシリア「死体を片づけろ！」	兵G「ギレン総帥じゃないのか?！」		兵H「あ?」					キシリア「意外と……兄上も甘いようで」	キシリア「……グレート・デギンには父がのっていた。その上で、連邦軍と共に……なぜです?」	ギレン「「フフ……Nフィールドは、ドロス隊で支えれそうだ」	
										ギレン「「死なすことはありませんか?」	ギレン「「死なすことはありませんか?」		





273	272	271	270	269	268	267	266	265	264	263	262	261
Gファイター、タンク、 キャノン以下降下	GM、ボールの編隊とぶ	ザク走る 手前、ジャンプするザク	うすれゆく煙の中、モビル・スーパのGM、ボールくる	ゆれる司令室	撃つア・バオア・クールの砲台につっこむマゼラン	キシリア、椅子に坐り、	兵G	キシリア	天井にひびが入ってコンクリート片がとぶ。トワニング来て	全上	兵たち	キシリア
				兵たち「うわーっ」 キシリア「Sフィールドにモビル・スー		キシリア「シヤアのジョングを前面にお	兵G「二十五隻中、十隻撃沈しつづも、残りはSフィールドにとりつきつつあります」	キシリア「うむ。トワニング……。助かる。ア・バオア・クールの指揮は私がとる。NFフィールドヘモビルスーパ隊を、Sフィールドはどうなっているか」 <small>（手紙の）</small>	トワニング将軍「ギレン総帥は名譽の戦死をされた。ドロス艦隊が破られたぞ！キシリア閣下。御座います」 <small>（五戦）</small>			キシリア「父殺しの罪はたとえ総帥であってもまぬがれることはできない。異議のあるものは、この戦い終了後、法廷に申したい」
												

292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280	279	278	277	276	275	274	
ブライト	襲う	Wベースのまわりビーム	ムグルグを爆破するビー	く	Gファイターの砲火をふ	ゲルググうつ	セイラ	Gファイター、ビームをうつ	スコープのぞくハヤト	ドムやられる	ドムやられる	ドムに集中する火線	タンクうつ	ハヤト	ダムむこうへゆく タンクふりむく	よけるザク	ザクやられる	ガンキャノン、GM、ボールをうつ	カイ 「いけえー」
ブライト「フラウ・ボクノセイラのGFファイターにホワイト・ベースから離れないように伝える」 フラウ（off）「了解」					セイラ「さすが新型！」				ハヤト「次は?！」					ハヤト「いただき！」					
<div style="text-align: center;">  <p>37-292 BANK</p> </div>																			


307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	294	293
シヤアなめア・バオア・ク	シヤア	ビームをよけるジオング	G.M、ビームの直撃をうけ燃焼 ジオングくる	バズーカ、ムサイ直撃	ガンダム、左手のバズーカで撃つ	ガンダム、腰のビーム・ライフルをひきぬく	ガンダム手前に、むこうにうつ	セイラを見て	火を噴くドム。手前G.F.ファイターナリぬける	ドムの目にバズーカ弾あたりふきとぶ	セイラ	G.F.ファイター上見、くるドム	ブライト	ふりむくミライ
	シヤア 「なさない! ガンダムを見失なうとは! どこだ! 奴は!」						セイラ 「アムロ!」				セイラ 「あ!」		ブライト「らしいな……」	ミライ 「甚だ、そうね。何か妙だったわ……(背中)こちらこそ、うまいって、いまいって」

324	323	322	321	320	319	318	317	316	315	314	313	312	311	310	309	308
アムロ U.P	光玉の前くるジオング	アムロなめボール、G.M ゆく	ガンダム、バズーカを撃ち作らくる	キシリア	兵 G	キシリア	兵 G	キシリア	キシリア、側にトワニング	散る G.M、ボール	つ	墜地するザク 降下する G.M、ボール	岩のむこうからザクくる	ドムやられる	降下する G.M、ボール	ボール、G.M、ア・バオ ア・クへ降下する
アムロ 「シヤアか?……こちらをみつけたな」	アムロ 「とりついた、ン?」			キシリア 「いきなり、ジオングだからかな」	兵 G 「敵にはばまれて……ガンダムに近づけぬようです」	キシリア 「シヤアのジオングは?」	兵 G 「ガンダムらしいモビルスーツが血路を開いて……」	キシリア 「……気がかりだな、S.F.フィールドはどうなのだ?」	トワニング「やりますな、N.F.フィールドもモビルスーツがとりついたらようです」 キシリア「うむ……」							

338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327	326	325
ガンダムよける ビーム、ザクにあたる	ビームうつジョング	ザクをおしやるガンダム	アムロ	ガンダムゆくと ザクが一機くる	突っ込むガンダム	レバーをおすアムロ	キシリア	トワニング		キシリアなめトワニング	同、ア・バオア・クーへ TU	シャア	光の輪を背にしてくる ジョング
			アムロ 「ノ、なぜ、出てくる」			アムロ 「やるしかないのか」	キシリア 「総師が、ニュータイプにもつと早くお気づきであればな……、敵をひきこめ。ア・バオア・クーで、一つ一つしらみつぶしにする。残った敵の数。決して多くはない」	トワニング 「申しわけありません。しかし、彼等の教団の志は……」	キシリア 「しかし、ゲルググ、ドムの動きがめだたないのは、どういうわけだ？ トワニング 「はっ、トワニングが、生徒動員のパイロットが多いようですから」 トワニング 「学生か……」 トワニング 「しかし、養成は万全でありました」 キシリア 「うむ……。話は信じるが……結果だけが問題なのでな……。腑にさるようだ」			シャア 「みえるぞ！ 私にも敵がみえるぞ！」	

356	355	354	353	352	351	350	349	348	347	346	345	344	343	342	341	340	339
ビームよけるガンダム	ビームよけ、くるジョングのビーム発射	シャア	ビーム・ライフル火をふく	アムロ レバーを押す	ビームよけるガンダム	シャア	ビームよけるガンダム、せまる	ジョング手をあげてビームうつ	アムロ	ジョングとすれちがうガンダム	ジョングの左手はずれる	シャア	アムロ	ガンダムゆく、ジョングゆく	ザクが散る 手前ガンダムすりぬける	ザク・コクピット、スベークの中、生徒兵	ザク、火をふく
		シャア 「ノ」		アムロ 「いただくノ」		シャア 「チャノ」			アムロ 「逆方向から？ン？」			アムロ 「ノ」				生徒兵 「あ？！ あゝノ火、火が……ノ景、かあさんノ」	



369	368	367	366	365	364	363	362	361	360	359	358	357
F・O 対峙するガンダムとジョ ング	対峙するジオングとガン ダム	行くジオング 奥、来るガンダム ストップ・モーシオンに なつて	シャア	ガンダムくる	シャア	ジオングの腰をかすめる ビーム	ジオンとすれ違ひガンダ ムふりむきつづ、うつ	ビームよけるガンダム	降下するジオング、うつ	ビームよけるガンダム降 下する	ガンダムとジオングが左 右からきてすれ違ひ	アムロ
			シャア	N	シャア							アムロ
			「あのガンダムのパイロットは、 今、確実に自分を追いこんでい る！」 「しかしノ……私もニュータイ プのはずだ！」		「デッ！ まかか」 「シャアは、はげしい焦りを感じ はじめていた。ニュータイプ 用に開発されたつとも、このジ オングのパワーを最大限に発揮 できぬ自分に……」							「よけたのかっ！」





機動戦士
ガンダム
UNDAM


制作 名古屋テレビ
創通エージェンシー
日本サンライズ

● プレミヤ・ノオサ・展

											R	R	R	R	R	R	R	S
																		C
17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1		面
手前にくるやかまえるガ	ヤビームを手だけせまる	ジオングとガンダムすれ	ガンダム ジオングすれ	ジオング、ガンダムのビームをよけ	ガンダム ビームをよけ	ジオングのビームうつ	ドクと動き出す	サブタイトル「脱出」									ジオング以外のBANK	面
							S・E	N	N	N	N	N	N	N	N	N		音
							「ドクタン ドクタン ドクタン」	「脱出」	「地球連邦軍は攻勢に出た」	「アトバオア・ターに隙を作ったようだ」	「しかし、ヤシリアがギレンを救ったことが」	「地球連邦軍は、その戦力の三分の一を失った」	「レイではあったが」	「一軍レが使えぬ、ジオンのソリ」				声


32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	
マーカー応じる	ブライト	Wベースがア・バオア・クーへ撃ちこんでいる	セイラ右をみ 左をみる	Gファイターとガトルすれ違いガトルやられる	ガトルやられる	ア・バオア・クーに反撃する。ザク・ドム	マゼラン砲撃しつつ左へ流れる サラミス爆発しつつ、かすめる	スパークが入る	シャア 「ンノと顔をあげる」	アムロ スパーク出る	四方からビームがくる ガンダムよける	左右に手が分れる 口からはビーム砲がでる	シャア	ジオングのスカートを一部ふきとばす	ガンダム ビームうつ
十個大敵を全て上陸します！ 「これくらいでいいです。あと、」		ブライト（off）「右舷の攻撃に集中させる！ 第23中隊は待て！」				シャア 「ンノ 誰だ?！」		アムロ 「シャアか!」		シャア 「うつノ ガンダム奴ノ……中隊は待て！」					


47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33
ハヤト	タンク砲撃して左へかくれる	手前から火戦がゆく。キャノン尻もちつきつつ岩にかくれる	カイ	三機のモビルスーツは奥からの集中砲火にうちぬかれる	カイ バッとスコープを外し。	鉄扉破られる ボール GMとびたむ	キャノンうつむこうタンク撃ちながらくる	ガンタンクのキャタピラ ー前進する	ハヤト	砲火の中、降下するタンク	カイ	キャノン着地して、伏せ撃ちあげる GMのボールが降下している	フラウ椅子ごとふりむいて	ブライトいいながら左をみて
ハヤト			カイ 「ホラみるノ」		カイ 「野郎ノ この一番の今は、俺だつてのにノ」				ハヤト 「カイさんだけにいい思いはさせないぞノ」		カイ 「外からドンパチやったって、ラチあかないのよねノ」		フラウ 「難在です」 敵基地の入口に接近中ですノ!	ブライト 「……」 キャノン 「ガンタンクはどうか?」 「うう、わりと」
														

63	62	61	60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49	48
ガンダム降下 び、ビームが カメラ前にビーム一杯に なる	ガンダム沈む 部がふきとぶ たての一	ガンダム ガンダム	ぐいっとのり出すシャア	アムロ	シャア	アムロ	かさなりあるガンダムと ジオング	ンノ となるアムロ	シャア	ガンダムのライフル火を はく ジオングの左腕をふつと ばす	ガンダムをばくジオング ガンダムとびこみ	ガンダム パツとせまる	はつと身をひくシャア	ジオングとガンダム交互	ガンダムゆく ビームが 四方からくる
			シャア 「チークノ」	アムロ 「なぜ ララアをまきこんだの だノ ララアは斗いをする人ではなか ったノ」	シャア 「是 なんだ？」	アムロ 「こう近づけば、四方からの攻 撃はムリだなノ シャアノ」			シャア 「ガンダムノ」				シャア 「うっノ」		
															

(R)

77	76	75	74	73	72	71	70	69	68	67	66	65	64
ムクくる	シャア手早くヘルメット をつけて	ジオングとぶ	手前の砲 気狂のように 撃っている	次々とハッチの中に入っ てゆく兵たち GMに直撃数発	負傷兵をはこぶ兵 そのうしろ、Wベイスゆ っくりと掃倒してゆく	アムロ	追うガンダム	ジオング降下する	ジオングの右手にあたる ビーム	ガンダムの左腕をふ きとばしてゆく	ジオング 右へよけよう として当る	右手 ビームをうつ	アムロ
	シャア 「ガンダムのパイロット アム ロといたな、どうする？ あ のニュータイプに勝ち勝つ方法 は？」			兵 B 「ここはモビルスーツ 隊に任 せるノ」 「いいんだノ」	兵 A 「おいノ しつかりしろノ 死ぬんじやないぞ」	アムロ 「本当の敵は、ギレ家の残党だ とへうのくに……なぜ、それを倒 さずに 邪魔をするのだノ」							アムロ 「シャアノ 死神」

93	92	91	90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	80	79	78
脚すべりこむWベース 前	港口の一つへ向ってすべりこむWベース	ミライ ハンドルをまわす	やけただれた地下砲塔のむこうWベースすべりこむGMが一機、防御に入ってくる	大砲は発射している ち切れているだろう	ミライ	脱出するWベース エンジンは大爆発	エンジンにつけ根 ロケット噴射外れる	ミライ	ブライト	爆発するWベースの左舷エンジン	ブライト左へ向って怒鳴る	左舷エンジン直撃	Wベース左舷直撃	地上の巨大砲発射	シャア
		ミライ 「コ ロントロールが……」		ブライト「任せるノ 全員に告げるノ 白兵戦の用意をさせるノ」	ミライ 「着底しますノ」			ミライ 「はいノ」	ブライト「エンジン切離せノ ミライ」		オスカ「ブライト マーカー「うわーノ」	ブライト「北條 エンジン急速閉鎖ノ」			シャア 「ラヲアノ 教えてくれノ どうしたらしいのだ」

107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94
そこを爆発させつつつっこむムサイ その間から、すりぬけるようにガンダムくる	左を向くフラウボウ	フラウトとブライト	タンク降下	降り止るキャノン cut inするカイ	ザザーンと出て止るWベースの船首 手前 ガンキャノンくる	左舷エンジン爆破 Wベースゆれて前へくる	エンジンバクハツ	Wベースいる ドムがバズーカうつ	ドムが二機のぞく	ブレおさまってゆくブライトぐいっとみて	ミライの体がはねる	はねるナビたち	Wベースおりにゆく
	ブライト「カイとハヤトには援護をたのめノ」	フラウト「はいノ」	ブライト「フラウボウも拳銃をノ」	カイ「うあつ?! ホワイト・ベースのエンジンが両方とも?!」						ブライト「うっ! 周囲に気をつけるノ どこから敵兵がでてくるか判らんぞノ」	ミライ 「あゝッ!」	ナビ 「うわー!」	

126	125	124	123	122	121	120	119	118	117	116	115	114	113	110	109	108
シャア	ジオンすいこまれてゆく ジオンダの首が外れる	ハッとするアムロ スバ ー入る	ジオンダの通常のコクピ ットと思われる処をうつ	ガンダム正面にとび出し うつ	シャアハッとふりむく スバークでる		シャア左をみる		シャアのり出すシャア	手前の岩をビームではね とばしてゆくガンダム のロケット、岩のむこう へかくれる	ジオンダ腹のビームをも う一発うつ	ビーム鳴く ガンダムよ ける	ア・バオア・クーの一角 からビームくる	ガンダム・ドムをけとば す	ア・バオア・クーの表面 ドムがとびこむが	アムロ
シャア	「ガンダムっ!」	アムロ 「遠うか!!」			シャア 「ア!!」				シャア 「アッ!」							アムロ 「どこだ!! シャア!」


127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139
ビームをうつジオンダ	ガンダムの首がとぶ	アムロ	ガンダム ビームを撃つ	ジオンダ 右に左にビームよけて、岩かげにかく 岩にもあたるビーム ガンダムつつこむ	アムロ	ガンダムとぶ	キシリアと兵士		キシリア	トワニング一歩きて	キシリア	のり出すトワニング 手 前にキシリア
		アムロ			アムロ		兵（背中） 「ジオンダ撃墜 識別信号解除」 キシリア「赤いすい星も地におちたものだ」	兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵	トワニング「ハッノ 閣下ノ」	キシリア	キシリア「私の脱出15分後に、ここを降服させるがいい」 トワニング「しかし……」 キシリア「ダラナダの戦力と本国の戦力が残っているうちに……」 トワニング「しかし……今となつて
		「うわーっノ シ、シャアー叔ノ」			「まだだノ たかがメイソ・カメヲをやられたただけだノ」		兵（背中） 「ジオンダ撃墜 識別信号解除」 キシリア「赤いすい星も地におちたものだ」	兵 兵 兵 兵	兵 兵 兵 兵	トワニング「ハッノ 閣下ノ」	キシリア	キシリア「私の脱出15分後に、ここを降服させるがいい」 トワニング「しかし……」 キシリア「ダラナダの戦力と本国の戦力が残っているうちに……」 トワニング「しかし……今となつて


152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	
	リ アムロ カメラ チリチ	歩むガンダム 出ている スパーク	アムロ	ブレるガンダムの機体 排ガス出る	奥へゆく ジオング ビームをうち	くるガンダム	むこう走る兵みえる ライトうつ	ブライト	ドムやられる	カイ左右をみて	キャノンうつ 壁のひこ うからうつくるドム	Wベース機銃四方にうつ	
アムロ			アムロ					ブライト		カイ			
「シャア……いるな……」			「シャアだつて判っている はずだ！ 本当の例すべき相手 それを邪魔するなど……」					「敵の陸戦隊がでてるぞ！ 総員バズーカ、ライフルで立ち 向え！」		「まるで、アリジャあねえか！ あつちこつちと！」			は脱出こそ至難の技かとも…… キシリア「私が生のびねば、ジオンは失 なわれる」 トワニング「降参後、私の身柄は？」 キシリア「捕虜交換の折に、ひきあげよ トワニング「ハッ！」 キシリア「船の用意を！」 トワニング「直ちに！」


167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153
アムロ着陸 ふつと立ち	爆圧のうすれてゆく中 アムロ体をひねり	上からの爆圧にたえるガ ンダム倒れる	下からの爆圧にあふられ るアムロ	アムロ上昇する ジオングの右の耳あたりから爆	ビームガンダムの膝か ら下をとかして ガンダムの機体おちる	ガンダムの右腕がふきと び	アムロ上へとぶ	ジオングの右の耳の突起 物やられる	ライフルを構えうつつガ ンダム	ガンダムくるや	ふとアムロ左をみる	ガンダムくる	とぶアムロ むこうの岩 のかげへゆく 一歩一歩ガンダム入り こむ	ガンダムのハッチ開いて アムロ立ち上るや とび出すアムロ！
アムロ			アムロ											
「……今の機になら本当の敵を 倒せるかも知れないはずだ」			「うわーっ」											

182	181	180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168
シャアおくへきえる アムロ入りこみ	シャア パッと息しぶき がある	シャアにげようとする 処をアムロうつ	シャアとアムロ 交叉する	シャアよけて ビームを うつ	アムロよける	アムロの拳銃火を噴く	歩くシャア	シャアくる	アムロ	シャア	アムロ	シャア	手前にアムロ おくにシ ャアがいる	のり出すアムロ ぐつとふりむくアムロ
							シャア	アムロ	シャア	アムロ	シャア	アムロ	アムロ	アムロ
							「今、君のようなニュータイプ は危険すぎる……私は、君を殺 す」	「それ以上近づくと撃つぞ」	「しかし、正しい物の見方だ」	「それは理くつだ」	「戦争がなければ ララアのニ ュータイプへの目覚めはなかつ た」	「それが許せんというのなら聞 きだ……アムロ君」	「なにに!!」	「ザビ家の頭領が利るんだ」 シャア (or) 「その力、ララアが与えて くれたかも知れんのだ ありが たく思うのだな」 「黄蜂がララアを戦いに引きこ んだ」


199	198	197	196	195	194	193	192	191	190	189	188	187	186	185	184	183
ライフルを持つて身をお バクハツ	立つザクにキャノンゆき バクハツ	カメラに向つてうつ	やられたキャノン崩れる	ザクがうつ キャノンの足をやられる	出てきたドムに集中砲火	カイ	たおれるガンタンクのキ ャノビーふつとぶ ハヤ ト右へとぶ	ハヤト	タンク上に向つてうつ	タンクの手 奥のザクに 向かつてうつ	ハヤトのぞく	ガンタンクの キャタピラ ーに直撃	きて立ち止るアムロ	アムロむこうからきて、 床に手をついて ドア閉じる	アムロ閉じてゆく シャ ア奥へきえる	アムロ来ながら あっ となる
カイ						カイ		ハヤト			ハヤト					
「それそれ、これから明日兵戦 護にならねえじゃねえか」																



213	211	210	209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	
ヘルメット姿の兵たち三人とんでゆく すつとセイラ見送って、 さらにゆく	キシリア 前へ出ながら	キシリア入ってきて敬礼 する	内火艇が入ってゆく	セイラ前進する	こわれた通路のかく	セイラとびこんで奥をみ るセイラ	手をついて左へゆくセイ ラ	セイラ あつ! となる	Wベースここにて銃撃	拳銃をぬきつつくるセイ ラ	全体とまるGFファイター キャノピー上るや、セイ ラーとび出す	GFファイター 不時着す る	こす
兵 「24ブロックで中隊長殿が!」	キシリア「手間どうするか?」 士官(off)「申しわけありません」 キシリア「急がせい! 他の兵に気どら れるな!」	兵 「冗談じゃあないよ! 死にに いくわけじゃあないんだ! 護 衛機をまわせ! ザクでいい ザクで!」	兵(aff)「外には敵がよりよいいるんだ 兵(aff)「ドム中隊をまわせ! いくら なんでもザンジバル一巻じゃあ ……………」	兵(aff)「外には敵がよりよいいるんだ 兵(aff)「ドム中隊をまわせ! いくら なんでもザンジバル一巻じゃあ ……………」				セイラ 「ア? 兄さん!」		セイラ 「みんなは?」			かよ
													

228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216	215	214
のり出すセイラ	シャア さがつてうけて 前へつっこむ	アムロ つっこむ	シャア		ふりむくアムロ上界 シャア 追う	シャア つっこみ	アムロ つく る さがる	シャア ケンをふりかざ す	アムロ うけつつ前へ出 る	クラシグタな部隊が見え る	ハッとするセイラ		かくの方へすむ	セイラ 流れる
セイラ 「やめなさい! アムロ! ヤ めなさい! 兄さん!」		アムロ 「そんな理屈!」	シャア 「そり! 体を使う技は、ニ ータイプといえども訓練をしな ければ……!」	アムロ 「ニールタイプでも体を使うこ とは、普通の人と同じと思つた からだ」	シャア 「判るか! ここにさせいこん だわけを!」	シャア 「チー!」	シャア 「/」		シャア 「迷うぞ!」	シャア (off) 「貴様が最強の兵だからだ アムロ (off) 「(だから倒す) アムロ (off) 「(本当の敵は、ザビ家では ないのか!」 シャア (off) 「私にとっては!」			兵 (のんびりと) 「戦争が始っているっ て!」 セイラ 「あのむこう?」	兵 (のんびりと) 「戦争が始っているっ て!」 セイラ 「あのむこう?」
														

242	241	240	239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	229
流れるシャア	流れるアムロ	流れる二人	セイラなめ った二人	セイラ	正対する バスターチンノ ラアア入る	反動で 血の色がみえる	折れた剣が右へすべる シャアの顔がのり出す	アムロの肩をつく剣	アムロの剣がシャア・サ ンバイザーをつらぬく	しなり二本の剣	アムロのり出す ク発する	シャア	セイラ 二人はなれる
シャア 「戦場では、強力な武器になる ／やむを得んことだ／敵を あれば、無様を殺すしかない」	アムロ 「い、い、いま、ラアアがいつ た……ニ、ニ、ニムタイプは、 こころし合う道具ではないっ て……」			セイラ 「あ？ あれ………!!」						アムロ 「チーフ」	シャア 「イヤー」	セイラ 「二人が斗うことなんてないの よ／戦争だからって、二人が 斗うことは」	


252	251	250	249	248	247	246	245	244	243
アムロ 通路のむこうへ	アムロ セイラ ギョッとする 三人ふつとぶ	シャア	セイラ	シャア 近づく セイラ、 キツとみて シャア・アムロをみる	アムロ セイラにおさえ る血が噴く	アムロとシャアの間にセ イラぶつかる 壁にぶつ かるアムロ セイラ	通路のおくから轟々くる れる	セイラ うしろの閃光つきとばさ れる	流れるアムロ
三人	アムロ セイラ 「な、なに?」 「兄さん!」 「うわーっ!」 「なんていうこと……」	シャア 「ザビ家打倒をぞ、もうついで のことなのだ、アルティシブ。 ジオンなきあとは、ニムタイ プの時代だ、アムロ君が、この 私の言うことが判るのなら…… 私の同士になれ。ラアアも喜ぶ 事」	セイラ 「兄さんの 敵は、ザビ家ではな かったの」	シャア 「アルティシブ!」 「兄さん!」 「やめて下さい!」 「アムロに恨みがあるわけ はないでしょう!」 「しかし、敵にするわけにはい かん相手であれば倒せる時に……」	アムロ セイラ 「うわーっ!」 「背中」 「ア、アムロ!」 「大丈夫 アムロ」 「ううー!」	アムロ シャア 「う!!」 セイラ 「あ!」	セイラ 「やめて!」 「二人が!」 「あ!」	アムロ 「貴様だつて……ニムタイプ だらうに!」	


266	265	264	263	262	261	260	259	258	257	256	255	254	253	
アムロ	腰の手の前のケースのフタを開いてテープを出す	アムロ と、右へ倒れかかる	アムロ 剣先をぬく	アムロ	アムロ アムロもう一度 剣をにぎってぐりぐりつつとゆする	アムロ	アムロ アムロもう一度 剣をにぎってぐりぐりつつとゆする	アムロ アムロもう一度 剣をにぎってぐりぐりつつとゆする	アムロ アムロもう一度 剣をにぎってぐりぐりつつとゆする	アムロ アムロもう一度 剣をにぎってぐりぐりつつとゆする	アムロ アムロもう一度 剣をにぎってぐりぐりつつとゆする	アムロ アムロもう一度 剣をにぎってぐりぐりつつとゆする	アムロ アムロもう一度 剣をにぎってぐりぐりつつとゆする	アムロ アムロもう一度 剣をにぎってぐりぐりつつとゆする
アムロ		アムロ 「ううーっ／＼」 「ハァー／＼ ハァー……」	アムロ 「ううーっ／＼」 「ハァー／＼ ハァー……」	アムロ 「ううーっ／＼」 「ハァー／＼ ハァー……」	アムロ 「ううーっ／＼」 「ハァー／＼ ハァー……」	アムロ 「ううーっ／＼」 「ハァー／＼ ハァー……」	アムロ 「ううーっ／＼」 「ハァー／＼ ハァー……」	アムロ 「ううーっ／＼」 「ハァー／＼ ハァー……」	アムロ 「ううーっ／＼」 「ハァー／＼ ハァー……」	アムロ 「ううーっ／＼」 「ハァー／＼ ハァー……」	アムロ 「ううーっ／＼」 「ハァー／＼ ハァー……」	アムロ 「ううーっ／＼」 「ハァー／＼ ハァー……」	アムロ 「ううーっ／＼」 「ハァー／＼ ハァー……」	アムロ 「ううーっ／＼」 「ハァー／＼ ハァー……」
														


279	278	277	276B	276A	275	274	273	272	271	270	269	268	267	
ア上昇する	勢いよく開くドア ア上昇する	上昇する シャア	上昇する シャア	立ち止る 見上	セイラ	シャア歩む	セイラ	シャア シャア シャア	セイラ セイラ セイラの肩を抱	シャアとセイラ	兵	シャア	シャアと兵	テープをもつてゆく
														
														
<p>兵 (off on) 「キ キシリア様が脱出されるので……ご 護衛にしたいと思います……」</p> <p>シャア 「安心しろ、貴様に変って、……」</p> <p>兵 「あ、ありがとうございます。ううわさのやけどは、ございませんな……」</p> <p>シャア 「ここも大分、空気が薄くなってきたアルティシアは脱出しろ」</p> <p>セイラ 「兄さんはどうするのですか？」</p> <p>シャア 「ザビ家の人間は、やはり許せぬと判った。そのクリはつける」</p> <p>セイラ 「……兄さん……」</p> <p>シャア (off) 「お前も、もう大人だろ？」</p> <p>シャア (背中) 「戦争も忘れろ」</p> <p>シャア 「いい女になるのだな……アムロ君が呼んでいる」</p> <p>セイラ 「……」</p> <p>アムロが……</p>														

294	293	292	291	290	289	288	287	286	285	284	283	282	281	280
艦内へザンジバルの船底が叩きつけられる	サラミスのビームゆくザンジバルへ集中ビーム	あちこち火を噴くア・バオア・クイマゼランからとぶビーム	正面にビームを撃つ	火をふくザンジバル上昇	ガラスの処で爆発した火	上昇するザンジバルのブリッジにつきぬける火線	シャア、バズを構えるやうに	ザンジバルの船底のロケットふかす！ 上昇	のり出すキシリア	草	シャア、ふつと敬礼の仕	ふつと正面をみる キシリ	兵（中）「10 / 9 /」	兵（中）「10 / 9 /」
									キシリア「シャアか？ 背にヤムから持て」	シャア「ガルマ、私の手向けだ。節上と仲良く暮すがいい」				兵「キシリア閣下は!!」
														



311	310	309	308	307	306	305	304	303	302	301	300	299	298	297	296	295	
とんで歩く上体	シャアがむアムロ 強制排出される上体	アムロ 降下 バーニア噴かし	ガンダムいる	アムロ ビーンと降する閃光	ガンダム倒れている	アムロ	アムロ降下	アムロ	アムロくる	アムロよろけて	アムロ 壁の破片ごとつ っこんでくる兵 反動で前へくるアムロ		セイラ	よろめき倒れるセイラ	ふき出る火 アムロつきとばされとま って	もえるア・バオア・クイ	ドオー とのびる火線
			S・E 「R / R /」	アムロ 「まだ助かる！」 S・E 「R /」		アムロ 「あ!!」		アムロ 「ち養生……ここまで か……」		アムロ 「あう……っ / うう……っ /」	アムロ 「うわっ /」	アムロ セイラ 「みんなの処に…… い、いけ…… い、いっただって…… 生きて…… って……兄さんが…… ……」		アムロ 「だ、だめか？」			

338	337	336	335	334	333	332	331	330	329	328	327	
ぐいっとブライトの体も	カイとミライ セイラの手人つてきて、 カイの手をつかむ ミライも手をのばす	ゆつくりと上昇するラン セイラふきとばされてゆ き 体をのばす	床をけつてくるセイラ	通路のむこう W ベース みえる	セイラ	セイラくる	セイラ降下	セイラ とび下りてゆく	二人 ばつと走る	カイとハヤト 二人はつとする	ハヤト後退しつつかを撃 つ カイとびこむ	ダダダつと四人とハロゆ
ブライト「よいし、いいぞ、やっつく	カイ「おーっとノ」 セイラ「カイノ」	ミライ「セイラさんノ、こつちよ」 「セイラノ」	セイラ「あノ」 		セイラ「ノ、ホワイトベースノ」				ハヤト「連邦軍は優勢らしいし」 「勝つとなりあ、ここをひきあ けてもよからう」 ハヤト「じゃあノ」	ハヤト「この船めだちますからねノ」 「あ？ ああノ、きこえましたか か？」 「ここはもう撤退ですつてノ」 「そう思うな」 ハヤト「アムロだノ」 ハヤト「アムロだノ」	カイ「えーいノ、敵の機体や艦船、 ホワイト・ベースだけをねらつ て……ノ」	

352	351	350	349	348	347	346	345	344	343	342	341	340	339	
ア・バオア・ターをみる	セイラ ブライト	セイラ	ブライト	セイラ	まだ 爆発がつづく	ブライトふつと顔をあ げる 敬礼をする カイもしている	サァーと流れる光が二隻 のランチをおそう	二隻のランチのむこう、 まだWベースみえる	背後の爆発の中につつま れるWベース	ハヤト	カイ	Wベース 出てゆくランチ もえる	上昇するランチ	出て、カイをおさえる
セイラ「昔、でも……どうやって？」 わ、わからないわノ」	セイラ「（お）「我々より、よほどニ ータイブに近いはずだノ、探し てくれノ、アムロをノ」	セイラ「（お）「ジオンの忘れがたみの セイラの方が」	ブライト「いない、セイラやミライの方 が、きこえるんじゃないのか？」	セイラ「（じ）じゃあ……このランチに アムロはいないの？」 ブライト「ノ」		ブライト「アムロが呼んでくれなければ、 我々は、あの炎の中に焼かれて いた」			ハヤト「ホワイトベースが沈む……ノ」	カイ「ホ、ホワイト・ベースが……」		オムル、「了解ノ」	れ	

363	362	361	360	359	358	357	356	355	354	353
キツカたち	ミライ のり出すミライノ	セイラみる	キツカたちバツと手をあ	セイラ ヘルメットに手 をあてうつつむく 涙あふ れる		ア・バオア・ター	ランチの上にでている一 同	バツハツするア・バオア ・ター	セイラ	ハヤトと子供たち
キツカ 「いい?」 「2」 「3」 「4」 「1」	ミライ 「判るの?」 「どこ?」	カッ 「(off)」「そう こっちこっち 大丈夫だつて!」 「すぐ外なんだから!」 「アムロ?」	フラウ 「(off)」「どうしたの? 三人とも カッ 「(off)」「そう! ちよい右ノ」 「キツカノ」 「(off)」「そう! ちよい右ノ」 「はい!」	セイラ 「人が...そんなに便利になれ るわけ...ない...」 「アハノ クク...」					セイラ 「私がホワイト・ベースにたど りつくまでは、あれほどに... アムロ...」	ハヤト 「アムロだけいいなんだ 判ら ないか」 「そ、そんなこといつたつて...」 「さっき、アムロ兄ちゃんの声 きこえたろ」 「ソノ」
										

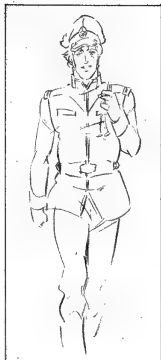
383	382	381	380	379	378	377	376	375	374	373	372	371	370	369	368	367	366	365	364
すべりこむコアファイター	ランチの上をタインする コアファイター		見ている一同	見ている一同	アムロ	機首をめぐらす さらに	見ている一同	アムロ	ハヤト 発光信号出す		アムロ右をみ 正面をみ 左をみ	のり出すフラウ	アムロおき上る	アムロおき上る ターくる コア・ファイ	キツカ レッ抱きあう レッとびあがる気分	ミライ	セイラ	爆光の中の影一つ出てく る	三人のり出す
								アムロ			アムロ	フラウ 「アムロオミノ」	アムロ 「うっ う………」		キツカ レッ「うわーいノ」	ミライ 「?」	セイラ 「あゝノ」		三人 「ゼロノ」
																			

398	397	396	395	394	393	392	391	390	389	388	387	386	385	384
コアフアイターゆく	コアフアイターゆく く	アムロ みんなの処へ	アムロ	ハヤト フラウも手を抵 げている	アムロへ フォロー	セイラ カイがカパーす る	ミライ	バツとミライが手を抵げ る	アムロ フォロー	間	うわつと、うごめく一 瞬	アムロくる	立つアムロ ひっくりか えるコアフアイター アムロおちる	アムロ
													アムロ 「ごめんよ……まだ、ぼくには 帰れる処があるんだ……こんな 嬉しいことはない……判ってく ラアバは、いつでも会いにい けるから」	
														



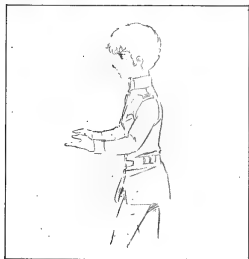
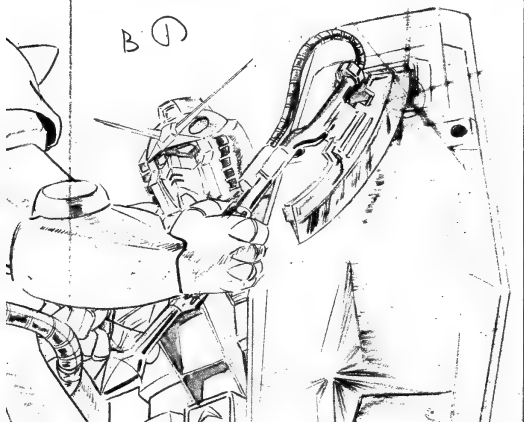
399
コア・フアイター太衛へ 向ってゆく コア・フアイターみえな くなる
N
「此の世、宇宙世紀〇〇八〇。 この戦いのあと、地球連邦政府 とジオン共和国の間で終戦協 定が結ばれた」

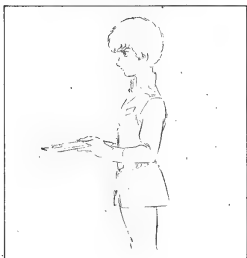
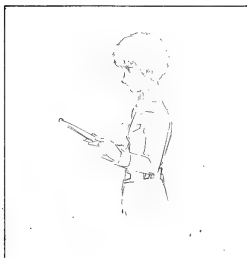
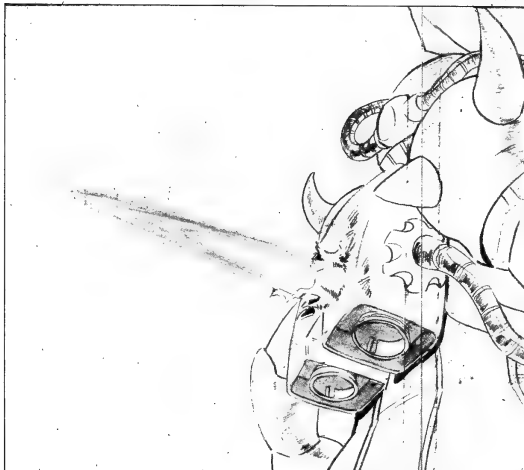
第四十二話 おわり



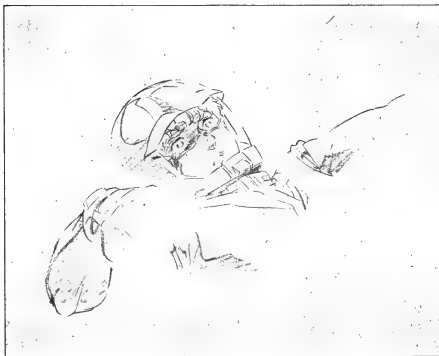
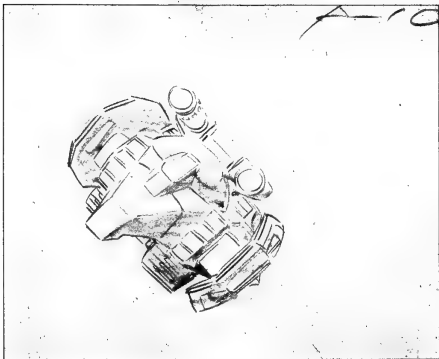
#22 - C38

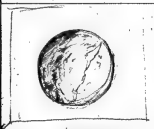

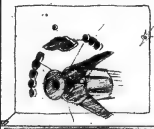


B ①









S.	ビクチュア	内容	セリフ	秒数
1		クロージク・コンテ 新地球 T.B.	NON MON 前案2案	
2		アムロのトリビ (暗い地球の 合点) TIP (顔のワウ)	FF アムロ、トリビから見て 宇宙のからに輝く 星は	40
3		月地球 ルサー サイト7、いかに でいい T.B.	FF アムロ、宇宙の星を 小るにた	100
4		トリビくアムロ T.B.	FF 少年の目の光を あたたかいぬくもり 中で、月変れを解く アムロ、トリビくアムロ	150
5		トリビくアムロ T.B. オルカスト 後案アタノで 太陽系1	FF 男は流るる水も 水も水の 地球、あじむに さうせん "あー"	180

(+)

機動戦士ガンダム台本全記録集

昭和55年12月13日発行

発行者／岸本吉功

発行所／株式会社日本サンライズ

〒167 東京都杉並区上井草 2-35-11

電話／東京 (03) 399-8962

編集者／株式会社銀英社

印刷・製本所／小宮山印刷株式会社

●許可なく本書の転載複製を禁ず。

落丁・乱丁本のお取替えは直接、小社までお送り下さい。(送料は小社で負担します)

定価 2,900円

G

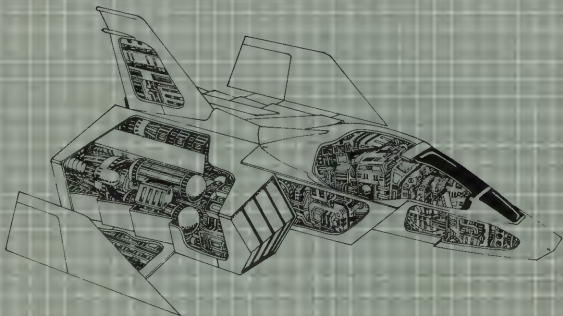
機動戦士
ガンダム
UNDAM

台本全記録



MOBILE SUIT GUNDAM





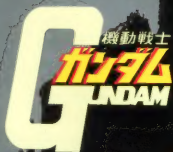
Presented by
NIPPON SUNRISE

機動戦士

Z

台本全記録

本サンライズ



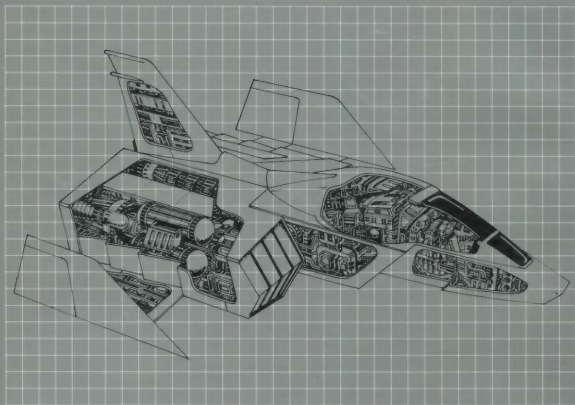
台本全記録



MOBILE SUIT GUNDAM



各巻小イタミ
ヤケシミ



Presented by
NIPPON SUNRISE

機動戦士

ガンダム

完全記録

日本サンライズ